

塩野西遺跡群

滝沢遺跡

——長野県北佐久郡御代田町滝沢遺跡発掘調査報告書——

1997

長野県御代田町教育委員会

塩野西遺跡群

滝沢遺跡

——長野県北佐久郡御代田町滝沢遺跡発掘調査報告書——

1997

長野県御代田町教育委員会



滝沢遺跡J-12号住居址出土の縄文中期初頭の土器



堀之内1式古段階の土器
(縄文後期、J-3号竖穴遺構)



イモガイを模した滑石製
ペンダント、縄文後期、
良質なベンガラ付着
(D-30号土坑、ほぼ原寸)



耳形土製品、縄文後期
(D-52号土坑、ほぼ原寸)

解 説

1. 本書には、1992・1993年の2か年にわたり実施した長野県北佐久郡御代田町に所在する滝沢^{たきざわ}遺跡発掘調査で出土した遺構・遺物が掲載されている。

2. 今回の調査でわかったこと

(1) 縄文時代前期後葉

およそ5千5百年前の土器がまとまって見つかった。この土器は『諸磯a式土器』と呼ばれ、細い竹を半分に割った工具を用い、半円形の突き刺しを連続して施す文様を特徴とする。しかし、土器の大量出土にもかかわらず、遺構は土坑一つが見つかったに過ぎない。

(2) 縄文時代中期初頭

滝沢遺跡の西南隅から、およそ、5千年前の竪穴住居址が3軒見つかり、同時期の竪穴住居址が、未調査のさらに東側に広がっていることが予想された。なお、今回発掘されたうちの1軒からはたくさんの土器が出土している。この土器群は、中期初頭～中葉にかけて過渡的な様相を示すものとして注目される。

(3) 縄文時代中期後葉～後期前葉

およそ、4千年～3千5百年前は滝沢遺跡で最も活発なムラの営みが行われた時代である。その証拠に今回の発掘調査で最も多くの遺構・遺物が出土した。

ムラの調査はその南端の部分が明らかにされた。中期後葉（加曾利EⅢ式並行）では敷石住居址2軒、竪穴住居址1軒、後期前葉（堀之内1・2式並行）では敷石住居址1軒、竪穴住居址2軒が見つかり、いずれも敷石による建築様式が流行している。

また、ムラの南西域に接する場所から30mにかけての地域には3か所の墓群が点在している。上で述べたムラとほぼ同時期に形成されたもので、成人用の墓穴とともに胎児・乳児や子供用の土器棺も多数埋葬されていた。このほか、多量の被熱した獣骨を出土した墓穴からは珍しい彫刻の施されたペンダントが出土した。滝沢遺跡の墓群のなかで特殊な墓である。

このあと現在に至るまで滝沢遺跡ではムラの営みがほとんど行われなくなる。

例 言

1. 本書は、長野県北佐久郡御代田町所在の滝沢遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は、北佐久地方事務所^{たきざわ}の委託を受け、御代田町教育委員会が実施した。
3. 本発掘調査の概要については、第I章に記してある。
4. 本発掘調査報告書作成の作業分担は以下のとおりである。
 - ◎遺物復元——高瀬武男、小山内玲子、内堀久代、田村朗子。
 - ◎遺物実測——鳥居 亮、小山岳夫、本橋典子、シン航空写真(株)。
 - ◎遺物拓本——伴野有希子、内堀久代、佐藤夫美子。
 - ◎遺物トレース——鳥居 亮、本橋典子、砂連尾恵美子、神蔵惇子、中込輝子。
 - ◎遺構トレース——鳥居 亮、本橋典子、砂連尾恵美子、神蔵惇子、中込輝子、中山祐子。
 - ◎遺構写真——鳥居 亮、小山岳夫。
 - ◎遺物写真——鳥居 亮。
 - ◎遺物観察表作成——小山岳夫、伴野有希子。
 - ◎版組——小山岳夫。
5. 本書に使用した航空写真については、(株)協同測量社が撮影したものである。

凡 例

1. 遺構の名称
J→縄文時代竪穴住居址 D→土 坑
M→溝状遺構
2. 遺構のナンバーは、時代別に付してある。
3. 挿図の縮尺
竪穴住居・土坑=1:80。 炉=1:40。
土器=1:4。 石器=1:2、1:3、1:4。
以上が基本的なものである。これ以外のものも含めて挿図中にその縮尺を明示してある。
4. 図版の縮尺
遺構写真の縮尺については統一されていない。
遺物写真の縮尺については、土器が1:4、小型石器1:2、大型石器1:3で、その縮尺は図版中に明記してある。
5. 遺構面積の計測にはプランメーターを用い、3回の計測の平均値を面積として示した。
6. 縄文時代の出土遺物一覧表〈土器〉の法量は、上から口径・器高・底径の順に記載し、-は不

6. 本書の執筆分担については、文責を目次に明記した。なお、京都大学茂原信生先生、国立歴史民俗博物館永嶋正春先生、長野県立歴史館綿田弘実氏、長野県埋蔵文化財センター寺内隆夫氏から玉稿を賜った。
7. 本書の編集は、御代田町教育委員会の責任のもとに、小山岳夫が、行った。
8. 本調査・本報告書作成に際し、縄文土器の分類・原稿執筆等で長野県立歴史館綿田弘実氏から絶大な御援助を賜った。しかし、編者力量不足のため、事実記載部分において綿田氏の意図としない表現も多々認められると思う。不手際の責任はすべて編者にあることを明記しておく。
また、以下の方々から貴重な御助言・御配慮を得た。御芳名を記して厚く御礼申し上げる次第である。(順不同・敬称略)
桐原健、樋口昇一、宮下健司、平林彰、山下誠一、花岡弘、臼田武正、寺島俊郎、小林真寿、翠川泰弘、竹原学、市沢英利、下平博行、賛田明、村田健二、山口逸弘、細田勝、鈴木秀雄、伊藤敏行、神村透、石井寛、稲村晃嗣、鈴木徳雄、都築恵美子、宇賀神誠司、桜井秀雄、水沢教子、辻本崇夫、西本豊弘、設楽博己、馬場保之

- 明、()は推定値を示す。単位はcmである。
7. 出土遺物一覧表〈石器〉の法量は、-は不明、()が現存値、()がない場合は完存値を表す。単位は、cm・gである。
8. 遺構の層序説明は本文中に記した。
9. 土層の色調、遺物胎土の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。
10. 挿図中におけるスクリーントーンは以下のものを表す。
 - (1) 遺 構
遺構断面=斜線
貼 り 床=網点(細)
焼 土=網点(細)
 - (2) 遺 物
土器断面 縄文前期 含繊維土器断面=網点(細)
土器内外面 土師器 黒色処理=網点(太) 赤色塗彩=網点(太)

目 次

口 絵
解 説
例 言
凡 例
目 次

I 発掘調査の概要	小山岳夫	1
I 発掘調査の概要		3
(1) 調査に至る動機		3
(2) 発掘調査の概要		4
(3) 発掘区の設定と遺構の検出		5
(4) 日誌		10
II 遺跡の環境		13
I 遺跡の環境	森川宗治	15
(1) 自然環境		15
(2) 歴史的環境		15
2 層 序	小山岳夫	20
III 遺構と遺物		21
I 縄文時代の竪穴住居址・竪穴遺構		23
(1) J-1号住居址		23
(2) J-2号住居址		26
(3) J-3号竪穴遺構		27
(4) J-4号住居址		33
(5) J-5号住居址		62
(6) J-6号住居址		72
(7) J-7号住居址		83
(8) J-8号住居址		87
(9) J-9号住居址		106
(10) J-10号住居址		120
(11) J-11号住居址		131
(12) J-12号住居址		144
(13) J-13号住居址		160
(14) J-14号住居址		167
(15) J-15号住居址		173
2 土 坑		179
(1) 縄文時代前期(滝沢I~III期)と考 えられる土坑	小山岳夫	179
(2) 縄文時代中期(滝沢IV~VI期)と考 えられる土坑	小山岳夫	176
(3) 縄文時代後期(滝沢VII・VIII期)と考 えられる土坑	小山岳夫	179
(4) 墓址と考えられる土坑		200
(5) 滝沢遺跡土器内土壌リン酸分析報告	パリーノ・サーヴェイ社	218
(6) 滝沢遺跡(長野県御代田町)出土の 人骨	茂原信生	228
(7) 御代田町滝沢遺跡の植物遺体につ いて	古環境研究所	239
3 溝状遺構	小山岳夫	241
(1) M-1号溝状遺構		241
(2) M-2・3号溝状遺構		241
(3) M-4号溝状遺構		241
4 グリッド出土遺物	小山岳夫	243
(1) 縄文土器の分布		243
(2) 縄文土器・石器の様相		244
IV 総 括		409
1 縄文土器について	綿田弘実	411
2 御代田町滝沢遺跡出土の縄文中期前葉(滝 沢IV期)の土器について	寺内隆夫	449
3 滝沢遺跡の縄文遺構について		463
(1) 小山岳夫		463
4 滝沢遺跡(長野県御代田町)出土の動物骨	茂原信生・木下 實	471
5 滝沢・宮平遺跡出土の赤彩資料、漆資料に ついて	永嶋正春	477
VI 写真図版		483

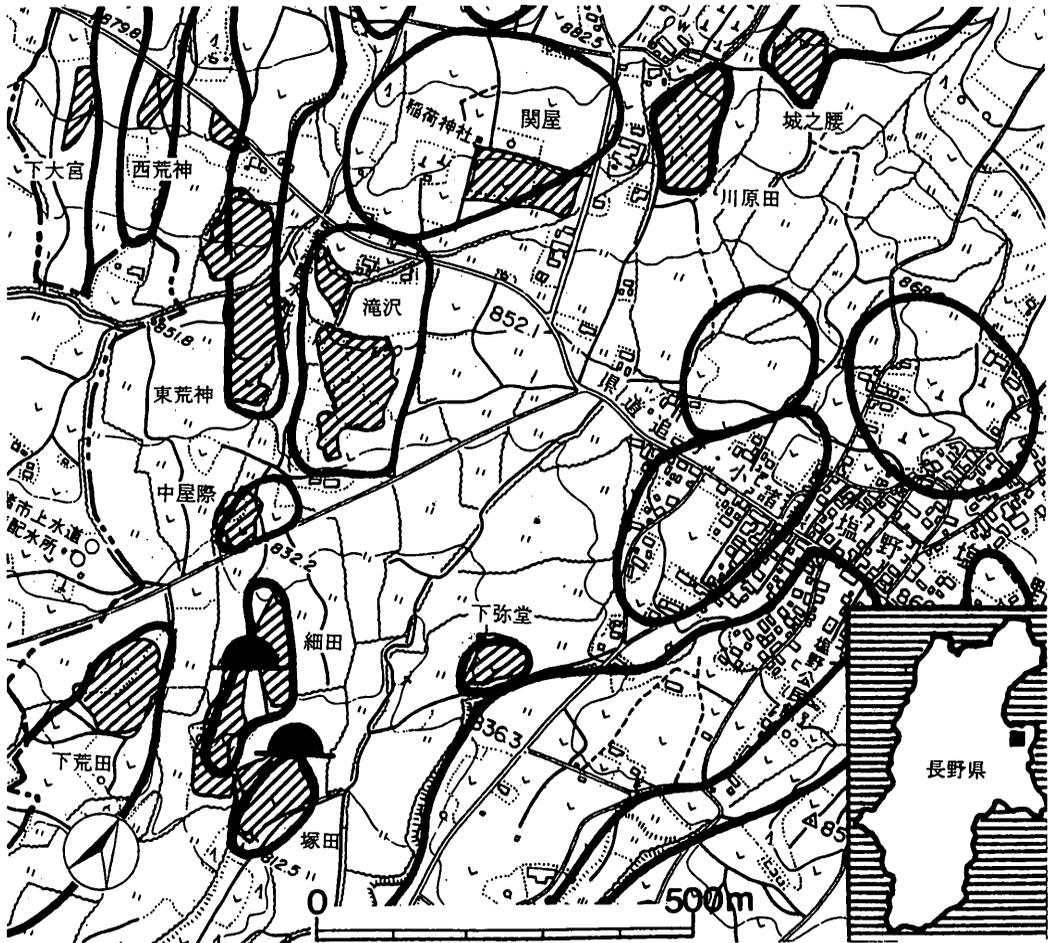
Ⅰ
発掘調査
の概要

Ⅰ 発掘調査の概要

(1) 調査に至る動機

長野県北佐久郡御代田町大字塩野・小諸市大字塩野・八幡・柏木にかかると、北大井地区において、水田経営の合理化を目的とした県営土地改良総合整備事業が平成2年より実施された。

一方、この地区には周知の遺跡が群在化しており、その保護問題が表面化してきた。このため、その原因者である佐久地方事務所と、保護部局である長野県教育委員会、御代田町教育委員会上記三者において話し合いがもたれ、該当する遺跡について緊急発掘調査を実施し、7か年計画で記録保存をはかることとなった。



第1図 塩野西遺跡群の発掘調査遺跡（斜線部分）

これを受けて、平成4・5年には工事実施地区にかかる滝沢・中屋際（旧滝沢II）・東荒神（旧滝沢III含む）・西荒神・下大宮（旧西荒神II）・関屋（旧滝沢IV）の5遺跡について本発掘調査が実施された。

（2） 発掘調査の概要

- 1 遺跡名 ^{たきざわ} 滝沢遺跡
- 2 所在地 長野県北佐久郡御代田町大字塩野字滝沢
- 3 発掘期間 (平成4年度) 平成4年5月6日～平成4年9月3日
(平成5年度) 平成5年5月28日～平成5年8月24日
- 4 整理期間 (平成4年度) 平成4年11月12日～平成5年3月31日
(平成5年度) 平成5年5月1日～平成6年3月25日
(平成6年度) 平成6年4月4日～平成7年3月24日
(平成7年度) 平成7年4月3日～平成8年3月25日
(平成8年度) 平成8年4月3日～平成9年3月21日
- 5 発掘理由 平成4・5年度北大井地区県営土地改良総合整備事業に伴い、滝沢遺跡の破壊が予想されるため、緊急発掘調査を実施し記録保存を行う。
- 6 発掘方針 広大な調査対象区について、居住域・生産域・墓域等全体の検出に努める。
- 7 費用負担 調査費用総額のうち、平成4年度77.5%、平成5年度以降は85%を原因者である農政部局（佐久地方事務所）が負担し、残りの22.5%、15%については文化財補助事業として文化財保護部局が負担した（国庫補助金50%、県補助金15%、町費35%）。
- 8 事務局 ◎ 教育次長 藤巻興樹、柳沢忠良、土屋和雄 ◎ 社会・同和教育係長 古越恵美夫、内堀篤志、茂木康生 ◎ 社会・同和教育係 内堀健司、土屋寿、荻原浩、堤 隆、小山岳夫
- 9 調査団
顧問 柳沢薫（御代田町長）
参与 桜井為吉、田村泉、内山俊雄、柳沢恒三郎、小林五郎、小林太郎、大井源寿、萩原弘祐、柳沢文人（御代田町文化財審議委員）
団長 土屋秀憲、柳沢忠良（御代田町教育長）
担当者 堤 隆・小山岳夫（御代田町教育委員会）
調査員 鳥居亮（主任）、角張淳一、伴野有希子、綿田弘実、贅田明、下平博行、茂原信生、都築恵美子、山本薫、柴田徹、寺内隆夫、山口逸弘、水沢教子、中沢道彦、諏訪間

順

補助員 小山内玲子、高地正雄、森川宗治、高瀬武男、小林嘉孝、美安慶子、加藤学、中沢祐一、吉田政行

作業員 田村朗子、内堀久代、佐藤夫美子、中山祐子、中込輝子、齋藤真理、本橋典子、砂連尾恵美子、神蔵惇子、行田祐子、宮下聖二、遠山冬樹、土屋いづみ、阿部典子(以上 整理参加者)

尾沼けさと、飯田すえの、内堀ときい、日向万平、日向愛子、古川まち子、掛川孝子、小林満子、中山三知子、佐藤まき子、内堀袈裟治、今井吉郎、今井球子、重田文枝、小川喜美子、大井けさみ、茂木ときえ、佐々木臯月、金沢けさの、山口安子、木内喜久子、重田美子、北沢いちえ、山岸修、市川圭、内堀純男、土屋元江、那住和代、原田房子、古越千鶴子

(3) 発掘区の設定と遺構の検出

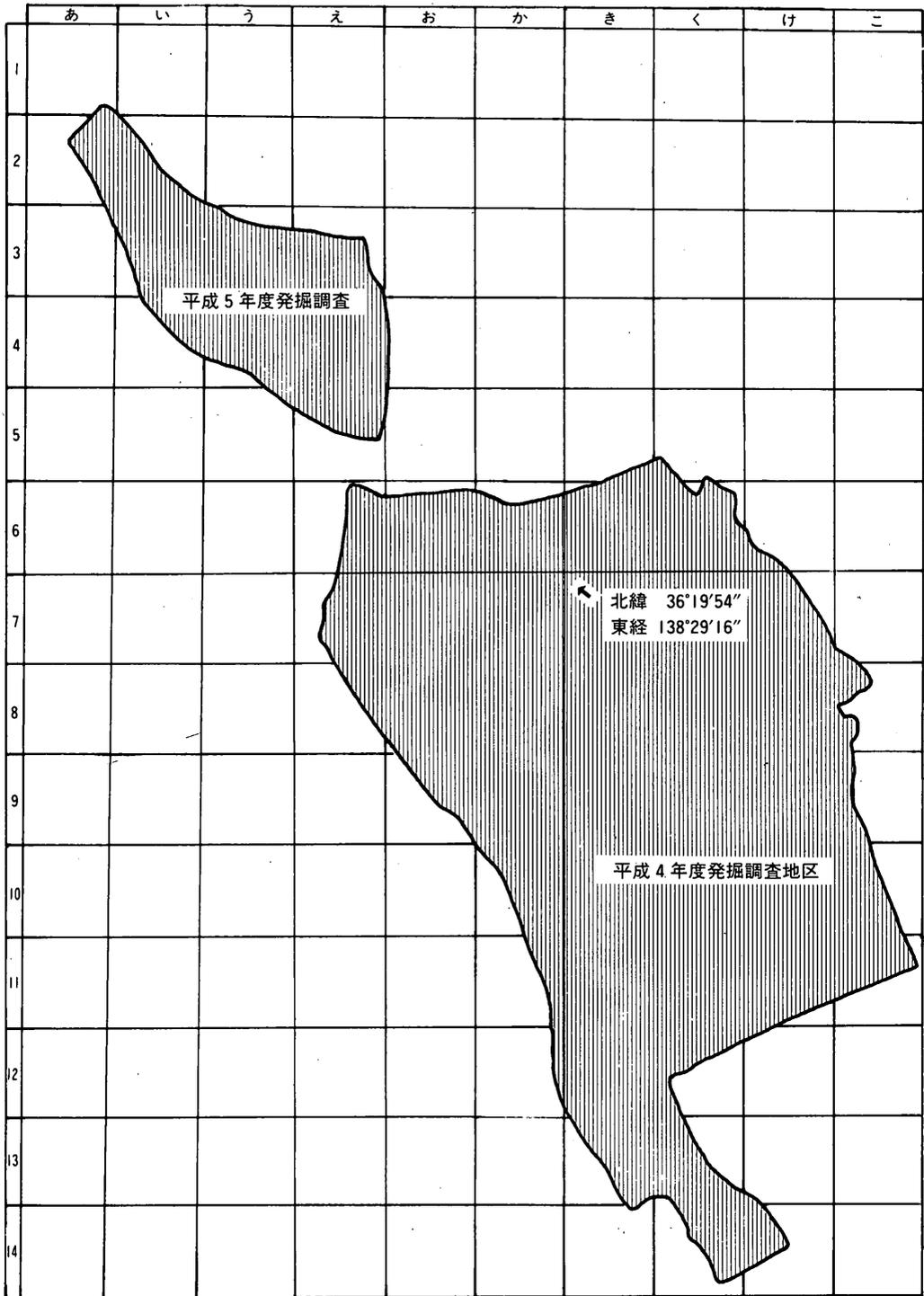
本調査の発掘区については第2図に示したとおりで、2地区合計14,772m²が該当する。発掘区については、土地改良総合整備事業に関する遺跡全体のなかで把握できるように、国家座標第VIII系を用い、20m四方のグリッドを設定した。グリッドのY軸は真北を指しており、グリッド名は、Y軸は北から1・2～、X軸は西からあ・い～とした。ちなみに滝沢遺跡のき列・7列の交点は東経138度29分16秒、北緯36度19分54秒の位置にある。

本遺跡の遺構の検出位置については国家座標によって設定されたグリッド名を用いている。なお、本遺跡では当初から地表面・包含層に多量の遺物分布が確認されたため、国家座標を用いたグリッド設定以前に10m方眼の任意グリッド(第3図)を設定して遺物の取り上げを行った。したがって、グリッド遺物の出土地点は、任意グリッドで表されている。調査地区から検出された遺構の概要は第1表、第4・5図のとおりである。

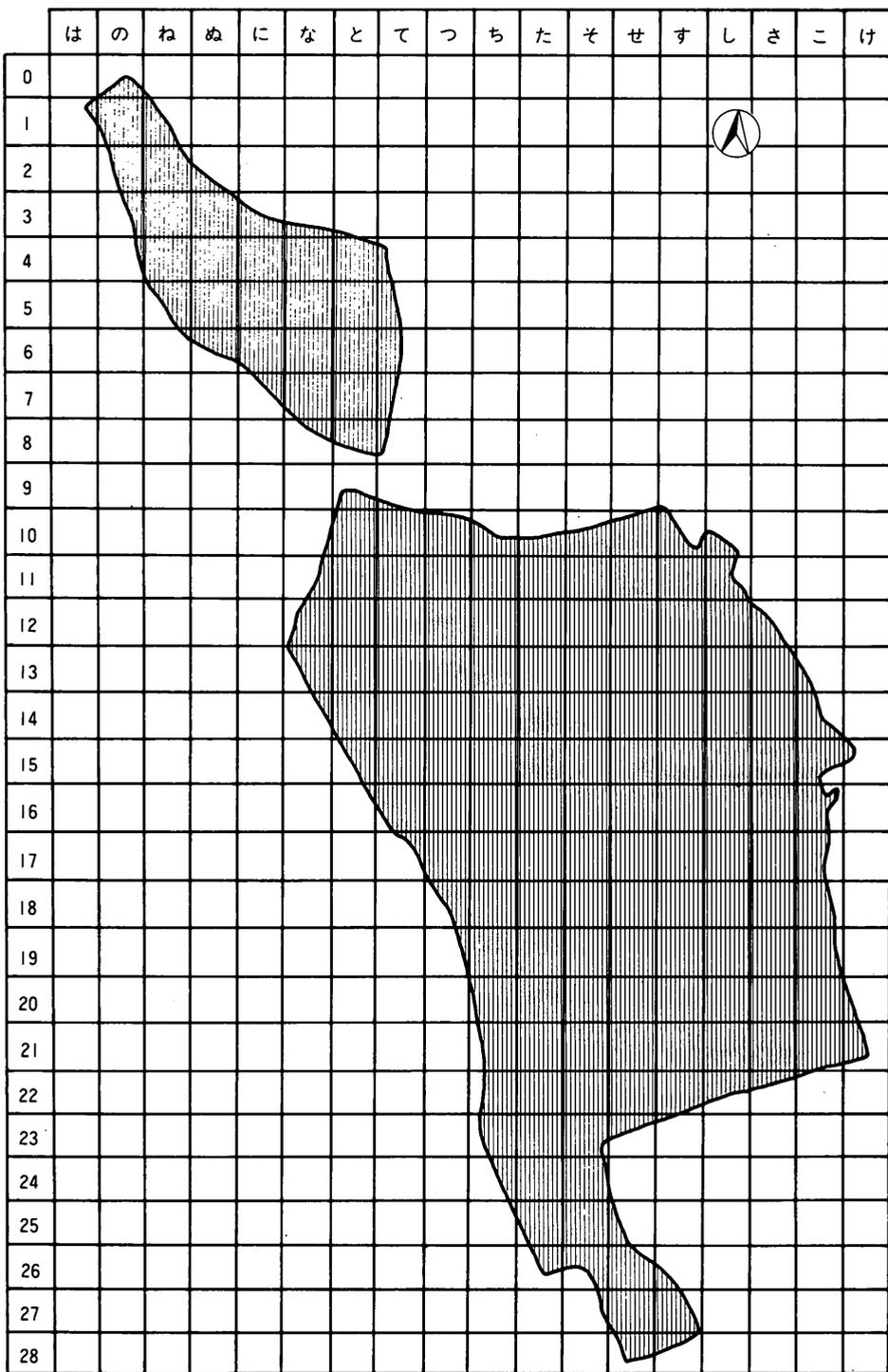
第1表 滝沢遺跡検出遺構数

遺構 時期	縦	土	そ	計
	穴	坑	の	
	住		他	
	居			
縄文前期	2	1	0	3
縄文中期	7	8	0	15
縄文後期	5	7	0	12
不明	1	79	3	83
計	15	95	3	113

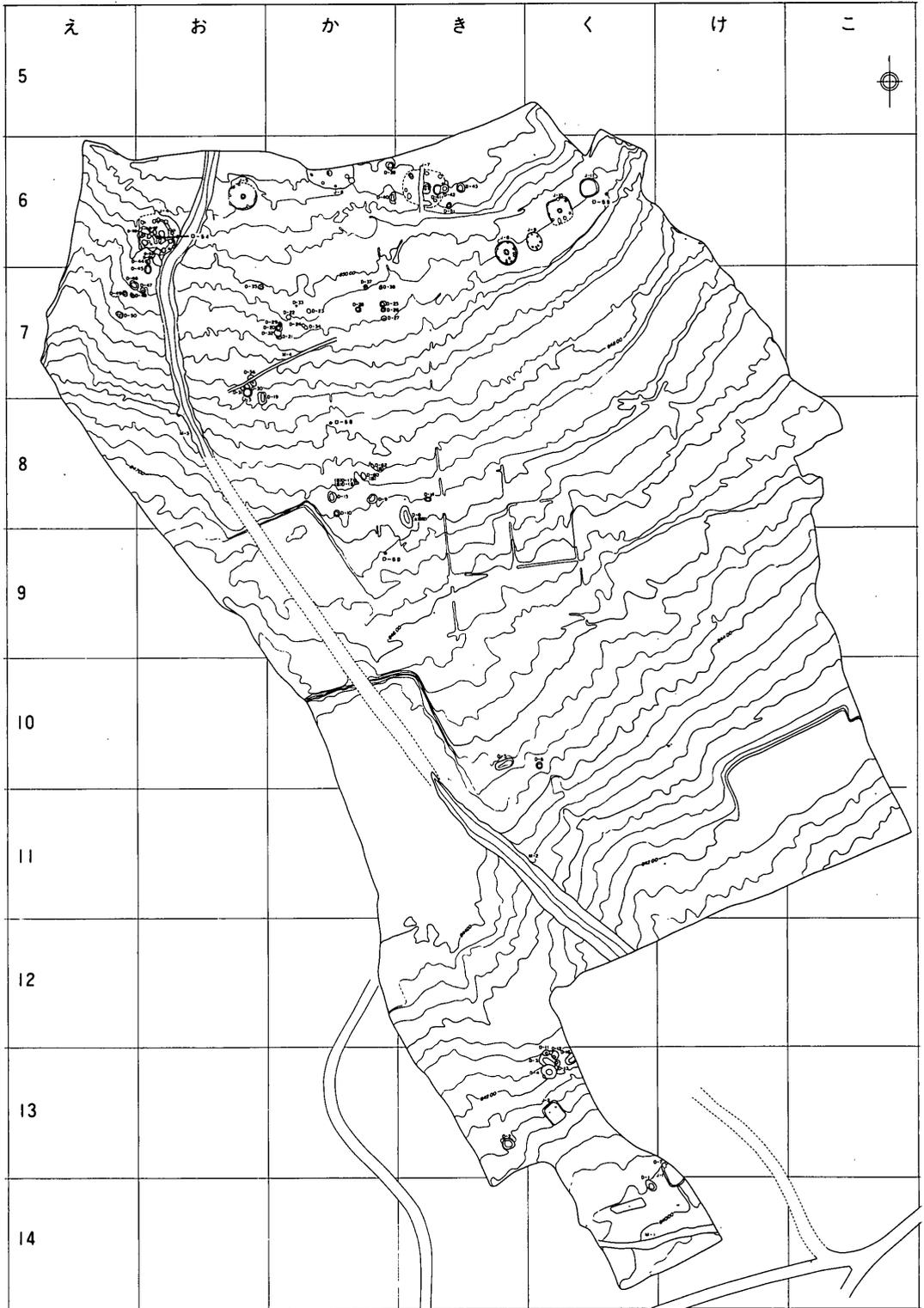
※ 縦穴住居には縦穴遺構も含む。



第 2 図 滝沢遺跡国家座標によるグリッド設定図 (S = 1 : 1,500)



第3図 滝沢遺跡任意グリッド配置図 (1:1,500)



第4図 滝沢遺跡平成4年度発掘調査地区全体図 (1 : 1,000)



第5図 滝沢遺跡平成5年度発掘調査地区全体図 (1 : 1,000)

(4) 日誌

平成4年度

6月4日

表土削平開始。

7月23日

遺構プラン確認開始。

28日掘り下げ開始。敷石の住居、人骨を伴う墓などが検出された。

8月7日

遺構実測開始。

9月8日

実測終了。

9月12日

セスナ機による航空測量実施。

11月12日～平成5年3月31日

水洗注記等遺物整理を行う。

平成5年度

5月28日

表土削平開始。6月1日まで。

6月17日

遺構のプラン確認、開始。

6月21日

遺構掘り下げ開始。7月6日まで。

6月30日

遺構実測開始—住居址・土坑群。

中期初頭の竪穴住居群から豊富な遺物が発見された。

7月22日

終了。

8月24日

セスナ機による航空測量実施。

9月1日～平成6年3月25日

遺物整理。図面整理、土器水洗・注記作業を行う。

平成6年度

平成6年4月4日～平成7年3月24日

遺物整理。多量の遺物を選別する。選定された土器の拓本、実測、また、石器実測を行う。

遺構・遺物図の製図作業、資料調査を並行して行う。

平成7年度

平成7年4月3日～平成8年3月25日

遺物整理。

土器拓本、土器・石器実測を行う。図面整理。

精図・版組。土器・石器の観察表作成。精図した遺構図面の版組。

遺構規模の計測。縄文中後期に関する資料調査。

原稿執筆。報告書の編集作業。

平成8年度

平成8年4月3日～平成9年3月10日

原稿執筆。

考察図版作図。

編集作業。

校正作業。

平成9年3月21日

発掘調査報告書刊行。



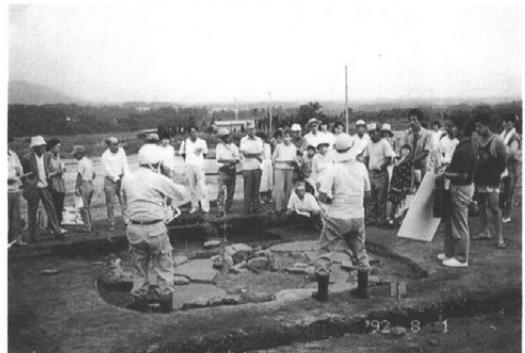
'92 重機で表土を剥ぐ ('92. 4. 23)



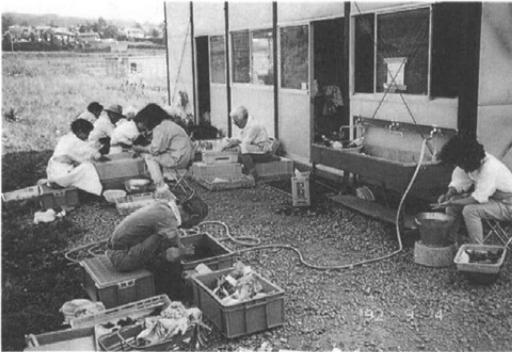
遺構の検出作業 ('92. 5. 13)



敷石住居址の発掘 ('92. 6. 26)



敷石住居址を囲んで現地説明会 ('92. 8. 1)



土器の水洗作業 ('92. 9. 4)



土器の註記作業 ('92. 9. 9)



土器の拓本をうつ ('93. 3. 1)



土器の復元作業 ('93. 3. 1)



'93 重機で表土を剥ぐ ('93. 5. 28)



縄文時代竪穴住居址の発掘 ('93. 6. 20)



縄文時代竪穴住居址の発掘 ('93. 7. 6)



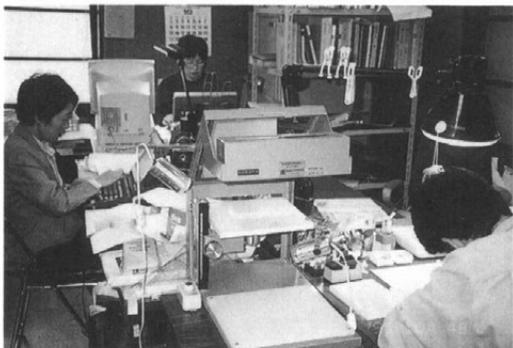
土器の復元作業 ('93. 9. 13)



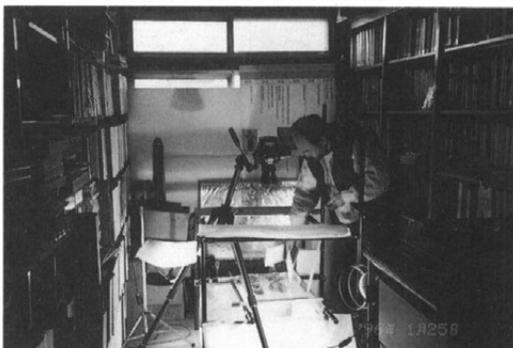
猛暑の中で / 土器の復元・実測作業 ('94. 8. 25)



土器実測作業 ('94. 9. 30)



原稿のワープロ入力 ('95. 10. 4)



遺物の写真撮影 ('96. 1. 24)

//

遺跡の
環境

Ⅰ 遺跡の環境

(1) 自然環境

滝沢遺跡は浅間山南麓のそれぞれ独立した細い尾根の平坦部に位置している。標高は遺跡の主体部で852m内外を測る。

活火山浅間山は標高2,560mを測り、コニーテ型の裾野や三重式噴火口をみせている。浅間火山は、およそ数万年前から成長した若い火山で、その変遷は、古い順から黒斑山期(数万年前)・仏岩期(1万5千年前頃)・軽石流期(1万4千年前～1万1千年前頃)・前掛山期(数千年前)とされている。ことに、前掛山期における天仁元年(1108年)および天明3年(1783年)の噴火は、現在の雲仙普賢岳の三倍以上の火山堆積物を噴出しており、『中右記』など歴史時代の記録に残る大噴火である。

浅間山南麓地域の基盤層は、その火山噴出物により構成される。本遺跡の基盤層は主として軽石流期のうち、第2軽石流による堆積物からなっている。また、天仁元年の噴火によると推定される追分火砕流堆積物は、本遺跡から約1km以東の御代田町・軽井沢地域を覆っている。

さて、本遺跡の位置する標高800～900m地帯は、浅間山麓の第一伏流水が、地表の各所に湧出する地帯である。本遺跡の北東、真楽寺の「大沼の池」をたたえる豊富な湧水をはじめ、本遺跡の東方の湧玉の湧水など随所に湧水がみられ、往時の集落形成のための要件となっている。さらにその湧水や、河川の流下は、山麓末端部の軽石流堆積物を刻んで、当地方特有ないわゆる「田切り地形」を発達させている。

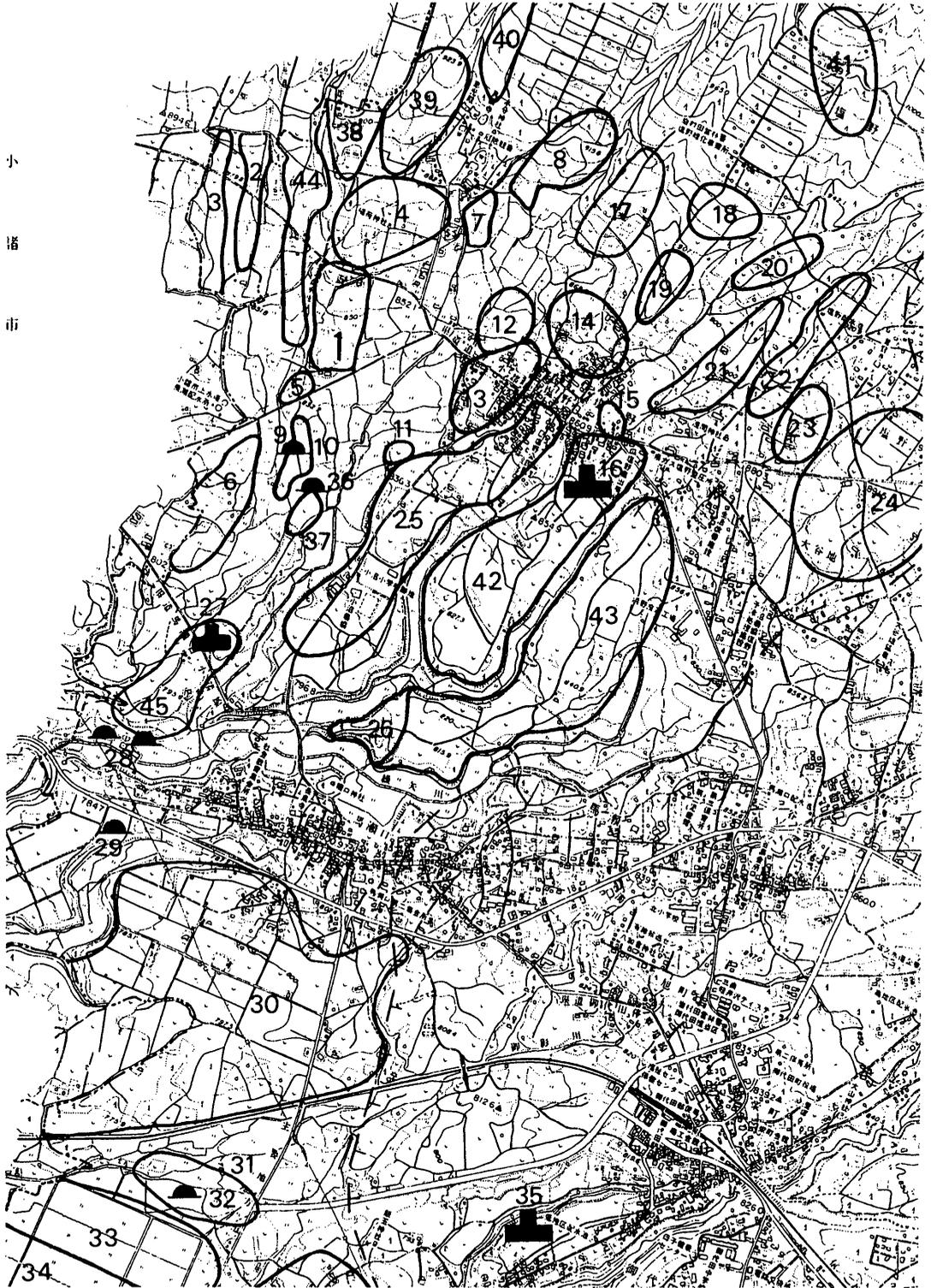
この地域の原植生は、コナラやクヌギなどの落葉広葉樹を主とするものであり、これにアカマツ、クリなどが点在している。縄文時代も落葉広葉樹を主とするいわゆる雑木林的な景観を想定することができようか。

(2) 歴史的環境

浅間山南麓の標高800～900m地帯には、豊富な湧水や動植物などの自然環境を背景に、縄文時代を中心として弥生～平安時代にかけての、数多くの遺跡が分布する(第8図)。近年の発掘成果に基づいて、時代ごとに遺跡のあり方を追い、本遺跡をとりまく歴史的環境をみてみよう。

Ⅰ 縄文時代

縄文時代の草創期の遺物は、川原田(7)遺跡から「有茎尖頭器」が単独で、また、東荒神(44)



第6図 滝沢遺跡と周辺遺跡分布図 (1 : 20,000)

第2表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	時代						備考
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	
1	滝沢	御代田町大字塩野字滝沢		○			○		1992・1993年度発掘調査
2	西荒神	御代田町大字塩野字西荒神		○			○		1993年度発掘調査
3	下大宮	御代田町大字塩野字下大宮		○			○		1993年度発掘調査
4	関屋	御代田町大字塩野字関屋		○			○	○	1993年度発掘調査
5	中屋際	御代田町大字塩野字中屋際		○			○		1992年度発掘調査
6	下荒田	御代田町大字塩野字下荒田		○	○		○		1991年度発掘調査
7	川原田	御代田町大字塩野字川原田		○			○	○	1991年度発掘調査
8	城之腰	御代田町大字塩野字城之腰		○			○	○	1991年度発掘調査
9	細田塚古墳	御代田町大字塩野字細田				○			1991・1992年度発掘調査
10	細田	御代田町大字塩野字細田			○		○		1991年度発掘調査
11	下弥堂	御代田町大字塩野字下弥堂		○					1991年度発掘調査
12	上弥堂	御代田町大字塩野字弥堂		○					
13	西島	御代田町大字塩野字西島			○				
14	上西田	御代田町大字塩野字上西田		○					
15	下藤塚	御代田町大字塩野字下藤塚		○					
16	塩野城	御代田町大字塩野字荒屋						○	
17	細尾根	御代田町大字塩野字細尾根		○			○		
18	広畑	御代田町大字塩野字広畑		○			○		1987年度発掘調査
19	狸窪	御代田町大字塩野字狸窪		○					
20	西駒込	御代田町大字塩野字西駒込		○					1991年度発掘調査
21	上藤塚	御代田町大字塩野字上藤塚		○					
22	東二ツ石	御代田町大字塩野字東二ツ石		○					1991年度発掘調査
23	塩野西原	御代田町大字塩野字西原		○					
24	湧玉	御代田町大字塩野字湧玉		○					1991・1993年度発掘調査
25	馬場	御代田町大字塩野字馬場					○		
26	馬瀬口城	御代田町大字馬瀬口字北原						○	
27	東十石城	御代田町大字馬瀬口字東十石						○	
28	めがね塚古墳群	御代田町大字馬瀬口字辰場				○			
29	下原古墳群	御代田町大字馬瀬口字下原				○			1974年度発掘調査
30	下前田原遺跡群	御代田町大字馬瀬口字西向原					○		
31	根岸	御代田町大字御代田字根岸					○		1987年度発掘調査
32	根岸古墳	御代田町大字御代田字根岸				○			1991年度発掘調査
33	十二	御代田町大字御代田字十二					○		1986年度発掘調査
34	前田	御代田町大字御代田字前田				○	○		1985年度発掘調査
35	谷地城	御代田町大字御代田字棚場						○	
36	塚田	御代田町大字塩野字塚田		○		○			1991年度発掘調査
37	塚田古墳群	御代田町大字塩野字塚田				○			1991年度発掘調査
38	西城西	御代田町大字御代田字西城		○					
39	西城東	御代田町大字御代田字西城		○					
40	大沼	御代田町大字御代田字大沼		○			○		1985年度発掘調査
41	塩野山	御代田町大字御代田字塩野山		○					
42	下ノ平	御代田町大字御代田字下ノ平ほか		○			○		
43	北原	御代田町大字塩野字北原ほか		○			○		
44	東荒神	御代田町大字塩野字東荒神		○			○	○	1992・1993年度発掘調査
45	辰場	御代田町大字馬瀬口字辰場		○					

遺跡から微隆起線文土器が出土しており、御代田町において最も古い時期のものとして位置付けられる。

縄文時代の早期の遺跡は、塚田(37)・東荒神(44)・城之腰(8)・下荒田(6)の各遺跡がある。このうち早期前半の遺物としては、塚田遺跡からは山形文・楕円文・格子目文の押型文土器が、東荒神遺跡や城之腰遺跡からも楕円押型文土器の破片が出土している。また、縄文早期後半でも塚田遺跡から完形に近い縄文施文の丸底土器が数個体認められた。このほかに完全に復元された鶴ヶ島台式土器は、国内でも数少ない優品である。下荒田遺跡は珍しい文様を持つ田戸上層式併行土器や、絡条体圧痕文土器の破片が出土した。

縄文時代前期初頭の羽状縄文施文の尖底土器を出土する集落跡が発見されたのは下弥堂・塚田遺跡(11・36)である。特に塚田遺跡出土土器は刻み付き隆帯を持つ特徴的な口縁部形態を示すことから「塚田式」という独立した型式名が提唱されている。本滝沢遺跡の南端でもこの時期と考えられる竪穴住居址2軒が見つかった。

縄文時代の前期中葉の遺跡としては、川原田・城之腰・東荒神・中屋際(7・84・1・44・5)遺跡がある。塚田遺跡は竪穴住居址の10数軒が検出されるなど、塩野西遺跡群のなかで当該期の最も大きな集落址である。また、城之腰遺跡では、関山Ⅱ式と神ノ木式土器を含む竪穴住居址が5軒、東荒神遺跡でも同時期の竪穴住居址6軒、川原田遺跡では前期初頭・関山Ⅰ式・諸磯b式までの竪穴住居址は6軒検出されている。

前期後葉は8軒で例が少なく、関屋(4)遺跡で諸磯a式を出土する竪穴住居址1軒が検出されているに過ぎない。中期初頭も同様に本滝沢遺跡で新しい様相を示す五領ヶ台式土器を出土する竪穴住居址3軒が見つかった程度である。

縄文時代中期中葉になると大規模な集落遺跡が発見されている。舌状台地上に形成された川原田(7)遺跡では竪穴住居址46軒が検出され、「焼町土器」と言われる土器が出土した。「焼町土器」は、長野・群馬を中心に注目を浴びている土器であるが、川原田遺跡から出土した「焼町土器」はこれまでのものを質量ともにはるかに上回り、最も充実した資料となった。

中期後葉では、滝沢(1)遺跡に大規模集落跡の存在が予想されるが、発掘調査が部分的であるため実態がつかめていない。このほか、小規模な中期後葉の集落は、城之腰(8)遺跡や西駒込(20)遺跡などがある。西駒込遺跡の中期の住居からは、東北地方に分布する大木8b式に比定される土器が出土しており興味深い。

縄文時代後期初頭～前葉の集落は滝沢遺跡にあり、中期後葉から継続する大規模集落の存在が予想されている。滝沢遺跡からは成人・子供を葬った墳墓も発見されており、滑石の彫刻を刻んだペンダントや耳形土製品などの珍品も出土している。また、西荒神(2)遺跡では、称名寺式土器を出土する後期初頭の竪穴住居址2軒が見つかった。

縄文時代晩期前半の資料は、塩野西遺跡群の西に接する小諸市石神遺跡で出土している。

2 弥生時代後期～古墳時代初頭

弥生時代前～中期の空白期間において塩野西遺跡群では弥生時代後期最終末になると再び集落が形成される。細田・下荒田遺跡（10・6）では、ほぼ同時期と考えられる竪穴住居址が計15軒検出されている。従来、当町一帯の地域は、高冷地であるがゆえ、稲作が営まれ始めて間のない弥生時代の遺跡は存在しないのではないかと言われてきた。しかし、はからずも平成3年の発掘調査によってこの時代の住居址が確認されるにいたった。残念ながら水田跡は検出されなかったが、当時の人々が付近の湿地などを利用して水稻耕作を行っていたことは十分に推測される。

古墳時代初頭では、塚田遺跡より竪穴住居址6軒からなる集落が検出された。そのなかには、長辺10mを測る佐久地方最大の大型住居が含まれていた。

3 古墳時代後期

御代田町北部馬瀬口・塩野地区には、終末期古墳が散見されるが、塩野西遺跡群でも塚田古墳群(37)で円墳5基が調査された。そのうちの1基の周溝からは殉葬されたことが想定される馬骨が出土した。一方、細田塚古墳（9）も塚田古墳群に隣接して存在している古墳で、平成4年の清掃調査の際には横穴式石室から耳環や直刀の一部が出土した。

4 奈良・平安時代と中世

奈良・平安時代の当地域は、延喜式に見られる御牧「塩野牧」が存在したと言われている地域である。また、延喜の官道と言われる「東山道」が、本地域を横断していた可能性もある。

奈良時代の遺跡は確認されていないが、平安時代の遺跡は多く、川原田遺跡・城之腰遺跡・下荒田遺跡・東荒神・西荒神・関屋・中屋際遺跡などが存在している。

川原田遺跡では塩野西遺跡群中で最大級の集落跡から竪穴住居址19軒が検出された。特筆すべきはそこから出土した土師器に「大内寺」もしくは「大平寺」の墨書が認められており、文献はもちろん伝承にもない、いわば幻の寺の存在を暗示したことである。このほか竪穴住居址の1軒からは、全国で10例にも満たないと言われる青銅製の火熨斗も出土した。なお、川原田遺跡から検出された溝の巡る礎石建物址は、平安時代の寺院の一部を構成する施設ともみられ、「大内寺」や「大平寺」あるいは隣接する古刹真楽寺との関連性が興味深いところである。

このほか、塩野西遺跡群では城之腰で2軒、下荒田遺跡で8軒、東荒神遺跡で3軒、西荒神遺跡で3軒、関屋遺跡で2軒、中屋際遺跡で5軒など小規模ながら点々と平安時代集落が分布している。これらは下荒田遺跡の11世紀中頃の集落（3軒）を除くとすべて9世紀後半から10世紀初頭

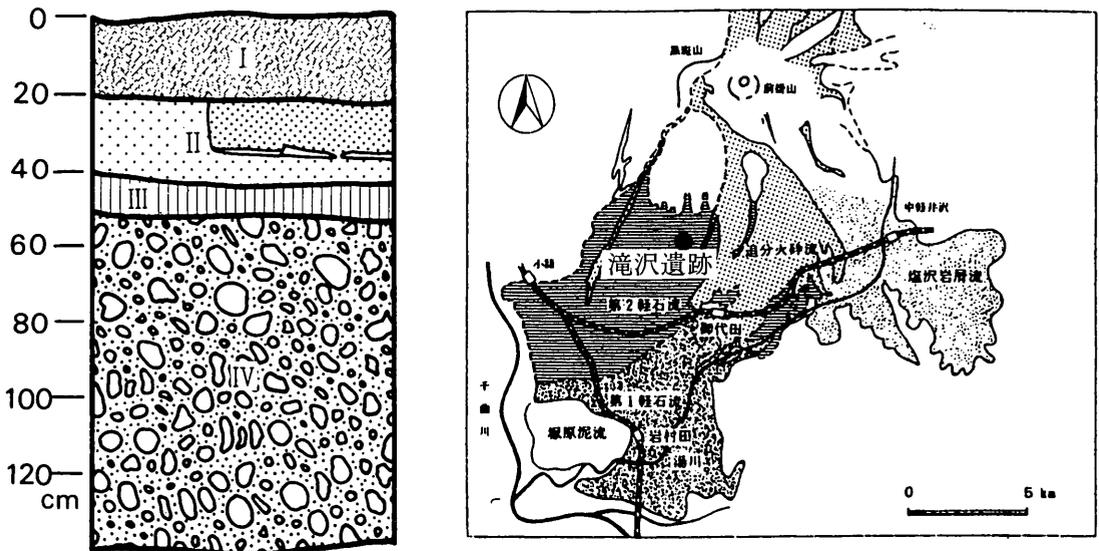
に形成されており、律令体制崩壊に伴う、土地の新たな開発が始まったことを示唆する現象として注目される。

中世では、城之腰遺跡で13世紀の小集落が発見されたほか、関屋・東荒神遺跡などでも戦国時代と考えられる遺構が検出されている。

2 層 序

滝沢遺跡の基本層序については、第7図に示した。以下にその基本層序を説明する。

- I層 耕作土層 黒褐色 (10YR2/2)。粒子やや粗く、やや粘性あり。大粒のパミス・礫を多く含む。層厚20cm。
- II層 黒色土層 黒色 (10YR2/1)。細粒パミスをよく含む。粘性・しまり強い。縄文時代中後期を中心とする遺物包含層。層厚25cm。
- III層 漸移層 にぶい黄褐色(10YR4/3)。II層にローム粒子を多く含み始める。細粒パミスをよく含む。
- IV層 ローム層 にぶい黄橙色 (10YR6/4)。浅間山軽石流期の第2軽石流堆積物(約1万1千年前) 径15~30cm前後の軽石を主体的に含み、大型の軽石を多く含む。



第7図 滝沢遺跡の基本層序と浅間の火山堆積物の分布

III

遺構と
遺物

Ⅰ 縄文時代の竪穴住居址・竪穴遺構

(1) J-1号住居址

住居址 第8図

本址は、け-13グリッドに位置する。東側の約半分は調査区外にあり、北西隅でD-7号土坑と重複する。平面形状は南北3.50m程度の楕円形が想定される。

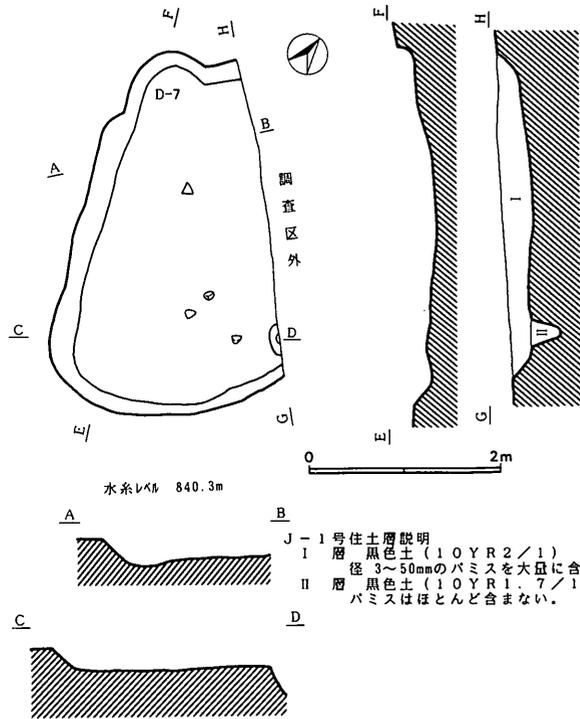
壁体と考えられる地山のローム層はやや脆弱で床面からはゆるく立ち上がる。検出面からの高さは20cm前後を測る。壁溝は検出されなかった。

床面は地山をそのまま利用し、凹凸が激しく、軟弱である。

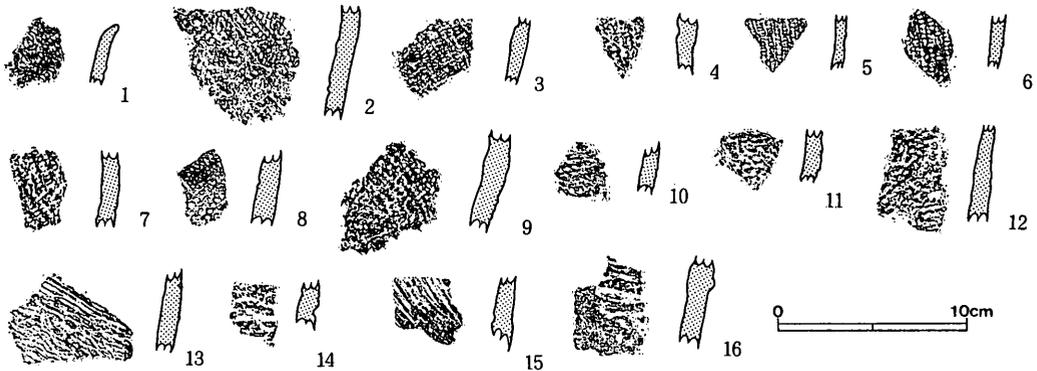
ピットは南側から1個検出された。柱穴か否かは判断し兼ねる。深さは33cmを測る。

炉は検出されなかった。

覆土はピット内以外は黒色土単層である。



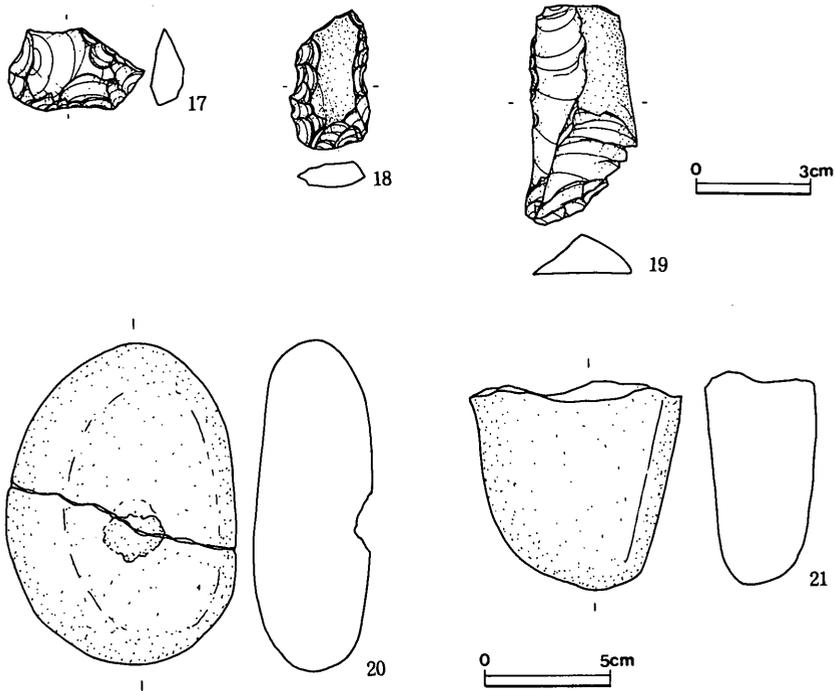
第8図 J-1号住居址 (1:80)



第9図 J-1号住居址出土土器 (1:4)

第3表 J-1号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	繊維	色 調		焼成	出 土 位 置	備 考
								外 面	内 面			
1	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。 縄文LR。	ナデ。	白色磁物 角閃石	有	明褐色 7.5YR 5/6	黒褐色 10YR 3/1	良	J-1 Na96	前期初頭
2	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色磁物 角閃石	有	暗赤褐色 5YR 3/4	明褐色 7.5YR 5/6	良	J-1 Na37	前期初頭
3	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色磁物 角閃石	有	赤褐色 5YR 4/8	明赤褐色 5YR 5/8	良	J-1 Na15	前期初頭
4	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	不明。	白色磁物	有	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 5YR 4/2	良	J-1 Na5	前期初頭
5	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色磁物 角閃石	有	褐灰色 5YR 4/1	褐灰色 5YR 4/1	良	J-1 Na20	前期初頭
6	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ナデ。	白色磁物 角閃石	有	灰黄褐色 10YR 4/2	にふい黄褐色 10YR 5/4	良	J-1	前期初頭
7	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ナデ。	黒雲母 角閃石	有	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 7.5YR 4/1	良	J-1	前期初頭
8	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色磁物 角閃石	有	明赤褐色 2.5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	良	J-1 付近	前期初頭
9	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ランダムな擦 痕状の調整。	白色磁物 角閃石	有	暗赤褐色 5YR 3/6	明赤褐色 5YR 5/8	良	J-1	前期初頭
10	深鉢	胴部	— — —	燃糸文L。	ナデ。	白色磁物	有	赤褐色 5YR 4/6	明赤褐色 5YR 5/8	良	J-1 付近	前期初頭
11	深鉢	胴部	— — —	燃糸文L。	ナデ。	白色磁物 角閃石	有	明赤褐色 5YR 5/8	橙色 5YR 6/8	良	J-1 付近	前期初頭
12	深鉢	胴部	— — —	燃糸文L。	ナデ。	白色磁物 角閃石	有	にふい赤褐色 2.5YR 4/4	灰褐色 7.5YR 4/2	良	J-1 付近	前期初頭
13	深鉢	胴部	— — —	燃糸文L。	斜方向の擦痕 状調整。	白色磁物 角閃石	有	にふい黄褐色 10YR 6/4	黒褐色 7.5YR 3/1	良	J-1 付近	前期初頭
14	深鉢	胴部	— — —	沈線あり。	不明。	白色磁物	有	明赤褐色 5YR 5/6	褐灰色 5YR 4/1	良	J-1 付近	前期初頭
15	深鉢	胴部	— — —	条痕。	不明。	白色磁物 角閃石	有	明褐色 7.5YR 5/6	黒褐色 7.5YR 3/1	良	J-1	前期初頭
16	深鉢	胴部	— — —	肥厚口縁。	ナデ。	白色磁物 角閃石	有	にふい橙色 7.5YR 6/4	黒褐色 5YR 3/1	良	J-1	前期初頭



第10図 J-1号住居址出土石器 (1:2, 1:3)

第4表 J-1号住居址出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
17	ピエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.1	3.6	0.9	7.09	J-1 Na32	20	磨 石	安山岩	12.3	8.7	4.6	699.3	J-1 Na56 Na57
18	ピエス・ エスキュー	硬質頁岩	3.6	2.1	0.8	6.31	J-1 Na15	21	磨 石	安山岩	8.2	7.8	4.8	459.3	J-1 付近
19	スクレイパ ー	チャート	5.8	2.7	1.1	20.27	J-1 Na24								

(単位cm, g)

遺 物 第9・10図

覆土中、床面上から少量の縄文土器・石器が出土している。

土器はいずれも深鉢の破片ですべてに繊維が含まれる。口縁部形状は波状口縁の1と肥厚口縁の16、胴部～底部については不明確だが、円筒形で尖底になると考えられる。文様は0段多条を含む縄文RL・LRが施される1～9、撚糸文の10～13、条痕が施される15などがある。

石器はピエス・エスキュー17・18、スクレイパー19、磨石20・21などが出土している。

時 期

以上、遺構の属性と出土遺物から本住居址の帰属時期を滝沢I期縄文前期初頭に推定する。

(2) J-2号住居址

住居址 第11図

本址はく-13グリッドに位置する。重複関係は持たない。

東西2.91m南北3.49mの隅丸長方形を呈し、床面積は10.4m²を測る。長軸方向はN-40°-Wを指す。

壁は南壁以外は遺存しているがやや脆弱である。壁溝は検出されなかった。

床は地山をそのまま利用して構築される。南側は攪乱を受けているため、凹凸があるが、北側はおおむね平坦である。

ピットは2個が検出された。住居の中央北寄りに整然と2個配置されており、支柱穴とも考えられる。いずれも径16cm前後の小ピットで深さはP₁が16cm、P₂が10cmである。

炉は検出されなかった。

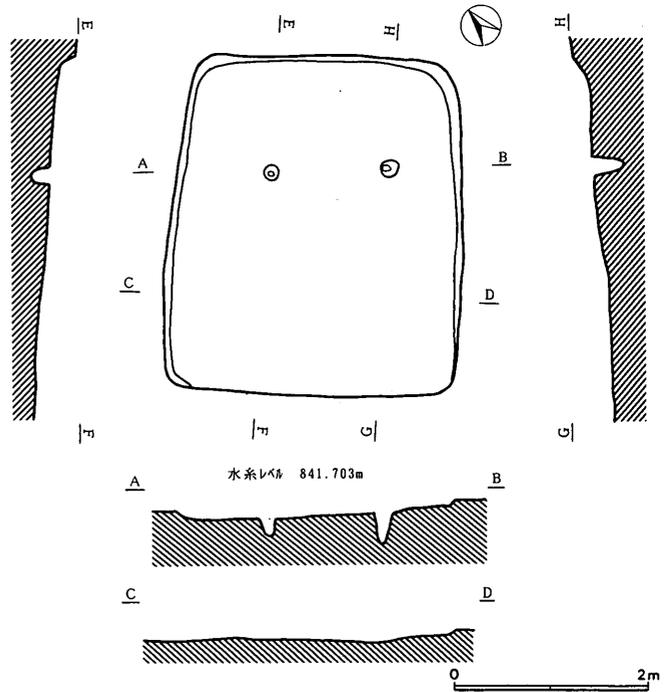
遺物 第12・13図

出土遺物は少ない。土器は深鉢1片が出土したのみである。

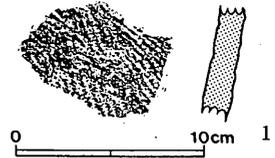
1は繊維を含み、器面に縄文R

Lが施される。石器はガラス質安山岩製のスクレイパー2、

石匙3、安山岩製の磨石4・5などが出土している。



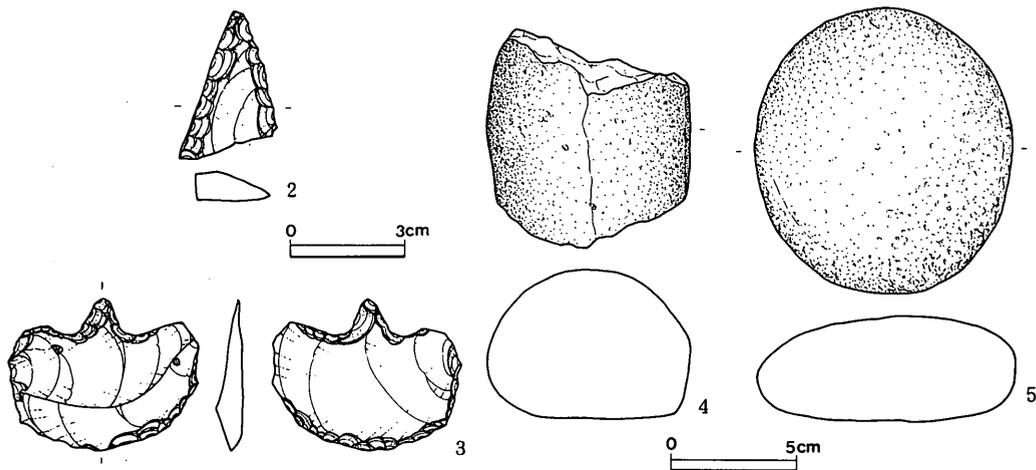
第11図 J-2号住居址 (1:80)



第12図 J-2号住居址出土土器 (1:4)

第5表 J-2号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整(内面)	胎土	繊維	色調		焼成	出土位置	備考
								外面	内面			
1	深鉢	胴部	-	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色鉱物 角閃石	有	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 7.5YR 6/6	良	J-2 付近	前期初頭



第13図 J-2号住居址出土石器(2・3は1:2, 4・5は1:3)

第6表 J-2号住居址出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
2	ス ク レ イ バ ー	ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	3.4	2.3	0.7	6.66	J-2 No.1	4	磨 石	安 山 岩	7.1	8.0	5.8	540.4	J-2 No.7
3	石 匙	ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	4.9	3.9	0.7	12.28	J-2 No.8	5	磨 石	安 山 岩	11.2	10.2	4.1	692.5	J-2 No.3

(単位cm, g)

時 期

出土石器は一つであるが、周辺の状況を勘案して滝沢I期縄文時代前期初頭と考える。

(3) J-3号竪穴遺構

遺 構 第14・15図

本址はおー7グリッドに位置する。墓址と推定されるD-30・31土坑と重複するが、新旧関係は定かでない。おそらく重複する墓址と強く関連する遺構と推定され、同時期につくられた可能性が高い。なお、この遺構は住居址としては取り扱わず、竪穴遺構とする。

規模は東西1.62m南北1.45m、平面形状は円形を呈する。底面の面積は1.97㎡を測る。

確認面からの深さは最深部でも10cm程度と浅く、底面からはゆるい傾斜で立ち上がる。壁溝は検出されなかった。

底面は地山をそのまま利用し、おおむね平坦である。

ピットは北東端で1個検出された。

北壁側からは、8個の安山岩を用いた配石が検出された。配石内には破碎されたと考えられる縄文時代後期の土器(16図30)が詰められていた。竪穴遺構との関係は明確でない。また、配石とその周辺の覆土は墓址D-30号土坑から流入したかあるいは意図的に削り取って埋めたと考え

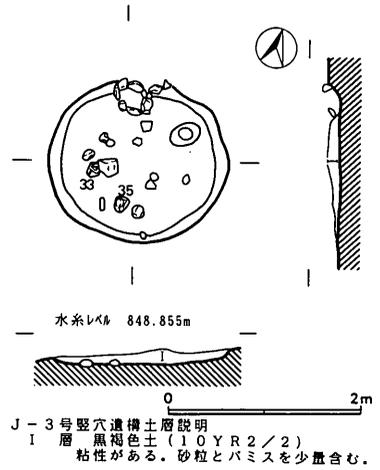
られる焼獣・人骨片が混じった土である。

本遺構はD-30号土坑と関連性の強い遺構と考えられる。

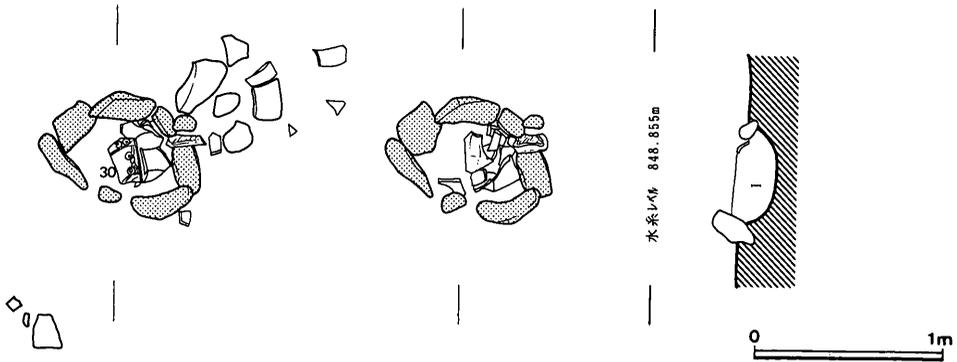
遺物 第16・17・18図

前述の配石内のほか、竪穴覆土中・床面上に縄文土器が散在している。1~17・29は滝沢VII期の称名寺式土器で、1~13は沈線区画後に縄文充填される有文深鉢、14は沈線区画内に列点が巡る深鉢である。粗製深鉢には無文の15、圧痕隆帯文の16、櫛歯状工具による垂下沈線施文の17などがある。

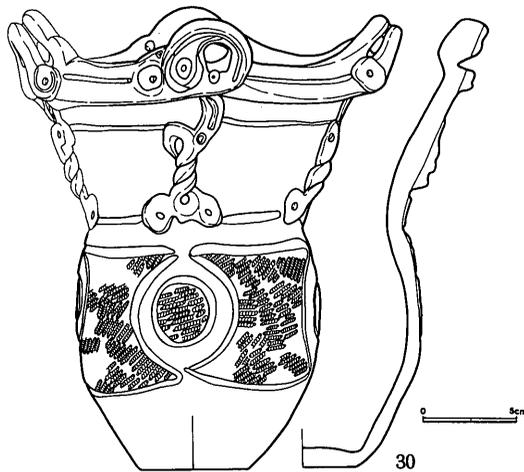
19~22は新しい時期の混入、他の18・23~28は堀之内



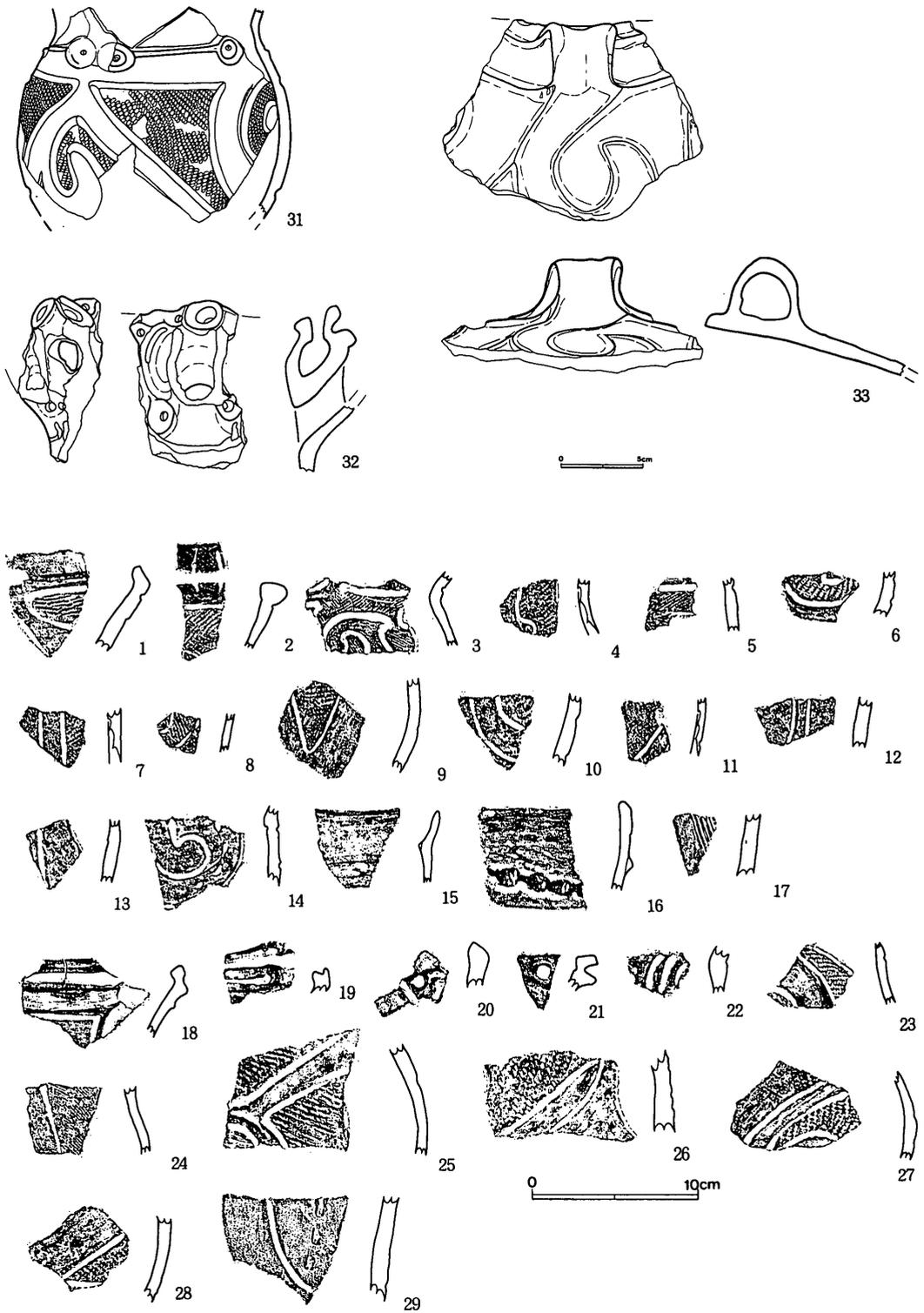
第14図 J-3号竪穴遺構(1:80)



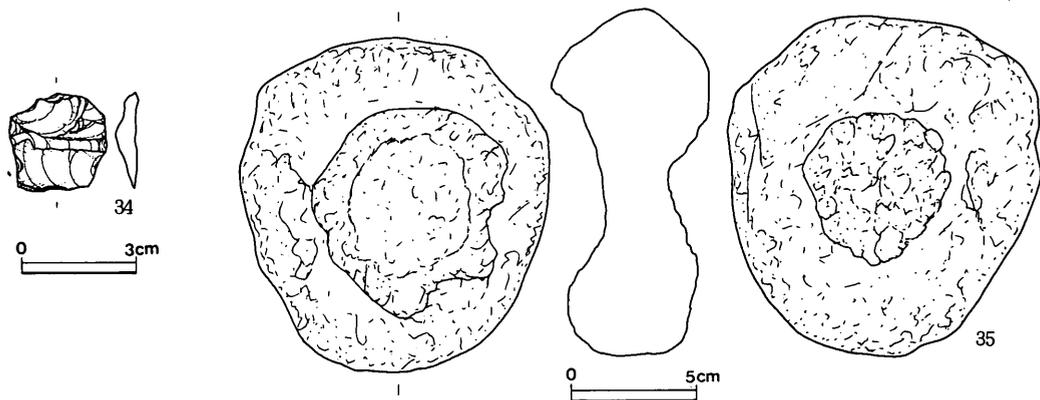
第15図 J-3号竪穴遺構内配石と破碎土器(1:20)



第16図 J-3号竪穴遺構出土土器(1:4)



第17图 J-3号竖穴遺構出土土器 (1:4)



第18図 J-3号竪穴遺構出土石器 (1:2, 1:3)

第7表 J-3号竪穴遺構出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
34	ピース・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.58	2.6	0.5	3.62	J-3 1区	35	石 鉢	軽 石	12.9	12.2	6.4	386.01	J-3

(単位cm, g)

1式古段階に属す。完形品の30や31・18・23~28は同種の鉢形土器で口縁部に環状把手間を巡る沈線、頸部に特徴的な貼付文を持つ。32は把手と一体の短い注口部がつく壺形土器、33は口縁部に小型の橋状把手がつき、微隆帯でJ字状の文様が描かれる。

石器はガラス質安山岩製のピース・エスキュー34、軽石製の石鉢35が出土している。

時 期

以上、本址には称名寺式と堀之内1式が混在するが、破碎されて配石内に詰められた30の存在から滝沢Ⅷ期堀之内1式古段階に位置付くと考えておく。

第8表 J-3号竪穴遺構出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁部	— — —	口縁部は内折。 棒状工具による沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-3 I区	後期初頭
2	深鉢	口縁部	— — —	口縁部は縄文LRと沈線。 胴部は沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 4/3	J-3 IV区	後期初頭
3	深鉢	胴部	— — —	縄文LRとペン先状、J字状の沈線区画。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐色 5YR 4/1	J-3 I区	後期初頭
4	深鉢	胴部	— — —	沈線区画と縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-3 IV区	後期初頭
5	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	褐色 7.5YR 7/6	J-3 II区	後期初頭
6	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 4/4	灰褐色 5YR 4/2	J-3 II区	後期初頭
7	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画と縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-3 IV区	後期初頭
8	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 4/2	J-3 I区	後期初頭
9	深鉢	胴部	— — —	沈線区画と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-3 II区	後期初頭
10	深鉢	胴部	— — —	沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-3 IV区	後期初頭
11	深鉢	胴部	— — —	沈線区画と縄文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰褐色 5YR 6/2	J-3 II区	後期初頭
12	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	褐色 7.5YR 6/6	J-3 I区	後期初頭
13	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-3 II区	後期初頭
14	深鉢	胴部	— — —	沈線のJ字文、周囲に刺突列点あり。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰黄褐色 10YR 6/2	J-3 II区	後期初頭
15	深鉢	口縁部	— — —	無文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 10YR 4/1	J-3 I区	後期初頭
16	粗製深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に圧痕隆帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-3 I区	後期初頭
17	粗製深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 7/6	にぶい褐色 5YR 7/4	J-3 I区	後期初頭
18	深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に横位隆帯に並走沈線。以下も隆帯および沈線による文様区画。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	浅黄褐色 10YR 8/3	J-3 II区	後期前葉
19	深鉢	口縁部	— — —	口縁部に刺突から発する沈線。内面に円形刺突。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-3 IV区	後期前葉

第9表 J-3号竪穴遺構出土遺物一覧表 <縄文土器>

押印 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
20	深鉢	口縁部	— — —	円形刺突と隆帯。沈線による文様区画。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 黄褐色 7.5YR 6/4	にぶい 黄褐色 10YR 7/4	J-3 I区	後期前葉
21	深鉢	口縁部	— — —	円形刺突。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 黄褐色 10YR 7/4	灰白色 10YR 8/1	J-3 石組内	後期前葉
22	深鉢	口縁部	— — —	円形とそれを取り巻く、弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 黄褐色 10YR 7/3	にぶい 黄褐色 10YR 7/4	J-3 I区	後期前葉
23	鉢	胴部	— — —	弧状沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	灰白色 7.5YR 8/2	J-3 IV区	後期 堀之内1式古段階
24	鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	にぶい 橙色 7.5YR 7/3	J-3 I区	後期 堀之内1式古段階
25	鉢	胴部	— — —	斜行沈線から環状沈線へ連絡。区画外に縄文RL上を。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	J-3 I区	後期 堀之内1式古段階
26	鉢	胴部	— — —	沈線区画したのち縄文LR施文。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	J-3 I区	後期 堀之内1式古段階
27	鉢	胴部	— — —	沈線区画したのち縄文LR施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	にぶい 橙色 5YR 6/4	J-3 II区	後期 堀之内1式古段階
28	鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 褐色 7.5YR 5/4	褐色 7.5YR 6/6	J-3 石組内	後期 堀之内1式古段階
29	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に刺突列点文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/2	J-3 IV区	後期 堀之内1式古段階
30	鉢	ほぼ 完形	15~16 22 5.5	口縁部 正面は沈線と円形刺突を持つ環状の把手。ほか3か所は二重の環状把手。把手から沈線・円形刺突、捻りを持つ隆帯垂下。また、隆帯下上位に1条の横引き沈線。胴部 2条の横引き沈線間4か所に環状沈線。縄文LRを埋める。底部 網代痕ナデ消し。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6 ~ にぶい 黄褐色 7.5YR 7/4	褐色 7.5YR 6/6 ~ にぶい 黄褐色 7.5YR 7/4	J-3 石組内	後期前葉
31	深鉢	胴部	胴部径 16.6	口縁部下2個一組のボタン状突起を隆帯とそれをなぞる沈線でつなく。胴部 斜行と渦巻き状沈線で帯を区画。区画外に縄文RL充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 褐色 7.5YR 5/4	褐色 7.5YR 6/6	J-3 石組内	後期前葉 堀之内1式古段階
32	壺	注口部	— — —	把手と一体の短い注口部。周囲に円形刺突を持つ円盤を多く配する。一部沈線を用いる。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい 黄褐色 10YR 7/4	にぶい 黄褐色 10YR 7/4	J-3 I区	後期前葉 堀之内1式古段階
33	壺	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下2条の隆帯から橋状の把手がつながる。把手下にJ字状の微隆帯。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	にぶい 褐色 7.5YR 7/4	にぶい 褐色 7.5YR 6/3	J-3 III区	後期前葉 堀之内1式古段階

(4) J-4号住居址

住居址 第19・20図

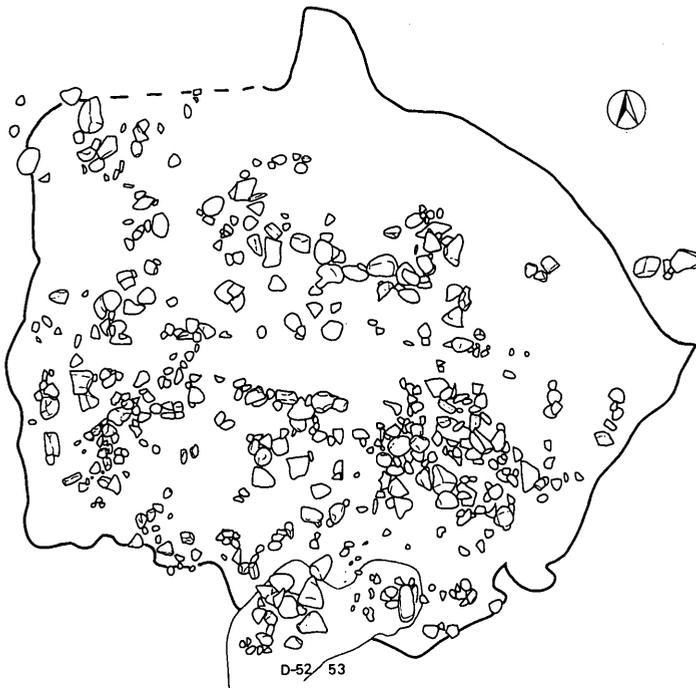
本址はおー6グリッドに位置する。D-52・53・54・56・57号土坑など土器棺を納めた墓などと重複し、これらに壁・床面などを部分的に破壊される。

東側に大きく広がるテラス部分も含めた全体形状は不整形であるが、床部分は半楕円状を呈する。その規模は東西4.63m南北4.60mで、床面積は17.15㎡を測る。長軸方向はN-3°-Wを指す。

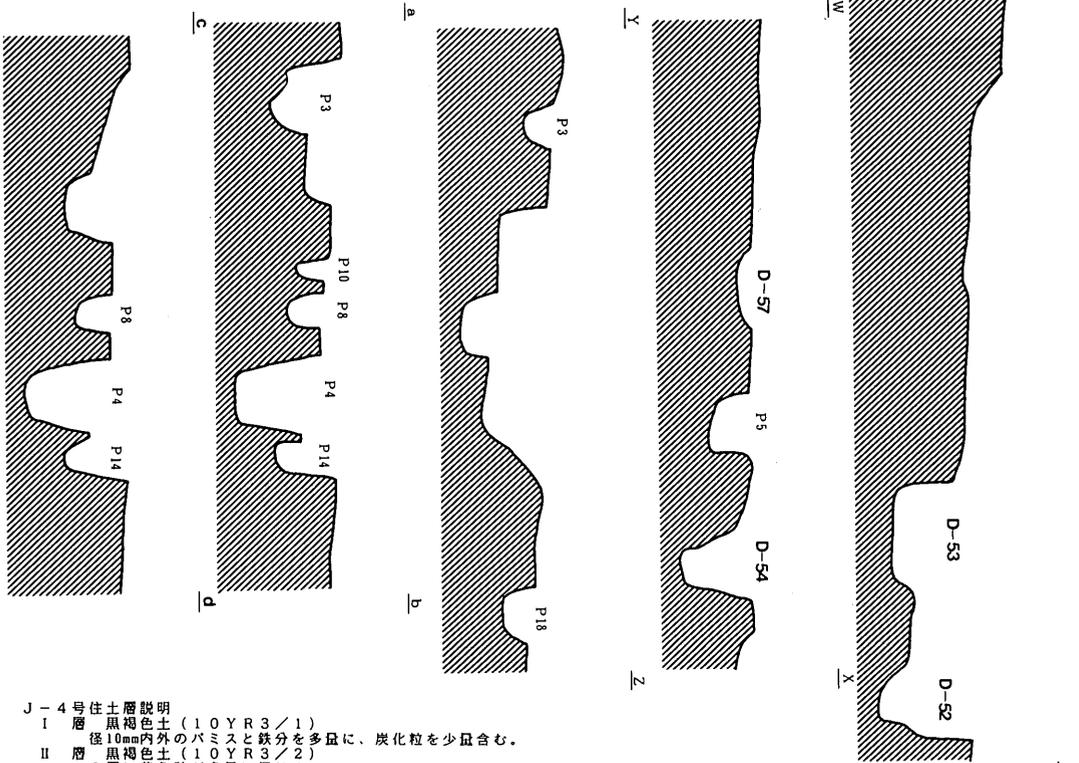
壁残高は残りの良い北～西壁で30～45cm程度、南壁は数cmを測るに過ぎない。また、西壁で深い壁溝が掘削される部分については垂直に近い壁の立ち上がりを示すが、それ以外の壁は床面からゆるい傾斜で立ち上がる。壁溝はこのほか床面中央部にも掘削されている。

床は地山をそのまま利用し、一部破壊を受けるが、堅固でおおむね平坦な面をなす。

ピットは床面上から16個、テラス上から13個が検出された。これらのピットを柱穴と仮定するとその重複状況から考えて数次の柱の建て替えを考慮しなければならない。基本となる柱穴を想定しておくとして、北側のP₁～P₃、南側のP₄～P₆のそれぞれ東西に連なるピットが該当しよう。

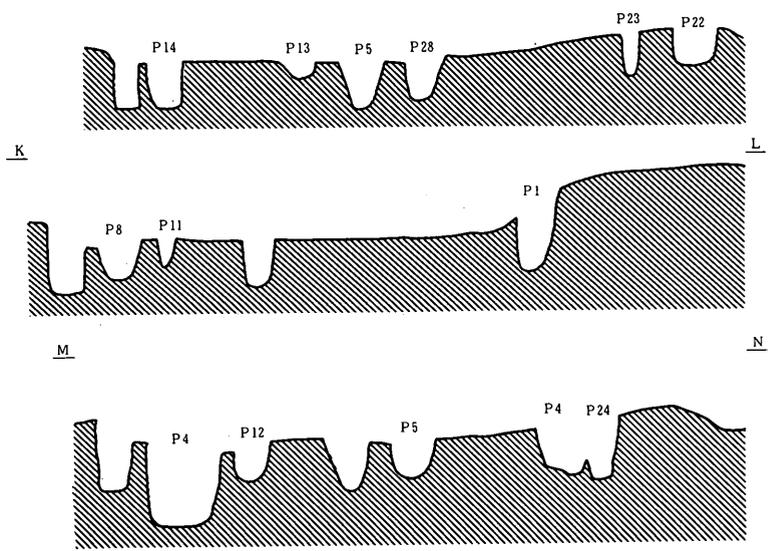


第19図 J-4号住居址礫分布図(1:80)



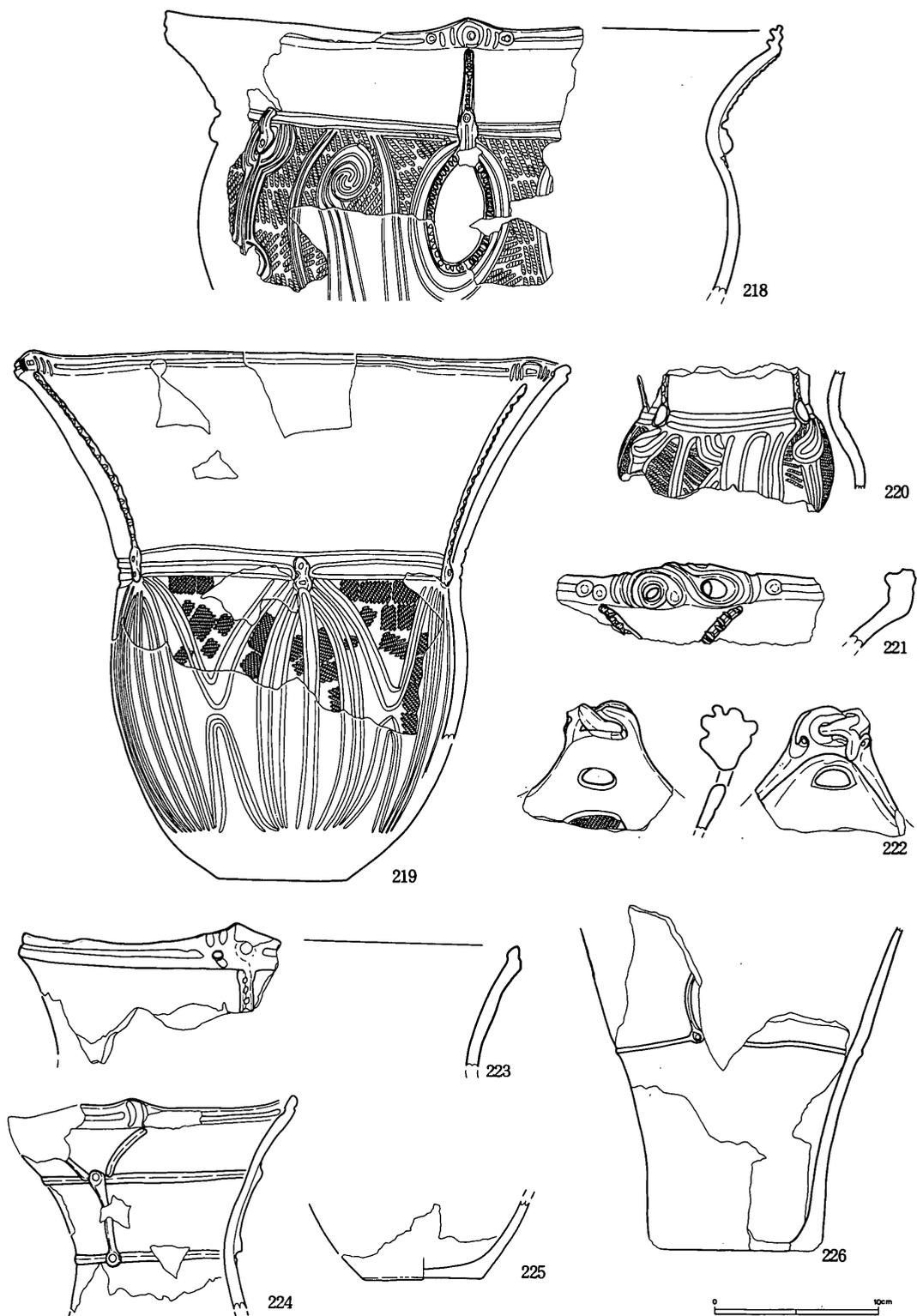
J-4号住土層説明
 I 層 黒褐色土(10YR3/1) 多量に、炭化粒を少量含む。
 II 層 黒褐色土(10YR3/2)
 I層に黄色砂が多量に混じる。

水系レバ 850.81m

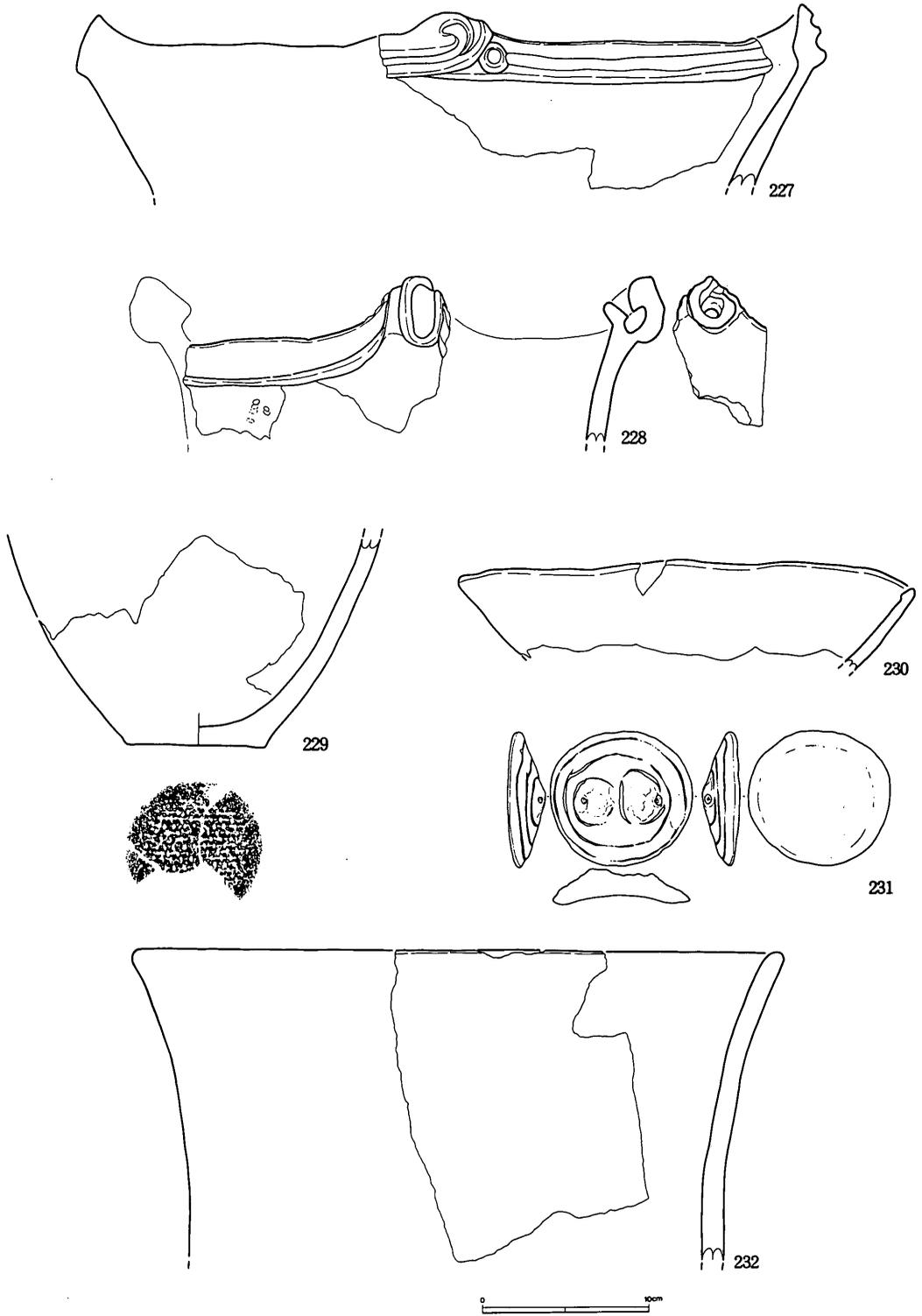




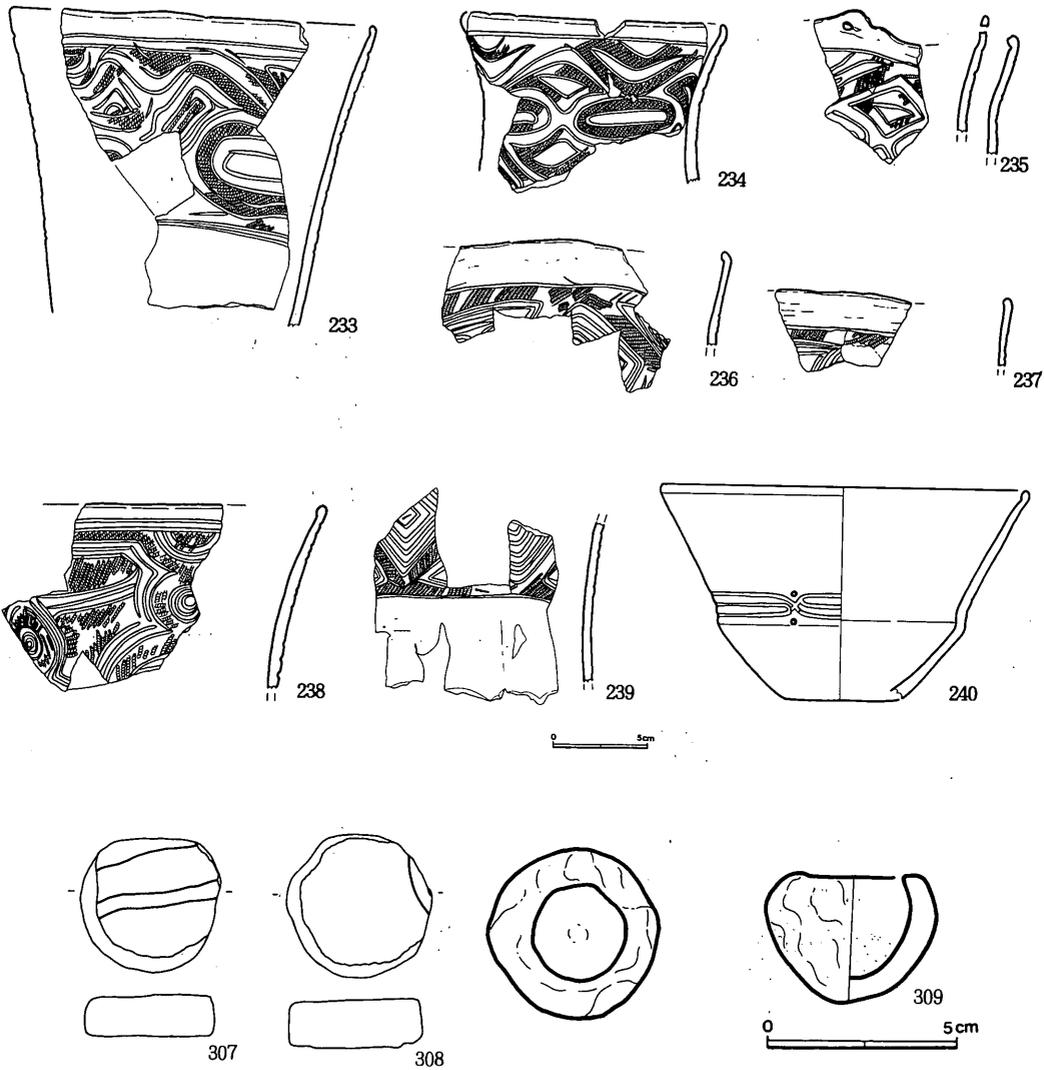
第20图 J-4号住居址 (1:80)



第21图 J-4号住居址出土土器(1:4)



第22图 J-4号住居址出土土器 (1:4)



第23图 J-4号住居址出土土器(1:4), 土製品(1:2)

炉は検出されなかった。

覆土は2層である。I層は鉄分を多量に含む黒褐色土、II層はI層に黄色砂が混じった壁直下に堆積する土である。断面観察では確認できなかったが、小型土器棺を持つD-54・56・57号土坑などは、J-4住床面を若干削り込む状況からみて、住居の上屋がなくなって間もなくの第I層形成過程、J-4住が窪地状態の時に掘削され、埋納されたものと考えられる。

また、D-56近くのIII区覆土中からニホンジカ・ヒトの焼骨が出土していることから、窪地状態の時に埋納行為、祭祀行為が行われた可能性が強い。

遺物 第21～32図

覆土中・床面上から多量の縄文土器・石器が出土した。堀之内1～2式を中心として各時期の土器が混在している。

1～10は称名寺式、11～19は堀之内1式古段階である。49～65、94～103は沈線が多条化する鉢形土器でより新しい段階、同器形の218～220・66～183は沈線がより細くさらに多条化しているので相当量が堀之内2式段階に含まれるものと考えられる。朝顔形深鉢の184～198は1式の新段階、224・226・233～239は堀之内2式段階である。201・204・206は1式の胴部無文の注口浅鉢である。また、207～213は圧痕隆帯を持つ粗製深鉢であるが、1～10の称名寺式土器が混在するため、堀之内式に共伴するものか定かでない。

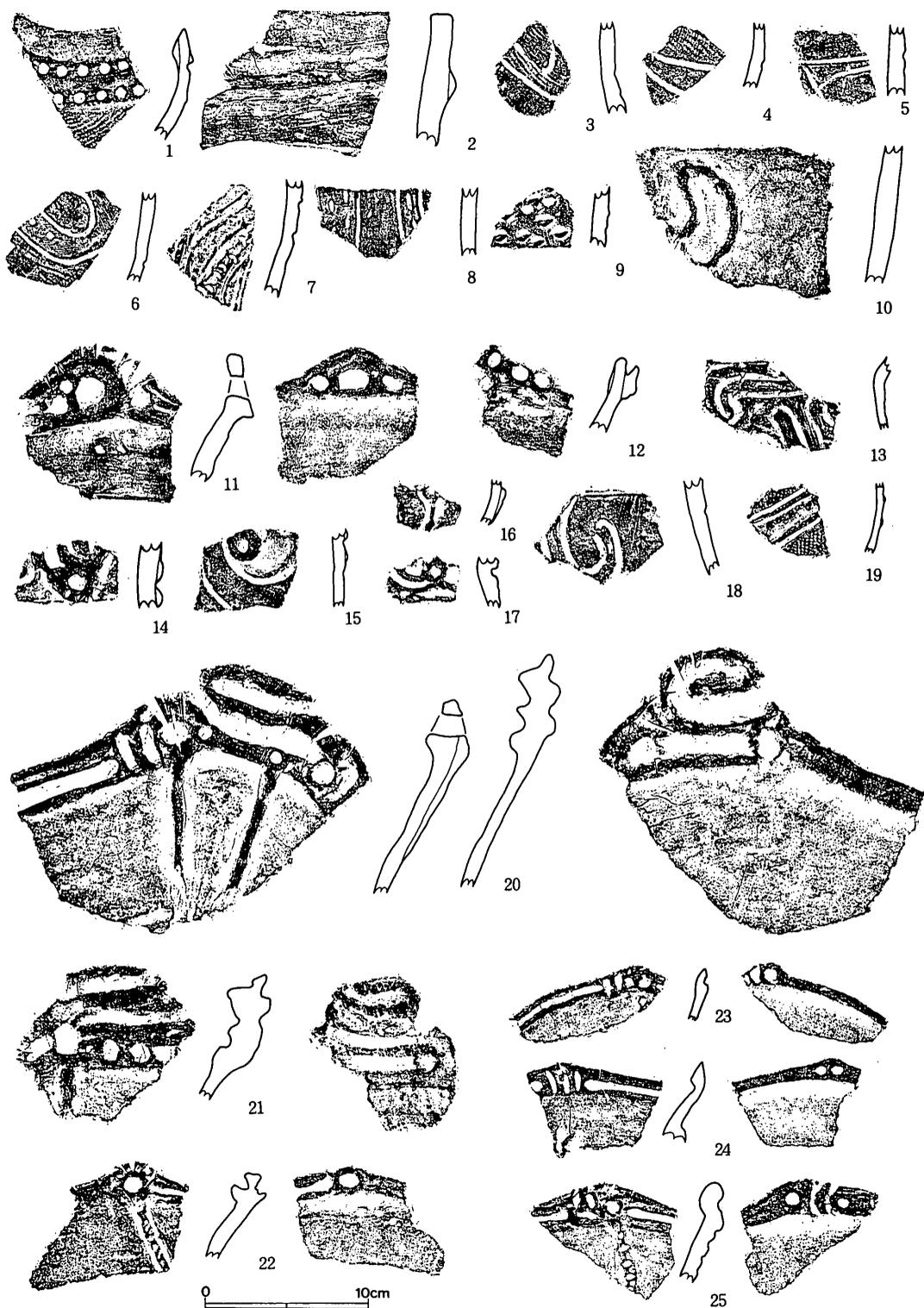
土製品には縄文土器片を円形に削って、成形した円板307・308、手捏ね成形のミニチュア土器309がある。

石器は石鏃241～250、石鏃未製品251～254、ピエス・エスキーユ255～266、石匙267、スクレイパー268～271、石核272・273、打製石斧275～283、磨製石斧284～288、磨石289～296、石皿297・298、敲石299、軽石球300～303、棒状石製品304～306などが出土している。このほか、ヒスイの原石274もある。

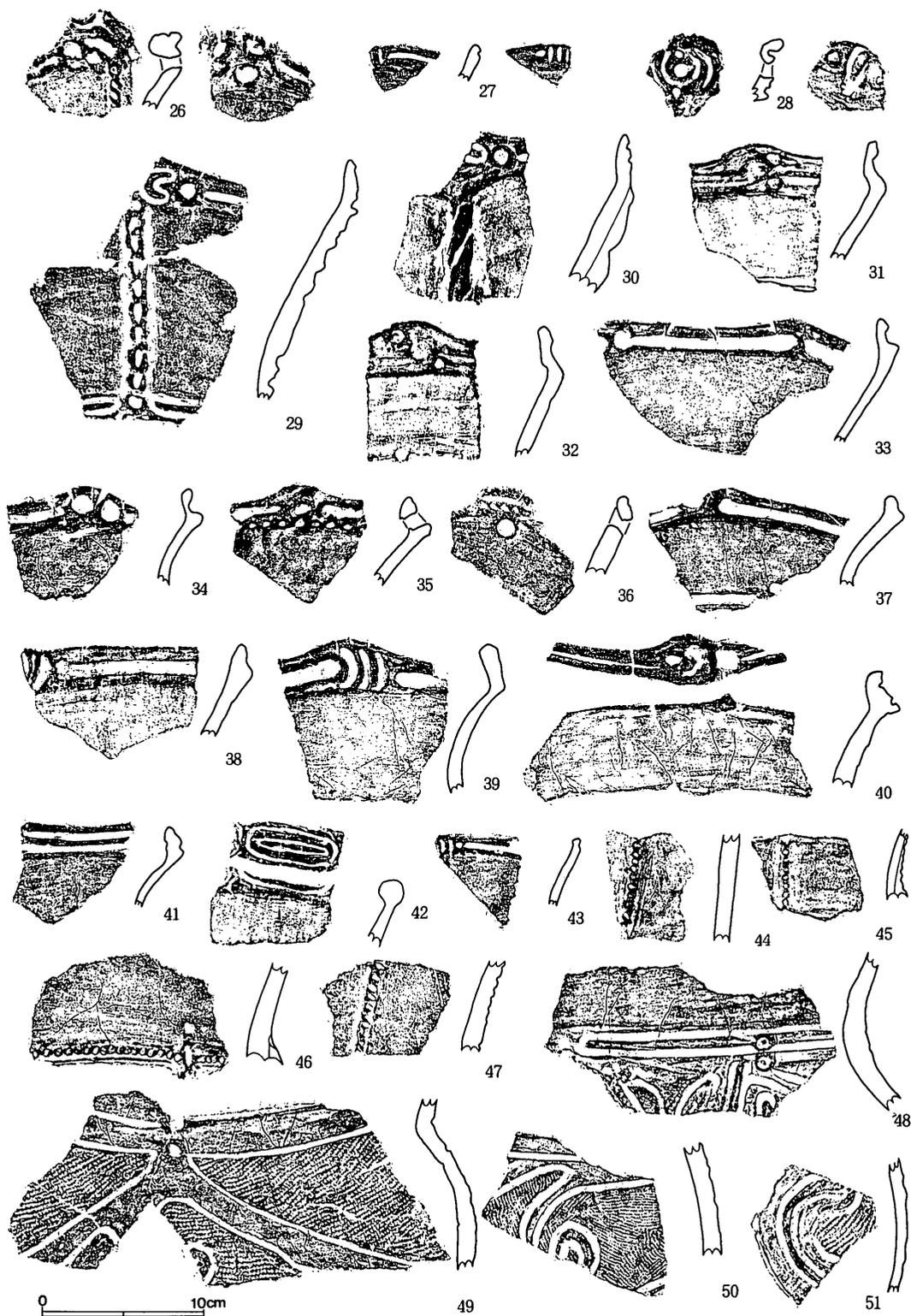
骨にはニホンジカ・ヒトの焼骨片がある（後章茂原信生先生の分析結果参照）。

時期

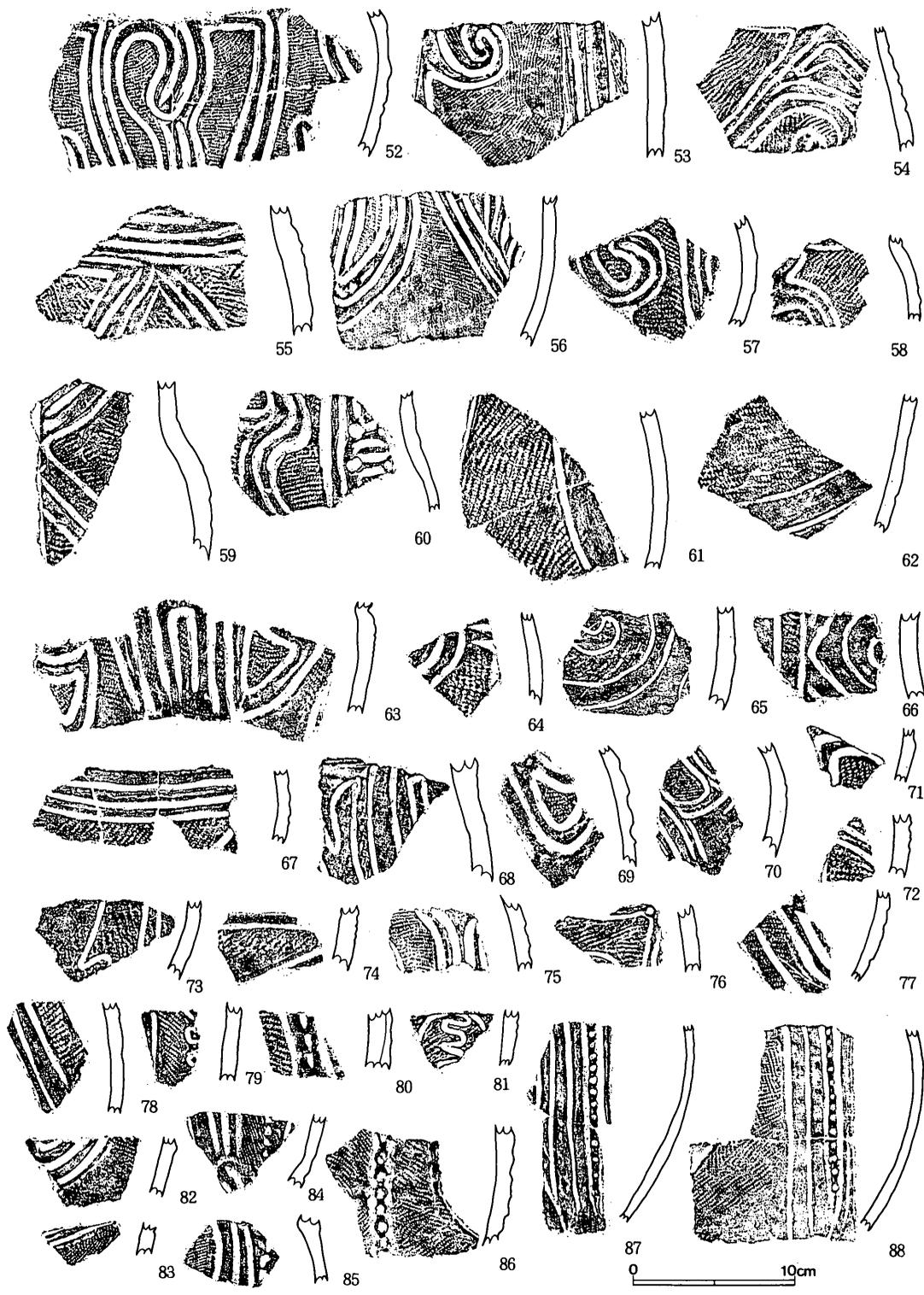
主体的に出土している遺物は縄文時代後期前葉堀之内1式新段階～2式古段階であり、また、本址が堀之内2式を主体的に出土するD-52号土坑に切られることなどを勘案すると滝沢VIII期・堀之内1式新段階～2式古段階に継続的に構築・使用された住居と考えられる。



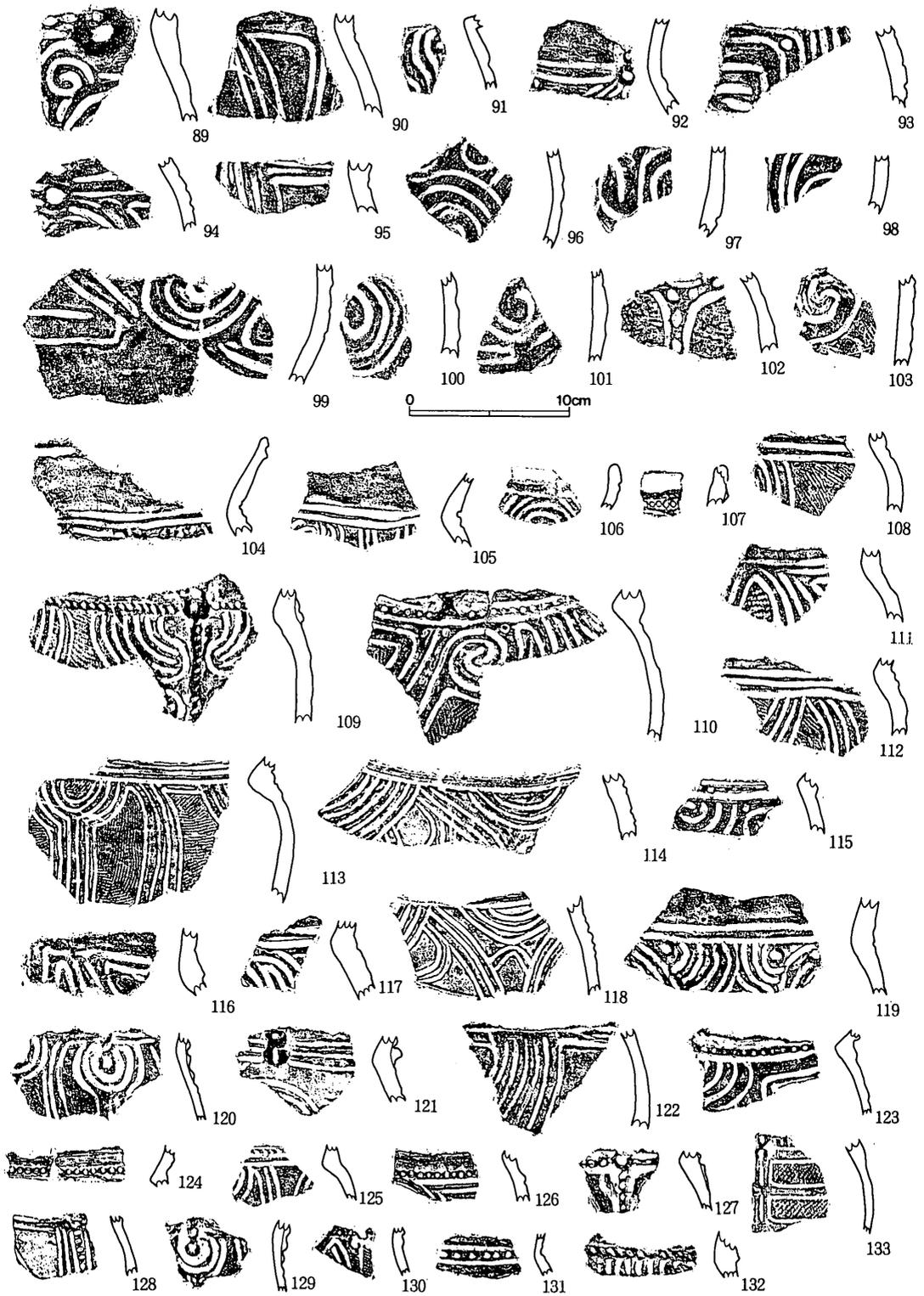
第24图 J-4号住居址出土土器 (1:4)



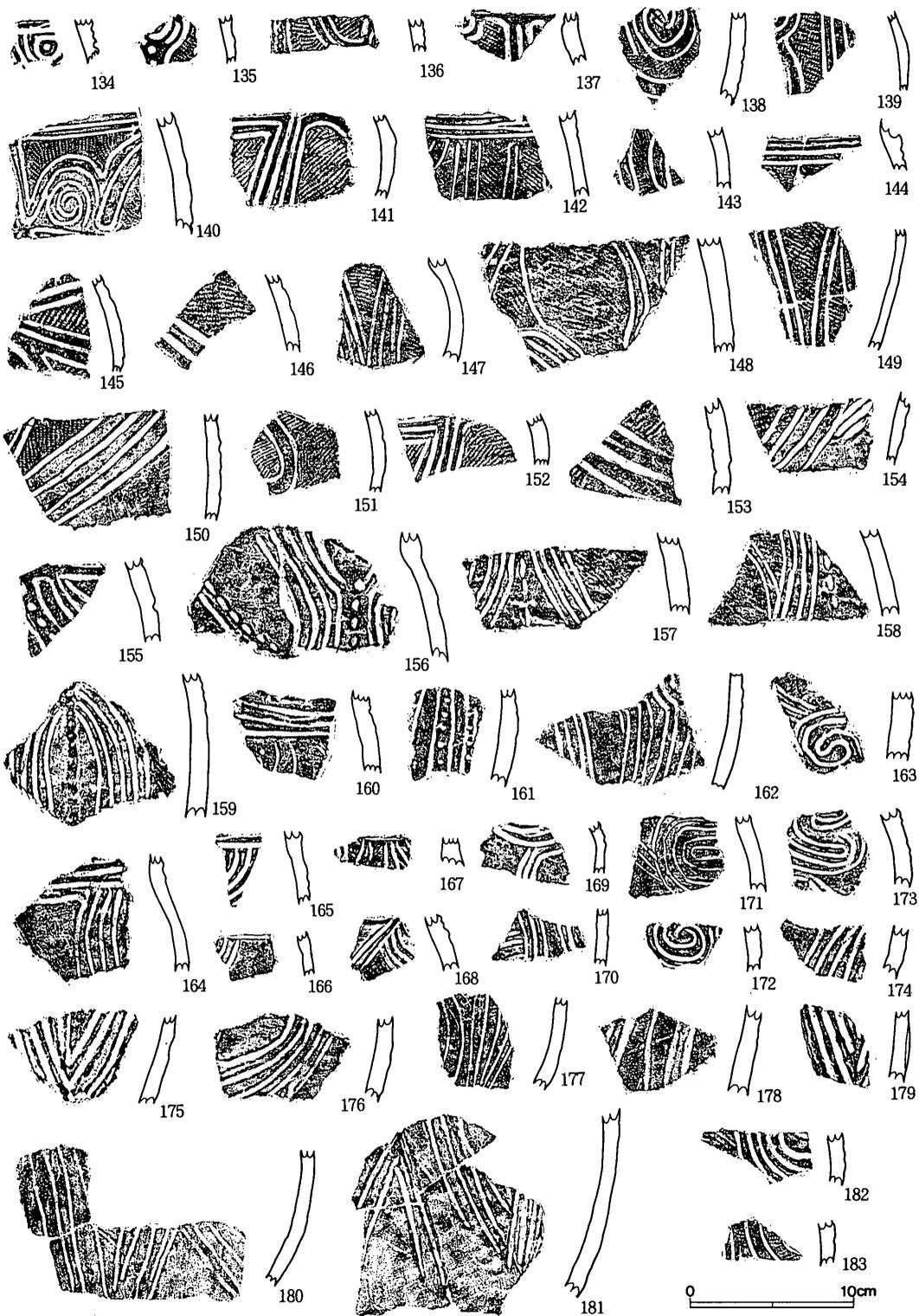
第25图 J-4号住居址出土土器(1:4)



第26图 J-4号住居址出土土器(1:4)



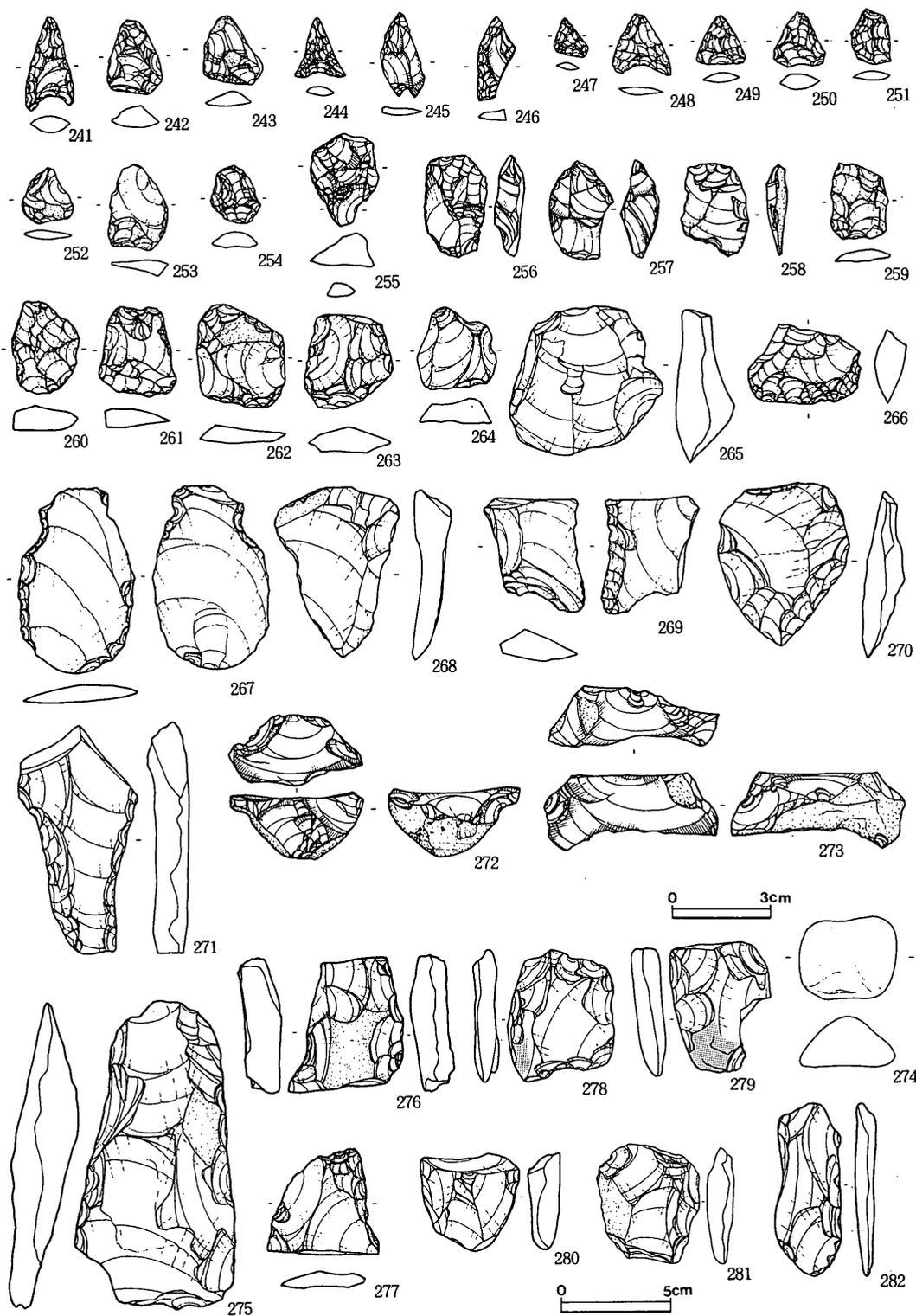
第27图 J-4号住居址出土土器(1:4)



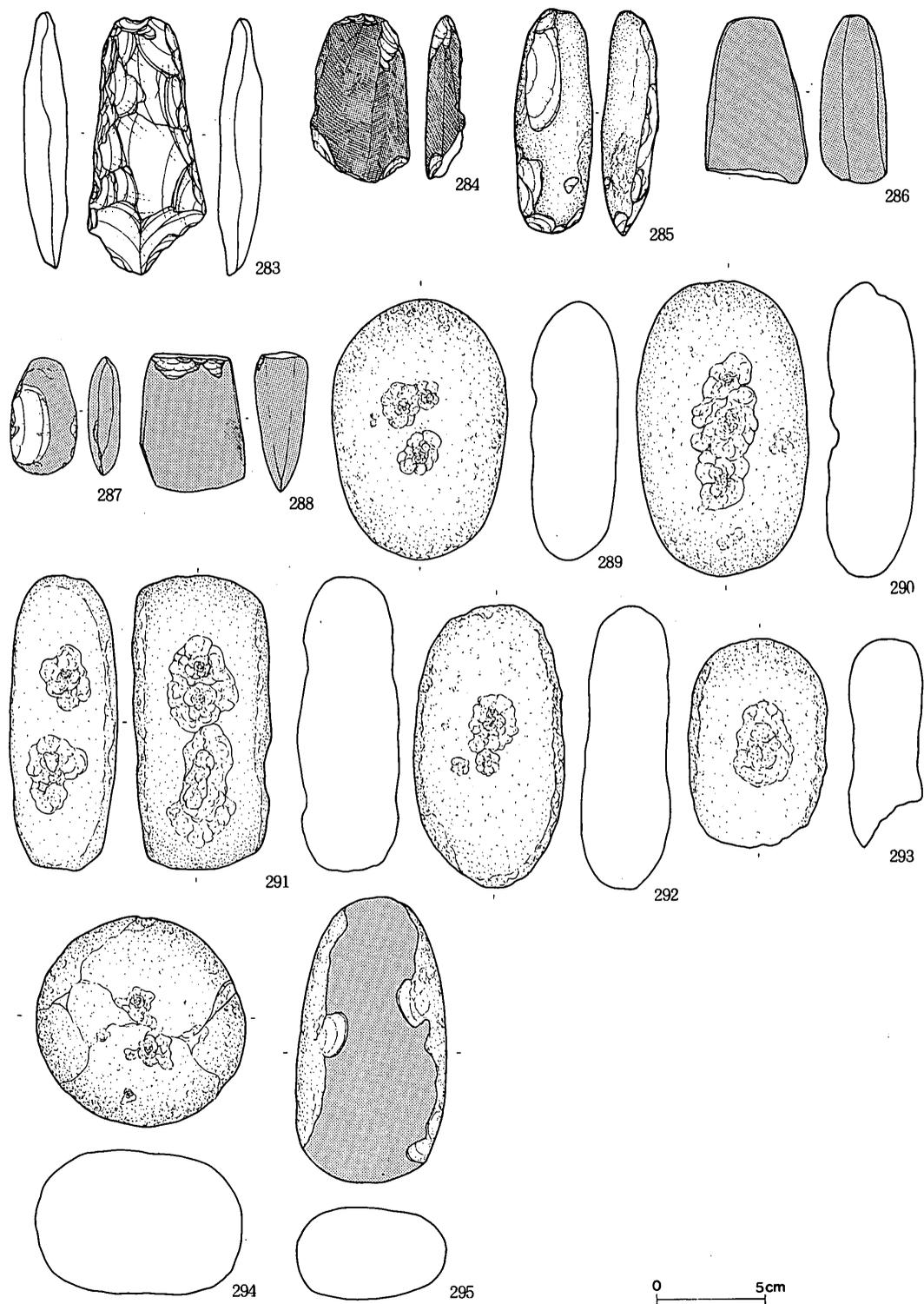
第28图 J-4号住居址出土土器(1:4)



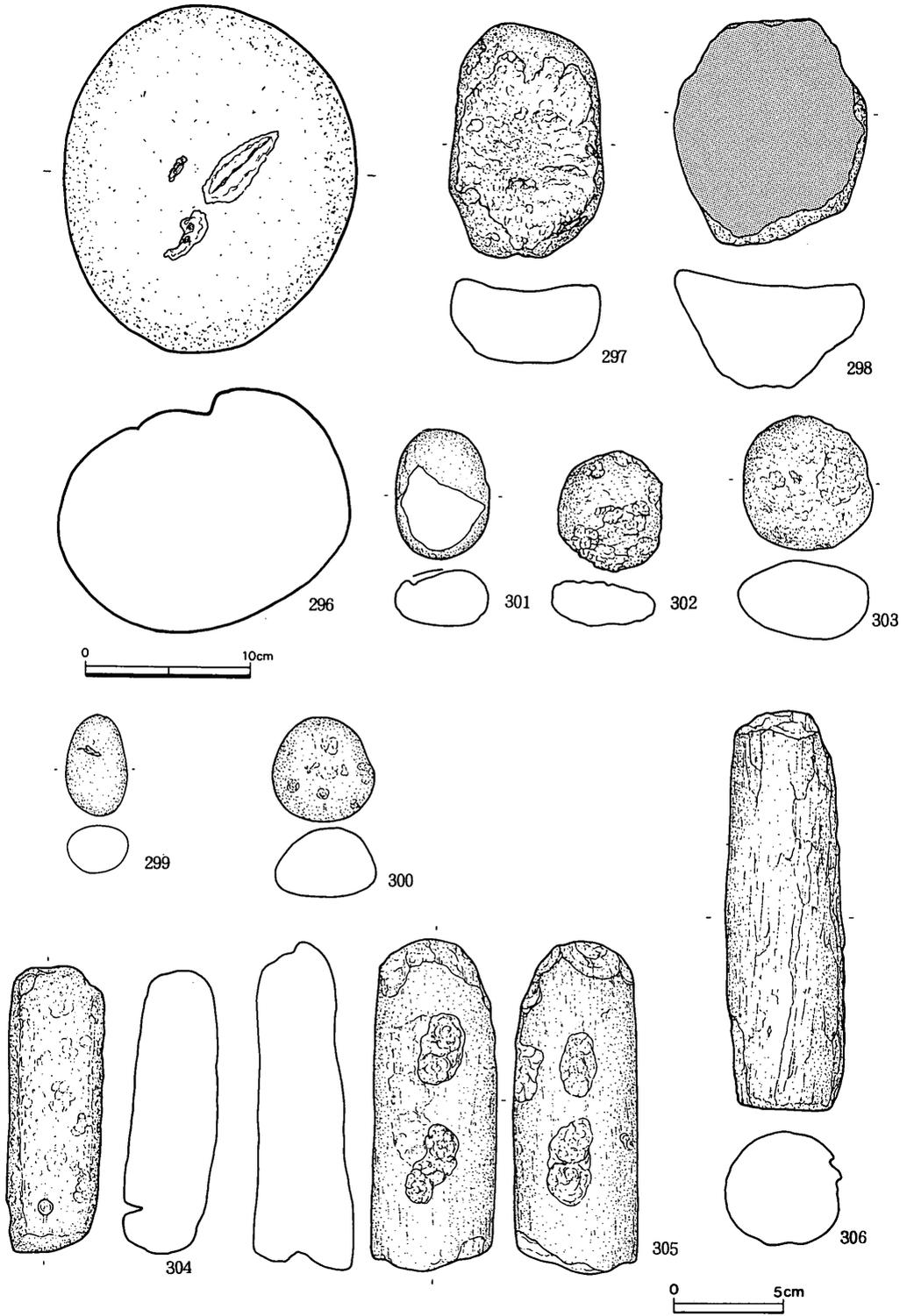
第29图 J-4号住居址出土土器(1:4)



第30図 J-4号住居址出土石器 (274まで1:2, 282まで1:3)



第31图 J-4号住居址出土石器(1:3)



第32図 J-4号住居址出土石器 (1:3, 296は1:4)

第10表 J-4号住居址出土石器一覧表

押番 図号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考	押番 図号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
241	打製石鏃	鉄石英	2.5	1.5	0.4	1.69	J-4 III区	274	原 石	ヒスイ	2.4	2.9	1.5	20.01	J-4 II区
242	打製石鏃	鉄石英	2.2	1.7	0.7	2.34	J-4 II区	275	打製石斧	安山岩	13.8	7.2	2.8	252.72	J-4 II区
243	打製石鏃	黒曜石	2.0	1.8	0.5	1.55	J-4 II区	276	打製石斧	安山岩	5.7	4.6	1.6	66.16	J-4 II区
244	打製石鏃	黒曜石	1.6	1.4	0.2	0.45	J-4 IV区 I層	277	打製石斧	安山岩	4.7	5.0	0.7	22.79	J-4 II区
245	打製石鏃	黒曜石	2.6	1.2	0.2	0.80	J-4 II区	278	打製石斧	頁 岩	5.8	4.8	1.0	34.80	J-4 I区
246	打製石鏃	黒曜石	2.5	1.0	0.3	0.79	J-4	279	打製石斧	頁 岩	5.8	4.4	1.2	39.79	J-4 IV区 I層
247	打製石鏃	黒曜石	1.1	1.1	0.2	0.28	J-4 I区	280	打製石斧	頁 岩	4.3	4.3	1.4	29.59	J-4 I区
248	打製石鏃	ガラス質 黒色安山岩	1.5	1.8	0.2	0.74	J-4 II区 I層	281	打製石斧	頁 岩	5.2	4.6	1.1	31.26	J-4 IV区
249	打製石鏃	ガラス質 黒色安山岩	1.5	1.5	0.3	0.64	J-4 I区	282	打製石斧	頁 岩	7.7	2.9	0.8	23.56	J-4 IV区
250	打製石鏃	硬質頁岩	1.5	1.6	0.5	1.21	J-4 I区	283	打製石斧	頁 岩	11.7	5.3	1.8	132.52	J-4 III区
251	石鏃 未完成品	チャート	1.7	1.2	0.3	0.69	J-4 I区	284	磨製石斧	蛇紋岩	7.4	4.5	1.6	82.53	J-4 IV区
252	石鏃 未完成品	ガラス質 黒色安山岩	1.7	1.5	0.3	0.85	J-4 II区	285	磨製石斧	閃緑岩	10.0	3.6	2.3	141.27	J-4 Na4
253	石鏃 未完成品	ガラス質 黒色安山岩	2.5	1.7	0.4	2.04	J-4 II区	286	磨製石斧	閃緑岩	7.3	4.6	3.0	202.20	J-4 II区
254	石鏃 未完成品	黒曜石	1.7	1.5	0.4	1.18	J-4 II区 I層	287	磨製石斧	閃緑岩	5.3	3.0	1.4	38.06	J-4 III区
255	ビエス・ エスキュー	黒曜石	2.7	2.0	1.0	4.77	J-4 I区	288	磨製石斧	閃緑岩	6.2	4.6	4.2	105.48	J-4 I区
256	ビエス・ エスキュー	黒曜石	3.0	1.8	0.7	4.56	J-4 II区	289	磨 石	安山岩	11.8	7.8	4.0	591.0	J-4
257	ビエス・ エスキュー	黒曜石	2.9	1.8	1.1	4.88	J-4 IV区	290	磨 石	安山岩	13.2	7.8	4.1	657.7	J-4 Na38
258	ビエス・ エスキュー	チャート	2.8	2.0	0.7	3.66	J-4 IV区	291	磨 石	安山岩	13.3	6.1	4.7	601.3	J-4 Na11
259	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.3	1.7	0.4	2.16	J-4 I区	292	磨 石	安山岩	12.3	6.9	4.1	534.7	J-4 Na39
260	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.9	2.1	0.8	5.20	J-4	293	磨 石	安山岩	9.3	6.1	3.4	279.4	J-4 IV区
261	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.7	2.3	0.7	4.89	J-4 II区	294	磨 石	安山岩	9.4	9.4	6.6	775.2	J-4 Na13
262	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	3.0	2.6	0.6	6.20	J-4 II区	295	磨 石	頁 岩	12.3	6.6	4.3	573.5	J-4 Na27
263	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.9	2.6	0.8	8.35	J-4 II区	296	磨 石	安山岩	15.6	13.0	11.0	3,250.0	J-4 Na37
264	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.6	2.4	0.7	5.07	J-4 II区	297	石 皿	軽 石	10.4	7.0	4.3	138.46	J-4 IV区
265	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	4.3	4.7	1.7	31.84	J-4 IV区	298	石 皿	軽 石	9.1	8.7	5.4	176.01	J-4 II区
266	ビエス・ エスキュー	硬質頁岩	2.3	3.3	0.9	8.54	J-4 I区	299	敲 石	チャート	4.5	2.7	2.1	37.89	J-4 IV区
267	石 匙	ガラス質 黒色安山岩	5.6	3.6	0.5	12.52	J-4 III区 溝	300	軽石球	軽 石	4.6	4.5	3.2	44.97	J-4 III区 I層
268	スクレイバ ー	ガラス質 黒色安山岩	5.2	3.8	0.7	11.55	J-4 I区	301	軽石球	軽 石	5.8	4.2	2.6	66.17	J-4 III区 I層
269	スクレイバ ー	ガラス質 黒色安山岩	3.5	3.0	0.9	9.85	J-4 II区	302	軽石球	軽 石	5.4	4.5	1.9	22.58	J-4 I区
270	スクレイバ ー	ガラス質 黒色安山岩	4.9	4.0	1.2	19.09	J-4 II区	303	軽石球	軽 石	5.1	5.7	3.4	56.18	J-4 III区 I層
271	スクレイバ ー	ガラス質 黒色安山岩	6.9	3.5	1.1	28.72	J-4 I区	304	棒状石製品	軽 石	12.7	4.3	3.7	89.01	J-4 IV区
272	石 核	黒曜石	1.9	4.0	2.0	14.20	J-4 II区	305	棒状石製品	緑泥片岩	14.8	5.5	4.5	693.2	J-4 Na10
273	石 核	黒曜石	2.2	5.1	1.8	15.20	J-4 II区	306	棒状石製品	緑泥片岩	17.9	5.4	5.4	897.7	J-4 Na3

(単位cm, g)

第11表 J-4号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に横位隆帯に沿って2列の円形刺突を連続施文。胴部には縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 IV区 I層	後期初頭 称名寺式
2	深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に隆帯。胴部縄文LRと沈線。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 II区	後期初頭 称名寺式
3	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	褐色 7.5YR 6/6	J-4 III区 I層	後期初頭 称名寺式
4	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	浅黄褐色 10YR 8/3	J-4 II区 I層	後期初頭 称名寺式
5	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	不明。	赤色岩片 白色粒子 角閃石	灰褐色白色 7.5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-4 II区	後期初頭 称名寺式
6	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文RL。縄文上に円形刺突。	ナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 7/4	灰褐色 7.5YR 6/2	J-4 III区 I層	後期初頭 称名寺式
7	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に半截竹管状工具による連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-4 III区	後期初頭 称名寺式
8	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 II区	後期初頭 称名寺式
9	深鉢	胴部	— — —	ランダムな刺突文。	ナデ。	石英子 白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	浅黄褐色 10YR 8/3	J-4 II区	後期初頭 称名寺式
10	深鉢	胴部	— — —	J字状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-4 III区	後期初頭 称名寺式
11	深鉢	口縁部	— — —	円孔を有する突起に外面3か所、内面2か所の円形刺突。端部に沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
12	深鉢	口縁部	— — —	肥厚する口縁部に連続する円形刺突。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 7.5YR 2/2	にぶい黄褐色 7.5YR 7/3	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内1式
13	深鉢	胴部	— — —	沈線による文様。外面丁寧に磨く。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
14	深鉢	胴部	— — —	貼付隆帯。鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	褐色 5YR 6/6	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
15	深鉢	胴部	— — —	貼付の円形突起と沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	浅黄褐色 10YR 8/3	浅黄褐色 10YR 8/3	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
16	深鉢	胴部	— — —	貼付の円形突起と隆帯。鉢形。	ヨコ方向の擦痕状のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	灰白色 10YR 7/1	J-4 I区	赤色塗彩 後期前葉 堀之内1式
17	深鉢	胴部	— — —	貼付の円形突起と隆帯。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 7/6	灰白色 10YR 7/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
18	深鉢	胴部	— — —	胴上部は横、その下はJ字状の沈線。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
19	深鉢	胴部	— — —	斜行隆帯下に縄文LR。その後、隆帯下を沈線でなぞる。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式

第12表 J-4号住居址出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	浅鉢	口縁部	— — —	蛇行沈線を持つ突起下に円形刺突と円孔を各2個持つ。口縁端は沈線。胴部は垂下する隆帯。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/4	にぶい黄橙色 10YR 7/2	J-4 No29	後期前葉 堀之内1式
21	浅鉢	口縁部	— — —	蛇行沈線を持つ突起下に円形刺突と円孔。口縁部は沈線。胴部は垂下する隆帯。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
22	深鉢	口縁部	— — —	円形刺突を持つ小突起。端部内外面に沈線。小突起から刺突を持つ隆帯垂下。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい黄橙色 10YR 7/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
23	深鉢	口縁部	— — —	2個一対の円形刺突を持つ小突起。端部内外面に縦区画と横引きの沈線。小突起から刺突を持つ隆帯垂下。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい黄橙色 10YR 7/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
24	深鉢	口縁部	— — —	3条の縦位沈線を持つ小突起の左右に円形刺突と1条の横引きの沈線。胴部上位に突起。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 5YR 4/2	J-4 No1	後期前葉 堀之内1式
25	深鉢	口縁部	— — —	口縁部小突起下に2条の縦位沈線と円形刺突、円孔。端部に横引きの沈線。突起下から刻みを持つ隆帯垂下。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰黄褐色 10YR 5/2	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内1式
26	深鉢	口縁部	— — —	円形刺突、円孔と沈線を持つ突起から端部に横沈線。突起下から刺突を持つ隆帯垂下。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内1式
27	深鉢	口縁部	— — —	端部に2~3条の縦位沈線と横引きの沈線、円形刺突。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
28	深鉢	口縁部の突起	— — —	内外面に円形刺突と弧状の沈線、円孔。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	にぶい黄橙色 10YR 7/4	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
29	深鉢	口縁部 ~ 胴部	— — —	半円沈線と円形刺突を持つ小突起から端部は横引きの沈線、突起下から胴部文様まではチェーン状の隆帯。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
30	深鉢	口縁部	— — —	端部は周囲が隆起する円形刺突と横引きの沈線。円形刺突から2本の粘土紐を撚り合わせた隆帯垂下。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
31	深鉢	口縁部	— — —	小突起下から円形刺突、そこから横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 7/7	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
32	深鉢	口縁部	— — —	小突起下に円形刺突、そこから横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	赤色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	浅黄橙色 7.5YR 8/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
33	深鉢	口縁部	— — —	小突起下に2個の円形刺突。そこから、横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 10YR 8/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
34	深鉢	口縁部	— — —	小突起下に2個の円形刺突。そこから、横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 6/1	浅黄橙色 10YR 8/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
35	深鉢	口縁部	— — —	小突起下に円孔、そこから横引きの沈線。沈線下は連続の刻み。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰白色 10YR 7/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
36	深鉢	口縁部	— — —	小突起下に円孔。円孔上に沈線と刺突。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
37	深鉢	口縁部 ~ 胴部	— — —	小突起下に円孔と円形刺突。そこから横引きの沈線。胴部上位横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
38	深鉢	口縁部	— — —	小突起下は弧状の沈線と円形刺突。そこから横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式

第13表 J-4号住居址出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
39	深鉢	口縁部	— — —	小突起下に弧状の沈線。そこから横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	褐色 10YR 6/1	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
40	深鉢	口縁部	— — —	小突起下に弧状の沈線と円形刺突。そこから横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 5/1	褐色 7.5YR 5/1	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
41	深鉢	口縁部	— — —	端部に横引きの沈線2条。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 5YR 5/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
42	深鉢	口縁部	— — —	小突起あり。端部に楕円区画の沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	赤色・白色 粒子	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
43	深鉢	口縁部	— — —	端部に弧状の沈線と円形刺突。そこから横引きの沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
44	深鉢	口縁部	— — —	刻みのある隆帯が垂下。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	浅黄褐色 10YR 8/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
45	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	刻みのある隆帯が垂下。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区 I区	後期前葉 堀之内1式
46	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	胴上位の横引き沈線上に刻みを持つ隆帯と刺突を持つ突起。鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石 黒雲母	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
47	深鉢	口縁部	— — —	刻みのある隆帯が垂下。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	暗赤褐色 2.5YR 3/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
48	深鉢	胴部	— — —	2条の横引き沈線上に2個一対の円形刺突を均等に配す。以下は縄文LR上に斜行沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
49	深鉢	胴部	— — —	胴上位は2条の横引き沈線と刺突。以下は斜行沈線と渦巻き状沈線で区画し、縄文LR充填。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	浅黄褐色 10YR 8/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
50	深鉢	胴部	— — —	斜行と渦巻き状の沈線間に縄文LR充填。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
51	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状沈線間に縄文LR。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黄灰色 2.5Y 4/1	灰白色 2.5Y 8/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
52	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行する沈線間に縄文LRを充填し文様構成。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/1	灰白色 5YR 8/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
53	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行する沈線間に縄文LRを充填し文様構成。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
54	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行する沈線間に縄文LRを充填し文様構成。鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
55	深鉢	胴部	— — —	4条以上の横引き沈線下を斜行する沈線で文様構成。縄文RL。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 5YR 8/2	にぶい橙色 5YR 7/3	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
56	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線間に縄文RLを施す。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式

第14表 J-4号住居址出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
57	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行沈線区画間に縄文RL充填。 鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
58	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と横行沈線区画外に縄文LR充填。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 7/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
59	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画外に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向の丁 穿なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	赤灰色 2.5YR 5/1	J-4 II区 IV層	後期前葉 堀之内1式
60	深鉢	胴部	— — —	横引き・斜行・弧状沈線と円形押圧による 文様区画外に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	灰白色 10YR 7/1	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内1式
61	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に斜行沈線。一部磨消し。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 7.5YR 8/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
62	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の上に縄文RL。鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
63	深鉢	胴部	— — —	逆三角状と縦走沈線区画内に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 2.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
64	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行沈線外に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
65	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状沈線内に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
66	深鉢	胴部	— — —	縦走・渦巻き状沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 10YR 5/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
67	深鉢	胴部	— — —	3条の横引き沈線と斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	砂粒多	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
68	深鉢	胴部	— — —	縦走沈線間に縄文LR。鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石 黒雲母	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
69	深鉢	胴部	— — —	重三角状沈線区画内に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 III区	後期前葉 堀之内1式
70	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線を組み合わせた文様区画内に縄文 LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	灰黄褐色 10YR 5/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
71	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	黒褐色 10YR 3/1	灰黄褐色 10YR 5/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
72	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	灰褐色 5YR 5/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
73	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
74	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
75	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	褐灰色 10YR 6/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式

第15表 J-4号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器・種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
76	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	橙色 2.5YR 6/6	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
77	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 No76	後期前葉 堀之内1式
78	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
79	深鉢	胴部	— — —	縦位直線と細かな環状沈線間に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	にぶい橙色 5YR 6/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
80	深鉢	胴部	— — —	刺突を持つ垂下隆帯両わきに沈線をなぞ る。その後、縄文LR。 鉢形。	不明。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	褐灰色 7.5YR 6/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
81	深鉢	胴部	— — —	環状沈線内に垂下する蛇行沈線と縄文L R。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 5YR 2/1	灰白色 10YR 7/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
82	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 7/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式
83	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	にぶい黄褐色 10YR 6/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内2式
84	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と縦位連続刺突間に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 2.5YR 6/4	橙色 2.5YR 6/6	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内2式
85	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線と連続刺突の後、縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
86	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線と押圧痕を持つ垂下隆帯間に縄文 LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内2式
87	深鉢	胴部	— — —	押圧を持つ垂下隆帯両わきに多条の縦位沈 線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-4 IV区 No30	後期前葉 堀之内2式
88	深鉢	胴部	— — —	押圧を持つ垂下隆帯両わきに多条沈線。斜 行沈線施文の後縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 4/2	J-4 I区 No31	後期前葉 堀之内2式
89	深鉢	胴部	— — —	円形刺突を持つ環状隆帯わきに円形の連続 刺突、下に渦巻状沈線。その後、縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
90	深鉢	胴部	— — —	斜行する3条単位の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
91	深鉢	口縁 部	— — —	円形刺突の周囲に弧状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/6	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
92	深鉢	胴部	— — —	上位に横引きの沈線、以下斜行する多条沈 線。8字状の突起貼付。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	橙色 5YR 6/6	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
93	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線と矩形区画の沈線。円形刺突。 鉢形。	不明。	白色粒子 黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
94	深鉢	胴部	— — —	2個の円形刺突と横引きの2条の沈線。以 下斜行沈線。鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 7.5YR 5/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式

第16表 J-4号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
95	深 鉢	胴部	— — —	垂下する多条の沈線と矩形区画の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	明褐色 5YR 7/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
96	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 III区	後期前葉 堀之内1式
97	深 鉢	胴部	— — —	斜行沈線。 鉢形。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	褐色 10YR 5/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
98	深 鉢	胴部	— — —	斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
99	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状沈線の両側は斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 No.5	後期前葉 堀之内1式
100	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	褐色 7.5YR 4/1	J-4 III区	後期前葉 堀之内1式
101	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-4 No.7	後期前葉 堀之内1式
102	深 鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に円形の浅い刺突。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/3	褐色 5YR 6/6	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
103	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
104	深 鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部に1条の横引き沈線。胴部に2条の 横引き、以下多条の縦線沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
105	深 鉢	胴部	— — —	上位は2条の沈線、以下縦線の多条沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 6/4	J-4 II区	104と同一個体 後期前葉 堀之内2式
106	深 鉢	口縁 部	— — —	口縁部下に1条の横引き沈線。以下渦巻き 状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内2式
107	深 鉢	口縁 部	— — —	連続の刻み。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内2式
108	深 鉢	胴部	— — —	2条の沈線。以下斜行沈線。その後、縄文 R L。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内2式
109	深 鉢	胴部	— — —	T字状の貼付隆帯の交点に8字状突起貼 付。垂下隆帯を基点に重弧状の多条沈線。 空間に縄文R L充塞。鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	にぶい褐色 5YR 7/4	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内2式
110	深 鉢	胴部	— — —	上位の刻みを持つ隆帯上に突起。以下、渦 巻き状と多条の斜行沈線間に縄文R L。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
111	深 鉢	胴部	— — —	縄文L R上に横引き沈線下に多条の斜行沈 線。その後、縄文L R。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
112	深 鉢	胴部	— — —	上位に3条の沈線。以下多条の斜行沈線間 に縄文R L。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい赤褐色 5YR 5/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
113	深 鉢	胴部	— — —	上位に数条の横引き沈線。以下重弧状と多 条の斜行沈線間に縄文L R。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内2式

第17表 J-4号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
114	深鉢	胴部	— — —	上位に数条の横引き沈線。以下重弧状と斜行する沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-4 III区I 層IV層	後期前葉 堀之内2式
115	深鉢	胴部	— — —	上位の横引き沈線の上に刻み。以下重弧状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 5/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
116	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
117	深鉢	胴部	— — —	上位に2条の横引き沈線。以下多条の斜行沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
118	深鉢	胴部	— — —	上位に数条の横引き沈線。以下多条の重弧状と斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 7.5YR 5/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
119	深鉢	胴部	— — —	上位に2条の横引き沈線。以下円形刺突を支点に重弧状の沈線。 鉢形。	不明。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/3	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
120	深鉢	胴部	— — —	8字状の突起を中心に重弧状沈線。 鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式
121	深鉢	胴部	— — —	上位に8字状の突起を貼り付けた3条の沈線。以下、重弧状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
122	深鉢	胴部	— — —	上位に数条の沈線。以下重弧状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい褐色 5YR 6/3	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
123	深鉢	胴部	— — —	上位の横引き沈線間に刻み。以下多条の重弧状・斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
124	深鉢	胴部	— — —	上位に刻みを持つ横位隆帯。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 6/1	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内2式
125	深鉢	胴部	— — —	上位に刻みを持つ横位隆帯。以下斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式
126	深鉢	胴部	— — —	上位に刻みを持つ横位隆帯。 鉢形。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
127	深鉢	胴部	— — —	T字状の刻みを持つ隆帯の交点に8字状の突起。垂下隆帯両側に斜行する沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
128	深鉢	胴部	— — —	垂下する刻みを持つ隆帯に沿って垂下する沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
129	深鉢	胴部	— — —	8字状突起を中心に重弧状沈線。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式
130	深鉢	胴部	— — —	上位に刻みを持つ隆帯。以下斜行沈線の上に細文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 7.5YR 6/3	褐灰色 10YR 6/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
131	深鉢	胴部	— — —	上位の横引き沈線間に刺突。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 5YR 5/2	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
132	深鉢	胴部	— — —	上位に刻みを持つ隆帯。以下重弧状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい褐色 5YR 7/4	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式

第18表 J-4号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
133	深鉢	胴部	— — —	沈線間の刻みに8字状突起。矩形の沈線 区画内に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
134	深鉢	胴部	— — —	円形刺突を中心に重弧状の沈線。鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
135	深鉢	胴部	— — —	重弧状の沈線と連続の円形刺突。その後、 縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	赤黒色 2.5YR 2/1	灰褐色 5YR 4/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
136	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯下を沈線でなぞり、わ きに斜行沈線。その後、縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
137	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
138	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状沈線間に縄文LR。 鉢形。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
139	深鉢	胴部	— — —	重弧状と多条の縦位沈線上に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰褐色 7.5YR 5/2	J-4 III区 溝	後期前葉 堀之内2式
140	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行沈線。その後、縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内2式
141	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
142	深鉢	胴部	— — —	数条の横引き沈線下の多条の縦位沈線間に 無筋縄文。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	浅黄褐色 7.5YR 8/3	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内2式
143	深鉢	胴部	— — —	重弧状の沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	灰白色 2.5Y 8/2	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
144	深鉢	胴部	— — —	数条の横引き沈線下に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	灰白色 2.5Y 8/2	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
145	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ナデ。	赤色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
146	深鉢	胴部	— — —	縄文RLと斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子 白色粒子	灰白色 10YR 8/1	褐灰色 10YR 4/1	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
147	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線間に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
148	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	橙色 5YR 6/6	J-4 Na34	後期前葉 堀之内2式
149	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 I区 Na24	後期前葉 堀之内2式
150	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
151	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	にぶい褐色 5YR 6/4	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式

第19表 J-4号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
152	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 10YR 6/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
153	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線間に縄文LR。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰白色 10YR 8/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式
154	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に多条の斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
155	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に連続刺突。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子 白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
156	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線と連続刺突。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	褐灰色 5YR 5/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
157	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線と垂下する連続刺突の両わきに細 文RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
158	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線と垂下する連続刺突のわきに細文 RL。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい橙色 5YR 7/4	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
159	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯を軸に紡錘形の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
160	深鉢	胴部	— — —	上位に横引きの3条の沈線。以下斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 7.5YR 3/1	褐灰色 10YR 4/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
161	深鉢	胴部	— — —	多条の垂下沈線間に連続刺突。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-4 III区 1層	後期前葉 堀之内2式
162	深鉢	胴部	— — —	多条の垂下条沈線下部は重弧状をなす。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰白色 7.5YR 8/2	J-4 I層	後期前葉 堀之内2式
163	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線と渦巻き状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	橙色 5YR 7/6	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
164	深鉢	胴部	— — —	数条の横引き沈線下に重弧状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
165	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線に重弧状の沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
166	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線下に斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式
167	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線下に斜行沈線。 鉢形。	不明。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区 I区	後期前葉 堀之内2式
168	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線下に重弧状と斜行沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内2式
169	深鉢	胴部	— — —	重弧状沈線の組み合わせ。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-4 II区 1層	後期前葉 堀之内2式
170	深鉢	胴部	— — —	横引きと重弧状沈線。 鉢形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 5/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式

第20表 J-4号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
171	深鉢	胴部	— — —	多条の渦巻き状と斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
172	深鉢	胴部	— — —	多条の渦巻き状沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
173	深鉢	胴部	— — —	流水状の沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
174	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
175	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 5YR 6/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内2式
176	深鉢	胴部	— — —	多条の弧状沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
177	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
178	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
179	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-4 IV区 I層	後期前葉 堀之内2式
180	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
181	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 赤色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/6	J-4 I区	後期前葉 堀之内2式
182	深鉢	胴部	— — —	多条の重弧状沈線外に縄文RL。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-4 III区	後期前葉 堀之内2式
183	深鉢	胴部	— — —	重弧状の沈線間に縄文RL。 変形。	ヨコ方向のナ デ。	黒色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	灰白色 10YR 7/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内2式
184	深鉢	口縁 — 胴部	— — —	端部に1条の横引き沈線。以下渦巻き状・ 縦位沈線と連続刺突。空間に縄文LR充填。	ヨコ方向の丁 率なナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	褐色 5YR 6/6	J-4 III区 I層	後期前葉 堀之内1式
185	深鉢	胴部	— — —	端部に横引きの沈線。以下4条の縦位沈線 両わきに縄文RL。	ヨコ方向の丁 率なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
186	深鉢	口縁 部	— — —	小突起下に横引きの円形刺突。以下縦位・ 横位・斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰黄褐色 10YR 5/2	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
187	深鉢	口縁 部	— — —	斜行沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式
188	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部上位に1条の横引き沈線。以下渦巻 き状沈線施文の後、円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	褐灰色 10YR 6/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
189	深鉢	口縁 部	— — —	端部の沈線下に刻みを持つ隆帯。以下、垂 下する3条の沈線間に縦に並べた弧状の沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 6/1	J-4 III区	後期前葉 堀之内1式

第21表 J-4号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押 番 号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
190	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引きの沈線と連続の円形刺突。 菱形。	ヨコ方向の丁 率なナデ。	白色粒子	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 7/1	J-4 II区 1層	後期前葉 堀之内1式
191	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引き沈線と連続の円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
192	深鉢	口縁 部	— — —	逆T字状の隆帯の斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
193	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画間に縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	褐灰色 5YR 6/1	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
194	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に連続刺突と縦に並べた弧状の 沈線。その後、縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
195	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰赤色 2.5YR 4/2	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
196	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線と斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	明赤褐色 2.5YR 5/6	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
197	深鉢	胴部	— — —	環状隆帯周囲に環状沈線。以下、垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 10YR 7/1	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
198	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰赤色 2.5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/3	J-4 III区 1層	後期前葉 堀之内1式
199	深鉢	胴部	— — —	円形刺突を持つ垂下隆帯。下部で環状をな す。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	灰白色 10YR 8/2	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
200	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
201	浅鉢	口～ 体部	— — —	端部円形刺突から、楕円状・弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 No29	後期前葉 堀之内1式
202	深鉢	胴部	— — —	多状の斜行沈線。一部蛇行する。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 6/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
203	壺	口～ 胴部	— — —	端部に1条の沈線。以下Y字状の隆帯。	ヨコ方向の丁 率なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙 色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 I区 III層	後期前葉 堀之内1式
204	浅鉢	口～ 体部	— — —	端部円形刺突から、楕円状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 No29	後期前葉 堀之内1式
205	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁。端部は1条の沈線。頂部下円形 刺突から刻みを持つ隆帯。隆帯下に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄色 2.5Y 7/2	灰白色 2.5Y 8/1	J-4 I区	後期前葉 堀之内1式
206	深鉢	把手	— — —	円形刺突、円孔と弧状の沈線。	不定方向の丁 率なナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 2.5Y 8/2	J-4 III区	後期前葉 堀之内1式
207	粗製 深鉢	口～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 10YR 7/2	J-4 II区	後期初頭～前葉
208	粗製 深鉢	口～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	灰白色 10YR 7/1	J-4 I区	後期初頭～前葉

第22表 J-4号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
209	粗製 深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に隆帯穿孔あり。 穿孔あり。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 10YR 8/2	J-4 IV区	後期初頭~前葉
210	粗製 深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	浅黄褐色 10YR 8/3	J-4 II区 I層	後期初頭~前葉
211	粗製 深鉢	口~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 III区	後期初頭~前葉
212	粗製 深鉢	口~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-4 II区 I層	後期初頭~前葉
213	粗製 深鉢	胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰白色 10R 8/1	J-4 II区	後期初頭~前葉
214	粗製 深鉢	胴部	— — —	歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	灰白色 7.5YR 8/1	J-4 III区	後期初頭~前葉
215	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 III区	後期初頭~前葉
216	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-4 III区	後期初頭~前葉
217	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	J-4 II区 I層	後期初頭~前葉
218	深鉢	口縁 ~ 胴部	(37.6) — —	口縁部小突起下に円形刺突を巡る弧状沈線。両わきに円形刺突。さらに横引き沈線。下に刻みを持つ隆帯が垂下し、胴部の刺突・沈線を持つ突起に連結。その突起間に2条の横引き沈線。以下は周囲を沈線で囲った楕円状の刻みを持つ隆帯を正面に配し、両側は渦巻き・斜行沈線などの間に縄文R Lを充填。小突起内面に隆帯4個。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-4 I区 IV区	後期前葉 堀之内1~2式
219	深鉢	口縁部	(33.2) (31.4) (7.6)	口縁部3か所の小突起下に円形刺突と弧状沈線(一部内面にも施文)。その両わきに横引き沈線、下に正面は2条、他は1条の刻みを持つ垂下隆帯。胴部は3条の横引き沈線上6か所に8字状突起貼付。突起を起点に紡錘状の沈線。沈線間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	浅黄褐色 10YR 8/3	J-4 II区 III区 I層 No.9	後期前葉 堀之内1~2式
220	深鉢	口~ 胴部	— — —	口縁部から垂下する4条の刻みを持つ隆帯下に浅い円形押圧。これを2条の横引き沈線で連結。以下斜行沈線を組み合わせた後、間隙に縄文L R充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰褐色 7.5YR 5/2	J-4 I区 IV区	後期前葉 堀之内1~2式
221	深鉢	口縁部	— — —	口縁部小突起下の円孔2個を周回する沈線。その両わき円形押圧と横引き沈線。突起下から刻みを持つ垂下隆帯。小突起内面にも沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/6	灰褐色 5YR 6/2	J-4 II区 I層 No.1	後期前葉 堀之内1式
222	浅鉢	口縁部	— — —	液状口縁。頂部は粘土紐の組み合わせで一部円形刺突を持つ。頂部下に楕円形の穴。以下沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-4 II区	後期前葉 堀之内1式
223	深鉢	口縁部	(30.0) — —	口縁部小突起下に円孔・円形刺突・沈線。そこから横引き沈線と刻みを持つ垂下隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/2	灰黄褐色 10YR 4/2	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
224	深鉢	口縁 ~ 胴部	(17.2) — —	口縁部小突起下に弧状沈線。そこから円形刺突・横引き沈線。以下上段からV字状・矩形区画の隆帯。	ヨコ方向の丁 竈なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	黒褐色 5YR 2/1	J-4 III区 IV区	後期前葉 堀之内2式
225	深鉢	底部	— — 7.4	底部ナデ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 II区 I層	後期前葉 堀之内1式

第23表 J-4号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
226	深鉢	胴～ 底部	— — (10.0)	斜行と横位隆帯下をなぞる。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 2.5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-4 IV区 1層	後期前葉 堀之内2式
227	浅鉢	口縁 ～ 体部	(42.0) — —	小突起下は隆起し、渦巻き状の沈線。その わきに円形刺突と横引き沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-4 IV区 1層	後期前葉 堀之内1式
228	浅鉢	口縁 ～ 胴部	(30.0) — —	口縁部に橋状の把手から連絡する横位隆 帯。 胴部に縄文圧痕。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	灰赤色 2.5YR 5/2	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	J-4 IV区	後期前葉 堀之内1式
229	深鉢	胴～ 底部	— — (8.4)	底部に網代痕。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-4 III区 IV区 No27	後期前葉
230	浅鉢	口縁 ～ 体部	(23.0) — —	無文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-4 III区 No.9	後期前葉 堀之内1式
231	蓋	完形	● 2.0 8.4	中央に2個の刺突を持つ隆起。それぞれを 沈線で囲い、さらにその周囲を沈線で二重 に囲む。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-4 II区 1層	後期前葉 堀之内1式
232	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	(38.4) — —	無文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-4 No.5	後期前葉 堀之内1式
233	深鉢	口縁 ～ 胴部	(19.0) — —	口縁と胴部各1条の横位沈線間に幾何学的 沈線。帯状に縄文LR充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-4 II区 1層	後期前葉 堀之内2式
234	深鉢	口縁 ～ 胴部	(13.6) — —	口縁と胴部各1条の横位沈線間に幾何学的 沈線。帯状に縄文LR充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 2.5YR 5/2	褐灰色 10YR 4/1	J-4 II区 IV区	後期前葉 堀之内2式
235	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	小突起下に穿孔。横位沈線下に幾何学的沈 線。帯状に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	黒褐色 10YR 3/2	J-4 II区 IV区 1層	後期前葉 堀之内2式
236	浅鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位沈線下に幾何学的沈線。帯状に縄文LR R充填。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-4 IV区 1層	後期前葉 堀之内2式
237	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	幾何学的沈線。帯状に縄文LR充填。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-4 II区 1層	後期前葉 堀之内2式
238	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位沈線下に幾何学的沈線。帯状に縄文LR R充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 6/2	J-4 II区 III区	後期前葉 堀之内2式
239	深鉢	胴部	— — —	幾何学的沈線。帯状に縄文LR充填。	タテ方向のナ デ。	角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-4 IV区 1層	後期前葉 堀之内2式
240	浅鉢	口縁 ～ 胴部	17.2 11.2 6.0	口縁部と体部の間に3条一組の横位沈線。 2個の円形刺突あり。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-4 II区 1層 No15	後期前葉 堀之内2式

(5) J-5号住居址

住居址 第33・34図

本址はお-6グリッドに位置する敷石住居址である。他遺構とは重複しないが、北東側は最近の水路などに削られて旧状をとどめていないものと考えられる。

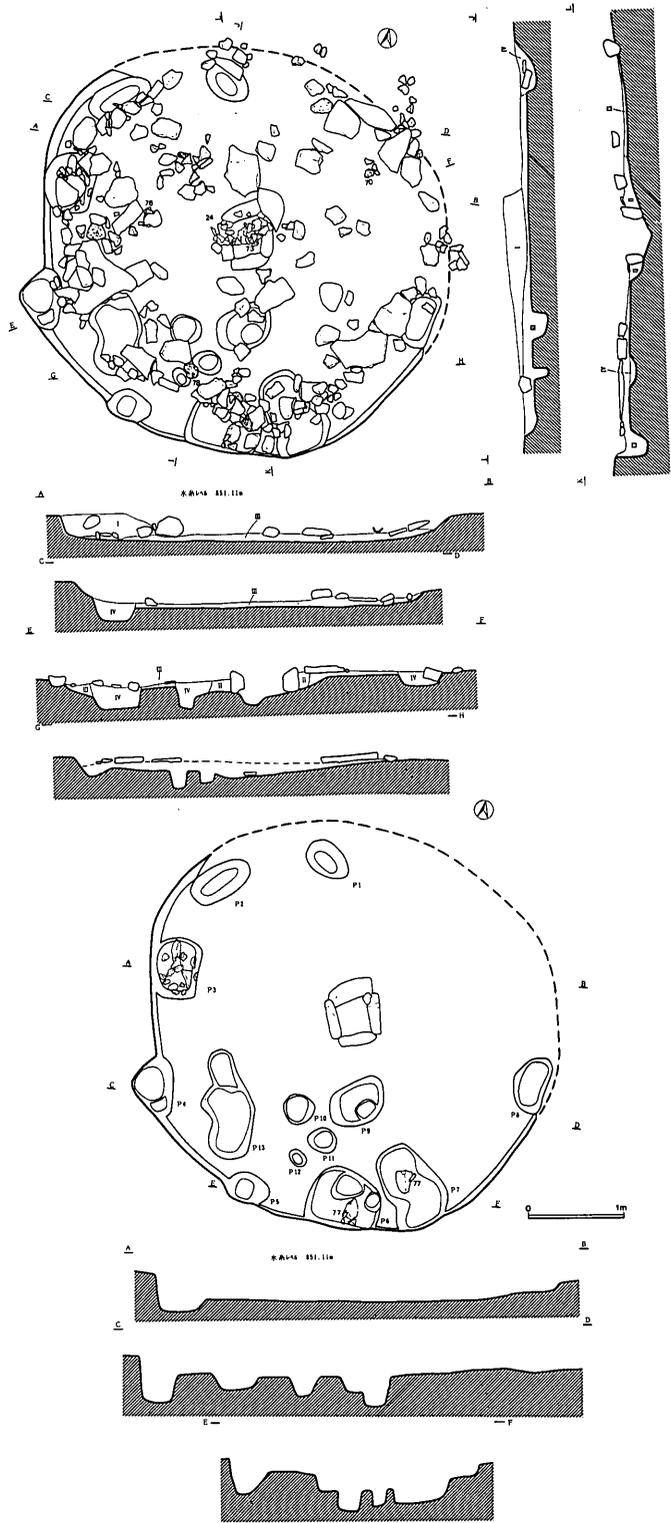
規模は推定で東西4.50m南北4.34m、床面積は14.37㎡で、形状は円形を呈するものと考えられる。

壁残高は削平されていない部分で30cm前後である。壁溝は検出されなかった。

床面は地山の粘土を黒色土に混ぜた土を一様に貼り、その上に、鉄平石を主体に、安山岩や軽石などを床面として敷いている。敷石は旧状をとどめない部分が多く、全体の配置状況は明らかでないが、住居中央の炉の周辺は薄く、壁下周辺部に厚く敷かれていたようである。

炉は住居中央部に石囲炉が設置されていた。直方体に加工した4枚の軽石を矩形に据え、周囲に黒色土（II層）をあててガッチリとした石囲炉を築いている。炉内は約35cm四方の広さがあり、よく焼けた火床面（VII層）には胴部以上を欠く縄文土器（71・72）を二重に埋設している。

ピットは13個が検出された。壁下に巡るP₁～P₅・P₈は柱穴、壁下に並ぶP₆・P₇はいわゆる対ピットと考えられる。ほとんどのピット上に敷石があるが、全面を覆われているわけではな



第33図 J-5号住居址 (1:80)

いので、敷石使用時にピットが機能していたことも想定される。

覆土は、おおむね黒褐色土のみが確認された。

遺物 第35～37図

覆土中・床面上下・ピット内・炉内から縄文土器・石器が出土した。

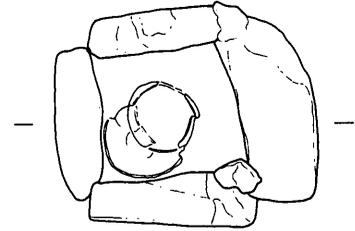
このうち、縄文土器は中期～後期にかけて数時期にまたがる型式がみられるが、床下からは堀之内1式新段階～2式の注口土器75が出土しているため、住居址の帰属時期に最も近いと考えられる堀之内1～2式を中心に記載を行う。

鉢形の深鉢は1・3・69で口縁端部の横引き沈線が巡る3と、巡らない1・69がある。朝顔形深鉢は2・4～22・71・73で口縁端部に沈線の巡るものはみられない。また、沈線区画して縄文を充填するものが多い。粗製深鉢には縄文だけ施文した70があり、底部には木葉痕がつけられている。炉に埋設されていた71・72の深鉢は胴部以上を欠損しており、文様構成をうかがえない。また、注口土器には75・23・24がある。

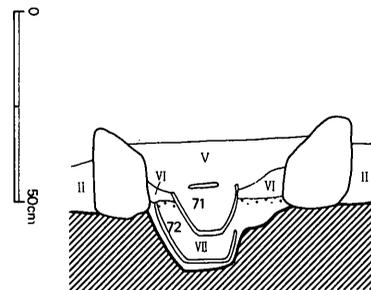
このほか、縄文中期後葉～後期初頭25～44、後期前葉堀之内1式土器45～68なども出土している。石器は緑泥片岩製の石棒とも考えられる棒状の石製品77と安山岩製の多凹石78が出土している。

時期

以上の遺構・遺物の様相から、本址は縄文時代後期前葉堀之内1式新段階～2式古段階に帰属する住居と考えられる。

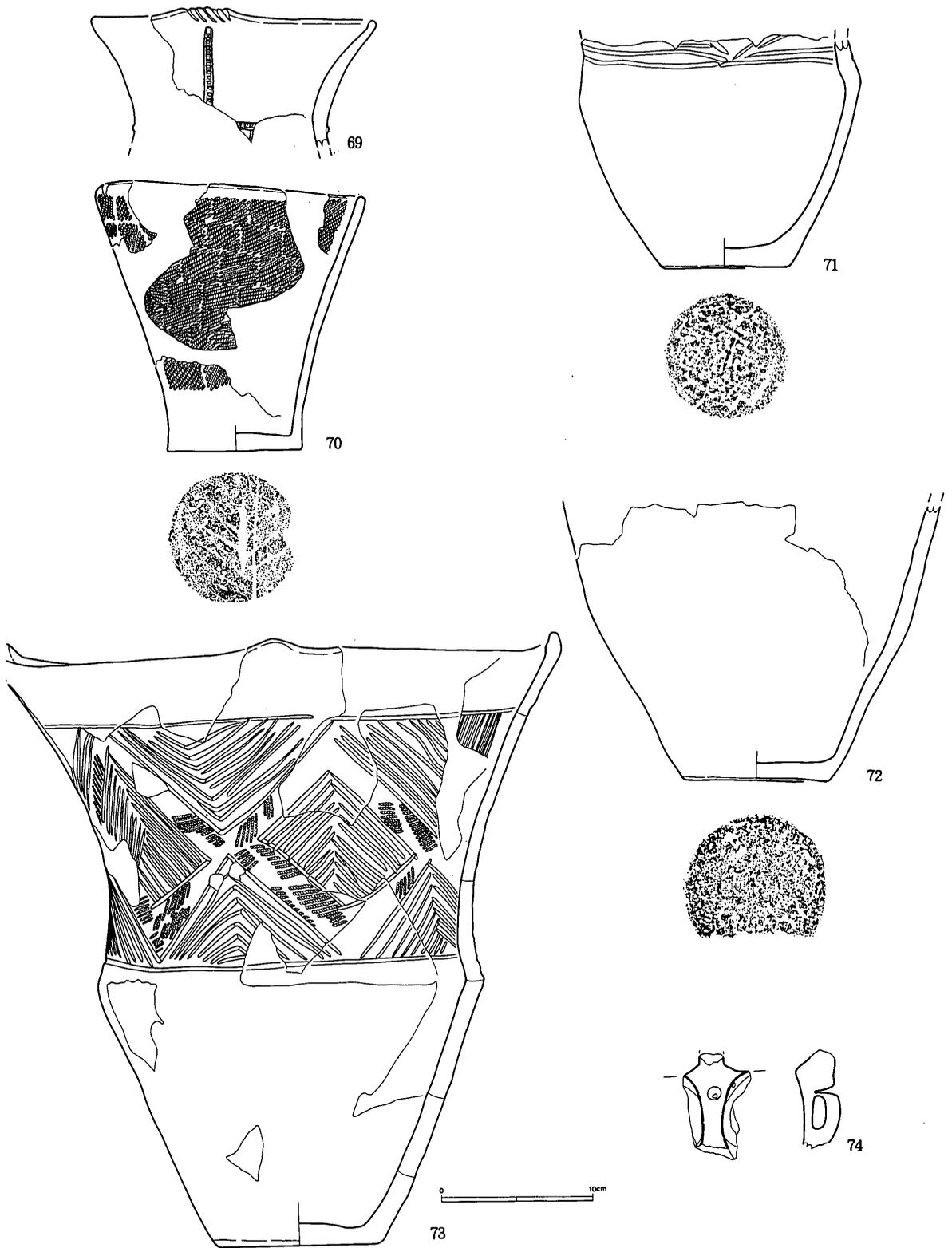


水系レベル 851.11m

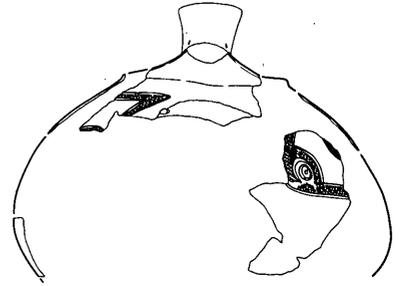
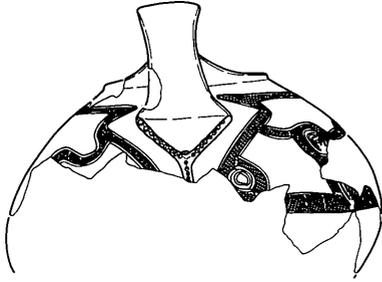
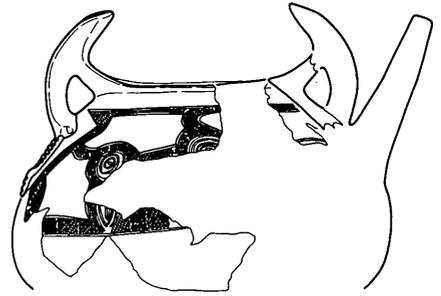
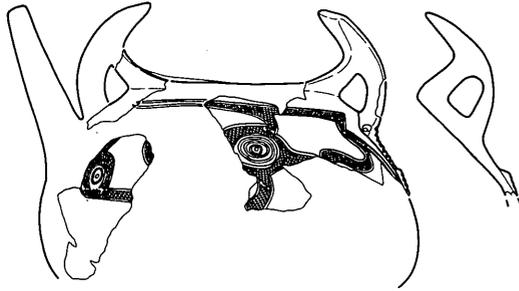


- J-5号住居土層説明
- I 層 黒褐色土 (5 Y R 3 / 1)
大粒のパミスと礫を含む。
 - II 層 黒色土 (10 Y R 1, 7 / 1)
パミスを少量含む。- 炉石の埋め土
 - III 層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)
地山の粘土、砂礫、パミスを良く含む。- 貼り床
 - IV 層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)
パミスを良く含む。- ピット覆土。
 - V 層 黒褐色土
黒い灰が混じり、焼土・パミスを含む。
 - VI 層 黒褐色土 (10 Y R 3 / 2)
粘性あり、焼土・パミスを含む。 } 炉覆土
 - VII 層 灰黄褐色土 (10 Y R 4 / 2)
粘性あり。上面は焼け込む。- 炉の火床

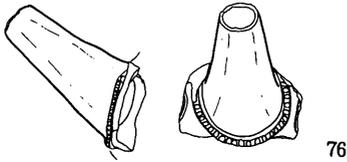
第34図 J-5号住居址の炉 (1:20)



第35图 J-5号住居址出土土器(1:4)



75

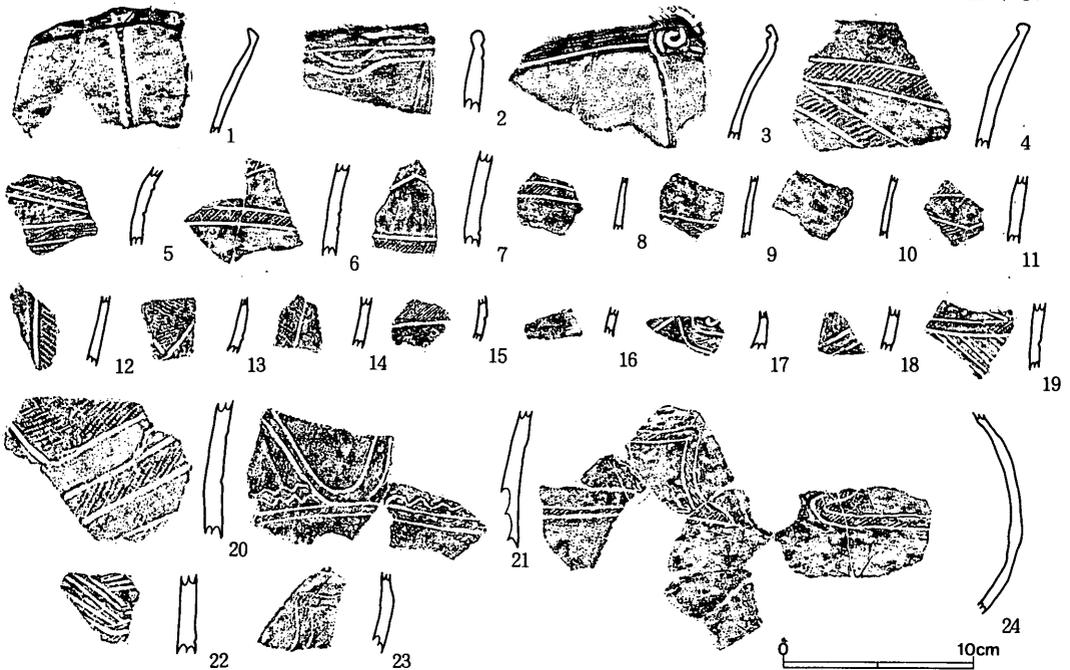


76

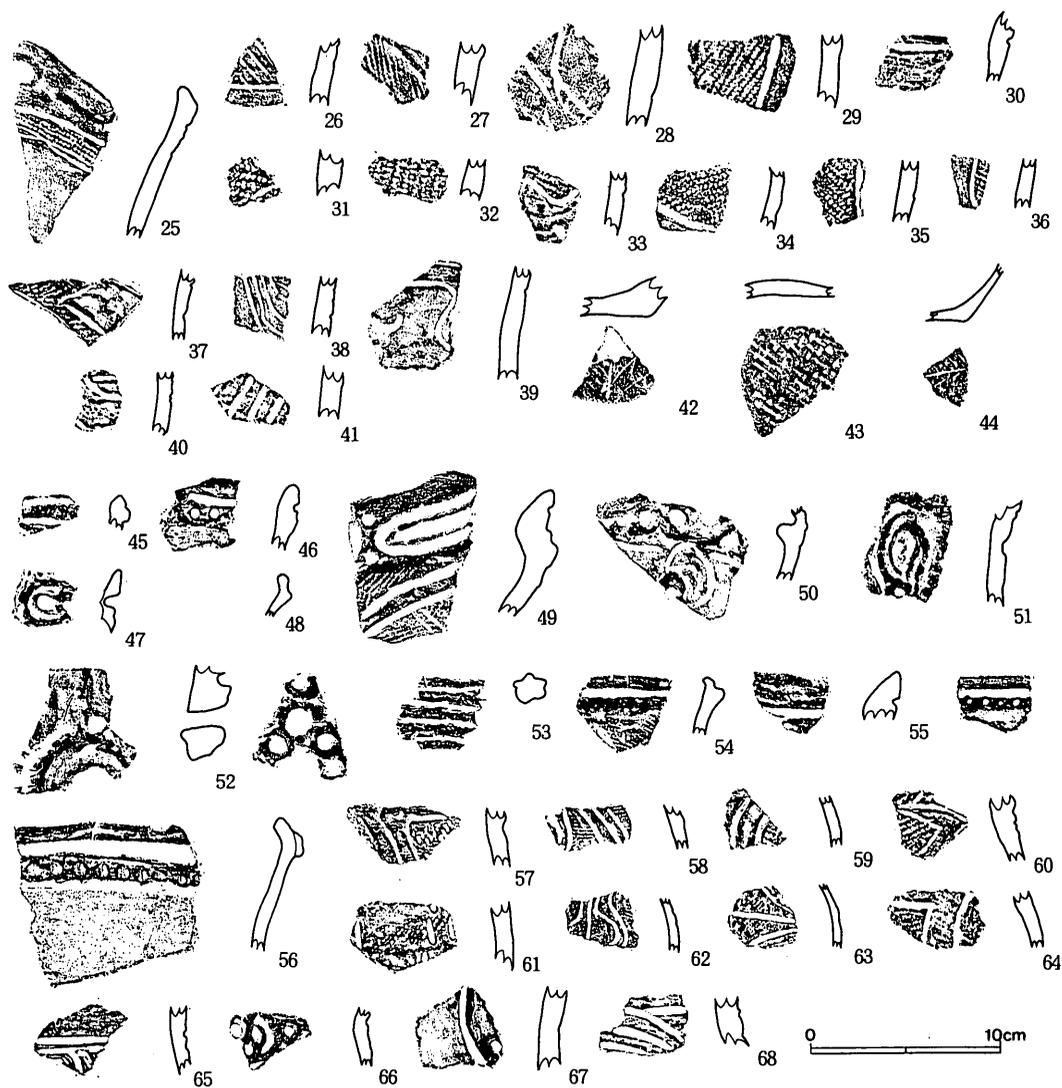
第24表 J-5号住居址出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
77	棒状石製品	緑泥片岩	10.8	3.0	3.0	149.09	J-5 No.6 No.7
78	多凹石	安山岩	16.2	12.1	12.1	2.456	J-5 No.5

(単位cm, g)



第36図 J-5号住居址出土土器 (1:4)

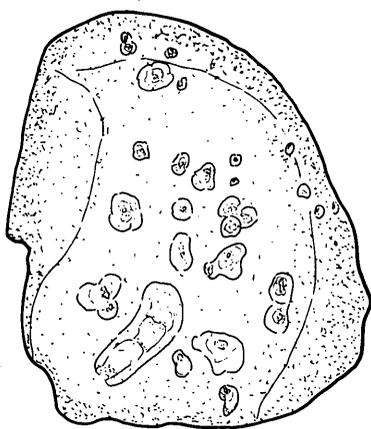


第37图 J-5号住居址出土土器(1:4)



77
0 5cm

第38图 J-5号住居址出土土器(77は1:3, 78は1:4)



0 10cm

78

第25表 J-5号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押印 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	口縁部	— — —	内折する口縁端部は押圧により波状を呈する。刻みを持つ隆帯が垂下。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 4/1	明褐灰色 7.5YR 4/1	J-5 II区 III区レキ	後期前葉 堀之内2式
2	深鉢	口縁部	— — —	一部曲線となる横引き沈線と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内2式
3	深鉢	口縁部	— — —	端部小突起下に渦巻き状の沈線。そこから横引き沈線と垂下隆帯。 鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	褐灰色 10YR 6/1	J-5	後期前葉 堀之内2式
4	深鉢	口縁 - 胴部	— — —	斜行沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-5 床下	後期前葉 堀之内2式
5	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 5YR 5/1	褐灰色 5YR 5/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内2式
6	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	タテ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰褐色 5YR 6/2	J-5 付近	後期前葉 堀之内2式
7	深鉢	胴部	— — —	横引き、斜行沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	タテ方向の丁寧なナデ。	角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰白色 10YR 8/1	J-5 付近	後期前葉 堀之内2式
8	深鉢	胴部	— — —	横位沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-5 床下	後期前葉 堀之内2式
9	深鉢	胴部	— — —	横引き・斜行する沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	灰白色 10YR 7/1	J-5	後期前葉 堀之内2式
10	深鉢	胴部	— — —	無文部分。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	褐灰色 5YR 5/1	J-5 床下	後期前葉 堀之内2式
11	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-5 IV区レキ	後期前葉 堀之内2式
12	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画内に細文RL。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 7/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内2式
13	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に細文RL。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	褐灰色 7.5YR 5/1	J-5 IV区レキ	後期前葉 堀之内2式
14	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に細文RL。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-5 炉	後期前葉 堀之内2式
15	深鉢	胴部	— — —	横位沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-5	後期前葉 堀之内2式
16	深鉢	胴部	— — —	無文部分。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 6/1	J-5 床下	後期前葉 堀之内2式
17	深鉢	胴部	— — —	幾何学的沈線区画内に細文LR。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	黒褐色 10YR 3/1	J-5	後期前葉 堀之内2式
18	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に細文。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	褐灰色 5YR 5/1	灰褐色 5YR 6/2	J-5 IV区レキ	後期前葉 堀之内2式
19	深鉢	胴部	— — —	横位沈線区画内に細文LR。以下多条の斜行沈線。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/1	J-5 付近	後期前葉 堀之内2式

第26表 J-5号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線で三角形に区画された帯内に縄文L R。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-5	後期前葉 堀之内2式
21	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線上に垂下する弧状の沈線と鋸歯状の沈線。 朝顔形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内2式
22	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。 朝顔形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 5/1	J-5	後期前葉 堀之内2式
23	注口 土器	胴部	— — —	幾何学的沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	褐灰色 7.5YR 6/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内2式
24	注口 土器	胴部	— — —	幾何学的沈線内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石、	褐灰色 10YR 6/1	褐灰色 10YR 6/1	J-5 Na 1	後期前葉 堀之内2式
25	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁。頂部下に円孔。横位沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	明褐色 5YR 7/2	J-5	中期後葉~後期初頭
26	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に斜行沈線充填。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-5	中期後葉~後期初頭
27	深鉢	胴部	— — —	微隆帯下に縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 5YR 7/2	明褐灰色 5YR 7/2	J-5	中期後葉~後期初頭
28	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	不定方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/2	J-5 I区レキ	中期後葉~後期初頭
29	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線の後縄文L R。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-5 II区レキ	中期後葉~後期初頭
30	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	淡橙色 5YR 8/3	淡橙色 5YR 8/3	J-5 付近	中期後葉~後期初頭
31	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-5 付近	中期後葉~後期初頭
32	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-5 II区レキ	中期後葉~後期初頭
33	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-5 III区レキ	中期後葉~後期初頭
34	深鉢	胴部	— — —	浅い沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 6/1	J-5 P ₁	中期後葉~後期初頭
35	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	褐灰色 10YR 4/1	J-5 III区レキ	中期後葉~後期初頭
36	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/1	灰白色 7.5YR 8/2	J-5 III区レキ	中期後葉~後期初頭
37	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-5 IV区レキ	中期後葉~後期初頭
38	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 10YR 6/1	J-5	中期後葉~後期初頭

第27表 J-5号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押印 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	きのこ状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-5 III区レキ	中期後葉~後期初頭
40	深鉢	胴部	— — —	楕円状区画の沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-5 III区レキ	中期後葉~後期初頭
41	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	褐色 10YR 6/1	J-5	中期後葉~後期初頭
42	深鉢	底部	— — —	木葉痕。	不明。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-5 I区レキ	中期後葉~後期初頭
43	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 10YR 7/1	J-5	中期後葉~後期初頭
44	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	褐色 5YR 4/1	J-5	中期後葉~後期初頭
45	深鉢	口縁部	— — —	ヨコ方向の2条の沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	浅黄褐色 7.5YR 8/3	J-5 IV区	後期前葉 堀之内1式
46	深鉢	口縁部	— — —	端部の突起下から横引きの沈線と円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐色 10YR 6/1	J-5 P。	後期前葉 堀之内1式
47	深鉢	突起	— — —	8字状突起。	—	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-5	後期前葉 堀之内1式
48	深鉢	口縁部	— — —	端部に横引きの沈線。その下に連続の刻み。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐色 10YR 6/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内1式
49	浅鉢	口縁 ~ 体部	— — —	端部は2個の円形刺突と楕円形の区画。以下斜行沈線間に縄文LR充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 5/1	灰白色 2.5Y 7/1	J-5 I区レキ	後期前葉 堀之内1式
50	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	突起下に8字状の突起。以下弧状と横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-5	後期前葉 堀之内1式
51	深鉢	口縁部	— — —	チェーン状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内1式
52	深鉢	把手	— — —	内面、円孔の周囲に3個の円形刺突。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/2	J-5	後期前葉 堀之内1式
53	深鉢	把手	— — —	粘土紐を5帯まとめた把手。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰赤色 2.5YR 4/2	赤灰色 2.5YR 6/1	J-5 II区レキ	後期前葉 堀之内1式
54	深鉢	口縁部	— — —	端部に横引きの沈線。斜行沈線の後縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内1式
55	深鉢	口縁部	— — —	端部に横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 4/1	灰白色 10YR 7/1	J-5	後期前葉 堀之内1式
56	深鉢	口縁部	— — —	端部に横引きの沈線。その下に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐色 7.5YR 6/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内1式
57	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-5 IV区	後期前葉 堀之内1式
58	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	灰褐色 5YR 6/2	J-5 付近	後期前葉 堀之内1式

第28表 J-5号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
59	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	明褐色 5YR 7/1	J-5	後期前葉 堀之内1式
60	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯下を沈線でなぞる。以下斜行沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 10YR 8/1	J-5	後期前葉 堀之内1式
61	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と縄文L R。縄文上に列点状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 7/4	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内1式
62	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文L R。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 5/1	明褐色 5YR 7/1	J-5 I区レキ	後期前葉 堀之内1式
63	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線上に縄文L R。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰赤色 2.5YR 5/2	赤灰色 2.5Y 5/1	J-5 I区レキ	後期前葉 堀之内1式
64	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰白色 5YR 8/2	J-5 Na1	後期前葉 堀之内1式
65	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線下は斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰白色 5YR 8/2	J-5 床下	後期前葉 堀之内1式
66	深鉢	胴部	— — —	8字状突起と円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰白色 10YR 8/2	淡黄褐色 10YR 8/3	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内1式
67	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線と円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-5 I区レキ	後期前葉 堀之内1式
68	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-5	後期前葉 堀之内1式
69	深鉢	口縁 ～ 胴部	(18.6) — —	刻みを持つ小突起から垂下する刻みを持つ隆帯。胴部上位にも同様の刻みを持つ隆帯。鉢形。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰褐色 7.5YR 5/1	J-5 III区レキ	後期前葉 堀之内2式
70	粗製 深鉢	口縁 ～ 底部	(17.6) (17.4) 9.0	縄文L R。 底部木葉痕。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	灰褐色 5YR 6/2	J-5 Na2 IV区レキ	後期前葉 堀之内2式
71	深鉢	胴～ 底部	— — 8.2	胴部上位に横位沈線。 底部網代痕。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 5YR 7/2	灰白色 10YR 8/2	J-5 炬Na1	後期前葉 堀之内2式
72	深鉢	胴～ 底部	— — 9.4	底部網代痕。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	明褐色 7.5YR 7/2	J-5 炬Na2	後期前葉 堀之内2式
73	深鉢	口縁 ～ 底部	36.8 39.6 10.8	口縁部に小突起。胴部上位～口縁部は外反、胴中位で張る。中位以上に文様。変形・三角区画の沈線内に斜行沈線充塞。区画外に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰赤色 2.5YR 5/2	赤灰色 2.5YR 5/1	J-5 I区レキ	後期前葉 堀之内2式
74	深鉢	胴部	— — —	橋状の把手に円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰白色 5YR 8/2	J-5 Na1	後期前葉 堀之内2式
75	注口 土器	口縁 ～ 胴部	(9.6) — —	幾何学的沈線区画内に縄文L R。橋状把手下に刻みを持つY字状隆帯垂下。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 2.5YR 6/4	にぶい橙色 2.5YR 6/4	J-5 床下 IV区	後期前葉 堀之内2式
76	注口 土器	注口 部	— — —	注口部周囲に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/1	褐色 7.5YR 4/1	J-5 Na3	後期前葉 堀之内2式

(6) J-6号住居址

住居址 第39図

本址はカー6グリッドに位置する。他遺構との重複はないが、北半分は調査区外にある。このため、全体形状は明らかでないが、壁下に巡る柱穴の配置から、円形かそれに近い形状が想定される。東西の長さは7.30mを計測し、大型住居であったと考えられる。

確認面の攪乱等が著しいため、壁の立ち上がりは明瞭でなく、前述の柱穴配置から、おおよその範囲を推定した。壁溝は検出されなかった。

床面は地山をそのまま利用する。また、現位置はとどめていないが、一辺50cm以内のさほど大きくない鉄平石や安山岩・軽石などが壁下に点在するため、敷石住居址であったことも考えられる。

炉は住居中央と考えられる場所に設置されていた。西に軽石の縁石を持つ、土器埋設炉である。埋められた粗製深鉢98は検出時には土圧のためか楕円形に歪んでいたが、復元すると口径39cm、器高46cmにもおよぶ大型品である。埋甕内の土層の堆積については、田んぼに水をかける時期の調査で出水が激しい状況にあったため観察できなかった。

ピットは5個が検出された。壁下を巡るP₁～P₄は柱穴と考えられ、26～45cmを測る。P₄の近くにあるP₅は浅い掘り込みである。

遺物 第40～44図

覆土中・床面上・ピット内から縄文土器片が出土した。

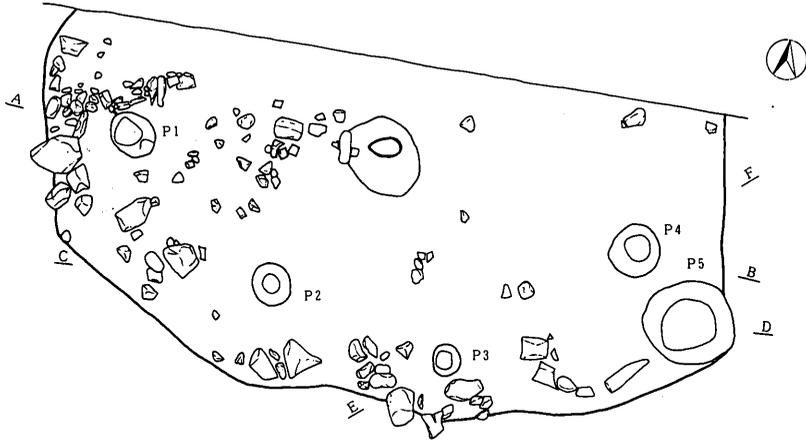
縄文土器の主体は後期前葉堀之内1式新段階～2式古段階、ほかに縄文中期中葉19・21、中期後葉20・22～26・30・31、後期初頭28・29・32～34、後期前葉堀之内1式35～69、後期前半の粗製深鉢70～91などがある。

堀之内1～2式の深鉢には鉢形の3・8～18・92と朝顔形の1・2・4～7・9～12がある。また、無文粗製深鉢は94・95・98など多く見られる。97は天井部に不整形の粘土貼り付け2個と沈線施文を行う蓋である。

石器とピエス・エスキュー99、石核100、磨石101、打製石斧102・103、棒状石製品104・105などがみられる。

時期

以上の遺構・遺物の様相から、本址は滝沢Ⅷ期縄文時代後期前葉堀之内1式新段階～2式古段階に帰属する住居と考えられる。



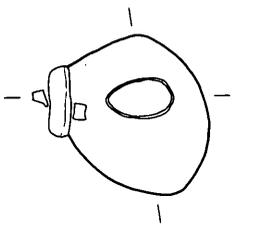
A 水系レベル 851.41m B



E 水系レベル 851.11m F



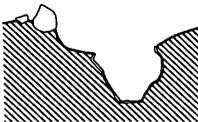
0 2m



J-6号住土層説明

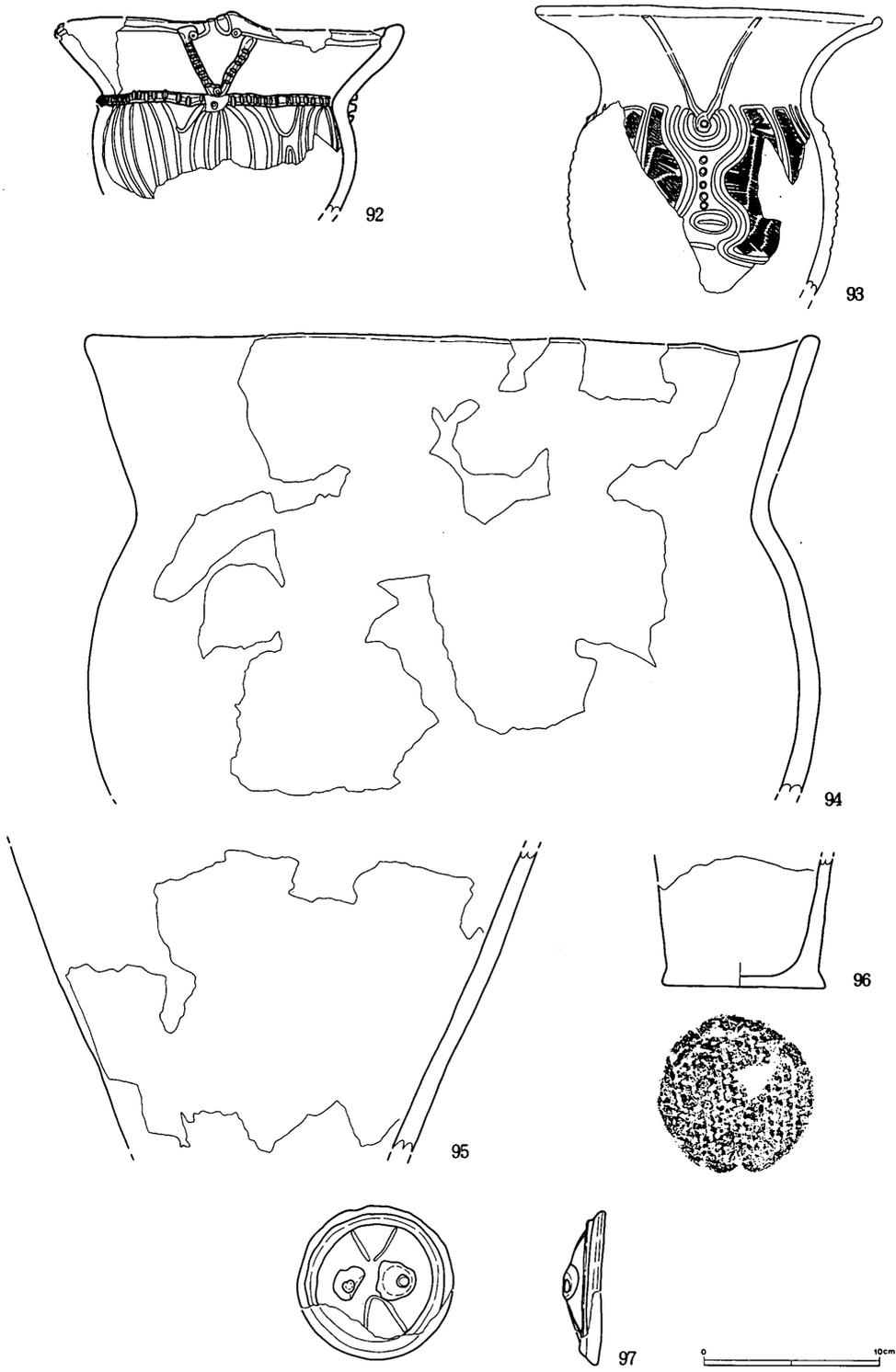
- I層 黒色土 (10YR2/1)
バミス・砂粒少量含む。
- II層 褐色土 (7.5YR4/4)
焼土層。きめ細かく砂質。
- III層 黒褐色土 (10YR2/2)
径20mm内外のバミスと炭化物を含む。

水系レベル 851.11m

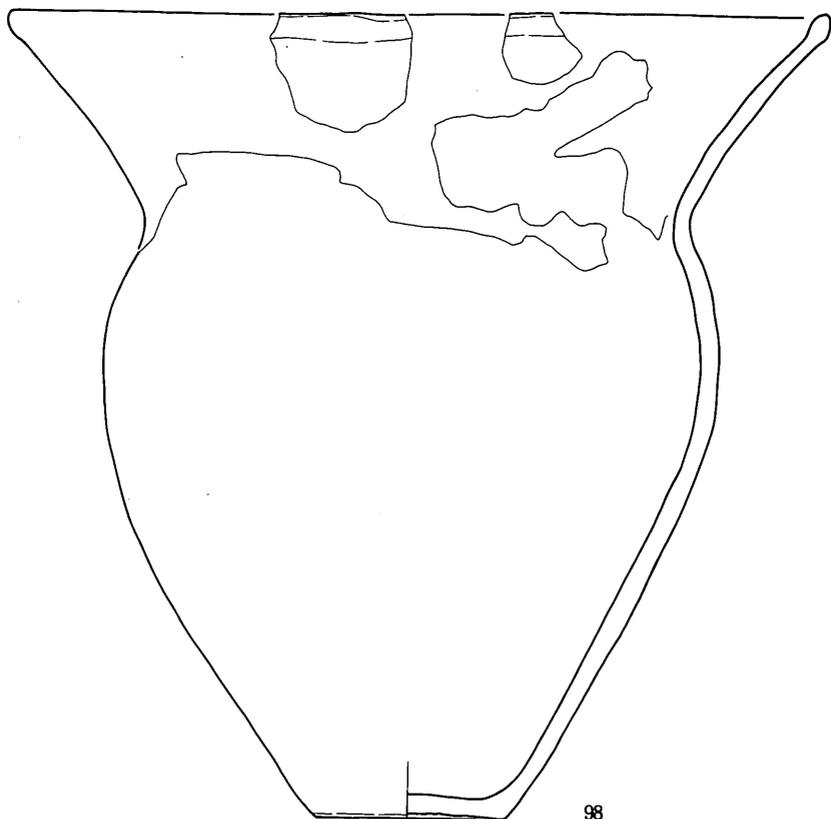


0 (1:40) 1m

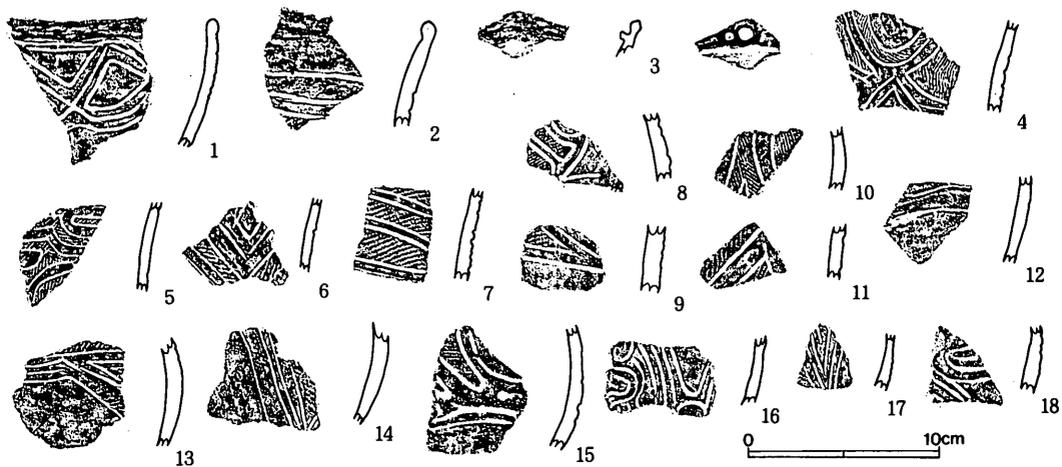
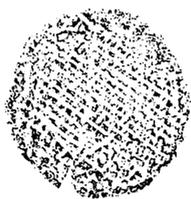
第39図 J-6号住居址 (1:80)



第40图 J-6号住居址出土土器 (1:4)



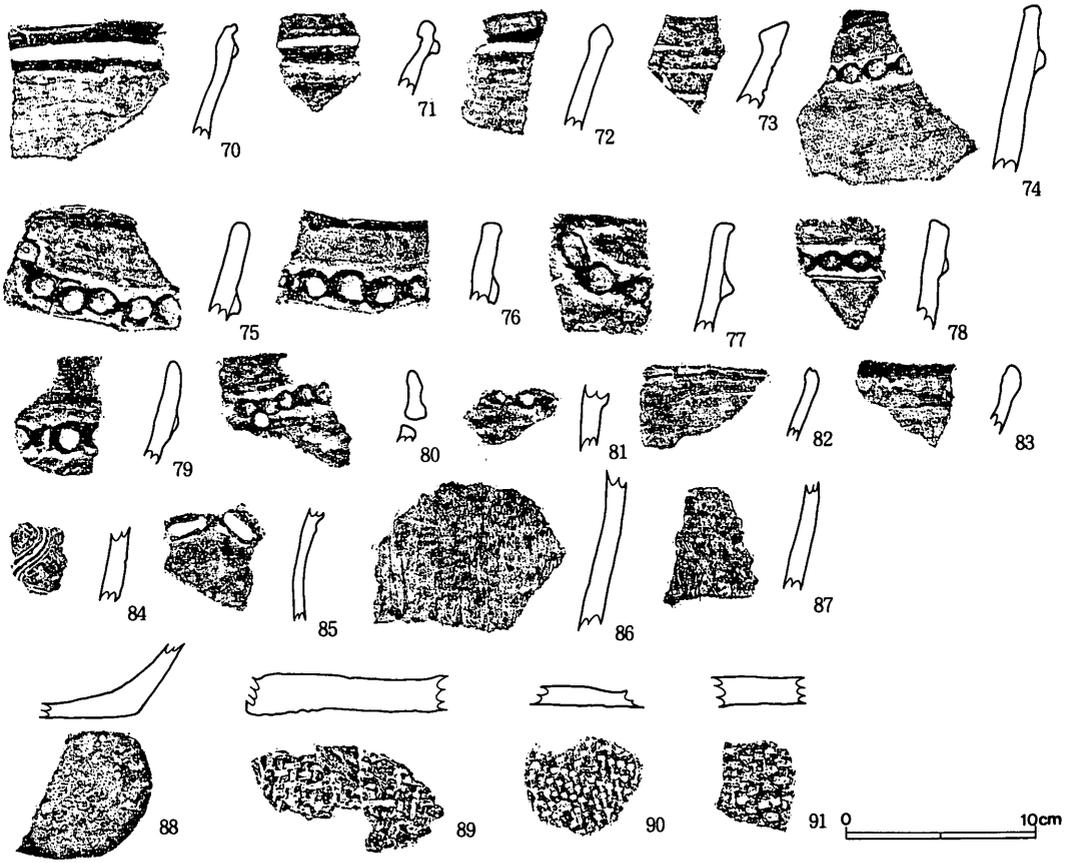
98



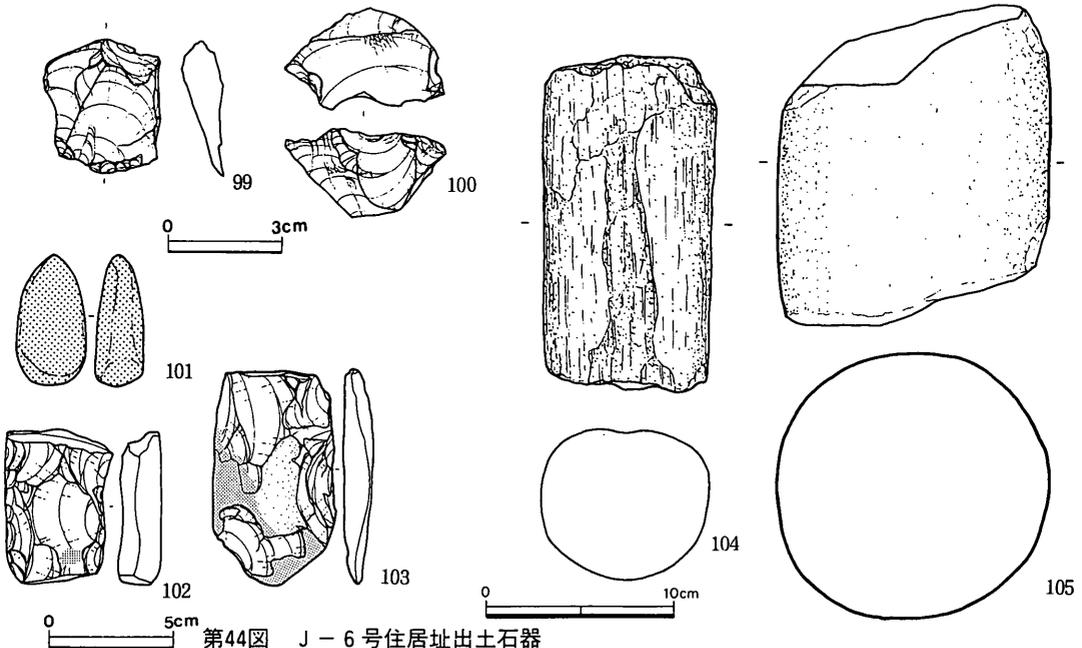
第41图 J-6号住居址出土土器 (1:4)



第42图 J-6号住居址出土土器(1:4)



第43図 J-6号住居址出土土器 (1:4)



第44図 J-6号住居址出土石器
 (99・100は1:2, 101~104は1:3, 105は1:4)

第29表 J-6号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	口縁部	— — —	斜行する沈線で重菱形状の文様を構成する。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
2	深鉢	口縁部	— — —	数条の横引き沈線下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
3	深鉢	口縁部	— — —	小突起内面に2個の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
4	深鉢	胴部	— — —	幾何学的沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	褐灰色 7.5YR 6/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
5	深鉢	胴部	— — —	幾何学的沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	褐灰色 7.5YR 4/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
6	深鉢	胴部	— — —	重菱形状の沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
7	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
8	深鉢	胴部	— — —	矩形区画沈線内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰白色 10YR 8/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
9	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-6	後期前葉 堀之内2式
10	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
11	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
12	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 6/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
13	注土器	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰赤色 2.5YR 6/2	にぶい橙色 5YR 7/4	J-6	後期前葉 堀之内2式
14	注土器	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 6/2	灰褐色 7.5YR 6/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
15	注土器	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 7.5YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
16	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
17	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内2式
18	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰褐色 7.5YR 5/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
19	深鉢	胴部	— — —	波状口縁。角押文。	ヨコ方向のナデ。	白色鉱物 黒雲母	にぶい橙色 5YR 6/4	褐灰色 5YR 5/1	J-6	中期中葉

第30表 J-6号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	垂下する波状沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-6	中期後葉
21	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯とそれに並走する沈線。	ナデ。	黒盤母 赤色粒子	褐灰色 5YR 4/1	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-6	中期中葉
22	深鉢	胴部	— — —	波状口縁。隆起帯下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰白色 10YR 7/1	J-6	中期後葉
23	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-6	中期後葉
24	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	沈線上に縄文LR。 底部に木葉痕。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 10YR 6/1	J-6	中期後葉
25	深鉢	胴部	— — —	楕円区画の隆帯内に斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-6	中期後葉
26	深鉢	胴部	— — —	縦走、斜行する沈線の組み合わせ。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 10YR 4/1	J-6	中期後葉
27	深鉢	胴部	— — —	横引き、斜行する沈線の組み合わせ。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-6	?
28	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期初頭
29	深鉢	胴部	— — —	二段重ねのJ字文上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期初頭
30	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 赤色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-6	中期後葉
31	深鉢	胴部	— — —	蛇行する沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 10YR 6/1	J-6	中期後葉
32	深鉢	胴部	— — —	2条の微隆帯面わきの縄文LR上に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期初頭
33	深鉢	胴部	— — —	多量の刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-6	後期初頭
34	深鉢	胴部	— — —	多量の刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	灰白色 7.5YR 8/2	J-6	後期初頭
35	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁端部に円形刺突。口縁～胴部にかけて円形刺突を持つ隆帯。	ヨコ方向の丁 率なナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	褐灰色 7.5YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
36	深鉢	口縁 部	— — —	端部に円形刺突と横引きの沈線。内面も縦沈線と円形押圧。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
37	深鉢	口縁 部	— — —	小突起下に円孔。そこから円形刺突して横引き沈線。端部下に刻み。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
38	深鉢	口縁 部	— — —	端部に楕円状区画内に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰黄褐色 10YR 6/2	J-6	後期前葉 堀之内1式

第31表 J-6号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押印 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
39	深鉢	口縁部	— — —	端部縦位と楕円状区画の沈線。2個の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	J-6	後期前葉 堀之内1式
40	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に沈線。 胴部に渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
41	深鉢	口縁部	— — —	小突起上に隆帯。端部下に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 7/3	J-6	後期前葉 堀之内1式
42	深鉢	口縁部	— — —	端部下の横引き沈線間に円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	褐灰色 5YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
43	小壺	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に刺突を持つ円盤3個。胴部三角状の沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
44	深鉢	口縁部	— — —	突起上に円形刺突と垂下沈線。端部に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
45	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯下の斜行沈線上に縄文LR。	不定方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 5YR 6/3	褐灰色 5YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
46	深鉢	口縁部	— — —	横引きの沈線上に弧状の沈線列。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-6	後期前葉 堀之内1式
47	深鉢	口縁部	— — —	周囲に隆帯を持つ円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 6/2	J-6	後期前葉 堀之内1式
48	深鉢	口縁部	— — —	円形刺突を中心とする上下対象の楕円形隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 6/2	J-6	後期前葉 堀之内1式
49	深鉢	胴部	— — —	雑な横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	灰白色 10Y 7/1	J-6 炉	後期前葉 堀之内1式
50	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線2条。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
51	深鉢	胴部	— — —	2条の沈線間に連続刺突と縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	褐灰色 7.5YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
52	深鉢	胴部	— — —	逆U字状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
53	深鉢	胴部	— — —	数条の横引き沈線下に楕円区画の沈線。区画内に縄文LR充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
54	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	J-6	後期前葉 堀之内1式
55	深鉢	胴部	— — —	弧状と斜行する沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	褐灰色 10YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
56	深鉢	胴部	— — —	弧状と斜行する沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 10YR 6/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
57	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ2条の横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式

第32表 J-6号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	胴部	— — —	紡垂状の沈線間に縄文LR。その上に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒色・白色の砂粒	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
59	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-6	後期前葉 堀之内1式
60	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
61	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	赤色粒子 白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	J-6	後期前葉 堀之内1式
62	深鉢	胴部	— — —	蛇行する垂下沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
63	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	灰白色 5YR 8/2	J-6	後期前葉 堀之内1式
64	深鉢	胴部	— — —	縄文LRと斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
65	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	褐灰色 10YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
66	深鉢	胴部	— — —	楕円状?の沈線区画内に斜行するさらに細かい沈線を充填。	不明。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	褐灰色 10YR 6/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
67	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	褐灰色 7.5YR 4/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
68	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線。	不明。	角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
69	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	褐灰色 7.5YR 6/1	J-6	後期前葉 堀之内1式
70	粗製 深鉢	口縁部	— — —	端部に1条の横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 6/2	J-6	後期前半
71	粗製 深鉢	口縁部	— — —	肥厚する端部に1条の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	J-6	後期前半
72	粗製 深鉢	口縁部	— — —	端部肥厚する。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 7.5YR 6/1	J-6	後期前半
73	粗製 深鉢	口縁部	— — —	端部内面が肥厚。 数条の横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 6/2	J-6	後期前半
74	粗製 深鉢	口縁部 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 10YR 6/1	J-6	後期前半
75	粗製 深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前半
76	粗製 深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	褐灰色 10YR 6/1	J-6	後期前半

第33表 J-6号住居址出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
77	粗製鉢 深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 5YR 6/3	J-6	後期前半
78	粗製鉢 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にふい黄橙色 10YR 7/2	にふい黄橙色 10YR 7/2	J-6	後期前半
79	粗製鉢 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/3	灰白色 5YR 8/2	J-6	後期前半
80	粗製鉢 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色鉱物 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にふい黄橙色 10YR 7/2	J-6	後期前半
81	粗製鉢 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい橙色 5YR 6/3	J-6	後期前半
82	粗製鉢 深鉢	口縁部	— — —	端部内面が肥厚。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	明褐灰色 5YR 7/2	J-6	後期前半
83	粗製鉢 深鉢	口縁部	— — —	端部が肥厚。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	明褐灰色 5YR 7/1	J-6	後期前半
84	粗製鉢 深鉢	胴部	— — —	歯状工具による波状沈線が垂下。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にふい橙色 5YR 6/4	J-6	後期前半
85	粗製鉢 深鉢	口縁部	— — —	斜めの短沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	褐灰色 7.5YR 5/1	J-6	後期前半
86	粗製鉢 深鉢	胴部	— — —	無文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 7/4	灰白色 10YR 7/1	J-6	後期前半
87	粗製鉢 深鉢	胴部	— — —	無文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-6	後期前半
88	深鉢	底部	— — —	底部ケズリ。	不明。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-6	後期前半
89	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	にふい橙色 5YR 6/3	J-6	後期前半
90	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	にふい黄橙色 10YR 7/3	J-6	後期前半
91	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子	にふい橙色 7.5YR 7/3	にふい橙色 5YR 6/3	J-6	後期前半
92	深鉢	口縁 ~ 胴部	(19.0) — —	口縁部3個の小突起下に縦位沈線と円形刺突。そこから横位沈線と刻みを持つ垂下隆帯。胴部垂下隆帯下の8字状突起から刻みを持つ横位隆帯。以下紡錘形の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 5/1	J-6	後期前葉 堀之内1~2式
93	深鉢	口縁 ~ 胴部	(19.2) — —	口縁部3か所の突起から垂下隆帯(正面は2本垂下)。隆帯末端に円形刺突を持つ突起。以下円形基調の沈線と円形刺突列。沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	灰褐色 7.5YR 4/2	J-6	後期前葉 堀之内2式
94	粗製鉢 深鉢	口縁 ~ 胴部	(40.8) — —	無文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 5YR 6/4	J-6	後期前半
95	粗製鉢 深鉢	胴部	— — —	無文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-6	後期前半

96	深鉢	胴～底部	— — 9.2		ランダムなナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-6	後期前半
97	蓋	天井～口縁部	● 2.0 8.8	2個一組の円形刺突を持つ瘤状隆起からV字状の沈線。口縁部周囲に隆帯。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/3	J-6	後期前葉 堀之内2式
98	粗製深鉢	口縁～胴部	(42.8) 41.6 9.8	無文。 底部網代痕。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-6	後期前葉 堀之内2式

第34表 J-6号住居址出土石器一覧表

挿番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考	挿番号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
99	ピエス・エスキュー	硬質頁岩	3.5	3.2	1.2	11.33	J-6	103	打製石斧	頁岩	8.5	4.9	1.2	59.59	J-6
100	石核	硬質頁岩	2.3	4.3	1.9	16.99	J-6	104	棒状石製品	緑泥片岩	12.9	6.8	6.1	1,077.1	J-6
101	磨石	閃緑岩	5.2	2.9	1.9	50.44	J-6 磨製石斧転用	105	石棒	安山岩	16.8	14.4	14.4	4,948.0	J-6
102	打製石斧	安山岩	5.9	4.2	1.6	61.11	J-6								

(単位cm, g)

(7) J-7号住居址

住居址 第45図

本址はき-6グリッドに位置する。新旧関係は判然としないが、D-41・42号土坑と重複し、最近掘削されたと考えられる暗渠排水路が住居中央を縦貫している。また、表土除去時に住居覆土および床面はすでに削り取られていたため、柱穴と炉址のみの検出となった。

竪穴住居規模は南北550cm、東西610cm程度、床面積は30㎡前後と考えられる。

炉は住居中央の西寄りに設置される石囲炉である。炉の使用面には焼土の堆積II層が認められた。その構築方法は地山を直径160cmの円形に深さ約75cm掘りくぼめ、いったんIII層を厚く埋め戻してから安山岩をコの字形に配している。

ピットは9個が検出された。住居壁下をきれいに周回していたものと考えられる。

遺物 第46・47図

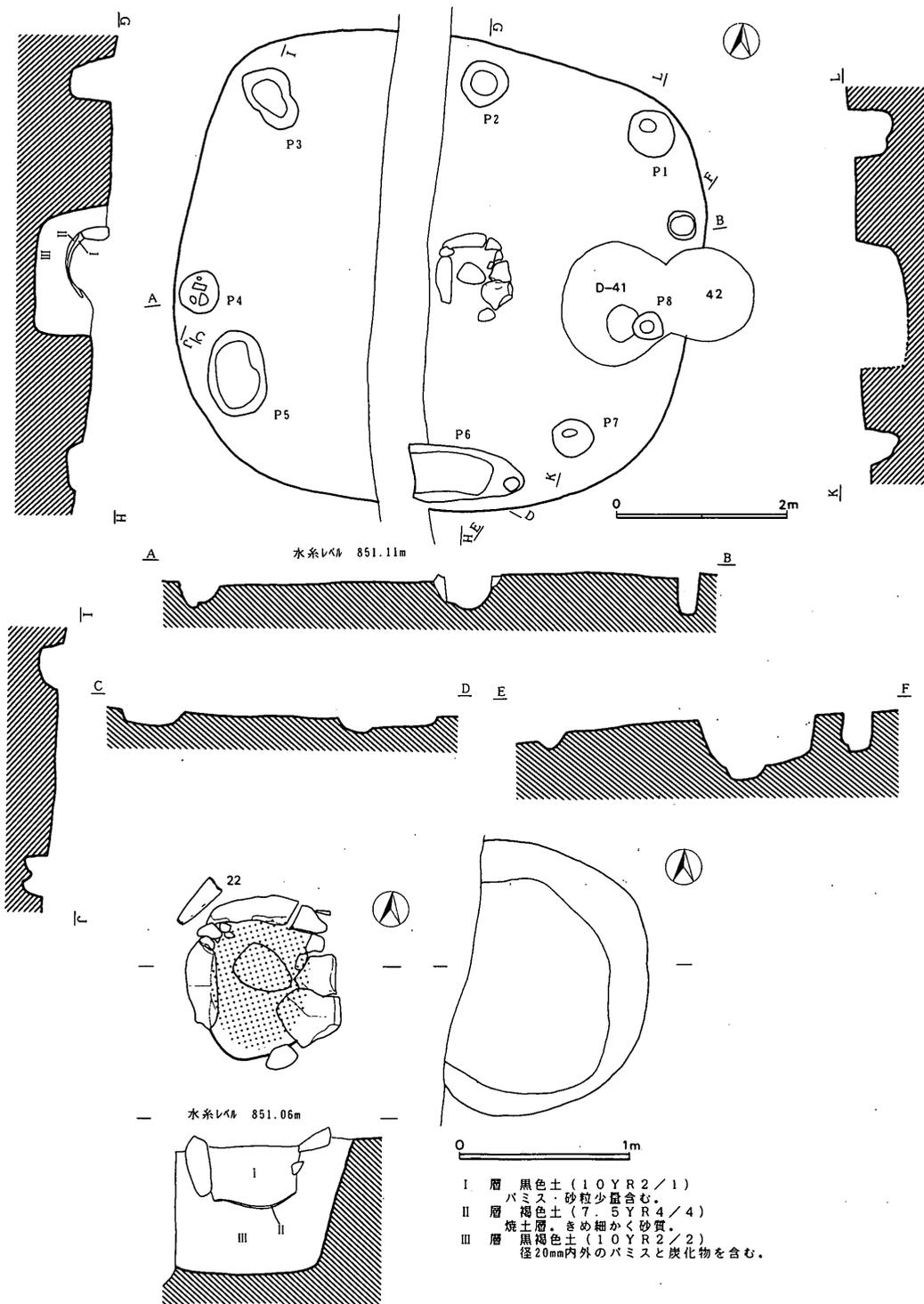
覆土中・床面上・ピット内から縄文土器片と石器が少量出土した程度である。

土器は1～12が中期後葉、13が前期、14～19が中期初頭～中葉の土器である。

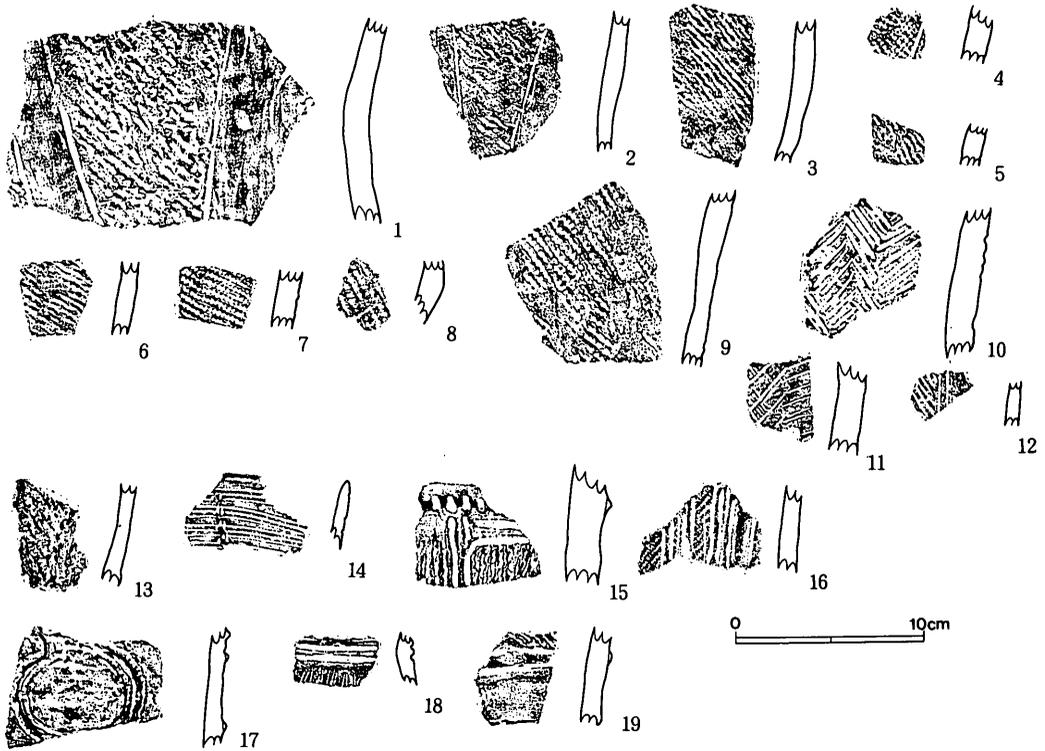
石器はピエス・エスキュー20・21と石棒と考えられる棒状石製品22がある。

時期

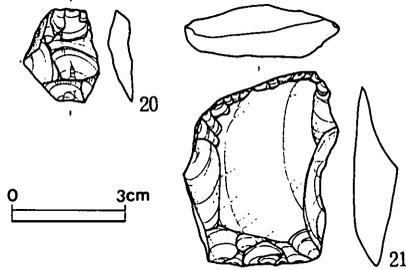
以上、炉内出土遺物の様相から本址は滝沢VI期縄文時代中期後葉に帰属する住居と考えられる。



第45図 J-7号住居址 (1:80) と炉 (1:40) S=1/80



第46図 J-7号住居址出土土器 (1:4)

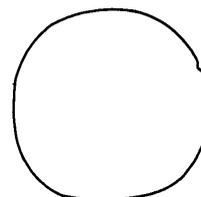
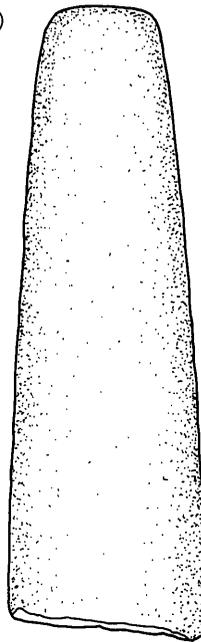


第47図 J-7号住居址出土石器 (1:2, 22は1:4)

第35表 J-7号住居址出土石器一覽表

押番 図号	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
20	ピエス・ エスキュー	黒曜石	2.4	2.0	1.0	3.24	J-7 炉
21	ピエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	51.0	4.2	1.2	26.46	J-7 表探
22	石 棒	安山岩	33.2	10.3	10.3	4,720.0	J-7 No.1

(単位cm, g)



22

0 10cm

第36表 J-7号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	灰白色 10YR 6/1	J-7 炉	中期後葉
2	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	褐灰色 7.5YR 4/1	J-7 炉	中期後葉
3	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-7 炉	中期後葉
4	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい橙色 5YR 7/4	J-7 炉	中期後葉
5	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	明褐灰色 5YR 7/2	J-7 炉	中期後葉
6	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-7 炉	中期後葉
7	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰白色 10YR 7/1	J-7 炉	中期後葉
8	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-7 炉	中期後葉
9	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 6/1	J-7 炉	中期後葉
10	深鉢	胴部	— — —	縦羽状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-7 炉	中期後葉
11	深鉢	胴部	— — —	斜行する集合沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 5YR 7/2	褐灰色 7.5YR 6/1	J-7 炉	中期後葉
12	深鉢	胴部	— — —	斜行する集合沈線と垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	褐灰色 7.5YR 6/1	J-7 P ₂	中期後葉
13	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	褐灰色 5YR 4/1	J-7 炉	前期
14	深鉢	口縁部	— — —	3本単位の櫛歯状工具による横引き沈線上に刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	褐灰色 10YR 5/1	J-7 炉	中期初頭～中葉
15	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯。燃糸文Lを沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	褐灰色 5YR 5/1	灰褐色 7.5YR 5/2	J-7 炉	中期初頭～中葉
16	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯の縄文L上に多条の垂下する沈線。	タテ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい橙色 5YR 6/3	J-7 炉	中期初頭～中葉
17	深鉢	胴部	— — —	円環状の隆帯下に角押文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	褐灰色 5YR 4/1	褐灰色 5YR 5/1	J-7 炉	中期初頭～中葉
18	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線下に垂下する多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 5YR 5/2	J-7 炉	中期初頭～中葉
19	深鉢	胴部	— — —	横に巡る隆帯下に沈線。その上に斜行する集合沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	J-7 炉	中期初頭～中葉

(8) J-8号住居址

住居址 第48・49図

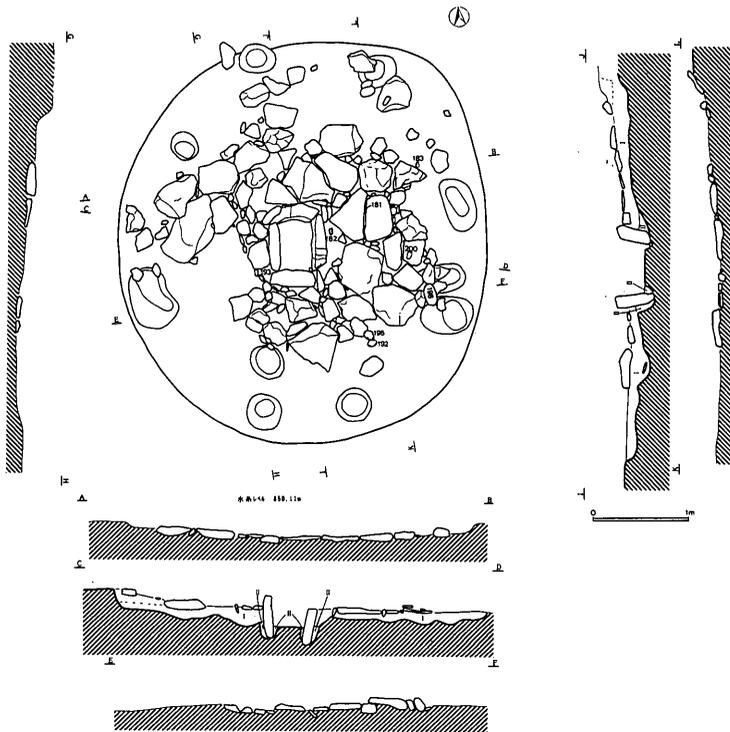
本址は、きー6グリッドに位置する。重複関係は持たない。

掘り込み面が不明確なため、はっきりとした平面形状とは言いがたいが、楕円形を呈すると考えられ、その規模は東西3.90m南北4.20m程度が推測される。また、推定床面積は13.01㎡を測る。

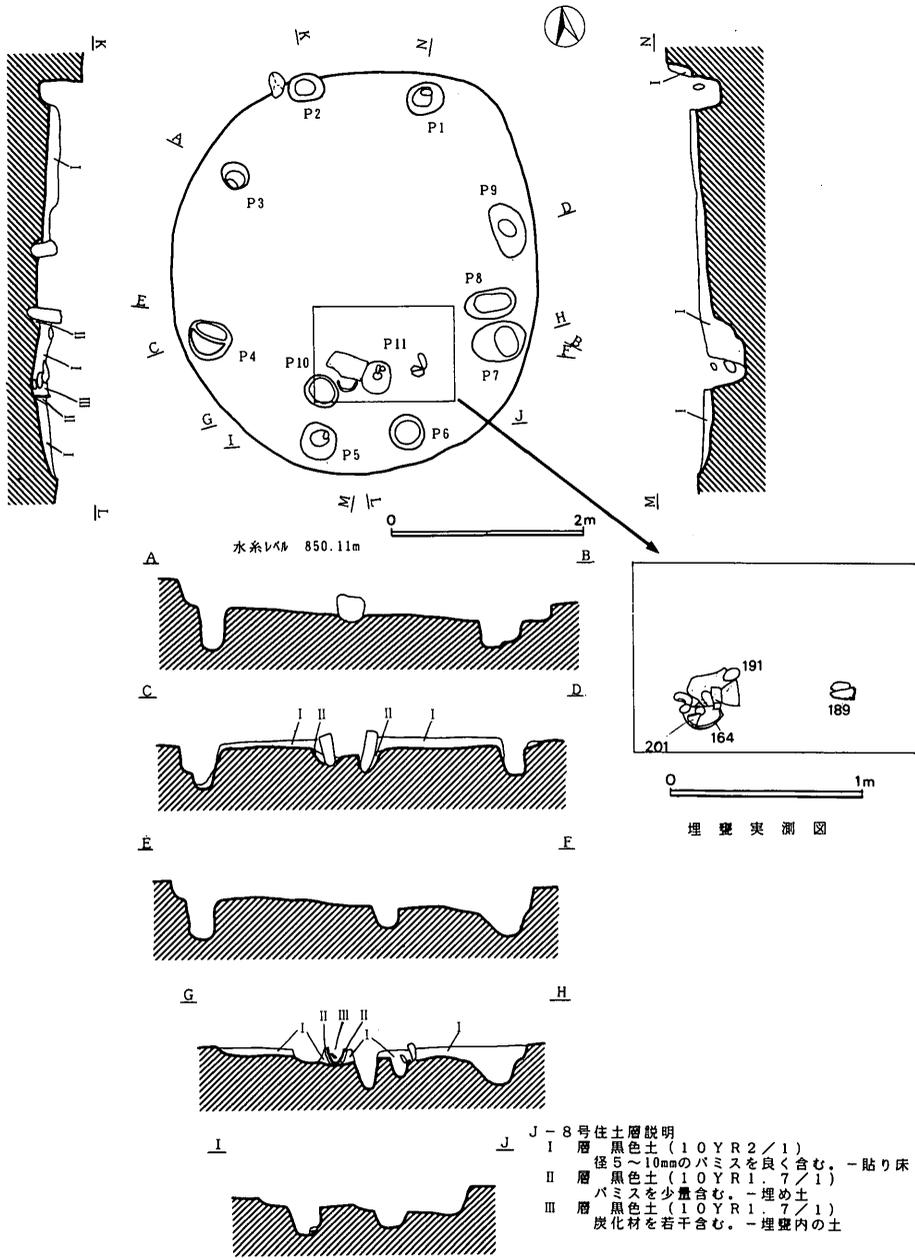
床面は掘り方に黒色土（I層）を埋め戻して整地し、その上に安山岩を主体とした敷石を施す。敷石の範囲は炉を中心に北東に広く、南西に狭い状況が観察されるが、後世の攪乱で剥ぎ取られている箇所があることも考慮しておかねばならない。

ピットは総数11個、そのうちP₁～P₉の9個は壁下を周回するが、これも明瞭な落ち込みとして確認できたものではない。P₁₀・P₁₁は敷石下の埋甕（164）を挟みいわゆる対ピットと考えられる。

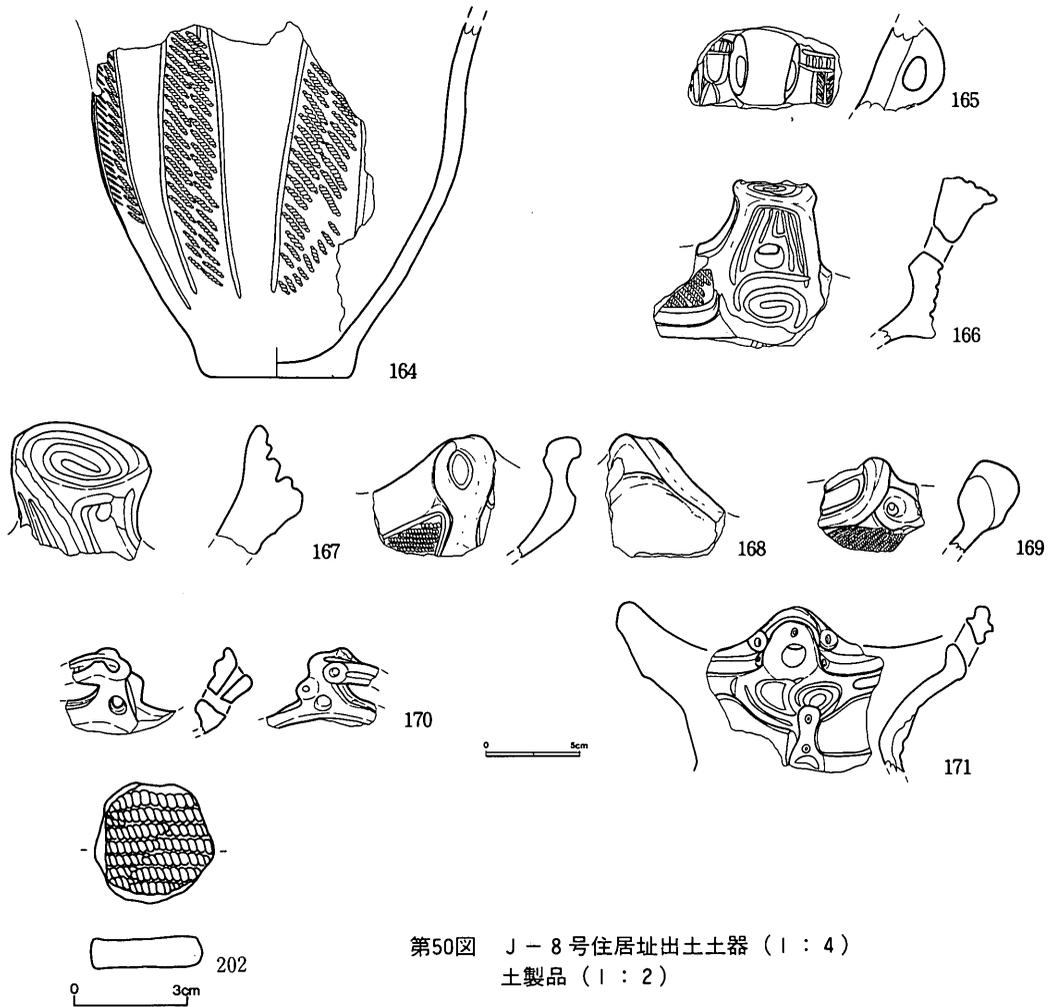
炉は住居のほぼ中央に設置される石囲炉である。石材は高さ40cmほどの扁平で大きな安山岩4枚を使用し、がっちりと矩形に組んでいる。火床面には焼土・灰等の堆積は認められなかった。



第48図 J-8号住居址 (1:80)



第49図 J-8号住居址の貼床除去後(1:80)



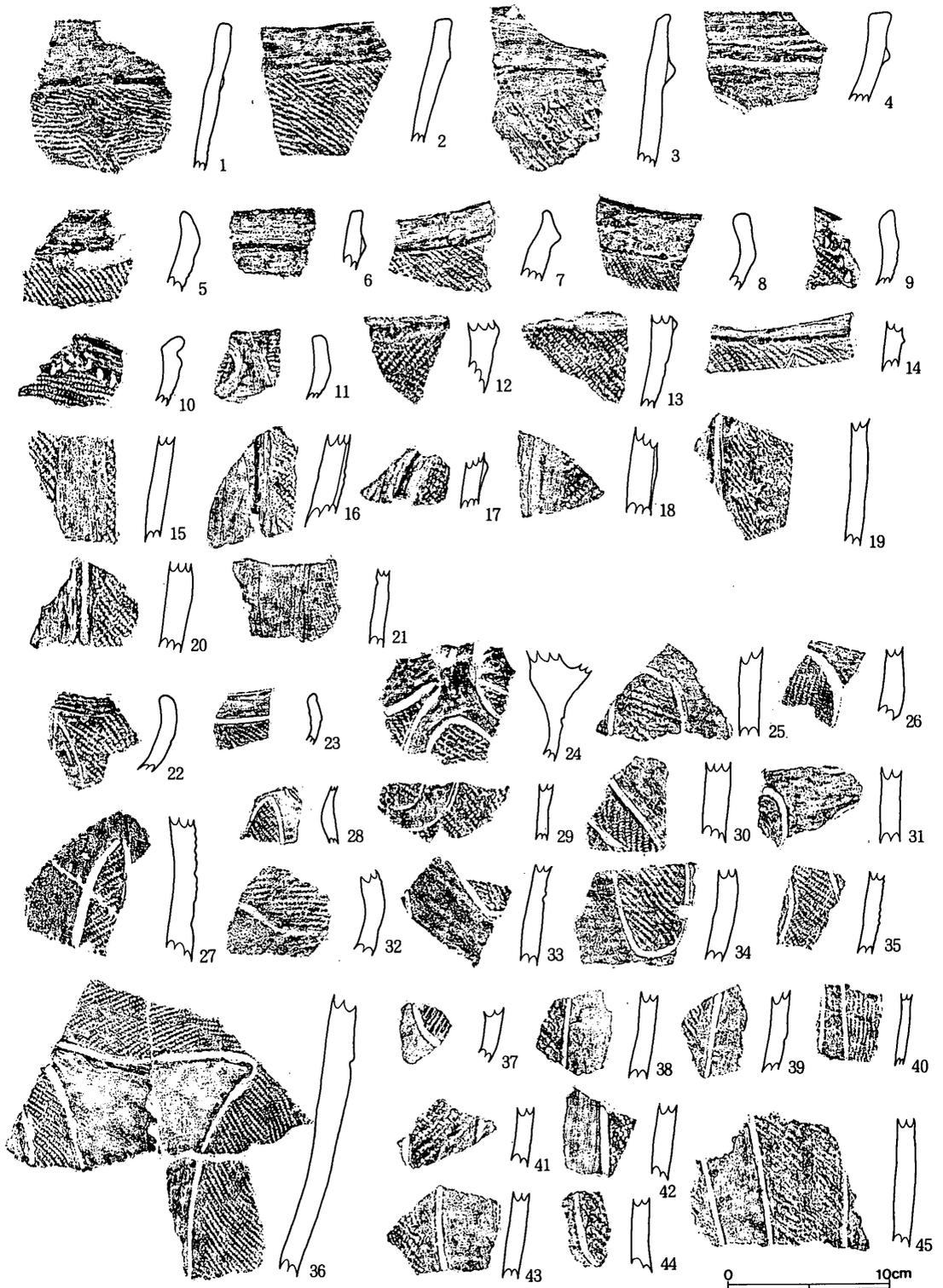
第50図 J-8号住居址出土土器(1:4)
土製品(1:2)

遺物 第50~56図

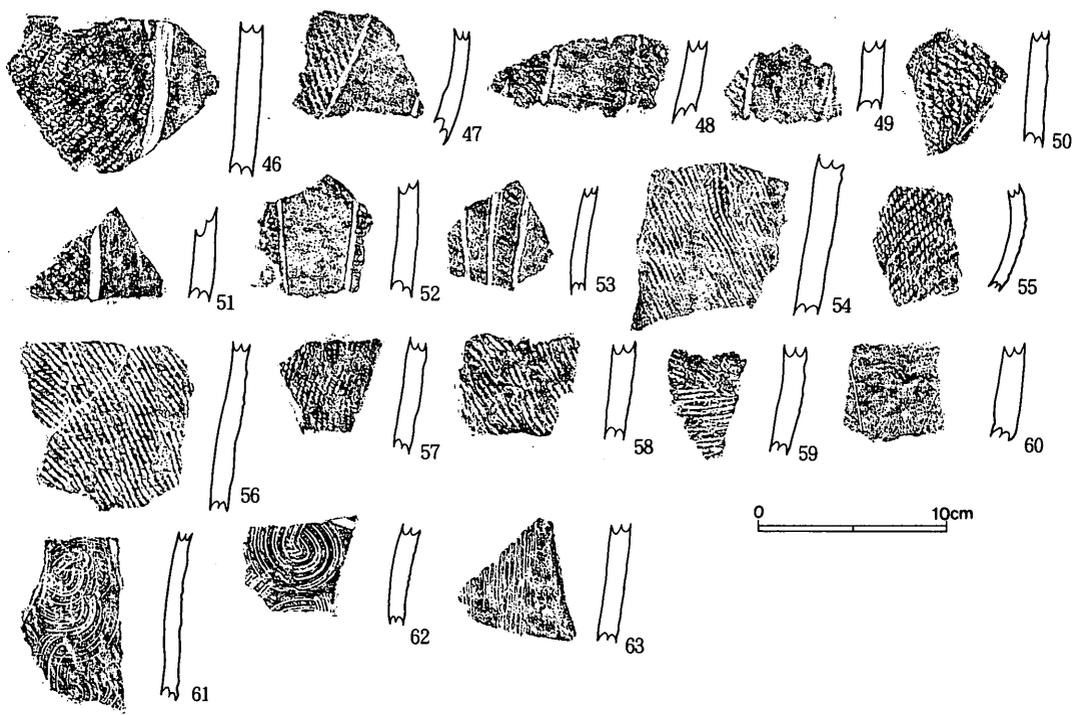
覆土中、床面上から多量の土器が出土しているが、縄文前期～中・後期前半までの混在が著しい。したがって、敷石下から出土した埋甕(164)と同時期の土器群を優先して図示した。

埋甕64は逆U字状の沈線を持つ深鉢で中期後葉加曾利EIV式並行の土器である。また、1~60はこれと同時期の土器群で1~21はいわゆる微隆帯文、22~53は沈線文が施される。また、縦位沈線文が施される86~90は加曾利EIV式に伴う。唐草文系か曾利式終末の土器である。

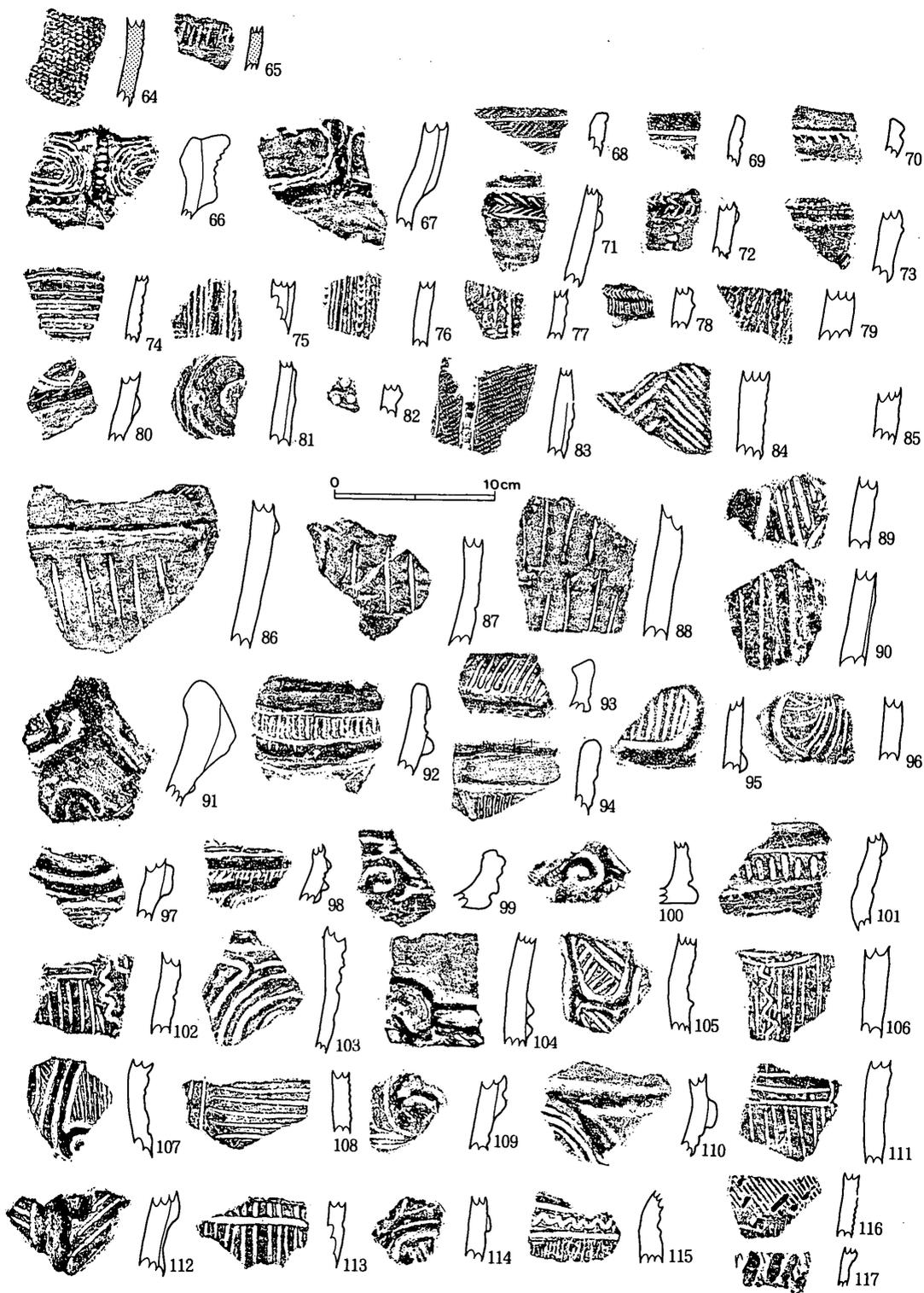
このほか、64・65は縄文前期中葉、67~83は中期初頭～中葉、84~128・164~168は中期後葉、129~154は後期初頭、155~161・163・171は後期前葉、162は後期前半の粗製深鉢である。また、縄文土器片を円形に加工した土製円板202もある。



第51图 J-8号住居址出土土器 (1:4)



第52图 J-8号住居址出土土器(1:4)



第53图 J-8号住居址出土土器 (1:4)



第54图 J-8号住居址出土土器 (1:4)

第37表 J-8号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部の微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
2	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部の微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 4/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
3	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部の微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
4	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に微隆起帯文。 胴部に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
5	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部の微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 5YR 5/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
6	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
7	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。 口縁部の微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 5YR 5/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
8	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。 口縁部の微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰白色 5Y 7/1	灰色 5Y 6/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
9	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁下に連続の刻み。 地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 6/2	J-8 I区	中期後葉 加曾利EIV式並行
10	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁下に連続の刻み。 地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
11	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁の頂部から胴部まで隆起。縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
12	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 2.5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
13	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-8 I区	中期後葉 加曾利EIV式並行
14	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
15	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを大きな幅で縦方向に磨消し。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	明褐色 7.5YR 7/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
16	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯文と縄文RL。隆帯下をなぞる。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 2.5YR 7/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
17	深鉢	胴部	— — —	弧状の微隆起帯区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
18	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯と縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	褐灰色 5YR 5/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
19	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行

第38表 J-8号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯と縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
21	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯と縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	灰白色 5YR 8/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
22	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。口縁部から胴部へ剣先状区画の沈線。縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	褐灰色 7.5YR 5/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
23	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。口縁部下に横引きの沈線。以下縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-8 II区	中期後葉 加曾利EIV式並行
24	両耳壺	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に横引きの沈線。把手部分から逆U字状の沈線区画。縄文R.L.充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 8/2	灰白色 2.5Y 8/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
25	深鉢	胴部	— — —	逆U字状の沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
26	深鉢	胴部	— — —	逆U字状の沈線区画内に縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
27	深鉢	胴部	— — —	剣先状の沈線区画内に縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
28	深鉢	胴部	— — —	逆U字状の沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
29	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
30	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
31	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
32	深鉢	胴部	— — —	逆U字状沈線区画内に縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	にぶい橙色 10YR 7/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
33	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 7/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
34	深鉢	胴部	— — —	U字状の沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
35	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 7/1	灰白色 2.5Y 8/1	J-8 炉	中期後葉 加曾利EIV式並行
36	深鉢	胴部	— — —	逆U字状の沈線区画内に縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	褐色 5YR 6/6	J-8	中期後葉
37	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	灰白色 10YR 8/1	J-8 P ₁₁	中期後葉 加曾利EIV式並行
38	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-8 II区	中期後葉 加曾利EIV式並行

第39表 J-8号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-8 P。	中期後葉 加曾利EIV式並行
40	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
41	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
42	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
43	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 2.5Y 8/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
44	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-8 I区	中期後葉 加曾利EIV式並行
45	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-8 II区	中期後葉 加曾利EIV式並行
46	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8 II区	中期後葉 加曾利EIV式並行
47	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
48	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰赤色 2.5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-8 II区	中期後葉 加曾利EIV式並行
49	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
50	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
51	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	暗赤灰色 2.5YR 3/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
52	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文L R。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
53	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰白色 2.5Y 8/2	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
54	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉
55	深鉢	胴部	— — —	縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉
56	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-8	中期後葉
57	深鉢	胴部	— — —	縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	中期後葉

第40表 J-8号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
58	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8	中期後葉
59	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	黒褐色 5YR 2/1	J-8	中期後葉
60	深鉢	胴部	— — —	細い沈線間に縄文R.L.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	褐灰色 10YR 5/1	J-8	中期後葉
61	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による入り組んだ弧状沈線。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-8	中期後葉
62	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による弧状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい褐灰色 7.5YR 6/3	J-8	中期後葉
63	粗製 深鉢	胴部	— — —	歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-8 IV区	中期後葉
64	深鉢	胴部	— — —	組紐。	ナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-8 P。	前期中葉 繊維含む。
65	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による連続の刺突。	ナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	前期中葉
66	深鉢	口縁部	— — —	口縁部小突起から垂下する刻みを持つ逆T 字状隆帯の両わきに重楕円状の角押文。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 6/1	J-8	中期中葉 阿玉台II式
67	深鉢	口縁部	— — —	垂下する逆T字状隆帯の両わきに楕円状の 角押文。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子	褐灰色 7.5YR 5/1	褐灰色 10YR 6/1	J-8	中期中葉 阿玉台I b式
68	深鉢	口縁部	— — —	縄文L.R.上に2条の横引き沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-8	中期前葉~中葉
69	深鉢	口縁部	— — —	縄文L.R.上に2条の横引き沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 5YR 6/4	J-8	中期前葉~中葉
70	深鉢	口縁部	— — —	横引き沈線上に連続の刻み。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-8 II区	中期前葉~中葉
71	深鉢	口縁部	— — —	刻みを持つ隆帯下に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8 III区	中期前葉~中葉
72	深鉢	口縁部	— — —	刻みを持つ隆帯下に連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8	中期前葉~中葉
73	深鉢	胴部	— — —	横引きの角押文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-8	中期前葉~中葉
74	深鉢	胴部	— — —	横引きの多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 7.5YR 3/1	褐灰色 10YR 4/1	J-8	中期前葉~中葉
75	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯に沿って多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-8 P。	中期前葉~中葉
76	深鉢	胴部	— — —	垂下する爪形の連続刺突と沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 5YR 6/2	J-8 III区	中期前葉~中葉

第41表 J-8号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
77	深鉢	胴部	— — —	垂下する連続刺突と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期前～中葉
78	深鉢	胴部	— — —	連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/2	J-8	中期中葉 新道式
79	深鉢	胴部	— — —	燃糸文L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/2	J-8 II区	中期前～中葉
80	深鉢	胴部	— — —	隆帯上に弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	J-8 III区	中期前～中葉
81	深鉢	胴部	— — —	環状の幅広い隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期中葉 井戸尻式
82	深鉢	胴部	— — —	円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/3	明褐色 7.5YR 7/2	J-8 II区	中期前～中葉
83	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯と細文LR。隆帯下を沈線でなぞる。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8 炉	中期前～中葉
84	深鉢	胴部	— — —	縦羽状の集合沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	中期後葉 曾利系
85	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-8	中期後葉 曾利系
86	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。 胴部に縦走する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰黄褐色 10YR 6/2	J-8 II区	中期後葉 曾利系 87・88と同一個体
87	深鉢	胴部	— — —	胴部に縦走する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8 炉	中期後葉 曾利系
88	深鉢	胴部	— — —	胴部に縦走する沈線が二段並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐色 5YR 6/1	J-8	中期後葉 曾利系
89	深鉢	胴部	— — —	沈線の楕円区画内に斜行する集合沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	褐色 10YR 6/1	J-8	中期後葉 曾利系
90	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 7/3	灰褐色 10YR 8/1	J-8	中期後葉
91	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下の弧状の沈線の上に楕円区画。 胴部に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-8	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
92	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に楕円状の隆帯を巡らし、その内側を沈線でなぞる。区画内は縦位沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
93	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下を隆帯で区画。区画内は斜行する沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-8 I区	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
94	深鉢	口縁部	— — —	沈線で区画し、区画内は縦位の沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-8	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
95	深鉢	口縁部	— — —	楕円状の隆帯で区画し、その内側を沈線でなぞる。区画内は縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8 炉	中期後葉 加曾利E I・II式 並行

第42表 J-8号住居址出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
96	深鉢	口縁部	— — —	楕円状の隆帯で区画し、その内側を沈線でなぞる。区画内は弧状の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 10YR 7/1	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
97	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に楕円状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 7/4	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
98	深鉢	口縁部	— — —	2条の隆帯間に斜行する沈線を並べる。その下は楕円状の隆帯区画。隆帯下に沈線をなぞる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
99	深鉢	口縁部	— — —	渦巻きつなぎ弧文(隆帯)。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8 P.	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
100	深鉢	口縁部	— — —	渦巻きつなぎ弧文(隆帯)。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-8 III区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
101	深鉢	口縁部	— — —	沈線の楕円区画内に縦位の沈線を並べる。	不明。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
102	深鉢	胴部	— — —	横引きの楕円区画沈線から波状沈線垂下。これを中心に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
103	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線下に渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	褐灰色 10YR 5/1	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
104	深鉢	胴部	— — —	2本単位の横位隆帯と垂下する腕骨状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
105	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画内に斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
106	深鉢	胴部	— — —	縦位に並ぶ沈線上に横引きの沈線。最後に波状沈線垂下。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8 II区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
107	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯区画内に斜行する沈線充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 7/4	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
108	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線区画内に横位の沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8 P.	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
109	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に縄文を持つ隆帯。斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-8 II区	中期中葉 焼町土器
110	深鉢	胴部	— — —	横位の隆帯下に斜行する隆帯。これに並行して沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-8	中期中葉 焼町土器
111	深鉢	胴部	— — —	縦位に並べた沈線上に横引きの沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
112	深鉢	胴部	— — —	腕骨状隆帯と斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
113	深鉢	胴部	— — —	縦位に並ぶ沈線上に横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
114	深鉢	胴部	— — —	斜行する隆帯内外に斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-8	中期後葉 加曾利E1・II式 並行

第43表 J-8号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

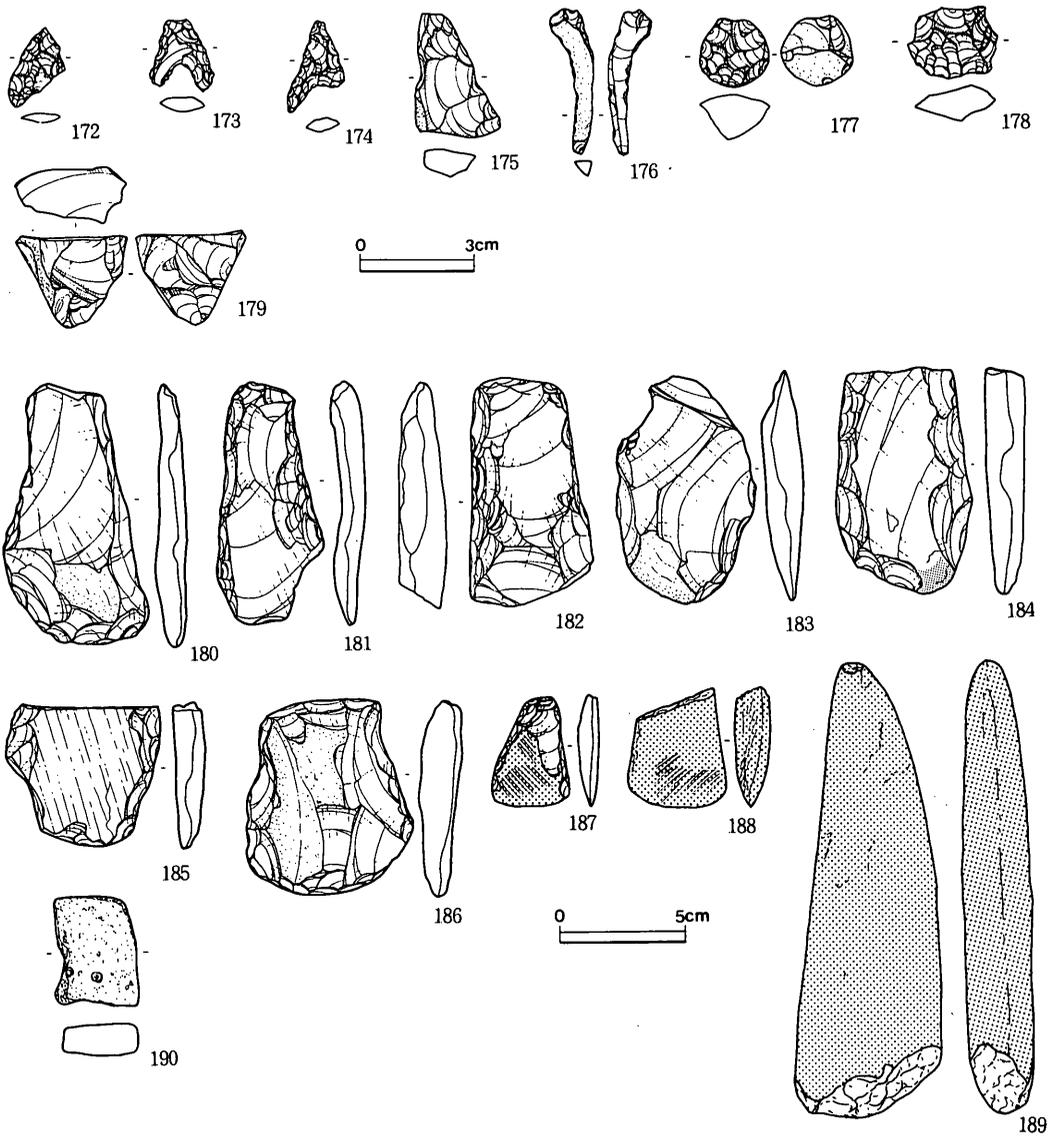
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
115	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線間に波状の沈線。以下燃系文R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 5YR 2/2	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8 P ₃	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
116	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線と隆帯によるバスケット状の文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
117	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線と隆帯によるバスケット状の文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 5/1	J-8 Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
118	深鉢	口縁部	— — —	重弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子・ 角閃石共に少	褐色 7.5YR 4/3	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
119	深鉢	口縁部	— — —	縄文原体の押圧を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 7/1	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
120	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線下に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
121	深鉢	口縁部	— — —	隆帯上・下に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
122	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に波状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰白色 10YR 7/1	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
123	深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	3条の隆帯間の上段に連続刺突。胴部縄文R L上に2条の垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8 Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
124	深鉢	口縁部	— — —	縄文R Lを楕円状の沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
125	深鉢	口縁部	— — —	楕円状の隆帯区画下になぞった沈線。区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰白色 5YR 8/2	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
126	深鉢	胴部	— — —	縄文R L上に垂下する3条の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	明褐灰色 5YR 7/2	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
127	深鉢	胴部	— — —	縄文L R上に円形沈線から垂下する3条の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
128	深鉢	胴部	— — —	燃系文L上に隆帯と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-8	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
129	深鉢	口縁部	— — —	口縁部小突起から垂下する刻みを持つ隆帯。縄文L Rを沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-8	後期初頭
130	深鉢	口縁部	— — —	横引き沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期初頭
131	深鉢	口縁部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	後期初頭
132	深鉢	口縁部	— — —	横位沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期初頭
133	深鉢	口縁部	— — —	横位沈線区画内に縄文L R。内面円形刺突と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	褐灰色 7.5YR 6/1	J-8	後期初頭

第44表 J-8号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
134	深鉢	口縁部	— — —	微隆帯内に2列の連続円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期初頭
135	深鉢	口縁部	— — —	口縁部下の横引き沈線区画内に円形連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	後期初頭
136	深鉢	口縁部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	淡橙色 5YR 8/3	J-8	後期初頭
137	深鉢	胴部	— — —	二段J字状沈線区画内に縄文LR充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/2	J-8	後期初頭
138	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	灰白色 10YR 7/1	J-8	後期初頭
139	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期初頭
140	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	後期初頭
141	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-8	後期初頭
142	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-8	後期初頭
143	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	浅黄褐色 7.5YR 8/3	J-8	後期初頭
144	深鉢	胴部	— — —	口縁部下微隆帯内に円形刺突。 斜行沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-8	後期初頭
145	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期初頭
146	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-8	後期初頭
147	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-8	後期初頭
148	深鉢	胴部	— — —	矢印状の沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 6/2	J-8	後期初頭
149	深鉢	胴部	— — —	鋸歯状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-8	後期初頭
150	深鉢	胴部	— — —	条線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8	後期初頭
151	粗製 深鉢	胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい橙色 5YR 6/3	J-8	後期初頭
152	粗製 深鉢	胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	灰白色 5YR 8/1	J-8	後期初頭

第45表 J-8号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
153	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-8	後期初頭
154	深鉢	胴部	— — —	無文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-8	後期初頭
155	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部小突起上に沈線と円形刺突。そこから横引きの沈線。胴部下に横引きの沈線細文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期前葉 堀之内1式
156	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部小突起下に隆帯を持つ円形刺突。そこから横引きの沈線。内面も同じ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 2.5YR 6/6	灰白色 10YR 8/2	J-8	後期前葉 堀之内1式
157	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部小突起下に縦位の沈線と円形刺突。そこから横引きの沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	明褐色 7.5YR 7/1	J-8	後期前葉 堀之内1式
158	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部に楕円状の沈線区画内に細文L R。円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 6/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期前葉 堀之内1式
159	深鉢	口縁 部	— — —	端部に横引きの沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-8	後期前葉 堀之内1式
160	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	環状の隆帯から垂下する隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-8	後期前葉 堀之内1式
161	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰褐色 5YR 6/2	J-8	後期前葉 堀之内1式
162	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	褐色 5YR 5/1	明褐色 5YR 7/1	J-8	後期前半
163	深鉢	胴部	— — —	胴部上位に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-8	後期前葉 堀之内1式
164	深鉢	胴～ 底部	— — 7.6	縦位沈線区画間に細文R L充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 2.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-8	中期後葉 加曾利EIV式並行
165	深鉢	胴部	— — —	橋状の把手両わきに沈線と連続の刻み。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-8	中期中葉 井戸尻式
166	深鉢	口縁 部	— — —	渦巻きと縦位沈線列、円孔を持つ把手。その両わきに楕円区画隆帯。区画内に細文R L。その後、隆帯下を沈線でなぞる。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	明褐色 5YR 7/1	J-8	中期後葉
167	深鉢	把手	— — —	渦巻き状と縦位沈線。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰褐色 5YR 5/2	J-8	中期後葉
168	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。波頂部から環状の隆帯垂下。端部無文帯下に横位沈線。その後、細文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-8	後期初頭
169	鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に沈線と円形刺突を持つ。以下、細文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	J-8	後期初頭～前葉
170	深鉢	口縁 部	— — —	円孔と円形刺突を持つ把手。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 7/4	J-8	後期前葉
171	深鉢	胴部	— — —	波状口縁。環状把手から沈線と円形刺突。把手内面に3個の円形刺突。把手下に環状隆帯、8字状突起。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黒色 7.5YR 2/1	灰褐色 7.5YR 5/2	J-8	後期前葉 堀之内1式 黒色研磨

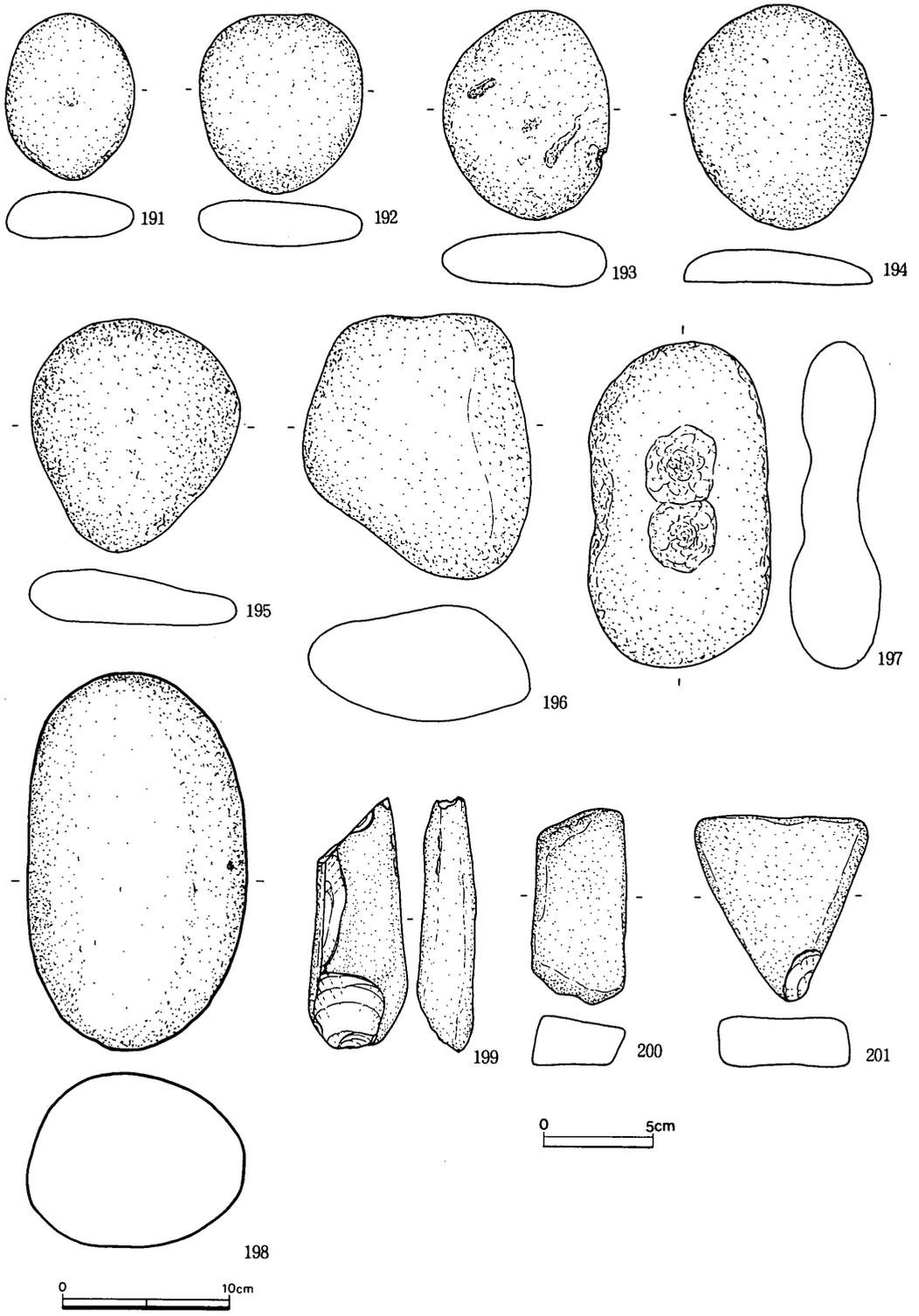


第55図 J-8号住居址出土石器 (1:2, 1:3)

石器は石鏃172~174、スクレイパー175、石錐176、ピエス・エスキーユ177・178、石核179、打製石斧180~186、磨製石斧187~189、磨石191~197、敲石198~200などがある。また、用途不明の軽石製品190もある。

時期

以上の出土土器のうち、最も当住居に帰属性の高い埋甕164より本址の時期を滝沢VI期縄文時代中期後葉加曾利EIV式並行と考える。



第56図 J-8号住居址出土石器（198のみ1：4，ほかは1：3）

第46表 J-8号住居址出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
172	打製石鎌	黒曜石	2.1	1.5	0.3	0.57	J-8 Ⅰ区	187	磨製石斧	蛇紋岩	4.4	3.1	0.9	16.39	J-8 炉
173	打製石鎌	黒曜石	1.9	1.7	0.4	0.90	J-8 Ⅱ区	188	磨製石斧	蛇紋岩	4.5	3.8	1.4	38.93	J-8 Ⅱ区
174	打製石鎌	黒曜石	2.4	1.5	0.4	0.73	J-8	189	磨製石斧	蛇紋岩	17.8	5.7	2.7	445.8	J-8 Na14
175	スクレイパー	黒曜石	3.3	2.3	0.8	4.94	J-8 北	190	軽石製品	軽石	4.5	3.5	1.2	9.13	J-8 Ⅱ区
176	石 錐	黒曜石	3.8	1.1	0.4	1.02	J-8 Ⅱ区	191	磨 石	砂 岩	7.4	5.7	2.2	118.98	J-8 Na11
177	ピエス・ エスキュー	黒曜石	1.8	1.9	1.2	3.50	J-8	192	磨 石	砂 岩	8.1	7.4	2.3	176.45	J-8 Na 1
178	ピエス・ エスキュー	黒曜石	1.9	2.4	0.9	3.18	J-8 Ⅰ区	193	磨 石	砂 岩	9.3	7.6	2.5	222.89	J-8 Na 8
179	石 核	黒曜石	2.4	2.9	1.5	7.23	J-8 Ⅲ区	194	磨 石	砂 岩	10.1	8.5	1.5	157.58	J-8
180	打製石斧	頁 岩	10.3	5.3	1.2	73.83	J-8	195	磨 石	砂 岩	10.4	9.4	2.5	272.11	J-8 Na 2
181	打製石斧	頁 岩	9.3	4.2	1.2	47.51	J-8 Na 6	196	磨 石	安山岩	12.0	10.3	5.5	785.7	J-8 P ₂
182	打製石斧	頁 岩	9.0	4.9	1.9	103.55	J-8	197	磨 石	安山岩	14.5	8.3	4.1	598.1	J-8 炉
183	打製石斧	頁 岩	8.9	5.6	1.4	67.88	J-8 Na 5	198	円礫安山岩	安山岩	22.8	13.2	10.4	4,450.0	J-8 Na 3 研磨痕あり
184	打製石斧	安山岩	8.8	5.3	1.6	115.81	J-8 Na 7	199	敲 石	頁 岩	11.3	4.6	2.5	166.66	J-8 炉
185	打製石斧	安山岩	5.5	6.0	1.2	51.84	J-8 P	200	敲 石	安山岩	8.9	4.4	2.7	192.01	J-8 Na 4
186	打製石斧	安山岩	7.5	6.6	1.4	75.95	J-8 炉	201	敲 石	安山岩	8.4	7.9	2.4	234.37	J-8 Na12

(単位cm, g)

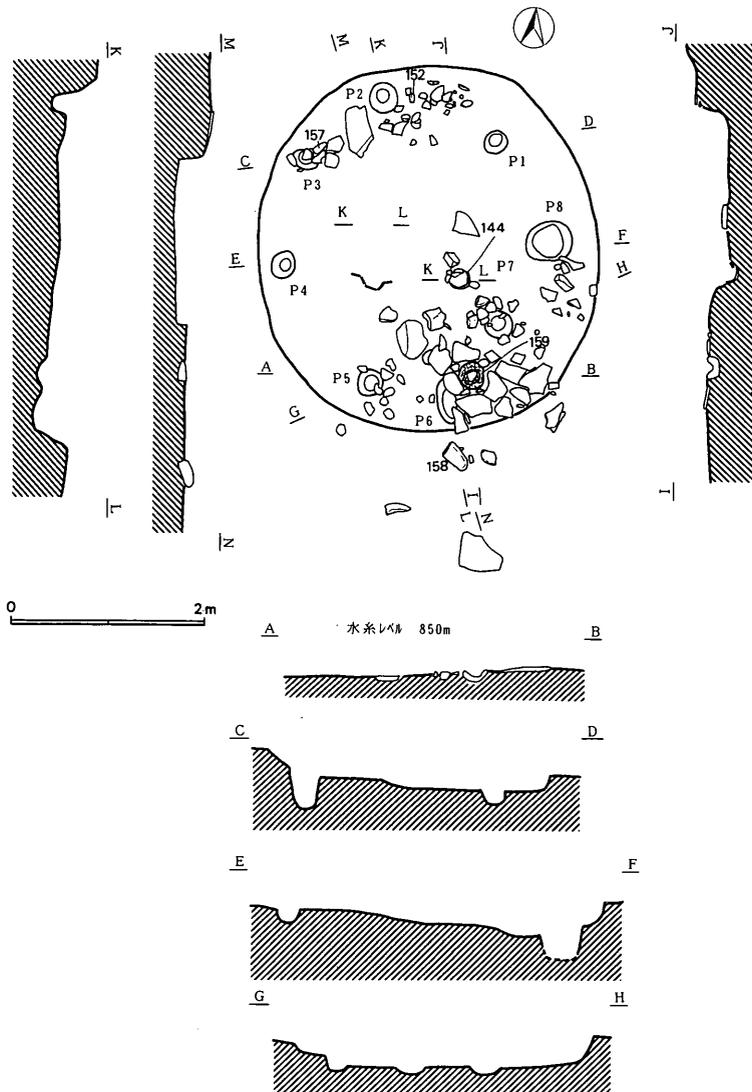
(9) J-9号住居址

住居址 第57図

本址はく-6グリッドに位置する。重複関係は持たない。

縄文時代の敷石住居址であるが攪乱が著しく、住居形態、敷石の配置等旧状が正確に把握できない。

床面には往時はおそらく整然と敷かれていたと考えられる石材が住居範囲の北と南東側に散乱

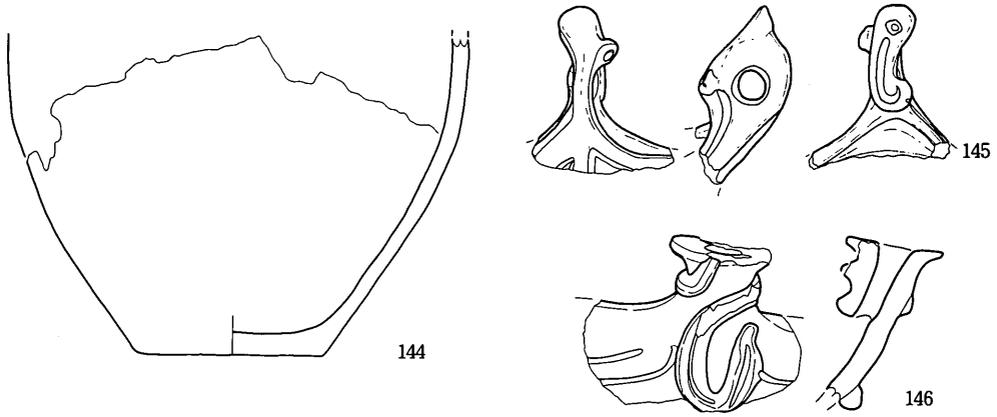


第57図 J-9号住居址 (1:80)

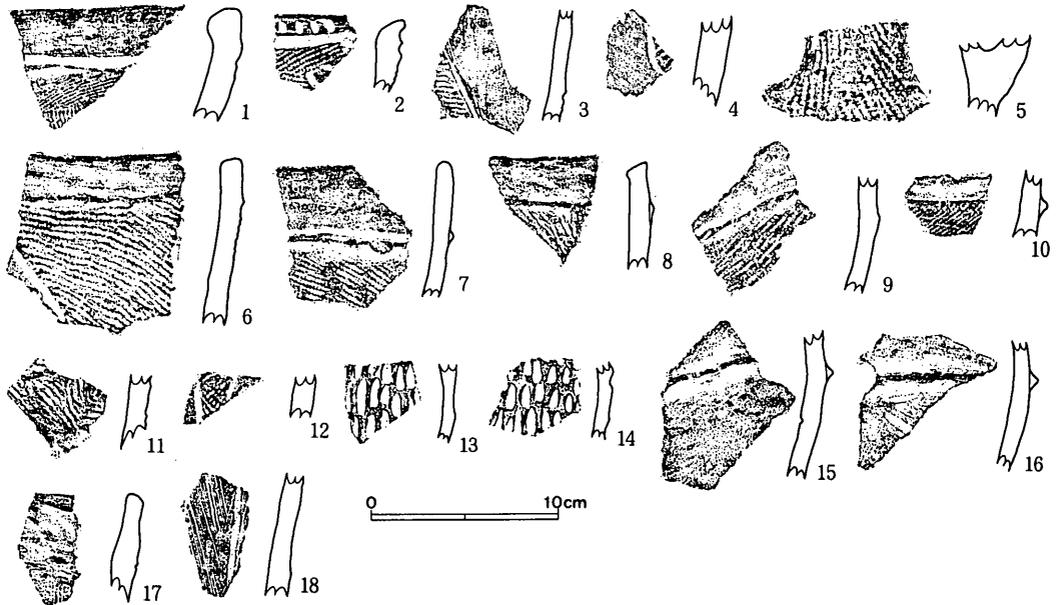
している。また、南東の敷石内には埋甕の代用品と考えられる軽石製の石鉢（第63図157）が正位ではめ込まれていた。

ピットは一応7個が検出されたが、これも明瞭に確認できているものとは言いがたい。

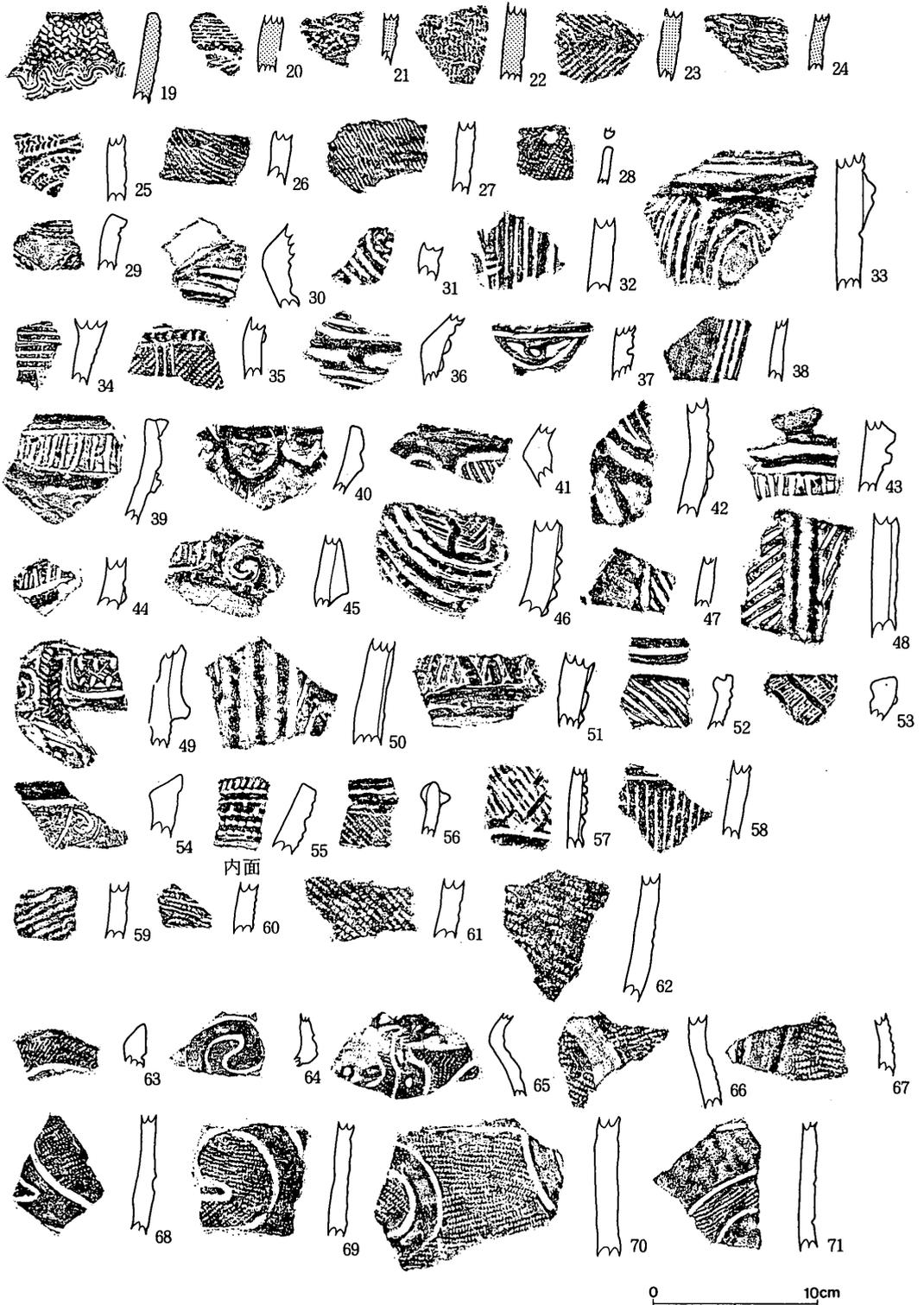
炉は破壊されているが、中央の南東よりに胴部上位以上を欠損する無文深鉢（第58図144）が埋められていた。この深鉢は2次焼成を受けており、炉の残痕とも考えられる。



第58図 J-9号住居址出土土器（1：4）



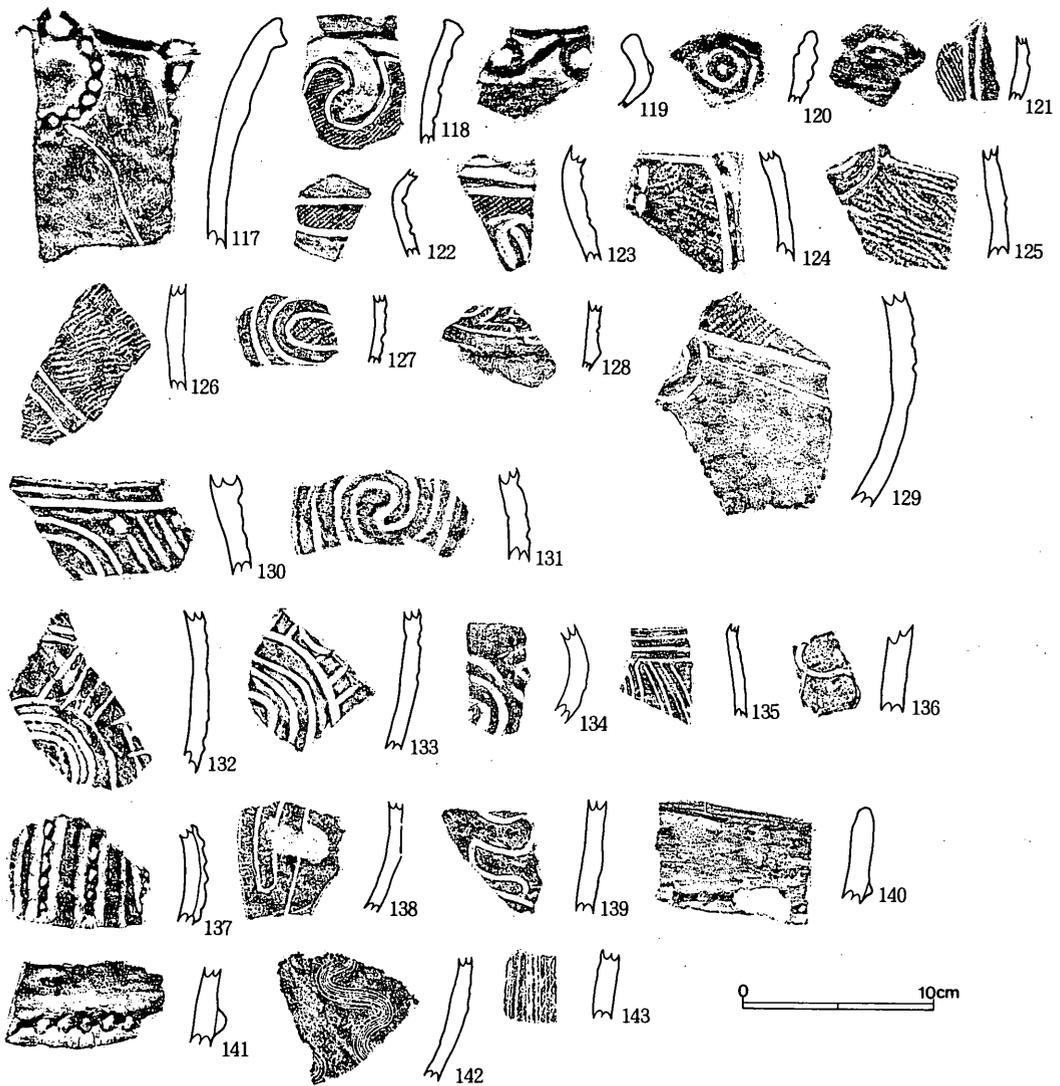
第59図 J-9号住居址出土土器（1：4）



第60图 J-9号住居址出土土器(1:4)



第61图 J-9号住居址出土土器 (1:4)



第62図 J-9号住居址出土土器 (1:4)

遺物 第58~63図

覆土中・床面上などから多量の土器が出土しているが、前述のように攪乱が著しい住居のため、J-8号住居址よりもさらに縄文前期~中・後期前半までの土器の混在が著しい。

1~18は縄文中期後葉加曾利EIV式並行の土器群、19~24は前期中葉の含繊維土器、25~28は前期後葉の半截竹管の連続刺突(25)に象徴される前期後葉の諸磯a式土器、29~38は中期初頭~中葉、39~62は中期後葉、63~80・88~116・144・145・146は後期初頭、118~139は後期前葉、81~87・117・140~143は後期前半の粗製深鉢である。石器は石鏃未製品147・148、ピエス・エスキュー149・150、打製石斧151・152・153、磨製石斧154、磨石155・156、研磨痕のある礫157・158、石鉢159などがある。

第47表 J-9号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	横引き沈線下に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	にふい黄橙色 10YR 7/2	J-9 南	中期後葉 加曾利E IV式
2	深鉢	口縁 部	— — —	半月形の連続刺突下に横引きの沈線。以下 縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/4	にふい赤褐色 5YR 6/3	J-9 南	中期後葉 加曾利E IV式
3	深鉢	胴部	— — —	沈線区画間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-9 南	中期後葉 加曾利E IV式
4	深鉢	胴部	— — —	沈線区画間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/4	にふい橙色 5YR 6/4	J-9 付近	中期後葉 加曾利E IV式
5	両耳壺	胴部	— — —	把手に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にふい橙色 5YR 6/3	J-9 南	中期後葉 加曾利E IV式
6	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。以下逆U字状の沈 線磨消し。その後、縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/1	黒褐色 10YR 3/1	J-9 付近	中期後葉 加曾利E IV式
7	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。以下縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/3	灰白色 10YR 8/1	J-9 南	中期後葉 加曾利E IV式
8	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。以下縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-9 付近	中期後葉 加曾利E IV式
9	深鉢	胴部	— — —	斜行微隆起帯文下に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	灰赤色 2.5YR 5/2	J-9 付近	中期後葉
10	深鉢	胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	にふい橙色 7.5YR 7/3	J-9 南	中期後葉
11	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	にふい橙色 5YR 6/3	J-9 付近	中期後葉
12	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子	明褐色 5YR 7/2	灰褐色 10YR 6/2	J-9 付近	中期後葉
13	深鉢	胴部	— — —	多量の刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	褐色 7.5YR 5/1	J-9 付近	中期後葉
14	深鉢	胴部	— — —	多量の刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/4	にふい橙色 7.5YR 7/3	J-9 北	中期後葉
15	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子 白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 5YR 7/4	J-9 付近	中期後葉
16	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 7/1	J-9 南	中期後葉
17	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に細い沈線。以下、櫛歯状工具に よる垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/4	にふい橙色 5YR 6/4	J-9 南	中期後葉
18	深鉢	胴部	— — —	垂下する沈線と斜する櫛歯状工具による沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	明赤褐色 2.5YR 5/6	J-9 南	中期後葉
19	深鉢	口縁 部	— — —	細紐とコンパス文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰褐色 5YR 5/2	黒色 5YR 1.7/1	J-9 北	前期中葉 含繊維

第48表 J-9号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	楕歯状工具の沈線下に縄文。	ナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	黒色 10YR 1.7/1	J-9 付近	前期中葉 含繊維
21	深鉢	胴部	— — —	縄文(原体不明)。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-9 南	前期中葉 含繊維
22	深鉢	胴部	— — —	束の縄文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	明褐色 7.5YR 7/2	黒色 7.5YR 1.7/1	J-9 付近	前期中葉 含繊維
23	深鉢	胴部	— — —	縄文RL・LRによる羽状構成。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	褐色 5YR 4/1	J-9 付近	前期中葉 含繊維
24	深鉢	胴部	— — —	縄文(原体不明)。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	黒色 10YR 1.7/1	J-9 付近	前期中葉 含繊維
25	深鉢	胴部	— — —	半截竹管先端による弧状の爪形文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	褐色 10YR 5/1	J-9 付近	前期後葉
26	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 2.5YR 6/4	J-9 付近	前期後葉
27	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-9 南	前期後葉
28	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。焼成後の穿孔。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐色 5YR 5/1	J-9 南	前期後葉
29	深鉢	胴部	— — —	角押文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-9 付近	中期前葉~中葉
30	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	灰白色 10YR 8/2	J-9 南	中期中葉 焼町土器
31	深鉢	胴部	— — —	重弧状の沈線内に刺突。	不明。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	褐色 2.5YR 6/6	J-9 南	中期中葉 焼町土器
32	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯と沈線。沈線上に刻み状の沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 2.5YR 6/6	褐色 2.5YR 6/6	J-9 南	中期中葉 焼町土器
33	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に環状の隆帯。これに沿って弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	J-9 付近	中期中葉 焼町土器
34	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横引きの集合沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-9 南	中期前葉~中葉
35	深鉢	胴部	— — —	爪形の刻みを持つ隆帯。縄文LR上に3条の垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	明褐色 7.5YR 7/2	J-9 南	中期中葉 焼町土器
36	深鉢	胴部	— — —	2条の横位隆帯下横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色鉱物	にぶい褐色 5YR 6/4	褐色 2.5YR 6/6	J-9 南	中期中葉 焼町土器
37	深鉢	胴部	— — —	円形刺突向わきに三叉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	J-9 付近	中期前葉~中葉
38	深鉢	胴部	— — —	3条の沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/2	J-9 南	中期前葉~中葉

第49表 J-9号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に楕円状の隆帯。隆帯下に沈線。区画内は縦位の沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-9 南	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
40	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に連弧状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
41	深鉢	胴部	— — —	楕円状の沈線区画内に斜行沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-9 北	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
42	深鉢	胴部	— — —	斜行する隆帯内に斜行する沈線を並べる部分あり。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-9 南	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
43	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下を沈線でなぞる。その下は縦位の沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 5YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-9	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
44	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に楕円状区画内に斜行沈線が並ぶ。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 2.5YR 6/6	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
45	深鉢	口縁部	— — —	渦巻きつなぎ弧文(隆帯)内に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	褐色 10YR 6/1	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
46	深鉢	胴部	— — —	数条の弧状隆帯下を沈線でなぞる。その内側に鋭利な縦羽状の沈線と波状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 2.5YR 6/3	灰白色 10YR 7/1	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
47	深鉢	胴部	— — —	隆帯下を沈線でなぞり区画。区画内を斜行する沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
48	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯両わきに斜行沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-9 南	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
49	深鉢	口縁部	— — —	刻みを持つ逆T字状隆帯。隆帯下を沈線でなぞり矩形区画。区画内は斜格子状沈線上に刺突。胴部は環状隆帯内に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 5YR 6/4	J-9 付近	中期中葉 井戸尻式
50	深鉢	口縁部	— — —	2本単位の隆帯わきに斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 7.5YR 4/1	J-9	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
51	深鉢	口縁部	— — —	2本の隆帯上に斜行沈線・隆帯を組み合わせたバスケット状の文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	灰白色 10YR 7/1	J-9	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
52	深鉢	口縁部	— — —	多条の斜行沈線。端部内面に横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 5YR 6/4	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
53	深鉢	口縁部	— — —	多条の斜行沈線の上に斜行する隆帯を組み合わせたバスケット状の文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 5YR 7/3	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
54	深鉢	口縁部	— — —	横引き沈線下に弧状と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 7/1	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
55	深鉢	口縁部	— — —	内面に多段の連続刺突と交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-9	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
56	深鉢	口縁部	— — —	端部に隆帯。以下縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 5YR 6/3	灰白色 10YR 8/1	J-9	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
57	深鉢	口縁部	— — —	斜行沈線と隆帯を組み合わせたバスケット状の文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-9 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行

第50表 J-9号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線下に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	J-9 南	中期後葉 加曾和E1・E2式 並行
59	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 7.5YR 8/2	J-9 付近	中期後葉
60	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰白色 10YR 7/1	J-9 付近	中期後葉
61	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 5YR 8/2	灰白色 10YR 7/1	J-9 付近	中期後葉
62	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-9 南	中期後葉
63	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。横位沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 7/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式古
64	壺 注口	口縁部	— — —	J字状沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰白色 10YR 7/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
65	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
66	深鉢	胴部	— — —	逆U字状帯区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	淡褐色 5YR 8/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
67	深鉢	胴部	— — —	2条の隆帯貼付けのち、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
68	深鉢	胴部	— — —	沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
69	深鉢	胴部	— — —	沈線で区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	浅黄褐色 10YR 8/3	J-9 南	後期初頭 称名寺式
70	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線で連結する環状区画外に縄文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	明褐灰色 10YR 7/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
71	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線で連結する環状区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-9	後期初頭 称名寺式
72	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線で区画間に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
73	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
74	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-9 南	後期初頭 称名寺式
75	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
76	深鉢	胴部	— — —	U字状沈線区画内に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 5YR 7/4	J-9 南	後期初頭 称名寺式

第51表 J-9号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
77	深鉢	胴部	— — —	横位微隆帯間に円形刺突。以下環状微隆帯と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
78	深鉢	胴部	— — —	環状隆帯内外に縄文RLと円形の刺突が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	明褐色 5YR 7/1	J-9 南	後期初頭 称名寺式
79	深鉢	胴部	— — —	2条の弧状の隆帯外に沿って円形刺突が並ぶ。縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	褐灰色 5YR 4/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
80	深鉢	口縁部	— — —	口縁部の隆帯下に円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰白色 10YR 8/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
81	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 透明粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-9 南	後期前半
82	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-9 南	後期前半
83	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-9 付近	後期前半
84	粗製 深鉢	胴部	— — —	歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/2	J-9	後期前半
85	粗製 深鉢	胴部	— — —	歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	J-9 北	後期前半
86	粗製 深鉢	胴部	— — —	歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-9 南	後期前半
87	深鉢	底部	— — —	網代痕。	不明。	角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期前半
88	深鉢	口縁部	— — —	横位と斜行沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
89	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 7/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
90	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 5YR 7/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
91	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-9 北	後期初頭 称名寺式
92	深鉢	胴部	— — —	口縁部に把手。横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-9	後期初頭 称名寺式
93	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-9 北	後期初頭 称名寺式
94	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-9 北	後期初頭 称名寺式
95	深鉢	胴部	— — —	沈線区画周囲に隆帯。区画内縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式

第52表 J-9号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押函 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
96	深鉢	胴部	— — —	沈線区画周囲に隆帯。区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	にふい橙色 7.5YR 7/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
97	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 赤色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 10YR 7/1	J-9 南	後期初頭 称名寺式
98	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
99	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	明褐灰色 5YR 7/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
100	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 5YR 7/2	褐灰色 5YR 4/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
101	深鉢	胴部	— — —	沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 7.5YR 8/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
102	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	浅黄橙色 7.5YR 8/4	J-9 北	後期初頭 称名寺式
103	深鉢	胴部	— — —	2条一組の環状隆帯の周囲を沈線でなぞる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	灰白色 10YR 8/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
104	深鉢	胴部	— — —	2条一組のJ字状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 赤色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にふい橙色 7.5YR 7/4	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
105	深鉢	胴部	— — —	2条一組のJ字状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/3	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-9 北	後期初頭 称名寺式
106	深鉢	胴部	— — —	2条一組のJ字状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
107	深鉢	胴部	— — —	縦走、斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 7.5YR 8/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-9	後期初頭 称名寺式
108	壺	胴部	— — —	頸部に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 赤色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
109	深鉢	胴部	— — —	2条の横引き沈線内に連続の円形刺突。胴部弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
110	深鉢	胴部	— — —	2条の横引き沈線内に連続の円形刺突。胴部弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
111	深鉢	胴部	— — —	2条の沈線によるJ字区画内に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
112	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線間に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
113	深鉢	胴部	— — —	2条の横引き沈線上に8字状突起。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄橙色 10YR 7/4	にふい黄褐色 10YR 7/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式
114	深鉢	胴部	— — —	多条の縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/3	灰褐色 7.5YR 6/2	J-9 付近	後期初頭 称名寺式

第53表 J-9号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

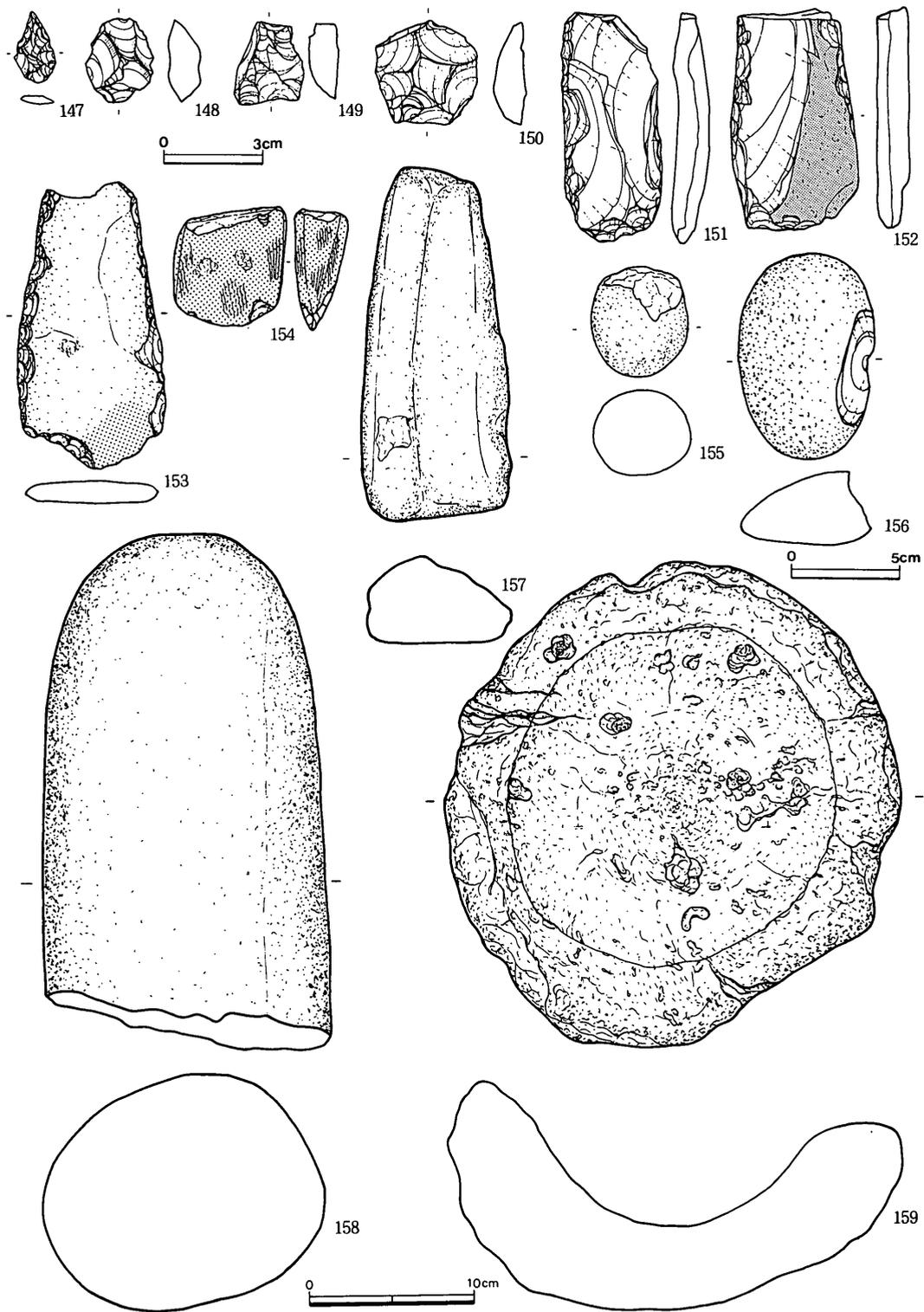
挿図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
115	深鉢	胴部	— — —	多条の縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式新
116	深鉢	胴部	— — —	多条の縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	にぶい褐色 5YR 7/3	J-9 付近	後期初頭 称名寺式新
117	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部突起下に刻みを持つ環状の隆帯。隆 帯から斜行する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-9 南	後期初頭
118	深鉢	口縁 部	— — —	渦巻き状の隆帯下を沈線でなぞる。区画内 は縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
119	深鉢	口縁 部	— — —	周囲に隆帯を持つ円形刺突を連結する斜行 隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
120	深鉢	口縁 部	— — —	突起部分。円形の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/2	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
121	深鉢	胴部	— — —	斜行隆帯下を沈線区画。区画内縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
122	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 6/2	J-9 南	後期前葉 堀之内1式
123	深鉢	胴部	— — —	2条の横引き沈線下に斜行する沈線。地文 縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/2	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
124	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。その後、垂下する 連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰褐色 5YR 4/2	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
125	深鉢	胴部	— — —	環状と斜行沈線外に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/2	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
126	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-9 南	後期前葉 堀之内1式
127	深鉢	胴部	— — —	重楕円沈線の中央に縄文LR充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	褐色 7.5YR 6/6	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
128	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線下に弧状と斜行する多条沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	褐色 2.5YR 6/6	J-9 妒 Ⅲ区	後期前葉 堀之内1式
129	深鉢	胴部	— — —	環状と斜行沈線外に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	褐灰色 5YR 6/1	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式
130	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線下に弧状と斜行する多条沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-9 付近	後期前葉 堀之内2式
131	深鉢	胴部	— — —	多条の渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 8/3	褐灰色 7.5YR 6/1	J-9 付近	後期前葉 堀之内2式
132	深鉢	胴部	— — —	多条の渦巻き状の沈線と斜行する沈線の組 み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期前葉 堀之内2式
133	深鉢	胴部	— — —	多条の渦巻き状の沈線と斜行する沈線の組 み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	灰黄褐色 10YR 5/2	J-9 付近	後期前葉 堀之内2式

第54表 J-9号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
134	深鉢	胴部	— — —	多条の渦巻き状と斜行する沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/1	褐色 7.5YR 4/1	J-9 付近	後期前葉 堀之内2式
135	深鉢	胴部	— — —	数条の横引き沈線下に多条の弧状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/1	J-9 付近	後期前葉 堀之内2式
136	深鉢	胴部	— — —	8字状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	にふい橙色 7.5YR 7/3	J-9 南	後期前葉 堀之内式
137	深鉢	胴部	— — —	2条の刻みを持つ垂下隆帯と並走する多条の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	灰白色 7.5YR 8/1	J-9 付近	後期前葉 堀之内式
138	深鉢	胴部	— — —	縦沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	明褐色 7.5YR 7/2	J-9 付近	後期前葉 堀之内式
139	深鉢	胴部	— — —	蛇行して垂下する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 7.5YR 6/4	J-9 付近	後期前葉 堀之内式
140	粗製 深鉢	口縁 部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-9 南	後期初頭
141	粗製 深鉢	口縁 部	— — —	口縁部下に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	褐色 7.5YR 6/1	J-9 南	後期初頭
142	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による波状の垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-9 南	後期初頭
143	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	にふい黄褐色 10YR 6/3	J-9 付近	後期初頭
144	深鉢	胴～ 底部	— — 9.6	底部ナデ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 7.5YR 8/4	明褐色 7.5YR 7/2	J-9 No. 6	後期初頭 称名寺式
145	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁から伸びる吸盤状の把手に円形刺突とJ字状の沈線。口縁部にも沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/2	にふい黄褐色 10YR 7/3	J-9 南	後期初頭 称名寺式
146	深鉢	口縁 部	— — —	吸盤状の把手から螺旋状に垂下し、先端がJ字状を呈する隆帯。その両わきに横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 7/3	にふい橙色 5YR 7/3	J-9 北	後期初頭

時 期

出土土器は混在が著しく、多時期にわたるが床に埋設されていた深鉢144は称名寺式後半に当たると考えられる。また、近い時期と考えられる145・146などの存在から本址は滝沢VII期縄文時代後期初頭称名寺式に並行する住居と考えておきたい。



第63図 J-9号住居址出土石器

(147~150は 1 : 2, 151~156は 1 : 3, 157~159は 1 : 4)

第55表 J-9号住居址出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
147	石鏃 未完成品	黒曜石	2.1	1.3	0.5	0.81	J-9北	154	磨製石斧						
148	石鏃 未完成品	黒曜石	2.5	2.1	1.2	5.54	J-9	155	磨石	安山岩	4.8	4.4	4.2	124.60	J-9付近
149	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	2.5	2.3	0.9	5.49	J-9	156	磨石	安山岩	9.3	6.3	3.3	271.45	J-9南
150	ビエス・ エスキュー	ガラス質 黒色安山岩	3.1	3.1	1.1	10.42	J-9南	157	角礫	安山岩	15.9	6.8	4.1	720.0	J-9 No 7 加工痕あり
151	打製石斧	安山岩	10.2	4.5	1.7	94.80	J-9付近	158	円礫	安山岩	31.2	17.2	14.4	1,124.0	J-9 No 5 加工痕あり
152	打製石斧	安山岩	9.8	5.6	1.5	111.18	J-9 Na 4	159	石鏃	軽石	29.8	27.5	15.0	3,332.6	J-9 No 1
153	打製石斧	安山岩	13.1	6.8	1.0	115.12	J-9南								

(単位cm, g)

(10) J-10号住居址

住居址 第64図

本址はく-6グリッドに位置する敷石住居址である。重複関係はない。

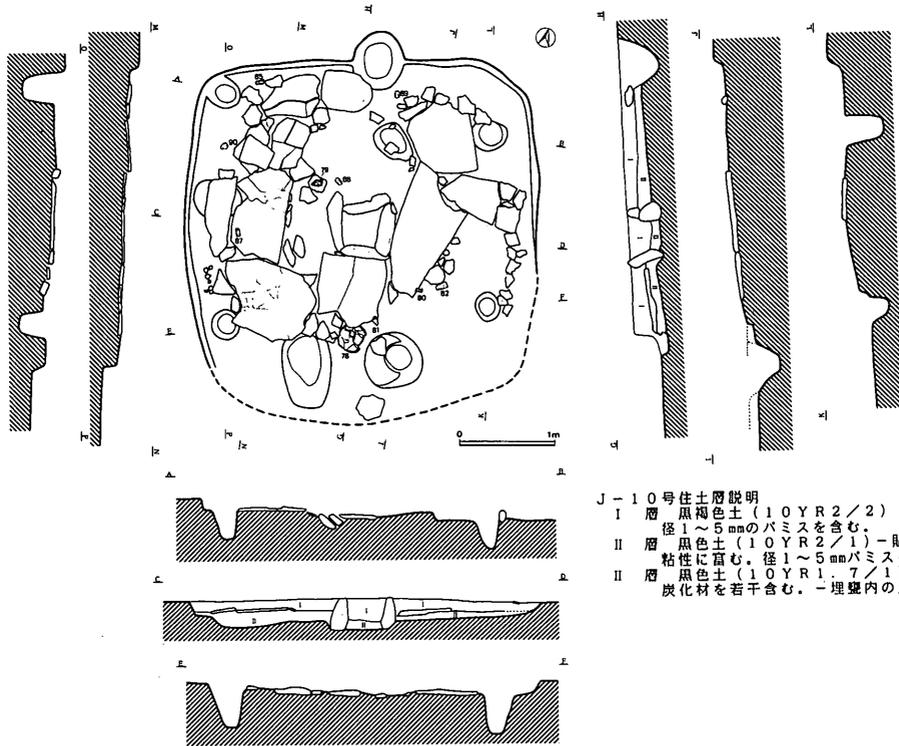
黒色土中にあるため、J-8・9号住居址と同様に落ち込みが明確に確認できたわけではないが、東西3.90m南北3.85mの隅丸方形に近いプランが想定された。推定床面積12.59㎡、長軸方向はN-13°-Wを指す。また、明瞭な対ピット(P₆・P₇)を持つ住居であるため、柄鏡形敷石住居であることも考慮し、住居南部の確認を行ったが、柄部の存否については確認できなかった。

確認面からの深さは最も残りの良い北側でも10cm内外である。

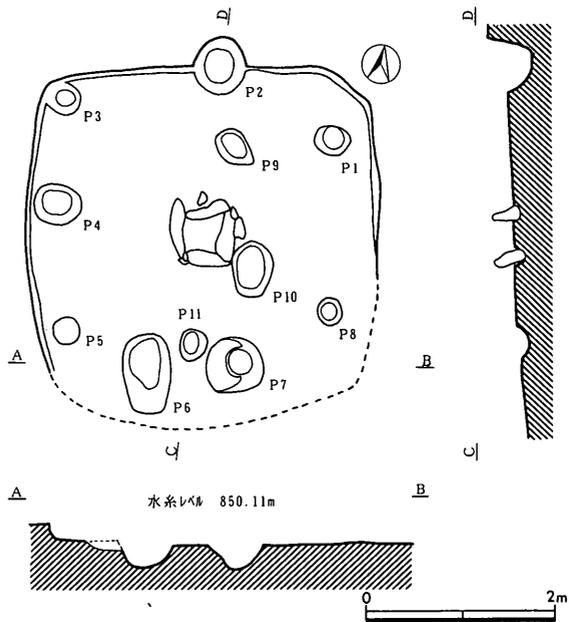
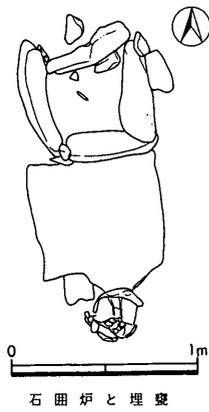
床は住居中央の炉周囲の貼り床(II層)上に整然とした敷石が施される。特に西側は広い面積を確保する扁平な安山岩と小石を組み合わせ、敷石が密集した状態を呈する。炉の北部直上は敷石が認められず、東側は3枚の大きな安山岩が北に偏って置かれ、その周辺に小礫が並べられる程度でやや希薄な敷石の状況である。また、炉の南側は1枚の大きな安山岩があり、その南端部には両耳壺78の埋甕が設置されている。このほか、北東から東壁下にかけては一系列の整然とした縁石が認められた。

ピットは11個が検出された。このうち、P₁・P₂・P₃・P₅・P₆・P₇・P₈・P₉については、敷石が覆っていない状態で検出されており、柱穴として機能したことも考えられる。

炉は住居中央に付設される石囲炉である。扁平な大石4枚を基本とし、矩形にガッチリと組み合わせている。石材は南の1枚が軽石、ほかは安山岩である。燃焼部ははっきりとした焼土の痕跡が認められなかった。



- J-10号住居土層説明 (10YR2/2)
- I 層 黒褐色土 (10YR2/1) のパミスを含む。一貼り床
 - II 層 黒色土 (10YR1.7/1) のパミスを含む。粘性に富む。径1~5mm
 - III 層 黒色土 (10YR1.7/1) の炭化材を若干含む。一埋壘内の土



第64図 J-10号住居址 (1:80)

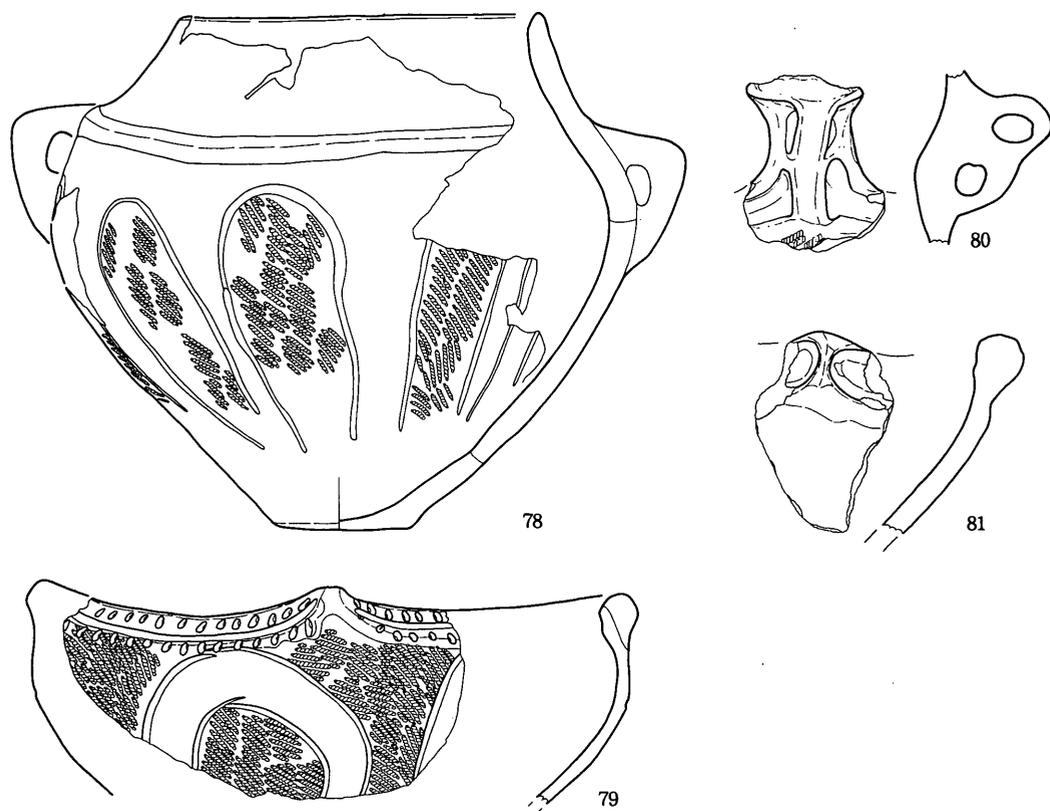
遺物 第65～68図

覆土中・床面上・ピット内から縄文土器が出土している。本址に帰属性が最も高いのは埋甕に使用された中期後葉加曾利E III式並行の両耳壺78である。

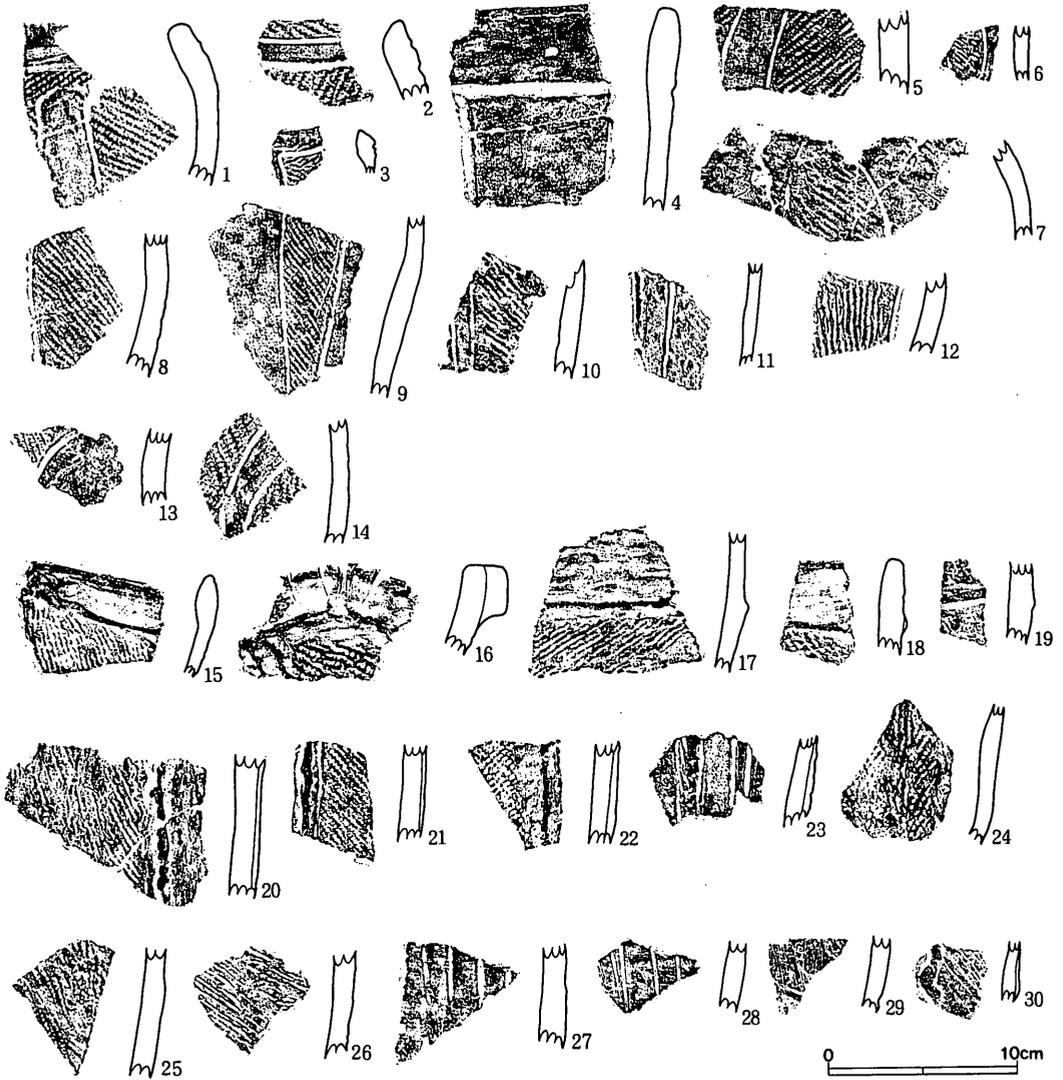
両耳壺78は橋状の把手部間を貼り付け突帯が連絡し、胴部には逆U字文が描かれる。また、床面上から出土した79は口縁部に連続刺突文が施され、胴上部にJ字状の渦巻き文が描かれる。80は深鉢の橋状把手である。以上が加曾利E III式の新しい部分の代表的遺物である。

このほか、1～30は中期後葉加曾利E IV式の深鉢で、微隆帯文(15～19・79)も含まれる。31～33は縄文前期、34～42は縄文中期初頭～中葉、43～72・74・75は中期後葉、73・76・77は後期前葉の土器群である。

石器で図示したもの82～92はすべて打製石斧で安山岩製と頁岩製がある。



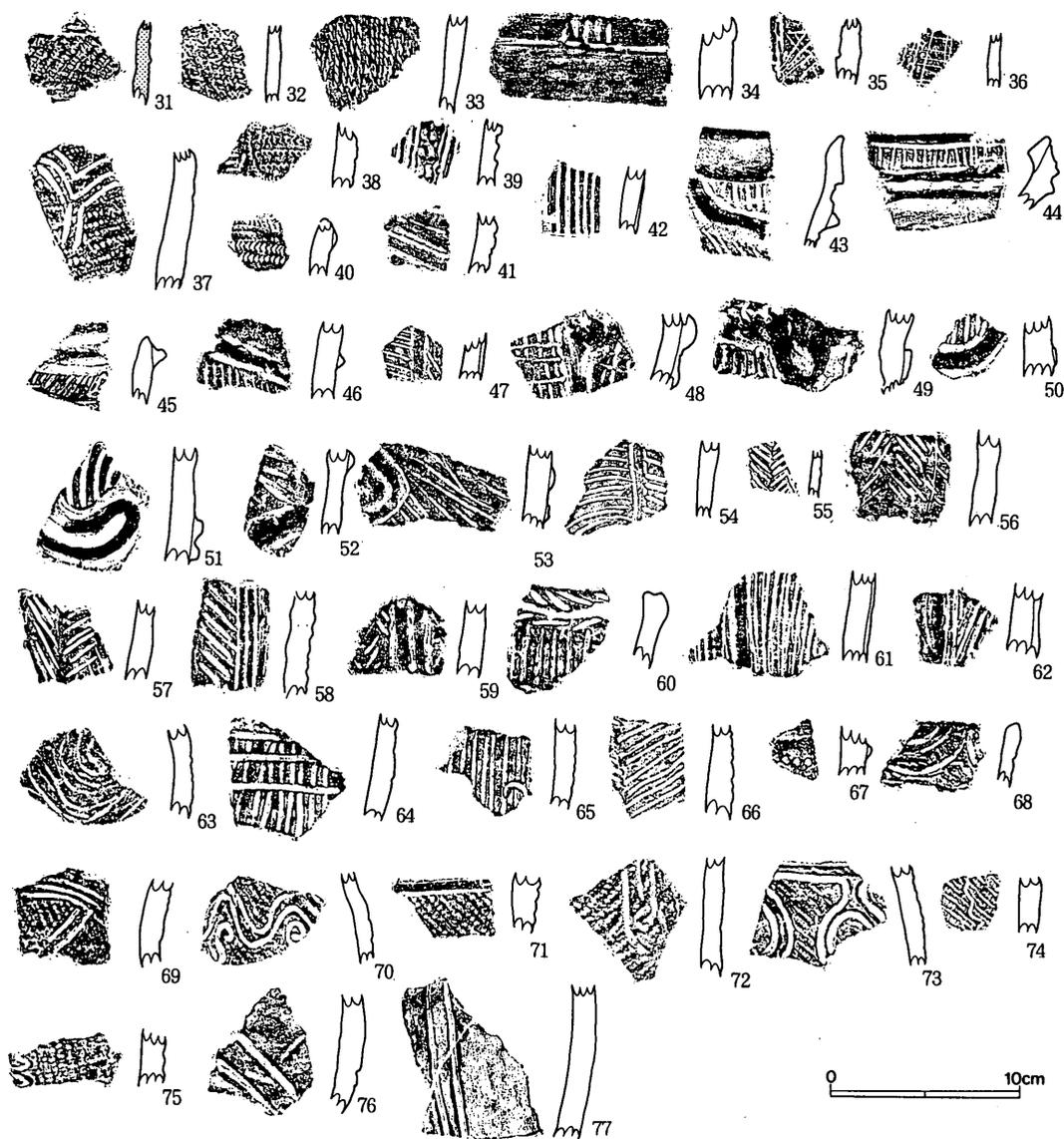
第65図 J-10号住居址出土土器(1:4)



第66図 J-10号住居址出土土器 (1:4)

時期

住居内埋甕の両耳壺78などから、本址は滝沢VI期縄文時代中期後葉加曾利E III式に並行すると考えられる。



第67图 J-10号住居址出土土器 (1:4)

第56表 J-10号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引きの沈線。以下、逆U字状に垂下する沈線を施したのち、周囲に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐色 5YR 6/6	J-10 付近	中期後葉
2	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に2条の沈線。その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 10YR 8/1	J-10 II区	中期後葉
3	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-10 I区	中期後葉
4	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引きの沈線。そこから垂下する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 6/1	J-10 No11	中期後葉
5	深鉢	胴部	— — —	2条の逆U字状の沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-10 床下	中期後葉
6	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-10	中期後葉
7	深鉢	胴部	— — —	剣先状の沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	灰白色 10YR 7/1	J-10 No13	中期後葉
8	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	褐灰色 7.5YR 6/1	J-10 IV区	中期後葉
9	深鉢	胴部	— — —	2条の垂下沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	灰白色 10YR 7/1	J-10	中期後葉
10	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを2条の垂下沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/3	にぶい褐色 5YR 7/3	J-10 II区	中期後葉
11	深鉢	胴部	— — —	2条の垂下沈線区画外に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-10 II区	中期後葉
12	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	J-10 炉	中期後葉
13	深鉢	胴部	— — —	逆U字状の沈線区画外に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-10	中期後葉
14	深鉢	胴部	— — —	逆U字状の沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	灰白色 10YR 7/1	J-10	中期後葉
15	深鉢	胴部	— — —	波状口縁。波頂部に突起。口縁部下に微隆起帯文。以下、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 5YR 2/1	褐灰色 7.5YR 5/1	J-10 I区	中期後葉
16	深鉢	胴部	— — —	波状口縁。波頂部に突起。口縁部下に微隆起帯文。以下、縄文RLを逆U字状の隆帯で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-10 床下	中期後葉
17	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。その下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	明褐灰色 7.5YR 7/1	J-10 炉	中期後葉
18	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。その下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-10 IV区	中期後葉
19	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。その下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	褐色 5YR 7/6	J-10 II区	中期後葉

第57表 J-10号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯内下をなぞる。縄文RLが一部磨り消される。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰白色 5YR 8/2	J-10 炉	中期後葉
21	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯と縄文RL。隆帯下をなぞる。	タテ方向のナデ。	白色粒子 少 角閃石 少	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-10	中期後葉
22	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯と縄文RL。隆帯下をなぞる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	明褐色 7.5YR 7/2	J-10	中期後葉
23	深鉢	胴部	— — —	2条の隆帯区画内を磨消し。その外は縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-10 I区	中期後葉
24	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-10 IV区	中期後葉
25	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-10	中期後葉
26	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 5YR 5/2	J-10	中期後葉
27	深鉢	胴部	— — —	垂下する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-10	中期後葉
28	深鉢	胴部	— — —	垂下する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	橙色 5YR 6/6	J-10 付近	中期後葉
29	深鉢	胴部	— — —	ササラ状工具による条線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰白色 10YR 8/1	J-10 付近	中期後葉
30	深鉢	胴部	— — —	波状の隆帯垂下。斜走する多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-10	中期後葉 曾利系
31	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	褐色 7.5YR 4/1	J-10	前期中葉 含繊維
32	深鉢	胴部	— — —	組紐。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	明褐色 7.5YR 7/2	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-10 IV区	前期中葉
33	深鉢	胴部	— — —	燃糸文R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-10	前期後葉
34	深鉢	胴部	— — —	隆帯上の一部に交互の刻み。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 8/2	J-10 I区	中期前葉～中葉
35	深鉢	胴部	— — —	斜行する集合沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 4/4	橙色 5YR 6/6	J-10 付近	中期前葉～中葉
36	深鉢	胴部	— — —	斜格子目状の集合沈線。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 7/6	J-10 I区	中期前葉～中葉
37	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に弧状と斜行する。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母多	褐色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 7/4	J-10 I区	中期前葉～中葉
38	深鉢	胴部	— — —	爪形、半円形などの連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-10 I区	中期前葉～中葉

第58表 J-10号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

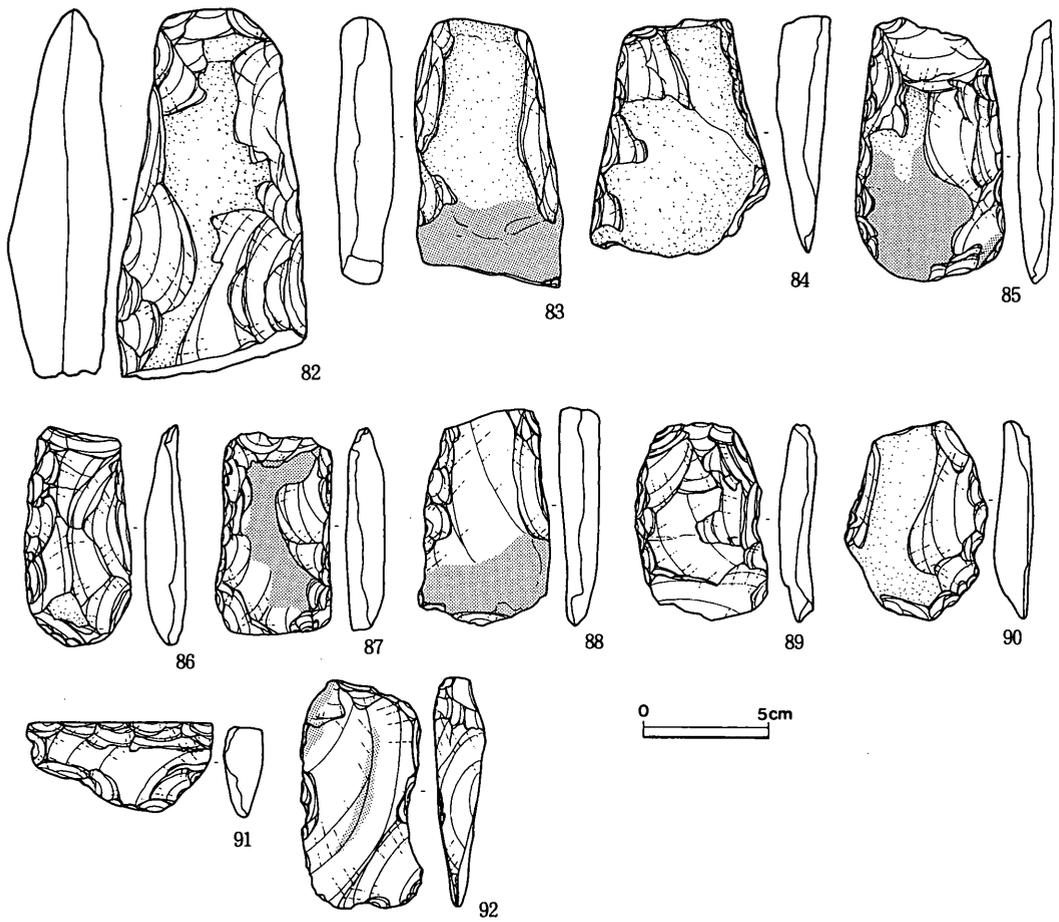
押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	縦位の多条沈間に2条の連続刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-10 II区	中期前葉~中葉
40	深鉢	胴部	— — —	爪形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-10 IV区	中期中葉 新道式
41	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	灰褐色 7.5YR 6/2	J-10	中期前葉~中葉
42	深鉢	胴部	— — —	縦位の多条沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/4	にふい橙色 5YR 6/4	J-10 付近	中期前葉~中葉
43	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に半楕円状の隆帯。その区画内に縦位沈線を並べ周囲を沈線でなぞる。胴部斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	にふい黄褐色 10YR 7/2	J-10 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
44	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部下に2条の隆帯が巡り、その上の縦位沈線を横位沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい橙色 5YR 7/3	J-10 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
45	深鉢	口縁 部	— — —	端部隆帯下に斜行する沈線が並び、隆帯下周囲を浅い沈線でなぞる。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 赤色粒子	にふい橙色 5YR 6/4	にふい橙色 5YR 7/4	J-10 IV区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
46	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部下の半楕円状隆帯区画内に斜行沈線を並べ、周囲を沈線でなぞる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/2	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
47	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯と斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
48	深鉢	胴部	— — —	こぶ状の突起から垂下する隆帯両わきに格子目状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	明赤褐色 2.5YR 5/6	J-10 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
49	深鉢	胴部	— — —	横位と楕円状隆帯の上は爪形、下は垂下する沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	にふい橙色 7.5YR 7/4	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
50	深鉢	胴部	— — —	楕円状の隆帯内に縦位に並ぶ沈線。その周囲を沈線でなぞる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
51	深鉢	胴部	— — —	2本一組の弧状隆帯と弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にふい橙色 5YR 6/4	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
52	深鉢	胴部	— — —	隆帯と斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 7.5YR 8/2	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
53	深鉢	胴部	— — —	楕円状隆帯区画外に斜行する多条沈線。隆帯を沈線でなぞる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 5YR 7/4	J-10 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
54	深鉢	胴部	— — —	肋骨状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/4	にふい橙色 5YR 7/4	J-10 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
55	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	不定方向の雑なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 5YR 6/2	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
56	深鉢	胴部	— — —	綾杉状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 7/3	淡褐色 5YR 8/3	J-10 II区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
57	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/3	にふい橙色 5YR 7/3	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行

第59表 J-10号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線と斜行する多条沈線の組み合わせ。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/3	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
59	深鉢	胴部	— — —	2条の垂下する隆帯と斜行する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/3	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
60	深鉢	胴部	— — —	端部に綾杉状沈線。以下、縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰白色 10YR 8/2	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
61	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯両わきに縦位の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 7/4	J-10 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
62	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯両わきに縦位の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
63	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 7/1	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
64	深鉢	胴部	— — —	格子目状の沈線。先に縦位、のち横位。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	明褐色 7.5YR 7/2	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
65	深鉢	胴部	— — —	縦位の多条沈線上に先端半円状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
66	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 6/3	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
67	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に円形の連続刺突。	タテ方向のナ デ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
68	深鉢	口縁部	— — —	縄文RL上に重弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 5/1	褐色 5YR 5/1	J-10 II区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
69	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	明褐色 7.5YR 7/2	J-10	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
70	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に波状とS字状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	褐色 7.5YR 5/1	J-10 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
71	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-10 付近	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
72	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に垂下する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-10 I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
73	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に横引きの沈線で連結する環状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-10 IV区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
74	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に垂下する蛇行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-10 IV区	中期後葉
75	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に垂下する蛇行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-10 IV区	中期後葉
76	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 7.5YR 8/2	J-10 IV区	後期前葉

第60表 J-10号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
77	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 7/1	J-10 IV区	後期前葉
78	両耳壺	口～ 底部	(18.8) 26.0 7.0	橋状把手上位に横位隆帯が巡る。以下逆U 字状沈線内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 2.5YR 6/6	にぶい橙色 2.5YR 6/4	J-10 No.13	中期後葉 加曾利EⅢ式並行
79	深鉢	口縁 部	(30.5) — —	波状口縁。波頂部の突起から伸びる2列の 連続刺突間に横位沈線。以下、逆U字状沈 線区画外に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	黒色 7.5YR 2/1	J-10 No.4	中期後葉 加曾利EⅢ式並行
81	深鉢	口縁 部	— — —	吸盤状の把手に二段の橋状把手。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-10 No.9	中期後葉
82	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁。波頂部に突起。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	灰白色 10YR 7/1	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-10 No.10	中期後葉



第68図 J-10号住居址出土石器 (1:3)

第61表 J-10号住居址出土石器一覽表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
82	打製石斧	安山岩	14.5	7.5	4.0	506.3	J-10 No 8	88	打製石斧	頁 岩	8.5	5.3	1.6	81.84	J-10 No 5
83	打製石斧	安山岩	10.6	5.7	2.3	211.26	J-10 床下	89	打製石斧	頁 岩	7.7	5.1	1.3	76.96	J-10 No 6
84	打製石斧	安山岩	9.3	7.0	1.7	134.75	J-10 床下	90	打製石斧	頁 岩	7.8	5.5	1.4	70.79	J-10 No 2
85	打製石斧	頁 岩	10.4	5.9	1.3	108.67	J-10 No 3	91	打製石斧	頁 岩	3.5	7.2	1.5	42.46	J-10 炉
86	打製石斧	頁 岩	8.6	4.2	1.6	62.83	J-10	92	打製石斧	頁 岩	8.9	4.8	2.0	89.52	J-10 床下
87	打製石斧	頁 岩	8.0	4.6	1.4	74.21	J-10 No 1								

(単位cm, g)

(11) J-11号住居址

住居址 第69図

本址はくー6グリッドに位置する。重複関係は持たない。

東西2.44m南北2.30mの円形プランを呈し、床面積は4.64㎡を測る。

壁高は21cm～40cmを測り、北から南へ向かうほどレベルを減じる。壁溝は持たない。

床は地山を利用しおおむね平坦な面をなす。

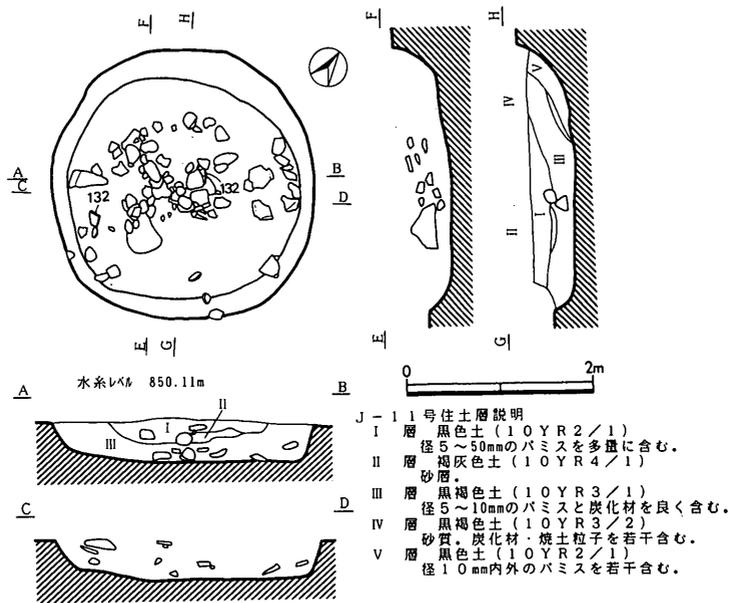
ピット・炉は検出されなかった。

覆土は5層に分層された。炭化材・焼土の薄い堆積層IV層の存在から推しはかると、本址埋没過程で火入れ行為が行われた可能性が高い。

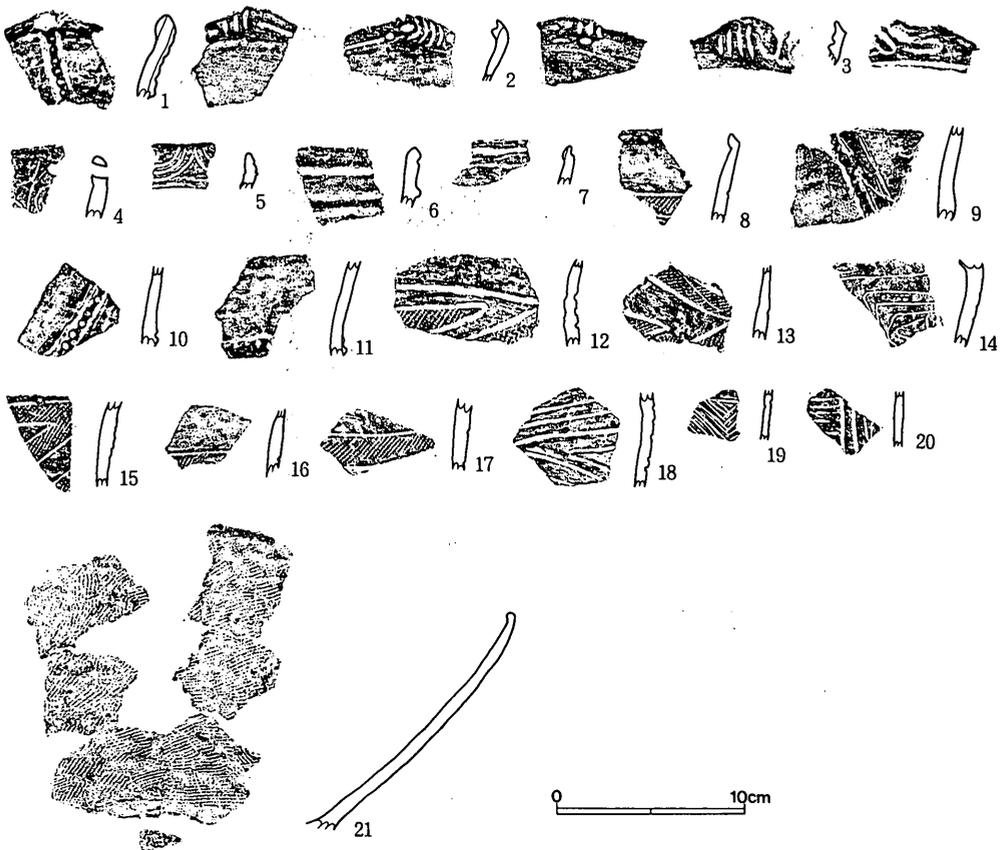
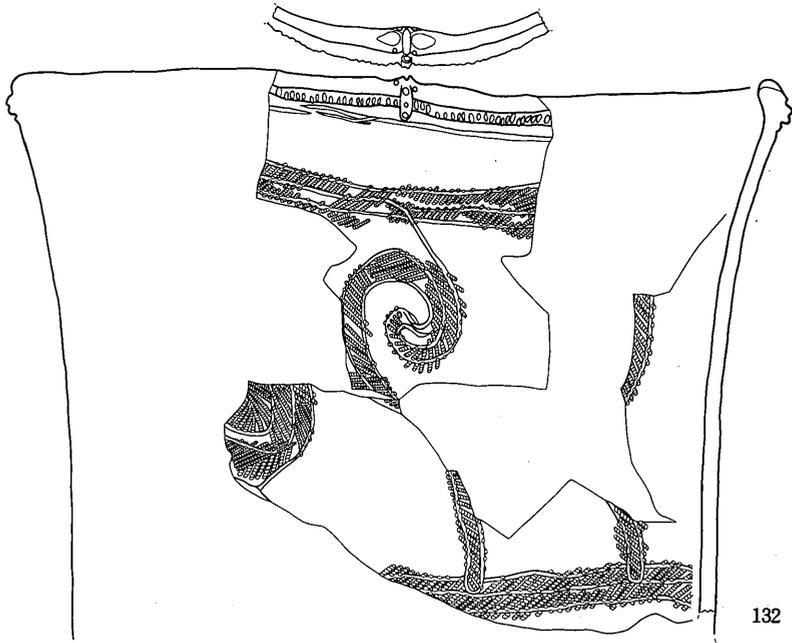
遺物 第70～75図

住居中央に濃密な分布を示す礫とともに多量の土器片も分布していた。やはり縄文中期～後期各時期の混在が著しい。

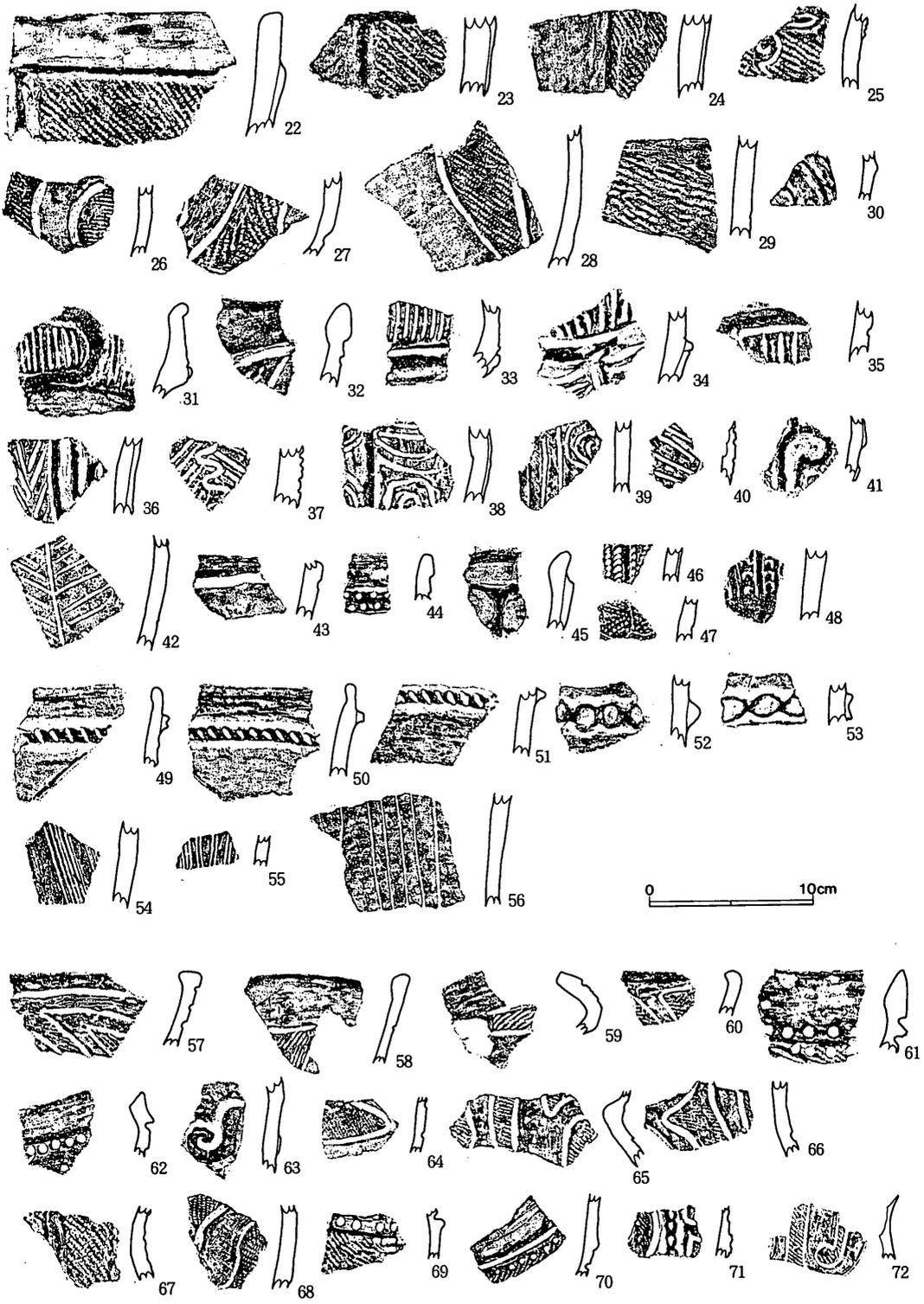
1～21・132は後期前葉堀之内2式の土器で1～5・9～11は口縁部に刻みを持つ隆帯が垂下する深鉢、6～8・12～21は縄文充填を基本とした幾何学的文様を持つ朝顔形深鉢、21は器面全部



第69図 J-11号住居址 (1:80)



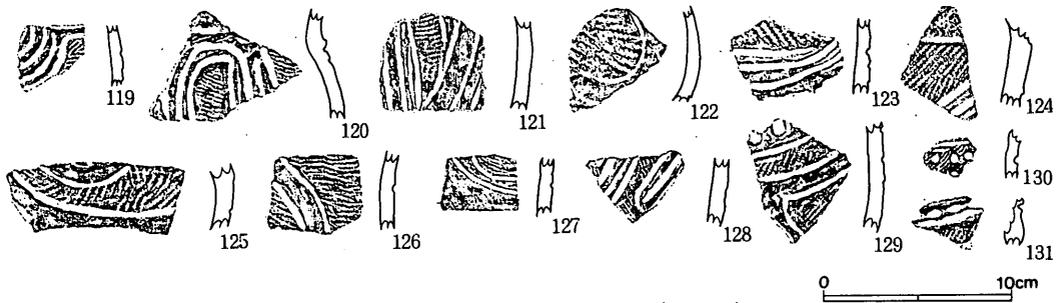
第70图 J-11号住居址出土土器 (1:4)



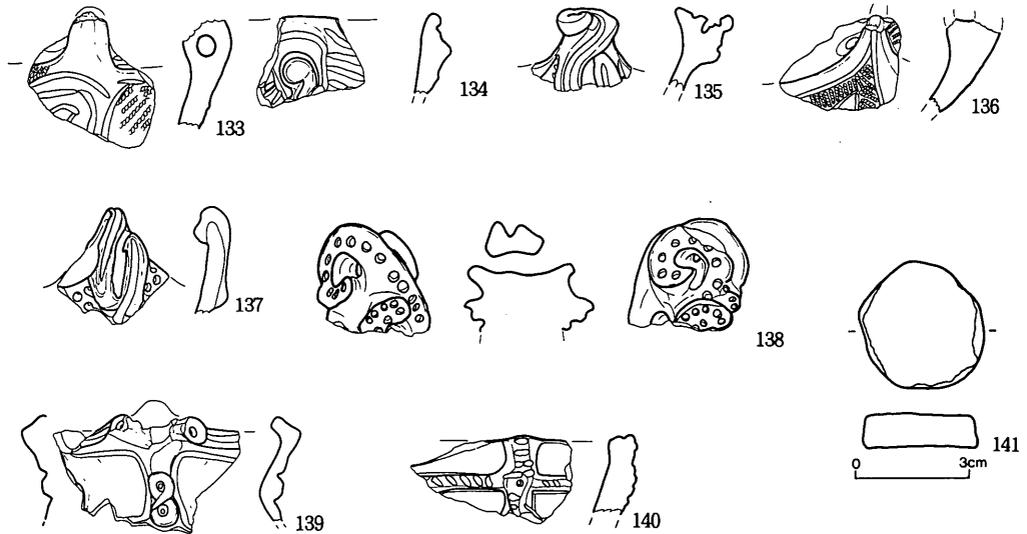
第71图 J-11号住居址出土土器 (1:4)



第72图 J-11号住居址出土土器 (1:4)



第73図 J-11号住居址出土土器 (1:4)



第74図 J-11号住居址出土土器 (1:4), 土円盤 (1:2)

に縄文が施される浅鉢である。132は寸胴な大型深鉢で、口縁部下に刻みを持つ横位隆帯と沈線が巡り、隆帯上数か所に円形刺突を持つ突起が貼り付けられる。胴部は上下に各二帯の沈線区画による縄文帯を配し、その間隙を渦巻き状の縄文帯で連結する。

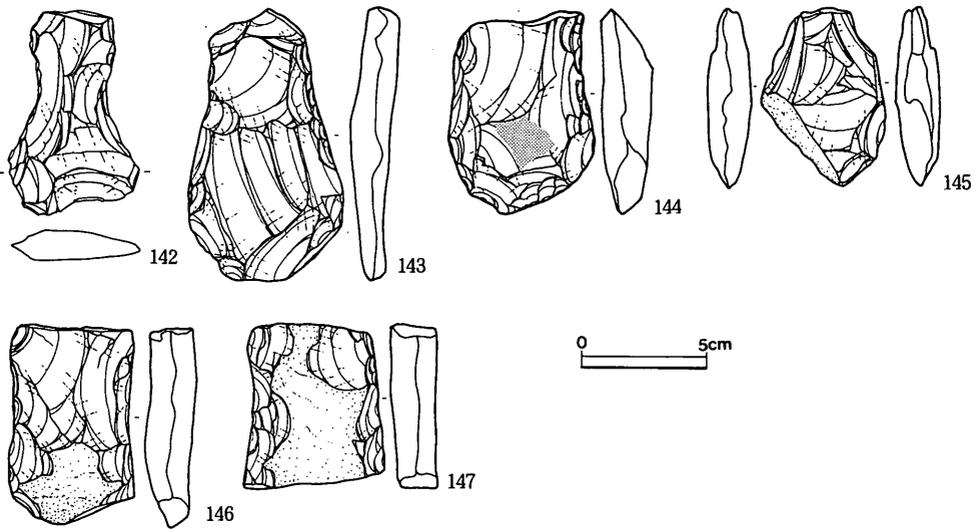
このほか、22~48・133・134は中期後半、49~56は後期前半の粗製深鉢、57~66・68~80・135~138は後期初頭の称名寺式土器、85~131・139・140は後期前葉堀之内1式並行の土器である。

石器で図示したもの142~147はすべて打製石斧で安山岩製と頁岩製がある。

土製品は円板141がある。

時期

以上の出土土器で最も新しい時期の滝沢Ⅷ期後期前葉堀之内2式が本址の帰属時期と考えられる。



第75図 J-11号住居址出土石器 (1:3)

第62表 J-11号住居址出土石器一覽表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
142	打製石斧	頁 岩	7.9	5.1	1.2	51.77	J-11 IV区	145	打製石斧	頁 岩	6.9	4.8	1.7	60.98	J-11
143	打製石斧	頁 岩	10.7	6.2	1.5	107.68	J-11 III区	146	打製石斧	安山岩	7.9	5.0	1.8	109.25	J-11 I区
144	打製石斧	頁 岩	8.0	5.8	1.8	97.65	J-11 No.5	147	打製石斧	安山岩	6.4	5.7	1.8	112.37	J-11 I区

(単位cm, g)

第63表 J-11号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁部	— — —	口縁部小波状を呈す。波頂部から垂下する刻みを持つ隆帯。裏面3条の縦位沈線と円形刺突から横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰白色 2.5Y 7/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-11 Ⅳ区	後期前葉 堀之内2式
2	深鉢	口縁部	— — —	波状部に4条の縦位沈線と円孔。円形刺突から横引きの沈線。裏面2個一組の円形刺突と3条の縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 7.5YR 5/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉 堀之内2式
3	深鉢	口縁部	— — —	波頂部に沈線を持つ突起と4条の沈線。裏面横U字状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
4	深鉢	口縁部	— — —	円孔あり。鋭利な沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 10YR 5/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉 堀之内2式
5	深鉢	口縁部	— — —	重弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 6/2	J-11 付近	後期前葉 堀之内2式
6	深鉢	口縁部	— — —	横引きの沈線と隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰白色 5YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅰ区	後期前葉 堀之内2式
7	深鉢	口縁部	— — —	端部に横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰白色 10YR 8/2	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
8	深鉢	口縁部	— — —	細文LRを2条の横引き沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 7/1	J-11 付近	後期前葉 堀之内2式
9	深鉢	口縁部	— — —	垂下する刻みを持つ隆帯と並走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-11	後期前葉 堀之内2式
10	深鉢	口縁部	— — —	垂下する刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰白色 7.5YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
11	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	胴部上位に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/2	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
12	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画間に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
13	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画間に細文LRを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	褐灰色 7.5YR 6/1	J-11	後期前葉 堀之内2式
14	深鉢	胴部	— — —	重三角状の沈線。	タテ、ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
15	深鉢	胴部	— — —	重三角状の沈線区画内に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	灰白色 10YR 8/1	J-11 付近	後期前葉 堀之内2式
16	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に細文LRを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
17	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に細文LRを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅰ区	後期前葉 堀之内2式
18	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅱ区	後期前葉 堀之内2式
19	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 7/3	J-11 Ⅳ区	後期前葉 堀之内2式

第64表 J-11号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	縦位・横位の多条沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	褐灰色 5YR 6/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉 堀之内2式
21	浅鉢	胴部	— — —	縄文RL全面に充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/3	にふい橙色 7.5YR 7/4	J-11 Ⅳ区	後期前葉 堀之内2式
22	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下～胴部T字状の微隆起帯文。胴部は縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/4	にふい橙色 5YR 7/4	J-11 Ⅰ区	中期後葉
23	深鉢	胴部	— — —	口縁部下～胴部にT字状の微隆起帯文。垂下隆帯を境に縄文RLと無文部あり。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にふい橙色 7.5YR 7/4	J-11 Ⅰ区	中期後葉
24	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯文を境に縄文RLと無文部。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅱ区	中期後葉
25	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に先端が渦巻き、以下蛇行しながら垂下する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/1	にふい黄褐色 10YR 7/3	J-11 Ⅲ区	中期後葉
26	深鉢	底部	— — —	2条の弧状沈線区画内は無文。外は縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	浅黄褐色 10YR 8/3	J-11	中期後葉
27	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅰ区	中期後葉
28	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	にふい黄褐色 10YR 7/3	J-11 Ⅳ区	中期後葉
29	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-11 Ⅱ区	中期後葉
30	深鉢	胴部	— — —	2条の隆帯区画内外ともに無文でミガキ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	褐灰色 10YR 6/1	J-11 Ⅰ区	中期後葉
31	深鉢	口縁部	— — —	楕円状隆帯区画内に沿って沈線。区画内外は縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/2	にふい黄褐色 10YR 7/2	J-11 Ⅲ区	中期後葉
32	深鉢	口縁部	— — —	楕円区画内に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	にふい橙色 7.5YR 7/4	J-11 Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
33	深鉢	口縁部	— — —	口縁部区画内に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	にふい橙色 7.5YR 7/3	J-11 Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
34	深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	口縁部隆帯下を沈線区画し、その中に縦位の沈線を並べる。胴部は垂下隆帯下に沈線。両わきに横位の多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/3	にふい橙色 7.5YR 7/4	J-11 Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
35	深鉢	口縁部	— — —	口縁部隆帯下を沈線区画し、縦位の沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	灰褐色 7.5YR 6/2	J-11 付近	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
36	深鉢	胴部	— — —	3条の垂下隆帯・沈線と綾杉状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい橙色 5YR 7/4	J-11 付近	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
37	深鉢	胴部	— — —	綾杉状沈線上に蛇行する沈線。	不定方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 7/1	J-11 付近	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
38	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯両わきに、重弧状の沈線と渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。接合痕消えず。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行

第65表 J-11号住居址出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と垂下する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	明褐色 7.5YR 7/2	J-11 Ⅲ区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
40	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	褐色 7.5YR 5/1	J-11	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
41	深鉢	胴部	— — —	腕骨状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子 黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 6/3	J-11 Ⅲ区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
42	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯をはさんで綾杉状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	浅黄褐色 10YR 8/3	J-11	中期後葉
43	深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐色 5YR 6/6	J-11	中期後葉
44	深鉢	口縁部	— — —	口縁部下の2条の横引き沈線間に連続円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-11 Ⅱ区	中期後葉
45	深鉢	口縁部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 2.5YR 8/1	J-11 Ⅳ区	中期後葉
46	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯両わきに垂下する爪形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-11 付近	中期後葉
47	深鉢	胴部	— — —	菱形状に並ぶ連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 4/2	J-11 Ⅲ区	中期後葉
48	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線に並走する爪形の連続刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅰ区	中期後葉
49	粗深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	口縁部下に刻みを持つ隆帯。以下に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 6/4	灰褐色 5YR 6/1	J-11 Ⅰ区	後期初頭
50	粗深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	口縁部下に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	明褐色 7.5YR 7/1	J-11	後期初頭
51	粗深鉢	胴部	— — —	口縁部下に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 8/2	J-11 Ⅰ区	後期初頭
52	粗深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/3	明褐色 7.5YR 7/1	J-11 Ⅳ区	後期初頭
53	粗深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	タテ、ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-11 Ⅰ区	後期初頭
54	粗深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-11 Ⅲ区	後期初頭
55	粗深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-11 付近	後期初頭
56	粗深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 7.5YR 8/1	J-11 Ⅳ区	後期初頭
57	深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	逆三角状の沈線区画内に縄文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	にぶい褐色 5YR 6/4	J-11 付近	後期初頭

第66表 J-11号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押込 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-11 Ⅲ区	後期初頭
59	深鉢	口縁 部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅰ区	後期初頭
60	深鉢	口縁 部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 7/1	J-11 付近	後期初頭
61	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下横位隆帯上下に2列の連続円形刺突。胴部地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	J-11 Ⅱ区	後期初頭
62	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部横位隆帯下に連続円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 5/2	J-11 Ⅳ区	後期初頭
63	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-11 付近	後期初頭
64	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/2	J-11 Ⅰ区	後期初頭
65	深鉢	胴部	— — —	沈線区画したのち、縄文RLを充填。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 付近	後期初頭
66	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-11 Ⅱ区	後期初頭
67	深鉢	胴部	— — —	幅広い垂下沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	灰褐色 5YR 6/2	J-11 Ⅲ区	
68	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 7/3	J-11 Ⅱ区	後期初頭
69	深鉢	胴部	— — —	隆帯の上に連続円形刺突。下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	J-11 付近	後期初頭
70	深鉢	胴部	— — —	弧状の隆帯下に沈線。縄文LR上に円形連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/4	灰白色 10YR 7/1	J-11 Ⅲ区	後期初頭
71	深鉢	胴部	— — —	刺突を持つ垂下隆帯面わきに縄文RL地文の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	灰褐色 5YR 5/2	J-11 付近	後期初頭
72	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを沈線区画。	不明。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅱ区	後期初頭
73	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文LR充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	J-11 Ⅲ区	後期初頭
74	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文RL充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 6/1	J-11 Ⅱ区	後期初頭
75	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-11 Ⅳ区	後期初頭
76	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LRを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	褐灰色 7.5YR 5/1	J-11 付近	後期初頭

第67表 J-11号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
77	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線区画内外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅳ区	中期末葉～後 期初頭
78	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-11 Ⅲ区	後期初頭
79	深鉢	胴部	— — —	縄文LRを弧状の沈線で区画。縄文はほと んどナデ消されている。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	明褐色 5YR 7/1	J-11 Ⅰ区	後期初頭
80	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-11	後期初頭
81	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	網代痕。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 7/3	J-11 Ⅳ区	後期初頭
82	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	褐色 7.5YR 6/1	J-11 Ⅲ区	後期初頭
83	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 5/1	灰褐色 7.5YR 6/2	J-11 Ⅳ区	後期初頭
84	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰褐色 7.5YR 6/2	J-11 Ⅲ区	後期初頭
85	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部から垂下する隆帯上に円形刺突と沈 線。隆帯下に楕円状沈線。	ヨコ方向の丁 竪なナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 4/1	灰褐色 10YR 6/2	J-11	後期前葉
86	深鉢	口縁 部	— — —	円形刺突と沈線。	ヨコ方向の丁 竪なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-11 付近	後期前葉
87	深鉢	口縁 部	— — —	小突起下に3条の縦位沈線。そこから円形 刺突に連結する横引き沈線。小突起下から 刻みを持つ隆帯垂下。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-11 付近	後期前葉
88	深鉢	口縁 部	— — —	小突起下から円形刺突に連結する横引き沈 線。以下斜行する沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉
89	深鉢	把手	— — —	円孔あり。内面は円孔周囲に円形刺突と沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 5/1	灰白色 7.5YR 8/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
90	深鉢	口縁 部	— — —	楕円状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 5/1	灰白色 10YR 7/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉
91	深鉢	口縁 部	— — —	横引きの沈線と刻みを持つ隆帯下に斜行す る沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 6/1	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
92	深鉢	口縁 部	— — —	横引きの沈線下に斜行する沈線と刺突の粗 み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	褐色 10YR 5/1	J-11 Ⅰ区	後期前葉
93	深鉢	口縁 部	— — —	粘土紐4帯による突起。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/1	J-11 Ⅱ区	後期前葉
94	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	小突起下に5条の縦位沈線。両わきの円形 刺突から横引き沈線。胴部垂下する蛇行沈 線と矩形沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	褐色 7.5YR 6/1	J-11 付近	後期前葉
95	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部横引き沈線。以下重三角状の沈線区画 間に縄文LR。その下は環状の沈線を横引 き沈線で結ぶ。	ヨコ方向の丁 竪なナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 5/1	明褐色 7.5YR 7/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉

第68表 J-11号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
96	深鉢	胴部	— — —	8字状突起下に円形刺突から横引き沈線。 弧状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	褐灰色 7.5YR 4/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
97	深鉢	胴部	— — —	横位の刻みを持つ隆帯下に斜行する沈線区 画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 付近	後期前葉
98	深鉢	胴部	— — —	2条の横引き沈線間に連続円形刺突上に8 字状突起。そこから垂下する刻みを持つ隆 帯。両わきに斜行する沈線と縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
99	深鉢	胴部	— — —	2条の刻みを持つ隆帯上に8字状突起。以 下斜行する沈線と縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/2	にふい黄褐色 10YR 7/2	J-11	後期前葉
100	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯下に矩形的沈線区画。区画 内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/2	にふい橙色 5YR 7/3	J-11 Ⅳ区	後期前葉
101	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-11 Ⅳ区	後期前葉
102	深鉢	胴部	— — —	円形刺突と横引きの沈線下に弧状の沈線区 画外に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	明褐灰色 7.5YR 7/2	J-11 付近	後期前葉
103	深鉢	胴部	— — —	周囲に隆帯を持つ円形刺突と沈線区画内に 縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/2	にふい橙色 7.5YR 7/3	J-11 Ⅳ区	後期前葉
104	深鉢	胴部	— — —	2条の横引き沈線下に縄文L R。	ヨコ方法のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 2.5Y 8/1	J-11 付近	後期前葉
105	深鉢	胴部	— — —	T字状の刻みを持つ隆帯に沿って2条の沈 線。その間に刻み。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅰ区	後期前葉
106	深鉢	胴部	— — —	円形刺突を中心に横位と斜行する隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/2	にふい黄褐色 10YR 7/2	J-11 Ⅰ区	後期前葉
107	深鉢	胴部	— — —	2条の沈線間に連続の刻み。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	灰白色 10YR 8/2	J-11 Ⅳ区	後期前葉
108	深鉢	胴部	— — —	垂下する刻みを持つ隆帯下に沈線区画。一 部縄文L Rを充填。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉
109	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線を組み合わせた区画の一部に 縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	にふい黄褐色 10YR 7/2	J-11 付近	後期前葉
110	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にふい橙色 7.5YR 7/3	J-11 Ⅳ区	後期前葉
111	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	灰白色 2.5Y 7/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
112	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	にふい黄褐色 10YR 7/3	J-11 Ⅳ区	後期前葉
113	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	にふい褐色 7.5YR 6/3	J-11 Ⅰ区	後期前葉
114	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方法のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	にふい黄褐色 10YR 7/3	J-11 Ⅳ区	後期前葉

第69表 J-11号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
115	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-11 Ⅳ区	後期前葉
116	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に逆U字状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	褐灰色 7.5YR 4/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
117	深鉢	胴部	— — —	矩形と弧状の沈線。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
118	深鉢	胴部	— — —	楕円状の沈線が縦に並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
119	深鉢	胴部	— — —	重弧状の沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅳ区	後期前葉
120	深鉢	胴部	— — —	楕円状沈線内外に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
121	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯両わきに斜行する沈線区画。一部に縄文LR充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	黄灰色 2.5Y 4/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉
122	深鉢	胴部	— — —	円形の沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	褐灰色 7.5YR 5/1	J-11 付近	後期前葉
123	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰褐色 7.5YR 6/2	J-11 Ⅰ区	後期前葉
124	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 7/1	黄灰色 2.5Y 5/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉
125	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内の一部に縄文LRを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	明褐色 7.5YR 7/1	J-11 Ⅲ区	後期前葉
126	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画外に縄文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/2	J-11 Ⅱ区	後期前葉
127	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	褐灰色 7.5YR 6/1	J-11 Ⅱ区	後期前葉
128	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線区画内の一部に縄文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 10YR 4/1	J-11 Ⅳ区	後期前葉
129	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線区画内に縄文LRを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 7/3	J-11 付近	後期前葉
130	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LRを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐灰色 5YR 5/1	J-11 Ⅰ区	後期前葉
131	深鉢	胴部	— — —	円形刺突。沈線。縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 10YR 6/1	J-11 付近	後期前葉
132	深鉢	口縁 ～ 胴部	(39.6) — —	ずん胴。端部に沈線と円形刺突を持つ小突起と3個の円形刺突を持つ突起。その下に刻みを持つ横位隆帯と沈線。胴部上下の縄文LRを持つ横位沈線間を渦巻き状沈線で連結。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/4	にぶい褐色 5YR 7/4	J-11 Ⅰ区 Ⅳ区 No.1	後期前葉 堀之内2式

第70表 J-11号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
133	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	橋状の把手下に渦巻き状の沈線。そのおきに細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	にぶい黄橙色 10YR 6/3	J-11 IV区	中期後葉
134	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	腕骨状隆帯両わきに多条の斜行沈線。その後、隆帯周囲を沈線で囲う。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-11 I区	中期後葉
135	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	吸盤状の突起に沈線が螺旋状に巡る。そのわきに円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	褐色 10YR 4/1	J-11 IV区	後期初頭
136	鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部に突起あり。沈線区画内に細文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 5/1	灰黄褐色 10YR 6/2	J-11 IV区	後期初頭
137	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁。頂部に2条の帯状隆帯。両わきに円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-11	後期初頭
138	深鉢	口縁 部	— — —	環状把手に円形連続刺突。	—	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	にぶい橙色 10YR 6/1	J-11 II区	後期初頭
139	深鉢	胴部	— — —	口縁部に円形刺突を持つ円盤と横引き沈線。以下垂下する8字状突起間に沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 5/1	灰褐色 7.5YR 5/2	J-11 I区	後期前葉
140	深鉢	口縁 部	— — —	刻みを持つ十字状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-11 III区	後期前葉

(12) J-12号住居址

住居址 第76図

本址はえー4グリッドに位置する。周囲全体にJ-14号住居址と重複する。

東西3.76m南北3.66mの円形プランを呈し、床面積は9.08㎡を測る。

壁高は北は高く、南は低い状況にあり、6～46cmを測る。壁溝は検出されなかった。

床面は地山を叩き締め、堅固でおおむね平坦な面をなす。

ピットは4個が検出された。P₁・P₂・P₄は支柱穴、P₃ははっきりわからない。P₁は26×37cmで深さ30cm、P₂は34×46cmで深さ26cm、P₃は24×39cmで深さ8cm、P₄は25×38cmで深さ21cmを測る。

炉は住居中央に設けられる。底の抜けた深鉢(第76図155)を利用した土器埋設炉であるが土器内に灰・焼土等の堆積は認められなかった。

覆土はおおむね黒褐色土I層からなり、壁際には黒色土II層も認められた。

遺物 第77~81図

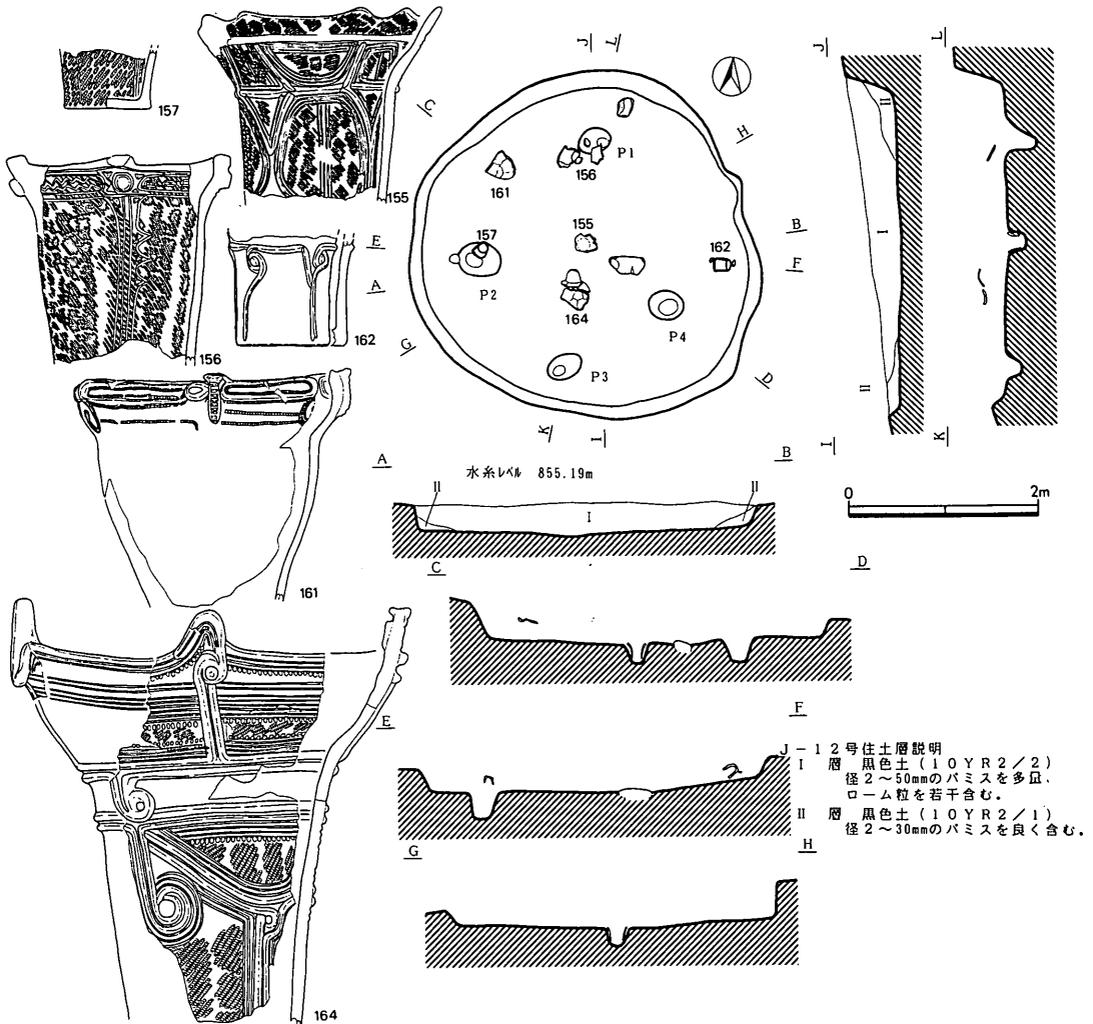
覆土中から縄文土器が出土している。出土量は割合多い。

器種はほとんどが深鉢で、それ以外は109・110の浅鉢がみられる程度である。

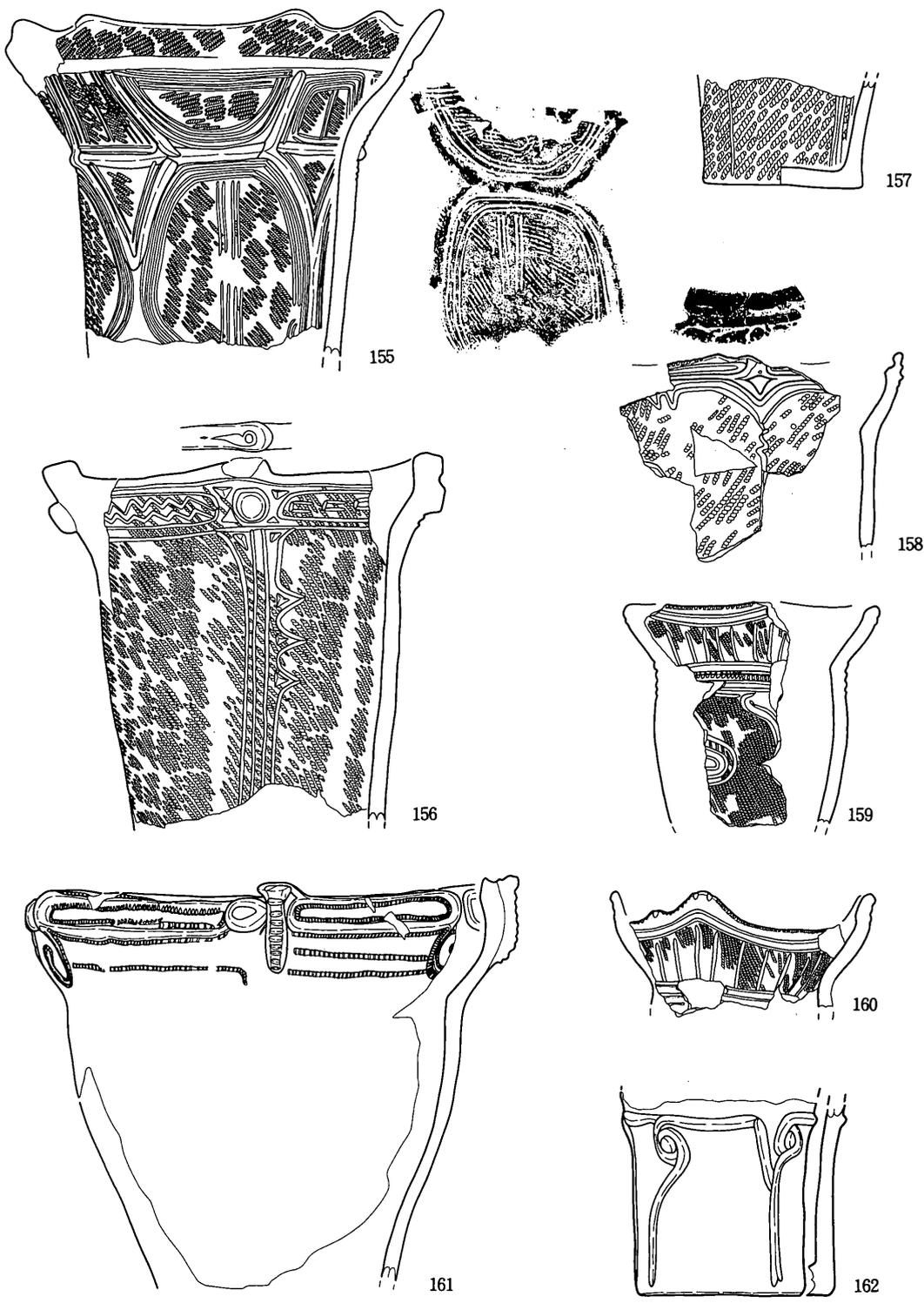
地文に縄文を多用する土器としない土器があり、前者は155~160・1~75、後者は76~108・161・162などである。

縄文を多用する代表格が155で器形がキャリパー状を呈し、口縁部に山形の突起、縄文地にY字状隆帯、隆帯区画内はいわゆる玉抱き三叉文が施される。これと同様の土器は1~45と考えられる。また、156~160・46~75は隆帯を用いず、口縁部文様帯下は垂下沈線を多用する。

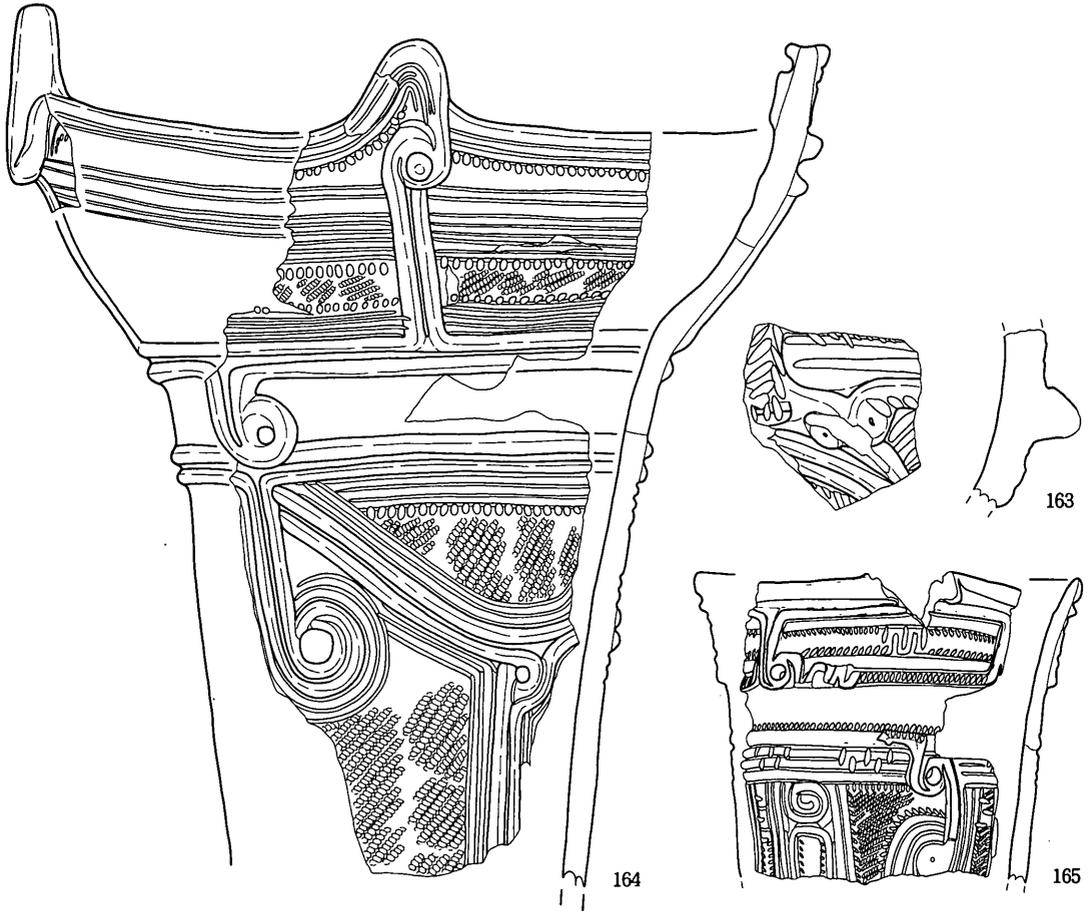
縄文をあまり用いない土器のうち、特に161は口縁部に押引文を主体とする文様が集中し、本址のなかでは他に例をみない。162も同様に例をみず、胴部下位に継ぎ手状に連結する垂下隆帯が貼



第76図 J-12号住居址 (1:80)



第77图 J-12号住居址出土土器 (1:4)

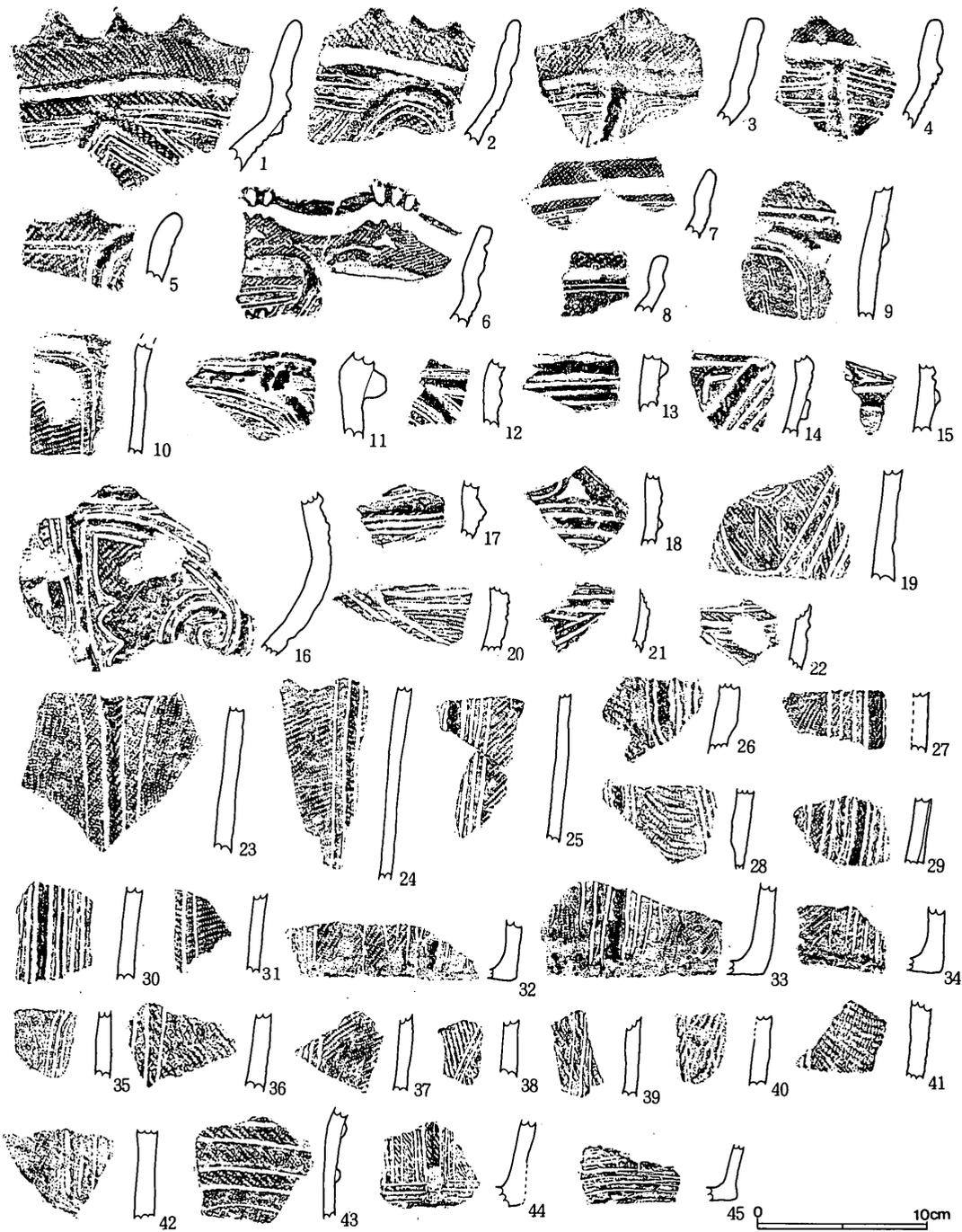


第78図 J-12号住居址出土土器（1：4）

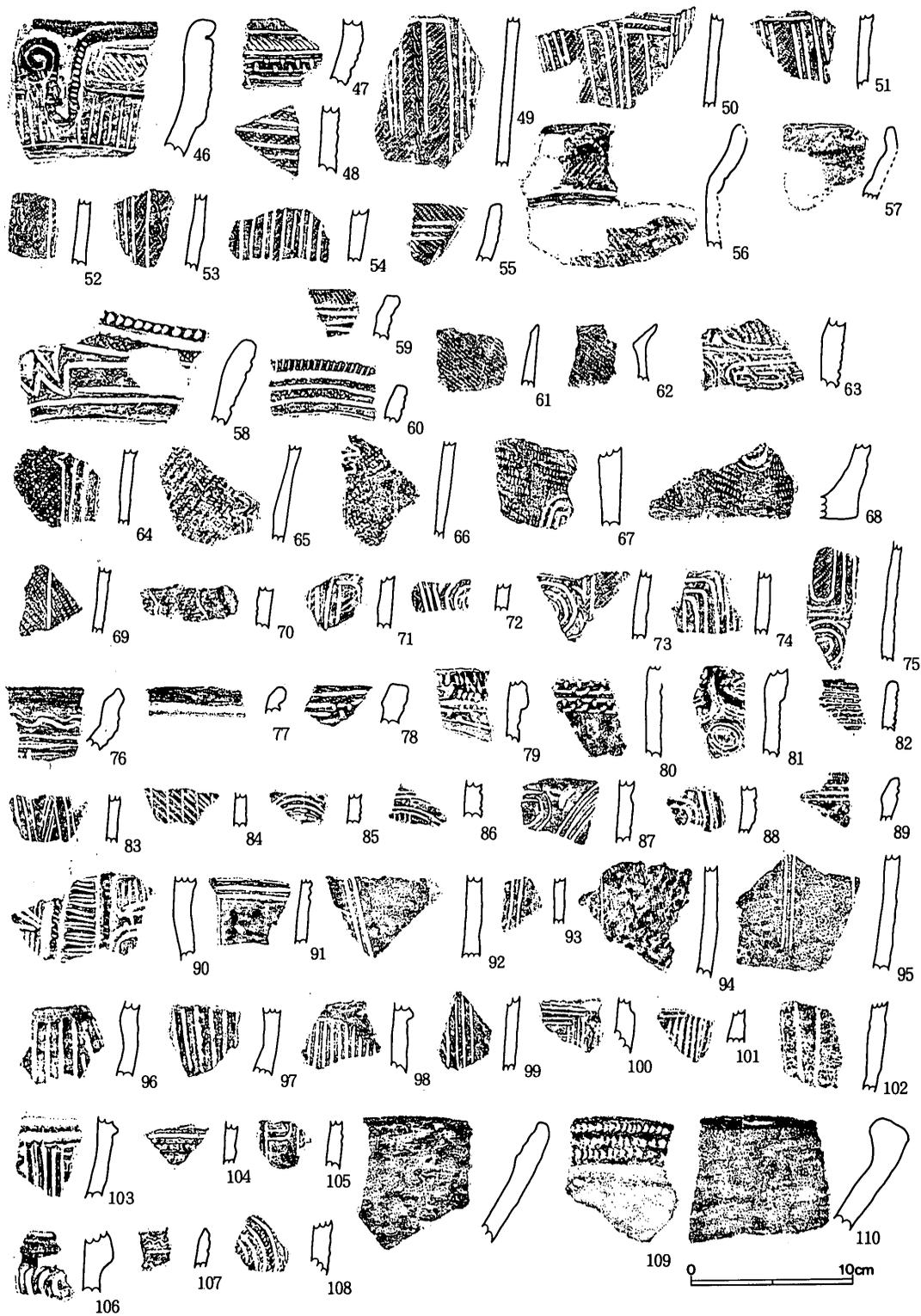
り付けられる。111～134は寸胴な大型器形で口縁部と胴部の境に刻みを持つ横位隆帯が貼り付けられる。口縁部は文様が粗で、十字状の沈線が施される。胴部は密な施文で横位・渦巻き・縦位などの沈線が施される。これらの土器群には135～137のように胴下部に縄文地文を持つものもあるようだ。

このほか、口縁部と胴部の文様帯間に無文帯があり、各部位の文様帯ごとに先端が渦巻き状に丸まる垂下隆帯、連続刺突などの文様的特徴、また、白色系の胎土などの特徴を有するなど北陸の新崎式土器の影響下にある土器164・165・146～153も出土している。

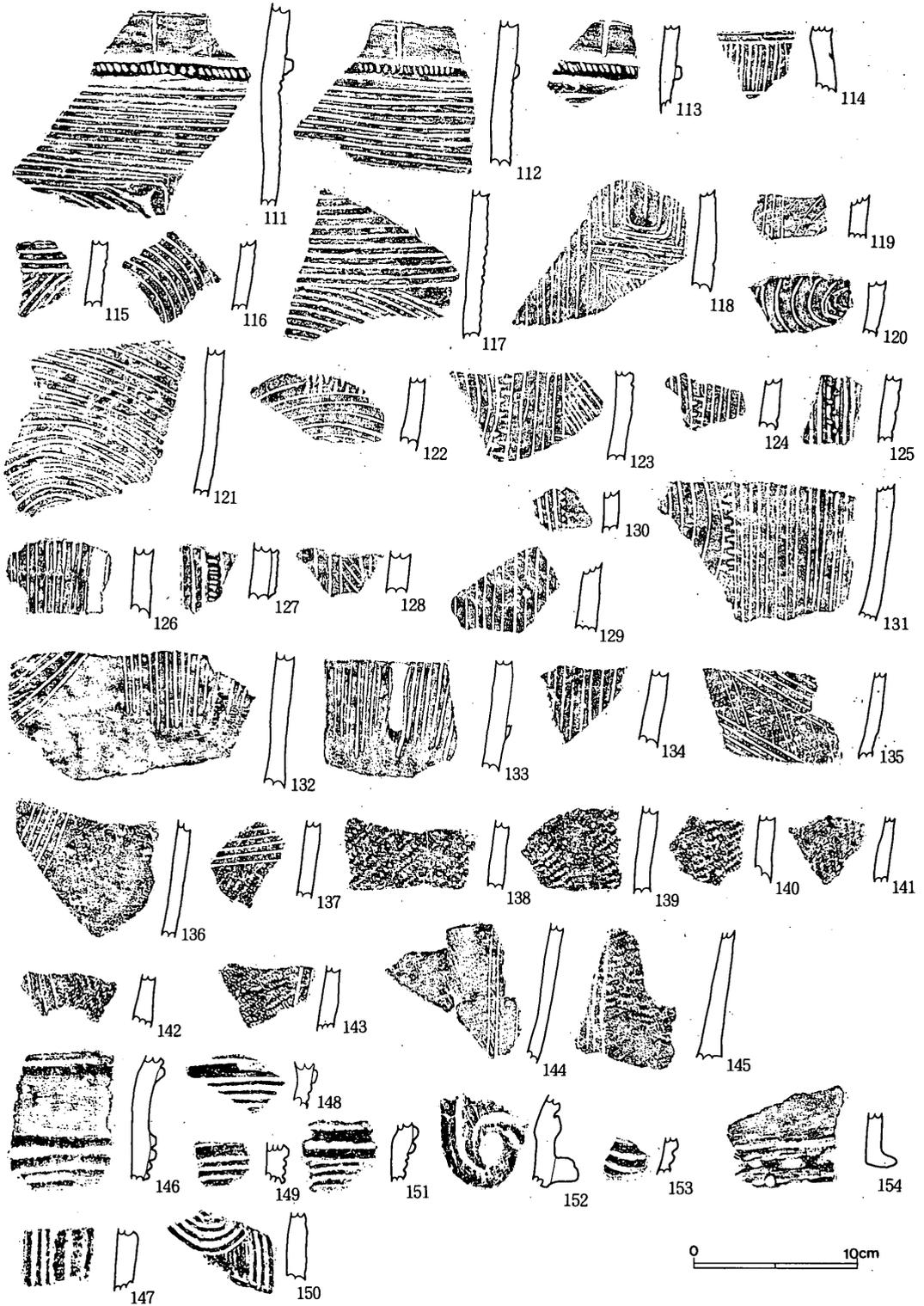
石器は製品は見当たらず、黒曜石の剥片153点のほか頁岩・安山岩・ガラス質安山岩の剥片が少量出土している。



第79图 J-12号住居址出土土器 (1:4)



第80图 J-12号住居址出土土器(1:4)



第81图 J-12号住居址出土土器(1:4)

第71表 J-12号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	3個以上一単位の山形突起。口縁部横引きの太い沈線上に縄文R L。胴部縄文R L上に横・斜行する沈線。さらに縄文R L施文の三角状隆帯貼付。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-12 I区	中期前葉
2	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	3個以上一単位の山形突起。口縁部横引きの太い沈線上に縄文R L。胴部逆U字状隆帯区画内に縄文L R地文の沈線。区画外は横位・斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
3	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	山形の突起。口縁部太い横引き沈線上に縄文L R。斜行隆帯下に細い沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
4	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	山形の突起下に横引きの太い沈線と縄文L R。以下垂下隆帯両わきに縄文L R地文の横引き多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
5	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	山形の突起。弧状隆帯。沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
6	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	刻みを持つ山形隆帯下に三叉文。以下横引きの太い沈線上に隆帯のち、細い沈線と交互刺突。縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	褐色 7.5YR 4/3	灰黄褐色 10YR 6/2	J-12 II区 No.4	中期前葉
7	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	太い沈線上に縄文L R。以下横引きの細い沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
8	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	太い沈線上に縄文L R。以下細い沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 透明粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-12	中期前葉
9	深鉢	胴部	- -	横位とY字状の隆帯。それぞれに沈線2条が並走。区画内縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 白色粒子	褐灰色 7.5YR 4/1	褐灰色 10YR 6/1	J-12 I区	中期前葉
10	深鉢	胴部	- -	Y字状隆帯に並走する2条の沈線。区画内地文縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	J-12 I区	中期前葉
11	深鉢	胴部	- -	突帯を持つ横位とY字状隆帯に並走する4条の沈線。地文縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 III区	中期前葉
12	深鉢	胴部	- -	横位とY字状隆帯に並走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-12 II区	中期前葉
13	深鉢	胴部	- -	横位隆帯下に並走する沈線。	不明。	黒雲母 多	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-12 I区	中期前葉
14	深鉢	胴部	- -	縄文施文のY字状隆帯下に沈線。	不明。	黒雲母 多 透明粒子	褐灰色 7.5YR 4/1	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
15	深鉢	胴部	- -	隆帯と三叉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-12 I区	中期前葉
16	深鉢	胴部	- -	地文縄文L R。斜行、渦巻き状の隆帯に並走する沈線。区画内に三叉文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-12 I区	中期前葉
17	深鉢	胴部	- -	縄文L R上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-12 II区	中期前葉
18	深鉢	胴部	- -	隆帯と三叉文に並走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-12 I区	中期前葉
19	深鉢	胴部	- -	隆帯貼付のち縄文R L。隆帯に並走する3条の沈線。区画内に渦巻き状と縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 III区	中期前葉

第72表 J-12号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深 鉢	胴部	— — —	縄文LRを数条の斜行沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	明赤褐色 5YR 5/8	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
21	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR上に数条の沈線。	不定方向のナデ。	黒雲母 少 透明粒子	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい橙色 5YR 6/3	J-12 I区	中期前葉
22	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR上に数条の沈線。	ナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にふい橙色 5YR 6/4	J-12 I区	中期前葉
23	深 鉢	胴部	— — —	貼付のY字状隆帯と並走する沈線。その ち縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-12 II区	中期前葉
24	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯貼付のち縄文LR。隆帯に並 走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-12 I区	中期前葉
25	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯貼付のち縄文LR。隆帯に並 走する4条の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-12 IV区	中期前葉
26	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯貼付のち縄文RL。隆帯の周 囲に並走する沈線。	ナデ。	黒雲母 多	にふい橙色 7.5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
27	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯に並走する沈線施文のち縄文 LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	暗赤褐色 5YR 3/3	にふい橙色 7.5YR 6/4	J-12 IV区	中期前葉
28	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯貼付のち、それに並走する沈 線と縄文RL。	不明。	黒雲母 多 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-12 I区	中期前葉
29	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯貼付のち縄文LR。隆帯に並 走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にふい褐色 7.5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 4/2	J-12 III区	中期前葉
30	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯に並走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	褐灰色 5YR 4/1	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-12 I区	中期前葉
31	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にふい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
32	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	Y字状隆帯貼付のち、結節縄文。隆帯に 並走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
33	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	Y字状隆帯に並走する沈線。縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 5YR 6/4	褐灰色 5YR 4/1	J-12 No.3	中期前葉
34	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	結節縄文上に沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 5YR 6/4	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-12 I区	中期前葉
35	深 鉢	胴部	— — —	Y字状隆帯貼付のち縄文RL。隆帯に並 走する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にふい赤褐色 5YR 4/3	明赤褐色 5YR 5/6	J-12 II区	中期前葉
36	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	明赤褐色 5YR 5/6	J-12 II区	中期前葉
37	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	褐色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
38	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石 少	褐色 5YR 6/6	にふい褐色 5YR 6/3	J-12 IV区	中期前葉

第73表 J-12号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
40	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
41	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に沈線。	不明。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 7/6	J-12 III区	中期前葉
42	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
43	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯直下に沈線。その上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 7/6	J-12 II区	中期前葉
44	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	Y字状隆帯貼付のち縄文RL。隆帯に並走する沈線施文のち、底部直上に横位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
45	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	底部近くの縄文上に横位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-12 I区	中期前葉
46	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁端部の横位隆帯から垂下する先端渦巻き状の刻みを持つ隆帯。横位沈線区画内に斜行・縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
47	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引き沈線区画内に斜行沈線と交互刺突が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	明赤褐色 2.5YR 5/6	明赤褐色 2.5YR 5/6	J-12 II区	中期前葉
48	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-12 II区	中期前葉
49	深鉢	胴部	— — —	結節縄文上に縦位の沈線が並ぶ。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 II区	中期前葉
50	深鉢	胴部	— — —	結節縄文上に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-12 I区	中期前葉
51	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
52	深鉢	胴部	— — —	結節縄文上に縦位の沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 III区	中期前葉
53	深鉢	胴部	— — —	結節縄文上に縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-12 III区	中期前葉
54	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 III区	中期前葉
55	深鉢	口縁部	— — —	縄文RL上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母	褐灰色 7.5YR 4/1	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
56	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文RL。口縁と胴部の境に横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 6/3	J-12 I区	中期前葉
57	深鉢	口縁部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 IV区	中期前葉

第74表 J-12号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部に刻み。縄文RL上に横引き・一部鋸 歯上の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 I区	中期前葉
59	深鉢	口縁 部	— — —	肥厚する端部に縄文RL。以下横引きの沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	黒褐色 7.5YR 3/1	橙色 5YR 6/1	J-12 I区	中期前葉
60	深鉢	口縁 部	— — —	端部に刻み。縄文RL上に横引きの沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-12 II区	中期前葉
61	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	結節縄文。	上ヨコ、下タ テ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-12 I区	中期前葉
62	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-12 III区	中期前葉
63	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に楕円区画の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石 黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 II区	中期前葉
64	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯に並走し、一部蛇行する沈線。地 文縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-12 III区	中期前葉
65	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に一部蛇行する垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-12 II区	中期前葉
66	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に一部蛇行する垂下沈線。	タテ、ヨコ方 向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	灰黄褐色 10YR 6/2	J-12 II区	中期前葉
67	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に渦巻き状の沈線。	不明。	透明粒子 黒雲母	にぶい橙色 7.5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
68	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に渦巻き状の沈線。	不明。	黒雲母	にぶい橙色 7.5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
69	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に垂下する沈線。	タテ、ヨコ方 向のナデ。	白色粒子	明赤褐色 2.5YR 5/6	明赤褐色 5YR 5/6	J-12 III区	中期前葉
70	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯。縄文LR上に沈線。	不明。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
71	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石 黒雲母	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	J-12 III区	中期前葉
72	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-12 I区	中期前葉
73	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	赤褐色 5YR 4/6	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
74	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 5/2	J-12 I区	中期前葉
75	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に重四角・渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	J-12 III区	中期前葉
76	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引きと波状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	J-12 I区	中期前葉

第75表 J-12号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
77	深鉢	口縁部	— — —	横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい 橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
78	深鉢	口縁部	— — —	横引きの沈線と交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
79	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	肥厚する端部に連続刺突。以下交互刺突と横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	黒褐色 5YR 3/1	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 I区	中期前葉
80	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引きの沈線上に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰黄褐色 10YR 5/2	J-12 II区	中期前葉
81	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	弧状隆帯に沿って沈線。その下に円形の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	褐色 7.5YR 4/3	灰褐色 7.5YR 4/2	J-12 II区	中期前葉
82	深鉢	口縁部	— — —	横引きの沈線上に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 4/2	J-12 II区	中期前葉
83	深鉢	胴部	— — —	縄文上に綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-12 IV区	中期前葉
84	深鉢	胴部	— — —	斜格子目状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 4/3	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
85	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐灰色 5YR 4/1	J-12 No.3	中期前葉
86	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線下に垂下する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 5YR 5/2	J-12 II区	中期前葉
87	深鉢	胴部	— — —	玉抱き三叉文と斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 4/4	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
88	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行する沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい 橙色 5YR 6/4	J-12 III区	中期前葉
89	深鉢	口縁部	— — —	横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-12 II区	中期前葉
90	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯間を横位・斜行・弧状の沈線で埋める。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
91	深鉢	胴部	— — —	2本単位の横引きと縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 7.5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
92	深鉢	胴部	— — —	2本単位の縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 透明粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-12 I区	中期前葉
93	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい 橙色 5YR 6/4	J-12 IV区	中期前葉
94	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	J-12 I区	中期前葉
95	深鉢	胴部	— — —	2本単位の縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい 橙色 5YR 6/4	J-12 III区	中期前葉

第76表 J-12号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
96	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	J-12 Ⅳ区	中期前葉 97と同一個体
97	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅱ区	中期前葉
98	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-12 Ⅱ区	中期前葉
99	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	褐灰色 5YR 5/1	J-12 Ⅰ区	中期前葉
100	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯と重四角状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 Ⅱ区	中期前葉
101	深鉢	胴部	— — —	重四角状の沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-12 Ⅲ区	中期前葉
102	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	明赤褐色 5YR 5/6	J-12 Ⅳ区	中期前葉
103	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に半截竹管凹面による沈線と刺突。	ナデ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	J-12 Ⅳ区	中期前葉
104	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線と角押文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 10YR 4/1	J-12 Ⅰ区	中期前葉
105	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-12 Ⅰ区	中期前葉
106	深鉢	胴部	— — —	弧状の隆帯が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	橙色 7.5YR 7/6	J-12 Ⅳ区	中期前葉
107	深鉢	口縁部	— — —	連続山形と横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
108	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に渦巻き状の沈線。	ナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
109	浅鉢	口縁 ～ 体部	— — —	内面に3条の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	橙色 5YR 6/8	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅳ区	中期前葉
110	浅鉢	口縁 ～ 体部	— — —	端部内面隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	浅黄褐色 10YR 8/3	J-12 Ⅰ区	中期前葉
111	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部 横位・縦位の沈線。 胴部 刻みを持つ隆帯下に横位の多条沈線。以下弧状の多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉 112と同一個体
112	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部 横位・縦位の沈線。 胴部 刻みを持つ隆帯下に横位の多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
113	深鉢	胴部	— — —	口縁部 縦位・横位の沈線。 胴部 刻みを持つ隆帯。以下横位の多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-12 Ⅰ区	中期前葉
114	深鉢	胴部	— — —	横引きの沈線間に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅳ区	中期前葉

第77表 J-12号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
115	深 鉢	胴部	— — —	横引きと弧状の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅳ区	中期前葉
116	深 鉢	胴部	— — —	弧状の多条沈線。	不明。	透明粒子 多 角閃石	にふい橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅲ区	中期前葉
117	深 鉢	胴部	— — —	横位と弧状の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	透明粒子 多 黒雲母	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい橙色 7.5YR 6/4	J-12 Ⅰ区	中期前葉
118	深 鉢	胴部	— — —	重四角・縦位・横位・斜位などの多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	透明粒子 多 黒雲母	にふい橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
119	深 鉢	胴部	— — —	縦位と弧状の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	にふい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
120	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	不明。	黒雲母 多	褐灰色 7.5YR 4/1	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
121	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅱ区	中期前葉
122	深 鉢	胴部	— — —	縦位と渦巻き状の多条沈線。	不明。	黒雲母 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい橙色 7.5YR 6/4	J-12 Ⅰ区	中期前葉
123	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行する多条沈線の境に交互刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅲ区	中期前葉
124	深 鉢	胴部	— — —	斜行する沈線の一部に交互刺突。	不明。	黒雲母 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅱ区	中期前葉
125	深 鉢	胴部	— — —	斜行する沈線の一部に交互刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にふい褐色 5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
126	深 鉢	胴部	— — —	斜行する多条沈線と隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/8	J-12 Ⅱ区	中期前葉
127	深 鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯と斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい赤褐色 5YR 5/4	J-12 Ⅰ区	中期前葉
128	深 鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯と斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	にふい褐色 7.5YR 5/4	明赤褐色 2.5YR 5/6	J-12 Ⅳ区	中期前葉
129	深 鉢	胴部	— — —	斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
130	深 鉢	胴部	— — —	斜行する多条沈線外に連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にふい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
131	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行する多条沈線の境に交互刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	橙色 7.5YR 6/6	にふい黄褐色 10YR 6/4	J-12 Ⅱ区	中期前葉
132	深 鉢	胴部	— — —	隆帯。渦巻き状と縦位の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅰ区	中期前葉
133	深 鉢	胴部	— — —	隆帯。縦位の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/4	橙色 5YR 6/6	J-12 Ⅱ区	中期前葉

第78表 J-12号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
134	深鉢	胴部	— — —	斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 IV区	中期前葉
135	深鉢	胴部	— — —	斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
136	深鉢	胴部	— — —	斜行する多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 II区	中期前葉
137	深鉢	胴部	— — —	斜行する多条沈線下に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-12 ?	中期前葉
138	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい橙色 5YR 6/4	灰褐色 5YR 5/2	J-12 II区	中期前葉
139	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-12 I区	中期前葉
140	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	褐色 7.5YR 4/3	灰褐色 7.5YR 5/2	J-12 II区	中期前葉
141	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	不明。	黒雲母 多	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-12 I区	中期前葉
142	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に沈線。	不明。	黒雲母 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
143	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	黒色 7.5YR 2/1	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 II区	中期前葉
144	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	黒褐色 10YR 3/1	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-12 IV区	中期前葉
145	深鉢	胴部 ~ 底部	— — —	細文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-12 I区	中期前葉
146	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯間は無文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/3	浅黄褐色 10YR 8/3	J-12 I区	中期前葉
147	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯下に縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	浅黄褐色 10YR 8/4	J-12 I区	中期前葉
148	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	浅黄褐色 10YR 8/4	J-12 II区	中期前葉
149	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/6	J-12 II区	中期前葉
150	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状と縦位斜行する沈線。一部連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-12 I区	中期前葉
151	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯下に沈線。	不定方向のナデ。	黒雲母 透明粒子	橙色 5YR 6/8	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-12 I区	中期前葉
152	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	浅黄褐色 10YR 8/3	J-12 No.4	中期前葉

第79表 J-12号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
153	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-12 II区	中期前葉
154	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に焼成前の穿孔。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-12 III区	中期前葉
155	深鉢	口縁 ～ 胴部	25.2 — —	端部4か所に2個の山形突起。その下に太い横位沈線。口縁部に逆台形(区画内正面1か所に玉抱き三叉文)・胴部にY字状隆帯貼付。隆帯に沿って細い沈線。最後に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 7.5YR 4/1	J-12 II区 No.6	中期前葉
156	深鉢	口縁 ～ 胴部	(21.6) — —	文様を持つ端部下に玉抱き三叉文。上下に横位沈線、両わきに連続山形沈線を持つ楕円区画沈線。以下垂下沈線と三叉文。地文縄文LR。	ローヨコ方向のナデ。胴一タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 5YR 6/2	J-12 II区 No.4	中期前葉
157	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	4か所に垂下沈線。その内2か所は隆帯もあり。隆帯上に縄文LR。沈線施文は縄文の後。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-12 No.2	中期前葉
158	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁下に一部V字状を呈する横位隆帯。上下にこれに沿う沈線。V字部分から蛇行して垂下する沈線。胴部沈線文様不明。地文縄文LR。裏面に沈線あり。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	J-12 II区	中期前葉
159	深鉢	口縁 ～ 胴部	(15.0) — —	端部に刻みを持つ波状口縁に沿って2条の沈線。その下に縦位沈線が並び、再び胴部上位に4条の横引き沈線。以下蛇行する垂下沈線と重環状沈線。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	灰褐色 5YR 4/2	J-12 I区 III区	中期前葉
160	深鉢	胴部	(15.6) — —	159と同一個体。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	灰褐色 5YR 4/2	J-12 I区 III区	中期前葉
161	深鉢	口縁 ～ 胴部	(26.4) — —	口縁部各所に刻みを持つ棒状・渦巻き状・ボタン状などの突起。これを楕円隆帯で連結。口縁部の隆帯内外に限り角押文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	褐灰色 5YR 4/1	にぶい褐色 5YR 5/3	J-12 II区 III区 No.3	中期前葉
162	深鉢	胴部 ～ 底部	— — 9.6	横位隆帯と環状の垂下隆帯。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-12 No.5	中期前葉
163	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ横位と垂下隆帯下に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	にぶい黄褐色 5YR 6/6	J-12 I区	中期前葉
164	深鉢	口縁 ～ 胴部	(39.0) — —	キャリバー形。隆帯は2条一組、沈線施文工は半截竹管凹面を基本とする。口縁部4か所の突起頂部から胴部上位まで垂下する渦巻き部分を持つ隆帯間に横位沈線と縄文LR、さらに連続刺突を充填。胴部上位は横位隆帯の間を空けて2か所に貼付、空間の一部は渦巻き隆帯を垂下させる。胴部中位以下はY字状・渦巻き状の隆帯下に縄文LRを充填。隆帯に沿って沈線。一部連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	浅黄褐色 10YR 8/4	浅黄褐色 10YR 8/4	J-12 No.1	中期前葉
165	深鉢	口縁 ～ 胴部	(40.6) — —	口縁部に小突起。直下の太い横引き沈線下に矩形区画の隆帯(下部蛇行箇所と刻みを持つ箇所あり)。区画内に連続の刺突。以下、2cmの空白を置き渦巻きつなぎ隆帯、半截竹管凹面による縦・横・渦巻き状の沈線、縄文LR、最後に連続刺突を加える。	ローヨコ方向のナデ。胴一斜方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 5YR 4/2	J-12 I区 II区 IV区	中期前葉

時 期

以上の出土土器から本址は滝沢IV期縄文時代中期前葉に帰属する住居と考えられる。

(13) J-13号住居址

住居址 第82図

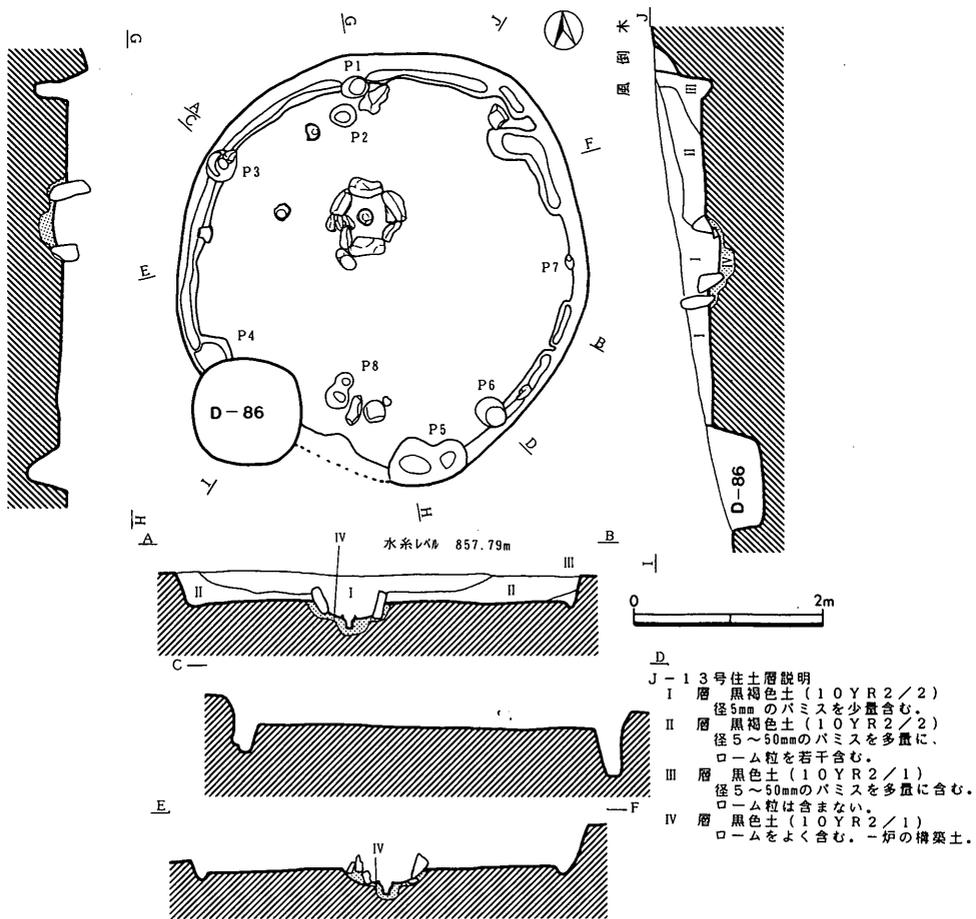
本址はウー3グリッドに位置する。D-86号土坑と重複し、これに破壊される。

東西4.03m南北4.05mの円形プランを呈し、床面積は12.21㎡を測る。

壁高は北側で高く48cmを測り、南へ向かうほどレベルを減じ、ほとんど壁が残らない部分もある。壁溝は南西を除き、断続的に掘削される。

床面は地山を叩き締め、堅固でおおむね平坦な面をなす。

ピットは8個が検出された。P₂・P₈以外は壁溝上に掘り込まれており、柱穴として機能していた可能性が高い。



第82図 J-13号住居址 (1:80)

炉は住居中央の北寄りに設置される。大きな安山岩を六角形に組んだ石囲炉で、炉底面の中央には底の抜けた深鉢56が埋設される。この炉の構築はまず、床面を大きく掘り切ったあと、黒色土IV層を軽く埋め戻してから、縁石、埋設土器を据え付けたようである。また、炉の南西部には大型の石棒60が立てられている。

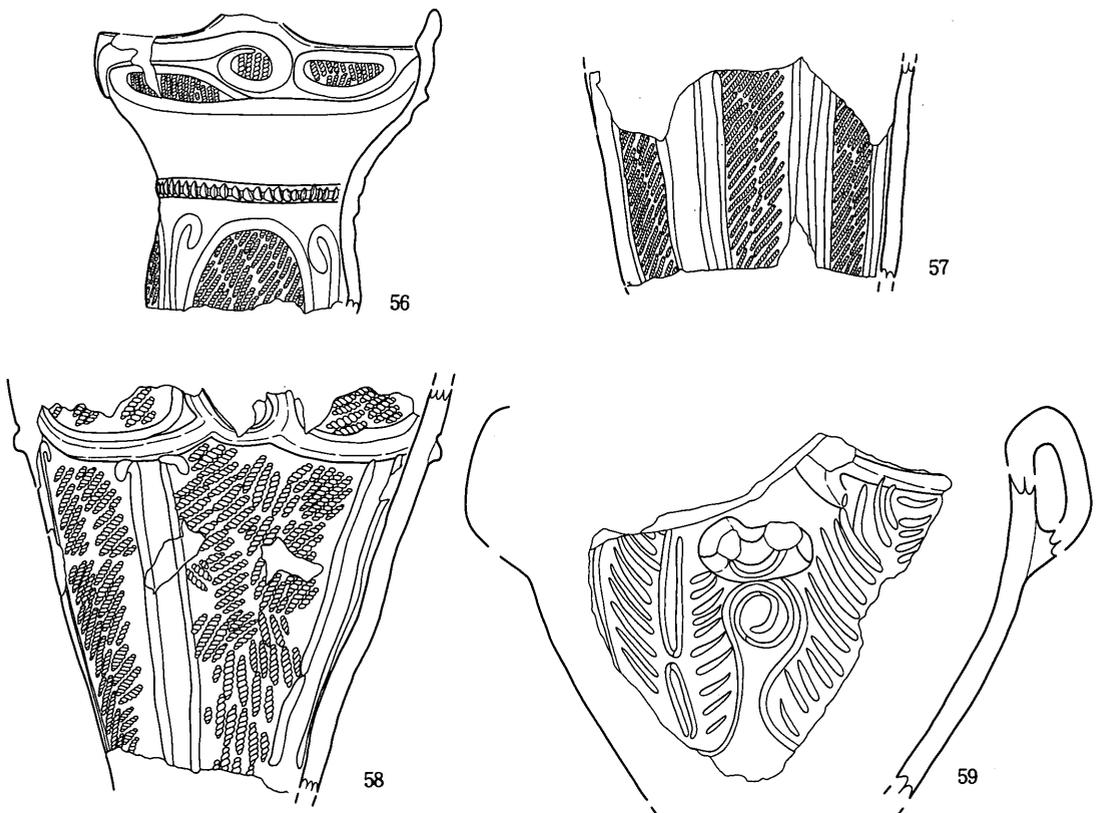
覆土は三層に分層され、いずれも黒色系の土である。

遺物 第83～85図

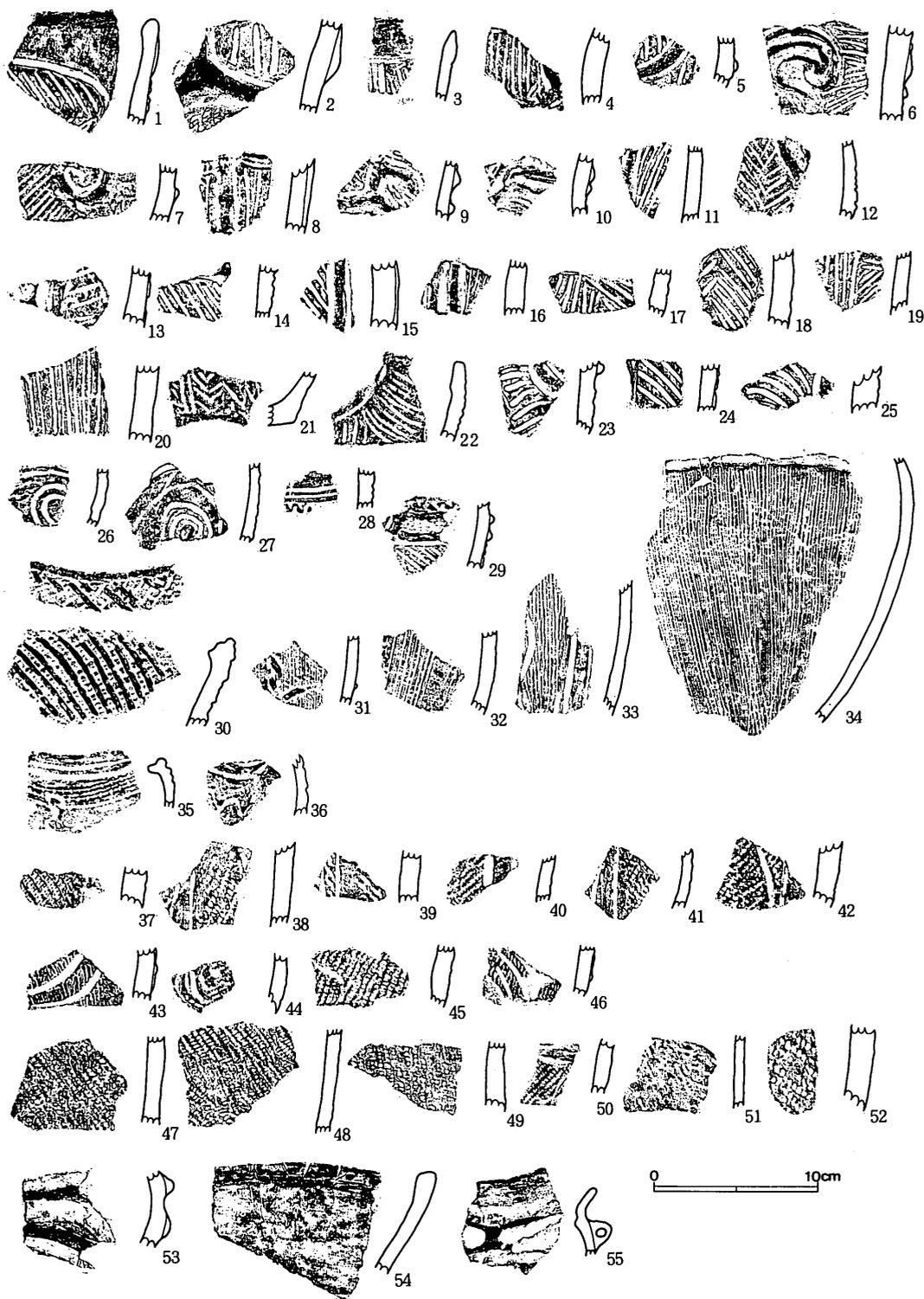
覆土中・床面上から縄文土器が少量出土した。

56～58は口縁部文様帯を持つ加曾利EⅢ式土器、59は鱗状沈線の佐久系の両耳壺、1～25は沈線地文の佐久系を含む唐草文系土器、32～34は条線文が施される土器群である。

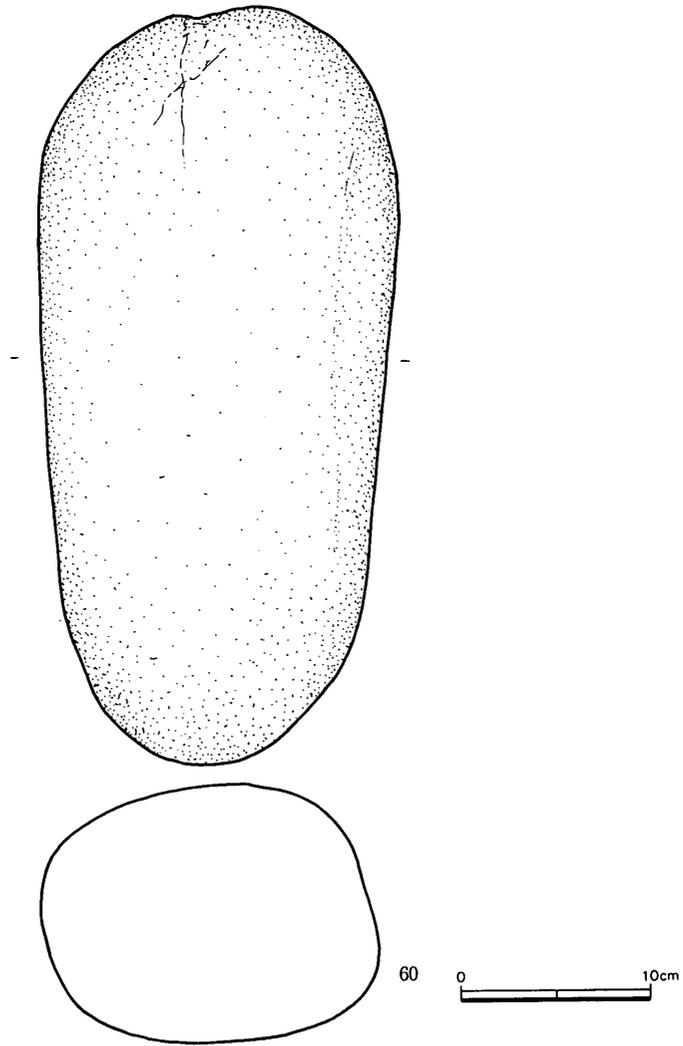
石器は石棒63のほかは、黒曜石の剥片14片のほか、頁岩・安山岩などの剥片が数点みられるに過ぎない。



第83図 J-13号住居址出土土器 (1:4)



第84图 J-13号住居址出土土器 (1:4)



第85図 J-13号住居址出土石器 (1:4)

第80表 J-13号住居址出土石器一覧表

押 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
60	円 礫	安 山 岩	38.0	18.0	13.4	14.5	J-13 の 炉 に 立 つ

(単位cm, kg)

時 期

以上の出土土器から本址は滝沢VI期縄文時代中期後葉加曽利E III式の古い段階に帰属する住居と考えられる。

第81表 J-13号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁部	— — —	横羽状沈線を楕円状沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-13 IV区	中期後葉 加曾利EⅢ式
2	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	楕円状の隆帯区画内に縦位沈線。胴部縄文R.L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅢ式
3	深鉢	口縁部	— — —	沈線区画内に斜行沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 6/3	J-13 II区	中期後葉
4	深鉢	口縁部	— — —	隆帯区画内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-13 III区	中期後葉
5	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	隆帯で斜行する沈線を区画。胴部斜行沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-13 III区	中期後葉
6	深鉢	胴部	— — —	3本単位の渦巻き状隆帯。その後、多条の斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
7	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状隆帯と多条の斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	J-13 II区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
8	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に縦位と横引きの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/4	褐色 7.5YR 6/6	J-13	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
9	深鉢	口縁部	— — —	隆帯区画内に斜行沈線。	不定方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-13 IV区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
10	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	隆帯区画内に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐色 7.5YR 6/6	にぶい褐色 10YR 7/4	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
11	深鉢	口縁部	— — —	隆帯区画内に多条の斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-13 No.3	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
12	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯と綾杉状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 7/4	J-13 III区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
13	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯と斜行沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
14	深鉢	口縁部?	— — —	隆帯区画内に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	淡黄色 2.5Y 8/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-13 IV区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
15	深鉢	胴部	— — —	隆帯と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
16	深鉢	胴部	— — —	2本の隆帯下に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 6/3	J-13 IV区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
17	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の組み合わせ。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-13 II区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
18	深鉢	胴部	— — —	縦羽状の多条沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
19	深鉢	胴部	— — —	多条の斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	灰褐色 5YR 5/2	J-13 IV区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行

第82表 J-13号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深 鉢	胴部	— — —	縦位の多数沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-13 II区 No.1	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
21	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	2条の縦位沈線で仕切った縦羽状の多数沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
22	深 鉢	口縁 部	— — —	多条の斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子	浅黄褐色 10YR 8/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-13 II区 No.1	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
23	深 鉢	胴部	— — —	弧状の隆帯とうろこ状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-13 No.2	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
24	深 鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	灰褐色 5YR 4/2	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
25	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に弧状の多条沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
26	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	褐灰色 10YR 4/1	J-13 II区	中期後葉
27	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-13 I区	中期後葉
28	深 鉢	胴部	— — —	3条の横引き沈線下に交互刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-13 II区	中期後葉
29	深 鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯上に交互刺突。下に斜行沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-13 II区 No.1	中期後葉
30	深 鉢	口縁 部	— — —	多条の斜行沈線に隆帯を直交させ、バスケ ット状の文様。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	J-13 I区	中期後葉 曾利Ⅱ式
31	深 鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による沈線上に隆帯貼付。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-13 I区	中期後葉 曾利Ⅱ式
32	深 鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による沈線上に爪形の連続刺 突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-13 IV区	中期後葉 加曾利EⅢ式並行
33	深 鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による沈線上に縦位の太い沈 線。	斜 方 向 の ナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-13 I区	中期後葉 加曾利EⅢ式並行
34	深 鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による沈線上に横引きの沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙 色 7.5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 6/3	J-13 IV区 No.15	中期後葉 加曾利EⅢ式並行
35	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	3条の横引き沈線上に連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	黒 色 10YR 1.7/1	J-13 IV区	中期後葉 36と同一個体
36	深 鉢	胴部	— — —	横引き沈線下に波状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	黒 色 10YR 1.7/1	J-13 I区	中期後葉
37	深 鉢	胴部	— — —	隆帯下に縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙 色 5YR 6/6	J-13 II区	中期後葉
38	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-13 III区	中期後葉

第83表 J-13号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	J-13 II区 No.1	中期後葉
40	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-13 No.3	中期後葉
41	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 5/2	J-13 II区	中期後葉
42	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線間に縄文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	J-13 IV区	中期後葉
43	深鉢	胴部	— — —	撚糸文L上に弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-13 II区	中期後葉
44	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-13 I区	中期後葉
45	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に蛇行する垂下沈線。	不定方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-13 I区	中期後葉
46	深鉢	胴部	— — —	撚糸文R上に渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/3	J-13 III区	中期後葉
47	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	褐色 7.5YR 6/6	J-13 II区 No.1	中期後葉
48	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-13 No.3	中期後葉
49	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	褐色 7.5YR 6/6	J-13 II区 No.1	中期後葉
50	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-13 IV区	中期後葉
51	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-13 I区	中期後葉
52	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-13 I区	中期後葉
53	深鉢	胴部	— — —	弧状の隆帯。外面磨き込む。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 5YR 6/3	J-13 I区	中期後葉
54	浅鉢	口縁 ～ 体部	— — —	端部内面肥厚。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰黄褐色 10YR 6/2	浅黄褐色 10YR 8/3	J-13 II区	中期後葉
55	浅鉢	口縁 ～ 体部	— — —	2本単位の隆帯間に橋状の突起。外面ミカキ。	ヨコ方向のナデ。	黒色粒子 白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰黄褐色 10YR 6/2	J-13 I区	中期後葉 赤色塗彩

第84表 J-13号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
56	深鉢	口縁 ～ 胸部	17.0 — —	端部に3単位の突起。口縁部渦巻きをつなぐ隆帯と楕円区画隆帯下を沈線でなぞる。区画内に縄文LR充填。無文帯をはさんで胸部上位に横位隆帯。隆帯下を沈線でなぞったのち、連続の刻み。以下縄文LR上に縦位楕円沈線区画と蹠状沈線を交互に施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-13 No.1	中期後葉 加曾利EⅢ式
57	深鉢	口縁 ～ 胸部	— — —	縄文LRを3条一組の縦位沈線で区画し、区画内を磨り消す。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-13 No.3	中期後葉 加曾利EⅢ式
58	深鉢	口縁 ～ 胸部	— — —	口縁部渦巻きをつなぐ弧状隆帯区画内を沈線でなぞり、縄文LR充填。以下、2本一組の垂下沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 2.5YR 6/6	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-13 No.2	中期後葉 加曾利EⅢ式
59	両耳壺	口縁 ～ 胸部	— — —	把手から横位隆帯。以下渦巻き状・縦位・斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい黄褐色 7.5YR 6/4	J-13 No.4	中期後葉 加曾利EⅢ式

(14) J-14号住居址

住居址 第86図

本址はえー4グリッドに位置する。J-12号住居址と重複し、これに中央部をそっくり破壊される。また、住居自体の掘り込みが浅かったため、壁はすべて削除され、床面は北側半分以下が残存する程度である。したがって、住居範囲は検出されたピットから推定を行った。その規模および形状は東西7.12m南北6.76mの円形プランで、床面積は40㎡近くになると推測される。

壁溝は検出されなかった。

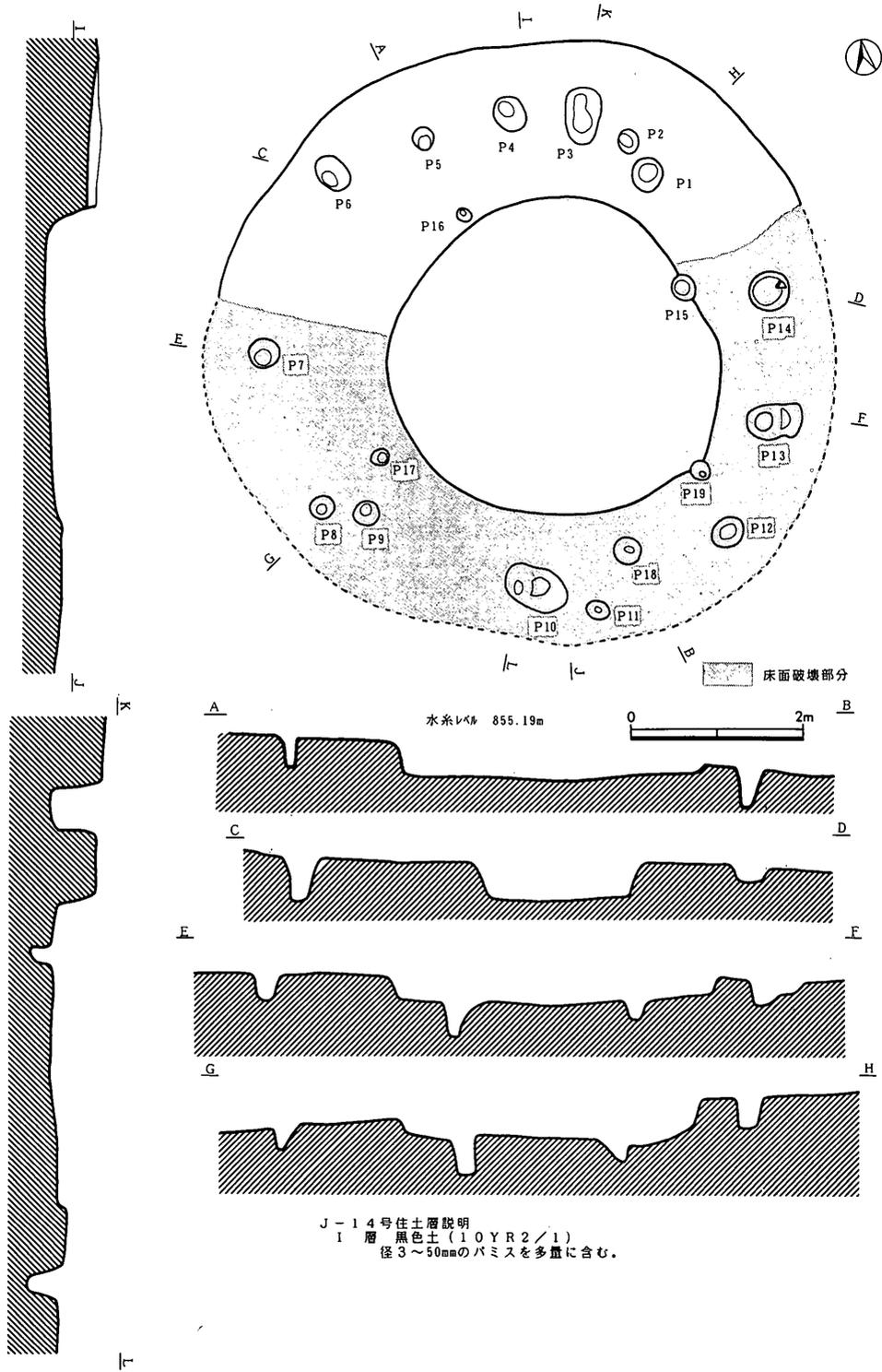
ピットは19個が検出された。住居周囲に多量に掘り込まれておりいずれが支柱穴か断ずることはできない。

遺物 第87図

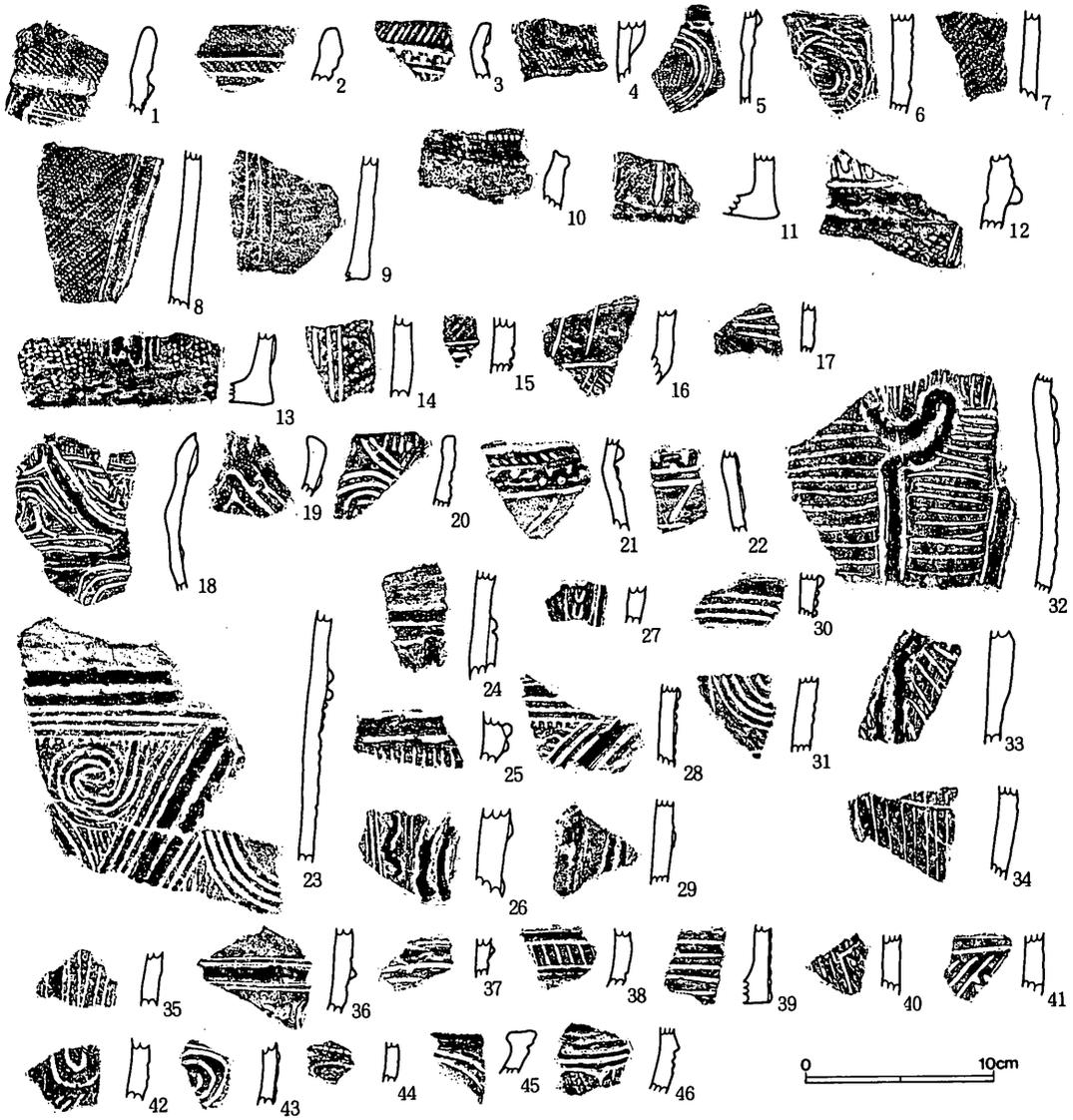
覆土中・床面上・ピット内から少量の縄文土器が出土している。

1～17・19は縄文と沈線、さらに1・8・13・19などはY字状隆帯も加えて装飾されると思われる。18・20～22・24～46は沈線文主体で、隆帯・交互刺突・連続刺突などを加えて施文する。23は口縁部と胸部に無文帯を持ち、2本一組の隆帯区画内に縄文、その上に渦巻き状・斜行沈線・連続刺突が施される。

石器は頁岩製の打製石斧先端があるほかは、黒曜石65点、頁岩9点の剥片がみられるに過ぎない。



第86図 J-14号住居址 (1:80)



第87図 J-14号住居址出土土器(1:4)

時期

以上の出土土器群から、本址は滝沢IV期縄文時代中期前葉に帰属する住居と考えられる。

第85表 J-14号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	山形突起。口縁部下横引きの太い沈線上に 縄文R L。胴部Y字状隆帯両わきに沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 7/4	J-14 I区	中期前葉
2	深鉢	口縁 部	— — —	横引きの沈線上に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 黒雲母	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	J-14 I区	中期前葉
3	深鉢	口縁 部	— — —	肥厚する端部に縄文L R。以下交互刺突と 横引きの沈線施文のち、縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-14 II区	中期前葉
4	深鉢	胴部	— — —	突起を持つ横位隆帯上に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	暗赤褐色 5YR 3/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	J-14 I区	中期前葉
5	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に縄文L R地文の重弧状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 透明粒子	にぶい赤褐色 5YR 4/3	橙色 2.5YR 6/6	J-14 II区	中期前葉
6	深鉢	胴部	— — —	重円状の沈線上に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	褐灰色 5YR 4/1	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-14 I区	中期前葉
7	深鉢	胴部	— — —	縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-14 I区	中期前葉
8	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯に沿って沈線をなぞる。地文縄文 L R。	タテ方向のナ デ。	黒雲母 多	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 5/2	J-14 II区	中期前葉
9	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	縄文L R上に縦位の3条以上の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-14 I区	中期前葉
10	深鉢	口縁 部	— — —	端部に2条の角押文。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 5YR 5/2	J-14 II区	中期前葉
11	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	垂下する隆帯に沿う沈線。地文縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰褐色 7.5YR 4/2	J-14 I区	中期前葉
12	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯上に斜行する沈線。下に縄文L R 上に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-14 II区	中期前葉
13	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	2本一組の垂下隆帯両わきに各2条の沈 線。縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい橙色 5YR 7/4	J-14 I区	中期前葉
14	深鉢	胴部	— — —	縄文L R上に縦位の沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/3	J-14 II区	中期前葉
15	深鉢	胴部	— — —	縄文L R上に半截竹管凹面を使った横引き 沈線。	ナデ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-14 -15 付近	中期前葉
16	深鉢	胴部	— — —	2条の横引きの沈線間に斜行する沈線。以 下縄文R L上に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-14 I区	中期前葉
17	深鉢	胴部	— — —	縄文R L上に斜行する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-14 II区	中期前葉
18	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部から斜行する隆帯区画に沿 って沈線文を充填。胴部横位隆帯下渦巻き状 沈線。端部縄文。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-14 II区	中期前葉
19	深鉢	口縁 部	— — —	頂部縄文L R上に刻み。縄文L Rを持つ隆 帯に沿って沈線と交互刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-14 II区	中期前葉

第86表 J-14号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
20	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	斜行沈線と渦巻き状沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	黒褐色 7.5YR 3/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-14 P ₁	中期前葉
21	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯と横引き沈線間に交互刺突。以下斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	J-14 II区	中期前葉 22と同一個体
22	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線間に交互刺突と斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	暗赤褐色 5YR 3/2	灰褐色 5YR 4/2	J-14 II区	中期前葉
23	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯区画内に縄文R地文の重三角、渦巻き状沈線。その後、連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/3	浅黄褐色 10YR 8/3	J-14 P ₁	中期前葉
24	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	J-14 P ₁	中期前葉
25	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯下に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-14 I区	中期前葉
26	深鉢	胴部	— — —	2本単位の弧状隆帯と1本の細い蛇行垂下隆帯。隆帯下に縦位沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 2.5YR 6/4	J-14 I区	中期前葉
27	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による刻みを持つ隆帯と沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい赤褐色 2.5YR 5/3	J-14 -15 付近	中期前葉
28	深鉢	胴部	— — —	隆帯に沿って半截竹管凹面による沈線を逆三角形に施す。その区画内に連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい褐色 5YR 6/3	J-14 I区	中期前葉
29	深鉢	胴部	— — —	弧状隆帯に沿って沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-14 P ₁	中期前葉
30	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に横引きの沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-14 I区	中期前葉
31	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	J-14 II区	中期前葉
32	深鉢	胴部	— — —	上部が湾曲する垂下隆帯下に横位沈線を並べる。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-14 P ₁₃	中期前葉
33	深鉢	胴部	— — —	2本単位の隆帯両わきに斜行する沈線が並ぶ。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/2	J-14 I区	中期前葉
34	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯。縦位に並ぶ沈線を横位沈線が切る。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	J-14 II区	中期前葉
35	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯両わきに縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-14 I区	中期前葉
36	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯に沿って上下に各2条の沈線。以下に玉抱き三叉文。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	黒褐色 7.5YR 3/1	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-14 II区	中期前葉
37	深鉢	胴部	— — —	横位沈線間に小突起。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	黒褐色 7.5YR 3/1	にぶい褐色 5YR 6/4	J-14 II区	中期前葉
38	深鉢	胴部	— — —	横位沈線間に斜行沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	黒褐色 5YR 3/1	褐色 5YR 6/6	J-14 II区	中期前葉

第87表 J-14号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深 鉢	胴部	— — —	横位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	黒盤母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-14 P ₂	中期前葉
40	深 鉢	胴部	— — —	細文上に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒盤母 多	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	明赤褐色 2.5YR 5/6	J-14 P ₁	中期前葉
41	深 鉢	胴部	— — —	横位・斜行沈線と交互刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒盤母	褐灰色 5YR 4/1	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-14 I 区	中期前葉
42	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状と斜行沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-14 II 区	中期前葉
43	深 鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-14 I 区	中期前葉
44	深 鉢	胴部	— — —	角押文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-14 I 区	中期前葉
45	深 鉢	口縁 部	— — —	弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/3	J-14 I 区	中期前葉
46	深 鉢	胴部	— — —	横引き沈線下に連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-14 II 区	中期前葉

(15) J-15号住居址

住居址 第88図

本址はえー4グリッドに位置する。D-66号土坑と重複するほか、攪乱によって住居のおおかたが破壊されている。住居規模については主柱穴と考えられるピットが4個検出されたため、およその見当がつき、東西4m南北3.4m程度の楕円形プランを呈すると考えられる。

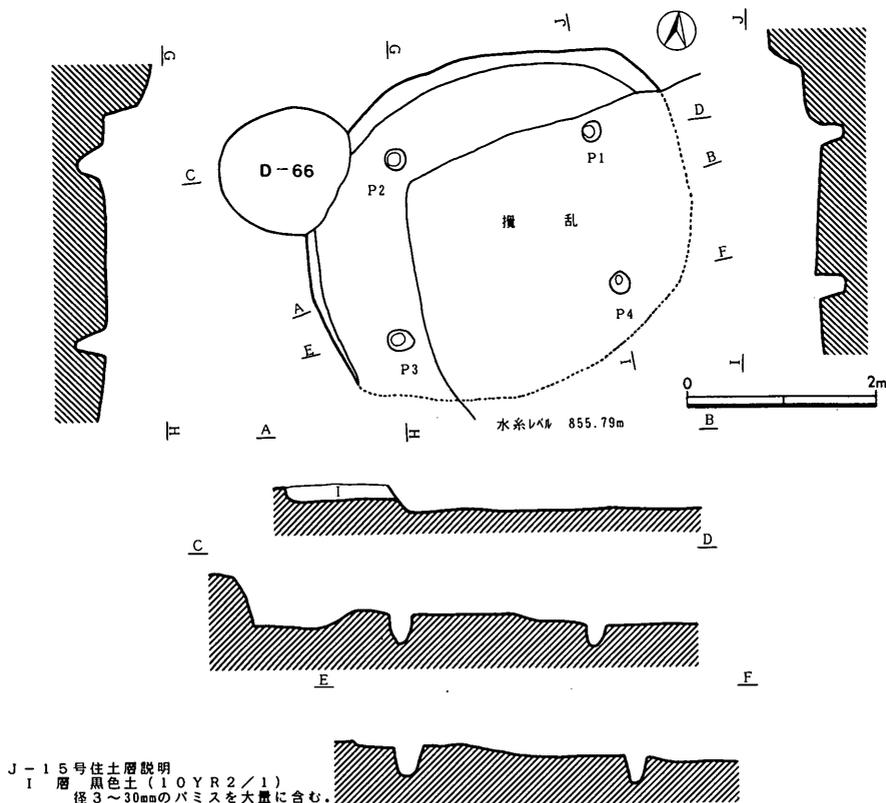
壁高は残りの良い北側で38cmを測り、残っている壁体は割合堅固である。壁溝は持たないようだ。床面は堅固である。

ピットは住居内に整然と長方形配置される。位置からみて主柱穴であろう。

炉は検出されなかった。覆土は黒色土一層が確認された。

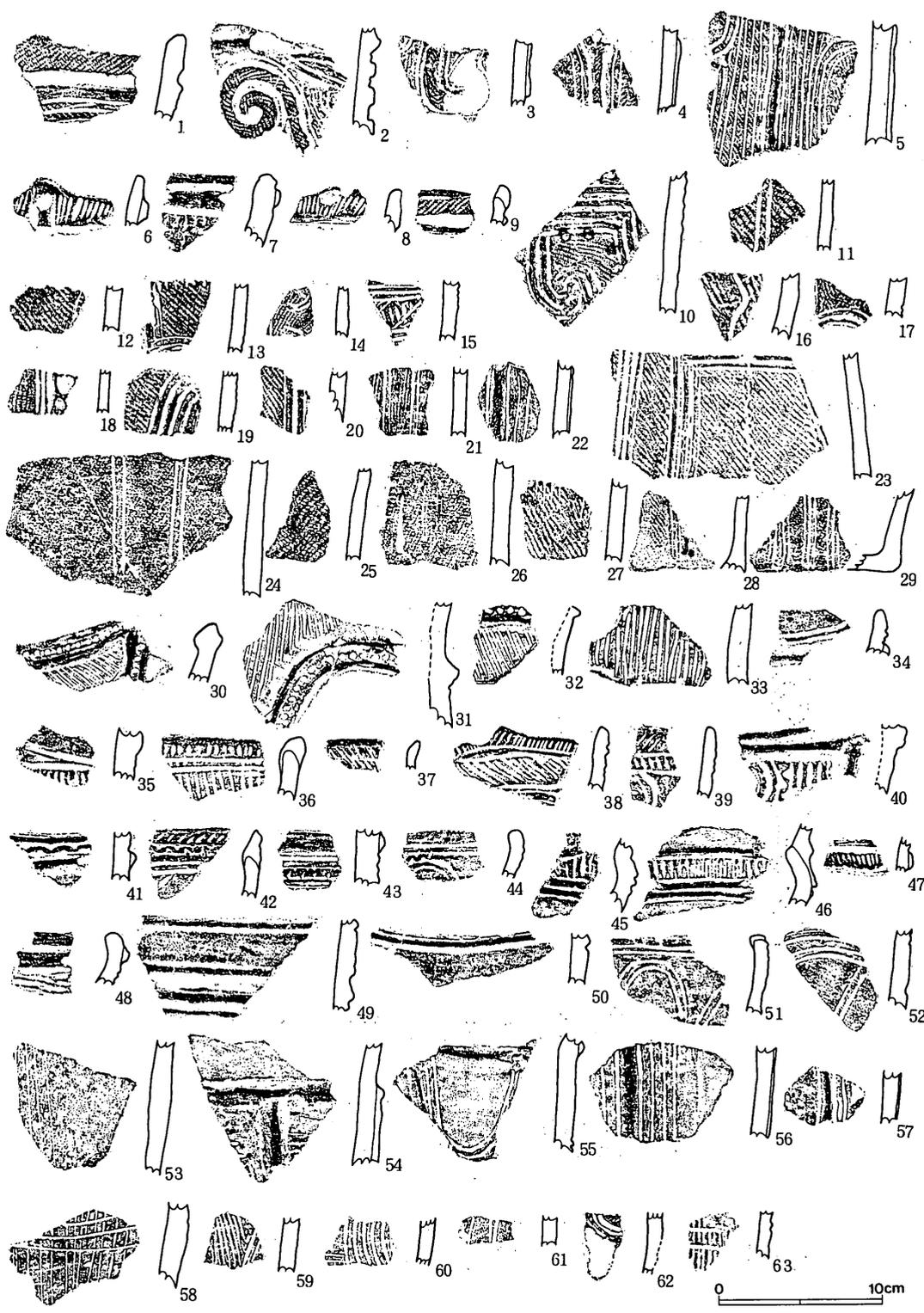
遺物 第89図

覆土中・床面上から縄文土器が少量出土している。縄文土器の器種はほとんどが深鉢である。



J-15号住居址説明
I 層 黒色土(10YR2/1)
径3~30mmのパミスを大量に含む。

第88図 J-15号住居址 (1:80)



第89图 J-15号住居址出土土器 (1:4)

第88表 J-15号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	山形突起。口縁部下の太い沈線上に縄文LR。以下横位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 5/4	J-15	中期前葉
2	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に縄文を持つ渦巻き状隆帯とそれに沿う沈線。ほかに沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 7.5YR 4/1	J-15	中期前葉
3	深鉢	胴部	— — —	縄文を持つ渦巻き状隆帯に沿って沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	明赤褐色 5YR 5/6	褐灰色 5YR 4/1	J-15	中期前葉
4	深鉢	胴部	— — —	縄文を持つY字状隆帯両わきに沿う3条の沈線。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 5YR 4/2	明赤褐色 5YR 5/6	J-15	中期前葉
5	深鉢	胴部	— — —	縄文を持つ隆帯両わきに縦位の多条沈線と弧状沈線。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	赤黒色 2.5YR 2/1	明赤褐色 2.5YR 5/6	J-15	中期前葉
6	深鉢	口縁 部	— — —	波頂部から隆帯垂下。両わきに多条の縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 6/2	灰褐色 5YR 5/2	J-15	中期前葉
7	深鉢	口縁 部	— — —	縄文RL上に2条の横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-15	中期前葉
8	深鉢	口縁 部	— — —	2個の刻みを持つ山形突起。縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	黒褐色 7.5YR 3/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
9	深鉢	口縁 部	— — —	太い沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	J-15	中期前葉
10	深鉢	胴部	— — —	重四角状沈線区画内の渦巻き状の沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	褐灰色 5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
11	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に2条の垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-15	中期前葉
12	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子	浅黄褐色 10YR 8/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-15	中期前葉
13	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に縦位・横位沈線と横位連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	J-15	中期前葉
14	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 4/2	J-15	中期前葉
15	深鉢	胴部	— — —	横位と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	黒褐色 5YR 3/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
16	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に蛇行して垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
17	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 5/2	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	J-15	中期前葉
18	深鉢	胴部	— — —	押圧を持つ垂下隆帯に並走する沈線。地文縄文LR。	タテ方向のナデ。	黒雲母	黒褐色 5YR 3/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
19	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による弧状の沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-15	中期前葉

第89表 J-15号住居址出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による垂下沈線上に縄文R L。	不明。	黒雲母	褐灰色 5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
21	深鉢	胴部	— — —	縄文R L上に半截竹管凹面による沈線。	タテ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-15	中期前葉
22	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/3	橙色 7.5YR 6/6	J-15	中期前葉
23	深鉢	胴部	— — —	縄文R Lを半截竹管凹面による沈線で矩形区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	灰白色 10YR 8/1	J-15	中期前葉
24	深鉢	胴部	— — —	縄文L R上に2本単位の垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	J-15	中期前葉
25	深鉢	胴部	— — —	縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
26	深鉢	胴部	— — —	縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 6/2	J-15	中期前葉
27	深鉢	胴部	— — —	縄文R L上に垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/2	J-15	中期前葉
28	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	垂下隆帯下に沈線。縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	J-15	中期前葉
29	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	縄文L R上に垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	J-15	中期前葉
30	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。端部下に沿って隆帯。隆帯上位に円形の連続刺突。頂部から垂下する刺突を持つ隆帯。隆帯区画内に斜行する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-15	中期前葉
31	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。端部下に沿って隆帯。隆帯上位に円形の連続刺突。隆帯下に斜行する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-15	中期前葉
32	深鉢	口縁部	— — —	隆帯上位に円形の連続刺突。隆帯下に斜行する沈線が並ぶ。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-15	中期前葉
33	深鉢	胴部	— — —	多条の縦位。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
34	深鉢	口縁部	— — —	隆帯上に3条の横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	J-15	中期前葉
35	深鉢	口縁部	— — —	横引き沈線下に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	にぶい褐色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
36	深鉢	口縁部	— — —	2条の横引き沈線上下に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	黒褐色 5YR 2/1	褐色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
37	深鉢	口縁部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	J-15	中期前葉
38	深鉢	口縁部	— — —	山形の突起。横羽状の沈線を2条の横引きの沈線で区切る。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	黒褐色 5YR 3/1	灰褐色 7.5YR 4/2	J-15	中期前葉

第90表 J-15号住居址出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
39	深鉢	口縁部	— — —	端部斜行する沈線。以下2条の横引き沈線間に斜行沈線。その下に渦巻き状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-15	中期前葉
40	深鉢	胴部	— — —	2本単位の横位隆帯から垂下隆帯。隆帯下に弧状斜行沈線。	不明。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
41	深鉢	胴部	— — —	隆帯と横引き沈線間に交互刺突。	不明。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
42	深鉢	口縁部	— — —	横引き沈線間に交互刺突。上に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石 黒雲母	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
43	深鉢	胴部	— — —	隆帯下の横引き沈線間に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
44	深鉢	口縁部	— — —	横引き沈線下の一部に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
45	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管凹面による区画内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい黄褐色 10YR 7/3	J-15	中期前葉
46	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管凹面による区画内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-15	中期前葉
47	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線を持つ隆帯下に横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
48	深鉢	口縁部	— — —	隆帯下に燃系文し。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 6/4	J-15	中期前葉
49	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による横引き沈線と隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	J-15	中期前葉
50	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石 黒雲母	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	J-15	中期前葉
51	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	端部に2本一組の横引き沈線。以下逆U字状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
52	深鉢	胴部	— — —	弧状の斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
53	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-15	中期前葉
54	深鉢	胴部	— — —	T字状隆帯両わきに沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石 黒雲母	明赤褐色 5YR 5/6	褐色 5YR 6/6	J-15	中期前葉
55	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯から垂下するY字状隆帯に沿う沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
56	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯両わきに沿う沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 7/4	J-15	中期前葉
57	深鉢	胴部	— — —	隆帯に沿う沈線と三叉文。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	暗赤褐色 5YR 3/6	J-15	中期前葉

第91表 J-15号住居址出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押函 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深 鉢	胴部	— — —	格子目状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
59	深 鉢	胴部	— — —	縦位と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	J-15	中期前葉
60	深 鉢	胴部	— — —	弧状と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/3	J-15	中期前葉
61	深 鉢	胴部	— — —	垂下隆帯両わきに沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-15	中期前葉
62	深 鉢	胴部	— — —	弧状の沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/3	J-15	中期前葉
63	深 鉢	胴部	— — —	縦位の多条沈線を横位沈線が切る。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 6/2	J-15	中期前葉

1～29は縄文を地文として、沈線・隆帯などで装飾する土器群である。

30～63は沈線を文様の主体としており、これに隆帯・連続刺突などを加えて文様装飾する。

石器の製品はみられず、87点の黒曜石の剥片のほか、安山岩・頁岩・硬質頁岩などの剥片が数点みられるに過ぎない。

時 期

以上の出土土器群から、本址は滝沢IV期縄文時代中期前葉に帰属する住居と考えられる。

2 土 坑

遺 構 第90～99図 遺 物 第100～104図

本遺跡の調査では合計で95基の土坑が検出されている。このうち、ある程度時期が想定できる土坑は28基、墓と考えられる土坑は15基である。その内訳は下記のとおりである。また、墓以外の各土坑の計測値については実測図に付して掲載した。

(1) 縄文時代前期（滝沢Ⅰ～Ⅲ期）と考えられる土坑

D-1・2号土坑

集石を有し、縄文時代前期初頭のJ-1・2号住居址とそれぞれ隣接する。集石には安山岩を多く用いている。

D-9・10・15号土坑

D-9・10・15号土坑は包含層中に最も諸磯a式土器が濃密に分布する範囲内にあり、当土器も出土している。また、D-19・35号土坑からは諸磯a式土器が出土している。

(2) 縄文時代中期（滝沢Ⅳ～Ⅵ期）と考えられる土坑

D-63・65・66・81・90号土坑

縄文中期初頭～後葉の土器が出土している。

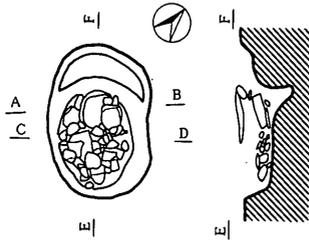
D-36・41・42・68・70・71・72・79・86・87・88号土坑

縄文中期後半の土器が出土している。

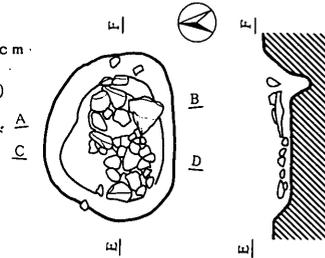
(3) 縄文時代後期（滝沢Ⅶ・Ⅷ期）と考えられる土坑

D-21・29・49・48・93号土坑

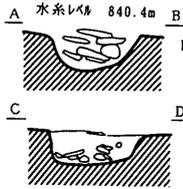
後期初頭～前葉の土器が出土している。



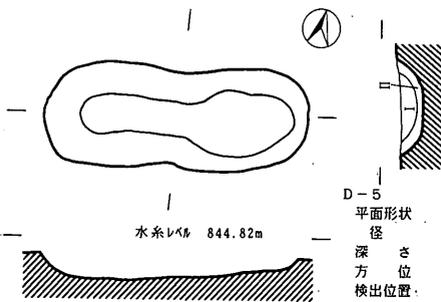
D-1
 平面形状 楕円形
 径 158×106cm
 深さ 35cm
 (ピット部分は58cm)
 方位 N-14°-W
 検出位置 <-14グリッド



D-2
 平面形状 楕円形
 径 175×147cm
 深さ 28cm (ピット部分は50cm)
 方位 N-45°-W
 検出位置 き-13グリッド

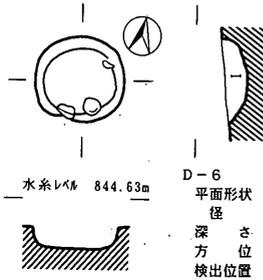


D-1号土坑土層説明
 I 層 埋土 黒褐色土 (10YR2/2)
 ローム粒子をまばらに径5~10mmの
 パミスを含む。



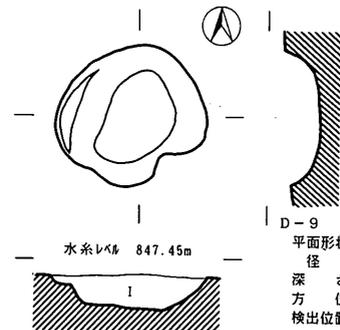
D-5
 平面形状 楕円形
 径 277×99cm
 深さ 46cm
 方位 N-76°-E
 検出位置 き-10グリッド

D-5号土坑土層説明
 I 層 黒褐色土 (10YR3/2)
 少量のローム粒とパミスを含む。
 II 層 黒褐色土 (10YR3/2)
 I 層に砂粒を含む。



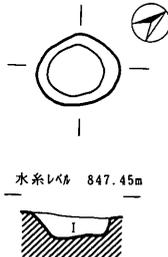
D-6
 平面形状 円形
 径 94×86cm
 深さ 23cm
 方位 -
 検出位置 き-10グリッド

D-6号土坑土層説明
 I 層 黒色土 (10YR3/2)
 ローム粒を少量、径10mm内外のパミスを含む。



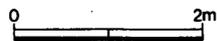
D-9
 平面形状 不整形
 径 150cm前後
 深さ 33cm
 方位 -
 検出位置 き-10グリッド

D-9号土坑土層説明
 I 層 褐色土 (10YR4/4)
 鉄分と径3mm内外のパミスを含む。

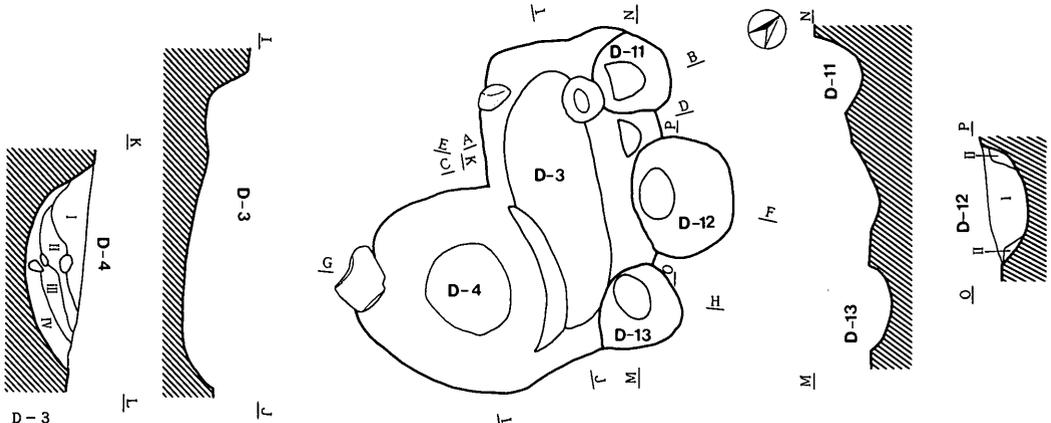


D-10
 平面形状 楕円形
 径 85×75cm
 深さ 23cm
 方位 -
 検出位置 か-8グリッド

D-10号土坑土層説明
 I 層 暗褐色土 (10YR4/3)
 径15mm内外の粘土ブロックを
 多く含む。



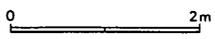
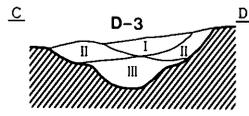
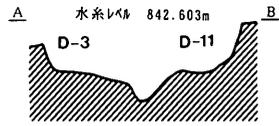
第90図 D-1・2・5・6・9・10号土坑 (1:80)



D-3
 平面形状 (楕円形)
 径 334 × - cm
 深さ 48cm
 方位 -
 検出位置 <-13グリッド

D-4
 平面形状 楕円形
 径 233 × 215 cm
 深さ 60cm
 方位 -
 検出位置 <-13グリッド

D-3号土坑土層説明
 I 層 褐色土 (10YR 4/4) を含む。
 II 層 黒褐色土 (5YR 3/3) を含む。
 III 層 黄褐色土 (10YR 5/5) を含む。
 D-4号土坑土層説明
 I 層 黒褐色土 (5YR 3/3) を含む。
 II 層 黄褐色土 (10YR 5/5) を含む。
 III 層 黒褐色土 (7.5YR 3/3) を含む。
 IV 層 極暗褐色土 (7.5YR 2/3) を含む。
 ローム粒子を少量含む。

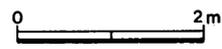


D-11
 平面形状 円形
 径 80cm前後
 深さ 50cm
 方位 -
 検出位置 <-13グリッド

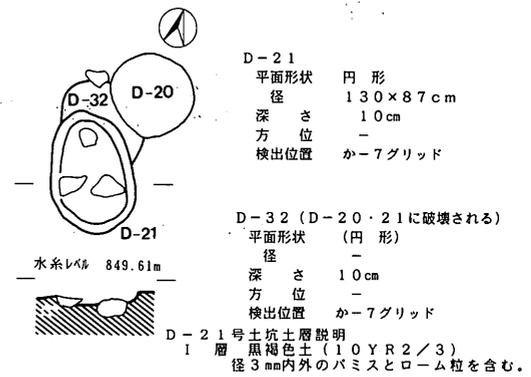
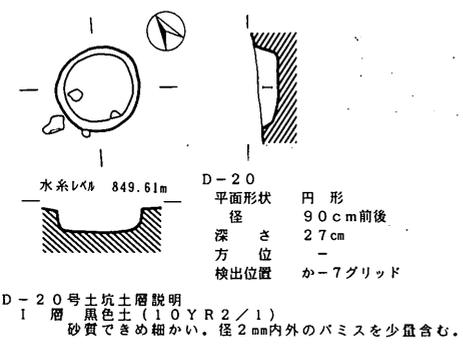
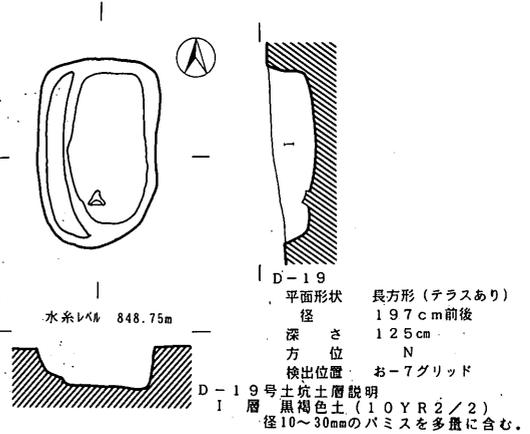
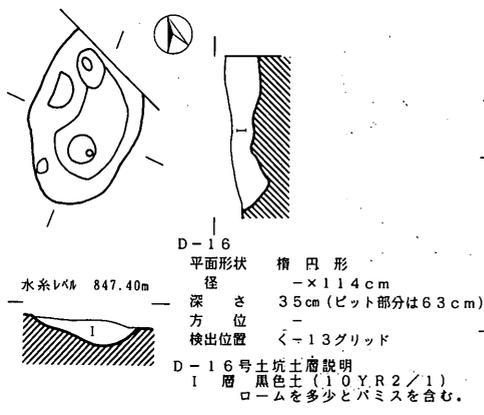
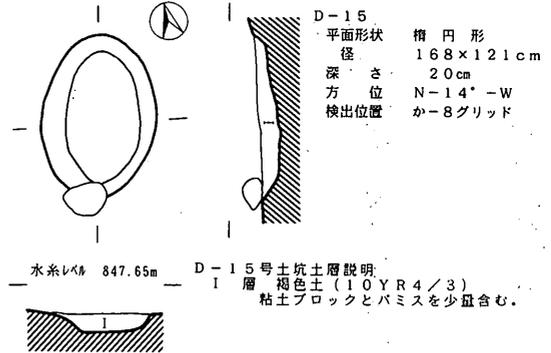
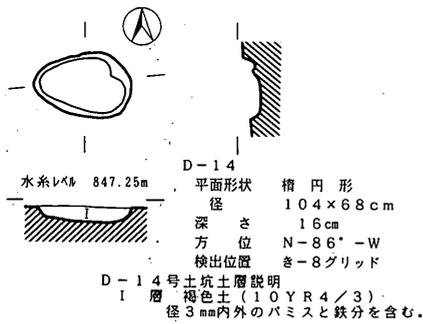
D-12
 平面形状 (楕円形)
 径 125 × - cm
 深さ 48cm
 方位 -
 検出位置 <-13グリッド

D-13
 平面形状 (円形)
 径 103cm
 深さ 43cm
 方位 -
 検出位置 <-13グリッド

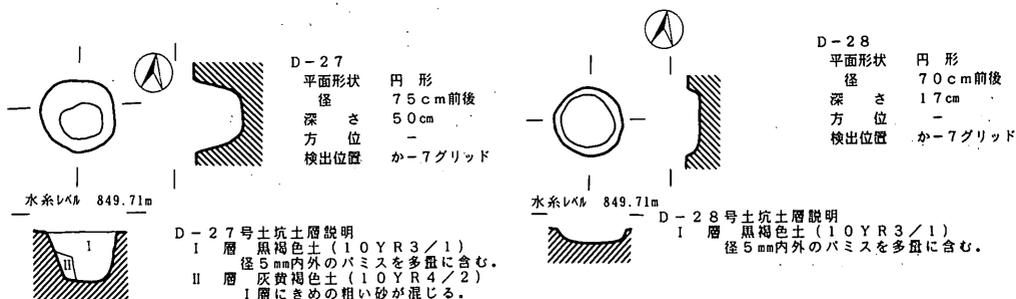
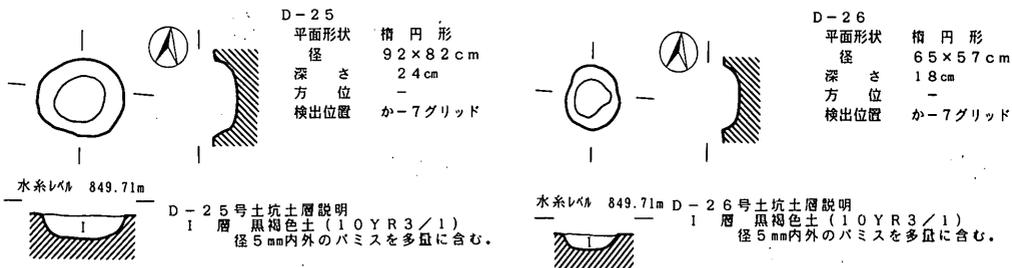
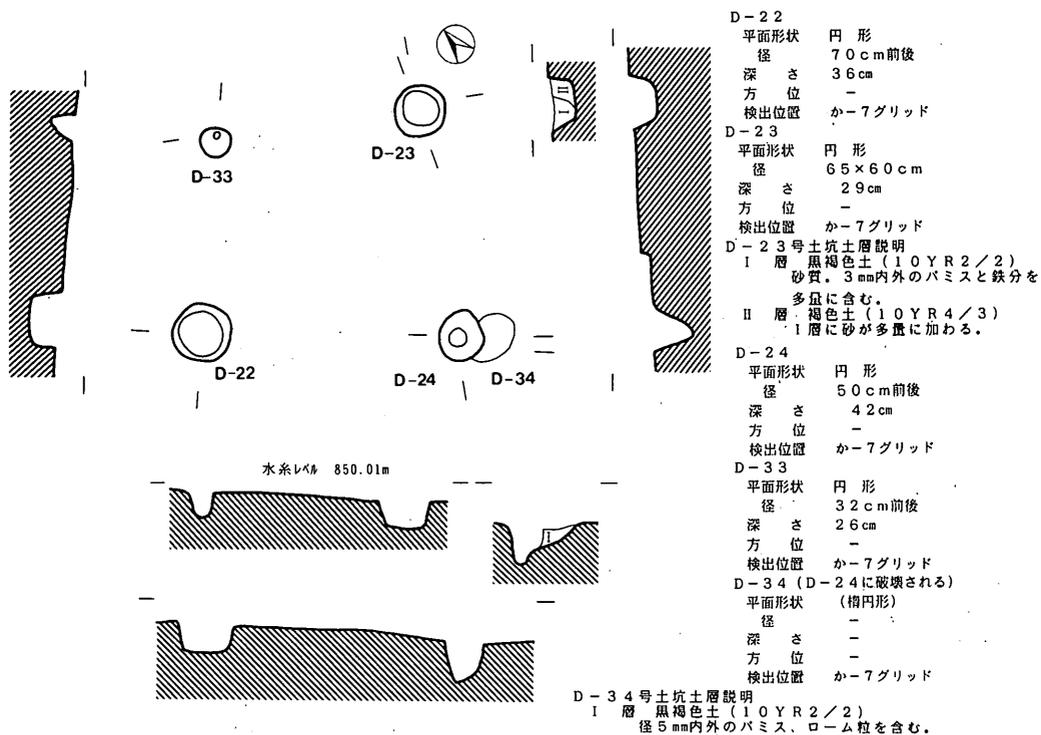
D-12号土坑土層説明
 I 層 黒褐色土 (10YR 2/1) を含む。
 II 層 黒褐色土 (10YR 4/6) を含む。
 ローム主体でパミスを含む。



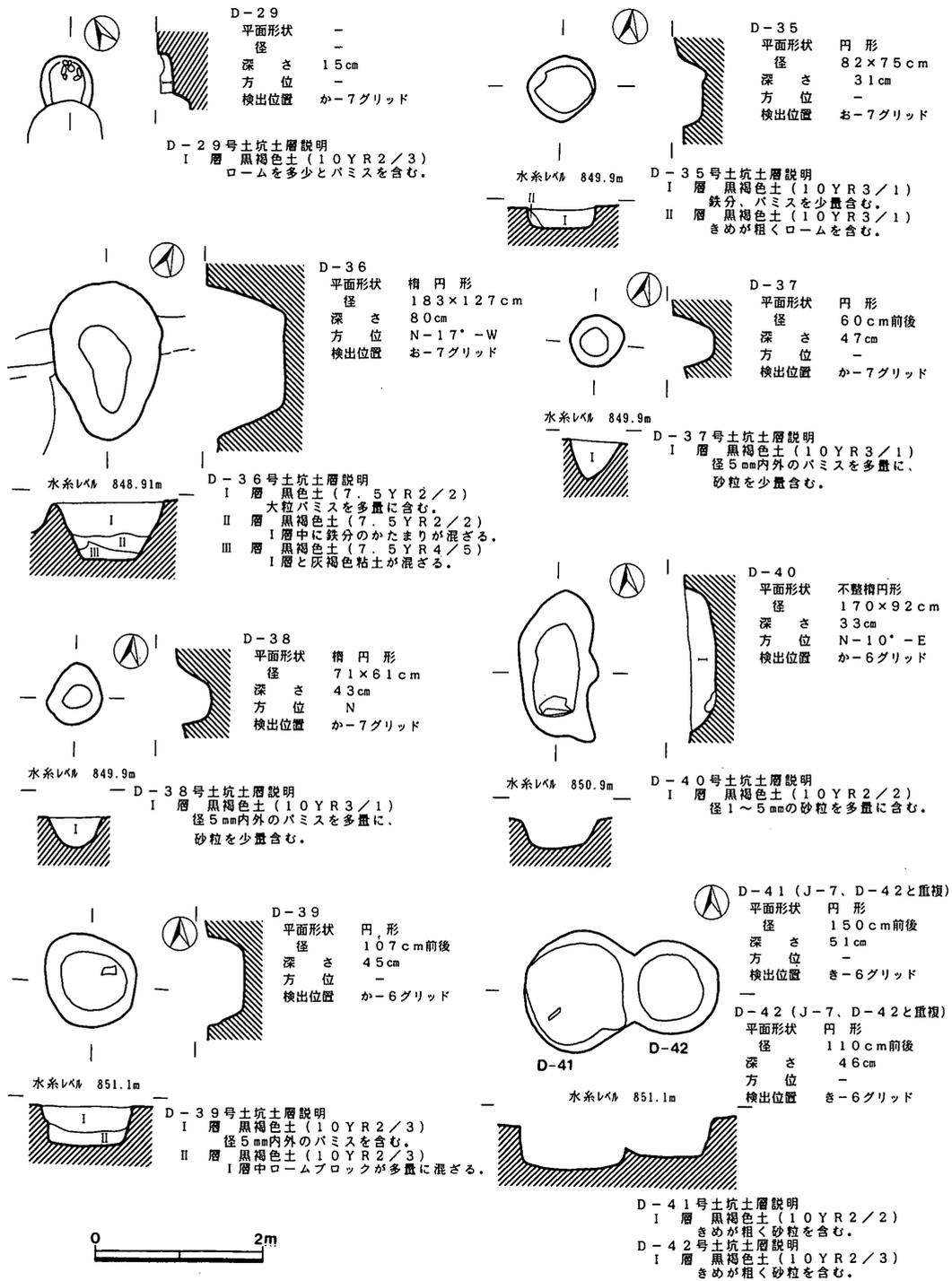
第91図 D-3・4・11・12・13号土坑 (1:80)



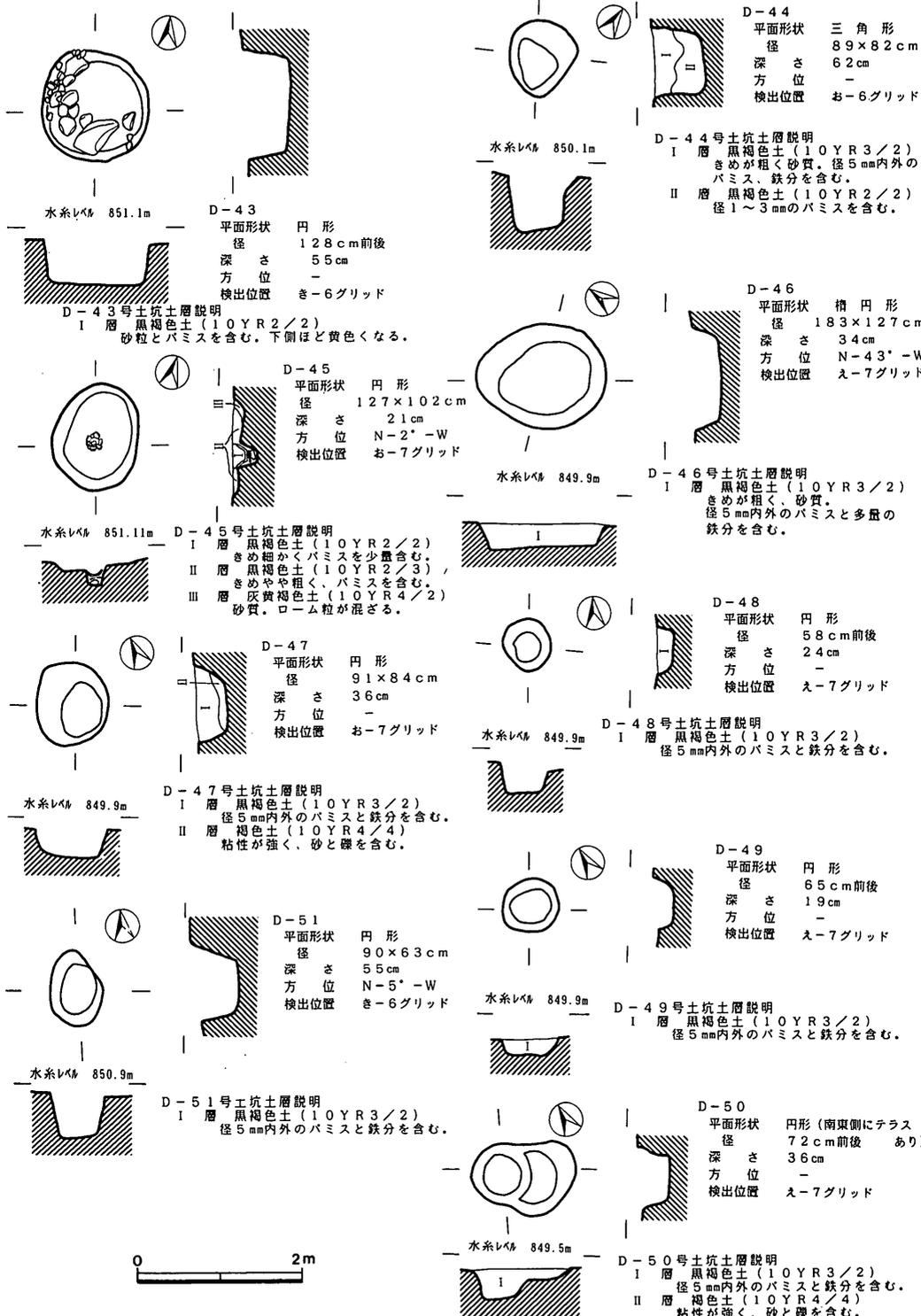
第92図 D-14・15・16・19・20・21・32号土坑(1:80)



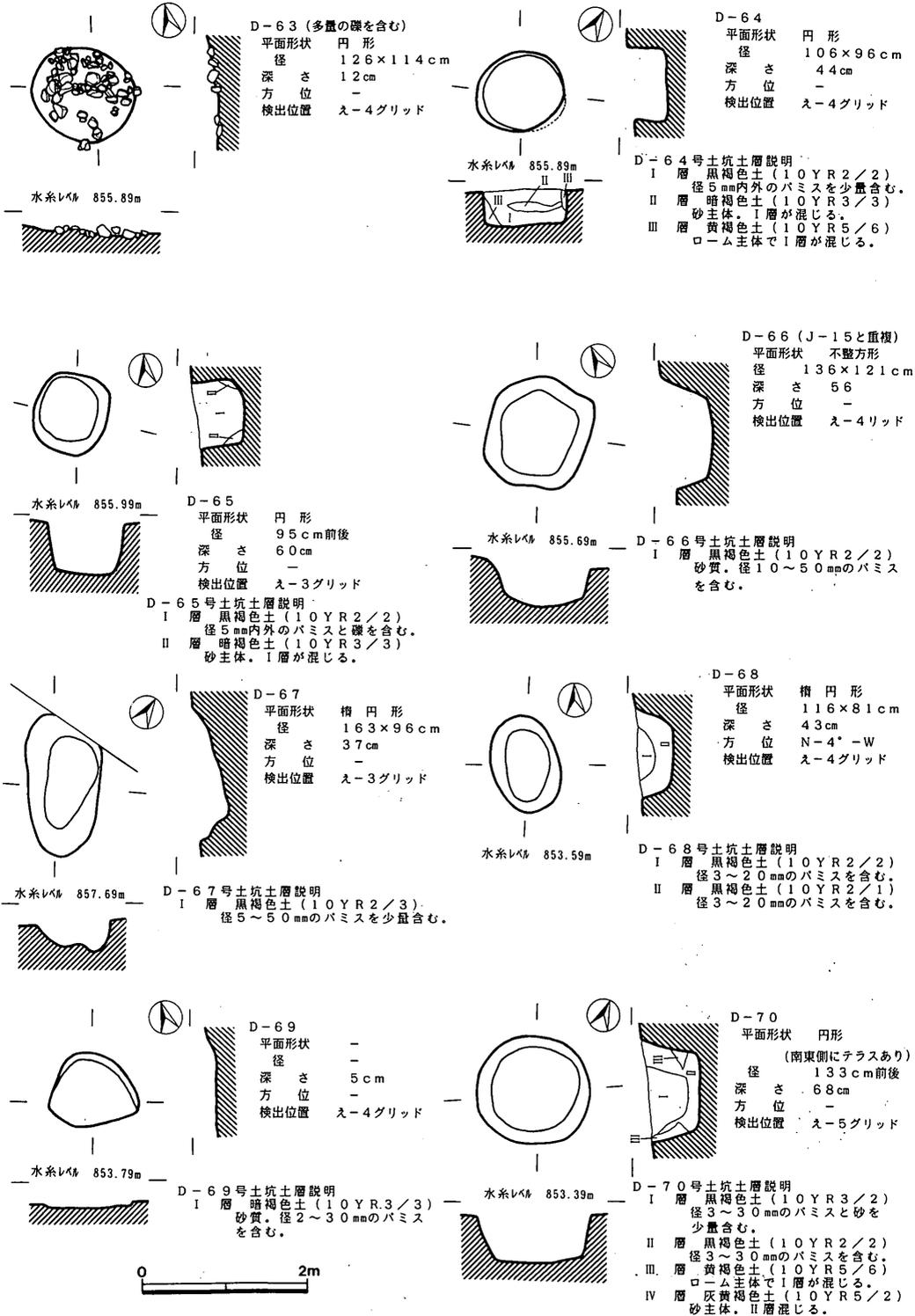
第93図 D-22・23・24・25・26・27・28・33・34号土坑 (1:80)



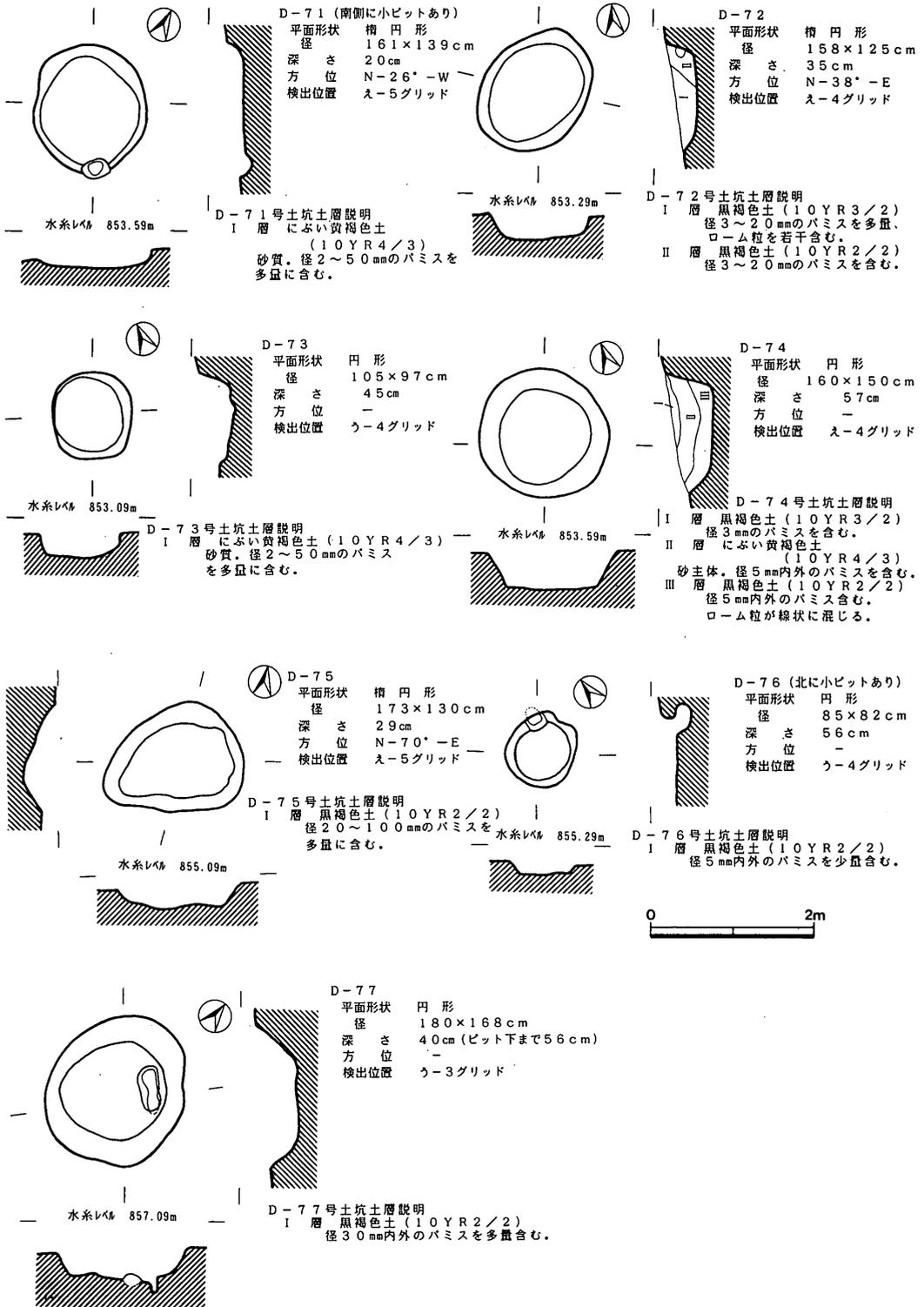
第94図 D-29・35・36・37・38・39・40・41・42号土坑 (1:80)



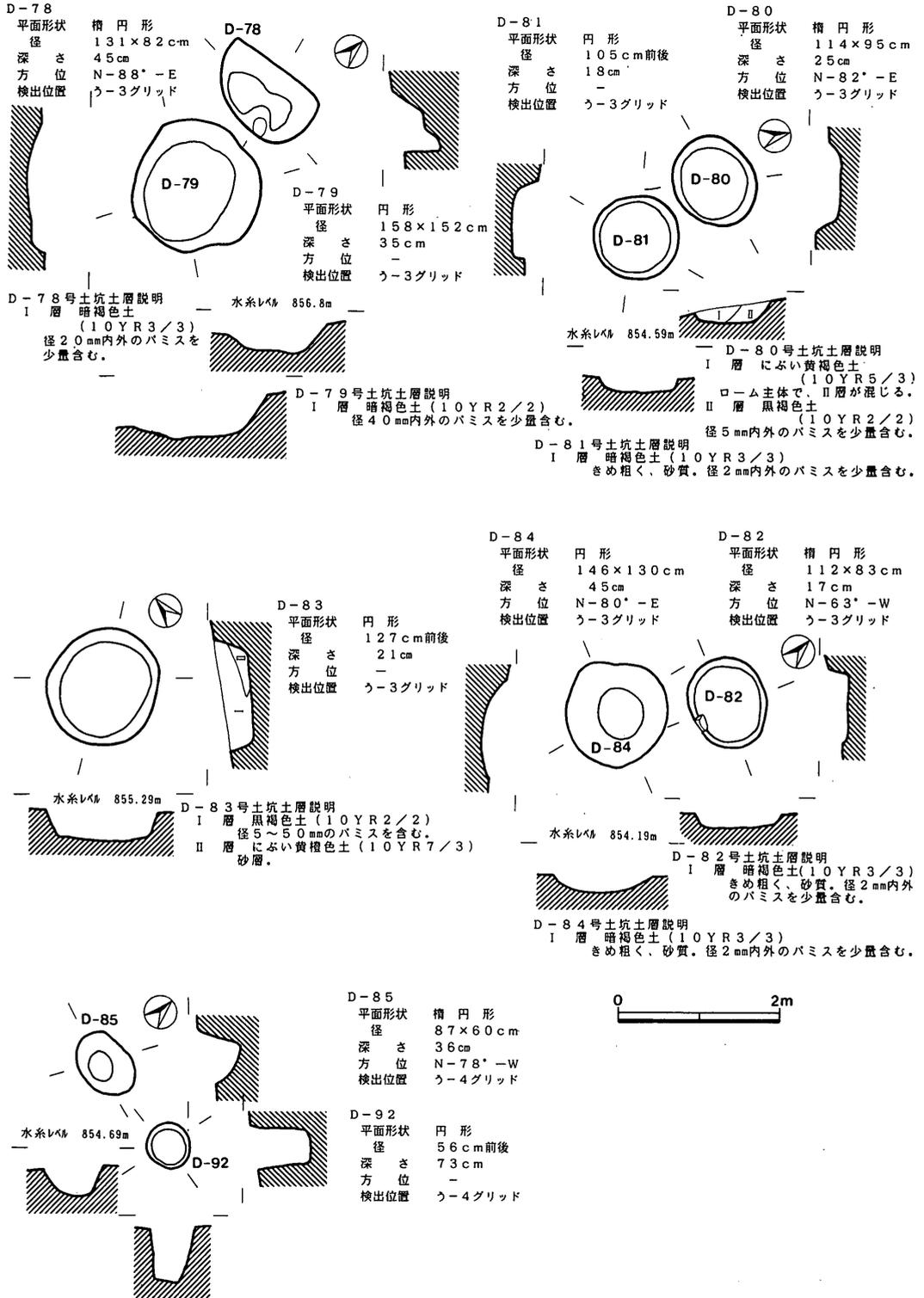
第95図 D-43・44・45・46・47・48・49・50・51号土坑 (1:80)



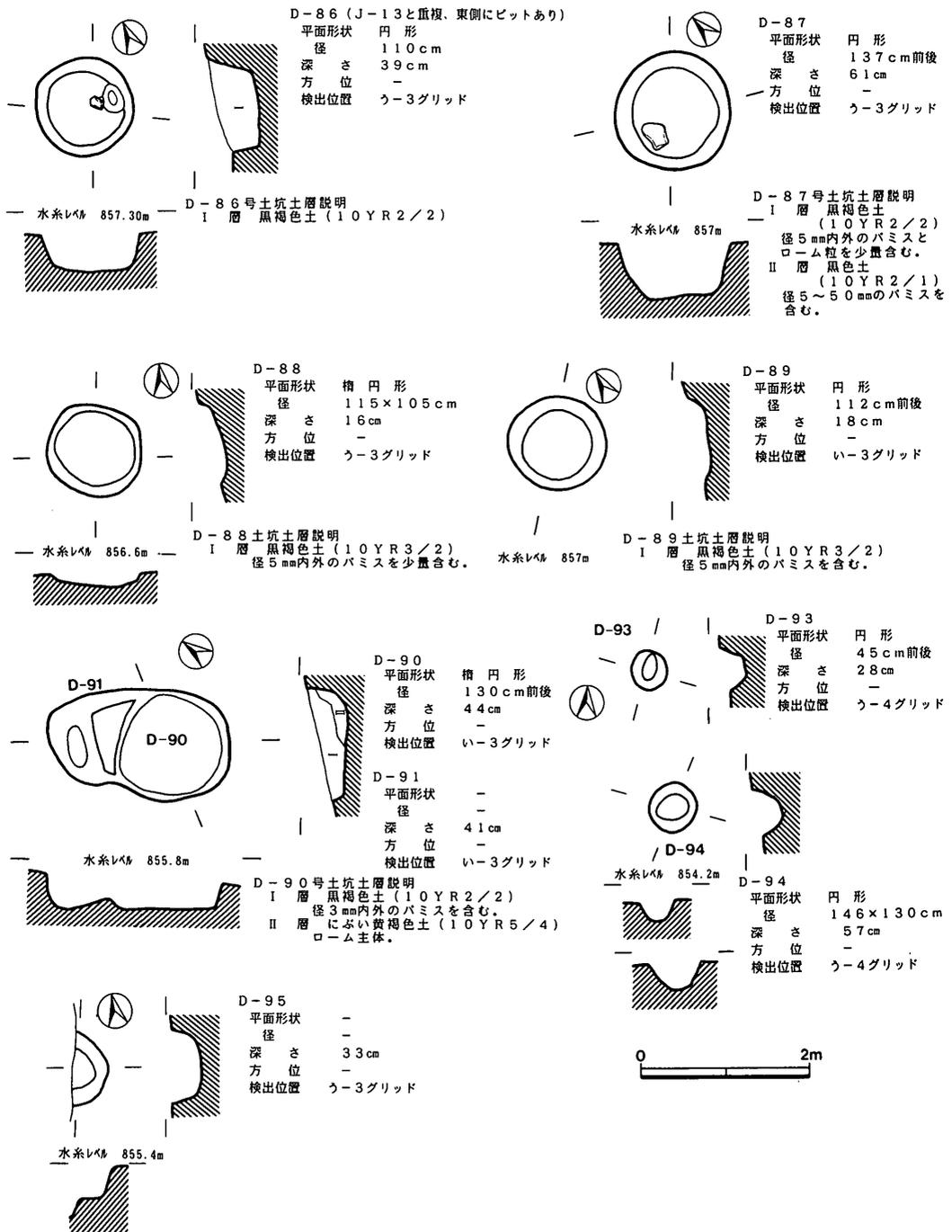
第96図 D-63・64・65・66・67・68・69・70号土坑(1:80)



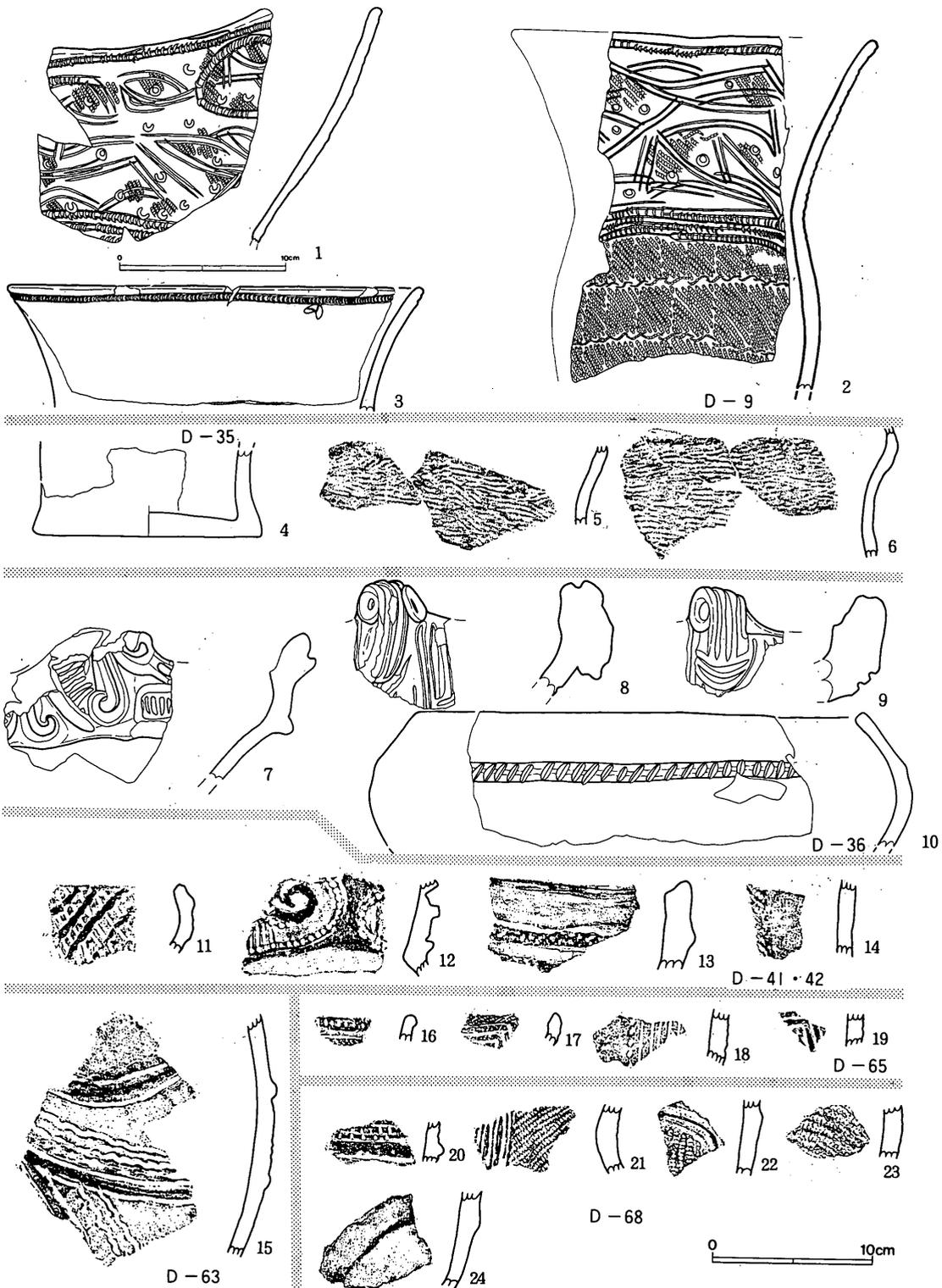
第97図 D-71・72・73・74・75・76・77号土坑 (1:80)



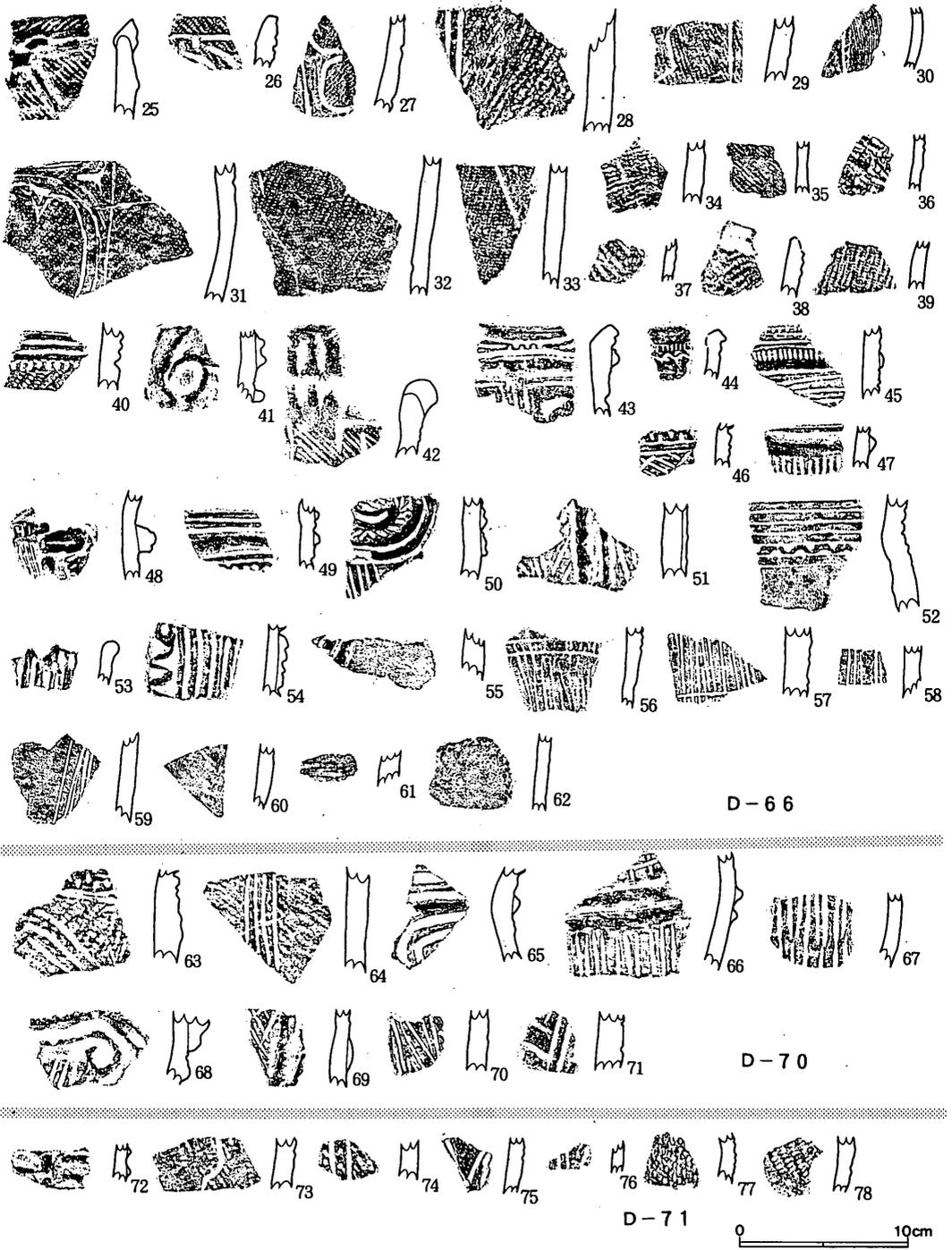
第98図 D-78・79・80・81・82・83・84・85・92号土坑 (1:80)



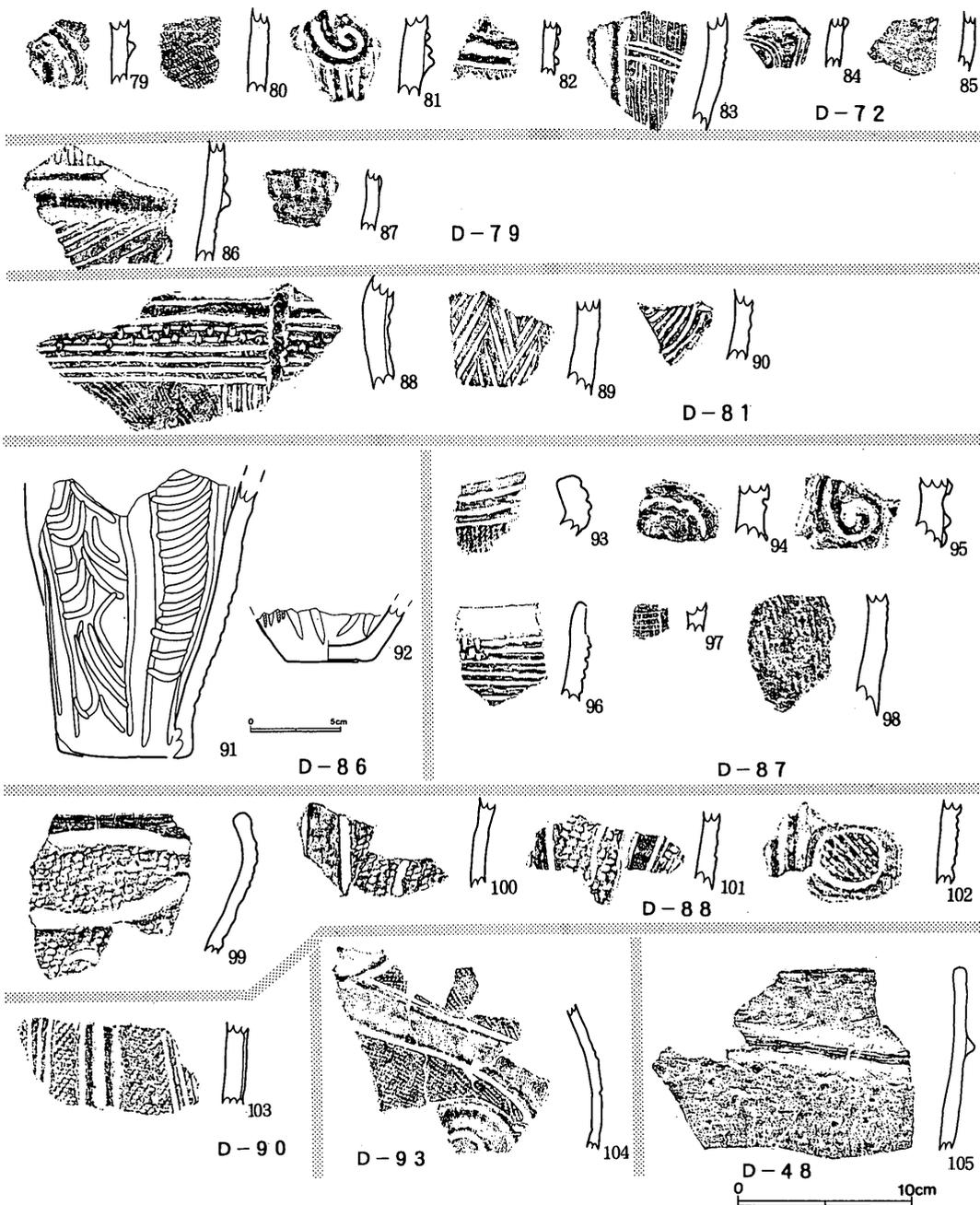
第99図 D-86・87・88・89・90・91・93・94・95号土坑 (1:80)



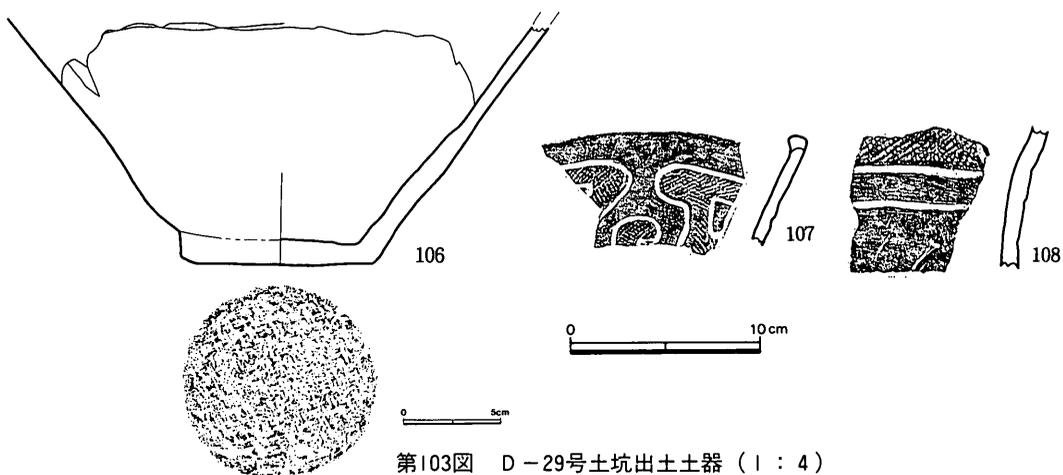
第100图 土坑出土土器 (1:4)



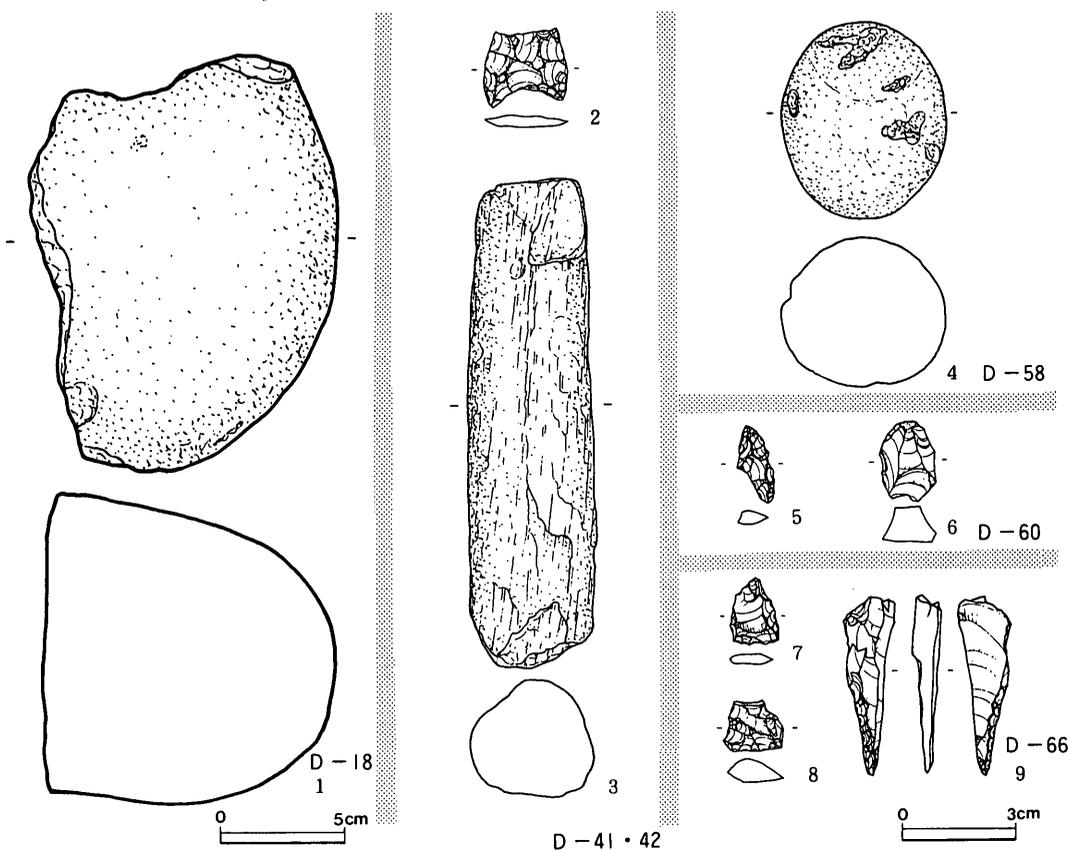
第101图 土坑出土土器 (1:4)



第102图 土坑出土土器 (1:4)



第103図 D-29号土坑出土土器 (1:4)



第104図 土坑出土石器実測図 (1:3, 1:2)

第92表 土坑出土石器一覽表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考	挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
1	円 磔	安山岩	16.5	12.3	11.3	3,289.8	研磨痕あり D-18	6	ビエス・ エスキュー	頁 岩	2.1	1.5	1.0	2.51	D-60
2	打製石鏃	ガラス質 黒色安山岩	1.9	2.2	0.4	2.03	D-41・ D-42	7	打製石鏃	黒曜石	1.8	1.3	0.4	0.81	D-66
3	棒状石製品	緑泥片岩	19.6	5.2	4.7	801.1	D-41 No 1	8	打製石鏃	黒曜石	1.4	1.6	0.6	1.24	D-66
4	磨 石	軽 石	7.8	6.8	6.1	270.30	D-58	9	石 錐	黒曜石	4.7	1.4	0.7	3.06	D-66
5	石 鏃	黒曜石	2.0	1.0	0.4	0.61	D-60								

(単位cm, g)

第93表 土坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	波状口縁。半截竹管凹面の沈線による入組木葉文、横位連続刺突と竹管による円形刺突。縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 7.5YR 5/1	D-9	前期後葉 踏礎a式
2	深鉢	口縁 ~ 胴部	(21.8) — —	縄文RL地文上に半截竹管凹面の入組木葉文。横位連続刺突と竹管による円形刺突。胴部結節縄文。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 7.5YR 7/6	D-9	前期後葉 踏礎a式
3	浅鉢	口縁 ~ 胴部	(24.8) — —	口縁端部と胴部に半截竹管凹面による沈線・連続刺突。端部に間隔をおいて穿孔。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 4/2	D-9	前期後葉 踏礎a式
4	深鉢	底部	— — 13.5	網代痕?	ナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	D-35	後期?
5	深鉢	胴部	— — —	全面に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子	浅黄褐色 10YR 8/3	褐灰色 10YR 6/1	D-35	後期? 6と同一個体
6	深鉢	胴部	— — —	全面に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子	にぶい橙色 7.5YR 7/3	褐灰色 7.5YR 5/1	D-35	後期?
7	深鉢	口縁部	— — —	隆帯上に先端渦巻き状の深い垂下沈線。ほか斜行沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	D-36	中期中葉
8	深鉢	口縁部	— — —	渦巻き状突起から深い斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石 黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/3	暗褐色 7.5YR 3/4	D-36	中期中葉
9	深鉢	口縁部	— — —	渦巻き状突起から深い垂下沈線。以下同様の横位斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石 黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	D-36	中期中葉
10	浅鉢	口縁 ~ 体部	(26.8) — —	口縁部と体部の境に刻みを持つ横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	D-36	中期中葉
11	深鉢	口縁部	— — —	斜行沈線と貼付隆帯を組み合わせて、バスケット状の文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	明褐灰色 7.5YR 7/1	D-41 -42	中期後葉
12	深鉢	口縁部	— — —	楕円隆帯区画内に渦巻き状隆帯・円形連続刺突・縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 2.5Y 8/2	灰白色 10YR 8/1	D-41 -42	中期後葉
13	深鉢	口縁部	— — —	縄文を持つ横位隆帯下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/1	D-41 -42	中期後葉
14	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを縦位のナデで磨り消す。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	D-41 -42	中期後葉
15	深鉢	胴部	— — —	弧状隆帯に沿う沈線。区画間に2条一組の波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石 黒雲母 透明粒子	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	D-63	中期中葉
16	深鉢	口縁部	— — —	肥厚する端部に横位連続刺突。以下縄文上に横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 7.5YR 6/6	D-65	中期前葉~中葉
17	深鉢	口縁部	— — —	縄文LR上に重四角状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	D-65	中期前葉~中葉
18	深鉢	胴部	— — —	多条の縦位沈線わきに連続刺突。	不明。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	D-65	中期前葉~中葉
19	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による重四角状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	灰褐色 5YR 5/2	D-65	中期前葉~中葉

第94表 土坑出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に横位沈線と交互刺突。	不明。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	D-68	中期後葉
21	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に多条の縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	砂粒 多 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-68	中期後葉
22	深鉢	胴部	— — —	樽円区画内に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/4	D-68	中期後葉
23	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	橙色 7.5YR 7/6	D-68	中期後葉
24	深鉢	胴部	— — —	環状隆帯区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	D-68	中期後葉
25	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部貼付で肥厚。また口縁部下から、X 字状隆帯、その後、細文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	褐色 5YR 6/6	D-66	中期前葉
26	深鉢	口縁 部	— — —	細文RLに横位と弧状沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
27	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と縦位の連弧状沈線。細文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	D-66	中期前葉
28	深鉢	胴部	— — —	細文RL上に縦位沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-66	中期前葉
29	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に縦位直線と波状沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	D-66	中期前葉
30	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と細文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	D-66	中期前葉
31	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に弧状と縦位沈線。三叉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	D-66	中期前葉
32	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	褐色 7.5Y 6/6	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-66	中期前葉
33	深鉢	胴部	— — —	細文LR上に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-66	中期前葉
34	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐色 5YR 6/6	D-66	中期前葉
35	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐色 5YR 6/6	D-66	中期前葉
36	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい橙色 5YR 6/4	褐色 2.5YR 6/6	D-66	中期前葉
37	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
38	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	浅黄褐色 7.5YR 8/4	D-66	中期前葉

第95表 土坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	D-66	中期前葉
40	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による横位沈線下に縄文LR。その後、横位連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/4	浅黄褐色 7.5YR 8/3	D-66	中期前葉 深沢タイプ
41	深鉢	胴部	— — —	先端が渦巻き状を呈する垂下隆帯。	?	透明粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/3	浅黄褐色 7.5YR 8/4	D-66	中期前葉 深沢タイプ
42	深鉢	口縁部	— — —	鋭利な刻みを入れた突起。横位・縦位沈線区画内に密な斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	D-66	中期前葉
43	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	横位隆帯の上は交互刺突と横位沈線。下は矩形沈線区画内に三叉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	D-66	中期前葉
44	深鉢	口縁部	— — —	肥厚口縁下に横位連続刺突と半截竹間の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 透明粒子	褐色 5YR 6/6	灰白色 10YR 8/1	D-66	中期前葉
45	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯の上は交互刺突と横位沈線。下は横位沈線のみ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
46	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による横位沈線上に交互刺突。その後、斜格子状沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐色 5YR 6/6	D-66	中期前葉
47	深鉢	胴部	— — —	断面三角形の横位隆帯の上は横位沈線。下は密な縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 5/2	にぶい褐色 5YR 6/3	D-66	中期前葉
48	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ横位隆帯から結び目状隆帯。その両わきに縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐色 5YR 6/8	にぶい赤褐色 5YR 5/4	D-66	中期前葉
49	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯上下に並走する沈線。その下に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-66	中期前葉
50	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状隆帯間を刺突で埋める。以下縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-66	中期前葉
51	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯間を斜行沈線で埋める。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	褐色 5YR 6/6	D-66	中期
52	深鉢	胴部	— — —	多条横位沈線間の下から二段目に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
53	深鉢	口縁部	— — —	2個の山形突起。縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい褐色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
54	深鉢	胴部	— — —	円形刺突下に交互刺突が縦に並びそのわきに縦位沈線が横に並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	褐色 5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	D-66	中期前葉
55	深鉢	胴部	— — —	2本一組の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 6/3	D-66	中期前葉
56	深鉢	胴部	— — —	密な縦位沈線の一部を横位沈線が切る。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	D-66	中期前葉
57	深鉢	胴部	— — —	密な縦位沈線を横位沈線が切る。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	D-66	中期前葉

第96表 土坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深 鉢	胴部	— — —	密な縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	D-66	中期前葉
59	深 鉢	胴部	— — —	密な縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
60	深 鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具?による沈線。	不明。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	灰白色 10YR 8/2	D-66	中期前葉
61	深 鉢	胴部	— — —	無文部。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
62	深 鉢	胴部	— — —	無文部。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	D-66	中期前葉
63	深 鉢	胴部	— — —	交互刺突を持つ隆帯下に沈線ほか、山形沈 線。地文細文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
64	深 鉢	胴部	— — —	細文RL上に4条の縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/3	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
65	深 鉢	胴部	— — —	横位隆帯の上は横引き沈線。下は栞円区画 沈線。区画内に細文。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
66	深 鉢	胴部	— — —	2本一組の横位隆帯の上は格子目状。下は 縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
67	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	橙色 7.5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
68	深 鉢	胴部	— — —	先端渦巻き状の横位隆帯下に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石 黒雲母 多	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
69	深 鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯わきに綾杉状の沈線。	斜 方 向 の ナ デ。	黒雲母	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
70	深 鉢	胴部	— — —	密な縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	明赤褐色 2.5YR 5/6	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
71	深 鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	D-70	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
72	深 鉢	胴部	— — —	長栞円状の隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	D-71	中期後葉
73	深 鉢	胴部	— — —	細文RL上を垂下する蛇行沈線。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	橙色 7.5YR 6/6	D-71	中期後葉
74	深 鉢	胴部	— — —	細文RL上に垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 7.5YR 7/6	D-71	中期後葉
75	深 鉢	胴部	— — —	細文RL上に斜行沈線。	タテ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	D-71	中期後葉
76	深 鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ナデ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	D-71	中期後葉

第97表 土坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

押印 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
77	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にふい赤褐色 5YR 4/3	にふい橙色 7.5YR 6/4	D-71	中期後葉
78	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にふい赤褐色 5YR 5/3	にふい橙色 5YR 6/4	D-71	中期後葉
79	深鉢	胴部	— — —	2本一組の弧状隆帯外に縄文RL。その後、 隆帯下を沈線でなぞる。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子	にふい赤褐色 5YR 4/3	橙色 5YR 6/6	D-72	中期
80	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	橙色 2.5YR 6/6	橙色 2.5YR 6/6	D-72	中期
81	深鉢	胴部	— — —	隆帯上に渦巻き状沈線を描く。以下縦位沈 線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 7.5YR 6/4	D-72	中期
82	深鉢	胴部	— — —	2本一組の横位隆帯上はバスケット状の文 様。下は縦位沈線施文後、隆帯下を沈線で なぞる。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	にふい褐色 7.5YR 5/3	D-72	中期後葉
83	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯わきに密な縦位沈線。 一部を横位沈線が切る。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 5/3	D-72	中期後葉
84	深鉢	口縁 部	— — —	半截竹管凹面による曲線。	不明。	角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/3	にふい褐色 7.5YR 6/3	D-72	中期
85	深鉢	胴部	— — —	無文部。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にふい黄褐色 10YR 7/3	にふい黄褐色 10YR 7/2	D-72	?
86	深鉢	胴部	— — —	2本一組の横位隆帯の上は縦位沈線、下は 斜行沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	褐色 7.5YR 6/6	D-79	中期後葉
87	深鉢	胴部	— — —	横位の連続押圧。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい赤褐色 5YR 5/4	D-79	中期
88	深鉢	胴部	— — —	十字状隆帯下に7条の横位沈線。上から二 ・三段目に交互刺突。その下に多条の縦位 沈線。地文縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にふい褐色 7.5YR 5/3	褐色 5YR 6/6	D-81	中期前葉
89	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石 黒雲母	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい橙色 7.5YR 6/4	D-81	中期
90	深鉢	胴部	— — —	重弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にふい褐色 7.5YR 6/4	にふい黄褐色 10YR 7/4	D-81	中期
91	深鉢	胴部 ～ 底部	— — (6.7)	2本一組の縦位沈線間にうろこ状の沈線を 埋める。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	明赤褐色 2.5YR 5/6	褐色 5YR 6/6	D-86 No.1	中期後葉
92	深鉢	胴部 ～ 底部	— — 4.2	2本一組の縦位沈線間に縄文LRを埋め る。	丁寧なナデ。	白色粒子	明赤褐色 2.5YR 5/6	にふい黄褐色 10YR 6/3	D-86 No.1	中期後葉 加曾利EⅢ式 並行・佐久系
93	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁。口縁部下に3条の横位沈線。以 下縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にふい褐色 7.5YR 5/3	D-87	中期前葉
94	深鉢	胴部	— — —	2本一組の渦巻き状隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にふい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/3	D-87	中期前葉
95	深鉢	胴部	— — —	2本一組の渦巻き状隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	明赤褐色 2.5YR 5/6	褐色 2.5YR 6/6	D-87	中期前葉

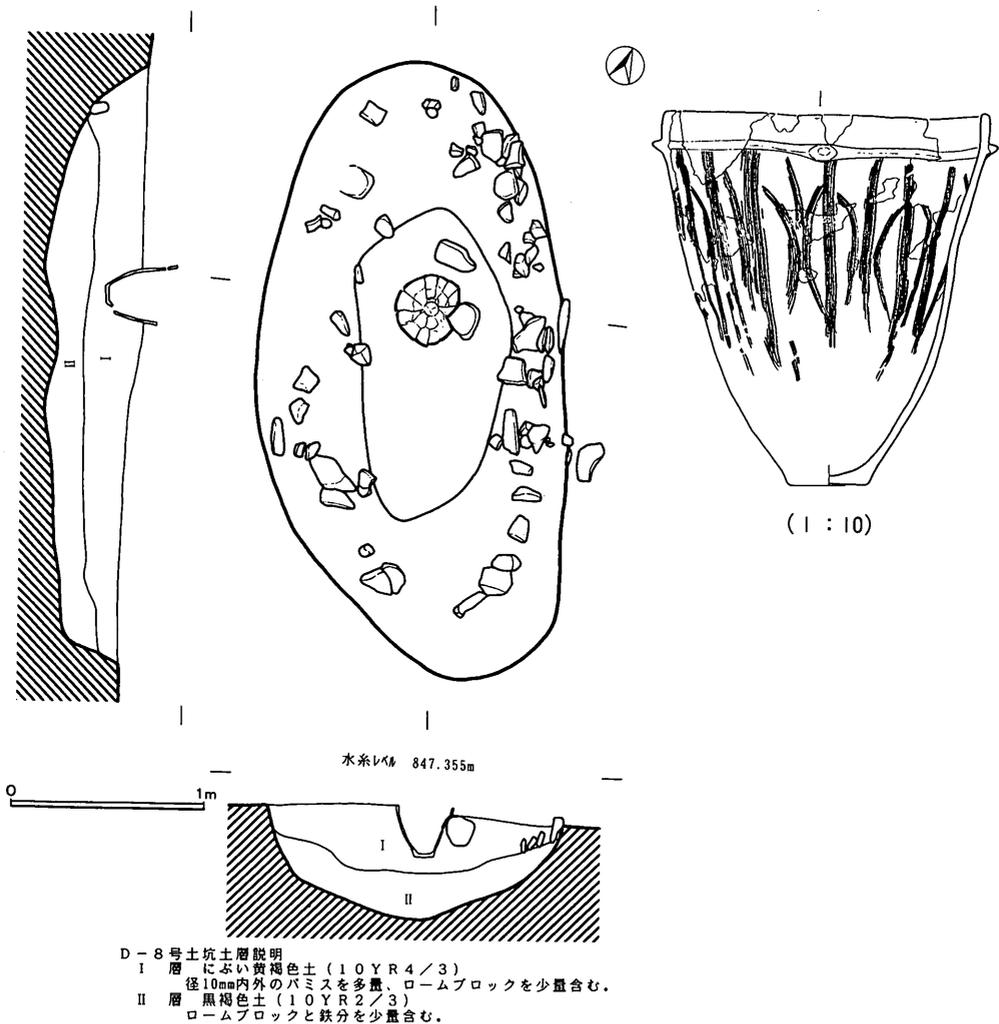
第98表 土坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
96	深鉢	口縁部	— — —	多条の横位沈線の一部に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 2.5YR 4/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-87	中期前葉
97	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯わきに細い格子目状沈線。	ヨコ方向のナデ。	?	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	D-87	中期
98	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	D-87	中期
99	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部椀区画沈線内外に縄文LR。胴部はその後沈線。	ローヨコ胴-タテ方向のナデ。	白色粒子	黒褐色 7.5YR 3/1	にぶい黄褐色 10YR 6/4	D-88	中期後葉
100	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に縦位沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 7/4	D-88	中期後葉
101	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に縦位沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	D-88	中期後葉
102	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯両わきを沈線でなぞり、そのわきは環状沈線区画内に斜行押し文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	D-88	中期
103	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯下に、縄文LR。その後、隆帯下およびわきを沈線でなぞる。	タテ方向のナデ。	黒雲母 多	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/8	D-90	中期前葉
104	深鉢	胴部	— — —	2本一組の渦巻きをつなぐ斜行隆帯外に縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 8/2	にぶい黄褐色 10YR 6/3	D-93	後期前葉
105	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	橙色 7.5YR 7/6	D-48	後期前半
106	深鉢	胴 ～ 底部	— — 9.8		ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 8/2	にぶい黄褐色 10YR 6/3	D-29 No 1	後期
107	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内側突出。Y字状と考えられる沈線区画内に縄文LR充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	黒色 10YR 2/1	D-50	後期初頭
108	深鉢	胴部	— — —	2条の横位沈線の上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	D-50	後期前半

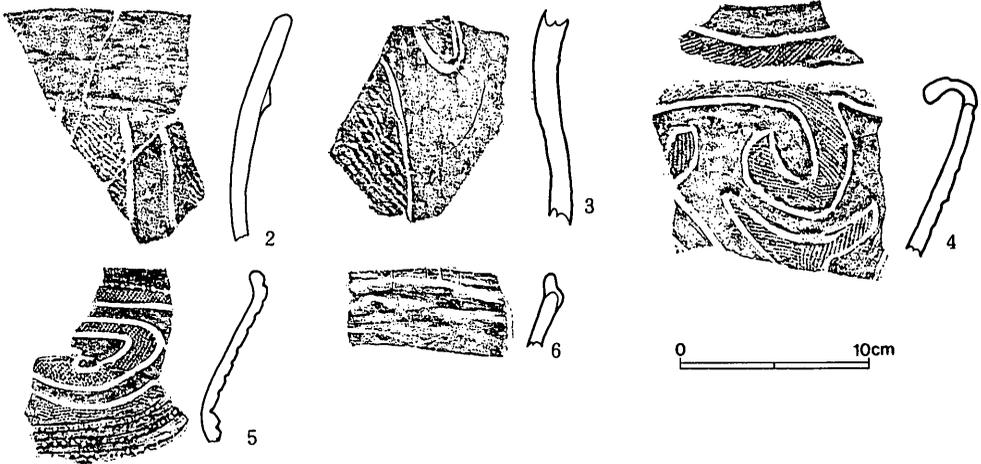
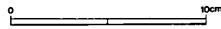
(4) 墓址と考えられる土坑

D-8号土坑 第105・106図

き-8グリッド。326×163cmの楕円形土坑のほぼ中央に正位に埋められた後期初頭の大型粗製深鉢(第105図1)の土器棺内から骨粉が出土した。これが骨であることは後述のリン分析結果でも裏付けられている。口径42cmの大型棺であるため、かなり大きな遺体を埋葬することも可能である。棺底面は土坑底面から33cm高い位置にあるため、いったん土を埋め戻したあと、東側に石を添え、埋設したものと考えられる。また、土坑側壁には扁平な礫が貼り付けられていた。帰属時期は滝沢VII期縄文後期初頭と考えられる。



第105図 D-8号土(墓)坑(1:40)



第106图 D-8号土坑出土土器 (1:4)

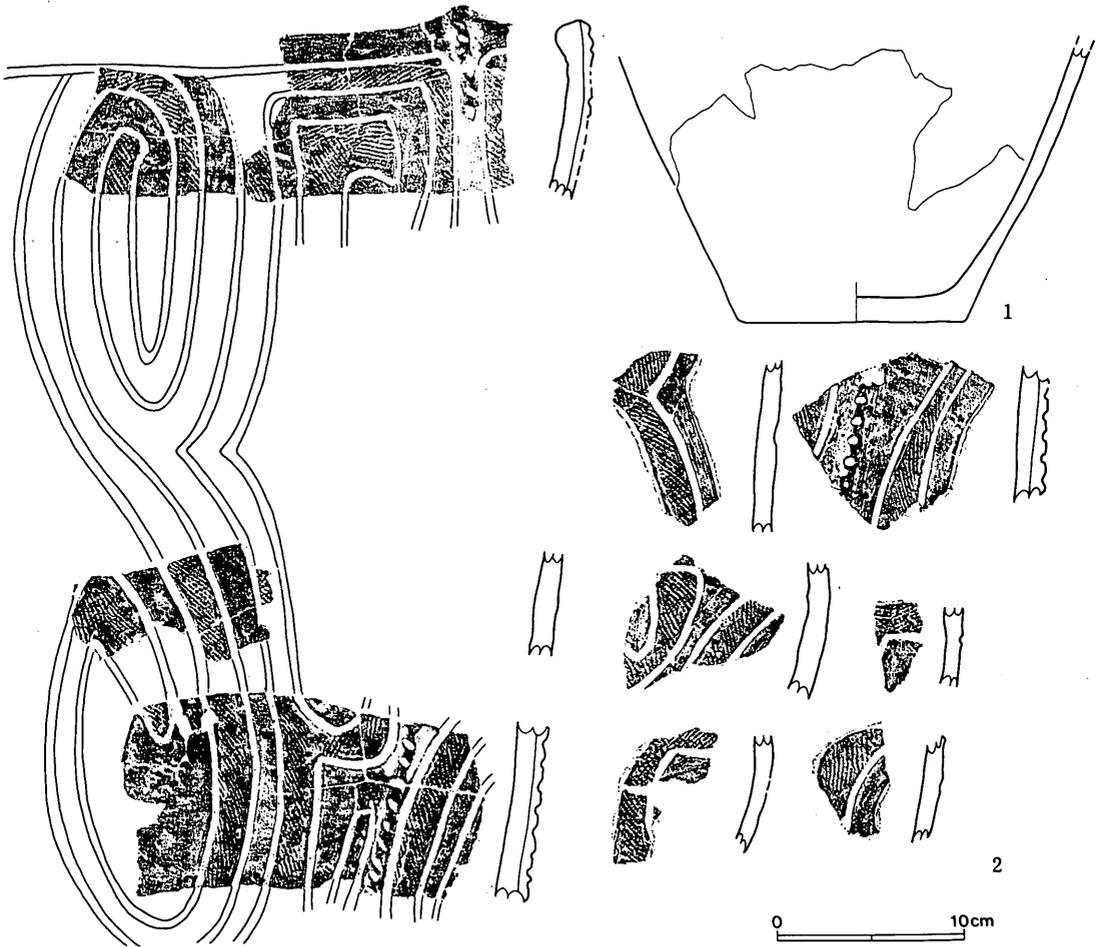
第99表 D-8号土(墓)坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	完形	42.2 48.4 10.2	4か所に突起を持つ横位隆帯下に櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	D-8 No.1	後期初頭
2	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	横位隆帯下に縦位沈線と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 7/3	D-8	中期後葉
3	深鉢	胴部	- - -	縦位沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	D-8	中期後葉
4	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	口縁部内折。端部を巡る横位磨消縄文帯からJ字文帯垂下。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	明赤褐色 2.5YR 5/6	D-8 上表採	後期初頭
5	深鉢	口縁 ~ 胴部	- - -	渦巻き状の沈線区画間に縄文LR。その後、端部に沿う沈線上に円形の連続刺突。以下に樽状の曲隆帯を貼付。曲隆帯上には3条の連続刺突を持つ沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	D-8 上表採	後期初頭
6	深鉢	口縁 部	- - -	端部に1条の横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	灰褐色 5YR 5/2	D-8 上表採	後期前半

D-45号土坑 第95・107図

おー7グリッド。土坑底面の中央部を直径20cmほどくり貫き、そこに円礫→深鉢の口縁部から胴部（第107図2）→深鉢の底部（第107図1）の順序で納めていく。土壌分析未実施のため、リンの濃度は不明である。

出土土器の特徴から本土坑は滝沢VII期縄文時代後期初頭に帰属する。



第107図 D-45号土（墓）坑出土土器（1：4）

第100表 D-45号土（墓）坑出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — 11.6	外面タテ・斜方向のナデ。	タテ・斜方向 のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 7.5YR 8/4	淡赤橙色 2.5YR 7/4	D-45 No.1	後期初頭
2	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部小突起から刻みを持つ垂下隆帯。ほか二段J字状沈線を基本とし、縄文RL充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	D-45 No.2	後期初頭

D-52号土坑 第108・109・114図

お-6グリッド。D-53を破壊。170～180×111cmの南北に長い不整形土坑で底面南東側にはもう一段の落ち込みがみられる。上面には墓標であったと考えられる柱状の礫20・21が倒れており、この近くから耳形土製品17が出土した。また、土坑底面から65cmの高さには深鉢の網代痕を持つ底部（第108図81）が逆位で埋設されていた。この底部直下の土壌をリン分析したが、含有量は非常に少なかった。このほか、坑内から堀之内2式の土器片2～16とピース・エスキューユ18、削器19などの石器が出土している。時期 滝沢Ⅷ期。

D-53号土坑 第108・112・115図

お-6グリッド。120～130×115cmの2か所にテラスを持つ不整形土坑でD-52号土坑に一部を破壊され、J-4号住居址と重複するが新旧関係不明。土坑内北側の中位に胴部上位を欠く後期前葉・堀之内1～2式の深鉢（第112図1・2）を正位に2個重ねて埋設しており、土器棺と考えられる。棺底面から土坑底面までの高さは35cmを測る。また、土坑底面からやや浮いた位置に扁平な軽石が置かれていた。上の深鉢1には磨製石斧未製品（第115図5）が入っていたほか、土壌を分析した結果、やや多めのリンが確認された。また、下の深鉢2には削器と剝片（第115図6～9）が入っていた。時期 滝沢Ⅷ期。

D-54・56・57号土坑

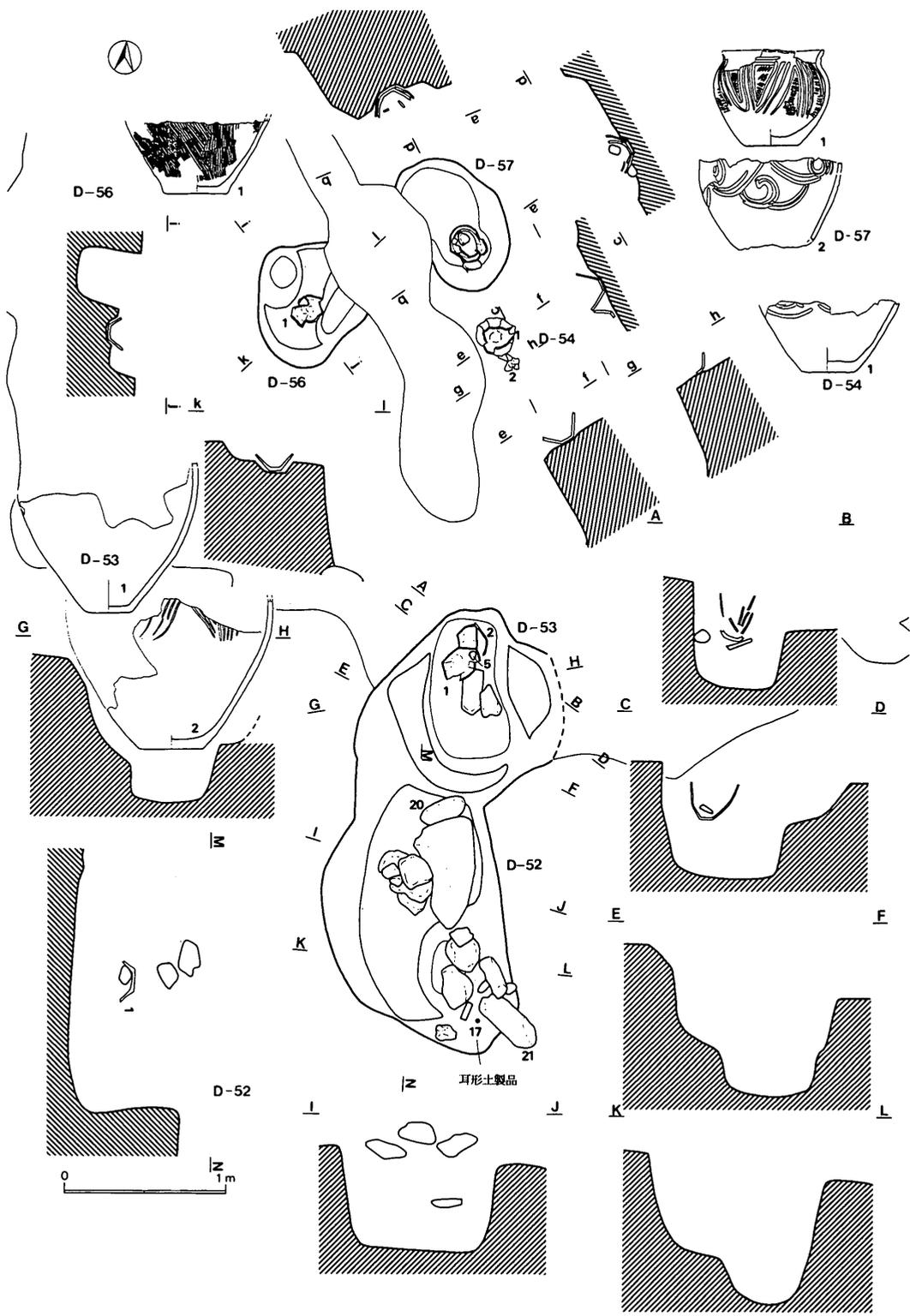
J-4号住居址床面上にまとまりを持つ土坑で、いずれも土器棺が納められている。J-4号住居址覆土上でプランが確認されなかった状況から考えるとJ-4号住居址埋設過程で掘削された墓穴であったと考えられる。

D-54号土坑 第108・110図

お-6グリッド。J-4号住居址の床面を若干掘り込むが土坑のプランは確認できなかった。胴部中位以上を欠く後期前葉・堀之内1～2式の深鉢（第110図1・2）を正位に埋置していることから土器棺と考えられる。棺内の土器を土壌分析した結果、平均的な含量のリンが検出された。時期 滝沢Ⅷ期。

D-56号土坑 第108・111図

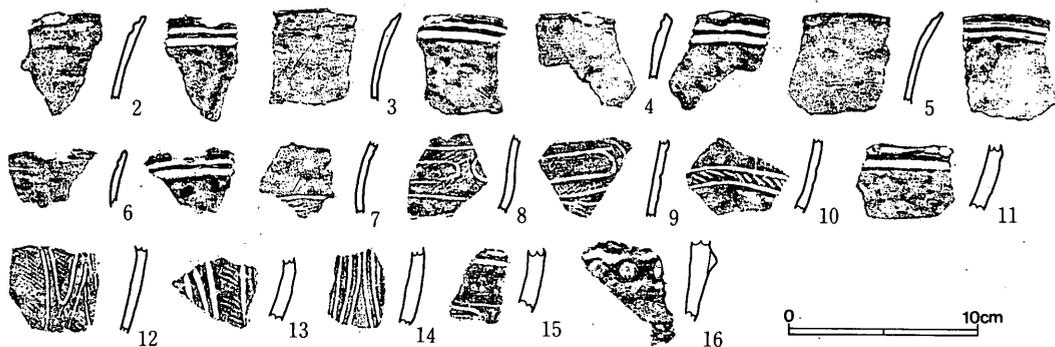
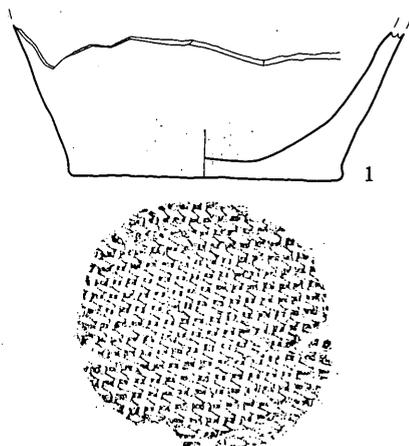
お-6グリッド。J-4号住居址の床面を浅く掘り込む径150cmの土坑底面の真ん中に三十稲葉か綱取式との関連が考えられる縄文後期の胴部中位以上を欠く撚糸文の深鉢（第111図1）が正位で埋置され、土器棺と考えられる。土壌分析未実施。時期 滝沢ⅦかⅧ期。



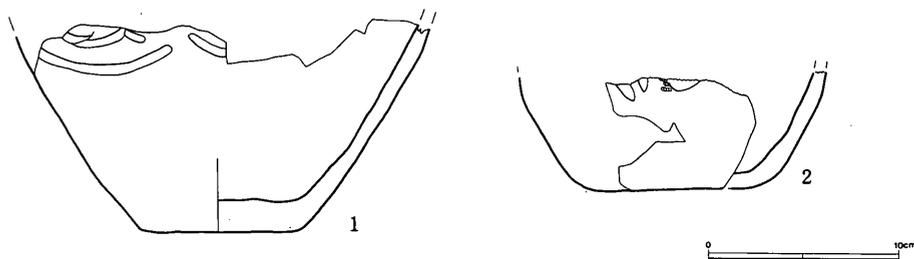
第108图 D-52·53·54·56·57号土坑 (1 : 40)

D-57号土坑 第108・113図

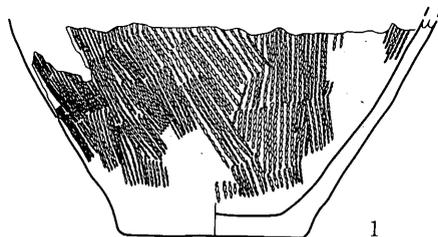
お-6グリッド。J-4号住居址の床面を浅く掘り込む172×106cmの楕円形土坑底面の南に口縁部を欠く掘之内1~2式の深鉢(第113図1)と胴部下位の同期の深鉢(第113図2)を重ねて正位に埋置する。土器棺と考えられるが上の土器から土壌サンプルを採取するミスを犯したため、リンはあまり確認できなかった。時期 滝沢VIII期。



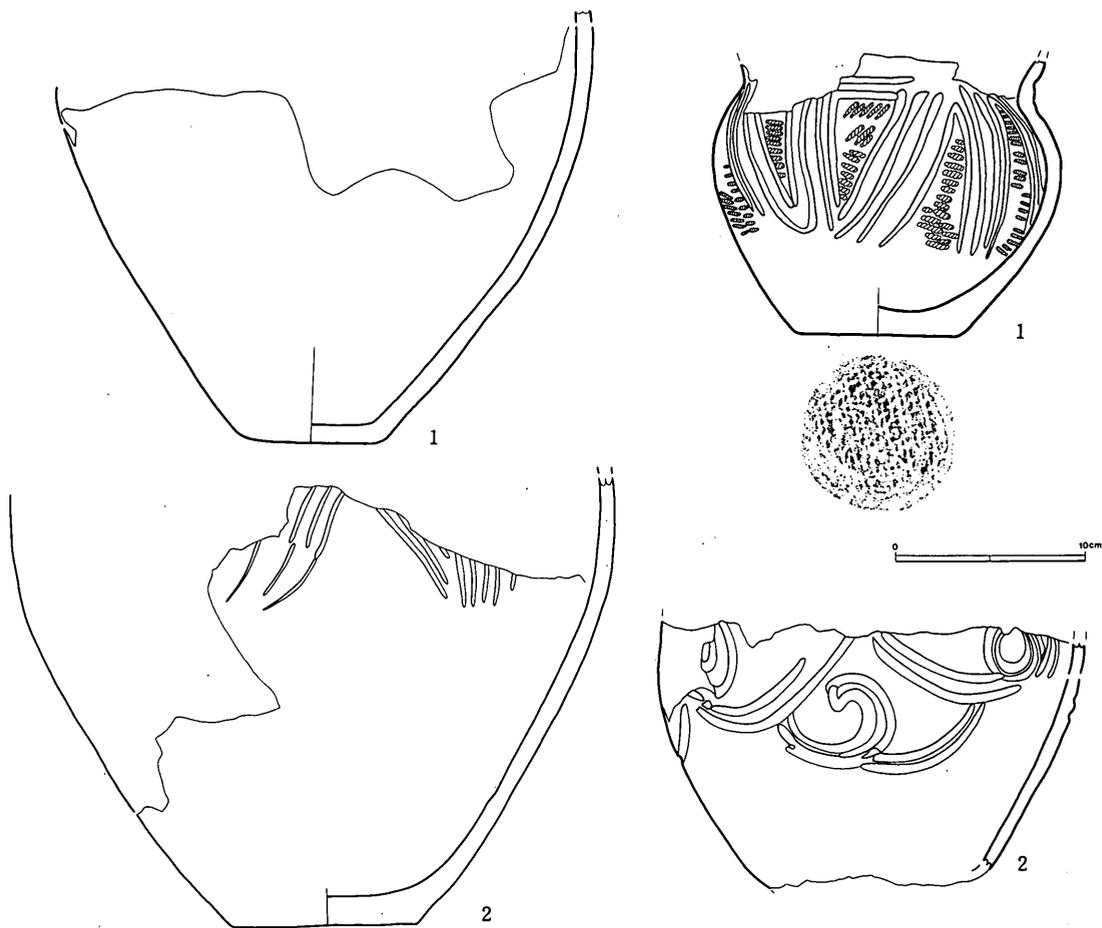
第109図 D-52号土坑出土土器 (1:4)



第110図 D-54号土坑出土土器 (1:4)



第111図 D-56号土坑出土土器 (1:4)



第113図 D-57号土(墓)坑出土土器(1:4)

第101表 D-52号土坑出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
18	ピエス・ エスキュー	黒曜石	4.1	2.7	1.7	14.13	D-52
19	削 器	安山岩	14.2	7.5	1.9	200.43	D-52 Na.2
20	円 碟	安山岩	41.2	18.6	15.6	13.55	D-52 Na.4
21	碟	安山岩	43.4	16.6	13.1	10.95	D-52 Na.6

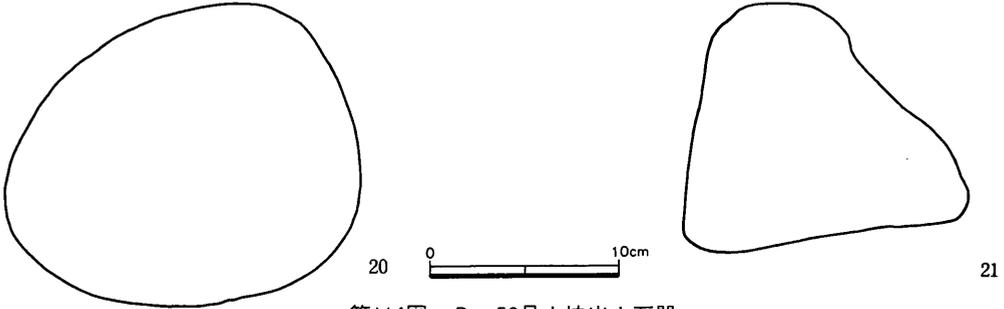
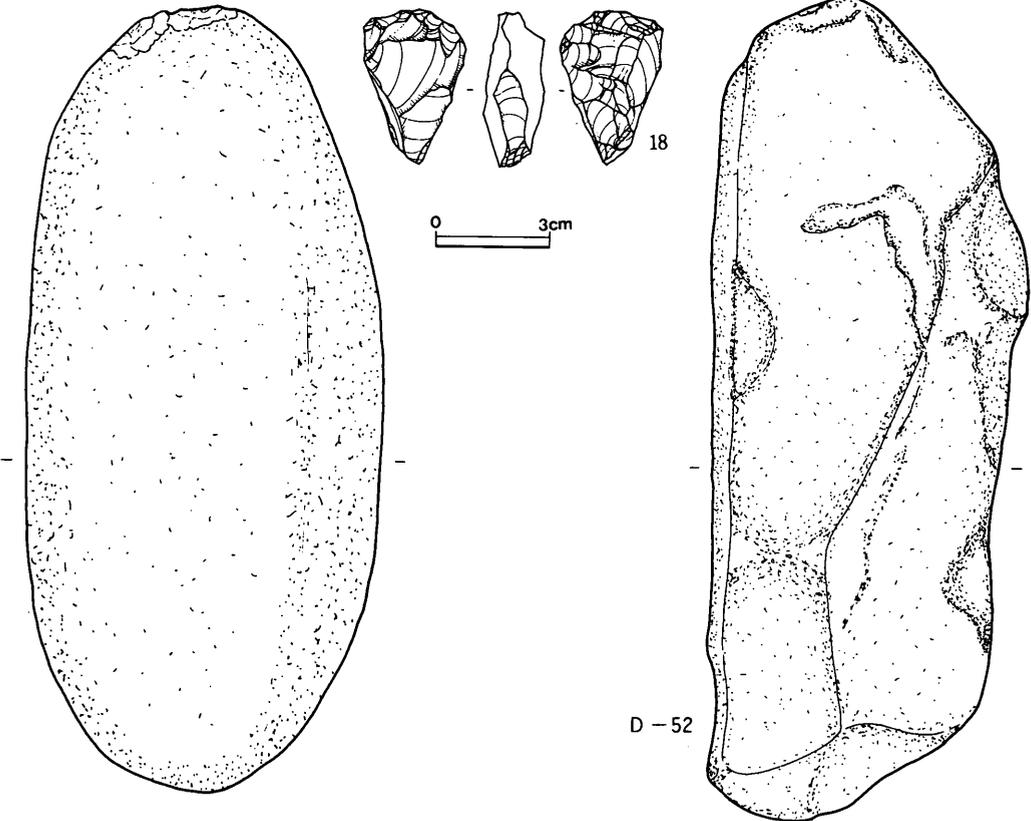
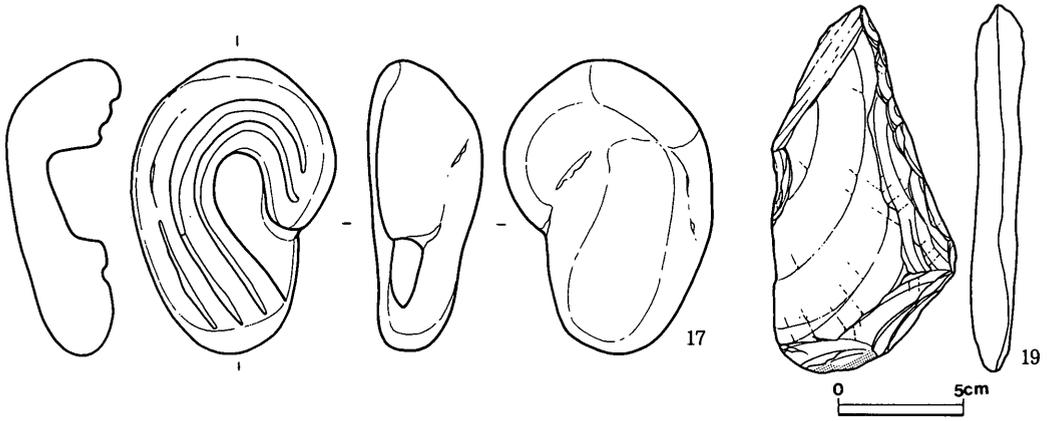
(単位cm, kg)

第102表 D-53号土坑出土石器一覧表

挿 番 号	器 種	材 質	長 さ	幅	厚 さ	重 量	備 考
5	磨製石斧	蛇紋岩	6.1	5.7	4.7	281.71	D-53 Na.1
6	削 石	黒曜石	4.3	2.2	0.9	6.02	D-53 Na.2
7	剥 片	チャート	2.0	1.9	0.5	1.96	D-53 Na.2
8	剥 片	ガラス質 黒色安山岩	2.0	1.7	0.2	0.80	D-53 Na.2
9	剥 片	鉄石英	1.5	1.5	0.3	0.71	D-53 Na.2

(単位cm, g)

第112図 D-53号土(墓)坑出土土器(1:4)



第114图 D-52号土坑出土石器

D-55号土坑 第116・117図

く-6グリッド内から検出され、周辺に同様な遺構は確認されなかった。明確な土坑の掘り込みは確認できなかったが、土器を納めるに足る程度の穴をあけていたようである。土器(第117図1・2)を2個重ねて正位に埋置する土器棺で、上下とも堀之内1~2式の深鉢の胴部上位以上を打ち欠いている。下の土器(第117図2)底面からは鳥の焼骨が検出された。時期 滝沢VIII期。

第104表 D-53号土(墓)坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深 鉢	胴部 ~ 底部	- - 7.2	無文。	ナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/8	褐灰色 5YR 4/1	D-53 No 1	後期前葉
2	深 鉢	胴部 ~ 底部	- - 9.6	多条の斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	D-53 No 2	後期前葉
3	深 鉢	口縁 部	(18.0) - -	端部円形刺突と横引き沈線。以下、沈線区 画と8字状突起。内面も円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	黒褐色 10YR 3/1	D-53	後期前葉
4	深 鉢	口縁 ~ 胴部	(25.0) - -	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 7.5YR 8/3	灰白色 10YR 8/2	D-53	後期前半

第105表 D-54号土(墓)坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

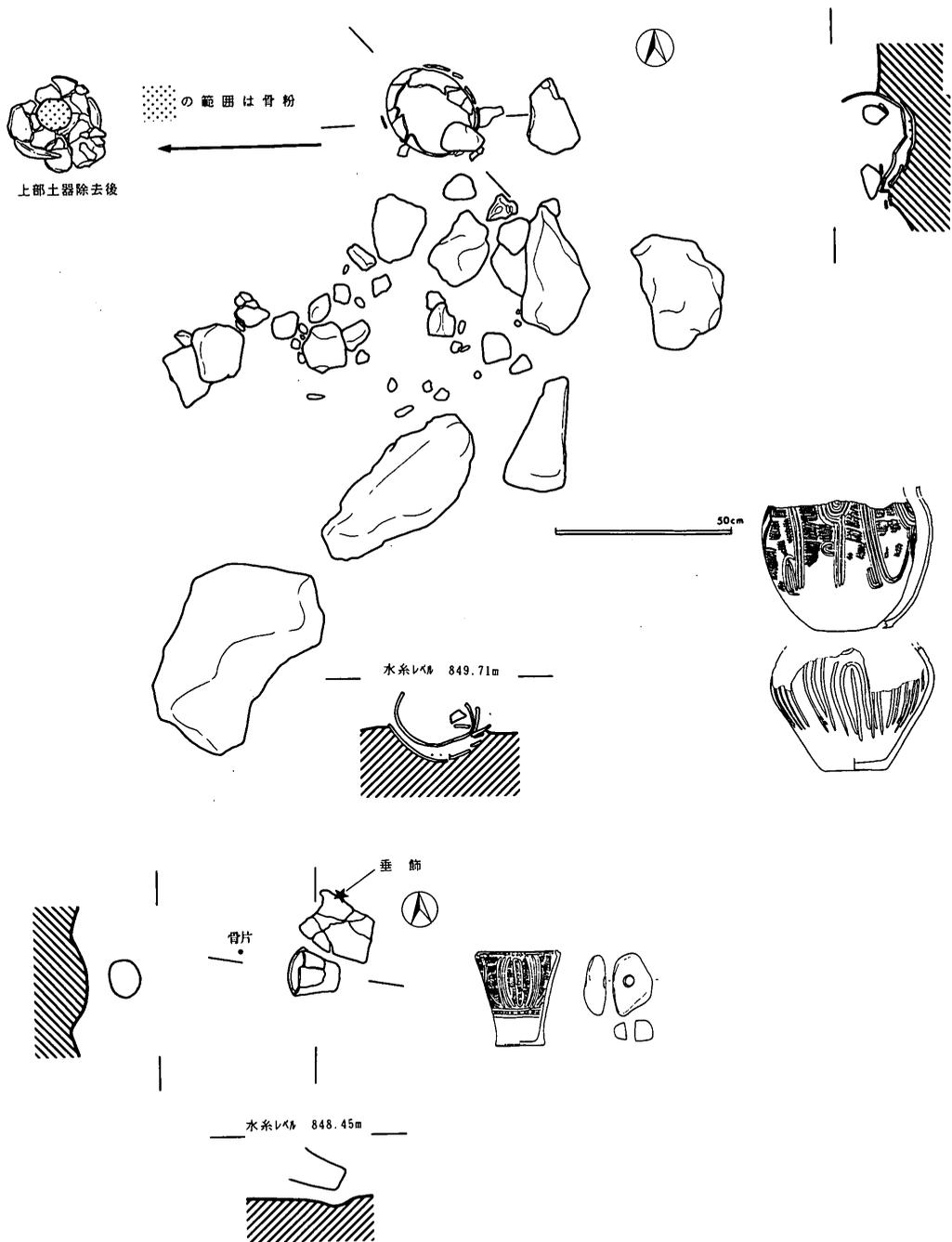
挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深 鉢	胴部 ~ 底部	- - (8.2)	連弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/3	D-54 No 1	後期前葉
2	深 鉢	胴部 ~ 底部	- - (9.0)	斜行沈線と縄文RL。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 5YR 6/6	D-54 No 2	後期前葉

第106表 D-56号土(墓)坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深 鉢	胴部 ~ 底部	- - 9.5	燃糸文L。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	D-56 No 1	後期

第107表 D-57号土(墓)坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

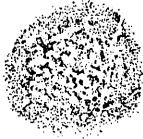
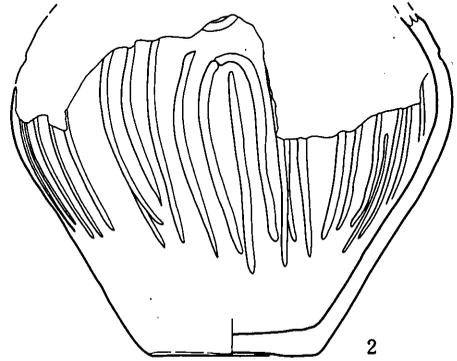
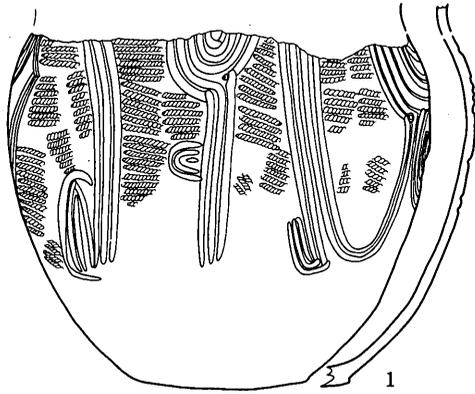
挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深 鉢	胴部 ~ 底部	- - 8.4	斜行沈線間に縄文LR。底部網代痕。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	淡褐色 5YR 8/3	灰褐色 5YR 6/2	D-57 No 1	後期前葉
2	深 鉢	胴部	- - -	渦巻き状沈線を斜行沈線で連結。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 2.5YR 6/6	明褐色 5YR 7/1	D-57 No 2	後期前葉



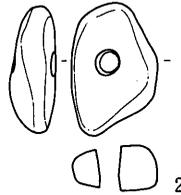
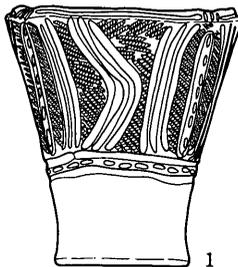
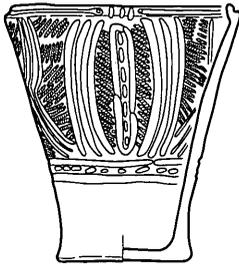
第116図 D-55 (上), 58 (下) 号土坑 (1:20)

D-58号土坑 第116・118図

かー8グリッド。掘り込みは確認できなかった。堀之内1式の朝顔形深鉢(第118図1)とヒスイの垂飾(第118図2)が並んで出土し、深鉢の西側には骨片が認められたことから墓址と推定した。土壌分析は実施しなかった。時期 滝沢VIII期。



第117図 D-55号土坑出土土器 (1:4)



0 10cm

第118図 D-58号土坑出土土器 (1:4), 石器 (1:2)

第108表 D-55号土(墓)坑出土遺物一覽表 <縄文土器>

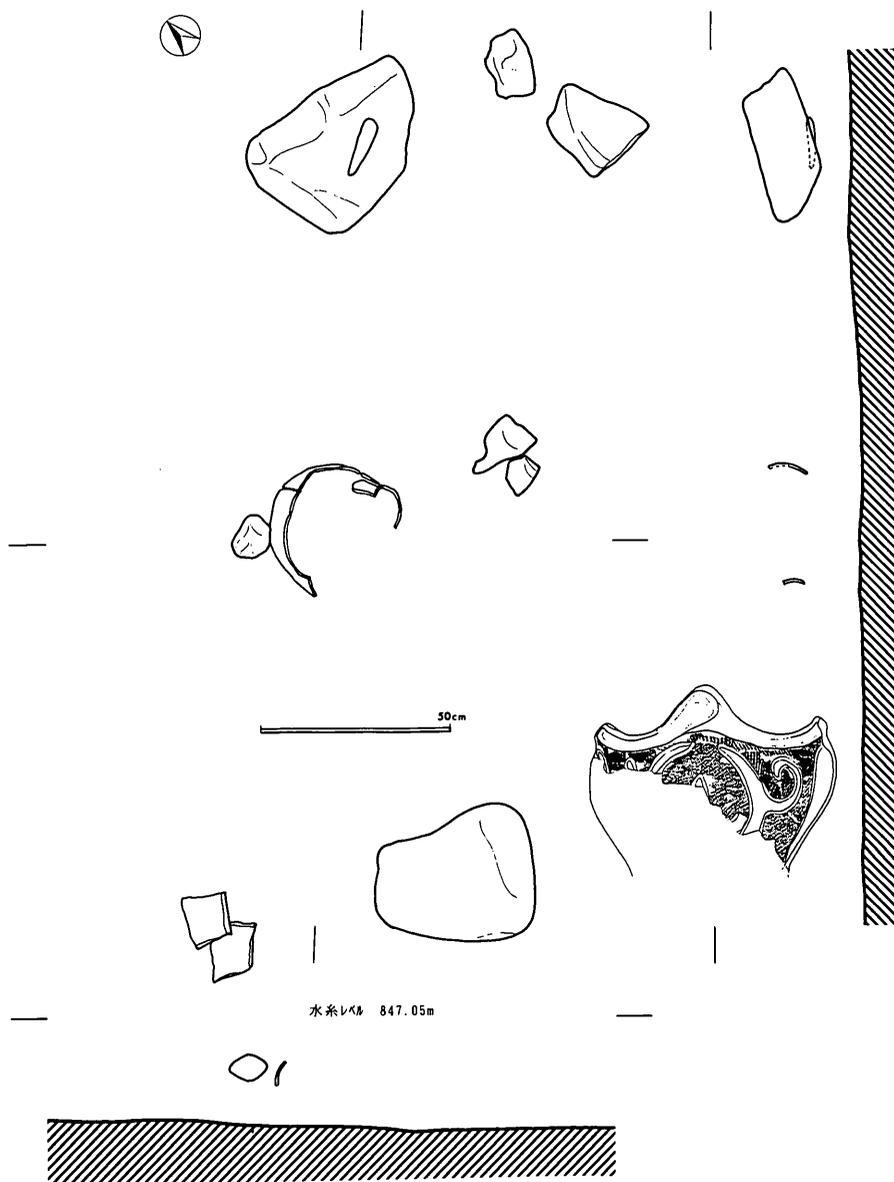
挿図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	胴部 ~ 底部	— 9.6	3条~4条の垂下沈線を基本とし、上位は渦巻き状を呈する。縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	にぶい橙色 5YR 7/4	D-55 No.1	後期前葉
2	深鉢	胴部 ~ 底部	— (8.5)	逆U字状沈線の両わきに縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	砂粒 角閃石	橙色 2.5YR 6/6	橙色 5YR 7/6	D-55 No.2	後期前葉

第109表 D-58号土(墓)坑出土遺物一覽表 <縄文土器>

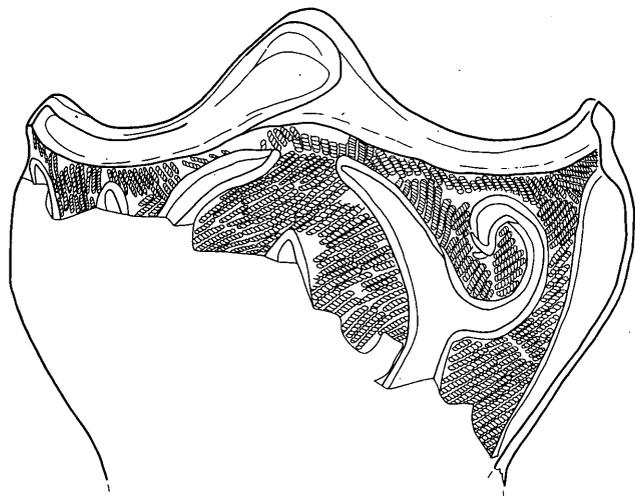
挿図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	完形	11.2 13.2 6.8	口縁部円形刺突から横引きの沈線。刺突間の縦位沈線から縦位連続刺突と沈線。その両わきに紡錘状の沈線と横位山形の沈線。文様下端は横位沈線間に連続刺突。地文縄文RL。底部網代紋。アサガオ形。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR5/2	黒褐色 7.5YR3/1	D-58	後期前葉

D-59号土坑 第119・120図

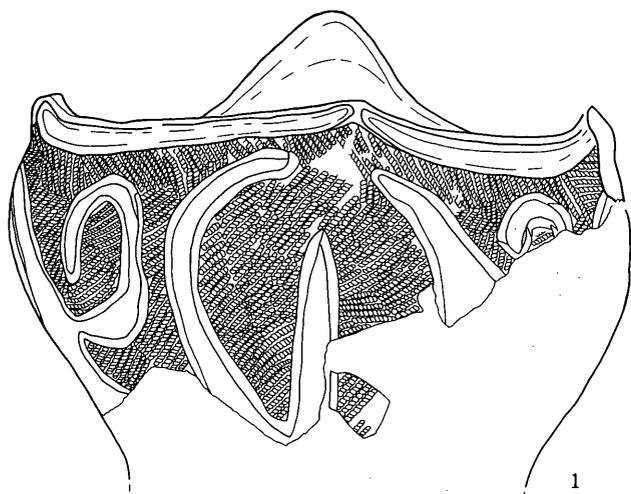
き-9グリッド。掘り込みは確認できなかった。胴部中位以下を欠く中期後葉加曾利E III式の深鉢(第120図1)を伏せて埋設したと考えられる。土器直下の土壌を採取し、分析した結果、高い含量のリンが検出され、墓址である可能性が高まった。時期 滝沢VI期。



第119図 D-59号土坑 (1:20)



正面



裏面



第120図 D-59号土(墓)坑出土土器(1:4)

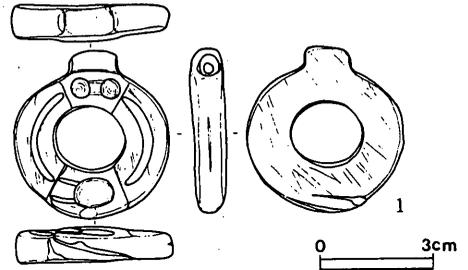
第110表 D-59号土(墓)坑出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深 鉢	口縁 ~ 胴部	28.0 — —	波状口縁の正面部は把手がつく。口縁部は磨り消しによる無文帯。胴部の鉄状沈線区画内は磨り消し。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	褐灰色 5YR 4/1	D-59 No 1	中期後葉 加曾利EⅢ式

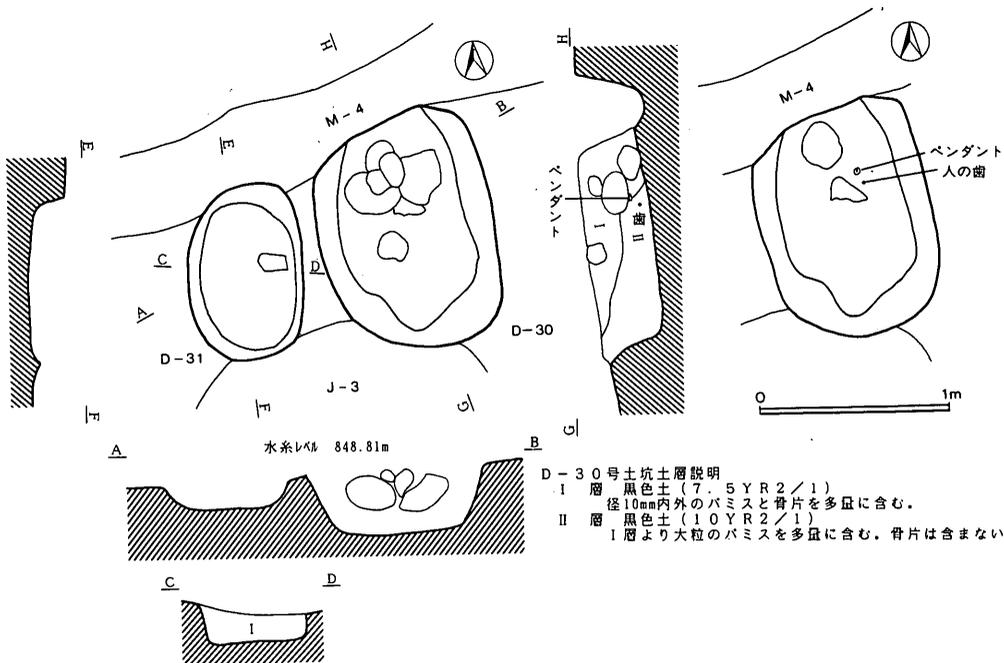
D-30・31号土坑 第121・122図

おー7グリッド。M-4号溝状遺構に北側を破壊され、J-3号竪穴遺構とも一部重複するが、ほぼ楕円形プランの土坑と考えられ、南北は推定で130cm東西は95cmを測る。確認面からの深さは35cmで底面は平坦面をなす。覆土I層には細かく破碎した焼人・獣骨がまんべんなく散乱している。土坑内中央北寄りには、底面から12cmほどの位置に人頭大の礫の集積がみられ、ちょうど土坑覆土II層の上に乗る状態になっている。このII層内から人の歯が検出された。また、この礫直下には彫刻の入った滑石製ペンダント（第121図1）が裏面が上を向く状態で置かれていた。以上の状況から本土坑は祭祀的な性格を併せ持った墓址である可能性が高いものと考えられる。土器の出土量は少なく、称名寺式と思われる深鉢の破片が出土している。また、本址よりもあとに構築されたJ-3号竪穴遺構内の配石はやはり祭祀的性格が強いものと判断され、両者は関連するものがあつたと考えておきたい。時期 滝沢VIII期。

D-31号土坑はD-30号土坑と並び、形態も似ているので、墓址と判定する要素には欠けているがここに記載した。平面プランは91×60cmの楕円形を呈し、深さは16cmを測る。焼獣骨細片が一片出土。



第121図 D-30号土(墓)坑出土石製品(1:2)



D-30号土坑土層説明
 I 層 黒色土(7.5YR2/1)
 径10mm内外のバミスと骨片を多量に含む。
 II 層 黒色土(10YR2/1)
 I層より大粒のバミスを多量に含む。骨片は含まない。

第122図 D-30・31号土(墓)坑(1:40)

D-17・18・60・62号土坑

近世と考えられる人骨が出土したD-60号土坑を中心としてまとまりをみせる土坑群で、D-60号土坑以外からも遺存状態不良ながら少量の人骨が出土している。

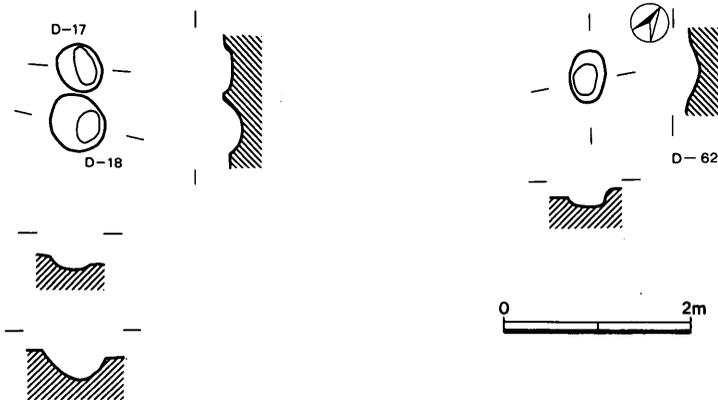
時期決定する要素に欠けるものの、おそらく近世の墓址と考えられる。

D-17号土坑 第123図 かー8グリッド。50×43cmの楕円形を呈し、深さは5cmを測る。骨片が出土している。

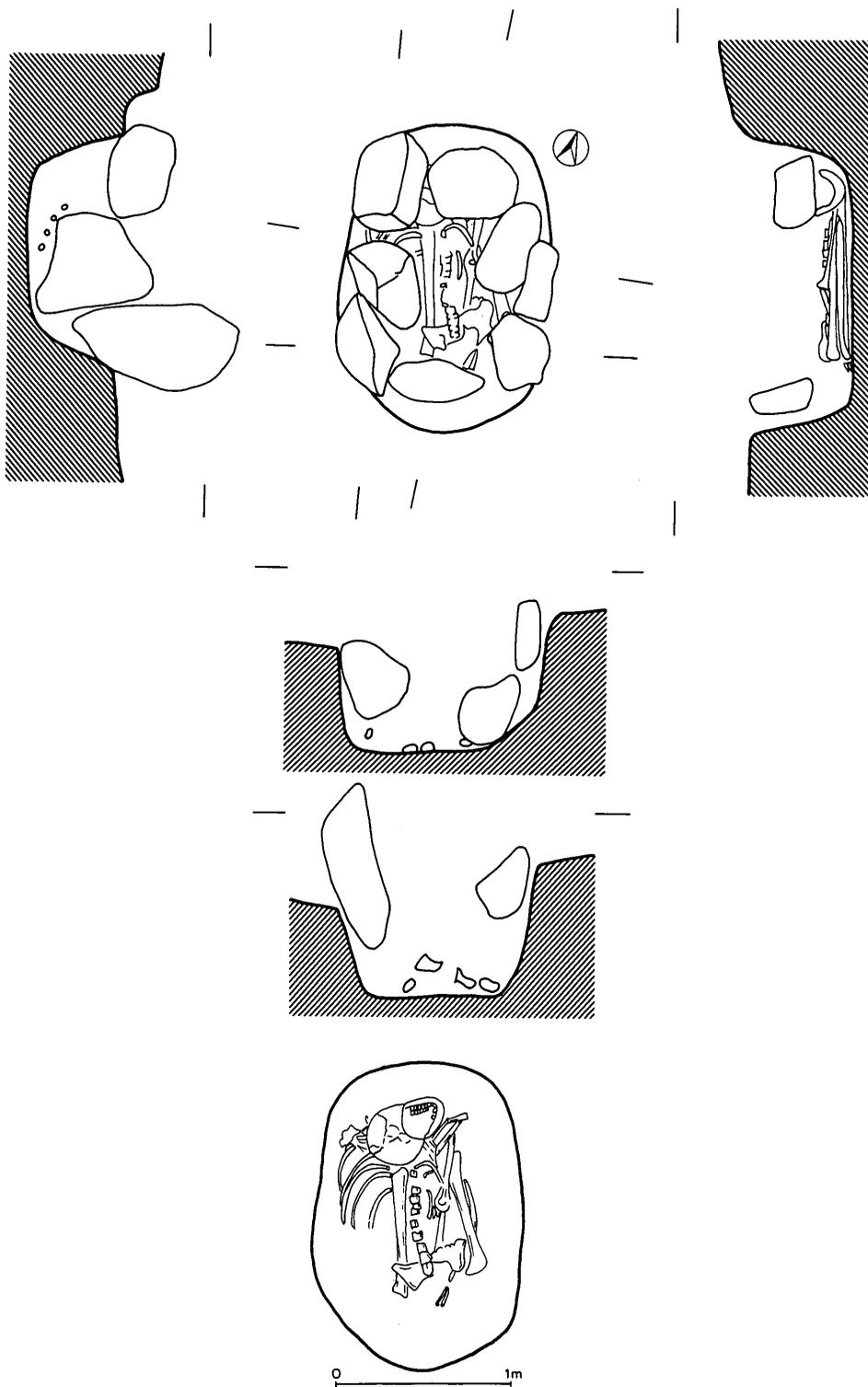
D-18号土坑 第123図 かー8グリッド。61×59cmの円形を呈し、深さは17cmを測る。骨片が出土している。

D-60号土坑 第124図 かー8グリッド。175×119cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは77cmを測る。遺体は鑑定結果(228ページ、茂原信生氏の報文参照)にもあるように、俯せで葬られ、埋葬時にはすでに首が胴体から離れていたようである。また、頭蓋骨正面に藁を編んだようなものが付着(239ページ、古環境研究所の報文参照)していることから遺体の下にはムシロのようなものを敷き、周囲には安山岩などの大石を置いてから土を埋め戻したようである。

D-62号土坑 第123図 かー8グリッド。50×39cmの楕円形を呈し、深さは19cmを測る。頭蓋骨片と四肢骨片が出土している。



第123図 D-17・18・60号土(墓)坑(1:80)



第124图 D-60号土(墓)坑 (1:40)

(5) 滝沢遺跡土器内土壌リン酸分析報告

株式会社 パリノ・サーヴェイ社

はじめに

滝沢遺跡（長野県北佐久郡御代田町塩野所在）では、平成4年度の発掘調査により縄文時代中期末（加曾利EⅢ式並行）～後期前半（堀之内式並行）の集落の一部と墓域が確認された。そのうち、墓域からは多数の土器棺と考えられる土器が出土した。しかし、人骨の遺存が少なく、考古学的確証は得られていない。そこで、御代田町教育委員会と協議の上、これらの土器が土器棺であるかどうかを自然科学的に検証することとした。

また、焼骨が出土した土坑（D-30号土坑）や、D-54号土坑内出土土器の用途についても検討することとした。

ところで、人骨などが確認されない場合の遺体の存在を検証する自然科学的分析手法としては、次の2つの方法が知られている。ひとつは、人体、特に人骨に多量に含まれ、しかも土壌中では比較的移動しにくいリンの含有量を測定するリン分析（竹迫, 1981など）である。もうひとつは、土壌中に比較的残留する脂肪酸の組成を測定する脂肪酸分析（中野, 1986など）である。現在では、後者の脂肪酸分析が動植物を判定できる可能性がある点、あるいは種類を具体的に判別できる点で優れた面が多いといわれている。しかし、試料の取り扱いや分析・解析方法が繁雑である。したがって、今回は調査事例が豊富であり、分析操作が比較的簡便なリン分析を実施することとした。

なお、送付された試料を観察した際に、いくつかの試料から骨片と思われる白色物質が出土した。そこで、白色物質が骨であるかどうか確認を検討するために、材質推定に有効なX線回折分析を試みた。

1. 試料

リン分析用の試料は、同町教育委員会により、土器棺や土坑内から採取され、当社に送付された17点である。試料名と検出遺構および位置は、分析結果表とともに示す（表1）。

なお、No.1～12には骨片と思われる白色物質が認められた。特に、No.12ではヒトあるいはその他の動物の脊椎骨に類似するものを含んでいた。これは、後日、鑑定を行う予定である。そこで、白色物質の材質推定用の試料として、No.12のうち脊椎骨類似のもの以外の白色物質1点を選んだ。

第III表 リン分析結果

No	検出遺構および位置	リン酸含量		土地・土性 (備考)
		P_2O_5 mg/g		
1	D-8号土坑出土土器(正位)内	2.77	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
2	D-8号土坑出土土器(正位)内	2.68	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
3	D-8号土坑出土土器(正位)内	2.77	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
4	D-8号土坑出土土器(正位)内	2.52	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
5	D-8号土坑出土土器(正位)内	2.89	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
6	D-8号土坑出土土器(正位)内	2.60	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
7	D-8号土坑出土土器(正位)内	7.51	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
8	D-59号土坑(た-16グリッド)出土土器(逆位)内	7.06	黒色(10YR 2/1)・SL-L	(白色物質混じる)
9	D-59号土坑(た-16グリッド)出土土器(逆位)内	7.47	黒色(2.5Y 2/1)・SL-L	(白色物質混じる)
10	D-55号土坑(し-11グリッド)出土土器(正位)内	3.72	黒色(10YR 2/1)・SL	(白色物質混じる)
11	D-45号土坑出土土器(正位)内	1.74	黒色(10YR 2/1)・L	(白色物質混じる)
12	D-30号土坑内(焼骨出土)	4.57	黒色(2.5Y 2/1)・SL-L	(白色物質、炭化材混じる)
13	D-52号土坑出土土器(逆位)	1.88	黒褐色(10YR 3/2)・L	
14	D-53号土坑出土土器(正位)内	3.72	黒色(2.5Y 2/1)・L	(褐色(7.5YR 4/6)混じる)
15	D-53号土坑出土土器(正位)内	4.03	黒色(2.5Y 2/1)・L	(褐色(7.5YR 4/6)混じる)
16	D-57号土坑出土土器(正位)内	1.64	黒色(10YR 2/1)・L	(褐色(7.5YR 4/6)混じる)
17	D-54号土坑出土土器(正位)内	3.66	黒色(10YR 2/1)・L	(褐色(7.5YR 4/6)混じる)

注. (1)リン酸の単位は、乾土1gあたりのmgで表示。
 (2)土色の判定は、マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修, 1967)による。
 (3)土性の判定は、土壤調査ハンドブック記載の野外土性の判定法(ペドロジスト懇談会編, 1984)による。
 SL・・・砂壤土(砂の感じが強く、ねばり気がわずかしかない。)
 L・・・壤土(ある程度砂を感じ、ねばり気もある。砂と粘土を同じくらいに感じられる。)

2. 分析方法

(1) リン分析

分析は、土壤標準分析・測定法委員会(1986)、土壤養分測定法委員会(1981)、京都大学農学部農芸化学教室(1957)、農林水産省技術会議事務局(1967)、ペドロジスト懇談会(1984)などを参考にした。以下に操作行程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.0mmの篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105°C、5時間)により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダールフラスコ秤でとり、はじめに硝酸(HNO₃)5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO₄)10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で、100mlに定容してろ過する。今回は、リン含量をリン酸(P₂O₅)濃度として測定する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン含量(P₂O₅mg/g)を求める。

今回の測定結果を評価するに当たっては、含量範囲、平均含量(平均値)、標準偏差¹⁾、変動係数²⁾を考慮した。これは、リン成分の富化(他の場所より濃集すること)の有無を検討する上で、試料間の含量のバラツキを見る必要があるためである。例えば、遺体が埋納された場所ではリン成分などが局所的に濃集していることが予想され、含量が他の場所の試料と比較して高くなると予想される。したがって、富化部分とそうでない部分の測定値に差が生じ、バラツキが大きくなる。この点を考慮して、測定結果を評価する。

註

- 1) 統計学では、測定値のバラツキを表す方法として標準偏差を用いる。標準偏差は、各々の値と平均値（ここでは、平均含量）の差の2乗の和を標本数（試料数）で除した値の平方根で求める。
- 2) 標準偏差の大小は、平均値の大きさに左右される。そこで、平均値に対する標準偏差の割合を百分率（%）で表すことにより、バラツキを表す相対尺度が得られる。これを変動係数という。

(2) X線回折分析

分析方法は、足立（1980）、日本粘土学会編（1987）を参考にした。

a. 試料調整

試料から白色物質を採取し、メノウ乳鉢で粉碎した。これをガラス板にすり付け、アセトン1滴を滴化して試料を固定した。

b. 測定

調整された試料について、次の条件でX線回折分析を行った。なお、Scanning Rangeについては、あらかじめ予備操作をしてピークの認められる部分だけで行った。

装置：島津制作所製XD-3A

Target : Cu (Ka) Scanning Speed : 2°/min

Filter : Ni Chart Speed : 2 cm/min

Voltage : 30KVP Divergency : 1°

Current : 30mA Recieving Slit : 0.3mm

Cunt Full Scale : 5,000C/S Scanning Range : 2 45°

Time Constant : 1.0sec

c. 同定

測定された回折線の回折角度、原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合解析プログラム（五十嵐，未公表）により検索した。

3. 結果

(1) 白色物質の素材

X線回折チャートおよび検出鉱物を図1に示す。白色鉱物の主体は、炭酸磷灰石（carbonate-apatite）成分を含有する水酸磷灰石（hydroxyl-apatite : $\text{Ca}_5(\text{PO}_4)_3(\text{OH})$ ）と判定される。これは、骨の主成分化合物である。

(2) リン含量

分析結果を表1に示す。各試料のリン含量は、含量範囲1.64~7.51P₂O₅mg/g(平均含量3.72P₂O₅mg/g)である。標準偏差1.85、変動係数49.8%であり、ともに大きい。つまり、測定されたりん含量は多いものもあれば、少ないものもあり、かなりバラツキが大きいといえる。以下に、各遺構試料毎に結果を述べる。

・D-8号土坑出土土器(正位)内(No.1~7)

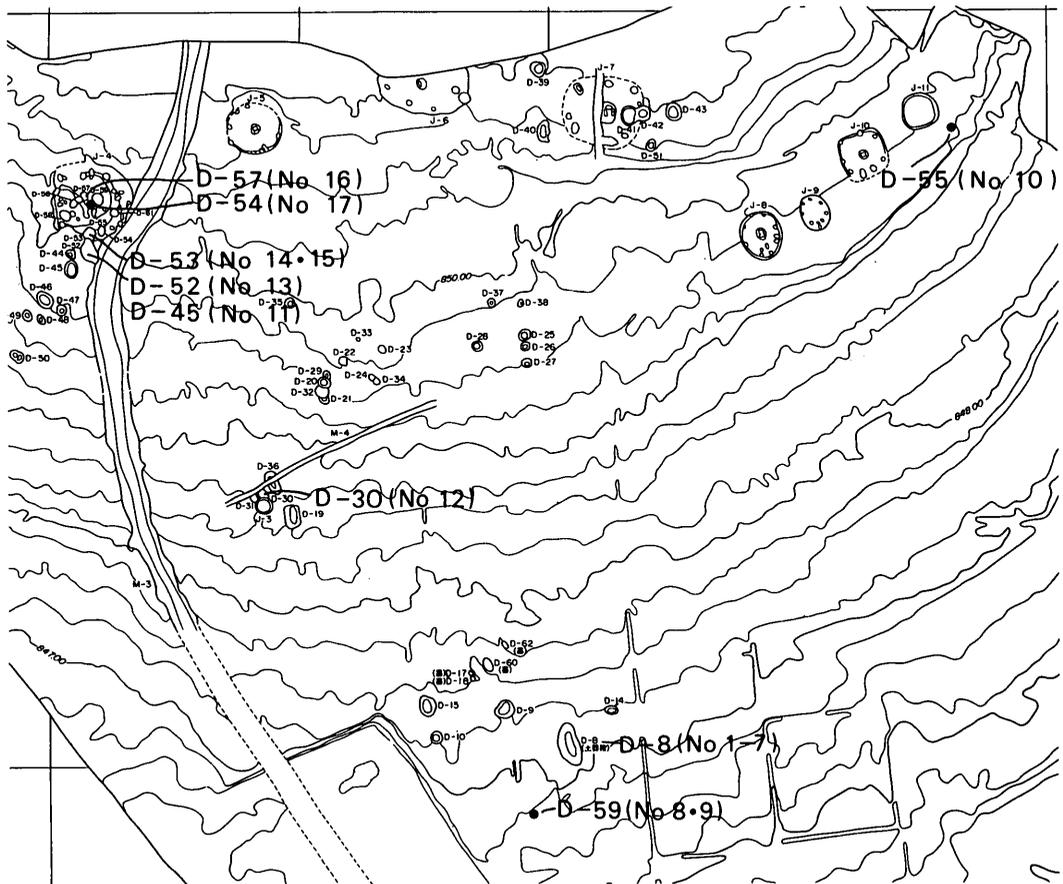
測定した試料の中では、No.7が他の1~6と比較して非常に高い。測定した試料は、同様の土色・土性で、骨片と思われる白色物質が認められる。

・D-59号土坑(た-16グリッド)出土土器(逆位)内(No.8・9)

いずれの試料も、試料No.7と同様に7.00P₂O₅mg/g以上の高い含量である。No.1~7とほぼ同様な土色・土性である。また、白色物質が認められる。

・D-55号土坑(し-11グリッド)出土土器(2重埋甕)内(No.10)

本試料の含量は、測定した試料の中では平均的な値である。他の試料と比較して、土色・土性



第125図 リン分析土壌サンプル抽出遺構地点(1:600)

は同様であり、白色物質が認められる。

- ・D-45号土坑出土土器（正位。その下に土器片を敷く）内（No.11）

本試料の含量は、平均含量よりも非常に少ない。土色・土性は他の試料とほぼ同様であり、白色物質が認められる。

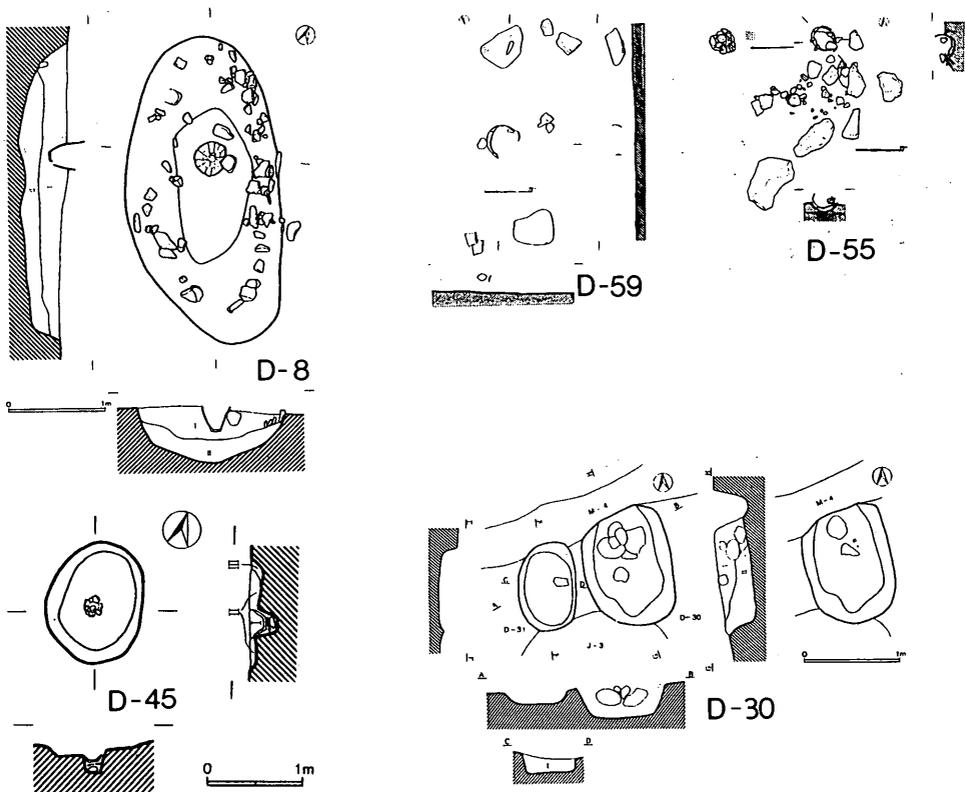
- ・D-30号土坑内（No.12）

本試料では、焼骨が出土したとされ、試料採取時にもヒトあるいはその他の動物の脊椎骨に類似するものや骨片が認められた。今回の調査では、これらの骨片を取り除いた後の土壌を分析した。

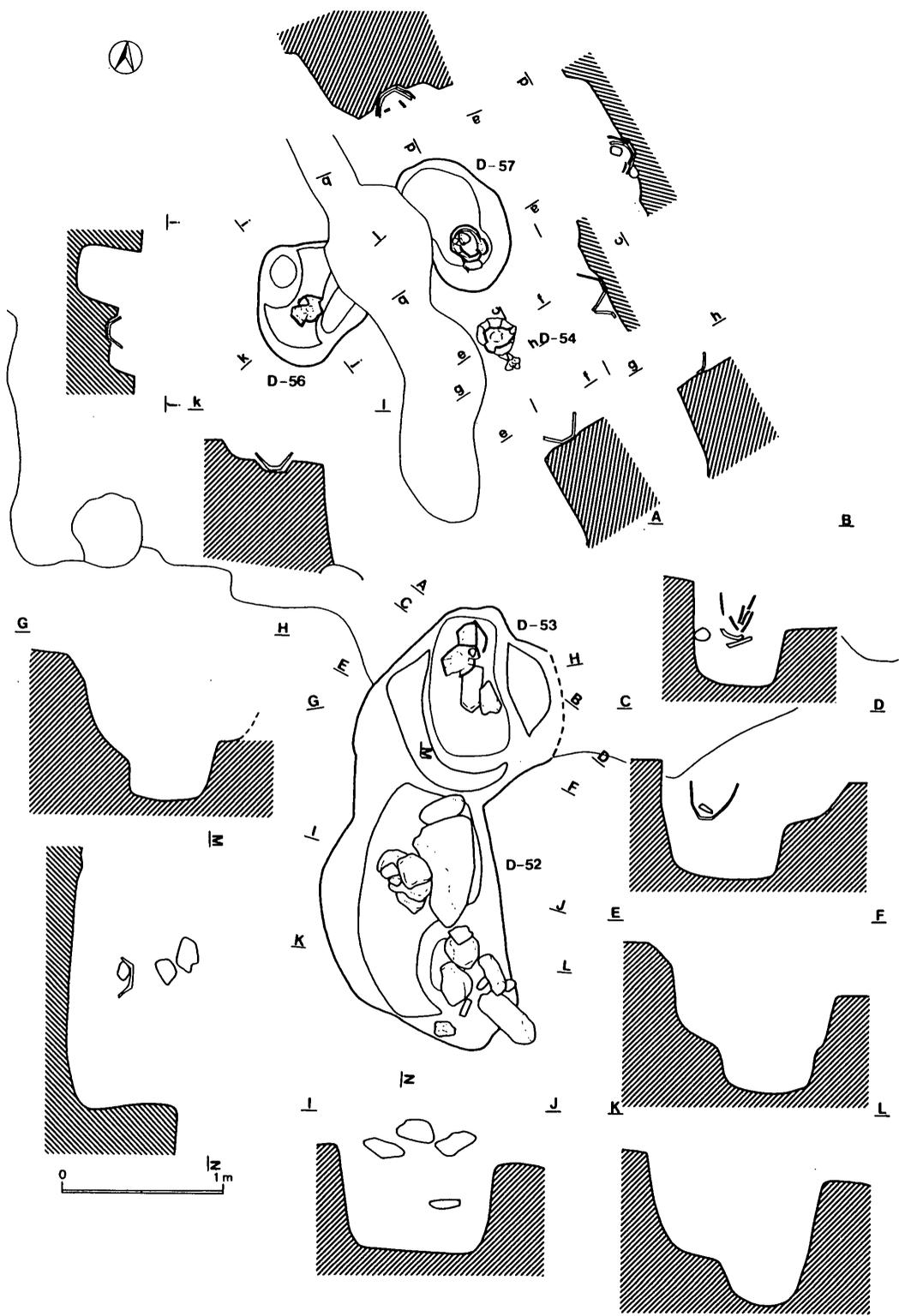
リン含量は、平均含量より多い4.57P₂O₅mg/gであるが、No.7などよりは低い値である。

- ・D-52号土坑出土土器（逆位）内（No.13）

本試料の含量は、No.8と同様に平均含量よりも非常に少ない。土色・土性は他の試料とほぼ同様である。また、耳形土製品が出土している。



第126図 リン分析土壌抽出土坑（D-8・59・55・45・30号土坑）



第127図 リン分析土壤抽出土坑 (D-52・53・54・58号土坑)

・D-53号土坑出土土器（正位）内（No.14・15）

いずれの試料も、平均含量と同じ、あるいはやや多い含量を示す。土色・土性は他の試料とほぼ同様であるが、褐色の土壌が混じる。

・D-57号土坑出土土器（正位の2重埋甕）内（No.16）

本試料の含量は、No.8と同様に平均含量よりも非常に少ない。土色・土性はNo.14・15とほぼ同様である。

・D-54号土坑出土土器（正位）内（No.17）

本試料は、平均的な含量を示す。土色・土性は、No.14・15とほぼ同様である。

4. 考 察

白色物質の主体は、骨の主成分化合物である炭酸磷灰石成分を含有する水酸磷灰石と判定された。したがって、この白色物質は、骨と判断される。

なお、同定不能(?)としたピークは現段階では斜長石の可能性が高いが、標準的な斜長石とは回折強度が異なるため判定はできない。もし、これが斜長石ならば、おそらく覆土由来のものと考えられる。

一方、土壌に含有されるリン含量については、次のような調査例がある。Bowen (1983) の調査では中央値が $2.0\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 、Bolt・Bruggenwert (1980) では $1.0\sim 2.5\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ とされる。川崎ほか (1991) では、我が国でリン含量の比較的高い黒ボク土の平均値が未耕地で $2.1\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 、既耕地で $5.5\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ とされる。天野ほか (1991) ではリンの自然賦存量は $2.7\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 以下とされる。また、カルシウム含量については、藤貫 (1979) では天然に通常 $1\sim 50\text{CaOmg/g}$ が含まれているといわれており、リンよりも自然賦存量の幅が大きい。なお、各調査例の記載単位が異なるため、本報告中ではリンを $\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ に換算して表示した。

これらの事例から推定される土壌中のリン酸自然賦存量は、最高でも $3.0\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ と考えられる。言い替えば、この値を著しく越える土壌では、外的要因（おそらく人為的影響）によるリン酸の著しい富化を指摘できる。

各試料から得られたリン含量の平均含量 ($3.72\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$) は、前途のリン酸自然賦存量と比較してほぼ同様である。しかし、最小値がNo.16の $1.64\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 、最大値がNo.7の $7.51\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ であり、標準偏差と変動係数がともに大きかった。このように、遺構によって、また遺構内でも、含量のかなりのバラツキがみられた。

特に、D-8号土坑内出土土器内 (No.7) や、D-59号土坑出土土器内 (No.8・9) では、リン含量はリン酸自然賦存量や平均含量よりも非常に多い $7.00\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 以上の値を示した。また、X線回折結果から覆土に含まれる白色物質は、やはり骨片と考えられる。D-8号土坑出土土

器内の他の試料 (No.1～6) では、骨片は認められるものの、平均含量より少ない含量であった。おそらく、No.7・8・9はリンの濃集部から採取されたものと思われる。このように、D-8号土坑出土土器内や、D-59号土坑出土土器内では内部に骨片が認められるとともにリン含量も多いことから、遺骨が埋葬されていた可能性がある。

D-55号土坑出土土器内 (No.10) でも、骨片が認められるとともにリン含量も土壌中のリン酸自然賦存量よりもやや多いことから、遺骨が埋納されていた可能性が考えられる。

D-53号土坑出土土器内 (No.14・15) では、土壌中のリン酸自然賦存量よりもやや多い含量を示すことから、これらの埋甕あるいは土器内にリンの富化があると言える。また、その要因として、リン成分を多く含む遺骨などが埋納されていた可能性がある。そうであれば、覆土中に骨片などが認められなかった点については、土壌中の生物活動や酸化作用などにより溶解し、土器外へ成分が流亡したと思われる。出土した土器に底部が存在していたかどうか、興味を持たれるところである。

D-45号土坑出土土器内 (No.11)、D-52号土坑出土土器内 (No.13)、D-57号土坑出土土器内 (No.16) は、リン含量が土壌中のリン酸自然賦存量よりも少なく、リンの富化は指摘できない。ただし、前途のように骨などが溶解して土器外へ流亡したのであれば、これらの土器内に遺骨や遺体が埋納された可能性を否定できない。

以上のように、土器棺と考えられる土器のうち、D-8号土坑出土土器 (正位) 内、D-59号土坑 (た-16グリッド) 出土土器 (逆位) 内、D-55号土坑 (し-11グリッド) 出土土器 (正位の2重埋甕) 内、D-53号土坑出土土器 (正位) 内ではリンの富化が認められ、骨や遺体が埋納されていたことが示唆される。D-45号土坑出土土器 (正位)、D-52号土坑出土土器 (逆位)、D-57号土坑出土土器 (正位の2重埋甕) については、遺骨や遺体の埋納を積極的に支持できるようなリンの富化は認められなかった。

また、D-30号土坑でも脊椎骨に類似する骨片が認められ、平均含量よりやや高いリン含量を示した。したがって、本土坑も遺骨の埋納に利用された可能性は大きいと考えられる。なお、本土坑からは発掘調査の際に遺骨が認められ、送付試料からは炭化材にも認められた。この焼骨と炭化材の産出からは、遺体が火葬にされ、遺骨が灰もろとも土坑へ入れられたことが想像される。

D-54号土坑内出土土器では、土壌中のリン酸自然賦存量よりもやや多い含量を示すことから、リンの富化があるといえる。その要因として、リン成分を多く含む遺骨や遺体が埋納されたことが考えられる。

5. まとめ

縄文時代中期末（加曾利EⅢ式並行）～後期後半（堀之内式並行）の墓域から出土した土器棺の用途および土坑の用途、住居址内土器の用途について自然科学的手法を用いて検証を試みた。

この結果、土器棺のD-8号土坑出土土器、D-59号土坑（た-16グリッド）内出土土器（逆位）、D-55号土坑（し-11グリッド）出土土器（正位の2重埋甕）、D-53号土坑出土土器（正位）ではリンの富化が認められ、遺骨や遺体が埋納されていた可能性が示唆された。ただし、D-45号土坑出土土器（正位）、D-52号土坑出土土器（逆位）、D-57号土坑出土土器（正位）については、骨や遺体の埋納を積極的に支持する数値は得られなかった。

また、焼骨が出土したD-30号土坑では、脊椎骨に類似する骨片も認められた。その覆土試料では平均含量よりやや高いリン含量を示すことから、遺骨の埋納に利用された可能性は大きいと考えられる。なお、本土坑での焼骨と炭化材の産出から、遺体が火葬され、遺骨が灰もろとも土坑へ入れられたことが想像される。

D-54号土坑出土土器では、リンの富化を指摘できたが、土器の出土状況などの情報が明らかでないため、リンの富化の要因を検討することは困難であった。

引用文献

- 足立吟也（1980）6章 粉末X線解説法。機器分析のてびき3, P.64-76, 化学同人。
- 天野洋司・大田 健・草場 敬・中井 信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, 149 P. : P. 28-36
- Bowen, H.J.M（1983）環境無機化学 一元素の循環と生科学一。浅見輝男・茅野充男訳, 297 P., 博友社 [Bowen, H.J.M. (1979) Environmental Chemistry of Elements].
- Bolt, G.H.・Bruggenwert, M.G.M. (1980) 土壌の化学。岩田進午・三輪睿太郎・井上隆広・陽 捷行訳, 309 P., 学会出版センター [Bolt, G.H. and Bruggenwert, M.G.M (1976) SOLL CHEMISTRY]
- 土壌標準分析・測定法委員会編（1986）土壌標準分析・測定法。354 P., 博友社。
- 土壌養分測定法委員会編（1981）土壌養分分析法。440 P., 養賢堂。
- 藤貫 正（1979）カルシウム。地質調査所化学分析法, 52, 地質調査所, P. 57-61.
- 川崎 弘・吉田 滯・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省 農林水産省技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, 149 P. : P. 23-27.
- 木下 忠（1981）埋甕—古代の出産習俗。雄山閣考古学選書18, P. 262, 雄山閣。
- 京都大学農学部農芸化学教室（1957）農芸化学実験書 第1巻, 411 P., 産業図書。
- 中野益男（1986）真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂。『真脇遺跡』配石遺構の土壌に残存する脂肪の分析, 大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書, 1, 401 P., 秋田県鹿角市教育委員会。

日本粘土学会 (1987) 粘土ハンドブック 第二版. 1289 P., 技報堂出版.

農林省農林水産技術会議事務局 (1967) 新版標準土色帖.

ペドロジスト懇談会 (1984) 野外土性の判定. ペドロジスト懇談会編「土壌調査ハンドブック」, 156 P., : P.39
-40, 博友社.

竹迫 紘・加藤哲朗・坂上寛一・黒部 隆 (1980) 神谷遺跡への土壌学的アプローチ. 神谷原
I, P.412-416, 八王子市栲田遺跡調査会.

(6) 滝沢遺跡（長野県御代田町）出土の人骨

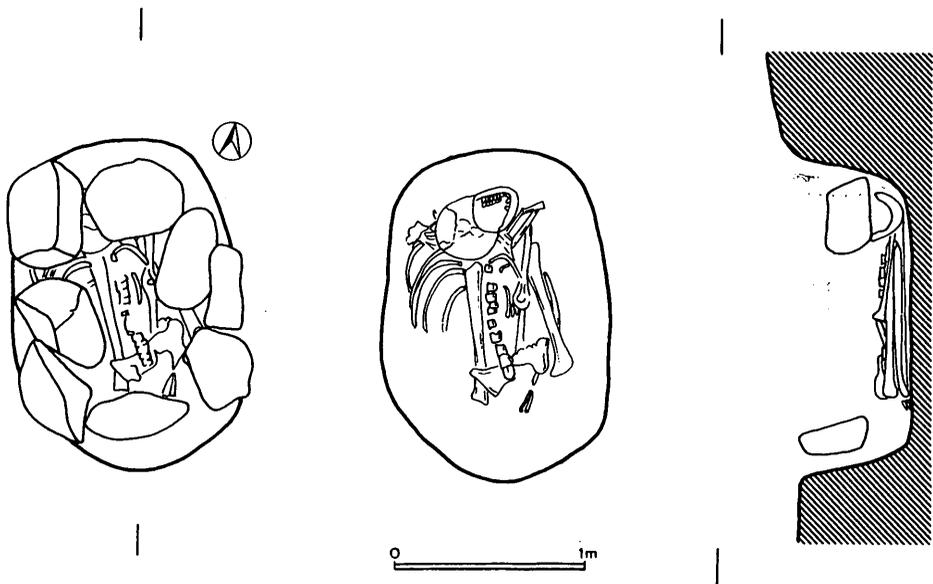
京都大学霊長類研究所
茂原 信生

1 はじめに

滝沢遺跡は長野県北佐久郡御代田町にある遺跡で、平成4年の発掘調査の際に人骨が出土した。本報告はこの人骨に関するものである。遺跡の中心は伴出する土器などから縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられている。人骨の出土した土坑には伴出物をともなっておらず、さらに人骨の保存を考へて土坑ごと取り上げたためにこの人骨の属している時代の確定が困難であるが、後述の理由から縄文時代よりも後のものと考えられている。人骨は、貝塚に埋葬されたものではないのでろいが比較的よく形を残している。

古人骨は日本各地から多数出土しているが、多くは海岸部の貝塚などから出土しており、時代はいつにせよ滝沢遺跡のような山間部のものは比較的少なく貴重なものである。

骨の計測はマルチン（馬場：1991）にしたがい、歯の計測は藤田（1949）にしたがった。なお記載の中での非計測的な形質の基準をいくつか用いているが、それについては茂原（1993）を参照されたい。

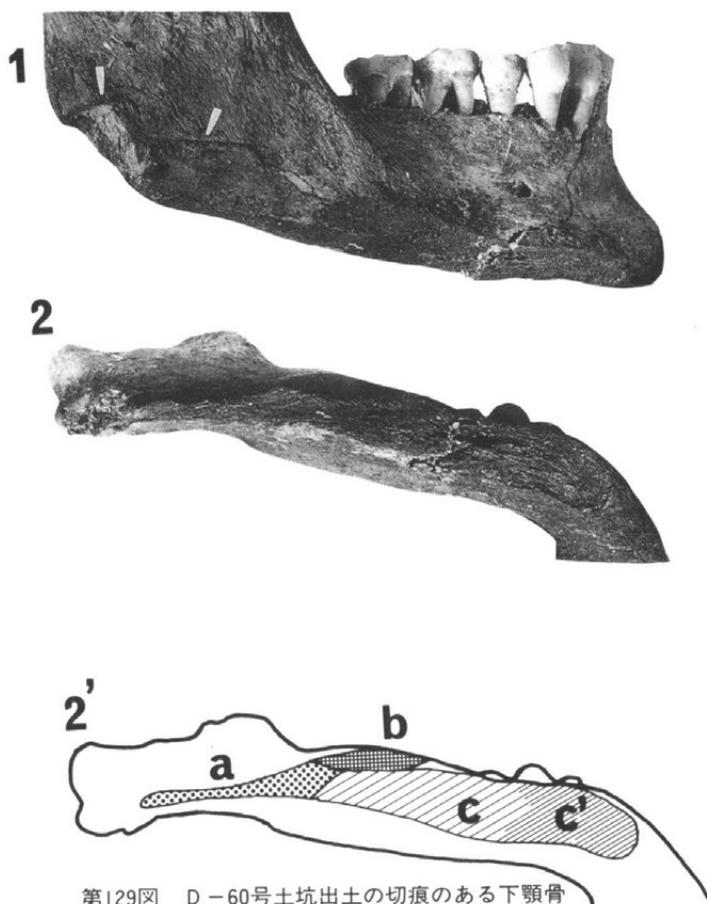


第128図 D-60号土坑出土人骨の平断面図（1：40）

2 埋葬状況

D-30号土坑からは細片化した骨が多数出土している。特記すべきことはない。

D-60号土坑から1体分の埋葬された人骨が出土した。石組みがありその下に人骨が埋葬されていたものである。いわゆる配石墓である。埋葬はいわゆる伏臥屈葬である。頭蓋骨は頭蓋底面を上にし、顎の部分が身体の向きでは上方に位置している。人為的な攪乱がないとするとかなり頭を胸の方に曲げ込んだ状態であったと考えられるが、自然の埋葬でこのような頭蓋骨の位置になるのはやや無理があると思われる。なんらかの人為的な操作の可能性も考える必要があるだろう。右上腕骨が体の左側に、左上腕骨が右側にあり、下肢骨の左右の関係もこれと同様である。上腕骨は左右とも後面が上になっており、下向きの埋葬であったことを示している。右肘はやや内側方に曲げられており、前腕は右大腿骨の上にある。手は左の足首付近にある。すなわち、右手は



第129図 D-60号土坑出土の切痕のある下顎骨

1：下顎骨右外側面，下顎枝外側面下方に2本の切痕(白矢印)が見られる。点線は発掘時に脱落した部分である。2：下顎骨底面，右が前方。2'：底部の切痕の図。3回(a、b、c)切られており、やや濃いc'部分は、cの切断ともなって割れた部分を示している。

背中側に廻した状態である。一方、左上腕は頭蓋骨の右にあり、肘をほぼ直角に曲げて頭蓋骨と下肢骨（膝）の間にある。下肢骨よりは下層にあるので手は胸の前に置いている状態である。膝は深くまげられ、さらに股関節は強く曲げられている。大腿骨の前面が上向きに見られることから考えると、下肢を胸の下にまでまげ込んで、右手は背中の方に廻し、左手は胸の下に置いている形の屈葬である。

頭蓋の前額部、脛骨下端前面、指骨など土坑の底面に面している部分に一定方向に向いた長いワラのような植物性の繊維が付着している。鑑定の結果、これはイネ科植物の茎部であったことが判明したため、ゴザのようなものに包んで埋葬した可能性が考えられる。

この人骨の下顎骨右側底面と右下顎枝外側下部に鋭い刃物によると思われる傷が見られる（第129図）。発掘時につけられた傷とは思われない。なぜなら、晒し骨になってからこの人骨に見られるような激しい力を受けると骨は切られるよりもむしろ割れてしまうからで、これらの切痕は生きているうちに、あるいは少なくとも軟部組織の付着した「生の骨」の状態を受けたものであろう。下顎枝外面下方の2本の傷（第129図-1）はやや上方から切り込まれたもので、上のものが長さ15mm、下のものが残っている部分で2cmある。さらに、底部の傷（第129図-2、2'）は後方あるいは外側から切られたものである。下顎角部の方から数cmほどの傷（a）、外面から下顎底部に向う傷（b）および下顎体の底部中央付近から前方に向って切り込まれている傷（c）で一部が勢いでそぎ取られている（c'）。aとcの傷はつながるものである可能性もある。頸椎が残っていないので残念ながら確認できないが、可能性としては首を落とされて埋葬されたと考えると、頭蓋骨の不自然な状態の説明が付くことになる。

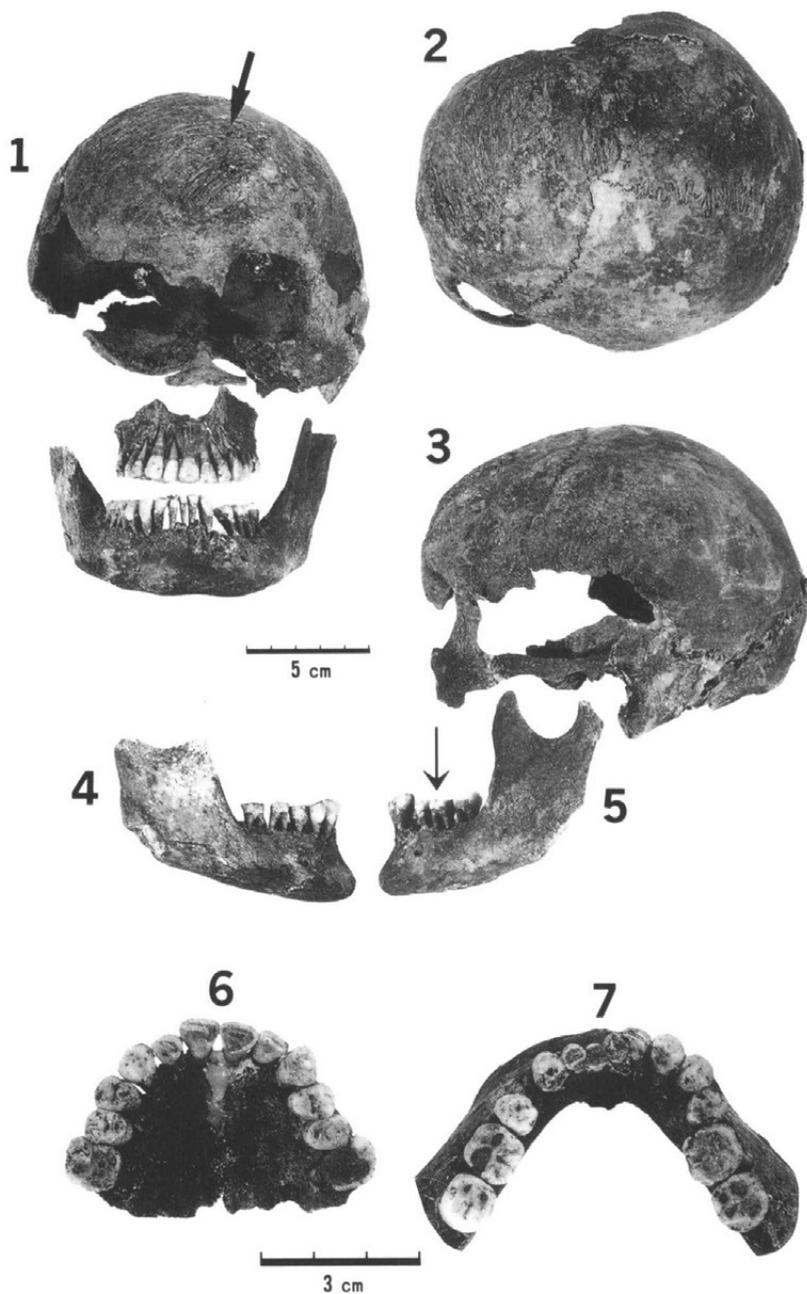
D-62号土坑からは頭蓋骨片と四肢骨片が出土している。頭蓋骨片は頭蓋のごく一部であり、四肢骨も10cm程のものが2点出土しているだけである。

3 出土人骨の形態的特徴

(1) D-60号土坑出土人骨

頭蓋骨（第130図）

顔面から頭蓋底にかけての保存状態が悪く、復元できなかった。眉弓は発達しており、左右が合して眉間隆起がやや発達している。乳様突起は大きめであるが厚みがやや小さい。乳突上溝が認められるが耳道上稜はあまり発達していない。側頭線は目立たない。外後頭隆起部の表面が脱落しているがプロカのIV型程度には発達していると思われる。後頭部は後頭隆起のようにやや全体的にもりあがっている。頭蓋骨最大長は172mmで、津雲貝塚人（男性186.4mm,女性175.7mm：清野：1926）と比較しても小さく、現代関東地方人（男性178.9mm,女性170.8mm：森田茂：1950）と比較しても小さめである。側頭骨がやや変形しているので頭蓋幅は大きくなるが、修正して推測



第130図 D-60号土坑出土人骨の頭蓋骨

1：頭蓋骨正面，上顎骨や下顎骨を別の写真として合成した，矢印は頭蓋骨に付着したムシロ状の構造物，2：頭蓋骨上面，左が前方，3：頭蓋骨左側面，4：下顎骨右外側面，5：下顎骨左外側面，矢印は歯槽膿漏で歯根が露出した大白歯部，6：上顎歯咬合面，7：下顎歯咬合面。

すると145mm程となり、頭蓋長幅示数は84.3で短頭である。眼窩は幅が狭く高さが高く、眼窩示数は94.4となり、縄文時代人の平均値を大きく上回っている。いわゆる高眼窩に属している。頭蓋の縫合は内板がかなり消失しているが、外板では、矢状縫合の後半部分の一部が消失している以外は明瞭な鋸歯状の縫合が見られる。老齡には達していないであろう。

下顎骨は頑丈であるが齒槽の退縮が見られる。正中のオトガイ隆起はよく発達しており、両側のオトガイ結節も発達しているのでオトガイ三角は非常に明瞭である。筋突起は大きく頑丈であるが内突起稜はあまり発達していない。筋突起から続く外側隆起も発達している。下顎切痕は深く、現代人や縄文時代人をしのいでいる。軽度の角前切痕が認められる。下顎枝角は117度で現代人(男性127.7,女性131.3)より小さく、縄文時代人の平均値(男性121.6,女性121.9:小方:1981)より小さい。

歯

上顎の左右の第2・第3大臼歯は失われている。下顎の左右の第3大臼歯も失われている。下顎の第2大臼歯の遠心面には第3大臼歯との隣接面摩耗がなく、埋伏もしていないので下顎の第3大臼歯は先天的に欠落していたものと考えられ、したがって上顎の第3大臼歯も先天的な欠如の可能性が高い。上顎の第1大臼歯の遠心面には大きな隣接面摩耗が見られるので第2大臼歯は

表112 滝沢遺跡出土の頭蓋骨の計測値

Martin	計測項目	計測点	縄文時代				現代		
			滝沢遺跡	中・後・晩期		津雲貝塚		関東地方人	
				男性	女性	男性	女性	男性	女性
			(小方:1981)		(滑野・宮本:1925)		(森田:1950)		
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	
1	頭蓋最大長	g-op	172 *	182.8	176.6	186.4	175.7	178.9	170.8
3	グラベロラムゲ長	g-l	169			181.3		174.8	166.3
8	頭蓋最大幅	eu-eu	145 *	145.1	140.6	144.4	141.9	140.3	135.9
	長幅示数(8/1)	(8/1)	84.3	79.5	79.5	77.7	80.8	78.5	79.7
25	正中矢状弧長	(n-o)	361	371.9	362.6	375.0	358.7	371.7	357.6
26	正中矢状前頭弧長	(n-b)	116			121.9	119.5	127.4	122.1
27	正中矢状頭頂弧長	(b-l)	123			130.9	124.1	125.1	121.0
28	正中矢状後頭弧長	(l-o)	117			122.0	116.0	119.1	114.3
28(1)	正中矢状上鱗弧長	(l-i)	68			85.8	78.6	71.3	68.8
29	正中矢状前頭弦長	n-b	102.4					111.8	106.5
30	正中矢状頭頂弦長	b-l	112.7					111.8	108.6
31	正中矢状後頭弦長	l-o	100.2					100.4	97.0
31(1)	正中矢状上鱗弦長	l-i	63.2			77.5	71.9	67.5	64.1
51	眼窩幅	mf-ek	36	41.9	39.3	43.5	41.6	42.7	41.1
52	眼窩高		34	33	33.1	33.5	33.0	34.3	33.8
	眼窩示数(52/51)	(52/51)	94.4	78.6	84.1	76.5	81.0	80.4	82.4
66	下顎角幅	go-go	110 *	103.2	97.5	105.4	98.1	96.9	90.3
67	前下顎幅	for.men	50.3	49.4	48.8				
68	下顎長	go-go.pg	81 *	74.5	64.2				
69	オトガイ高	id-gn	33 *	33	30.4	33.5	29.0	36.1	33.2
70	下顎枝高		66 *	61.9	55.7	62.3	56.5	62.6	57.6
71	下顎枝幅		37.2	36.2	34.4	33.7	32.9	33.1	31.1
	下顎枝示数(71/70)	(71/70)	56.4 *	58.1	61.7	54.0	58.0	53.1	54.1
79	下顎枝角		117	121.6	121.9	121.6	121.7	127.7	131.3
70(3)	下顎切痕高		17 *	13.1	11.5	13.6	11.5	14.7	13.1
71(1)	下顎切痕幅		33 *	36.8	35.6	36.4	34.4	35.4	34.0

(単位はmm, * : 位置の推定を含む推定値)

かなりの間植立していた後に脱落したものであろう。風習的な抜歯と思われるものはない。

上顎の切歯はシャベル型切歯ではなく、側切歯は小さく退化的である。エナメル質減形成は見られないが、上顎の左第1大臼歯では歯冠面に歯髄まで達するう蝕(むし歯)が、また右の第1大臼歯は遠心の歯頸部にう蝕がみられる。下顎の左の第2小臼歯から第2大臼歯にかけては歯槽の吸収が著しく、歯根の尖端だけで植立している状態で、さらに第1小臼歯が生前に脱落していることが原因で3本とも近心に傾いている。下顎の前歯部、ならびに上顎の左犬歯部、小臼歯部に歯石が見られる。咬耗はかなり進んでいるものもあり、上顎歯はほとんどがモルナー(1971)の3度程度だが、左の中切歯(第1切歯)は5度、第1大臼歯は7度である。また、下顎歯は切歯が4~5度、小臼歯が3度、第1大臼歯が4度程度である。左の第2大臼歯の咬耗は少なく3度程度である。歯の咬耗を北村人の咬耗パターンと比較してみると30~40歳の壮年に属するものと変わらない咬耗状態である。

歯の大きさは現代人と比較すると小さく、上顎では犬歯の近遠心径や小臼歯の頬舌径以外は現代人女性の平均値(権田:1959)と同程度かあるいは小さい。下顎歯でも同様に小臼歯より近心の歯では現代人女性の平均値より小さいものが多いが、大臼歯は現代人男性の平均値を上回っているものが多い。他の地方の縄文時代人と比較すると、関東地方の縄文時代人男性(松村:1989)よりもやや大きめのものが多い。

体幹骨・四肢骨

椎骨は部分的に残っているが調査するほどの形態を残している部分はほとんどない。腰椎あたりの棘突起周辺が数点のこっている。

表113 滝沢遺跡出土人骨の上顎歯の計測値と比較資料

遺跡名	性別	I 1		I 2		C		P 1		P 2		M 1		M 2		M 3	
		m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l								
滝沢遺跡	右	8.4	7.0	6.5	6.2	8.4	8.5	7.2	9.3	7.0	10.0						
	左	6.9	6.7	6.5	8.0	8.7	7.3	9.7	6.8	10.0							
平均値		8.4	7.0	6.6	6.4	8.2	8.6	7.3	9.5	6.9	10.0						
北村縄文遺跡(茂原:1992)	男性	8.4	7.0	-	-	7.6	7.7	6.7	9.0	6.2	8.6	10.0	11.3	8.5	11.3	8.0	11.0
	女性	-	-	7.3	5.8	7.4	7.3	6.7	9.2	6.5	9.1	9.9	11.1	8.4	11.1	8.1	10.2
関東地方縄文人(松村:1989)	男性	8.46	7.41	7.18	6.83	7.64	8.19	6.97	9.40	6.52	9.17	10.16	11.71	9.22	11.59	8.23	10.88
	女性	8.25	7.08	6.70	6.41	7.40	7.89	6.77	9.16	6.24	8.88	9.92	11.40	8.94	11.20	8.09	10.43
現代日本人(権田:1959)	男性	8.67	7.35	7.13	6.62	7.94	8.52	7.38	9.59	7.02	9.41	10.68	11.75	9.91	11.85	8.94	10.79
	女性	8.55	7.28	7.05	6.51	7.71	8.13	7.37	9.43	6.94	9.23	10.47	11.40	9.74	11.31	8.86	10.50

(単位はmm。関東地方縄文人男性の平均値より大きな値のものにシャドウをかけてある)
m-d: 近遠心径, b-l: 頬舌径

表114 滝沢遺跡出土人骨の下顎歯の計測値と比較資料

遺跡名	性別	I 1		I 2		C		P 1		P 2		M 1		M 2		M 3	
		m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l								
滝沢遺跡	右			5.6		7.2	7.7	7.3	8.4	7.4	8.9	11.3	11.5	11.3	10.9		
	左			7.0	7.7					7.5	8.9		11.0	11.6			
平均値				5.6	7.1	7.7	7.3	8.4	7.5	8.9	11.3	11.3	11.5	10.9			
北村縄文遺跡(茂原:1992)	男性	-	5.8	-	6.2	6.5	7.6	6.5	7.5	6.3	8.2	11.1	10.9	10.1	9.9	9.2	9.0
	女性	-	-	6.0	-	7.4	6.4	7.0	6.7	7.9	11.7	10.9	10.6	9.8	10.2	9.5	
関東地方縄文人(松村:1989)	男性	5.28	5.94	5.78	6.27	6.85	7.66	6.93	7.95	6.98	8.40	11.59	11.19	10.94	10.51	10.47	9.94
	女性	5.19	5.70	5.69	6.19	6.58	7.33	6.71	7.74	6.76	8.24	11.26	11.01	10.65	10.24	10.15	9.65
現代日本人(権田:1959)	男性	5.48	5.88	6.20	6.43	7.07	8.14	7.31	8.06	7.42	8.53	11.72	10.89	11.30	10.53	10.96	10.28
	女性	5.47	5.77	6.11	6.30	6.68	7.50	7.19	7.77	7.29	8.26	11.32	10.55	10.89	10.20	10.65	10.02

(単位はmm)

上肢骨

鎖骨はきゃしゃで細く、中央付近は扁平ではなくむしろ円形である。中央周は32mmで現代関東地方人女性(33.20mm)よりも小さい。上腕骨は比較的頑丈である。胸や背中の筋が付く大結節稜や小結節稜はやや発達しているが三角筋粗面はあまり発達していない。右の上腕骨の方が太く、三角筋粗面も遠位にまで伸展しており発達もよい。右利きであった可能性が考えられる。橈骨や尺骨は普通であり、骨間縁は発達していない。

上肢骨の長さは縄文時代津雲貝塚人女性の平均値を上回っているが、男性の平均値よりも短い。

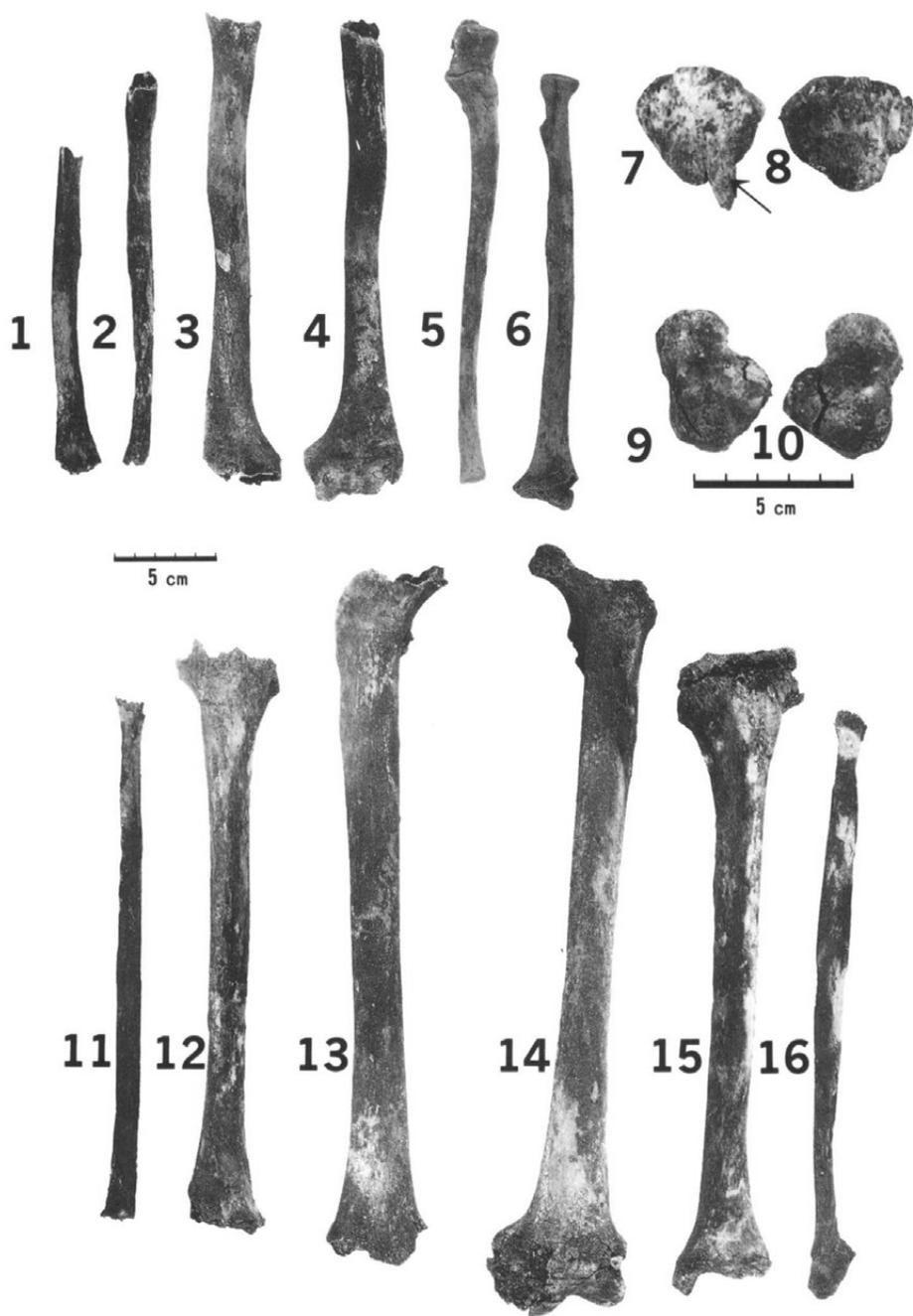
下肢骨

大腿骨は比較的頑丈である。後面の粗線はやや発達しており、内側唇、外側唇がとくに中央付近で明瞭である。柱状示数は106.1で縄文時代の津雲貝塚人男性より低く、また現代人とは大差ない。柱状大腿骨といえるほどではない。骨幹上部外側の殿筋隆起はやや張り出しており、転子下窩は浅い溝状である。左の大腿骨の方が粗線は発達しており、内側唇には加齢変化と思われる骨棘が10cmほどに渡って内側方へ張り出している。骨体上部は扁平で、扁平示数(上骨体横断示数)は68.6で超扁平大腿骨に属し、縄文時代の津雲貝塚人よりもさらに扁平である。膝蓋骨は左右と

表115 滝沢遺跡出土人骨の上肢骨の計測値と比較資料

	縄文時代						現代	
	滝沢遺跡			津雲貝塚 (清野：1928)		関東地方人 (高野：1958)		
	右	左	平均	♂	♀	♂	♀	
鎖骨								
6 中央周	32		32.0	33.8	33.5	38.20	33.20	
5 中央矢状径	10.0		10.0	13.2	11.3	12.20	10.80	
4 中央垂直径	9.1		9.1	10.1	8.5	10.00	8.40	
上腕骨						(西原：1953)		
1 最大長		280 *	280.0	291.5	266.2	295.93	272.38	
5 中央最大径	20.8	20.1	20.5	23.9	20.4	22.41	19.71	
6 中央最小径	18.6	17.4	18.0	17.5	14.1	17.74	14.70	
7 骨幹最小周	60	60	60.0	65.2	55.3	62.27	54.11	
7a 中央周径	62	60	61.0					
7/1 長厚示数		21.4	21.4	22.8	20.5	21.14	19.89	
7a/1 長厚示数		21.4	21.4					
6/5 中央横断示数	89.4	86.6	88.0	72.7	69.0	79.55	75.10	
橈骨						(蛭名：19)		
1 最大長		225 *	225.0	235.2	209.0	225.09	202.11	
3 最小周		39	39.0	44.5	38.5	40.45	34.69	
4 体横径	16.0	15.7	15.9			16.45	14.56	
4a 骨体横径		14.2	14.2	17.2	14.8	16.45	14.56	
5 体矢状径	10.7	11.5	11.1			11.81	9.84	
5/4 体断面示数	66.9	73.2	70.1			71.75	67.44	
5(5) 中央周		40	40.0	-	-	43.34	37.56	
5a 骨体矢状径		11.4	11.4	11.8	10.3	11.81	9.84	
5a/4a 骨幹横断示数		80.3	80.3	69.2	70.3	71.75	67.44	
尺骨						(蛭名：19)		
1 最大長		245 *	245.0	252.5	226.0	241.52	218.69	
3 骨幹最小周		33	33.0	39.3	33.9	36.55	32.16	
11 骨幹背掌径		11.7	11.7	14.2	11.7	13.20	10.71	
12 骨幹横径		14.9	14.9	16.3	14.0	16.29	13.91	
11/12 骨幹横断示数		78.5	78.5	87.3	84.5	80.94	76.94	
13 上横径		17.7	17.7	21.2	17.2	20.52	17.16	
14 上前後径		23.0	23.0	25.5	21.8	25.17	21.91	
13/14 扁平示数		77.0	77.0	82.8	79.5	82.16	78.37	

(単位はmm, * : 位置の推定を含む推定値)



第131図 D-60号土坑出土人骨の四肢骨（写真はとくに断らないかぎり前面である）

1：右橈骨，2：右尺骨，3：右上腕骨，4：左上腕骨，5：左尺骨，6：左橈骨，7：左膝蓋骨，矢印は骨棘，8：右膝蓋骨，9：右距骨上面，矢印は蹲踞面，10：左距骨上面，矢印は蹲踞面，11：右腓骨，12：右脛骨，13：右大腿骨，14：左大腿骨，15：左脛骨，16：左腓骨

もに完形である。左は前面上方および下方（遠位部）に骨棘がみられ、右は前面上方（近位部）に小さいいくつかの骨棘がみられる（第131図-7・8）。加齢変化であろう。脛骨はやはり頑丈である。後面の鉛直線はほとんど発達しておらず、また一般の縄文時代人ほどには扁平でなく栄養孔位横断示数は62.3で中脛に近い扁平脛に属している。中央付近の断面はヘリチカのI型とIV型の中間型である。腓骨はさほど頑丈ではなく、骨間縁の発達も弱く槌状ではない。足根骨の距骨には蹲踞面が認められ、左・右共に内側蹲踞面が内側前方に伸展する森本の分類によるC型である（森本：1981〈第131図-9・10〉）。

骨の取り上げの際に計測した各四肢骨の最大長は以下の通りである。左上腕骨280mm、左橈骨225mm、左大腿骨405mm、右大腿骨405mm、左脛骨320mm。これらの数値から藤井（1960）の身長推定式を用いて計算される推定身長はそれぞれ、151.4cm、157.0cm、154.9cm、154.9cm、153.0cmであり、これらの平均値は154.2cmである。この値は平本（1977）の報告している縄文時代人男性の平均推定身長159.11cmよりやや低く、女性の平均値148.05cmよりはかなり高いことになる。下肢骨では、大腿骨に比して下肢の骨（脛骨、腓骨）が短い特徴を持っている。

表116 滝沢遺跡出土人骨の下肢骨計測値と比較資料

Martin	計測項目	縄文時代				現代		
		滝沢遺跡			津雲貝塚 清野他(1928a, b)		関東地方人	
		右	左	平均値	♂	♀	♂	♀
大腿骨							(大場：1950)	
1	最大長	405.0	405.0*	405.0	418.2	382.9	412.05	382.10
2	自然位全長		398.0	398.0	414.2	377.8	408.05	378.20
6	中央矢状径	27.0	25.4	26.2	29.3	25.0	27.61	24.66
7	中央横径	25.5	23.9	24.7	25.5	24.0	26.23	23.06
6/7	中央横断示数	105.9	106.3	106.1	114.6	103.9	105.72	107.56
8	骨幹中央周		79.0	79.0	86.8	77.4	83.60	74.40
9	骨体上横径	31.3	32.0	31.7	30.5	28.3	30.86	27.86
10	骨体上矢状径	22.4	21.0	21.7	24.2	21.6	25.35	22.45
10/9	上骨体横断示数	71.6	65.6	68.6	79.5	76.6	82.18	81.24
脛骨							(鈴木：1961)	
1	全長		320.0*	320.0	345.9	318.1	320.38	298.25
6	下幅		50.5	50.5	50.2	45.3	51.30	45.84
8	中央矢状径		30.2	30.2	32.1	26.8	28.73	25.71
9	中央横径		20.0	20.0	19.6	17.7	22.79	20.31
9/8	中央横断示数		66.2	66.2	61.5	65.4	78.66	78.68
8a	栄養孔部矢状径	32.5	32.9	32.7	35.4	30.2	31.77	28.95
9a	栄養孔部横径	20.5	20.2	20.4	21.9	19.0	25.10	22.51
9a/8a	栄養孔位断面示数	63.1	61.4	62.2	62.2	62.8	78.26	77.28
10b	最小周	69.0	69.0	69.0	77.4	67.1	72.25	65.28
10b/1	長厚示数		21.6	21.6	22.4	21.0	22.68	22.06
腓骨							(福田：1961)	
1	最大長	318.0*		318.0	334.0	312.1	322.35	301.70
2	中央最大径		15.3	15.3	17.7	15.1	14.81	13.61
3	中央最小径		7.8	7.8	12.1	9.9	10.94	9.54
3/2	中央横断示数	51.0		51.0	69.0	66.1	73.35	70.10
4	中央周	40		40.0	52.0	43.6	43.38	38.95
距骨								
1	距骨長	46.4		46.4	50.0	45.4		
2	距骨幅	35.7		35.7	41.4	37.9		
2/1	長幅示数	76.9		76.9	82.7	83.6		
脛1/大2	脛骨大腿骨示数		80.4	80.4	81.5	83.6		

(単位はmm. *：位置の推定を含む推定値)

(2) D-62号土坑出土人骨

頭蓋骨の保存状態はよくない。これはこの個体が後述のように幼児であるために頭蓋の骨が薄く保存が悪かったのであろう。

頭蓋骨

いずれも細片化しており、中に1点だけやや大きめのものがある。頭頂骨片であろう。他に後頭骨片、下顎骨片などが出土している。下顎骨は左右の臼歯部である。

歯が20本出土しているが、そのうち12本が乳歯、8本が永久歯である。これらの永久歯は形成中の歯冠だけである。永久歯の第1大臼歯の歯冠がほぼ形成されており、切歯や犬歯も形成中であることを考えるとこの個体は2～3歳で死亡したと推測される。乳歯にう蝕（虫歯）はなく、エナメル質減形成も見られない。永久歯の上顎中切歯はシャベル型が顕著である。また、下顎第1大臼歯の咬頭と溝の型はY5型である。

四肢骨

大腿骨片と脛骨片であろう。特記すべきことはない。

この個体の性別や時代的特徴は不明である。

4 他の遺跡出土人骨との比較

滝沢遺跡人骨の顔面は失われており、時代的な特徴をもっとも示している顔面の比較が出来ない。それ以外の部分では、現代人や縄文時代人に一般的な短頭である。また、鼻根部も鼻骨が失われているが古墳時代人のように扁平ではなく、やや凹んでおり、また顔面もさほど高くはなく横に広い。ただ、眼窩が低眼窩でない点は縄文時代人とはやや異なっている。歯の大きさは関東地方の縄文時代人男性よりも大きめのものが多い。また、縄文時代の北村遺跡人骨（茂原：1992）と比較するとエナメル質減形成がみられないことや、歯頸部にう蝕（虫歯）が見られるなどの違いが認められるが、なにぶんにも一個体であり比較は将来の課題である。

5 まとめ

長野県御代田町から古人骨が発掘された。埋葬姿勢は出土例の少ないうつ伏せ（伏臥屈葬）である。下顎骨右底部に鋭い刃物によると思われる傷がみられる。5回ほどの切痕である。この人骨は骨盤が残っていないのでやや推測的であるが男性と考えられ、推定身長が154.2cmで男性としてはやや小さめである。歯の咬耗からは壮年程度と推測されるが、膝蓋骨や大腿骨などに加齢変化が認められる。頭蓋は短頭である。脛骨は扁平ではなく、鎖骨や腓骨の発達も男性としては弱い。エナメル質減形成は見られないがう蝕がみられる。前額部や足などに埋葬時に使われたと思われるイネ科の植物組織が認められた。直接地面に埋葬されたのではないことを示している可能

性がある。

時代的な特徴を示すものはとくにないが、この人骨がもし縄文時代人でないとすると、短頭であること、脛骨が扁平でないこと、顔面が扁平でないことなどを考えると少なくとも中世的ではなく、もっと新しい時代（近代）の人骨の可能性が考えられる。

参考文献

- 馬場悠男 (1991) : 人骨計測法, 人類学講座別巻 1, 「人体計測法」, 江藤盛治編集 ; 159-358.
- 蛭名忠次郎 (1951) : 日本人前腕骨の人類学的研究 其一 桡骨, 東京慈恵会医科大学解剖教室業績集 5 ; 1-28
- 蛭名忠次郎 (1951) : 日本人前腕骨の人類学的研究 其二 尺骨, 東京慈恵会医科大学解剖教室業績集 5 ; 1-30
- 藤井明 (1960) : 四肢長骨の長さとし長との関係に就て, 順天堂体育学部紀要, 3 ; 49-61
- 藤田恒太郎 (1949) : 歯の計測規準について, 人類学雑誌, 61 ; 1-6.
- 福田佐 (1961) : 関東地方人胫骨の人類学的研究 (計測編), 東京慈恵会医科大学雑誌76 ; 1-21
- 權田和良 (1959) : 歯の大きさの性差について, 人類学雑誌, 43 (1) ; 151-163
- 平本嘉助 (1977) : 日本人身長の時代的变化, 自然科学と博物館, 44 (4) ; 169-172
- 清野謙次・宮本博人 (1925) : 津雲貝塚人人骨の人類学的研究, 第二部, 頭蓋骨の研究 ; 人類学雑誌41 (3, 4) ; 1-104
- 清野謙次・平井隆 (1928 a) : 津雲貝塚人人骨の人類学的研究, 第3部, 上肢骨の研究 ; 人類学雑誌43 (3 附) ; 177-301
- 清野謙次・平井隆 (1928 b) : 津雲貝塚人人骨の人類学的研究, 第4部, 下肢骨の研究其1. 大腿骨・膝蓋骨・脛骨及腓骨に就て ; 人類学雑誌43 (4 附) ; 303-390
- Matsumura, H. (1989) : Geographical Variation of Dental Measurements in the Jomon Population. J. Anthropol. Soc. Nippon, 97 (4) ; 493-512.
- 森本岩太郎 (1981) : 日本古人骨の形態学的変異 ——扁平脛骨と蹲踞面——, 人類学講座5「日本人I」, 雄山閣 ; 157-188
- 森田茂 (1950) : 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究, 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集 3 ; 1-59
- 西原四良 (1953) : 関東地方人上腕骨の人類学的研究, 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集 9 ; 1-63
- 小方保 (1981) : 縄文時代人骨, 「人類学講座5 日本人I」 ; 27-55.
- 大場信次 (1950) : 関東地方人大腿骨の人類学的研究 (計測編), 東京慈恵会医科大学解剖学教室業績集3 ; 1-44
- 茂原信生 (1993) : 北村遺跡出土の人骨の形質, 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書, 14, 「北村遺跡」, 259-402.
- 鈴木信夫 (1961) : 関東地方人脛骨の人類学的研究 (計測編), 東京慈恵会医科大学雑誌75 ; 2638-2678

(7) 御代田町滝沢遺跡の植物遺体について

株式会社 古環境研究所

1 試料

試料は、D-60号土坑の人骨に付着して採取された灰白色の植物遺体片（繊維状）である。

2 分析法

汚染のない段片（数mm）を取り出し、電気炉灰化法（550°・6時間）で灰化して灰像プレパラートを作成した。なお、内部の植物珪酸体を観察するため、灰像の一部を破壊した。観察は400倍の偏光顕微鏡下で行った。

3 結果と考察

観察の結果、灰像からは繊維状の植物珪酸体が検出され（写真6）、表皮細胞に由来する植物珪酸体は認められなかった。これは、イネ科植物の茎部などに見られる状況であるが、現在のところ茎部の植物珪酸体のみから供給植物種を特定するのは困難である。なお、灰像に付着する形でイネの葉身で形成される機動細胞珪酸体（写真1、2）が検出され、イネ科の茎部に由来する植物珪酸体（写真5）やネザサ節型（写真3）もわずかに検出された。

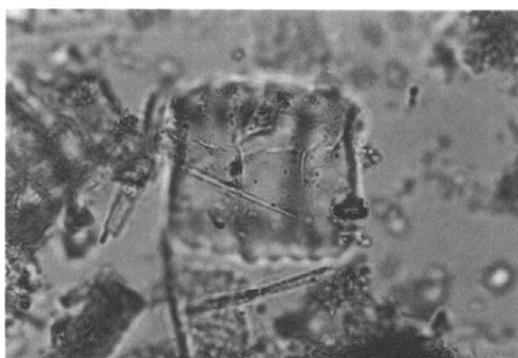
以上の結果から、観察を行った植物遺体片そのものはイネ科植物の茎部と考えられるが、それに付着する形でイネの葉身があった可能性が考えられる。



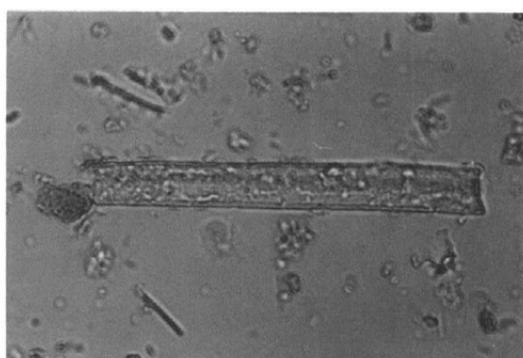
1 イネ



4 棒状珪酸体



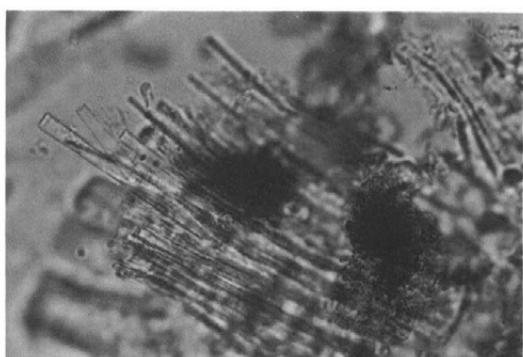
2 イネ



5 イネ科の基部起源



3 ネザサ節型



6 灰像の様子

第132図 植物珪酸体の顕微鏡写真 (倍率すべて250倍)

3 溝状遺構

(1) M-1号溝状遺構

第133図

本址はく・け-14グリッド内から検出され、狹隘な調査区を東西に横断する溝状遺構である。

検出長は17.3m、幅0.8~1.3mを測り、確認面からの深さは60~70cmが平均的と考えられるが、流水によって削られたり、えぐられたりしている部分も多く、1m近い深さを示す箇所もある。したがって覆土最下層には流水を示す砂の堆積が認められた。

遺物は該期の遺構が近くにあるためか縄文前期初頭~中葉の土器の混入がみられる。また、本遺構の掘削・廃絶時期については定かでないが、近世以降のものと推定しておきたい。

(2) M-2・3号溝状遺構

全体図参照

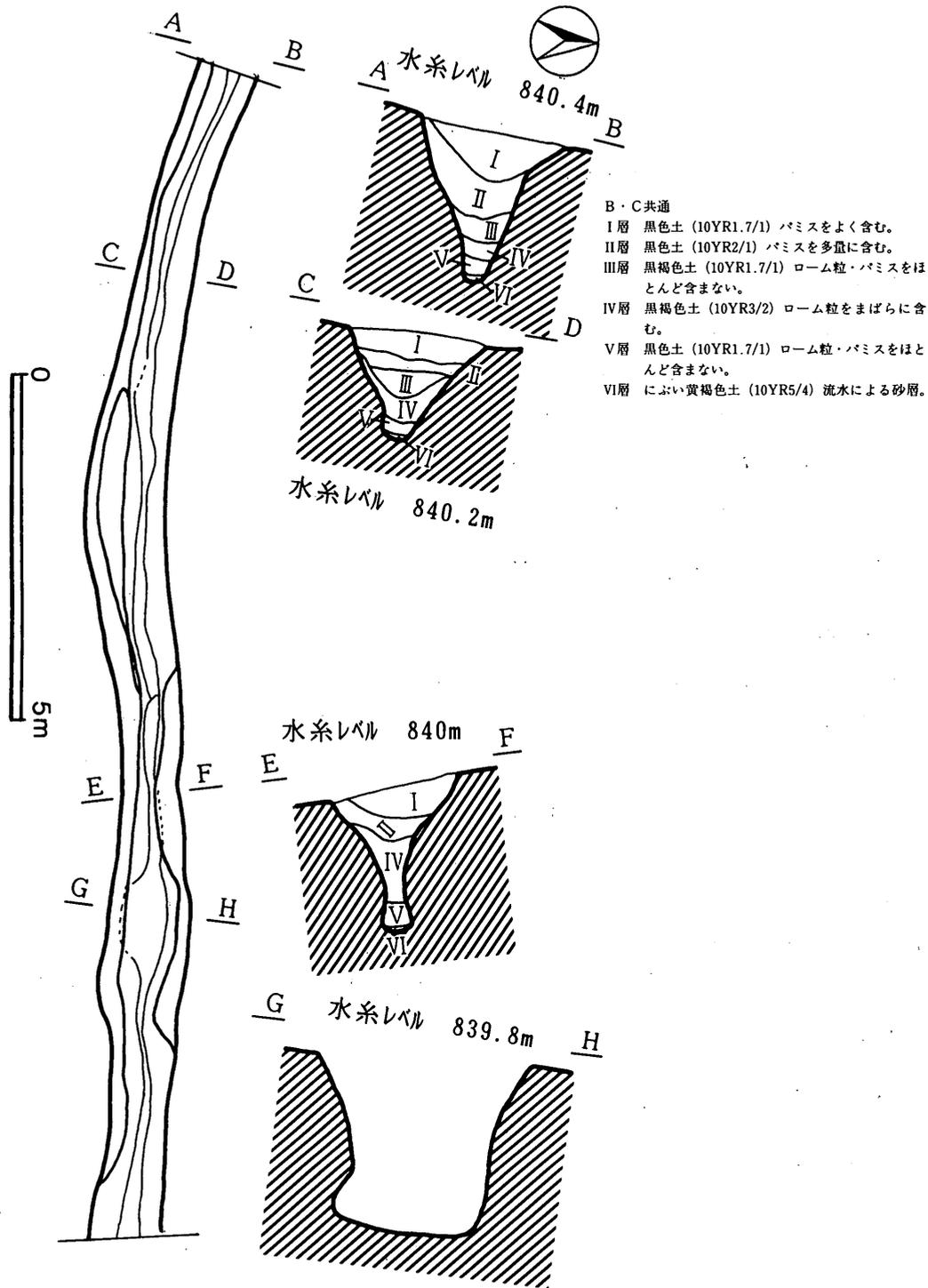
遺跡調査区内の西部を湾曲しながら、南北に縦貫する溝状遺構である。表土削平時に本遺構の中央部分も削り取られてしまったため、南から検出されたものをM-2号溝状遺構、北から検出されたものをM-3号溝状遺構として調査したが、従来は一本につながる溝状遺構である。検出長を復元すると140mをこえ、さらに南北に延びることが確実な長大な溝状遺構である。幅は細い部分で1.4m、太い部分で4.0mをこえ、北から南、言い換えれば高い地点から低い地点に向かって溝幅を増幅する傾向がある。確認面からの深さは1m内外が平均的で、底面には流水の痕跡も観察された。出土遺物はグリッド出土遺物に含めて掲載してあるが、前期初頭~中葉、中期初頭~中葉、中期後葉、後期初頭、後期前葉など幅広い時期の縄文土器が出土しているが、いずれも帰属性は薄い。本遺構が掘削されたのは近世以降と考えられる。

(3) M-4号溝状遺構

全体図参照

ち・つ-13グリッドで検出された。東西方向に真っすぐ走る溝状遺構で、幅は40cm内外、確認面からの深さは40cm内外を測る。断面形は箱形を呈し、垂直に近い状態で掘り込まれている。

出土遺物は前期初頭~中葉、中期後半、後期初頭、後期前葉などの縄文土器がみられるが、いずれも混入遺物と考えられ、掘削時期は近世以降と考えられる。



第133図 M-1号溝状遺構 (1:100)

4 グリッド出土遺物

(1) 縄文土器の分布

本発掘区では黒色土が厚く堆積する箇所が多く、そのなかから遺構に伴わない（発掘技術未熟のため遺構を見落としている場合もある）縄文土器・石器等が多量に出土した。このため、任意グリッドを設定して遺物を取り上げその分布状況を把握することに努めた。第133～138図には黒点で図化した縄文土器の時期別分布状況を示してある。

前期前半（滝沢Ⅰ・Ⅱ期） 第134図

基本的に胎土中に繊維を含む土器群で初頭～中葉の時期に帰属する土器群を前期前半に取りまとめた。全体に散漫な分布で、た-14グリッドにやや多めの分布が認められる程度である。なお、遺物包含層がない発掘区南端部では、縄文前期初頭～中葉の住居址が存在するため、M-1号溝状遺構内から当該期の土器がまとまって出土している。

前期後半（滝沢Ⅲ期） 第135図

本発掘区で出土した前期後半の縄文土器は、ほとんどが半截竹管状工具による連続刺突の文様に象徴される諸磯a式後半からb式前半の土器である。諸磯c式は少ない。た・ち-15グリッドに集中的な分布が認められ、ほかはその周辺のた・ち-14、そ・た・ち-16グリッドにやや多めの分布を示す。巨視的に見れば、本発掘区の中央からやや北西寄りに諸磯a式土器が集中分布することになる。この地点にはD-9号土坑など当該期の遺構が存在するが、住居址は検出されなかった。このほかの地点では、す-11・12グリッドから数点の諸磯a式土器が出土している。

中期前半 第136図

発掘区の北西側（平成5年度発掘区）には中期初頭の住居址がまとまって検出されているが、図示した発掘区（平成4年度）では当該期の遺構はごく少なく、包含層遺物も少ない。す-11グリッドにやや多めの分布が認められる程度である。

中期後半 第137図

時期別に見ると後期前葉に次ぎ、多量の土器が検出された。す-11・12グリッドに最も集中的な分布が認められる。その周辺のし-11・12、せ-12グリッドにもやや多めの分布があり、この

南北20m、東西30mほどの中期後半の敷石住居址を取り込む一角が縄文中期後半土器の集中区である。このほか、発掘区の北半中央部も少量ながら、ほぼまんべんなく当該期の土器の分布が認められる。

後期初頭（滝沢VII期） 第138図

ここで言う後期初頭の土器は称名寺式が該当する。す-11・12グリッドに集中的な分布が認められる。その周辺のし-11・12、せ-12グリッドにも少量ながら分布が認められる。この状況は全体量は減るものの、中期後半の分布と重複する。中期後半と異なるのは、た・ち-14グリッドにもう一つの集中分布区があることであるが、この地点には遺構は検出されていない。

後期前葉（滝沢VIII期） 第139図

堀之内1・2式土器が該当する。本発掘調査で最も多くの土器が出土した。当該土器が最も集中分布するのはち-14グリッドで、その周辺部た・ち-13、た-14・15、ち-15にもやや多めの分布が認められる。前述の後期初頭の土器分布状況とおおむね重複しており、この遺構無分布地点が後期初頭～前葉にかけての土器廃棄場であったことも考えられる。このほか、中期後半と後期初頭と同じくし・す-11グリッドとその周辺、また、J-4号住居址が存在するて-11グリッドにも多めの分布が認められる。

後期中葉（滝沢IX期）

加曽利B1式土器（第172図56）がつ-10グリッドから1点出土したのみである。

後期後葉（滝沢X期）

深鉢の口縁部片第172図1が、た-10グリッド、口縁～胴部片第184図3がち-14グリッドから出土した。

晩期（滝沢XI期）

佐野II式と考えられる胴部片（第184図4）が一片出土した。

（2） 縄文土器・石器の様相

縄文土器

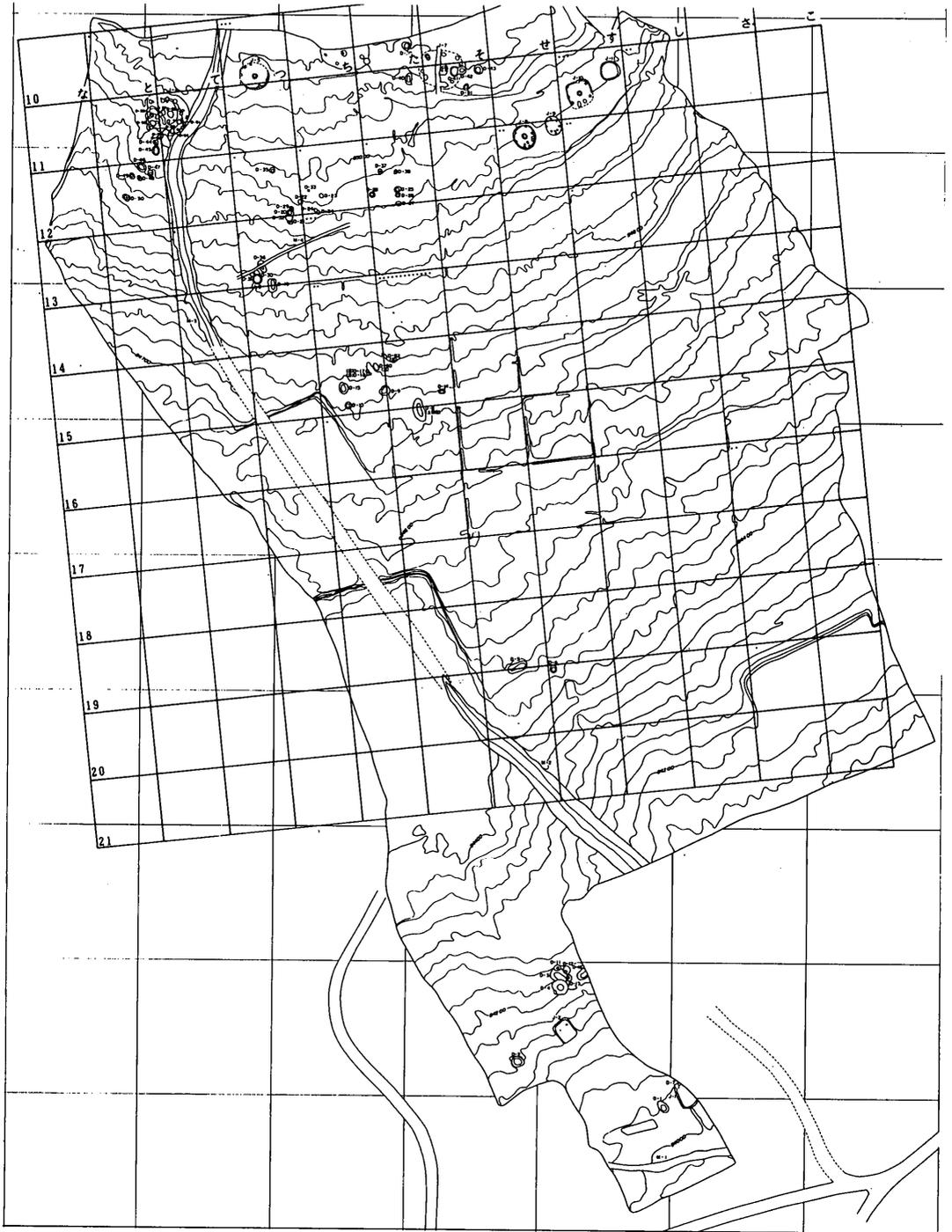
本発掘調査で出土した土器のほとんどは縄文土器である。これを時期別にまとめたのが第140～183図である。その内訳は基本的には縄文前期が第140・145～152図、中期前半が第141図の

一部と第153図、中期後半が第141図の一部と第154～165図、後期初頭が第166～171図、後期前葉が第172～183図である。また、本遺跡では稀な時期の縄文早期末、後期末、晩期と考えられる土器や時期不明の土器、他地域の系統と考えられる土器は第184図に、赤色塗彩された土器片については第185図、土製円板については第186図にまとめた。

土器一つひとつについての観察は表に示したとおりで、全体の分類については次章考察に譲ることとする。

石 器

グリッド出土の石器については第187図～第191図1にまとめた。各グリッドから安山岩あるいはガラス質黒色安山岩・頁岩製の打製石斧が出土している。このほか、閃緑岩製の磨製石斧、ガラス質黒色安山岩・硬質頁岩製の石匙、石皿、凹石、棒状石製品などが出土している。このなかで珍品には彫刻の入った軽石製の凹石56がある。また、し-13、つ-10グリッド2か所からヒスイの垂飾も出土している。



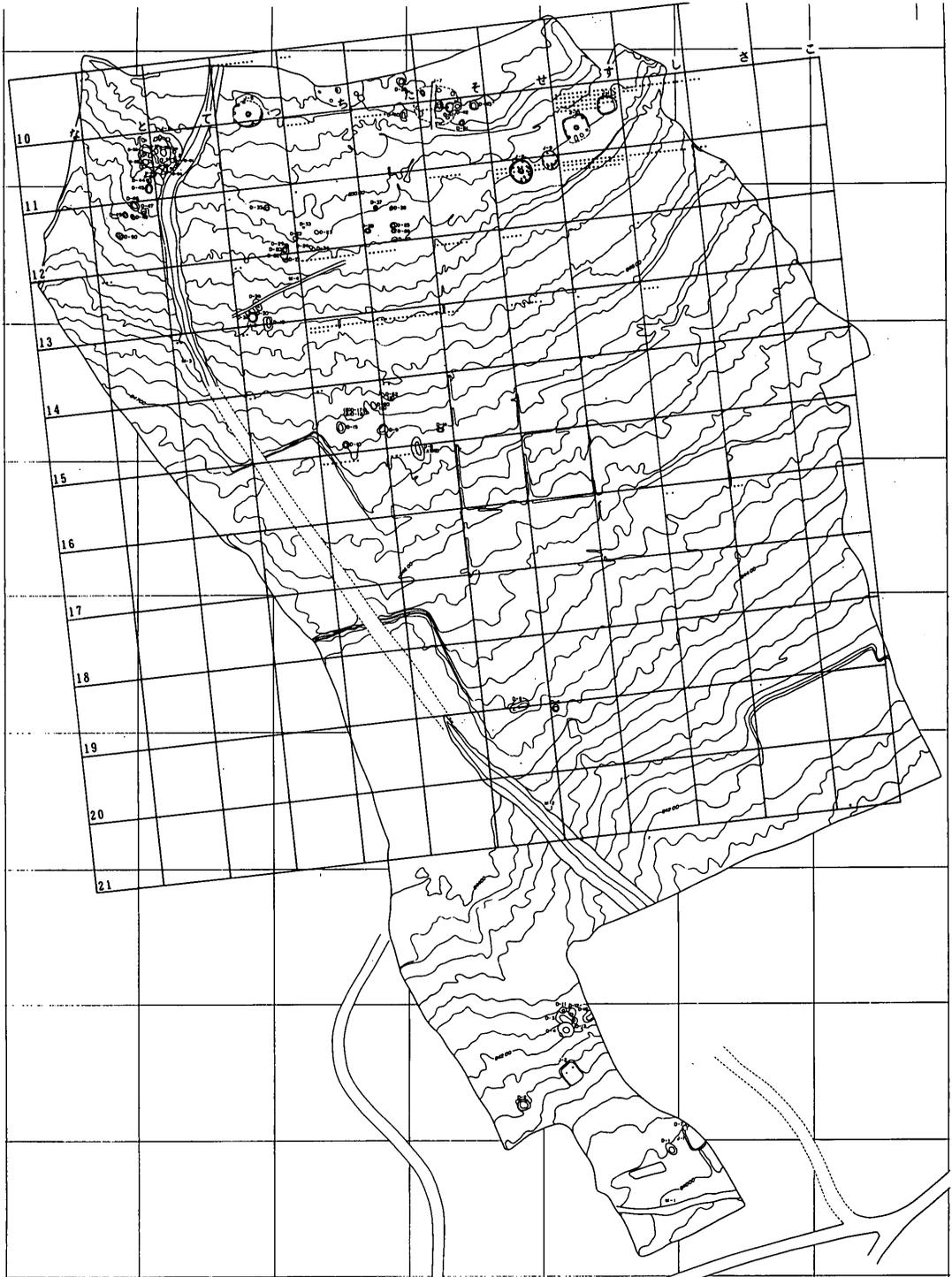
第134図 グリッド出土縄文前期前半土器分布状況 (1:1,000)



第135図 グリッド出土縄文前期後半土器分布状況 (1 : 1,000)



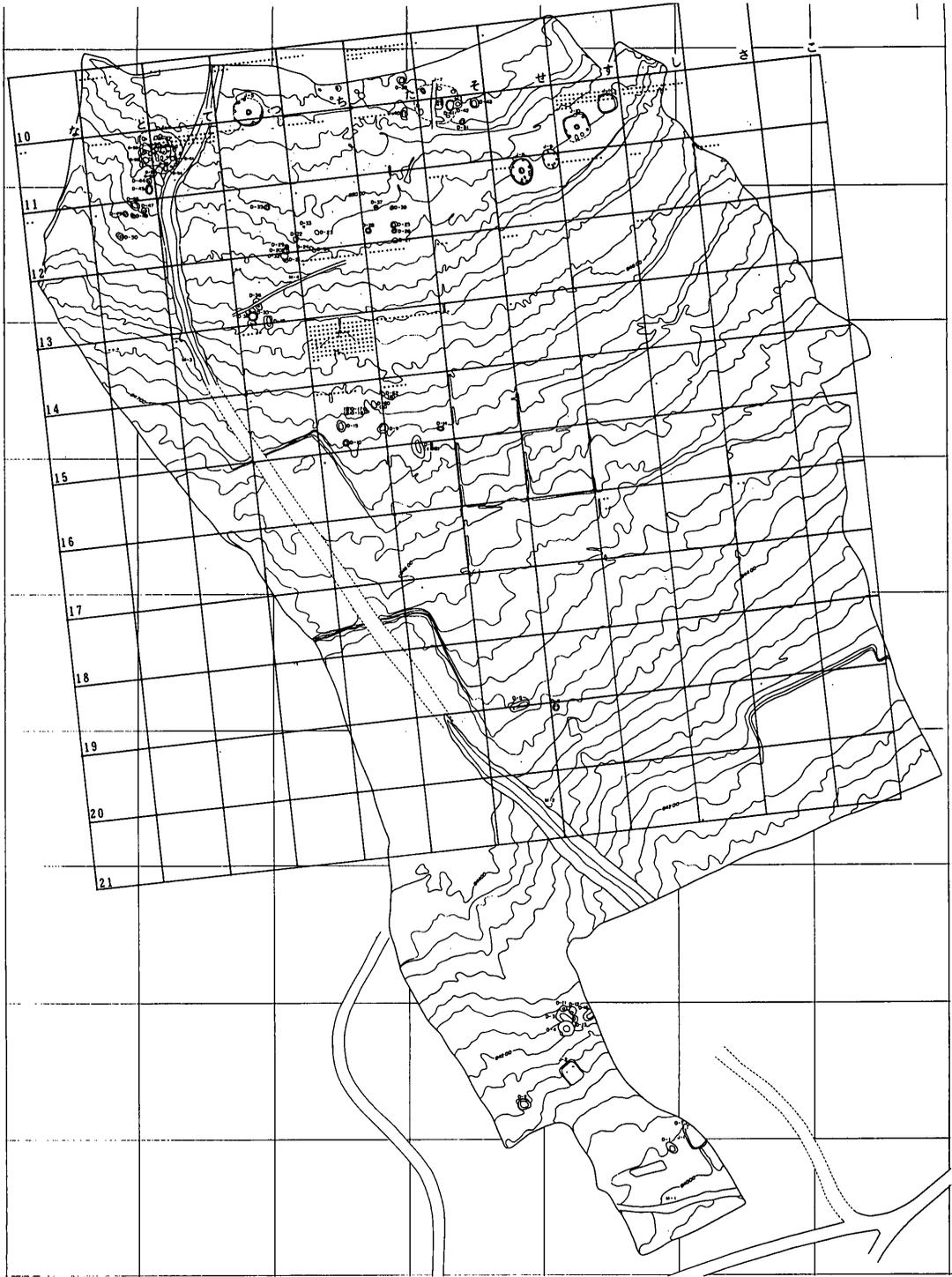
第136図 グリッド出土縄文中期前半土器分布状況 (1 : 1,000)



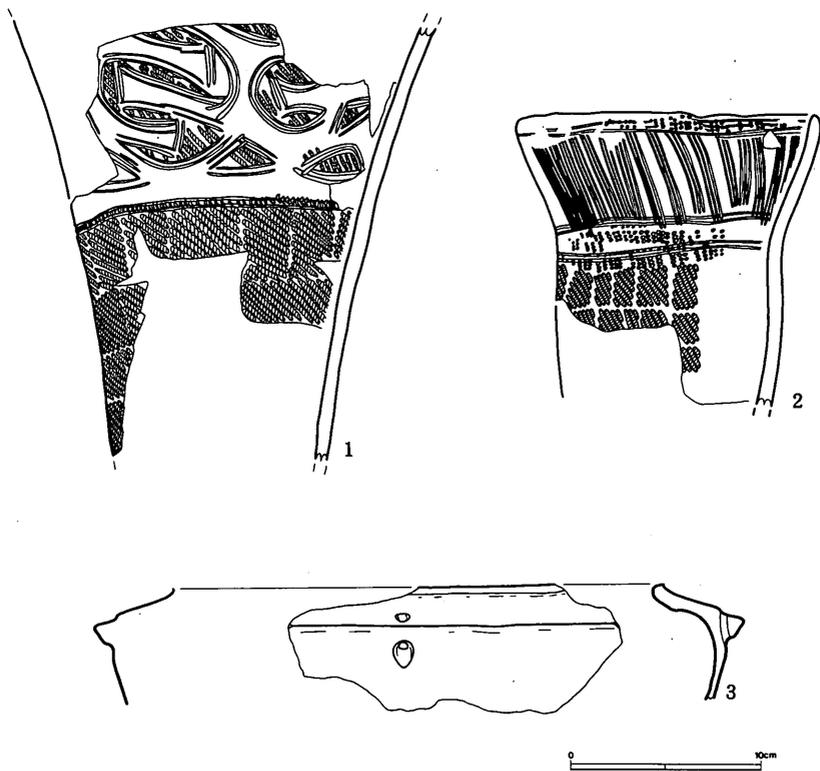
第137図 グリッド出土縄文中期後半土器分布状況 (1:1,000)



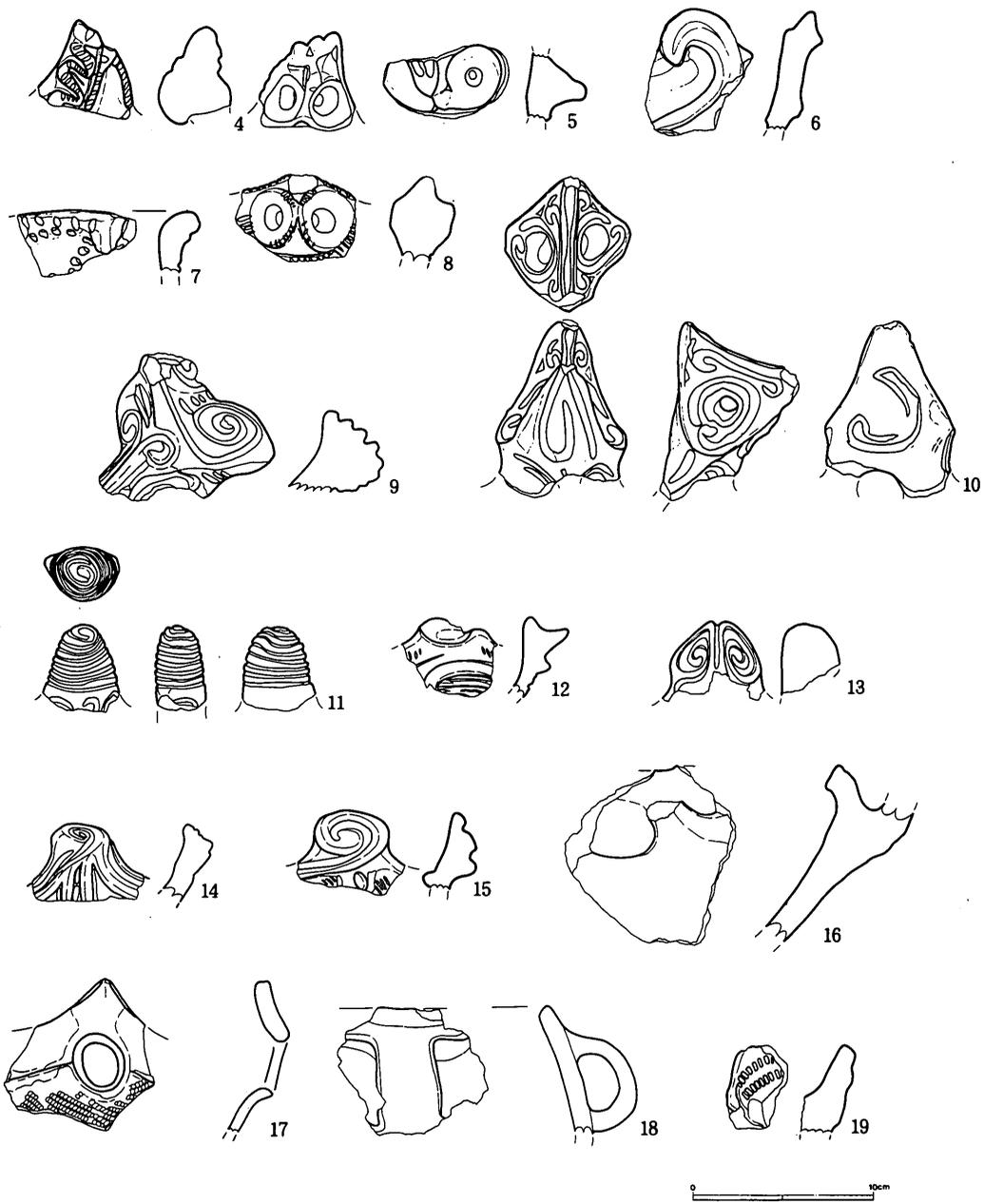
第138図 グリッド出土縄文後期初頭土器分布状況 (1:1,000)



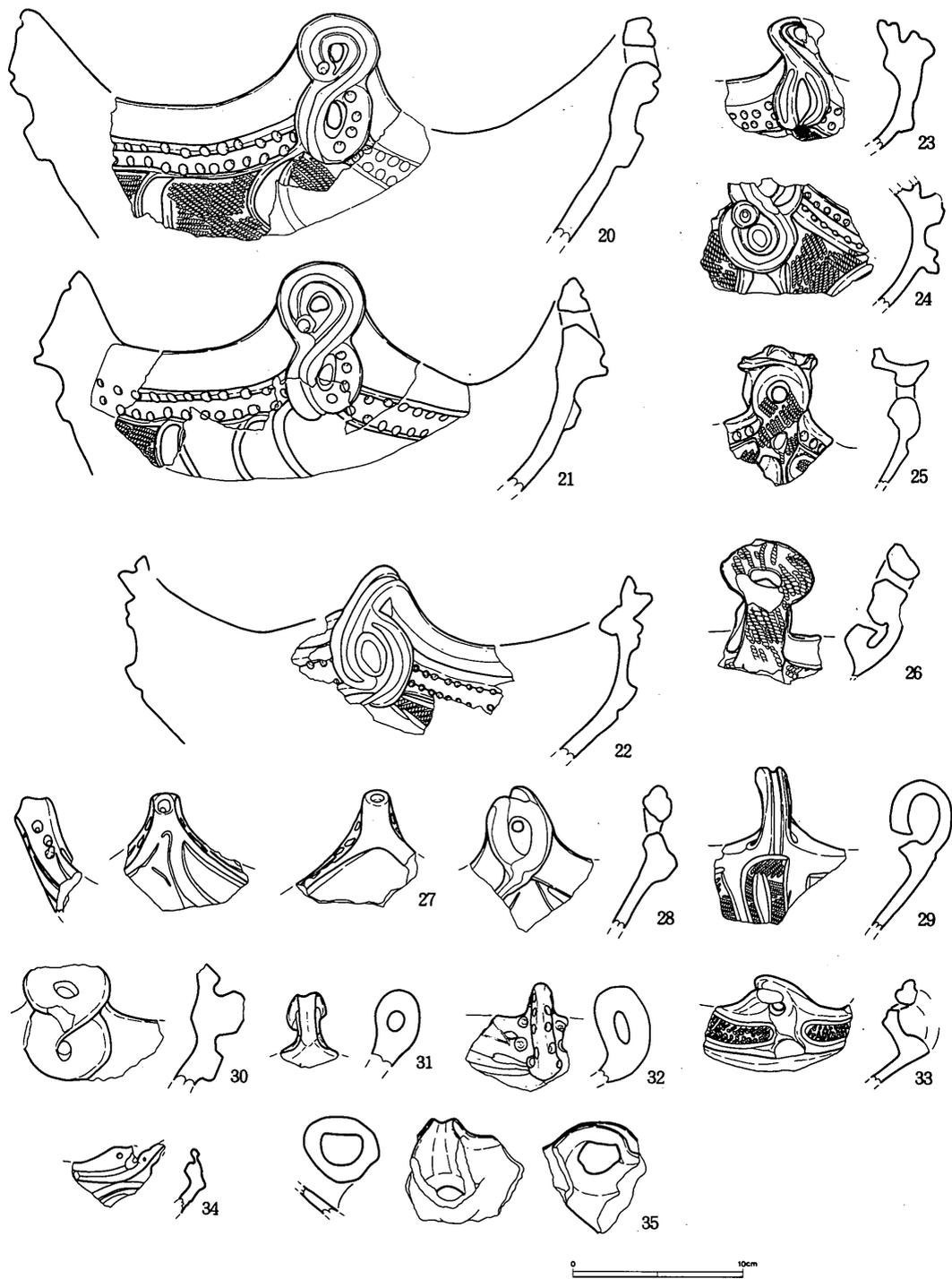
第139図 グリッド出土縄文後期前葉土器分布状況 (1:1,000)



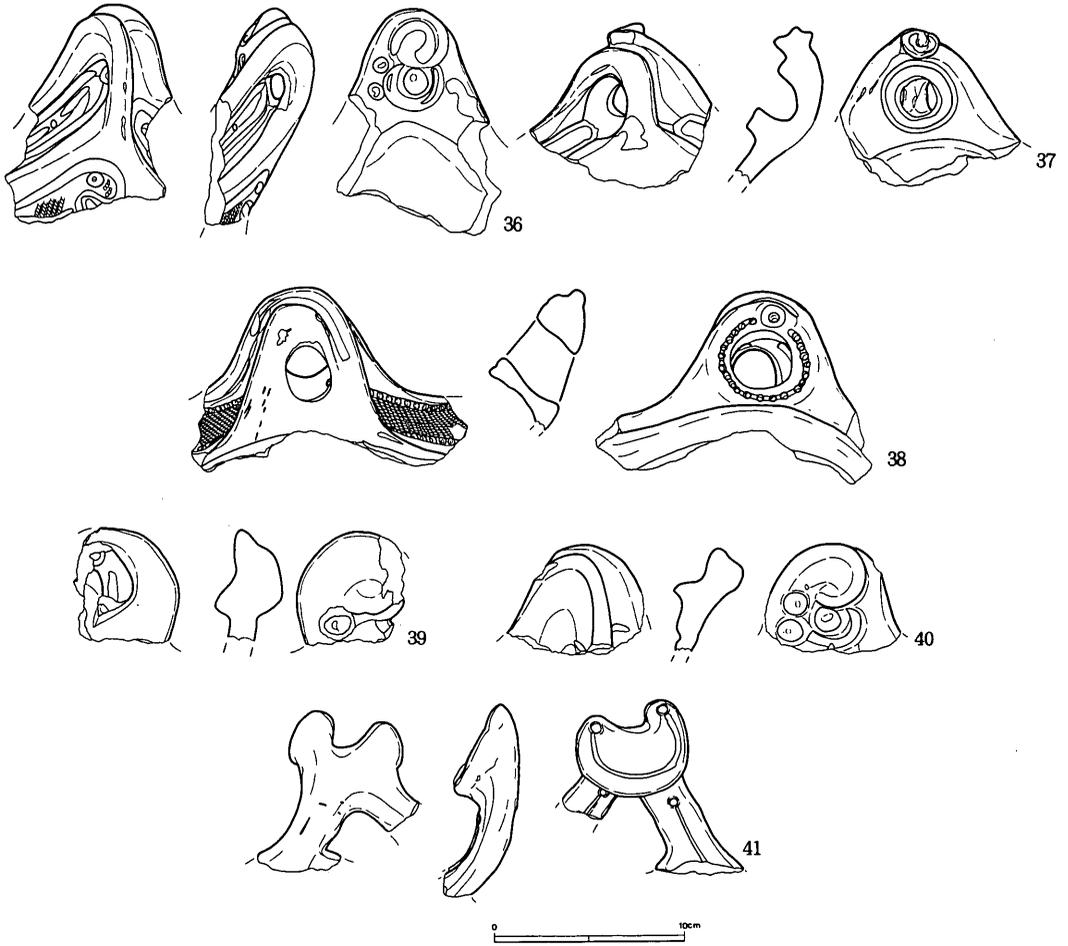
第140図 グリッド出土縄文前期土器（1：4）



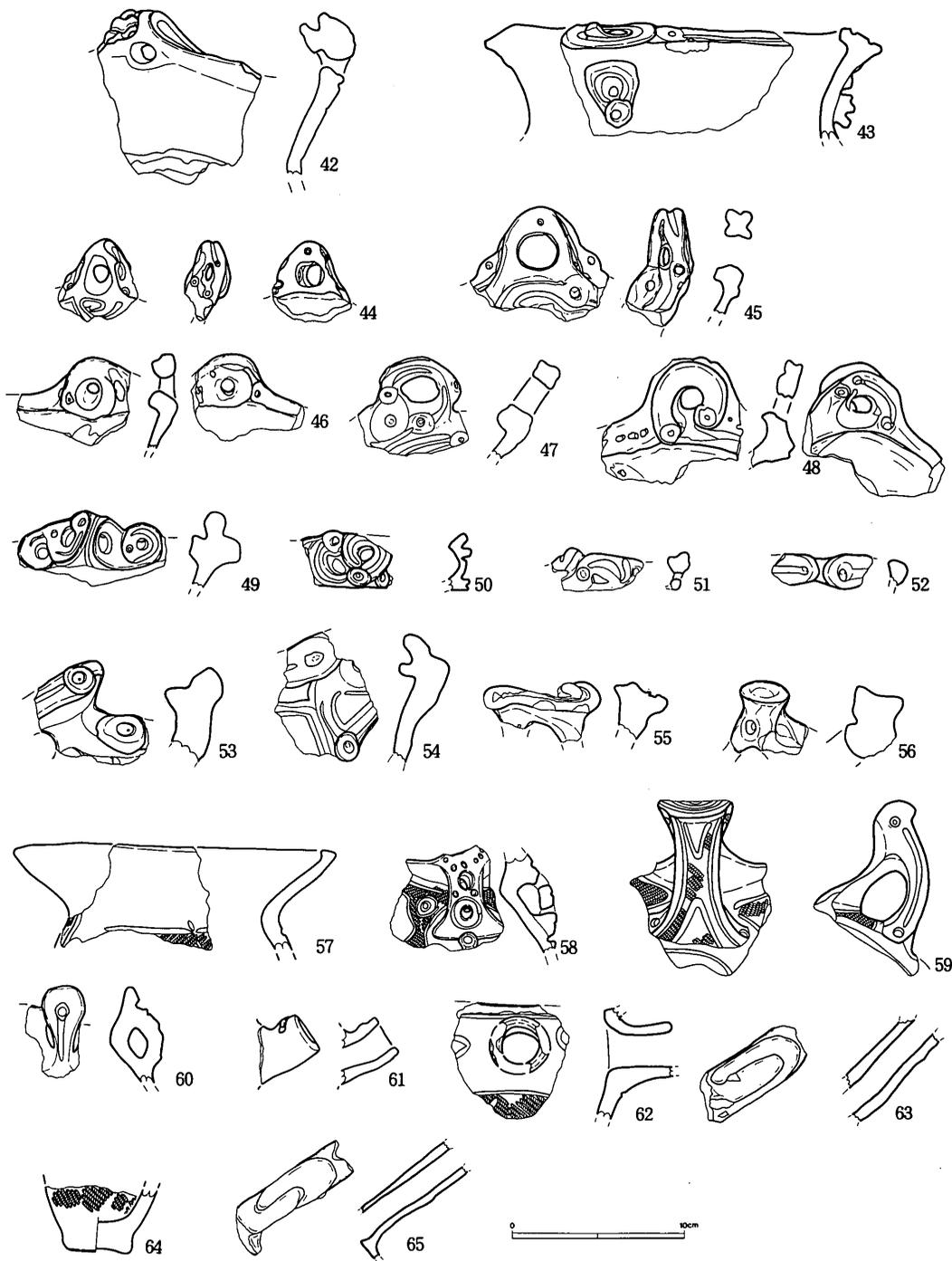
第141図 グリッド出土縄文中期土器（1：4）



第142図 グリッド出土縄文後期初頭土器 (1:4)



第143図 グリッド出土縄文後期初頭～前葉土器 (1 : 4)



第144図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1 : 4)

第117表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	脚 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管凹面による幾何学的沈線区画内に縄文R.L.。同工具による横位直線・連続刺突下は縄文R.L.。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	にふい黄褐色 10YR 7/3	た-16G Ⅲ区	前期後葉
2	深鉢	口縁 ～ 胴部	15.6 — —	口縁～胴部に縄文R.L.。その後口縁部は上下に歯状工具による横位沈線、連続刺突を配し、その空間に同工具による縦位沈線を並べる。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	にふい黄褐色 10YR 7/3	た-16G	前期後葉
3	浅鉢	口縁 ～ 胴部	30.4 — —	口縁部はほぼ扁平に内折する。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	褐灰色 10YR 6/1	た-15G Ⅲ区	前期後葉
4	深鉢	把手	— — —	表面刻みを持つ蛇行・三角状隆帯。表面ミミズク状。	ナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にふい褐色 7.5YR 5/3	J-9 付近	中期中葉 藤内Ⅱ式
5	深鉢	胴部	— — —	眼鏡状突起。沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 2.5YR 5/4	褐色 2.5YR 6/6	J-9 付近	中期中葉 焼町土器
6	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁頂部に湾曲する隆帯貼付。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい褐色 7.5YR 6/4	J-9 付近	中期中葉
7	深鉢	口縁部	— — —	端部に刻みを持つ隆帯。それに沿う連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にふい褐色 7.5YR 7/4	にふい褐色 7.5YR 7/4	J-9 付近	中期中葉 藤内Ⅱ式
8	深鉢	口縁部	— — —	ミミズク状突起周囲に連続の刻み。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にふい褐色 5YR 6/4	にふい褐色 5YR 6/4	H C	中期中葉
9	深鉢	把手	— — —	渦巻き状沈線と短沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 5YR 6/4	にふい赤褐色 5YR 5/4	て-13G Ⅰ区	中期後葉 唐草文系
10	深鉢	把手	— — —	三角錐の把手上に先端フック状に丸まる沈線。内面半円状の沈線。	—	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	し-11G	中期後葉 唐草文系
11	深鉢	把手	— — —	螺旋状の沈線と弧状の沈線。	—	白色粒子	にふい赤褐色 5YR 5/4	褐色 5YR 6/6	J-9 付近	中期後葉 唐草文系
12	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁頂部に環状把手。端部に沿って連続刺突と沈線。頂部下に環状隆帯。隆帯内に沈線。	ヨコ方向のナデ。	雲母?	にふい褐色 5YR 6/4	にふい褐色 5YR 6/6	H C	中期後葉 唐草文系
13	深鉢	把手	— — —	三角把手上に渦巻き状の沈線。	ナデ。	白色粒子	明赤褐色 5YR 5/6	明赤褐色 5YR 5/6	し-11G Ⅲ区	中期後葉 唐草文系
14	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁頂部に小把手。把手上渦巻き沈線から端部沈線へ連絡。頂部下から垂下する連続刺突。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 5YR 6/4	にふい褐色 5YR 6/4	H C	中期後葉 唐草文系
15	深鉢	口縁部	— — —	渦巻き状沈線を持つ把手。以下沈線と縄文R.L.。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にふい褐色 7.5YR 6/4	灰黄褐色 10YR 6/2	ち-14G Ⅱ区	中期後葉 唐草文系
16	鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	橋状の把手がつく。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 7/3	にふい褐色 7.5YR 6/3	す-11G	中期後葉
17	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部下に円孔。円孔から横位隆帯。以下、縄文R.L.。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	にふい黄褐色 10YR 7/3	す-12G	中期後葉
18	両耳壺	口縁 ～ 胴部	— — —	橋状把手から横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にふい褐色 5YR 6/4	にふい褐色 5YR 6/4	し-11G Ⅲ区	中期後葉
19	深鉢	口縁部	— — —	把手内面にキャタピラ状の押し文。	—	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/4	にふい黄褐色 10YR 7/4	J-9 付近	中期?

第118表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

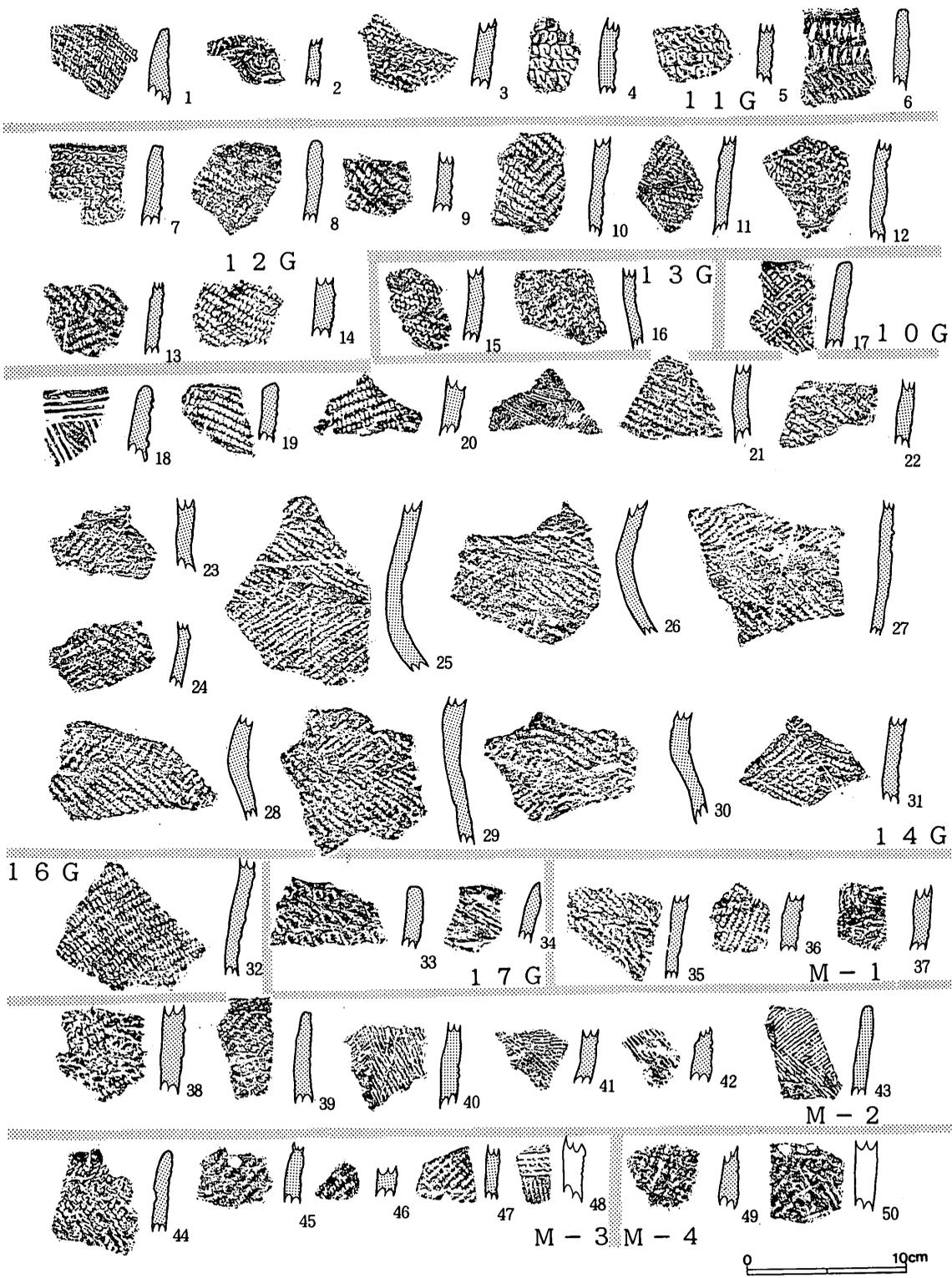
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	口縁 ～ 胴部	(36.0) — —	波状口縁頂部にS字状隆帯。隆帯上に円形刺突と沈線。隆帯わきからの2条の横位隆帯間に円形の連続刺突。以下2本一組の隆帯外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	J-9 付近	後期初頭
21	深鉢	口縁 ～ 胴部	(29.2) — —	17と同一個体。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	J-9 付近	後期初頭
22	深鉢	口縁 ～ 胴部	(28.8) — —	波状口縁頂部の6字状隆帯上に沈線。隆帯わきの2条の横位隆帯間に円形の連続刺突。以下沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	にぶい橙色 5YR 6/4	せ-12G	後期初頭
23	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部の8字状隆帯上に沈線と円形刺突。隆帯わきの2条の横位隆帯間に円形の連続刺突。以下、沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	明褐色 7.5YR 7/2	す-11G	後期初頭
24	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部の8字状隆帯上に沈線と円形刺突。また頂部から2条の横位隆帯。その間に円形の連続刺突。以下2本一組の隆帯区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	J-9 付近	後期初頭
25	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部の8字状隆帯上に縄文LR。頂部から横位隆帯。隆帯の上に円形の連続刺突。以下、隆帯間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰褐色 5YR 5/2	J-11 付近	後期初頭
26	深鉢	口縁 部	— — —	把手部上位は環状、下位は橋状を呈する。隆帯上に縄文LR。内面にも沈線と円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	褐灰色 10YR 6/1	J-9 付近	後期初頭
27	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁頂部と側縁に円形刺突と沈線。口縁部に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	褐色 7.5YR 6/6	M-3 I区	後期初頭
28	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部に環状隆帯。そこから横位隆帯とそれに沿う沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	た-15G III区	後期初頭
29	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	平縁に円形刺突と沈線を持つ環状把手。口縁部以下は縦位沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	ち-14G III区	後期初頭
30	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁頂部に8字状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	浅黄褐色 10YR 8/3	な-13G	後期初頭
31	深鉢	口縁 部	— — —	環状把手。	ナデ。	角閃石	浅黄褐色 7.5YR 8/3	灰白色 7.5YR 8/1	し-11G	後期初頭
32	深鉢	口縁 部	— — —	橋状把手側面に円形の連続刺突。そこから横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい赤褐色 5YR 6/4	す-12G	後期初頭
33	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	円孔を持つ波状口縁頂部から橋状把手。楕円区画沈線内に縄文LR。その上に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	浅黄褐色 7.5YR 8/3	す-11G	後期初頭
34	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部円形の刺突と横位沈線。以下、弧状隆帯下をなぞる。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 7/3	す-11G	後期初頭～前葉
35	注 土 器	把手 と 注口	— — —	無文。	ナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G III区	後期初頭
36	浅鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部から橋状把手。端部に円形刺突と沈線。以下、沈線区画内に縄文LRと円形刺突。内面にも円形刺突と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	J-9 付近	後期初頭
37	浅鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部から橋状把手。その面わきから楕円区画沈線。内面に沈線を持つ円形突起と円孔周囲に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	ち-14G	後期初頭

第119表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

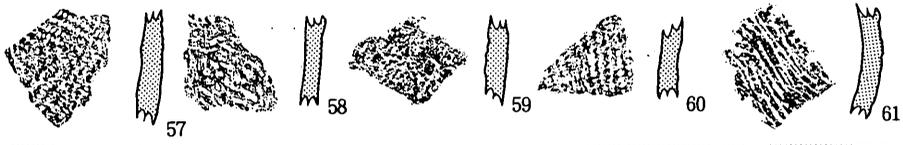
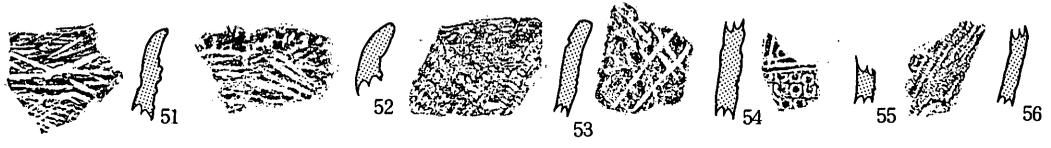
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
38	浅鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	円孔を持つ橋状の大型把手。内面に円孔に沿う連続刺突。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-14G	後期初頭
39	浅鉢	把手	— — —	半円状の把手上に円形刺突と沈線を持つ隆帯。 内面にも円形刺突。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 6/4	ち-15G	後期初頭
40	浅鉢	把手	— — —	半円状の把手上に隆帯。内面は渦巻き隆帯下に円形刺突と沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	橙色 5YR 6/6	し-11G	後期初頭
41	深鉢	把手	— — —	2本の脚によって連結する把手内面に円形刺突と沈線。	丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-16G	後期初頭
42	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁頂部に粘土紐を捻り合わせた小突起。 突起下に円孔。端部と胴部上位に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/3	にぶい褐色 5YR 7/4	M-3 G IV区	後期前葉 堀之内1式古段階
43	深鉢	口縁部	(18.8) — —	端部に円形刺突と沈線。口縁部中位に8字状突起。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-13G IV区	後期前葉 堀之内1式古段階
44	深鉢	口縁部	— — —	四本脚が集合する把手の側面と裏面に円形刺突。口縁部に沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	H C	後期前葉 堀之内1式古段階
45	深鉢	口縁部	— — —	四本脚が集合する把手の表裏、側面に円形刺突と沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	ち-14G	後期前葉 堀之内1式古段階
46	深鉢	口縁部	— — —	環状把手の表裏、側面に円形刺突と沈線。 口縁部にC字状の貼付文があったと考えられる。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 2.5Y 8/2	J-9 付近	後期前葉 堀之内1式古段階
47	深鉢	口縁部	— — —	環状把手の表裏、側面に円形刺突と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	H C	後期前葉 堀之内1式古段階
48	深鉢	口縁部	— — —	環状把手の表裏に円形刺突と沈線。端部に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-14G III区	後期前葉 堀之内1式古段階
49	深鉢	口縁部	— — —	4個の円盤を集合させた山形の突起の表裏に円形刺突と沈線を配す。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-11G IV区	後期前葉 堀之内1式古段階
50	深鉢	口縁部	— — —	環状の貼付隆帯を集合させる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	黒褐色 10YR 3/1	ち-14G II区	後期前葉 堀之内1式古段階
51	深鉢	口縁部	— — —	表裏に円形刺突と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	す-11G IV区	後期前葉 堀之内1式古段階
52	深鉢	口縁部	— — —	円形刺突から沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 8/2	H C	後期前葉 堀之内1式古段階
53	深鉢	口縁部	— — —	きのこ状の把手と口縁端部に円形刺突と沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	H C	後期前葉 堀之内1式古段階
54	深鉢	口縁部	— — —	端部に円形刺突と沈線。逆三角形隆帯上に円形刺突。その区画内外に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-14G I区	後期前葉 堀之内1式古段階
55	深鉢	口縁部	— — —	2本の脚が集合する把手の端部に沈線と円形刺突。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/4	し-11G	後期前葉
56	深鉢	口縁部	— — —	棒状把手の表裏、側面に円形刺突と沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	し-11G III区	後期前葉

第120表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

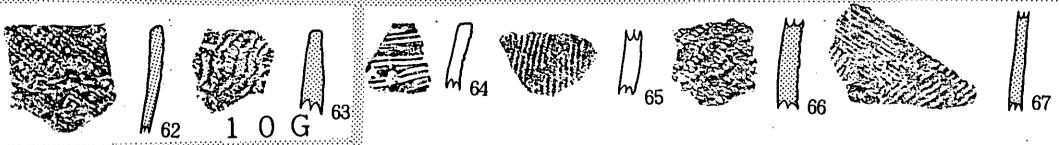
挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
57	深 鉢	口縁 ～ 胴部	(17.4) — —	チェーン状の垂下隆帯。胴部は沈線区画に 縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	J-8 付近	後期前葉
58	注 口 土 器	口縁 ～ 胴部	— — —	橋状の把手に円孔、円形刺突、沈線。胴部 は沈線区画内に縄文L R充帆。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰白色 10YR 7/1	た-10G III区	後期前葉
59	注 口 土 器	口縁 ～ 胴部	— — —	橋状把手頂部に渦巻き状沈線。表面にX字 状沈線と縄文L R。側面に円形刺突と沈線。 胴部は沈線区画に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 2.5Y 8/2	H C	後期前葉
60	注 口 土 器	把手	— — —	橋状の把手に円形刺突と沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	た-17G I区	後期前葉
61	注 口 土 器	注口 部	— — —	上位から側面にかけて隆帯と沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	褐灰色 7.5YR 6/1	H C	後期前葉
62	注 口 土 器	胴部	— — —	注口部周囲は沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	つ-14G	後期前葉
63	注 口 土 器	注口 部	— — —	J字状の微隆起線。把手との接合痕残る。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-14G II区	後期前葉
64	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-14G IV区	後期前葉
65	注 口 土 器	注口 部	— — —	J字状の微隆起線。把手との接合痕残る。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	表採	後期前葉



第145図 グリッド出土縄文前期土器（1：4）〈1〉



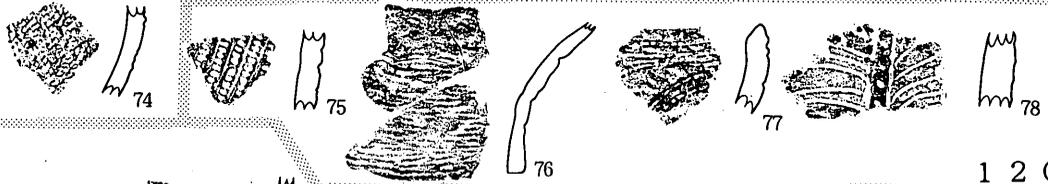
表採



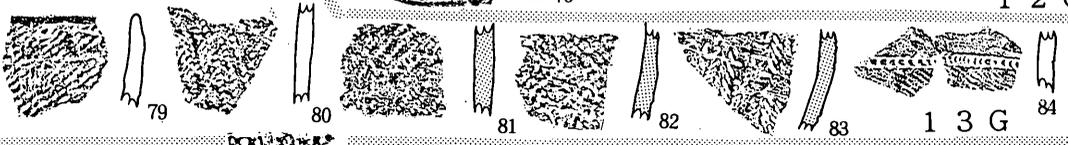
1 0 G



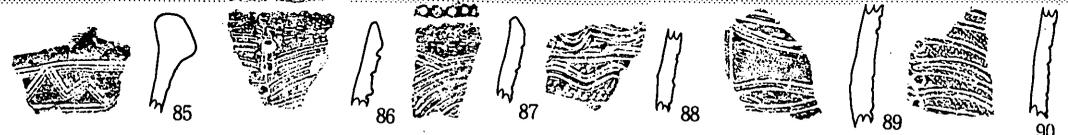
1 1 G



1 2 G



1 3 G



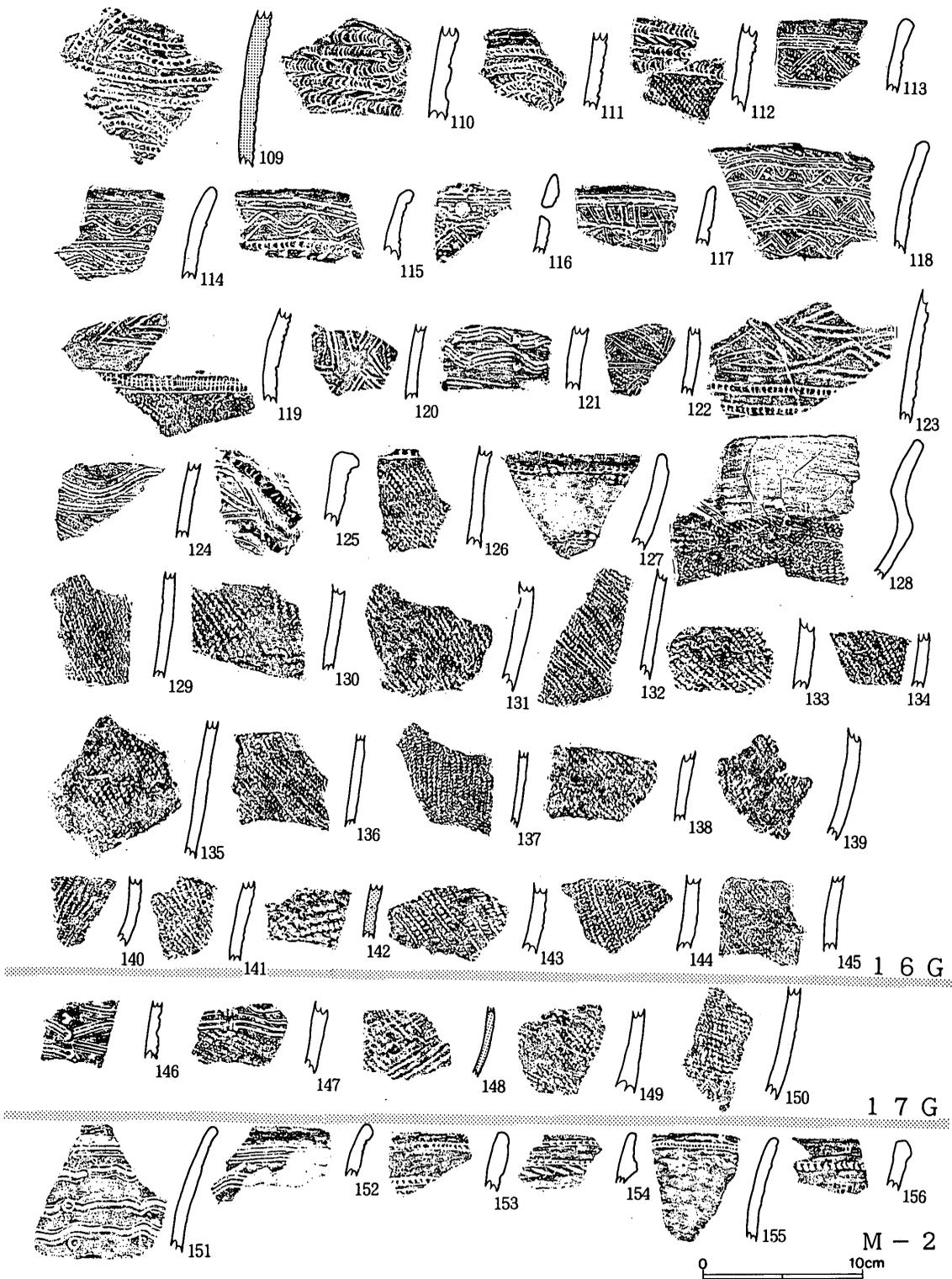
1 4 G



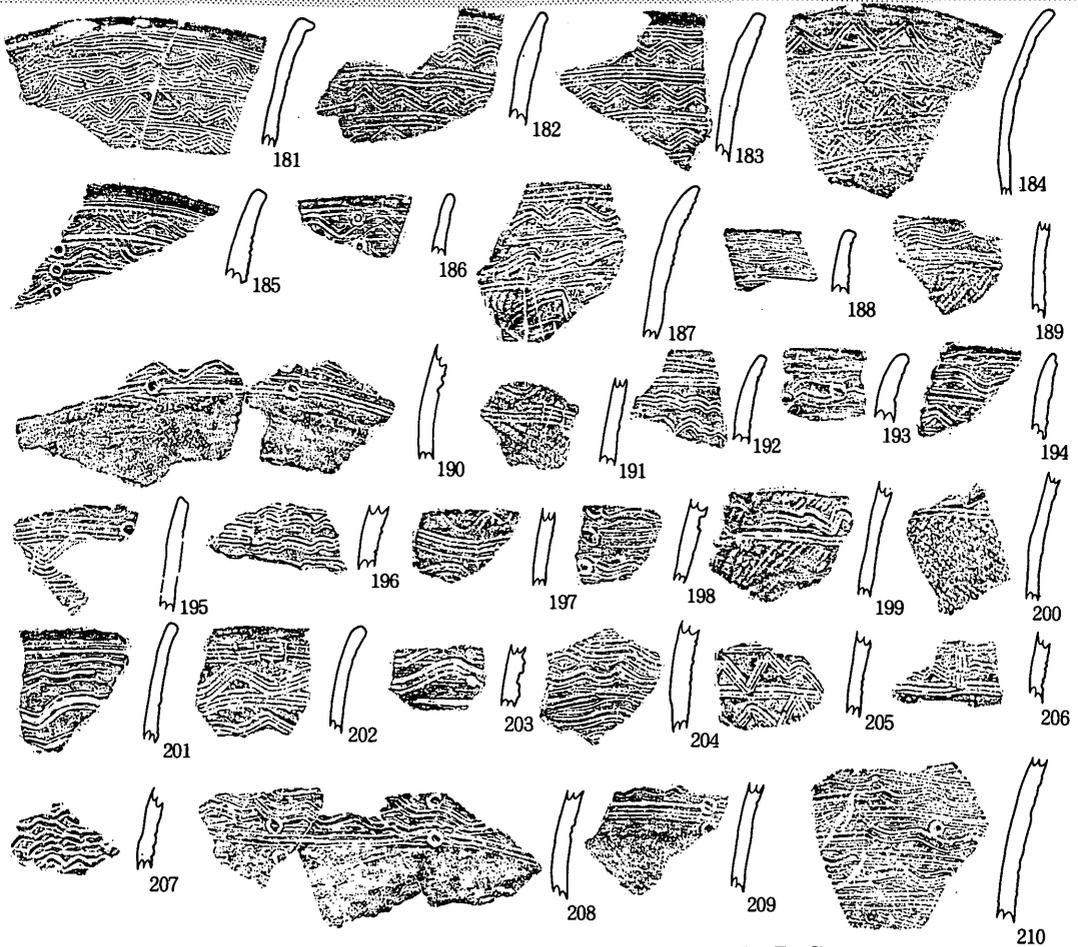
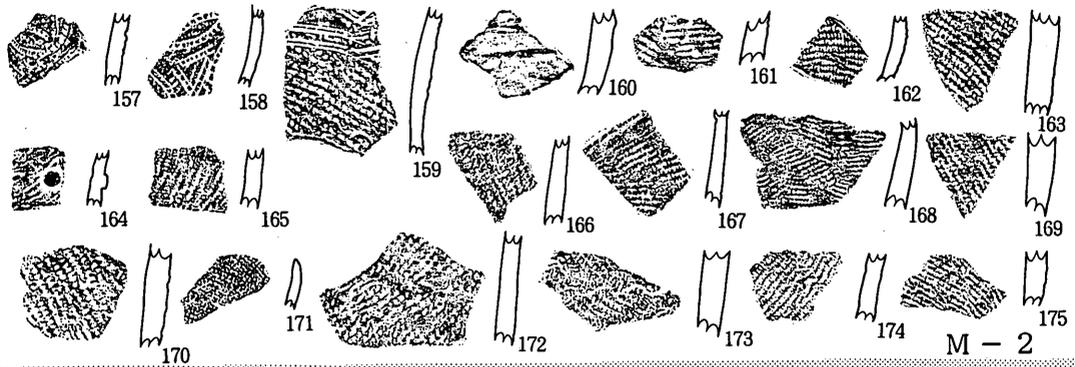
1 6 G

0 10cm

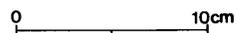
第146図 グリッド出土縄文前期土器 (1 : 4) < 2 >



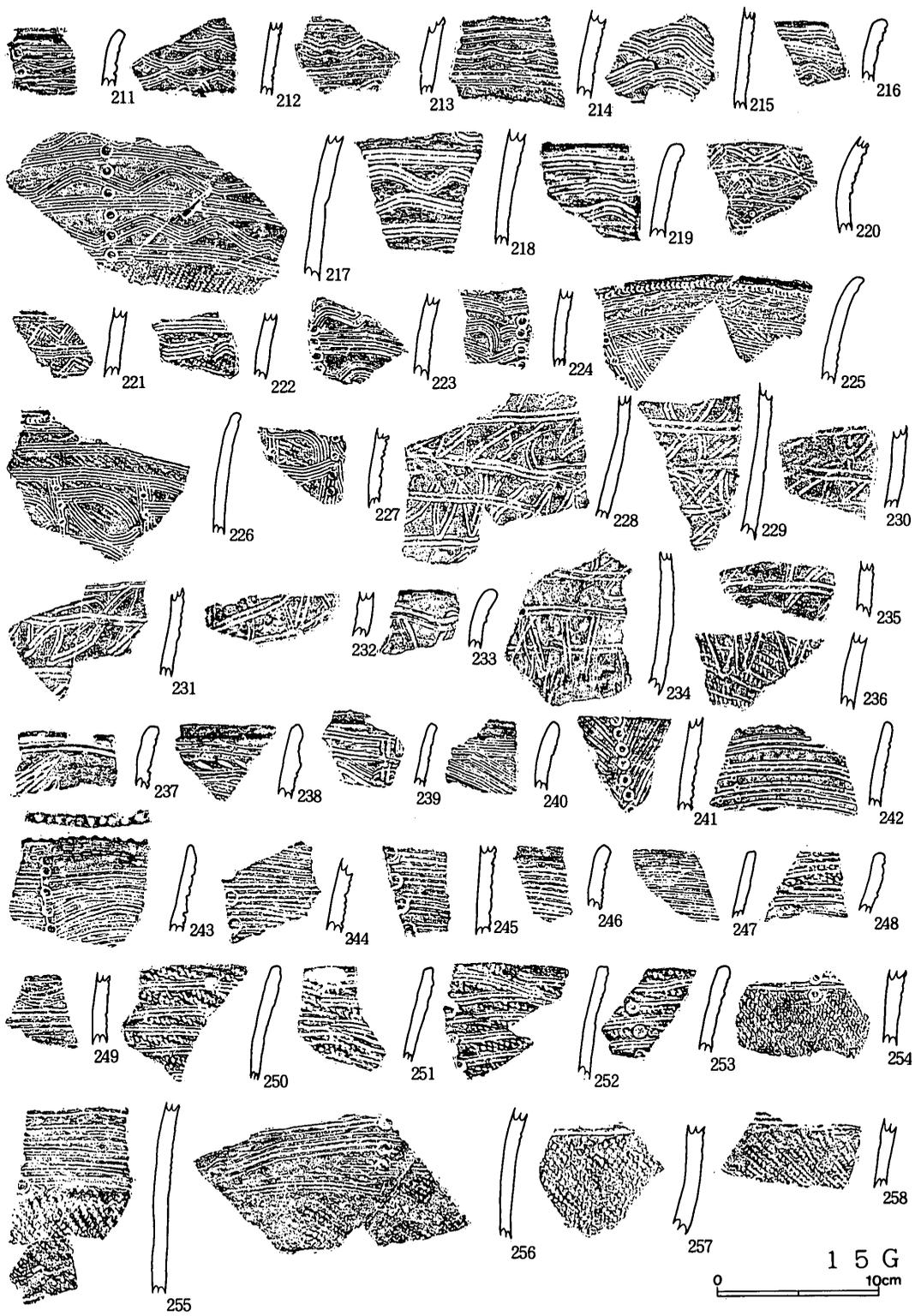
第147図 グリッド出土縄文前期土器 (1 : 4) < 3 >



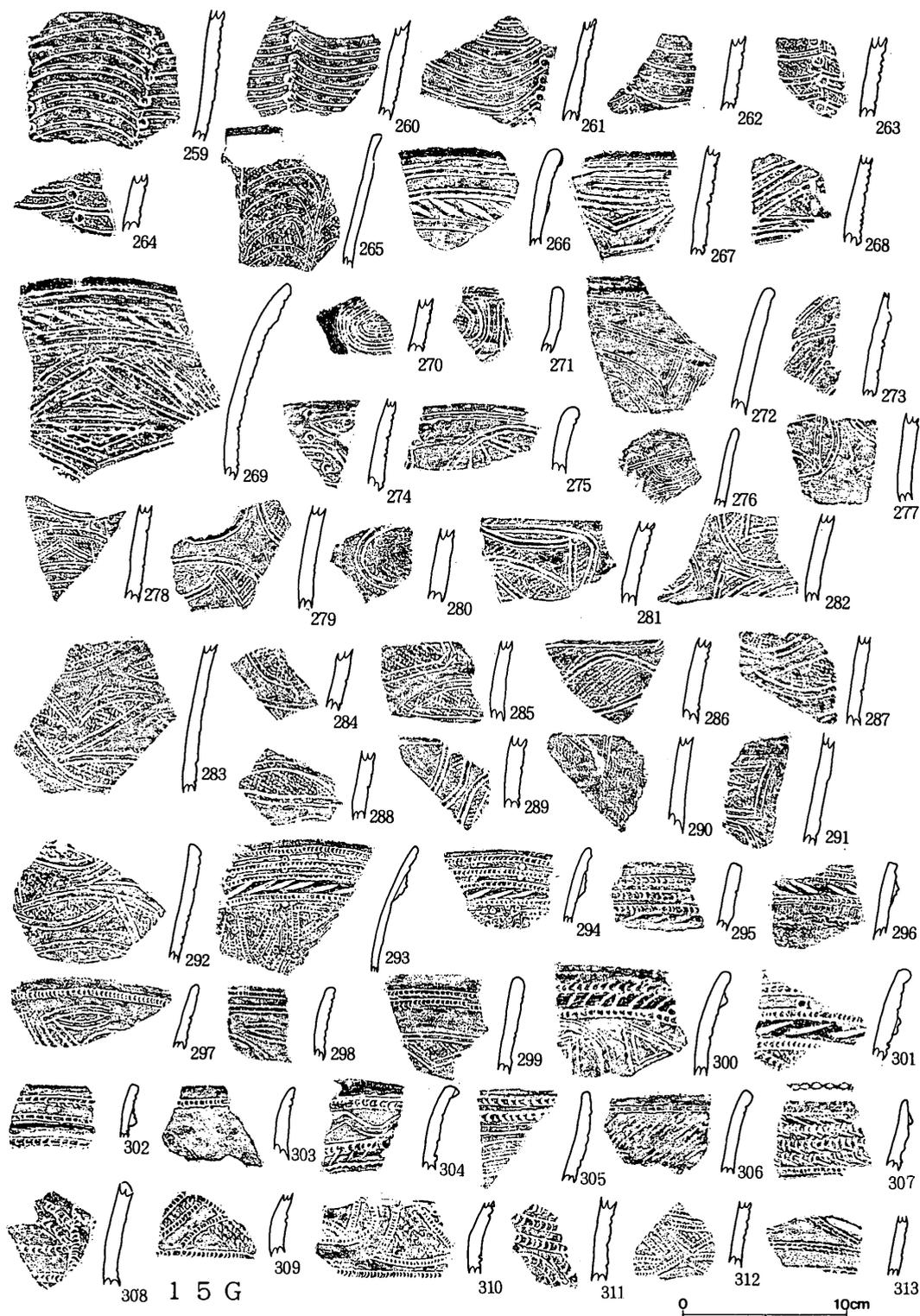
1 5 G



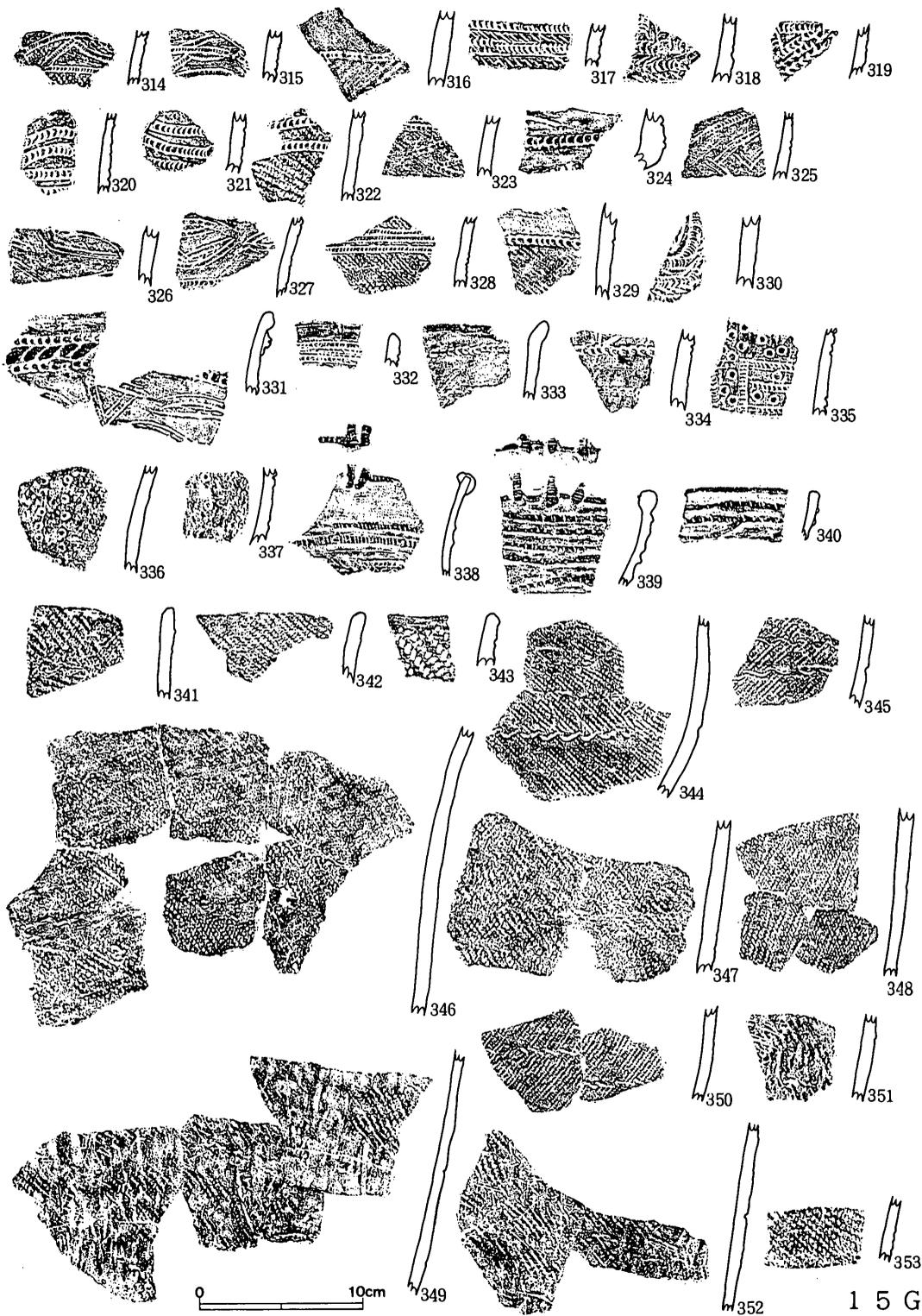
第148図 グリッド出土縄文前期土器 (1:4) <4>



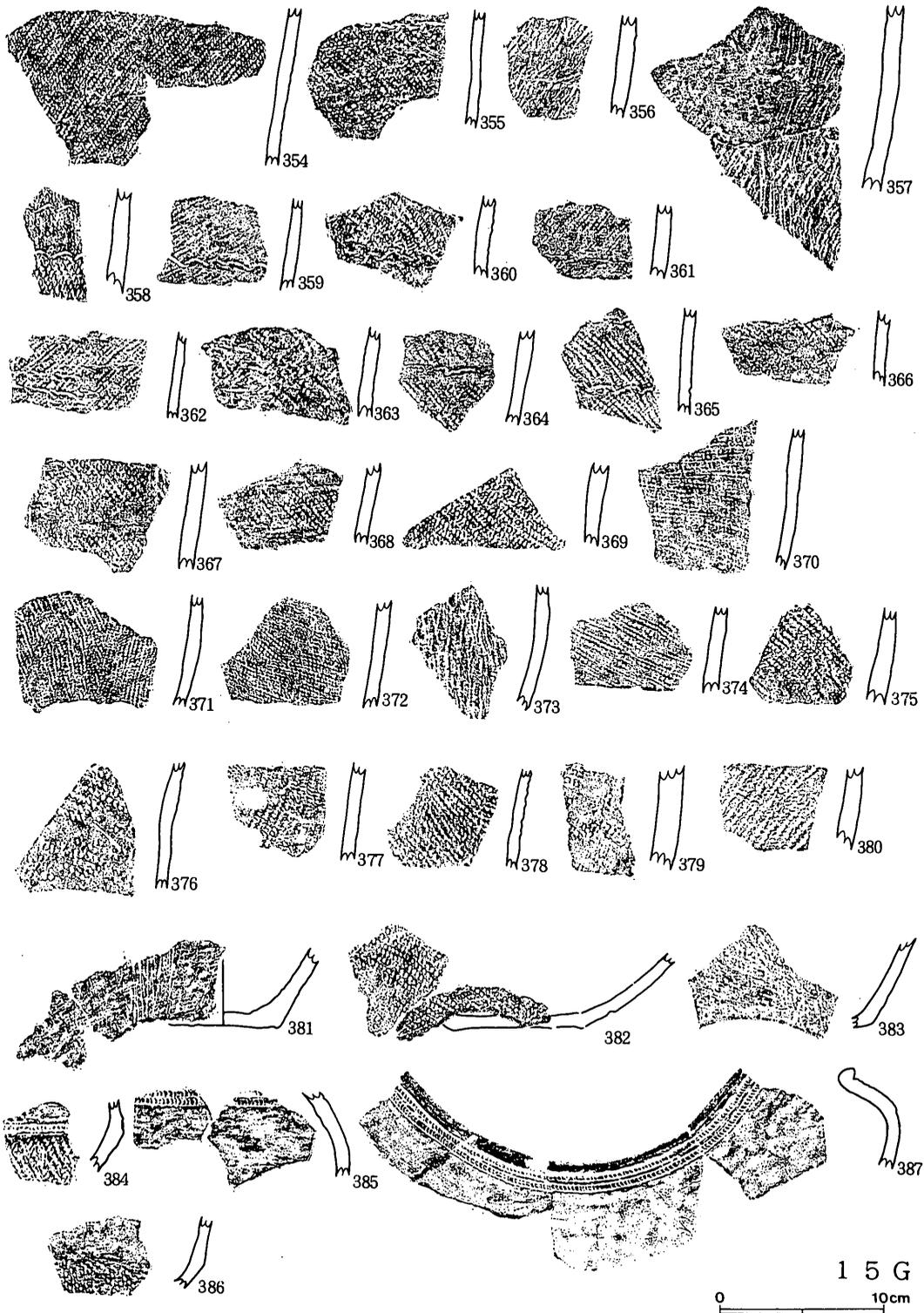
第149図 グリッド出土縄文前期土器 (1:4) <5>



第150図 グリッド出土縄文前期土器 (1:4) <6>



第151図 グリッド出土縄文前期土器 (1:4) <7>



第152図 グリッド出土縄文前期土器 (1:4) <8>

第121表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/1	す-11G	前期中葉 含繊維
2	深鉢	胴部	— — —	コンパス文。	不明。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 4/1	す-11G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
3	深鉢	胴部	— — —	組紐。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	す-11G	前期中葉 含繊維
4	深鉢	胴部	— — —	多段ループ文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	と-11G	前期中葉 含繊維 関山Ⅱ式
5	深鉢	胴部	— — —	多段ループ文。	ヨコ方向のナデ。指圧痕あり。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	し-11G Ⅲ区	前期中葉 含繊維 関山Ⅱ式
6	深鉢	胴部	— — —	爪形の連続刺突。縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい褐色 7.5YR 7/3	し-11G 埋壘 付近	前期中葉 含繊維 神ノ木式
7	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	多段ループ文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	褐灰色 10YR 4/1	せ-12G	前期中葉 含繊維 関山Ⅱ式
8	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文LR・RLの羽状構成。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	ち-12G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
9	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 7/4	せ-12G	前期中葉 含繊維
10	深鉢	胴部	— — —	縄文LR・RLの羽状構成。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	黒褐色 5YR 2/1	た-12G Ⅲ区	前期初頭 含繊維
11	深鉢	胴部	— — —	縄文LR・RLの羽状構成。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい褐色 5YR 6/3	つ-12G Ⅰ区	前期中葉 含繊維
12	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	褐灰色 10YR 4/1	す-12G	前期中葉 含繊維
13	深鉢	胴部	— — —	縄文RL・LRの羽状構成。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	黒褐色 10YR 3/1	た-12G Ⅲ区	前期中葉 含繊維
14	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ、ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 10YR 4/1	す-12G	前期中葉 含繊維
15	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/3	黒褐色 10YR 3/1	ち-13G Ⅰ区	前期中葉 含繊維
16	深鉢	胴部	— — —	組紐。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	と-13G	前期中葉 含繊維 関山Ⅱ式
17	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	正反の合。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 5/1	つ-10G Ⅱ区	前期中葉 含繊維 関山Ⅱ式
18	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文RL上に半截竹管状工具による沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 6/4	褐灰色 10YR 5/1	ち-14G Ⅲ区	前期中葉 含繊維 関山Ⅱ式
19	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向の擦痕状のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	褐灰色 10YR 5/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維

第122表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
20	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	タテ、ヨコ方 向の条痕。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	褐灰色 7.5YR 4/1	ち-14G Ⅲ区	前期中葉 含繊維
21	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
22	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
23	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 7/1	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
24	深鉢	胴部	— — —	細文LR・RLの菱形構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/3	黒褐色 10YR 3/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
25	深鉢	胴部	— — —	細文RL・LRの羽状構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
26	深鉢	胴部	— — —	細文RL・LRの菱形構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
27	深鉢	胴部	— — —	細文RL・LRの羽状構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅲ区	前期中葉 含繊維
28	深鉢	胴部	— — —	細文RL・LRの羽状構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅲ区	前期中葉 含繊維
29	深鉢	胴部	— — —	細文LR・RLの羽状構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
30	深鉢	胴部	— — —	細文RL・LRの羽状構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子	浅黄橙色 10YR 8/3	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅲ区	前期中葉 含繊維
31	深鉢	胴部	— — —	細文RL・LRの菱形構成。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	黒褐色 7.5YR 3/1	た-14G Ⅲ区	前期中葉 含繊維
32	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子	灰黄褐色 10YR 5/2	灰黄褐色 10YR 4/2	そ-16G Ⅳ区	前期中葉 含繊維
33	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	多段ループ文。 やや崩れている。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 10YR 4/1	き-17G	前期中葉 含繊維 関山Ⅱ式
34	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 4/1	き-17G	前期中葉 含繊維
35	深鉢	胴部	— — —	細文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色岩片	にぶい黄橙色 10YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	M-1	前期中葉 含繊維
36	深鉢	胴部	— — —	細文RL・LRの羽状構成。	不明。	白色岩片	にぶい黄橙色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	—	前期中葉 含繊維
37	深鉢	胴部	— — —	細文。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	—	にぶい黄橙色 10YR 7/4	褐灰色 10YR 4/1	M-1	前期中葉 含繊維
38	深鉢	胴部	— — —	細文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	M-2 Ⅴ区 1層	前期初頭～中葉 含繊維

第123表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向の雑 なナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	褐灰色 10YR 5/1	M-2 III区 I層	前期初頭～中葉 含繊維
40	深鉢	胴部	— — —	燃糸文L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	黒褐色 10YR 3/1	灰黄褐色 10YR 4/2	M-2 IV区 I層	前期初頭～ 含繊維
41	深鉢	胴部	— — —	燃糸文R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	M-2 V区 I層	前期初頭～ 含繊維
42	深鉢	胴部	— — —	燃糸文R。	不明。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	M-2 II区 I層	前期初頭～ 含繊維
43	深鉢	胴部	— — —	縄文RL・LRの羽状構成。	不明。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰黄褐色 10YR 6/2	M-2 I区 I層	前期初頭～中葉 含繊維
44	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	正反の合。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 10YR 4/1	M-3 I区	前期中葉 含繊維 関山II式
45	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色岩片	にぶい黄褐色 10YR 7/4	灰黄褐色 10YR 5/2	M-3 I区	前期初頭～中葉 含繊維
46	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	M-3 I区	前期初頭～中葉 含繊維
47	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	M-3 IV区	前期初頭～中葉 含繊維
48	深鉢	胴部	— — —	数条の横位沈線上に縄文。以下、縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	M-3 IV区	前期初頭
49	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	不明。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 4/1	M-4	前期初頭～中葉 含繊維
50	深鉢	胴部	— — —	縄文RL・LR。	ナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	M-4	前期
51	深鉢	胴部	— — —	口縁部下に横位隆帯。胴部縄文RL地文。 最後に全体に斜行する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	褐灰色 7.5YR 4/1	表探	前期初頭 含繊維 塚田式
52	深鉢	口縁 部	— — —	端部に刻み。縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/4	褐灰色 10YR 4/1	表探	前期初頭 含繊維 塚田式
53	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文RL・LRの構成。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 4/2	表探	前期中葉 含繊維
54	深鉢	胴部	— — —	縄文上に斜格子状の沈線。	ランダムなナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	表探	前期初頭～中葉 含繊維
55	深鉢	胴部	— — —	幾何学的沈線文下にループ文。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 10YR 4/1	表探	前期中葉 含繊維 関山II式
56	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/4	褐灰色 10YR 4/1	表探	前期中葉 含繊維
57	深鉢	胴部	— — —	縄文RL・LRの羽状構成。	雑なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	褐灰色 10YR 4/1	表探	前期初頭～中葉 含繊維

第124表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	表探	前期初頭~中葉 含繊維
59	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	橙色 7.5YR 6/6	表探	前期初頭 含繊維
60	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	表探	前期初頭~中葉 含繊維
61	深鉢	胴部	— — —	撚糸文L.	ヨコ方向の条 痕。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 5/6	明褐色 7.5YR 5/6	表探	前期初頭 含繊維
62	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	正反の合。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	つ-10G II区	前期中葉 含繊維 関山II式
63	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	組紐。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	褐灰色 10YR 4/1	つ-10G II区	前期中葉 含繊維 関山II式
64	深鉢	口縁 部	— — —	櫛歯状工具による横位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	す-11G	前期後葉
65	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-11G	前期後葉
66	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	し-11G	前期中葉 含繊維
67	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R・R.Lの羽状構成。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	て-11G I区	前期初頭~中葉 含繊維
68	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	す-11G IV区	前期後葉
69	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-11G	前期後葉
70	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	と-11G I区	前期後葉
71	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	す-11G	前期後葉
72	深鉢	胴部	— — —	縄文L.Rを末端処理。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	褐色 10YR 4/1	黒褐色 10YR 3/1	そ-11G III区	前期後葉
73	深鉢	胴部	— — —	撚糸文L.	タテ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 5/2	す-11G II区	前期後葉
74	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰黄褐色 10YR 6/2	す-11G	前期後葉
75	深鉢	胴部	— — —	沈線間に連続の刺突。	タテ方向のナ デ。	白色岩片	灰白色 10YR 8/1	黒褐色 10YR 3/1	す-12G	前期後葉
76	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナ デ。	透明粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	つ-12G I区	前期後葉

第125表 グリッド出土遺物一覧表 (縄文土器)

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
77	浅鉢	口縁 ～ 体部	— — —	細文R L上に口押文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 6/2	す-12G	前期後葉
78	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯と肋骨状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 7/1	褐灰色 10YR 6/1	す-12G	前期後葉
79	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	細文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 7/1	せ-13G	前期後葉
80	深鉢	胴部	— — —	細文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-13G Ⅲ区	前期後葉
81	深鉢	胴部	— — —	細文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	せ-13G	前期中葉 含繊維
82	深鉢	胴部	— — —	複節細文。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	褐灰色 10YR 4/1	ち-13G Ⅲ区	前期中葉 含繊維
83	深鉢	胴部	— — —	束の細文。	ヨコ方向の擦 痕状のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-13G Ⅲ区	前期中葉 含繊維 神ノ木式
84	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による爪形の連続刺突。以下細文 R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 7.5YR 3/2	灰褐色 7.5YR 4/2	た-13G Ⅲ区	前期後葉
85	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	歯状工具による横位の直線と山形文。突 起あり。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-14G Ⅳ区	前期後葉
86	深鉢	口縁 部	— — —	口唇部に押圧。以下横位の連続刺突、竹管 による円形刺突を起点とする肋骨文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 7/4	た-14G Ⅳ区	前期後葉 踏磯a式
87	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部に押圧。以下横位の連続刺突、半截 竹管による肋骨文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 4/3	た-14G Ⅲ区	前期後葉 踏磯a式
88	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による波状と直線の交互沈線。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/4	赤褐色 5YR 4/6	ち-14G Ⅲ区	前期後葉 踏磯a式
89	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文。文様内細文R L充 填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	ち-14G Ⅰ区	前期後葉 踏磯a式
90	深鉢	胴部	— — —	竹管状工具による円形刺突を起点とする肋 骨文上に細文R L。	斜 方 向 の ナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	ち-14G Ⅳ区	前期後葉 踏磯a式
91	浅鉢	口縁 部	— — —	半截竹管による横位の連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	ち-14G Ⅲ区	前期後葉
92	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による斜行する連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期後葉
93	浅鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位の連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-14G Ⅱ区	前期後葉
94	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による弧状と横位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 10YR 4/1	た-14G Ⅳ区	前期後葉 赤色塗彩
95	深鉢	胴部	— — —	細文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-14G Ⅰ区	前期後葉

第126表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
96	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	灰黄褐色 10YR 6/2	ち-14G Ⅲ区	前期後葉
97	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-14G Ⅰ区	前期後葉
98	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/2	た-14G Ⅱ区	前期後葉
99	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縄文地上に半載竹管による幾何学的文様。	ヨコ方向の擦痕状のナデ。	—	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-16G	前期中期 含繊維
100	深鉢	口縁 部	— — —	半載竹管による横位の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰黄褐色 10YR 6/2	た-16G Ⅲ区	前期後葉
101	深鉢	口縁 部	— — —	半載竹管による連続刺突と斜行する短い沈線を交互に施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-16G	前期後葉 踏碇b式
102	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による連続刺突と竹管による円形刺突を組み合わせた幾何学的文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 10YR 6/1	た-16Ⅱ区 ち-16Ⅰ区	前期後葉 踏碇b式
103	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による連続刺突と竹管による円形刺突を組み合わせた幾何学的文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	褐灰色 7.5YR 6/1	た-16G Ⅱ区	前期後葉 踏碇b式
104	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による連続刺突と竹管による円形刺突を組み合わせた幾何学的文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/2	た-16G Ⅱ区	前期後葉 踏碇b式
105	深鉢	胴部	— — —	半載竹管の連続刺突による文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	黒褐色 10YR 3/1	褐灰色 10YR 5/1	た-16G Ⅱ区	前期後葉 踏碇b式
106	深鉢	胴部	— — —	半載竹管の連続刺突による文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/3	明褐灰色 7.5YR 7/1	た-16G Ⅱ区	前期後葉 踏碇b式
107	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による連続刺突と斜行する短い沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	灰白色 10YR 7/1	た-16G Ⅱ区	前期後葉 踏碇b式
108	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による連続刺突の文様。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	た-16G Ⅰ区	前期後葉 踏碇b式
109	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による連続刺突の文様。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	た-16G Ⅰ区	前期後葉 含繊維 踏碇b式
110	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による蛇行する連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	た-16G Ⅰ区	前期後葉 踏碇b式
111	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による重弧状の連続刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-16G	前期後葉 踏碇b式
112	深鉢	胴部	— — —	半載竹管による横位の連続刺突と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	黒褐色 10YR 3/2	明赤褐色 5YR 5/6	た-16G Ⅰ区	前期後葉 踏碇b式
113	深鉢	口縁 部	— — —	縄文RL上に半載竹管による横位の直線と山形文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	そ-16G Ⅳ区	前期後葉
114	深鉢	口縁 部	— — —	半載竹管による横位の直線と波状の交互沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	そ-16G Ⅰ区	前期後葉

第127表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
115	深 鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位の直線と山形の沈線下に同工具の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	浅黄褐色 7.5YR 8/3	ち-16G	前期後葉
116	深 鉢	口縁部	— — —	細文R L上に半截竹管による横位の直線と山形沈線。焼成前の穿孔あり。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい赤褐色 5YR 5/3	そ-16G II区	前期後葉
117	深 鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位沈線施文後、縦位の短い沈線を組み合わせる。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	にふい黄褐色 10YR 7/4	そ-16G III区	前期後葉
118	深 鉢	口縁部	— — —	細文R L上に半截竹管による横位直線と鋸歯状文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 4/3	灰褐色 5YR 5/2	そ-16G IV区	前期後葉 踏碁a式
119	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による重菱形状沈線。横位の直線の沈線の上に連続の刻み。その後、細文R L。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	そ-16G III区	前期
120	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による沈線区画内に細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 6/2	た-16G III区	前期
121	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による波状沈線上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい黄褐色 10YR 6/4	そ-16G IV区	前期後葉
122	深 鉢	胴部	— — —	細文R L上に半截竹管による三角区画を基調とする沈線。	タテ方向のナデ。	角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 5/3	ち-16G I区	前期後葉
123	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による三角を基調とする入組木葉文。 以下半截竹管による横位連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	橙色 5YR 7/6	にふい黄褐色 10YR 7/2	そ-16G IV区	前期後葉
124	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位の波状と直線の沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 5/2	た-16G	前期後葉
125	深 鉢	口縁部	— — —	刻みを持つ斜位の波状隆帯下に半截竹管による文様。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 4/3	にふい赤褐色 5YR 5/4	そ-16G IV区	前期後葉
126	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位連続刺突下に細文R L。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-16G	前期後葉
127	浅 鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位連続刺突。	ヨコ方向の丁 壺なナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-16G	前期後葉
128	浅 鉢	口縁 ~ 体部	— — —	体部に細文R L。	ヨコ方向の丁 壺なナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 5/4	ち-16G I区	前期後葉
129	深 鉢	胴部	— — —	細文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	明赤褐色 5YR 5/6	そ-16G	前期後葉
130	深 鉢	胴部	— — —	細文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい黄褐色 10YR 7/4	そ-16G II区	前期後葉
131	深 鉢	胴部	— — —	細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	にふい黄褐色 10YR 7/4	ち-16G	前期後葉
132	深 鉢	胴部	— — —	細文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい黄褐色 10YR 7/4	た-16G III区	前期
133	深 鉢	胴部	— — —	細文R L。末端処理。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-16G	前期

第128表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押印 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
134	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	明褐色 7.5YR 5/6	にぶい黄橙色 10YR 6/4	た-16G I区	前期
135	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	橙色 7.5YR 6/6	そ-16G II区	前期
136	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	た-16G III区	前期
137	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/4	そ-16G IV区	前期後葉
138	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	そ-16G IV区	前期後葉
139	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-16G I区	前期後葉
140	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 5/6	にぶい褐色 7.5YR 5/3	ち-16G	前期後葉
141	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	ち-16G	前期後葉
142	深鉢	胴部	— — —	R.L・L.Rの菱形構成。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	褐灰色 10YR 5/1	ち-16G	前期中葉 含繊維
143	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-16G	前期後葉
144	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐色 7.5YR 4/3	そ-16G IV区	前期後葉
145	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-16G	前期後葉
146	深鉢	胴部	— — —	横位直線と波状沈線上に半截竹管による刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/3	褐色 7.5YR 4/3	た-17G	前期後葉
147	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による波状沈線上に同工具による刻み。以下縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	き-17G	前期後葉
148	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L・L.Rによる羽状構成。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	こ-17G	前期中葉 含繊維
149	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	た-14G III区	前期後葉
150	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	灰褐色 5YR 4/2	た-17G III区	前期後葉
151	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による波状沈線上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰黄褐色 10YR 5/2	M-2 IV区 1層	前期後葉
152	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部に隆帯。以下半截竹管による横位の直線および波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 4/3	褐灰色 10YR 4/1	M-2 III区 1層	前期後葉

第129表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
153	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位沈線上に同工具の連続 刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰黄褐色 10YR 4/2	M-2 V区 I層	前期後葉
154	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位沈線上に同工具の連続 刺突と刻みを持つ横位隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 5/1	M-2 V区	前期後葉
155	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部に半截竹管による横位沈線。その上に 連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/8	にぶい橙色 7.5YR 7/4	M-2 III区 I層	前期後葉
156	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部に隆帯。その下半截竹管による横位の 連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	M-2 IV区 I層	前期後葉
157	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による沈線上に連続刺突を施し、 幾何学的文様を構成。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	M-2 III区 I層	前期後葉
158	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による沈線上に連続刺突を施し、 幾何学的文様を構成。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい橙色 5YR 6/4	M-2 II区 I層	前期後葉
159	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による沈線文下に縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	M-2 III区 I層	前期後葉
160	浅 鉢	胴部	— — —	断面逆三角形の隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	M-2 IV区 I層	前期後葉
161	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	M-2 II区 I層	前期後葉
162	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	黒褐色 10YR 3/1	M-2 I区 I層	前期後葉
163	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	M-2 V区	前期後葉
164	深 鉢	胴部	— — —	集合沈線上に円形浮文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	M-2 IV区 I層	前期後葉 踏礎c式
165	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	M-2 IV区 I層	前期後葉
166	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	M-2 III区 I層	前期後葉
167	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR。	不明。	角閃石	灰白色 10YR 8/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	M-2 IV区 I層	前期後葉
168	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい黄褐色 10YR 7/4	M-2 III区 I層	前期後葉
169	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	M-2 V区 I層	前期後葉
170	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	M-2 IV区 I層	前期後葉
171	深 鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/1	褐灰色 10YR 6/1	M-2 I区 I層	前期後葉

第130表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
172	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	M-2 III区	前期後葉
173	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。末端処理。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	M-2 V区	前期後葉
174	深鉢	胴部	— — —	縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐灰色 10YR 4/1	M-2 II区 I層	前期後葉
175	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	M-2 II区 I層	前期後葉
176	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による斜行する集合沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/8	にぶい褐色 5YR 6/4	つ-13G II区	前期後葉 諸磯c式
177	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による刺突を持つ横位隆帯から、 隆帯と同工具の集合沈線が垂下。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 6/2	M-3 I区	前期後葉 諸磯c式
178	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による垂下沈線両わきに弧状の集 合沈線。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	褐色 7.5YR 4/3	褐灰色 7.5YR 4/1	M-3 III区	前期後葉 諸磯c式
179	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による斜行する集合沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 7.5YR 4/4	M-3 II区	前期後葉 諸磯c式
180	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	半截竹管による斜行する集合沈線。上げ底。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	褐色 7.5YR 6/8	にぶい褐色 7.5YR 7/3	M-3 IV区	前期後葉 諸磯c式
181	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の 交互施文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい褐色 7.5YR 7/3	た-15G II区	前期後葉 諸磯a式
182	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の 交互施文。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	黄褐色 7.5YR 7/8	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-15G II区	前期後葉 諸磯a式
183	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による横位の直線と波状沈線の 交互施文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 5/3	た-15G II区	前期後葉 諸磯a式
184	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による横位の直線と山形沈線の 交互施文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰黄褐色 10YR 6/2	た-15G I区	前期後葉 諸磯a式
185	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交 互施文の後竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にぶい赤褐色 5YR 5/3	ち-15G II区	前期後葉 諸磯a式
186	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位直線と波状沈線の交互 施文の後竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
187	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交 互施文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
188	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交 互施文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
189	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交 互施文。以下縄文L R。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 4/1	た-15G III区	前期後葉 諸磯a式
190	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交 互施文。その上に竹管による円形刺突。以 下縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	暗赤褐色 5YR 3/3	赤褐色 2.5YR 4/6	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式

第131表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
191	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による波状と簾状文。以下細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
192	深鉢	口縁部	— — —	歯状工具による横位直線と波状沈線の交互施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 7.5YR 3/1	橙色 5YR 6/6	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
193	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位直線と波状沈線の交互施文。竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	にぶい赤褐色 5YR 4/4	ち-15G Ⅱ区	前期後葉 踏碇a式
194	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位直線と波状沈線の交互施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
195	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位直線と波状沈線の交互施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
196	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	黒褐色 5YR 3/1	橙色 5YR 6/6	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
197	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位直線と波状沈線の交互施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
198	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と波状沈線の交互施文。その上に竹管の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 4/2	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
199	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に半截竹管による横位直線と波状沈線の交互施文。	タテ方向のナデ。	白色粒子	明褐色 7.5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
200	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位沈線と波状沈線の交互施文。その上に竹管による円形刺突。以下細文R L。	タテ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 踏碇a式
201	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
202	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	歯状工具による簾状沈線。以下同工具による直線と波状沈線の交互施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
203	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位の直線と波状沈線の交互施文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	明赤褐色 5YR 6/6	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
204	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位の波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	暗赤褐色 5YR 3/6	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 踏碇a式
205	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位直線と鋸歯状文。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 5/3	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
206	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位直線と波状沈線。その上に同工具による縦位の短い沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
207	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 5/3	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
208	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位直線と波状沈線。その上に竹管の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	極暗赤褐色 5YR 2/3	暗赤褐色 5YR 3/6	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 踏碇a式
209	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による横位直線と波状沈線。その上に竹管の円形刺突。以下細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	ち-15G Ⅱ区	前期後葉 踏碇a式

第132表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押印 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
210	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と波状沈線の交互施文。その上に竹管による円形刺突。以下縄文R L。	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-15G III区	前期後葉 諸磯a式
211	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位直線と波状沈線の交互施文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	浅黄橙色 10YR 8/4	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
212	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による背海波状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄橙色 10YR 5/3	にぶい黄橙色 10YR 5/3	た-15G III区	前期後葉 諸磯a式
213	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交互施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	明赤褐色 2.5YR 5/6	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
214	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交互施文。以下縄文R L。	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	にぶい黄橙色 10YR 7/4	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
215	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位沈線。以下縄文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 4/1	た-15G III区	前期後葉 諸磯a式
216	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	ち-15G III区	前期後葉 諸磯a式
217	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線の交互施文。その上に竹管の円形刺突。以下縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	た-15G III区	前期後葉 諸磯a式
218	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位沈線の交互施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	ち-15G III区	前期後葉 諸磯a式
219	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線。波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 5/3	た-15G II区	前期後葉 諸磯a式
220	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と山形沈線の交互施文。その上に竹管による円形刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい褐色 7.5YR 5/4	た-15G I区	前期後葉 諸磯a式
221	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と山形沈線の交互施文。地文縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	暗褐色 7.5YR 3/3	た-15G III区	前期後葉 諸磯a式
222	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位直線と波状沈線。以下縄文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	浅黄橙色 10YR 8/4	た-15G II区	前期後葉 諸磯a式
223	深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による横位沈線と波状沈線。その上に竹管による円形刺突。	タテ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	た-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
224	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による木葉文。その上に竹管による円形刺突。	タテ方向のナデ。	角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい褐色 7.5YR 5/3	た-15G II区	前期後葉 諸磯a式
225	深鉢	口縁部	— — —	端部に櫛歯状工具による横位連続刺突。以下縄文R L上にある同工具の木葉文を円形刺突が切る。さらに一部縄文押圧。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
226	深鉢	口縁部	— — —	225同一。縦位沈線・円形刺突間に木葉文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	た-15G II区	前期後葉 諸磯a式
227	深鉢	口縁部	— — —	225・226と同一。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
228	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 4/2	ち-15G III区	前期後葉 諸磯a式

第133表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
229	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。228と同一。	不明。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にふい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
230	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。228・229と同一。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	褐色 7.5YR 4/3	た-15G Ⅱ区	前期後葉 踏碇a式
231	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。228-230と同一。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	褐灰色 7.5YR 4/1	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
232	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。228-231と同一。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	にふい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
233	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。228-232と同一。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 4/2	た-15G Ⅰ区	前期後葉 踏碇a式
234	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。228-233と同一。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にふい黄褐色 10YR 5/3	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
235	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位直線と鋸歯状文。228-234と同一。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	ち-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
236	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に鋸歯状文。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい褐色 7.5YR 6/3	そ-15G Ⅱ区	前期後葉 踏碇a式
237	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位沈線下に斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 6/4	褐色 10YR 5/1	ち-15G Ⅳ区	前期後葉
238	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位沈線間に縄文地文の刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	にふい褐色 7.5YR 6/4	た-15G Ⅲ区	前期後葉
239	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による肋骨文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 5/3	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
240	深鉢	口縁部 ～ 胴部	— — —	半截竹管による肋骨文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にふい褐色 7.5YR 5/3	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
241	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文間に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/6	にふい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
242	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による肋骨文上に竹管の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にふい黄褐色 10YR 6/3	褐灰色 10YR 4/1	つ-15G	前期後葉 踏碇a式
243	深鉢	口縁部	— — —	端部に刻み。半截竹管による肋骨文上に同工具の縦位沈線と円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 4/2	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式
244	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による肋骨文上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G	前期後葉 踏碇a式
245	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による肋骨文上に同工具による縦位沈線と竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/4	にふい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 踏碇a式
246	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による肋骨文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	た-15G Ⅲ区	前期後葉 踏碇a式
247	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による肋骨文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	にふい褐色 7.5YR 6/4	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏碇a式

第134表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押印 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
248	深鉢	口縁部	— — —	縄文R L上に半截竹管による肋骨文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
249	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文。地文縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-15G III区	前期後葉 諸磯a式
250	深鉢	口縁部	— — —	縄文R L上に半截竹管による肋骨文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-15G III区	前期後葉 諸磯a式
251	深鉢	口縁部	— — —	縄文R L上に半截竹管による肋骨文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
252	深鉢	口縁部	— — —	縄文L R上に半截竹管による肋骨文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 6/4	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
253	深鉢	口縁部	— — —	縄文R L上に半截竹管による肋骨文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
254	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文上に竹管による円形刺突。その後、縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
255	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文上に竹管による円形刺突。縄文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
256	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文上に竹管による円形刺突。縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/2	明赤褐色 2.5YR 5/6	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
257	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位沈線。その後、縄文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
258	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位沈線。その後、縄文R L。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G II区	前期後葉 諸磯a式
259	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文間に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
260	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文間に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	ち-15G II区	前期後葉 諸磯a式
261	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文間に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	ち-15G II区	前期後葉 諸磯a式
262	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による肋骨文間に竹管による円形刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	にぶい黄褐色 10YR 4/3	ち-15G	前期後葉 諸磯a式
263	深鉢	胴部	— — —	縄文R L上に半截竹管による肋骨文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G III区	前期後葉 諸磯a式
264	深鉢	胴部	— — —	縄文R L上に半截竹管による肋骨文。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 4/2	ち-15G IV区	前期後葉 諸磯a式
265	深鉢	口縁部 — 胴部	— — —	縄文R L上の半截竹管による肋骨文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	ち-15G I区	前期後葉 諸磯a式
266	深鉢	口縁部	— — —	刻みを持つ横位隆帯上下に半截竹管による横位直線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G IV区	前期後葉

第135表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
267	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位と逆三角状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	灰黄褐色 10YR 5/2	た-15G II区	前期後葉
268	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による重三角状の沈線内に刺突。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 5YR 5/2	た-15G II区	前期後葉
269	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	刻みを持つ横位隆帯上下に半截竹管による横位沈線。以下三角区画を意識した菱形肋骨文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい黄褐色 10YR 6/4	た-15G II区	前期後葉 踏礎a式
270	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による集合曲線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 6/3	ち-15G II区	前期後葉
271	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による集合曲線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にふい黄褐色 10YR 7/4	にふい黄褐色 10YR 6/3	ち-15G IV区	前期後葉
272	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 6/1	ち-15G I区	前期後葉 踏礎a式
273	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	にふい褐色 7.5YR 5/3	た-15G II区	前期後葉 踏礎a式
274	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内外に半截竹管の組み合わせによる円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/4	にふい褐色 7.5YR 6/4	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎a式
275	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位直線下に入組木葉文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G III区	前期後葉 踏礎a式
276	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文。	不明。	角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	灰黄褐色 10YR 4/2	ち-15G I区	前期後葉 踏礎a式
277	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 4/3	灰黄褐色 10YR 4/2	た-15G III区	前期後葉 踏礎a式
278	深 鉢	胴部	— — —	縄文R L上に半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にふい黄褐色 10YR 5/3	にふい黄褐色 10YR 6/4	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎a式
279	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G II区	前期後葉 踏礎a式
280	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	灰褐色 5YR 5/2	せ-15G III区	前期後葉 踏礎a式
281	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に縄文L R。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 6/3	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G II区	前期後葉 踏礎a式
282	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 5/3	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G I区	前期後葉 踏礎a式
283	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に縄文R L。	斜方向のナ デ。	黒雲母	にふい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 4/2	た-15G II区	前期後葉 踏礎a式
284	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に縄文R L。	斜方向のナ デ。	角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にふい黄褐色 10YR 6/3	た-15G II区	前期後葉 踏礎a式
285	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	褐灰色 7.5YR 4/3	にふい褐色 7.5YR 5/3	た-15G II区	前期後葉 踏礎a式

第136表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押印 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
286	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 4/1	た-15G Ⅲ区	前期後葉 諸磯a式
287	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に細文RL。	タテ方向のナデ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/4	橙色 7.5YR 6/6	た-15G Ⅱ区	前期後葉 諸磯a式
288	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	褐色 7.5YR 4/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	た-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
289	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文内に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	褐灰色 10YR 5/1	た-15G Ⅲ区	前期後葉 諸磯a式
290	深鉢	胴部	— — —	細文RLと半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	橙色 7.5YR 7/6	灰白色 10YR 7/1	た-15G Ⅱ区	前期後葉 諸磯a式
291	深鉢	胴部	— — —	細文RL上に半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	赤褐色 5YR 4/6	褐灰色 10YR 4/1	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
292	深鉢	胴部	— — —	焼成前の穿孔。半截竹管による入組木葉文に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/3	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
293	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	刻みを持つ隆帯上下に半截竹管による横位連続刺突。以下逆三角を基本とする連続刺突。全体に竹管による2個一組の円形刺突。	上ヨコ、下タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	明赤褐色 5YR 5/6	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
294	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	293と同じ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	明赤褐色 5YR 5/6	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
295	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位直線内に同工具の連続刺突。その下に刻みを持つ横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 4/3	た-15G Ⅱ区	前期後葉 諸磯a式
296	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	刻みを持つ隆帯上下に半截竹管による連続刺突。以下細文LRの押圧。	タテ方向のナデ。	—	にぶい赤褐色 5YR 5/3	橙色 7.5YR 7/6	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
297	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位直線内に連続刺突。以下同工具による入組木葉文。地文は細文。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
298	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	半截竹管による横位直線内に連続刺突。以下同工具による入組木葉文。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 諸磯a式
299	深鉢	口縁 部	— — —	半截竹管による横位直線内に連続刺突。以下同工具による入組木葉文内に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	た-15G Ⅱ区	前期後葉 諸磯a式
300	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	刻みを持つ隆帯上下に半截竹管による連続刺突。以下同工具による入組木葉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
301	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	刻みを持つ横位隆帯上下に半截竹管による横位連続刺突。その上に竹管による円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	た-15G Ⅰ区	前期後葉 諸磯a式
302	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位隆帯上下に半截竹管による横位沈線。その上に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 5/2	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 諸磯a式
303	深鉢	口縁 部	— — —	半截竹管による横位沈線上に同工具による連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	ち-15G Ⅱ区	前期後葉 諸磯a式
304	深鉢	口縁 部	— — —	半截竹管による横位沈線上に同工具による連続刺突。その間に半截竹管による波状沈線、斜行する刻みなど。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 6/2	た-15G Ⅲ区	前期後葉 諸磯a式

第137表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
305	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による多条の横位沈線。上位2条には連続刺突附加。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	た-15G II区	前期後葉 踏礎b式
306	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による連続刺突下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰褐色 5YR 4/2	明赤褐色 5YR 5/6	ち-15G II区	前期後葉 踏礎b式
307	深鉢	口縁部	— — —	口縁部に刻み。半截竹管による多段の横位連続刺突。その上に斜行する刻み。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 5/2	明褐色 7.5YR 5/6	ち-15G III区	前期後葉 踏礎b式
308	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線上に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	そ-15G III区	前期後葉 踏礎b式
309	深鉢	口縁部	— — —	一部縄文RL上に半截竹管による沈線。その上に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	褐灰色 10YR 4/1	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎b式
310	深鉢	口縁部	— — —	縄文RLを半截竹管による沈線・連続刺突で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎b式
311	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線上に連続刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	明赤褐色 5YR 5/6	た-15G IV区	前期後葉 踏礎b式
312	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線上に連続刺突。三角を基調として文様構成。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G I区	前期後葉 踏礎b式
313	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線による沈線上に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	浅黄褐色 10YR 8/3	た-15G III区	前期後葉 踏礎b式
314	深鉢	口縁部	— — —	縄文RL上に半截竹管による沈線・連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 5/3	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎b式
315	深鉢	口縁部	— — —	縄文上に半截竹管による沈線・連続刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G I区	前期後葉 踏礎b式
316	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線・連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 6/4	ち-15G II区	前期後葉
317	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位沈線・連続刺突間に斜行する連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 10YR 3/3	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G I区	前期後葉 踏礎b式
318	深鉢	口縁部	— — —	隆帯および隆帯下に半截竹管による沈線。連続刺突。	タテ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	明赤褐色 5YR 5/6	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎b式
319	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による逆三角状の沈線・連続刺突。	タテ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 5YR 5/2	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎b式
320	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線・連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	明赤褐色 5YR 5/6	ち-15G IV区	前期後葉 踏礎b式
321	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線・連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	褐灰色 10YR 4/1	た-15G III区	前期後葉 踏礎b式
322	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による沈線・連続刺突。縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 4/1	た-15G III区	前期後葉 踏礎b式
323	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線・連続刺突。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	せ-15G II区	前期後葉 踏礎b式

第138表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
324	浅鉢	口縁部	— — —	半截竹管による沈線・連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/3	灰褐色 7.5YR 4/2	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏礎b式
325	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	明赤褐色 5YR 5/6	た-15G Ⅲ区	前期後葉 踏礎a式
326	深鉢	口縁部	— — —	縄文R L上に半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にふい黄褐色 10YR 5/3	た-15G Ⅱ区	前期後葉 踏礎a式
327	深鉢	胴部	— — —	縄文L R上に半截竹管による入組木葉文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	暗褐色 7.5YR 3/4	にふい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 踏礎a式
328	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による4条の横位沈線・連続刺突。 その後、縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	褐灰色 10YR 6/1	ち-15G Ⅰ区	前期後葉 踏礎a式
329	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位連続刺突と縄文R L。	タテ方向のナデ。	黒雲母	にふい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 5YR 4/2	た-15G Ⅲ区	前期後葉 踏礎a式
330	深鉢	胴部	— — —	半截竹管による弧状沈線。連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 乳白色岩片	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 7.5YR 6/6	た-15G Ⅱ区	前期後葉 踏礎b式
331	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	刻みを持つ横位隆帯上下に半截竹管による 連続刺突。以下、入組木葉文、三角形の半 截竹管による連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい褐色 7.5YR 5/3	ち-15G Ⅳ区	前期後葉 踏礎a式
332	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位沈線・連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/4	にふい褐色 7.5YR 5/4	ち-15G Ⅳ区	前期後葉
333	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	にふい褐色 7.5YR 6/4	ち-15G Ⅲ区	前期後葉
334	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による横位連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	褐色 7.5YR 6/6	ち-15G Ⅲ区	前期後葉
335	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管による矩形区画の沈線・連続刺突 内外に竹管による円形刺突。	タテ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	た-15G Ⅳ区	前期後葉 踏礎b式
336	深鉢	胴部	— — —	縄文L R上に竹管による円形刺突と半截竹 管による沈線。	タテ方向のナデ。	角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	褐色 7.5YR 7/6	ち-15G Ⅳ区	前期後葉
337	深鉢	胴部	— — —	336と同一。	タテ方向のナデ。	角閃石	にふい黄褐色 10YR 6/4	にふい黄褐色 10YR 5/4	ち-15G Ⅰ区	前期後葉
338	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口唇部に2本一組の隆帯貼付の突起。刻み を持つ2条の横位隆帯。以下、半截竹管に よる沈線・連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	乳白色岩片	赤色 10YR 5/6	にふい褐色 7.5YR 6/3	ち-15G Ⅰ区	赤色塗彩 前期後葉 北白川下層Ⅱc式
339	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口唇部に刻みを持つ隆帯貼付の突起。数条 の刻みを持つ横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	乳白色岩片	にふい黄褐色 10YR 7/2	褐灰色 10YR 4/1	ち-15G Ⅰ区	赤色塗彩 前期後葉 北白川下層Ⅱc式
340	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	数条の刻みを持つ横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	乳白色岩片	にふい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 4/1	た-15G Ⅲ区	赤色塗彩 前期後葉 北白川下層Ⅱc式
341	深鉢	口縁部	— — —	縄文R L。末端処理。	ヨコ方向の雑 なナデ。	黒雲母 乳白色岩片	灰黄褐色 10YR 4/2	にふい褐色 7.5YR 5/4	た-15G	前期後葉
342	深鉢	口縁部	— — —	縄文R L。	タテ、ヨコ方 向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	にふい黄褐色 10YR 7/4	た-15G Ⅲ区	前期後葉 含纖維

第139表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

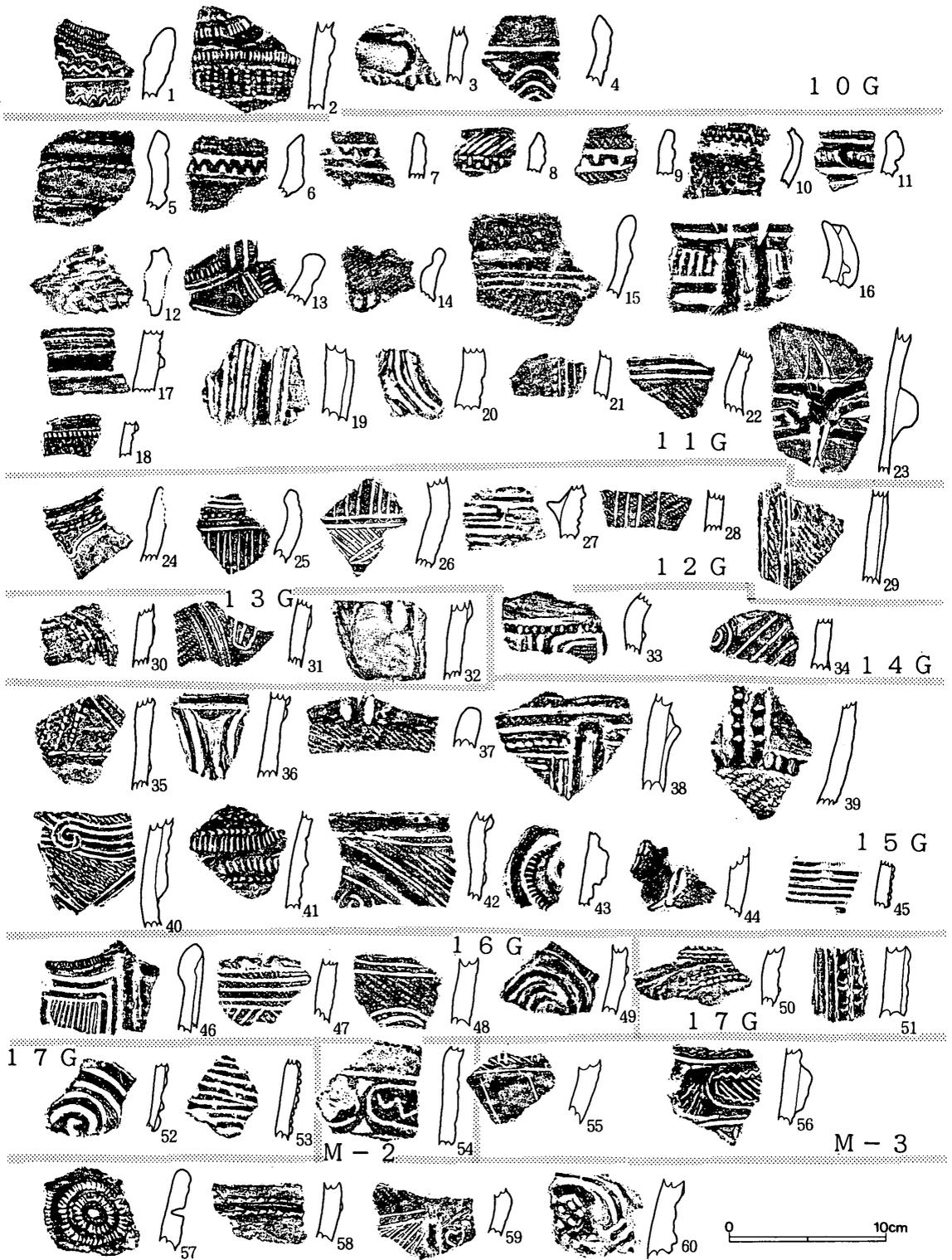
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
343	深鉢	口縁部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	褐色 7.5YR 4/4	ち-15G I区	前期後葉
344	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L. 末端処理。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	灰褐色 7.5YR 4/2	ち-15G I区	前期後葉
345	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R. 末端処理。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G IV区	前期後葉
346	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	ち-15G II区 No.2	前期後葉
347	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G I区	前期後葉
348	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	た-15G III区	前期後葉
349	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ、ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G I区	前期後葉
350	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R. 末端処理。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 10YR 4/1	ち-15G IV区	前期後葉
351	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G IV区	前期後葉
352	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	褐灰色 10YR 5/1	ち-15G IV区	前期後葉
353	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	ち-15G I区	前期後葉
354	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	た-15G III区	前期後葉
355	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L. 末端処理。	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	た-15G IV区	前期後葉
356	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R. 末端処理。	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G IV区	前期後葉
357	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G III区	前期後葉
358	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L. 末端処理。	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 6/2	ち-15G I区	前期後葉
359	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R. 末端処理。	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	た-15G II区	前期後葉
360	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L. 末端処理。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	褐灰色 10YR 4/1	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G I区	前期後葉
361	深鉢	胴部	— — —	縄文L.R. 末端処理。	タテ方向のナデ。	角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい褐色 7.5YR 5/3	た-15G III区	前期後葉

第140表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
362	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。末端処理。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	浅黄褐色 10YR 8/3	た-15G Ⅲ区	前期後葉
363	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 乳白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	た-15G Ⅲ区	前期後葉
364	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。末端処理。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	た-15G Ⅱ区	前期後葉
365	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。末端処理。	タテ方向のナ デ。	角閃石	褐色 7.5YR 4/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	た-15G Ⅱ区	前期後葉
366	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	角閃石	灰褐色 5YR 4/2	明赤褐色 2.5YR 5/6	ち-15G Ⅰ区	前期後葉
367	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰黄褐色 10YR 5/2	た-15G Ⅳ区	前期後葉
368	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G Ⅲ区	前期後葉
369	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	褐灰色 10YR 4/1	た-15G Ⅰ区	前期後葉
370	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	橙色 5YR 6/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	た-15G Ⅱ区	前期後葉
371	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/3	た-15G Ⅱ区	前期後葉
372	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G Ⅰ区	前期後葉
373	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	褐色 7.5YR 4/4	ち-15G Ⅱ区	前期後葉
374	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	にぶい褐色 7.5YR 6/4	た-15G Ⅱ区	前期後葉
375	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	た-15G Ⅲ区	前期後葉
376	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	た-15G Ⅲ区	前期後葉
377	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	タテ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 5YR 6/4	褐色 7.5YR 5/3	た-15G Ⅱ区	前期後葉
378	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	斜 方 向 の ナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	た-15G Ⅰ区	前期後葉
379	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	褐色 5YR 6/6	た-15G Ⅲ区	前期後葉
380	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	褐色 7.5YR 6/6	た-15G Ⅲ区	前期後葉

第141表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
381	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	櫛歯状工具による垂下する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-15G II区 No.1	前期後葉
382	浅 鉢	体部 ～ 底部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G III区	前期後葉
383	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	縄文R L。	タテ、ヨコ方 向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	明赤褐色 5YR 5/6	ち-15G	前期後葉
384	深 鉢	胴部	— — —	半截竹管による横位沈線。連続刺突。縄文 R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	褐灰色 10YR 4/1	ち-15G II区	前期後葉
385	浅 鉢	体部	— — —	口縁端部下に2条の半截竹管による横位沈 線・連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	ち-15G I区	前期後葉
386	浅 鉢	口縁 ～ 体部	— — —	口縁端部下に2条の半截竹管による横位沈 線・連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	橙色 5YR 6/6	灰黄褐色 10YR 5/2	ち-15G I区	前期後葉
387	浅 鉢	体部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	明赤褐色 5YR 5/6	ち-15G III区	前期後葉



表採

第153図 グリッド出土縄文中期前葉～中葉土器 (1:4) <I>

第142表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。端部2条の押引文。以下2条の横位連続山形文と直線文。胴部上位は波状文。内面1条の直線文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい 橙色 5YR 6/4	つ-10G I区	中期前葉~中葉
2	深鉢	胴部	— — —	弧状隆帯内にキャタピラ状の連続刺突。横位隆帯下にも同様の連続刺突。以下半月状の縦位連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	つ-10G	中期前葉~中葉
3	深鉢	胴部	— — —	粘土紐を押し寄せた突起下に連続の横位押圧。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	つ-10G I区	中期前葉~中葉
4	深鉢	口縁部	— — —	横位沈線下に波状沈線と三叉文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 5/2	つ-10G IV区	中期前葉~中葉
5	深鉢	口縁部	— — —	椀区画の押引文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 乳白色岩片	にぶい赤褐色 5YR 5/3	褐灰色 10YR 5/1	た-11G II区	中期前葉~中葉
6	深鉢	口縁部	— — —	横位連続刺突と沈線間に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-11G II区	中期前葉~中葉
7	深鉢	口縁部	— — —	交互刺突下に横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	す-11G	中期前葉~中葉
8	深鉢	口縁部	— — —	斜行沈線下の横位沈線間に交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	す-11G I区	中期前葉~中葉
9	深鉢	口縁部	— — —	横位沈線間に交互刺突。その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい 橙色 5YR 6/4	す-11G I区	中期前葉~中葉
10	浅鉢	口縁部	— — —	端部に連続刺突。	不明。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰黄褐色 10YR 6/2	す-11G	中期前葉~中葉
11	深鉢	口縁部	— — —	横位沈線間に椀区画隆帯。その中に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	す-11G IV区	中期前葉~中葉
12	深鉢	口縁部	— — —	2条の横位隆帯下に円孔。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	す-11G II区	中期前葉~中葉
13	深鉢	口縁部	— — —	山形突起上に沈線。突起に沿う連続刺突と沈線。頂部下に三叉文。以下横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 7.5YR 4/2	褐灰色 10YR 5/1	ち-11G I区	中期前葉~中葉
14	深鉢	口縁部	— — —	2個の山形突起下に連続の押圧。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石 多	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	す-11G	中期前葉~中葉
15	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に太い横位沈線。以下、横位隆帯、3条の細い沈線。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 5YR 6/4	にぶい 橙色 5YR 6/4	た-11G II区	中期前葉~中葉
16	深鉢	口縁部	— — —	口縁部横位隆帯間に2本の隆帯をわたす。また隆帯間に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい 橙色 5YR 6/4	す-11G I区	中期前葉~中葉
17	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯の上に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい 橙色 5YR 6/4	す-11G I区	中期前葉~中葉
18	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯上下に並走する押引文。以下斜行する押引文。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	橙色 5YR 6/6	にぶい 橙色 5YR 6/4	す-11G I区	中期前葉~中葉
19	深鉢	胴部	— — —	隆帯に並走する沈線。	タテ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい 橙色 5YR 6/3	す-11G	中期前葉~中葉

第143表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

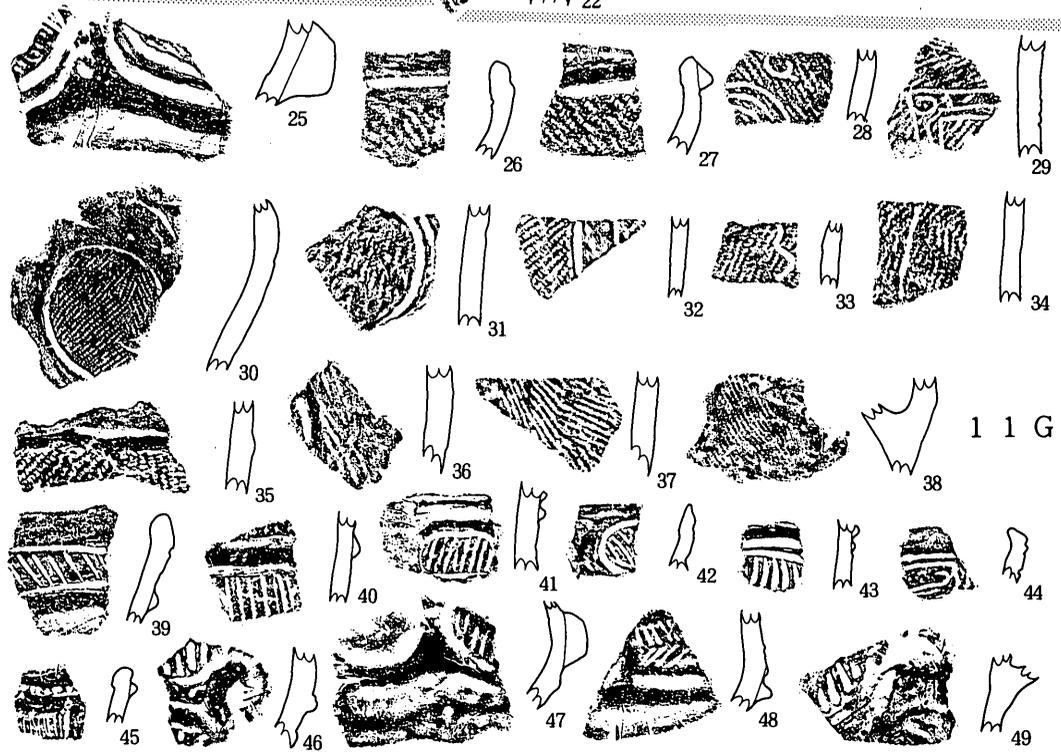
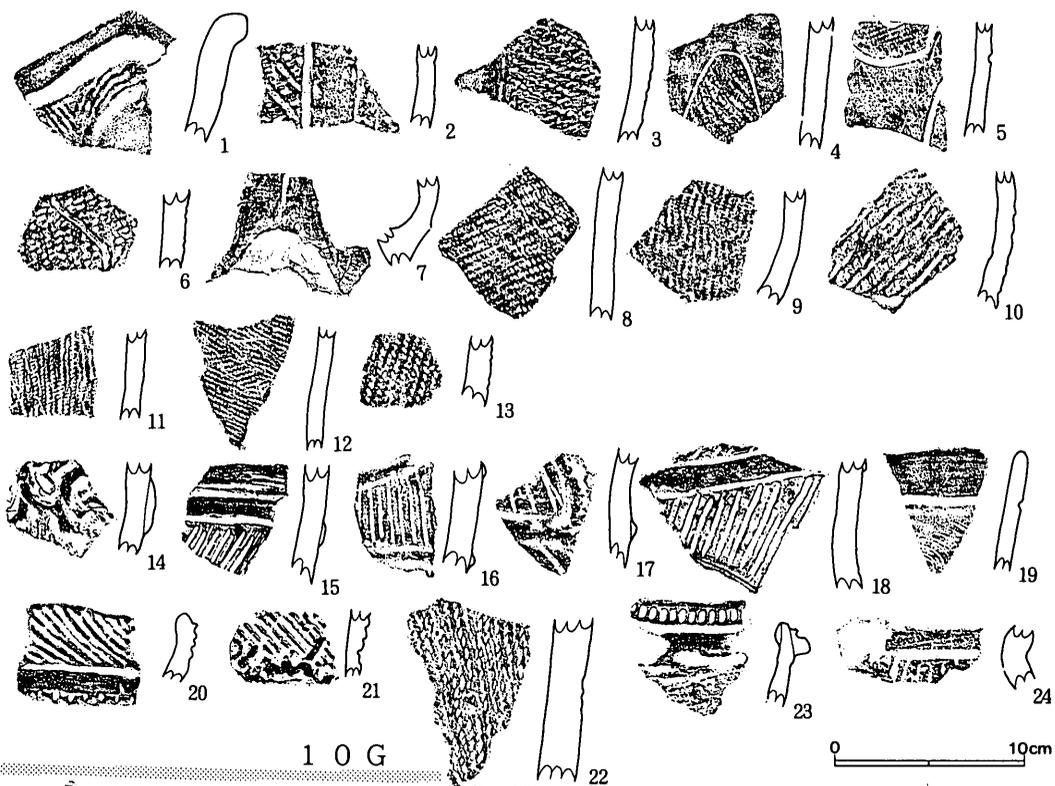
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 6/4	す-11G	中期前葉~中葉
21	深鉢	胴部	— — —	多条の縦位沈線端に連続刺突。	不明。	透明粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 6/4	す-11G I区	中期前葉~中葉
22	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線下に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-11G II区	中期前葉~中葉
23	深鉢	胴部	— — —	2本一組の横位隆帯の接点は盛り上がる。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	ち-11G I区	中期前葉~中葉
24	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。口縁部下に並走して竹管による連続刺突と押し文。その下に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 乳白色岩片	灰褐色 7.5YR 4/2	褐灰色 7.5YR 5/1	す-12G	中期前葉~中葉
25	深鉢	口縁部	— — —	横位沈線間に矩形的連続刺突。以下、縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 5/3	す-12G	中期前葉~中葉
26	深鉢	胴部	— — —	2条の横位沈線の上に縦位沈線が並び、下は斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	褐色 7.5YR 4/3	橙色 5YR 6/6	ち-12G III区	中期前葉~中葉
27	深鉢	口縁部	— — —	半截竹管凹面による横位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	灰褐色 5YR 6/2	す-12G	中期前葉~中葉
28	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 6/4	ち-12G III区	中期前葉~中葉
29	深鉢	胴部	— — —	縦位隆帯下に縄文RL。その後、隆帯わきに縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	し-12G	中期前葉~中葉
30	深鉢	胴部	— — —	二重の環状押し文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 黒雲母	灰黄褐色 10YR 5/2	褐灰色 10YR 5/1	そ-13G	中期前葉~中葉
31	深鉢	胴部	— — —	弧状隆帯貼付後、区画内に縄文LR。隆帯両わきと区画外に、押し文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	つ-13G IV区	中期前葉~中葉
32	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	褐色 7.5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	つ-13G IV区	中期前葉~中葉
33	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ横位隆帯下に、沈線区画。一部区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	た-14G IV区	中期前葉~中葉
34	深鉢	胴部	— — —	斜行隆帯とそれに並走する沈線の区画内に玉抱き三叉文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	明赤褐色 5YR 5/6	ち-14G IV区	中期前葉~中葉
35	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯とそれに並走する押し文。その上に斜行する押し文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	褐色 7.5YR 6/6	た-15G III区	中期前葉~中葉
36	深鉢	胴部	— — —	横位沈線下に弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	た-15G III区	中期
37	深鉢	口縁部	— — —	山形突起上に沈線。口縁部に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 多	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	ち-15G IV区	中期前葉~中葉
38	深鉢	胴部	— — —	縄文を持つ横位隆帯から2本一組の垂下隆帯。その両わきに連続刺突と矩形区画沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/4	ち-15G III区	中期前葉~中葉

第144表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

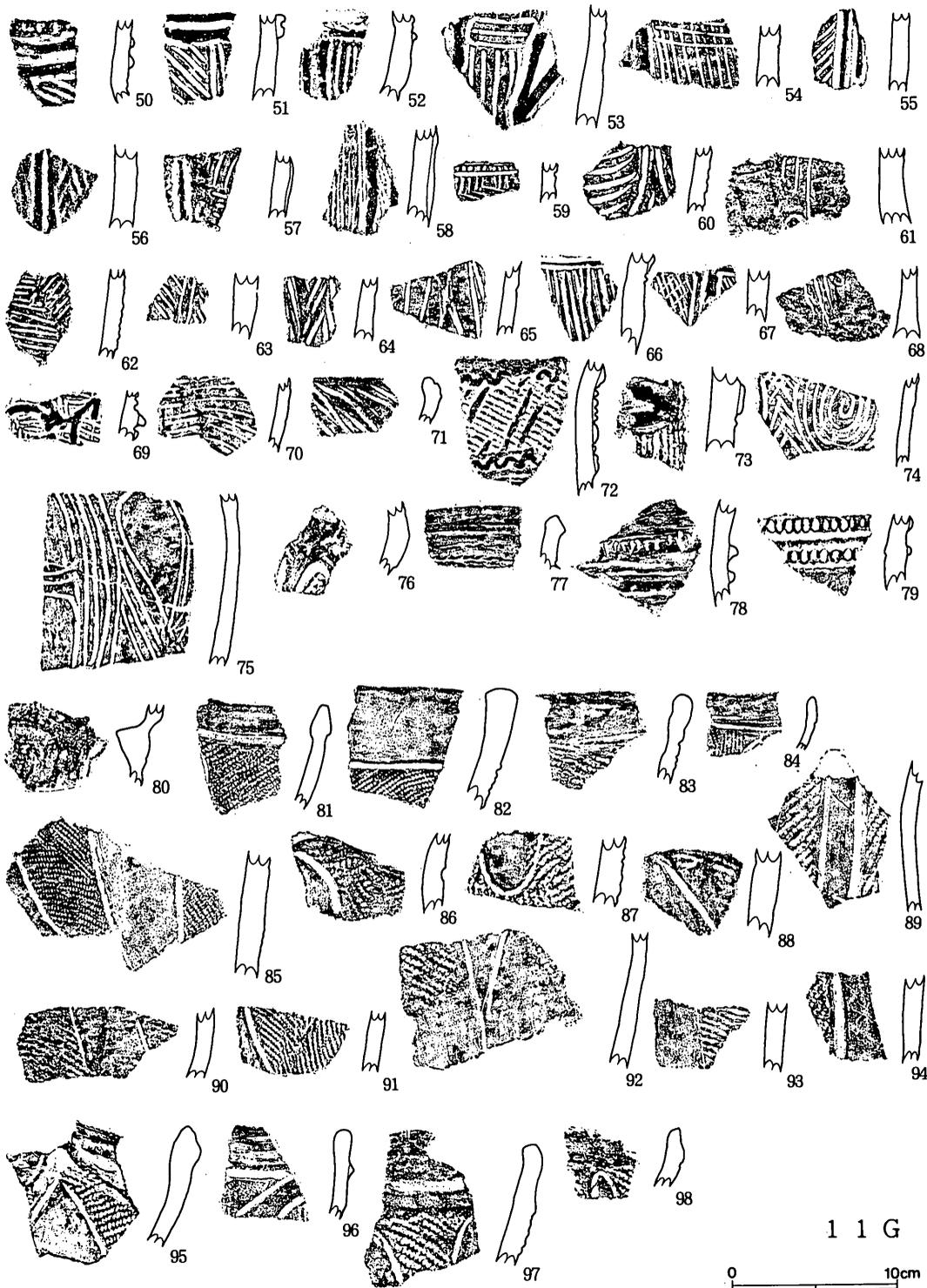
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ逆T字状隆帯を沈線でなぞり、その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 7.5YR 6/6	ち-15G IV区	中期中葉
40	深鉢	胴部	— — —	燃糸文Lの上に先端渦巻き状の斜行沈線。	ランダムなナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	た-15G III区	中期
41	深鉢	胴部	— — —	隆帯上下にキャタピラ状の連続刺突と半月状の連続刺突。波状の押引文もある。	ヨコ方向のナデ。	角閃石 多	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	そ-15G	中期前葉~中葉
42	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に弧状隆帯。地文に縄文を用い、その上に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	ち-15G IV区	中期前葉~中葉
43	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の隆帯側面に連続の刻み。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-15G II区	中期前葉~中葉
44	深鉢	胴部	— — —	沈線。	不明。	白色粒子	灰黄褐色 10YR 4/2	灰黄褐色 10YR 6/2	そ-15G IV区	中期前葉~中葉
45	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	た-15G III区	中期前葉~中葉
46	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	波状口縁に沿って刻みを持つ隆帯貼付。頂部から隆帯垂下。隆帯に沿って半截竹管凹面による沈線。沈線区画内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	た-16G II区	中期前葉~中葉
47	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に5条の横位沈線。のち、斜行沈線と刺突。	不明。	黒雲母 透明粒子	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	そ-16G II区	中期前葉~中葉
48	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に横位と弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-16G	中期
49	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-16G	中期
50	深鉢	胴部	— — —	横位と弧状の隆帯に沿って押引文。	ヨコ方向のナデ。	乳白色岩片 角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	灰黄褐色 10YR 5/2	す-17G	中期前葉~中葉
51	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ縦位隆帯下に連続刺突。そのわきに半截竹管凹面による沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	し-17G	中期前葉~中葉
52	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状隆帯下を沈線でなぞる。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	透明粒子 黒雲母	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい黄褐色 10YR 6/4	さ-17G	中期前葉~中葉
53	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による多条の斜行沈線。	不明。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/3	し-17G	中期前葉~中葉
54	深鉢	胴部	— — —	楕円区画の沈線間に三叉文。上下に横位沈線。区画内に波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 多 乳白色岩片	灰黄褐色 10YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 5/3	M-2 II区 1層	中期前葉~中葉
55	深鉢	胴部	— — —	縄文RL下に横位沈線。以下斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	M-3 I区	中期前葉~中葉
56	深鉢	胴部	— — —	楕円区画隆帯頂部に刻み。区画上下に横位沈線。区画内に山形と斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	M-3 IV区	中期 新道式並行
57	深鉢	胴部	— — —	環状の連続刺突中央に円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	黒褐色 10YR 3/1	にぶい黄褐色 10YR 5/3	表採	中期前葉~中葉

第145表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

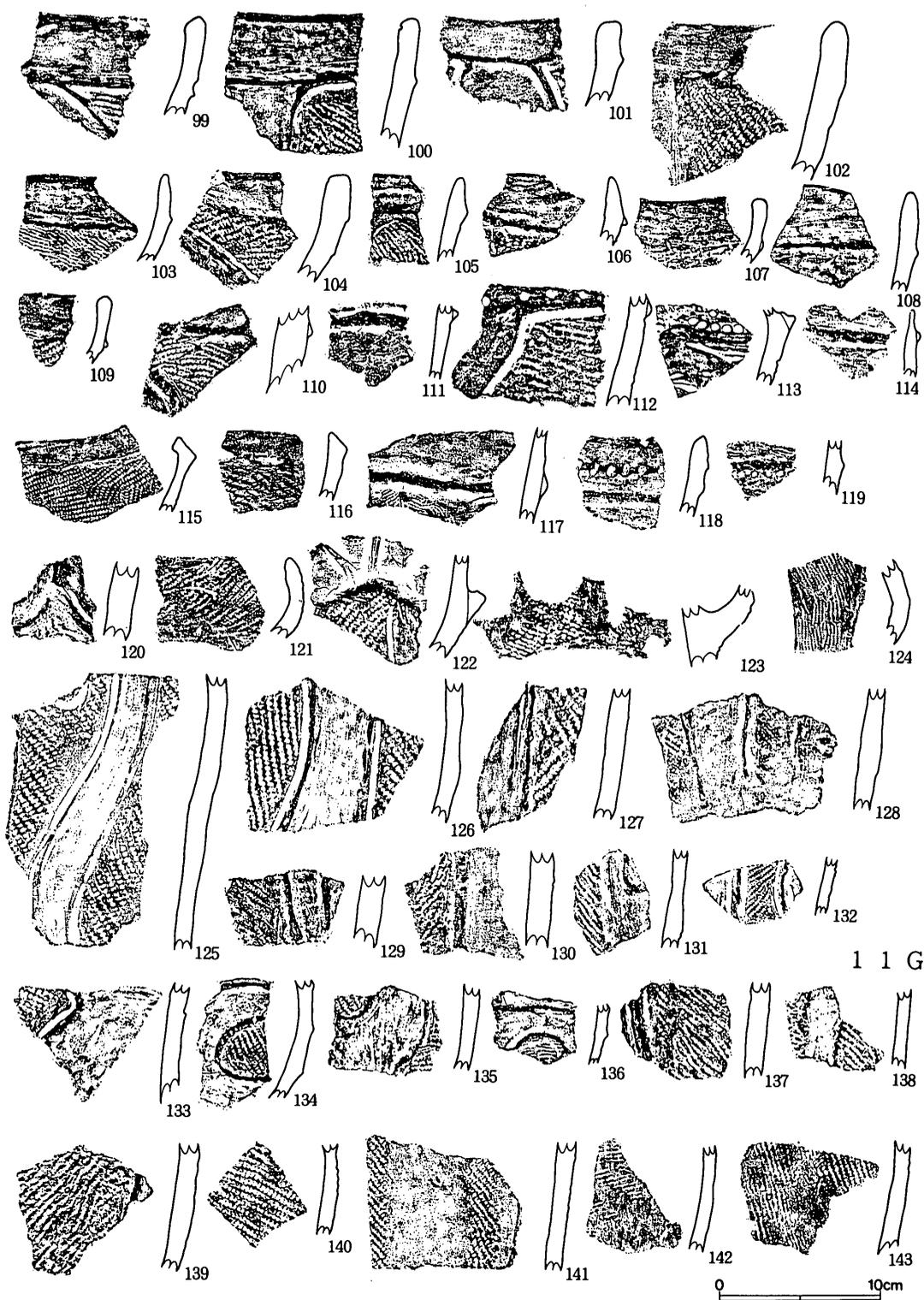
挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深 鉢	胴部	— — —	横位隆帯に沿って連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子	にふい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 10YR 4/1	表採	中期前葉~中葉
59	深 鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	垂下隆帯わきに渦巻き状と斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい橙色 7.5YR 6/4	表採	中期
60	深 鉢	胴部	— — —	楕円区画隆帯内に刺突。区画周囲に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	灰褐色 5YR 5/2	にふい橙色 5YR 6/4	表採	中期中葉



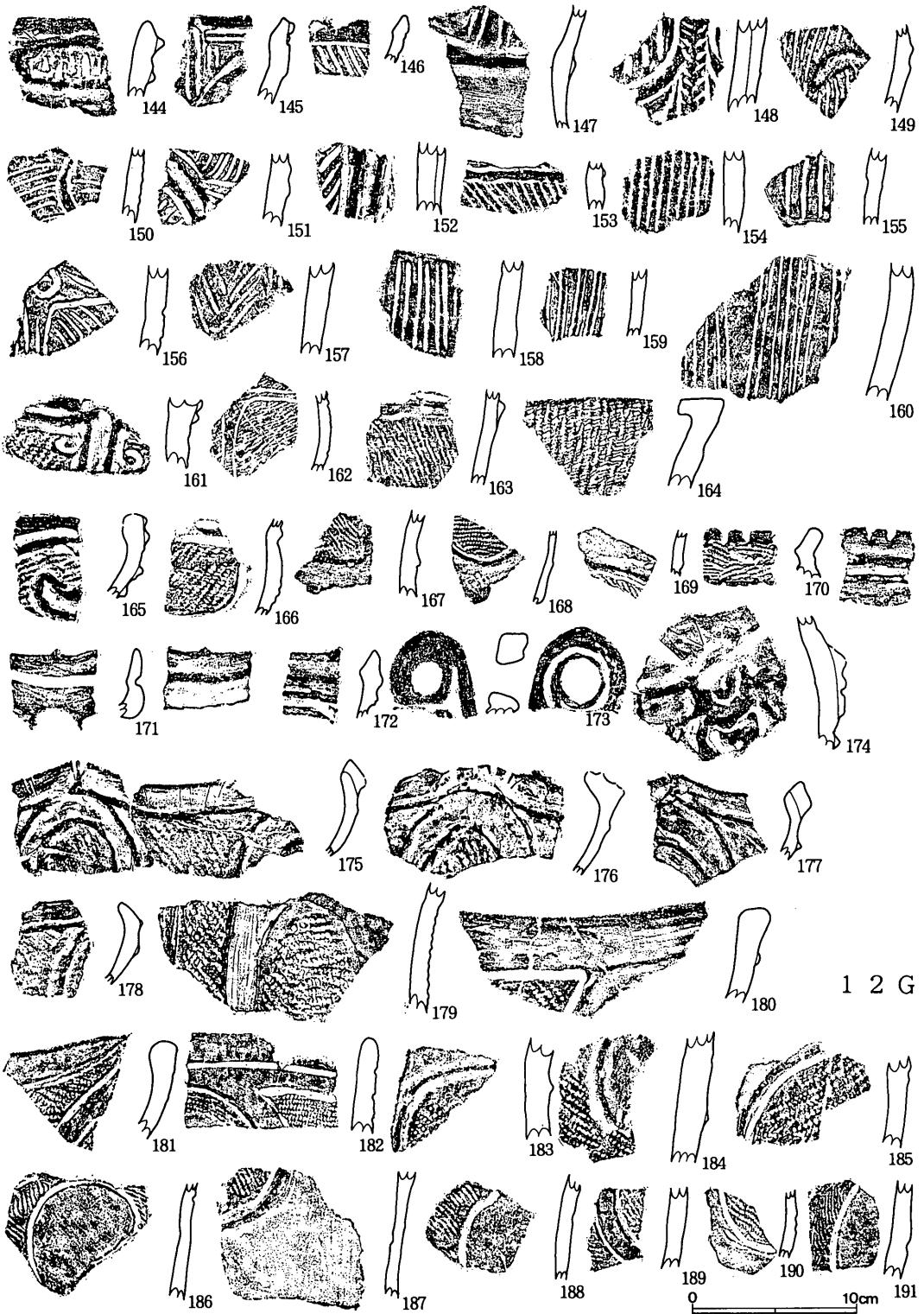
第154図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1 : 4) <1>



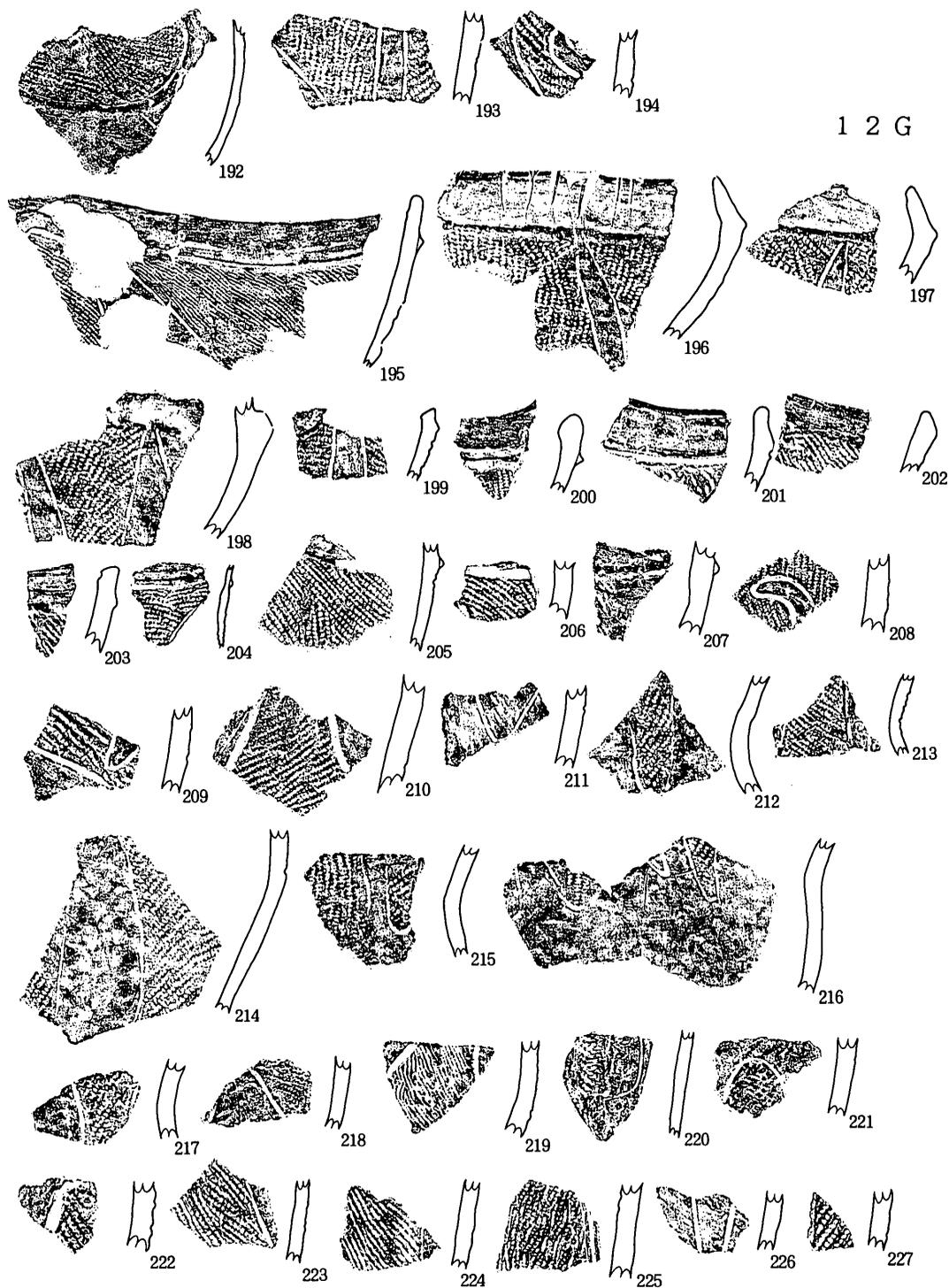
第155図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1:4) <2>



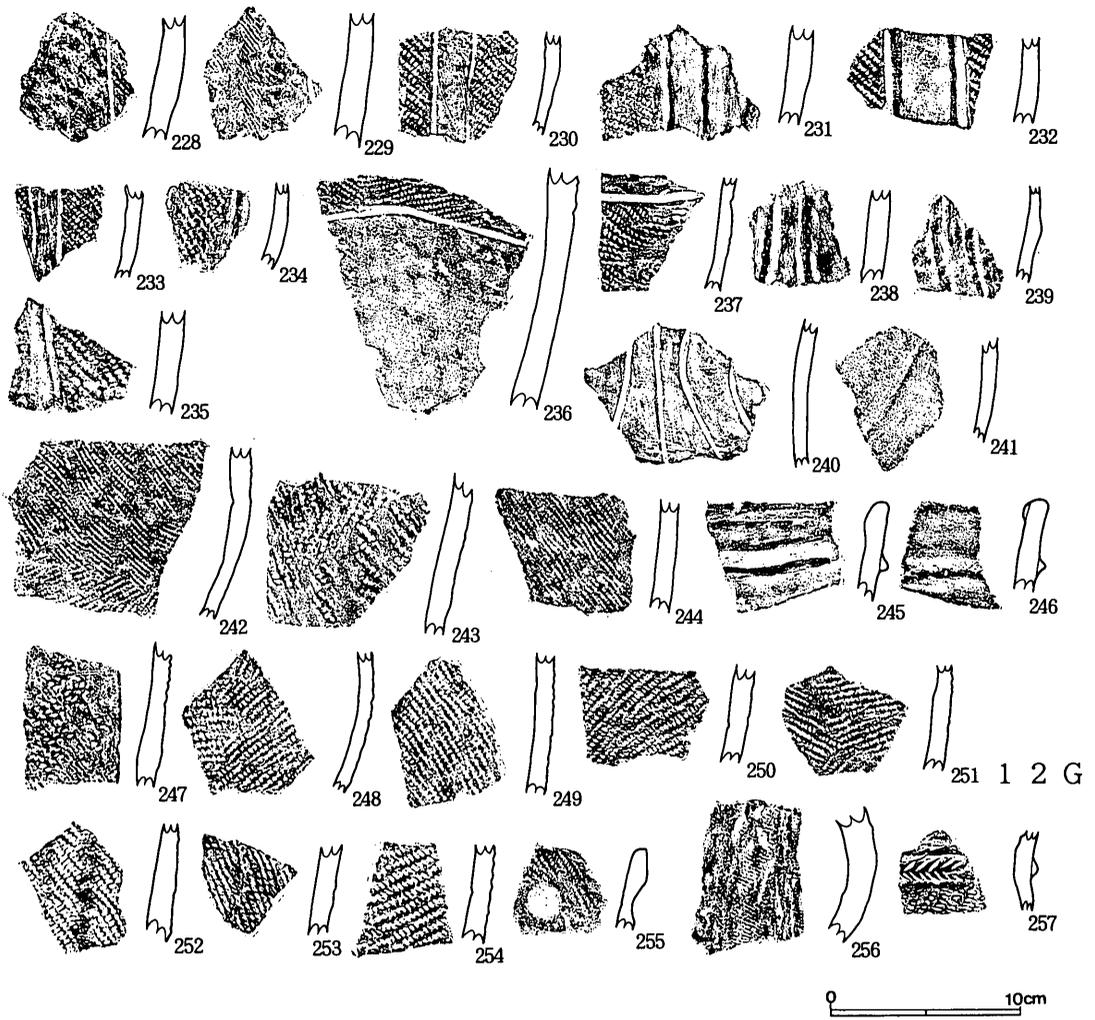
第156図 グリッド出土縄文中期後半土器（1：4）〈3〉



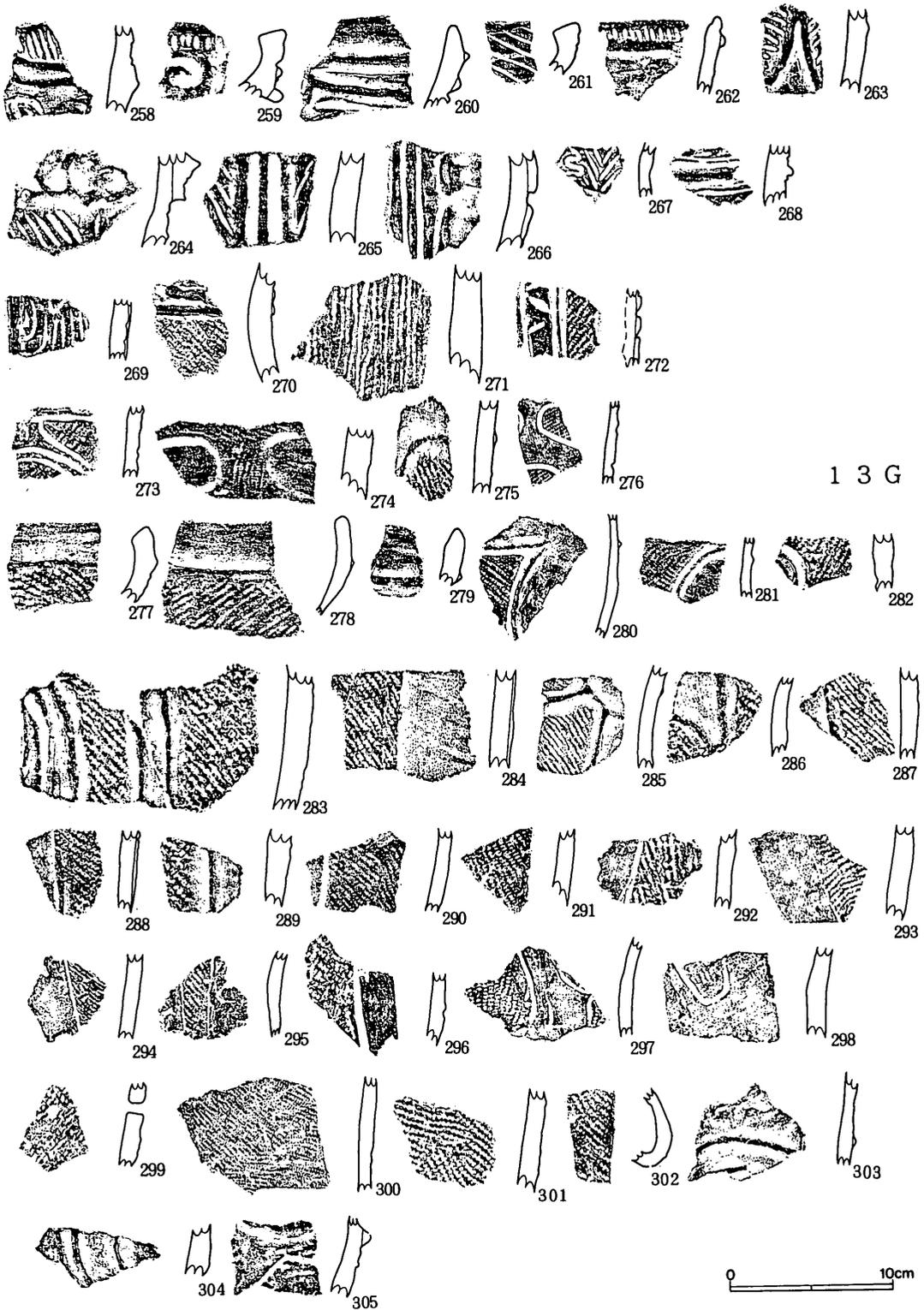
第157図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1:4) <4>



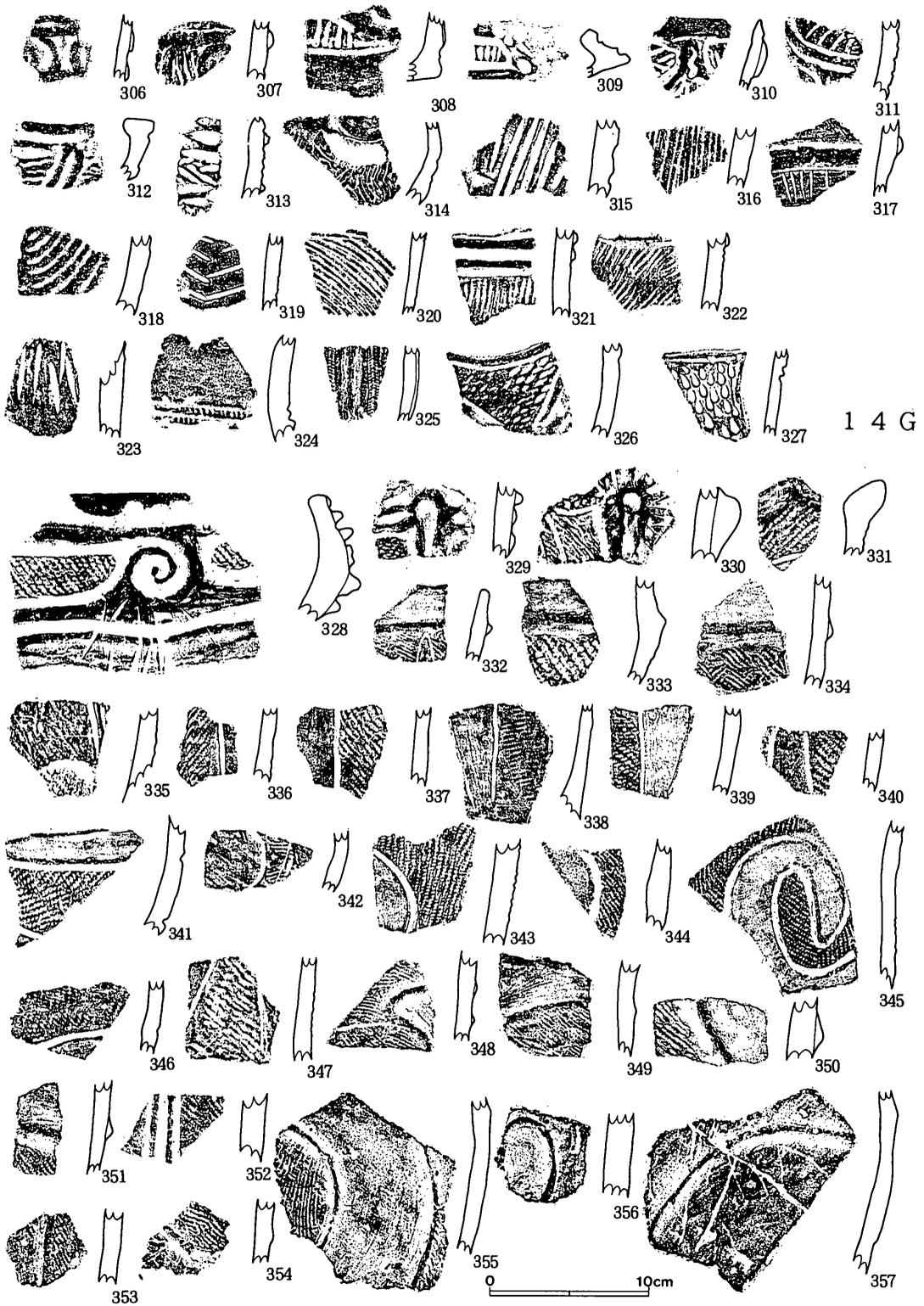
第158図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1:4) <5>



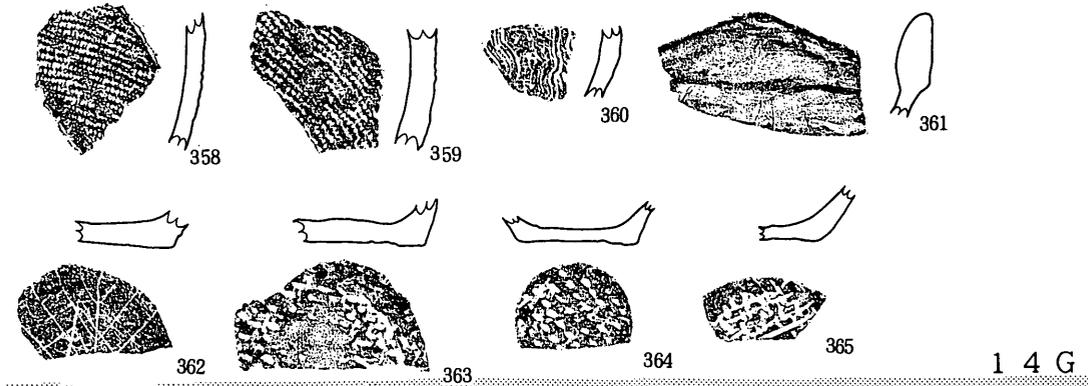
第159図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1 : 4) <6>



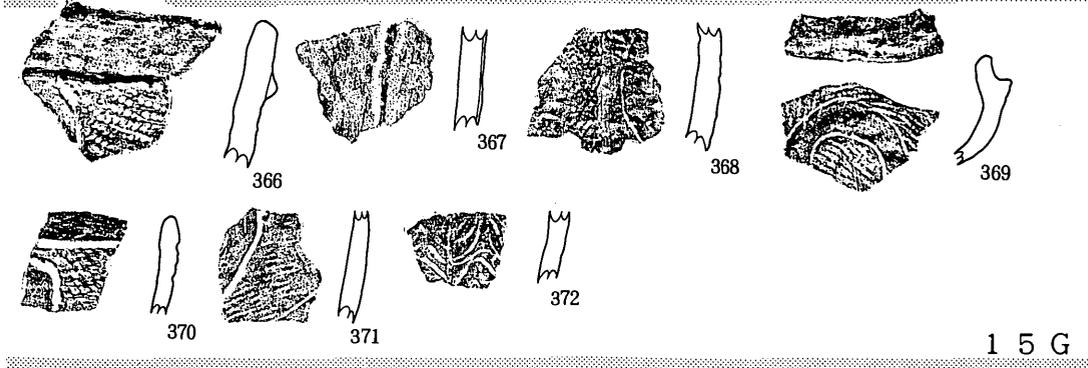
第160図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1:4) <7>



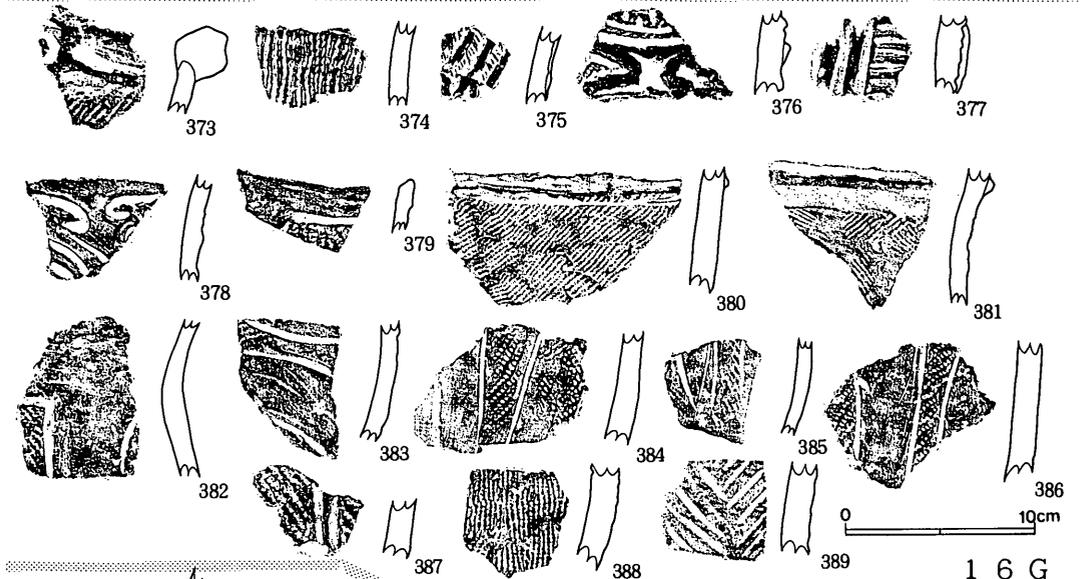
第161図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1 : 4) < 8 >



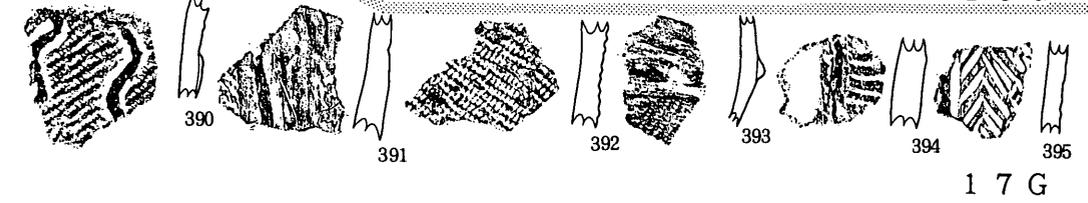
1 4 G



1 5 G

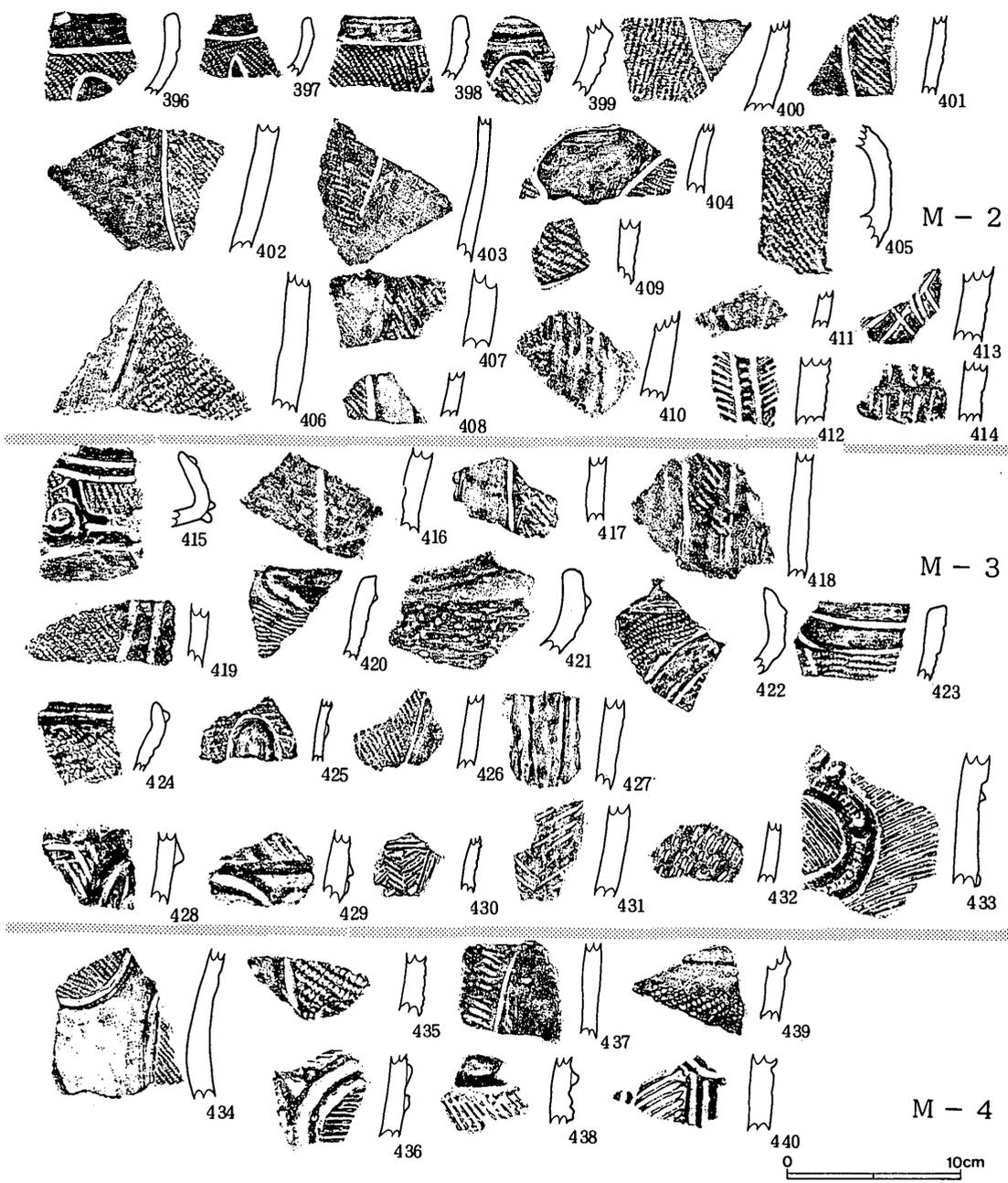


1 6 G

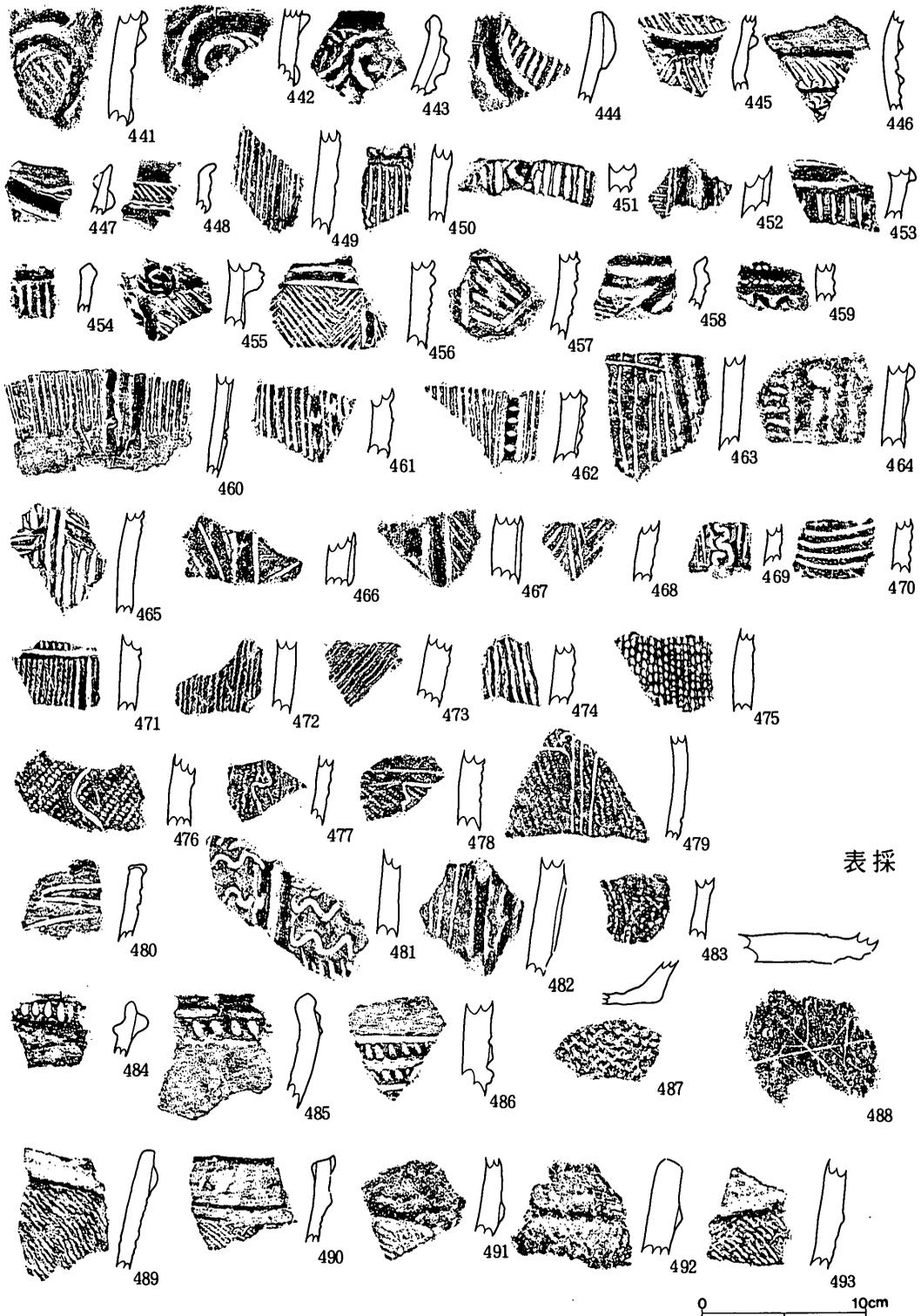


1 7 G

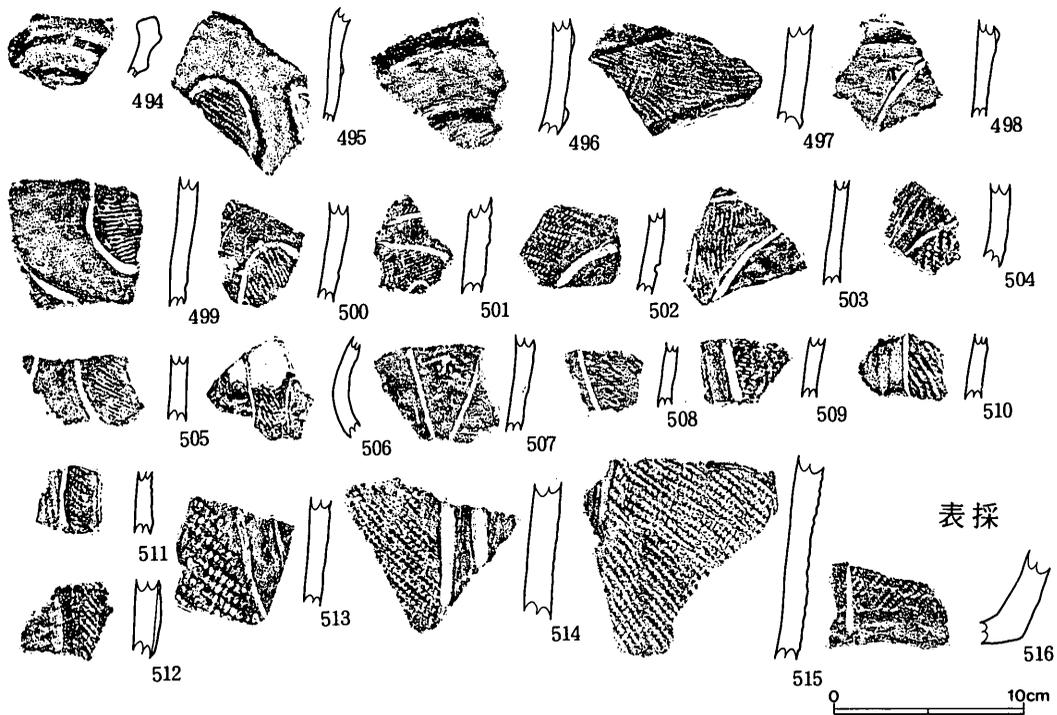
第162図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1 : 4) < 9 >



第163図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1:4) <10>



第164図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1:4) <II>



第165図 グリッド出土縄文中期後半土器 (1 : 4) <12>

第146表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
1	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁に沿って太い沈線。以下、逆U字 状の沈線。地文縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	明赤灰色 2.5YR 7/1	つ-10G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅢ式
2	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に垂下する沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 7/6	つ-10G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅢ式
3	深鉢	胴部	— — —	垂下する隆帯下を沈線でなぞる。地文縄文 RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 10YR 6/1	つ-10G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
4	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを楕円状の沈線で区画。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	つ-10G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
5	深鉢	胴部	— — —	縄文LRを環状沈線で区画。	ヨコ方向のナ デ。	透明粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	ち-10G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
6	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に蛇行する垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	と-10G	中期後葉 加曾利EⅣ式
7	両耳壺	把手	— — —	沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰褐色 5YR 6/2	つ-10G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
8	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	橙色 5YR 7/6	つ-10G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
9	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	つ-10G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
10	深鉢	胴部	— — —	縄文LRを沈線で切る。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 7/6	つ-10G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
11	深鉢	胴部	— — —	縄文LRの縦位施文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 8/2	つ-10G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
12	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	ち-10G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
13	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅褐色 10YR 8/3	つ-10G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
14	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	つ-10G Ⅰ区	中期後葉
15	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部下の隆帯下を沈線でなぞり、その区 画内を斜行する沈線で充填。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	ち-10G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
16	深鉢	口縁 部	— — —	楕円状隆帯下を沈線でなぞり、その区画内 に縦位沈線を並べる。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	と-10G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
17	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	隆帯下を沈線でなぞり、その区画内に斜行 沈線充填。以下も斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	明褐色 7.5YR 7/2	て-10G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
18	深鉢	胴部	— — —	斜行する隆帯を沈線でなぞり、その上下に 斜行沈線を施す。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 2.5Y 8/2	つ-10G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
19	浅鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引きの沈線。以下、楕円状工 具による渦巻き状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	つ-10G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行

第147表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	斜行する沈線を密に施し、その下に横引き沈線。以下縦位沈線か。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	た-10G III区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
21	深鉢	口縁 部	— — —	斜行する沈線と隆帯を組み合わせたバスケット状文様下に波状隆帯貼付。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	つ-10G II区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
22	深鉢	胴部	— — —	捩糸文L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	つ-10G I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
23	深鉢	口縁 部	— — —	端部隆帯上に連続刺突と横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	と-10G IV区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
24	深鉢	口縁 部	— — —	縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	明褐灰色 7.5YR 7/2	つ-10G III区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
25	深鉢	口縁 部	— — —	隆帯上に渦巻きつなぎ弧文。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい橙色 7.5YR 7/4	し-11G	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
26	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部下に横引き沈線。以下、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	褐色 5YR 5/1	し-11G III区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
27	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部隆帯下に横引き沈線。以下、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 6/2	す-11G	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
28	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰褐色 7.5YR 6/2	た-11G I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
29	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に角に渦巻きを持つ矩形区画。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	し-11G	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
30	深鉢	胴部	— — —	縄文LRを環状沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	た-11G II区	中期後葉 加曾利EIV式
31	深鉢	胴部	— — —	縄文LRを環状沈線で区画。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	た-11G III区	中期後葉 加曾利EIV式
32	深鉢	胴部	— — —	縄文LRを垂下沈線で区画。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 7/1	灰白色 2.5Y 7/1	た-11G IV区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
33	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に蛇行して垂下する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 5YR 7/3	た-11G IV区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
34	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	不明。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/4	つ-11G II区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
35	深鉢	胴部	— — —	微隆帯下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 2.5Y 6/6	灰褐色 7.5YR 6/2	ち-11G I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
36	深鉢	胴部	— — —	弧状隆帯下を沈線でなぞる。地文縄文RL。	不明。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-11G	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
37	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	た-11G II区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
38	両耳蓋	把手	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 2.5YR 6/4	褐灰色 5YR 6/1	た-11G IV区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行

第148表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深 鉢	口縁部	— — —	小突起あり。隆帯上の沈線区画上に斜行する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	灰白色 10YR 8/1	す-11G I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
40	深 鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	隆帯下をなぞり、その上下に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 6/2	た-11G I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
41	深 鉢	口縁部	— — —	横位隆帯上の楕円区画隆帯内を沈線でなぞり、縦位沈線が充填される。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/3	灰褐色 5YR 5/2	た-11G I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
42	深 鉢	口縁部	— — —	垂下隆帯わきの斜行沈線を楕円沈線で囲む。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 5YR 6/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
43	深 鉢	口縁部	— — —	楕円状隆帯下に沿って2条の沈線。区画内に斜行する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	灰褐色 5YR 5/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
44	深 鉢	口縁部	— — —	雷文状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰白色 5YR 8/2	す-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
45	深 鉢	口縁部	— — —	T字状隆帯の上に連続刺突。下に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	明褐灰色 5YR 7/2	ち-11G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
46	深 鉢	口縁部	— — —	渦巻きつなぎ弧文上隆帯沈線に斜行する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/4	灰白色 5YR 8/2	し-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
47	深 鉢	口縁部	— — —	楕円区画隆帯内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	褐色 7.5YR 6/6	ち-11G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
48	深 鉢	口縁部	— — —	楕円区画隆帯内に綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	ち-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
49	深 鉢 ?	口縁部	— — —	把手あり。楕円区画隆帯内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰白色 5YR 8/2	し-11G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
50	深 鉢	胴部	— — —	2本一組の横位隆帯上に縦位沈線と下に、斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 7/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
51	深 鉢	胴部	— — —	沈線を持つ横位隆帯に垂下沈線と斜行沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	明褐灰色 7.5YR 7/1	し-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
52	深 鉢	胴部	— — —	2本一組のT字状隆帯わきに縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/4	明褐灰色 5YR 7/1	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
53	深 鉢	胴部	— — —	隆帯下に横位、縦位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰白色 5YR 8/2	し-11G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
54	深 鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯わきに縦位、横位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	灰白色 10YR 8/1	し-11G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
55	深 鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯わきに斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	褐灰色 10YR 5/1	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
56	深 鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯わきに綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	す-11G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
57	深 鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯わきに、斜行する沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行

第149表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押印 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯間に斜行沈線。わきに縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/4	そ-11G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
59	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と横位沈線の組み合わせ。以下、斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 7/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
60	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線内にうろこ状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
61	深鉢	胴部	— — —	2条の垂下沈線と環状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-11G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
62	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 2.5YR 6/6	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
63	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下沈線両わきに斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-11G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
64	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
65	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の乱雑な施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 6/1	て-11G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
66	深鉢	胴部	— — —	横位沈線下に縦位沈線が密に並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	赤褐色 5YR 4/6	橙色 5YR 6/6	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
67	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯に並走する沈線。そのわきに斜格子状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	し-11G	中期後半
68	深鉢	胴部	— — —	垂下沈線両わきに縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	灰白色 10YR 7/1	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
69	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線上に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 6/2	ち-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
70	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい赤褐色 5YR 5/3	た-11G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
71	深鉢	口縁部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
72	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線と隆帯を組み合わせるバスケット状文様上下に波状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 7/4	ち-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
73	深鉢	胴部	— — —	楕円状隆帯下に沈線でなぞる。地文縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/8	にぶい橙色 5YR 7/4	す-11G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
74	深鉢	胴部	— — —	綾杉状と渦巻き状の沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-11G Ⅱ区	中期後葉
75	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線と矩形区画の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/1	た-11G Ⅰ区	後期前葉 堀之内Ⅰ式
76	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に楕円区画の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 透明粒子	灰褐色 7.5YR 5/2	褐灰色 7.5YR 4/1	す-11G	中期後葉

第150表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
77	深鉢	胴部	— — —	端部に断面三角形の隆帯。口縁部下に横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	橙色 5YR 6/6	せ-11G	中期後半
78	深鉢	胴部	— — —	2本一組の横位隆帯のうち上位に連続の刻み。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	橙色 5YR 6/6	す-11G	中期後半
79	深鉢	胴部	— — —	2本一組の刻みを持つ横位隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/1	そ-11G	中期後半
80	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁下に沈線の楕円区画。区画内地文細文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 5YR 6/2	す-11G	中期後葉 加曾利EⅢ式
81	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引き沈線。以下逆U字状沈線。その後、細文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 6/3	し-11G 埋甕 付近	中期後葉 加曾利EⅣ式
82	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引き沈線。その後、細文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
83	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引き沈線と細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	明褐色 5YR 7/2	す-11G I区	中期後葉 加曾利EⅣ式
84	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引き沈線と細文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	し-11G II区	中期後葉 加曾利EⅣ式
85	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に細文R Lを埋める。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
86	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線と環状沈線。その後、細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	し-11G 埋甕 付近	中期後葉 加曾利EⅣ式
87	深鉢	胴部	— — —	楕円状沈線。その後、細文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 5YR 6/2	し-11G IV区	中期後葉 加曾利EⅣ式
88	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線と細文?	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 6/2	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
89	深鉢	胴部	— — —	2条の縦位沈線で細文L Rを磨消す。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	褐色 10YR 6/1	し-11G III区	中期後葉 加曾利EⅣ式
90	深鉢	胴部	— — —	2条の縦位沈線両わきに細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 2.5YR 6/4	浅黄褐色 10YR 8/3	す-11G IV区	中期後葉 加曾利EⅣ式
91	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線わきに細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 5/2	そ-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
92	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線両わきに細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
93	深鉢	胴部	— — —	細い縦位沈線わきに細文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 7.5YR 8/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
94	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線わきに細文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-11G II区	中期後葉 加曾利EⅣ式
95	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁頂部からの隆帯に沿って沈線。その間に細文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	灰褐色 10YR 7/1	せ-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式

第151表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
96	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横位微隆起帯文。隆帯下に横引き沈線。その下に環状沈線。その後、縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	黒色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
97	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横位微隆起帯文。以下環状沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
98	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に楕円沈線と縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰白色 10YR 7/1	す-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
99	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に逆U字状隆帯。地文縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 7/6	し-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
100	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	T字状微隆起帯文区画内に磨消縄文(R L)。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 7/1	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
101	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	淡橙色 5YR 8/3	す-11G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
102	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	T字状微隆起帯文区画に磨消縄文(R L)。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	明褐色 7.5YR 7/2	き-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
103	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 10YR 8/2	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
104	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に幅広い沈線。その上に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	橙色 5YR 7/6	す-11G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
105	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に沈線。その後、縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
106	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に沈線。その後、縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 6/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
107	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 7.5YR 8/6	灰白色 10YR 8/2	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
108	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横位微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
109	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	浅黄褐色 7.5YR 8/6	灰白色 7.5YR 8/1	す-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式
110	深鉢	胴部	— — —	横位微隆起帯文下に環状隆帯。その後、縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	し-11G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
111	深鉢	胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文L R。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/3	す-11G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
112	深鉢	胴部	— — —	横位および斜行する微隆起帯文下を沈線でなぞる。隆帯上に連続の円形刺突。地文縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	褐色 10YR 4/1	す-11G Ⅰ区	中期後葉
113	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部に2列の円形連続刺突。屈折部に突起。以下沈線の後縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	褐色 10YR 6/1	す-11G	中期後葉
114	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横位微隆起帯文。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	褐色 10YR 5/1	そ-11G	中期後葉 加曾利EⅣ式

第152表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色		出土 位置	備考
							外面	内面		
115	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	屈折部下に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
116	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	と-11G	中期後葉 加曾利EIV式
117	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/3	し-11G	中期後葉 加曾利EIV式
118	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	2条の横位微隆起帯文のうち上位に連続の 刻み。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 7/4	す-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EIV式
119	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に連続の円形刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	にぶい褐色 7.5YR 7/3	す-11G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EIV式
120	深鉢	口縁 部	— — —	棒状の突起。	タテ、ヨコ方 向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	褐灰色 7.5YR 6/1	す-11G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EIV式
121	深鉢	口縁 部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 5/1	す-11G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EIV式
122	壺	口縁 ～ 胴部	— — —	剣先状沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
123	両耳壺	胴部	— — —	橋状の把手および、胴部に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	し-11G	中期後葉 加曾利EIV式
124	両耳壺	把手	— — —	縄文LR。	ナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	にぶい褐色 7.5YR 6/3	き-11G	中期後葉 加曾利EIV式
125	深鉢	胴部	— — —	蛇行しつつ、垂下する2本一組の微隆起帯 文下をなぞり、縄文RL磨消。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 6/2	そ-11G Ⅳ区	中期後葉
126	深鉢	胴部	— — —	弧状に垂下する2本一組の微隆起帯文下を なぞり、縄文RL磨消。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	褐灰色 5YR 5/1	そ-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EIV式
127	深鉢	胴部	— — —	垂下微隆起帯文わきに縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	褐灰色 10YR 6/1	し-11G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EIV式
128	深鉢	胴部	— — —	垂下微隆起帯文わきに縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい褐色 5YR 6/4	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
129	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯文わきに縄文RL。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/8	褐色 5YR 6/6	す-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EIV式
130	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯文わきに縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 5YR 6/3	き-11G	中期後葉 加曾利EIV式
131	深鉢	胴部	— — —	浅く削り取った無文帯外に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/1	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
132	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下を沈線でなぞり、縄文LR。	タテ方向のナ デ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 5/1	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
133	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	褐灰色 5YR 5/1	そ-11G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EIV式

第153表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
134	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文区画中央に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 6/2	す-11G IV区	中期後葉
135	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文区画中央と外に縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
136	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/3	す-11G I区	中期後葉 加曾利EIV式
137	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯文わきをなぞり、磨消縄文(RL)。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	て-11G IV区	中期後葉 加曾利EIV式
138	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下微隆起帯文面わきに縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 6/2	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
139	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯文下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/8	褐灰色 5YR 6/1	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
140	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	浅黄橙色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
141	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に縦位の帯状に磨消施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	灰白色 10YR 7/1	す-11G II区	中期後葉 加曾利EIV式
142	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 10YR 8/2	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
143	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/2	す-11G	中期後葉 加曾利EIV式
144	深鉢	口縁部	— — —	楕円隆帯内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/3	さ-12G	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
145	深鉢	口縁部	— — —	端部に隆帯。以下横、縦、斜めの沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 6/3	せ-12G	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
146	深鉢	口縁部	— — —	沈線区画内に斜行沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/3	な-12G	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
147	深鉢	口縁部 胴部	— — —	楕円隆帯を沈線でなぞり、その区画内に斜行する沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	つ-12G I区	中期後葉 加曾利E1・II式 並行
148	深鉢	口縁部 胴部	— — —	垂下する綾杉状の隆帯から分岐する楕円状の隆帯を沈線でなぞり、その内に縦位沈線を並べる。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	せ-12G	中期中葉 井戸尻式
149	深鉢	胴部	— — —	2本一組の隆帯区画外に斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰白色 5YR 8/2	す-12G	中期後葉
150	深鉢	胴部	— — —	蛇行して垂下する隆帯を沈線でなぞる。地文横位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/8	褐色 5YR 6/6	す-12G	中期後葉
151	深鉢	胴部	— — —	2本一組の隆帯をなぞる。地文斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にぶい橙色 5YR 6/3	せ-12G	中期後葉
152	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯をなぞる。地文斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰白色 5YR 8/2	す-12G	中期後葉

第154表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
153	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	灰褐色 5YR 6/2	さ-12G	中期後葉
154	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	淡褐色 5YR 8/3	す-12G	中期後葉
155	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/4	明赤褐色 5YR 5/6	つ-12G I区	中期後葉
156	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状沈線を中心に十字状沈線。その周 圍は斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉
157	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	明褐色 5YR 7/2	す-12G	中期後葉
158	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	明褐色 5YR 7/2	せ-12G	中期後葉
159	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	灰褐色 5YR 5/2	ち-12G IV区	中期後葉
160	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	し-12G	中期後葉
161	深鉢	胴部	— — —	2本一組のT字状隆帯下を角に渦巻きを持 つ沈線でなぞる。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/3	し-12G	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
162	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に矩形区画の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉
163	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯の上に沈線。下に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰褐色 5YR 6/2	せ-12G	中期後葉
164	深鉢	口縁部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	せ-12G	中期後葉 加曾利E I式
165	深鉢	口縁部	— — —	2本一組の渦巻き状隆帯。地文縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-12G II区	中期後葉 加曾利E I式
166	深鉢	口縁部	— — —	縄文LRを楕円沈線区画。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	灰白色 5YR 8/2	さ-12G	中期後葉
167	深鉢	口縁部	— — —	矩形隆帯区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/3	し-12G	中期後葉
168	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを楕円状隆帯と並走する沈線で区 画。	斜方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/2	せ-12G	中期後葉
169	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを楕円隆帯と並走する沈線で区 画。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	せ-12G	中期後葉
170	深鉢	口縁部	— — —	端部に深い刻みを持つ。縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	せ-12G	中期中葉
171	深鉢	口縁部	— — —	小突起あり。口縁部下に沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	そ-12G II区	中期後葉

第155表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
172	深鉢	口縁部	— — —	小突起あり。弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/3	す-12G	中期後葉
173	深鉢	把手	— — —	沈線を持つ環状把手。内面も沈線あり。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	つ-12G I区	中期中葉
174	両耳壺	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線文を持つ円盤状突起から横位隆帯。突起下から環状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	な-12G	中期中葉
175	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁に沿う逆T字状隆帯。以下環状隆帯と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 6/1	す-12G	中期後葉
176	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁に沿う横位隆帯。以下環状隆帯と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉
177	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁に沿う逆T字状隆帯下に環状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉
178	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁に沿う横位隆帯下に環状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉
179	深鉢	胴部	— — —	縄文RLを逆U字状に磨消す。磨消の端は微隆帯をなす。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉
180	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文を沈線でなぞる。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	そ-12G I区	中期後葉 加曾利EIV式
181	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	にぶい橙色 5YR 7/4	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
182	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引き沈線下の沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	灰黄褐色 10YR 6/2	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
183	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文内に縄文RLを充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
184	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文の周囲に縄文RL施文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	明褐灰色 5YR 7/2	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
185	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文を沈線でなぞる。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 4/1	褐灰色 5YR 5/1	そ-12G I区	中期後葉 加曾利EIV式
186	深鉢	胴部	— — —	環状沈線施文後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 7.5YR 8/3	し-12G	中期後葉 加曾利EIV式
187	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文を沈線でなぞる。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	明褐灰色 7.5YR 7/2	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
188	深鉢	胴部	— — —	環状沈線施文後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	褐灰色 7.5YR 6/1	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
189	深鉢	胴部	— — —	環状沈線施文後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 6/4	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
190	深鉢	胴部	— — —	環状沈線施文後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 7.5YR 6/1	し-12G	中期後葉 加曾利EIV式

第156表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
191	深鉢	胴部	— — —	環状沈線施文後、細文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 10YR 8/3	浅黄橙色 10YR 8/3	す-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
192	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文下を沈線でなぞる。地文細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にふい橙色 7.5YR 7/4	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
193	深鉢	胴部	— — —	2本一組の斜行する沈線区画外に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 7/4	にふい橙色 7.5YR 6/4	し-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
194	深鉢	胴部	— — —	環状沈線施文後、細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄橙色 10YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/2	そ-12G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
195	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁の並走微隆起帯文下に斜行沈線。その後、細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	す-12G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
196	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。微隆起帯文下に剣先状の沈線。その後、細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 5YR 6/4	す-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
197	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に剣先状の沈線。その後、細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/3	にふい橙色 7.5YR 6/4	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
198	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に剣先状の沈線。その後、細文RL。隆帯に突起あり。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 5YR 6/4	す-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
199	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に剣先状の沈線。その後、細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 5YR 5/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
200	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。微隆起帯文下に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい橙色 5YR 6/4	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
201	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。微隆起帯文下を沈線でなぞる。地文細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	灰白色 10YR 7/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
202	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	屈折部下に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/3	灰褐色 5YR 6/2	そ-12G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
203	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 6/2	す-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
204	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に細文RL。	不明。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 10YR 6/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
205	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 6/1	褐灰色 7.5YR 5/1	す-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
206	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	細文RL上に横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 7.5YR 3/1	にふい橙色 7.5YR 7/3	し-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
207	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 7.5YR 8/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
208	深鉢	胴部	— — —	沈線区画上に細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 10YR 6/4	にふい橙色 10YR 7/3	せ-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式
209	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。その後、細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/4	にふい橙色 7.5YR 7/3	す-12G	中期後葉 加曾利EⅣ式

第157表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
210	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	灰褐色 5YR 5/2	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
211	深鉢	胴部	— — —	三角状の沈線区画。	斜方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	す-12G II区	中期後葉 加曾利EIV式
212	深鉢	胴部	— — —	剣先状沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	にぶい橙色 5YR 7/4	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
213	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画。その後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	灰白色 5YR 8/1	す-12G II区	中期後葉 加曾利EIV式
214	深鉢	胴部	— — —	剣先状沈線区画。その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
215	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/3	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
216	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	橙色 5YR 7/6	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
217	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
218	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 10YR 4/1	にぶい黄橙色 10YR 7/3	さ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
219	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 5/1	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
220	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
221	深鉢	胴部	— — —	楕円区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 6/1	す-12G II区	中期後葉 加曾利EIV式
222	深鉢	胴部	— — —	沈線上に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子	浅黄橙色 7.5YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	し-12G	中期後葉 加曾利EIV式
223	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。その後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 7.5YR 4/1	褐灰色 7.5YR 4/1	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
224	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。その後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/3	す-12G II区	中期後葉 加曾利EIV式
225	深鉢	胴部	— — —	数条の沈線が縄文LRを切る。	ランダムなナデ。	白色粒子	橙色 5YR 6/6	褐灰色 5YR 6/1	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
226	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 5/1	灰白色 10YR 7/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
227	深鉢	胴部	— — —	縄文LRを沈線が切る。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	明褐灰色 7.5YR 7/2	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
228	深鉢	胴部	— — —	沈線と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	し-12G	中期後葉 加曾利EIV式

第158表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
229	深鉢	胴部	— — —	沈線と縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	シ-12G	中期後葉 加曾利E IV式
230	深鉢	胴部	— — —	2条の縦位沈線両わきに縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	褐灰色 10YR 5/1	セ-12G	中期後葉 加曾利E IV式
231	深鉢	胴部	— — —	2条一組の縦位微隆起帯文両わきに縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	褐灰色 5YR 6/1	そ-12G III区	中期後葉 加曾利E IV式
232	深鉢	胴部	— — —	2条一組の縦位微隆起帯文両わきを沈線でなぞる。地文縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	そ-12G I区	中期後葉 加曾利E IV式
233	深鉢	胴部	— — —	2条の縦位沈線両わきに縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 5/2	す-12G II区	中期後葉 加曾利E IV式
234	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線。その後、縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/3	シ-12G	中期後葉 加曾利E IV式
235	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文下をなぞる。地文縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 5YR 4/1	褐灰色 5YR 5/1	そ-12G I区	中期後葉 加曾利E IV式
236	深鉢	胴部	— — —	横位沈線。その後、縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	セ-12G	中期後葉
237	深鉢	胴部	— — —	縄文R L上に横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	明褐色 7.5YR 7/2	シ-12G	中期後葉
238	深鉢	胴部	— — —	2条の弧状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 5YR 8/2	浅黄褐色 10YR 8/3	シ-12G	中期後葉 加曾利E IV式
239	深鉢	胴部	— — —	2条一組の弧状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 7.5YR 8/2	灰白色 7.5YR 8/2	す-12G	中期後葉 加曾利E IV式
240	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい橙色 5YR 7/4	す-12G	中期後葉
241	深鉢	胴部	— — —	弧状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	褐灰色 7.5YR 5/1	セ-12G	漆・赤色顔料付 中期後葉 加曾利E IV式
242	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 5YR 7/4	セ-12G	中期後葉 加曾利E IV式
243	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	褐灰色 7.5YR 6/1	セ-12G II区	中期後葉 加曾利E IV式
244	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉 加曾利E IV式
245	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横位微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	セ-12G	中期後葉 加曾利E IV式
246	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横位微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	橙色 5YR 7/6	す-12G II区	中期後葉 加曾利E IV式
247	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	灰白色 10YR 8/1	す-12G	中期後葉 加曾利E IV式

第159表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
248	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 10YR 8/3	浅黄褐色 10YR 8/3	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
249	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
250	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 6/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
251	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	す-12G	中期後葉 加曾利EIV式
252	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	褐灰色 10YR 4/1	し-12G	中期後葉 加曾利EIV式
253	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	褐灰色 10YR 5/1	す-12G II区	中期後葉 加曾利EIV式
254	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
255	深鉢	口縁部	— — —	円形押圧と縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
256	両耳壺	把手	— — —	縄文RL。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	せ-12G	中期後葉 加曾利EIV式
257	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ横位隆帯。縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	褐灰色 7.5YR 6/1	す-12G	中期後半
258	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	隆帯区画内に縦位沈線が並ぶ。以下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	た-13G IV区	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
259	深鉢	口縁部	— — —	渦巻き隆帯の上に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	にぶい黄橙色 10YR 7/2	せ-13G	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
260	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	2条の横位隆帯下に縄文LRと沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい黄橙色 10YR 7/2	ち-13G IV区	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
261	深鉢	口縁部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 6/3	にぶい黄橙色 10YR 7/3	と-13G	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
262	深鉢	口縁部	— — —	横位隆帯の上に連続の刻み。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰黄褐色 10YR 6/2	ち-13G IV区	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
263	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画内に斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	た-13G I区	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
264	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 7/4	ち-13G I区	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
265	深鉢	胴部	— — —	3本一組の縦位隆帯両わきに斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	ち-13G I区	中期後葉 加曾利E I・II式 並行
266	深鉢	胴部	— — —	隆帯に沿う連弧状の沈線。縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-13G III区	中期中葉 焼町土器

第160表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
267	深 鉢	胴部	— — —	綾杉状沈線と縦位液状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい橙色 5YR 7/3	せ-13G	中期後葉
268	深 鉢	胴部	— — —	横位隆帯上下に横位沈線。	ナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	褐灰色 7.5YR 6/1	す-13G	中期後葉
269	深 鉢	胴部	— — —	垂下隆帯わきに弧状の沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	つ-13G Ⅲ区	中期後葉
270	深 鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	橙色 5YR 6/6	ち-13G Ⅲ区	中期後葉
271	深 鉢	胴部	— — —	捺糸文し。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	灰白色 10YR 7/1	た-13G Ⅲ区	中期後葉
272	深 鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯両わきに並走する沈線。地文縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 7/6	せ-13G	中期中葉 焼町土器
273	深 鉢	胴部	— — —	縄文LR上に横引きと環状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 5/2	す-13G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
274	深 鉢	胴部	— — —	横に並ぶ楕円区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 7.5YR 8/3	そ-13G	中期後半
275	深 鉢	胴部	— — —	楕円微隆起帯文区画内に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	にぶい赤褐色 5YR 5/4	そ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
276	深 鉢	胴部	— — —	楕円微隆起帯文区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-13G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
277	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	ち-13G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
278	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	ち-13G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
279	深 鉢	口縁 部	— — —	横位微隆起帯文。	不明。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	明赤褐色 2.5YR 5/6	そ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
280	深 鉢	胴部	— — —	横位と環状の微隆起帯文下を沈線でなぞる。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	灰白色 10YR 8/2	つ-13G Ⅳ区	中期後葉
281	深 鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文を沈線でなぞる。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-13G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
282	深 鉢	胴部	— — —	弧状沈線。その後、縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 5YR 2/1	灰黄褐色 10YR 6/2	ち-13G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
283	深 鉢	胴部	— — —	2条一組の弧状隆帯。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	灰褐色 7.5YR 6/2	せ-13G	中期後葉
284	深 鉢	胴部	— — —	微隆起帯文上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	せ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
285	深 鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下をなぞる。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	明褐灰色 7.5YR 7/1	ち-13G Ⅲ区	中期後葉

第161表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
286	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 7/1	た-13G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
287	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文。その後、縄文L.R.	不明。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	灰白色 7.5YR 8/1	そ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
288	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文。その後、縄文R.L.	不明。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/3	明褐色 5YR 7/2	せ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
289	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文下をなぞる。縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/2	つ-13G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
290	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線。その後、縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/3	にふい橙色 5YR 6/4	そ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
291	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線上に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 5/3	ち-13G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
292	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線上に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 6/3	と-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
293	深鉢	胴部	— — —	斜行する細い沈線上に縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	と-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
294	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線上に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 6/3	にふい橙色 7.5YR 7/3	た-13G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
295	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線上に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 8/1	し-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
296	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線上に縄文R.L.	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	にふい黄褐色 10YR 5/3	つ-13G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
297	深鉢	胴部	— — —	楕円状沈線区画内に縄文L.R.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にふい褐色 7.5YR 6/3	せ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
298	深鉢	胴部	— — —	楕円状沈線区画内に縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	にふい褐色 7.5YR 6/3	せ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
299	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L. 焼成後、穿孔。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	ち-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
300	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	乳白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/4	にふい褐色 7.5YR 5/3	た-13G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
301	深鉢	胴部	— — —	縄文R.L.	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	赤褐色 5YR 4/6	にふい黄褐色 10YR 6/3	そ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
302	両耳壺	把手	— — —	縄文R.L.	ナデ。	角閃石	橙色 7.5YR 6/6	灰黄褐色 10YR 6/2	せ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
303	深鉢	胴部	— — —	2本一組の環状微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 7.5YR 3/1	灰黄褐色 10YR 6/2	そ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式 赤色滲彩
304	深鉢	胴部	— — —	2本一組の環状微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にふい橙色 5YR 6/4	そ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式

第162表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
305	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文下に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	灰白色 10YR 7/1	せ-13G	中期後葉 加曾利EⅣ式
306	深鉢	口縁部	— — —	楕円区画の沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	橙色 5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	そ-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
307	深鉢	口縁部	— — —	隆帯区画内に斜行する沈線が並ぶ。	タテ方向のナデ。	黒雲母	にぶい橙色 7.5YR 6/4	褐灰色 10YR 6/1	そ-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
308	深鉢	口縁部	— — —	渦巻きつなぎ弧文内に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 10YR 8/2	ち-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
309	深鉢	口縁部	— — —	楕円区画沈線内に縦位沈線が並ぶ。そのわきに2個の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	にぶい黄橙色 10YR 6/4	ち-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
310	深鉢	胴部	— — —	隆帯に沿う楕円沈線。区画内に斜行する沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
311	深鉢	口縁部	— — —	楕円沈線区画内に斜行沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	そ-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
312	深鉢	口縁部	— — —	横引き沈線下の2本一組の斜行隆帯面わきに横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	ち-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ式
313	深鉢	口縁部	— — —	横位隆帯間に短い沈線が密集。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	橙色 5YR 6/6	て-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
314	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による波状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	た-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
315	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	斜方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	た-14G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
316	深鉢	胴部	— — —	斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	し-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
317	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画内に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 6/2	灰褐色 7.5YR 6/2	せ-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
318	深鉢	胴部	— — —	重弧状の沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	灰白色 10YR 8/1	ち-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
319	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	た-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
320	深鉢	胴部	— — —	横位沈線下に密な斜行沈線。	不明。	角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	にぶい橙色 5YR 6/3	た-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
321	深鉢	胴部	— — —	交互の横位隆帯と沈線。以下、燃糸文Ⅰ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	明褐灰色 7.5YR 7/2	ち-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
322	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に燃糸文Ⅰ。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	せ-14G	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
323	深鉢	胴部	— — —	縦位の短い沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	そ-14G	中期後半

第163表 グリッド出土遺物一覧表 (縄文土器)

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
324	深鉢	口縁部	— — —	横位の連続刺突が2条。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰白色 7.5YR 8/1	し-14G	中期後半
325	深鉢	胴部	— — —	2条一組の横位隆帯両わきに波状の連続刺突。そのわきに細かな円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	橙色 7.5YR 6/6	そ-14G	中期中葉 新道式
326	深鉢	胴部	— — —	逆三角状沈線区画に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	ち-14G Ⅲ区	中期中葉 焼町土器
327	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に多量の刺突充堀。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-14G Ⅰ区 黒	中期中葉 焼町土器
328	深鉢	口縁部	— — —	隆帯と沈線による渦巻きつなぎ弧文の地文に縄文RL。その上下に深い横引き沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	せ-14G	中期後葉 加曾利EⅡ式
329	深鉢	胴部	— — —	2本一組の横位・縦位の隆帯。隆帯に沿う沈線区画内に縄文LR。	タテ方向のナデ。	角閃石 黒雲母	赤褐色 2.5YR 4/6	明赤褐色 2.5YR 5/6	ち-14G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
330	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯わきの矩形区画沈線内に縄文RLと連続の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
331	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。波頂部から垂下する隆帯下に縄文LRと沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 黒雲母	にぶい橙色 5YR 6/3	にぶい橙色 5YR 7/4	つ-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
332	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に微隆起帯文。以下逆U字状沈線上に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/2	た-14G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
333	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	灰褐色 5YR 6/2	せ-14G	中期後葉 加曾利EⅣ式
334	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/2	ち-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
335	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/8	明赤褐色 5YR 5/8	ち-14G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
336	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 5YR 6/4	せ-14G	中期後葉 加曾利EⅣ式
337	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線。その後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	灰白色 10YR 8/2	ち-14G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
338	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	タテ方向のナデ。	角閃石	橙色 7.5YR 7/6	浅黄褐色 10YR 8/3	ち-14G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
339	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	褐色 7.5YR 4/1	灰白色 10YR 8/1	ち-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
340	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/1	し-14G	中期後葉 加曾利EⅣ式
341	深鉢	胴部	— — —	横位沈線下の逆三角状沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G Ⅰ区 黒	中期後葉 加曾利EⅣ式
342	深鉢	胴部	— — —	環状沈線上に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式

第164表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
343	深鉢	胴部	— — —	縄文L R上に弧状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	淡橙色 5YR 8/4	せ-14G	中期後葉 加曾利EⅣ式
344	深鉢	胴部	— — —	環状沈線上に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	透明粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	た-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
345	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	た-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
346	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線と縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい黄橙色 10YR 7/3	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
347	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 5/2	た-14G Ⅱ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
348	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文区画外に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	灰褐色 7.5YR 5/2	ち-14G Ⅲ区	中期後葉
349	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 5/1	にぶい黄橙色 10YR 7/3	た-14G Ⅱ区	中期後葉
350	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文区画外に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-14G	中期後葉
351	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位沈線下に縄文R L。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	浅黄褐色 10YR 8/3	た-14G Ⅱ区	中期後葉
352	深鉢	胴部	— — —	2本一組の縦位微隆起帯文下を沈線でなぞ る。地文縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰褐色 7.5YR 6/2	ち-14G Ⅰ区	中期後葉
353	深鉢	胴部	— — —	垂下する微隆起帯文わきに縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/3	ち-14G Ⅰ区	中期後葉
354	深鉢	胴部	— — —	微隆起帯文区画外に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	灰白色 10YR 8/2	し-14G	中期後葉
355	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文区画中央および外に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	た-14G Ⅱ区	中期後葉
356	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 8/1	た-14G Ⅱ区	中期後葉
357	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	黄橙色 10YR 8/6	浅黄褐色 10YR 8/3	つ-14G Ⅰ区	中期後葉
358	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰白色 5YR 8/2	せ-14G	中期後葉
359	深鉢	胴部	— — —	縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 10YR 6/1	褐色 10YR 6/1	せ-14G	中期後葉
360	深鉢	胴部	— — —	歯状工具による波状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	浅黄褐色 10YR 8/4	た-14G Ⅱ区	中期後葉
361	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁下に横位隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	灰白色 10YR 8/2	淡黄色 2.5Y 8/3	ち-14G Ⅰ区	中期後葉

第165表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
362	深鉢	底部	— — —	木葉痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄橙色 10YR 7/3	浅黄橙色 10YR 8/3	た-14G Ⅲ区	中期後葉
363	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子	浅黄橙色 10YR 8/4	浅黄橙色 10YR 8/3	た-14G Ⅱ区	中期後葉
364	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	角閃石	にふい黄橙色 10YR 7/4	にふい黄橙色 10YR 7/3	た-14G Ⅱ区	中期後葉
365	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 赤色粒子	にふい橙色 7.5YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/3	た-14G Ⅱ区	中期後葉
366	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	微隆起帯文下に沈線。その後、縄文R.L。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	橙色 7.5YR 7/6	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-15G Ⅰ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
367	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/8	橙色 7.5YR 6/6	た-15G Ⅲ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
368	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文わきに縄文L.R。もう一方に浅い弧状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/4	にふい橙色 7.5YR 7/4	ち-15G Ⅳ区	中期後葉 加曾利EⅣ式
369	深鉢	胴部	— — —	波状口縁に沿う微隆起帯文。環状沈線施文後、縄文L.R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/4	褐色 7.5YR 7/6	そ-15G	中期後葉 加曾利EⅣ式
370	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引き沈線と弧状沈線。その後、縄文L.R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 7/4	にふい橙色 7.5YR 7/4	つ-15G	中期後葉
371	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線間に縄文L.R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 7/6	黄橙色 10YR 8/6	つ-15G Ⅱ区	中期後葉
372	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	にふい橙色 7.5YR 7/4	た-15G Ⅲ区	中期後半
373	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁波頂部から垂下する横位隆帯わきに沈線。隆帯下縄文L.R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 5YR 7/6	ち-16G	中期後半
374	深鉢	胴部	— — —	襷糸文L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 5YR 7/6	ち-16G	中期後半
375	深鉢	口縁 部	— — —	斜行沈線と隆帯の組み合わせによるバスケット状の文様。下に波状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にふい褐色 7.5YR 5/4	にふい褐色 7.5YR 6/3	た-16G	中期後半
376	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画上に沈線と交互刺突。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	褐色 7.5YR 4/3	褐色 5YR 6/6	ち-16G	中期後半
377	深鉢	胴部	— — —	隆帯に並走する縦位沈線をそれに直交する横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	た-16G Ⅰ区	中期後半
378	深鉢	胴部	— — —	沈線と隆帯の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 5/3	褐色 5YR 6/6	た-16G Ⅰ区	中期後半
379	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文R.L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 5YR 4/2	ち-16G	中期後半
380	深鉢	胴部	— — —	横位微隆起帯文下に沈線。以下に縄文L.R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	にふい黄褐色 10YR 7/2	ち-16G	中期後葉 加曾利EⅣ式

第166表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
381	深鉢	胴部	— — —	横位微隆起帯文下がナデられるため、以下の縄文LRが磨消される。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/3	そ-16G II区	中期後葉 加曾利EⅣ式
382	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-16G	中期後葉 加曾利EⅣ式
383	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線間に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 10YR 8/4	にぶい黄橙色 10YR 7/2	ち-16G	中期後葉 加曾利EⅣ式
384	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	浅黄橙色 7.5YR 8/6	た-16G II区	中期後葉 加曾利EⅣ式
385	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	タテ方向のナデ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-16G	中期後葉 加曾利EⅣ式
386	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	褐色 7.5YR 7/6	た-16G II区	中期後葉 加曾利EⅣ式
387	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文両わきをナデる。地文縄文RL。	タテ、ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	明赤褐色 5YR 5/6	ち-16G	中期後葉
388	深鉢	胴部	— — —	縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	褐色 5YR 6/6	た-16G III区 Na1	中期後半
389	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	浅黄褐色 10YR 8/3	た-16G II区	中期後半
390	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に波状の垂下隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	す-17G	中期後半
391	深鉢	胴部	— — —	垂下隆帯両わきをナデる。地文縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/3	にぶい赤褐色 5YR 5/4	し-17G	中期後半
392	深鉢	胴部	— — —	縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	さ-17G	中期後半
393	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	隆帯下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 6/4	さ-17G	中期後半
394	深鉢	胴部	— — —	縦位隆帯わきに直交する横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 7/6	にぶい黄褐色 10YR 7/2	さ-17G	中期後半
395	深鉢	胴部	— — —	縦位隆帯下を沈線でなぞる。地文綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	し-17G	中期後半
396	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引きと環状の沈線間を縄文RLで埋める。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	褐色 7.5YR 7/6	褐色 7.5YR 7/6	M-2 III区 I層	中期後葉 加曾利EⅣ式
397	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引きと剣先状沈線間を縄文RLで埋める。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	褐色 7.5YR 7/6	M-2 III区	中期後葉 加曾利EⅣ式
398	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横引き沈線。その後、縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/2	M-2 III区 I層	中期後葉 加曾利EⅣ式
399	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下の楕円状の沈線内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	M-2 II区 I層	中期後葉 加曾利EⅣ式

第167表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
400	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線。その後、細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	M-2 II区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
401	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と細文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	浅黄橙色 10YR 8/4	灰白色 10YR 8/2	M-2 III区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
402	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	M-2 IV区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
403	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と細文LR。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	灰白色 10YR 8/2	M-2 IV区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
404	深鉢	胴部	— — —	細文RLを沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 5/1	M-2 V区	中期後葉 加曾利EIV式
405	両耳壺	把手	— — —	細文RL。	ナデ。	角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	にぶい黄橙色 10YR 7/3	M-2 IV区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
406	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文下をナデる。地文細文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい黄橙色 10YR 7/3	M-2 IV区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
407	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文。その後、細文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	M-2 IV区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
408	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文下を沈線でなぞる。地文細文RL。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	灰白色 10YR 7/1	M-2 III区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
409	深鉢	胴部	— — —	横位沈線下に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	M-2 III区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
410	深鉢	胴部	— — —	2条の縦位微隆起帯文わきに細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	M-2	中期後葉 加曾利EIV式
411	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文わきに細文LR。区画外に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	M-2 IV区 I層	中期後葉 加曾利EIV式
412	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下微隆起帯文下を沈線でなぞる。地文密な斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	橙色 7.5YR 7/6	M-2 II区 I層	中期後葉
413	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	M-2 II区 I層	中期後葉
414	深鉢	胴部	— — —	縦位の短い沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	M-2 IV区 I層	中期後葉
415	深鉢	口縁部	— — —	渦巻きつなぎ弧文(隆起・沈線)による区画の地文に細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	灰白色 10YR 7/1	M-3 I区	中期後葉 加曾利EII式 並行
416	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と細文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	灰白色 10YR 8/2	M-3 I区	中期後葉
417	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と細文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	M-3 I区	中期後葉
418	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に細文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	明褐色 5YR 7/2	M-3 I区	中期後葉

第168表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

挿図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
419	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	縦位沈線。その後、縄文R.L。	タテ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	明褐色 5YR 7/2	M-3 IV区	中期後葉
420	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文R.L。	ヨコ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/3	灰白色 5YR 8/2	M-3 I区	中期後葉
421	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁に沿う突起を持つ微隆起帯文。以下 細文L.R。	ヨコ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 5/1	褐色 10YR 6/1	M-3 IV区	中期後葉
422	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁に沿う微隆起帯文。以下、環状沈 線。その後、縄文L.R。	ヨコ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	M-3 I区	中期後葉
423	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に横引き沈線。以下、沈線区画内 に縄文R.L。	ヨコ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/1	にぶい褐色 7.5YR 6/4	M-3 I区	中期後葉
424	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部に横引き沈線。以下、縄文L.R。	ヨコ方向のナ デ	白色粒子	にぶい橙色 5YR 6/3	にぶい褐色 5YR 7/3	M-3 IV区	中期後葉
425	深鉢	胴部	— — —	楕円状隆起帯外周を沈線でなぞり、縄文L.R。	ヨコ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 7/1	M-3 IV区	中期後葉
426	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画内に縄文R.L。	ヨコ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	M-3 I区	中期後葉
427	深鉢	胴部	— — —	2条の縦位隆起帯。	タテ方向のナ デ	白色粒子 角閃石	明赤褐色 2.5YR 5/6	にぶい褐色 7.5YR 7/4	M-3 I区	中期後葉
428	深鉢	胴部	— — —	隆起区画内に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	にぶい褐色 5YR 7/4	M-3 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
429	深鉢	胴部	— — —	隆起区画内に斜行沈線。その後、三角印刻。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	M-3 IV区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
430	深鉢	胴部	— — —	半截竹管凹面による横位と斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	灰褐色 7.5YR 5/2	M-3 II区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
431	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 6/4	M-3 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
432	深鉢	胴部	— — —	多量の刺突。	ヨコ方向のナ デ。	—	褐色 10YR 5/1	にぶい褐色 7.5YR 7/3	M-3 II区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
433	深鉢	胴部	— — —	隆起区画上に沈線と交互刺突。 2条一組の環状隆起帯間に連続刺突。その内 外に密な斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 7/4	M-3 I区	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
434	深鉢	胴部	— — —	縄文R.Lを環状と縦位の沈線で区画。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	M-4	中期後葉 加曾利EⅣ式
435	深鉢	胴部	— — —	縦位微隆起帯文下をナデる。地文縄文R.L。	斜方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい褐色 5YR 6/4	M-4	中期後葉 加曾利EⅣ式
436	深鉢	胴部	— — —	環状微隆起帯文内外に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	褐色 5YR 6/6	M-4	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
437	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線と縄文R.L。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 5/2	M-4	中期後葉 加曾利EⅣ式

第169表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
438	深鉢	胴部	— — —	楕円微隆起帯文下を沈線でなぞる。区画内 地文は密な斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	M-4	中期後葉
439	深鉢	胴部	— — —	横位微隆起帯文下に細文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	M-4 J-3	中期後葉 加曾利EIV式
440	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線の組み合わせ。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母	にぶい赤褐色 2.5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	M-4 J-3	中期後半
441	深鉢	胴部	— — —	2条の環状隆帯内外に斜行沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	褐灰色 10YR 5/1	表採	中期後半
442	深鉢	胴部	— — —	環状隆帯区画内に環状沈線。	ヨコ方向のナ デ。	透明粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	表採	中期後半
443	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	渦巻き状隆帯下に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/3	表採	中期後半
444	深鉢	口縁 部	— — —	楕円隆帯区画下を沈線でなぞる。区画内地 文縦位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/2	表採	中期後半
445	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	楕円隆帯区画下を沈線でなぞる。地文斜行 沈線。以下も斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 7/4	表採	中期後半
446	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯間に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	橙色 5YR 7/6	表採	中期後半
447	深鉢	口縁 部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 7/6	表採	中期後半
448	深鉢	口縁 部	— — —	楕円区画沈線内に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	表採	中期後半
449	深鉢	胴部	— — —	縦位の密な沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 6/2	灰白色 10YR 7/1	表採	中期後半
450	深鉢	胴部	— — —	縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	橙色 5YR 7/6	表採	中期後半
451	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線の上に沈線を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子	淡黄色 2.5Y 8/3	灰白色 10YR 8/2	表採	中期後半
452	深鉢	胴部	— — —	2本一組の隆帯面わきに横位沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	淡褐色 5YR 8/3	表採	中期後半
453	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	表採	中期後半
454	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	表採	中期後半
455	深鉢	胴部	— — —	渦巻き状沈線を持つこぶ状突起から横位・ 縦位の隆帯区画。区画内に斜行沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	灰白色 10YR 8/2	表採	中期後半
456	深鉢	胴部	— — —	矩形の隆帯、沈線区画内地文に山形に組 み合わせた沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	明褐色 5YR 7/2	表採	中期後半

第170表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
457	深鉢	胴部	— — —	隆部下の沈線区画内に横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 7/6	表探	中期後半
458	深鉢	口縁部	— — —	端部の横引き沈線に並走する隆帯。そこから弧状の隆帯。地文縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	表探	中期後葉 加曾利E1式
459	深鉢	胴部	— — —	横位隆帯間に連続刺突。以下、波状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	表探	中期後半
460	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯を一定間隔に配し、間に縦位の密な沈線、刺突を充填。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	橙色 5YR 6/6	表探	中期後葉 曾利1式?
461	深鉢	胴部	— — —	密な縦位沈線間にU字状の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	表探	中期後葉 曾利1式?
462	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯両わきに縦位沈線が密に並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	表探	中期後葉 曾利1式?
463	深鉢	胴部	— — —	2本の縦位隆帯両わき密な縦位沈線と横位沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	橙色 5YR 7/6	表探	中期後半
464	深鉢	胴部	— — —	腕骨状隆帯両わきに横位隆帯。	不明。	黒雲母 透明粒子	橙色 5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/4	表探	中期後半
465	深鉢	胴部	— — —	縦位、横位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 7/6	表探	中期後半
466	深鉢	胴部	— — —	縦位隆帯両わきを沈線でなぞる。地文は斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/3	にぶい褐色 5YR 6/4	表探	中期後半
467	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下隆帯両わきを沈線でなぞる。地文は斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/4	にぶい褐色 5YR 7/4	表探	中期後半
468	深鉢	胴部	— — —	綾杉状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	橙色 5YR 6/6	表探	中期後半
469	深鉢	胴部	— — —	波状と直線の垂下隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	表探	中期後半
470	深鉢	胴部	— — —	横位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 2.5YR 6/6	橙色 2.5YR 6/6	表探	中期後半
471	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ横位隆帯下に矩形区画の沈線。区画内に燃系文R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	明褐色 7.5YR 7/1	褐色 7.5YR 6/1	表探	中期後半
472	深鉢	胴部	— — —	燃系文L。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/2	表探	中期後半
473	深鉢	胴部	— — —	燃系文L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい赤褐色 5YR 5/3	表探	中期後半
474	深鉢	胴部	— — —	燃系文L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	表探	中期後半
475	深鉢	胴部	— — —	密な連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	表探	中期後半

第171表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

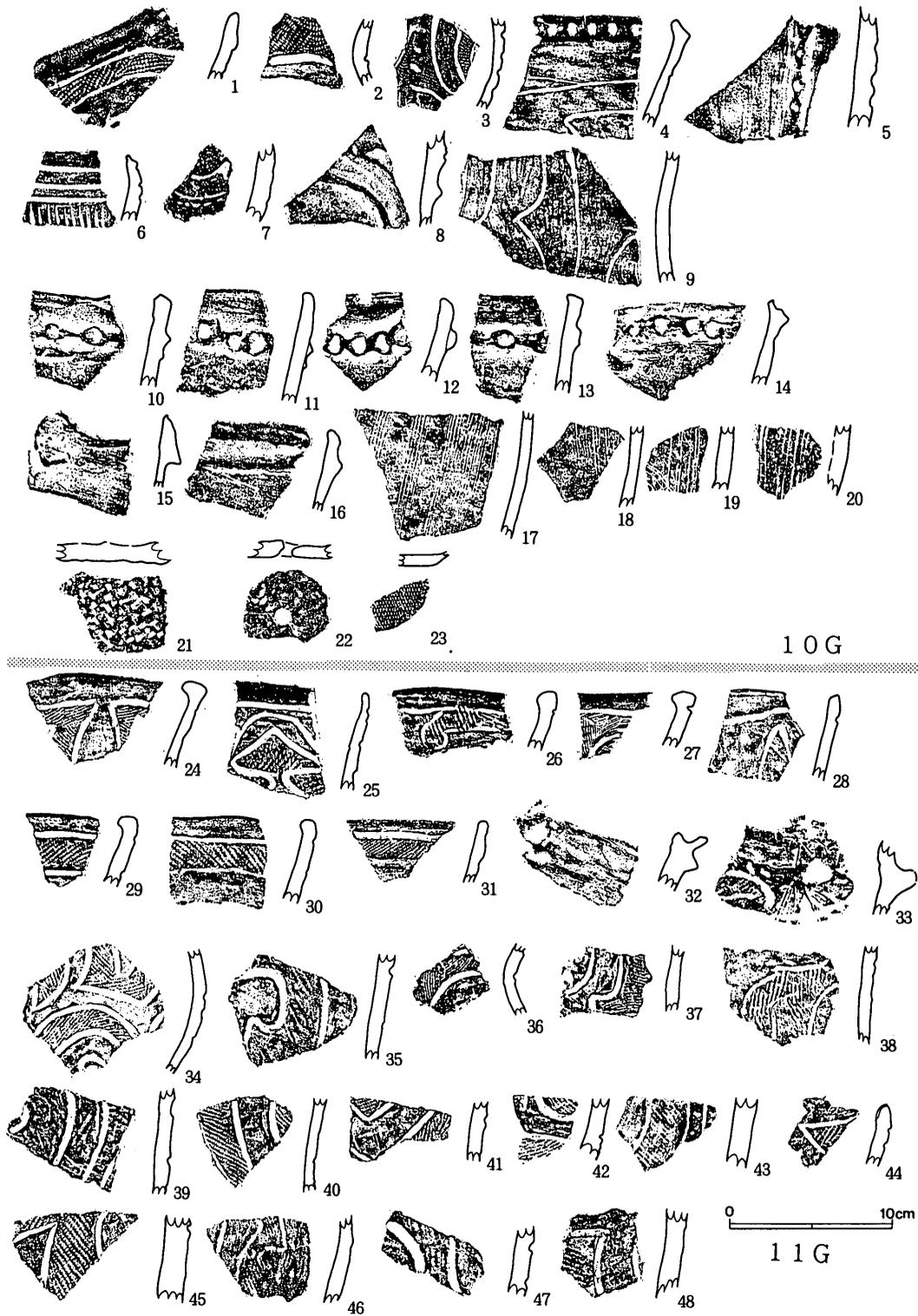
挿図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
476	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に垂下する蛇行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	表採	中期後半
477	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に垂下する蛇行沈線。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/4	にぶい橙色 5YR 6/4	表採	中期後半
478	深鉢	胴部	— — —	横引き沈線と垂下する蛇行沈線下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	表採	中期後半
479	深鉢	胴部	— — —	縄文LR上に矩形区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	浅黄橙色 10YR 8/3	す-11G 1区	中期後半
480	深鉢	口縁部	— — —	小突起あり。数条の横位の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	表採	中期後半
481	深鉢	胴部	— — —	2本一組の垂下降帯両わきに波状沈線。その下に縦位沈線。	ヨコ方向のナデ。	角閃石 黒雲母	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	表採	中期後半
482	深鉢	胴部	— — —	2本の隆帯両側に並走する垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	表採	中期後葉 加曾利EⅠ・Ⅱ式 並行
483	深鉢	胴部	— — —	爪形の連続刺突区画内に円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	橙色 7.5YR 7/6	表採	中期中葉 猪沢式
484	深鉢	口縁部	— — —	端部に縦位の短い沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	表採	中期後半
485	深鉢	口縁部	— — —	端部横引き沈線下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	橙色 5YR 6/6	表採	中期後半
486	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯下に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰褐色 5YR 6/2	表採	中期後半
487	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	褐灰色 10YR 6/1	表採	中期後半
488	深鉢	底部	— — —	木葉痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/4	表採	中期後半
489	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	にぶい橙色 10YR 7/3	表採	中期後葉 加曾利EⅣ式
490	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	橙色 5YR 7/6	表採	中期後葉 加曾利EⅣ式
491	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	橙色 7.5YR 7/6	表採	中期後葉 加曾利EⅣ式
492	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	表採	中期後葉 加曾利EⅣ式
493	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	横位微隆起帯文下に縄文RL。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	表採	中期後葉 加曾利EⅣ式
494	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。環状の微隆起帯文。	ヨコ方向のナデ。	角閃石	灰黄色 2.5Y 7/2	灰黄色 2.5Y 7/2	表採	中期後葉

第172表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

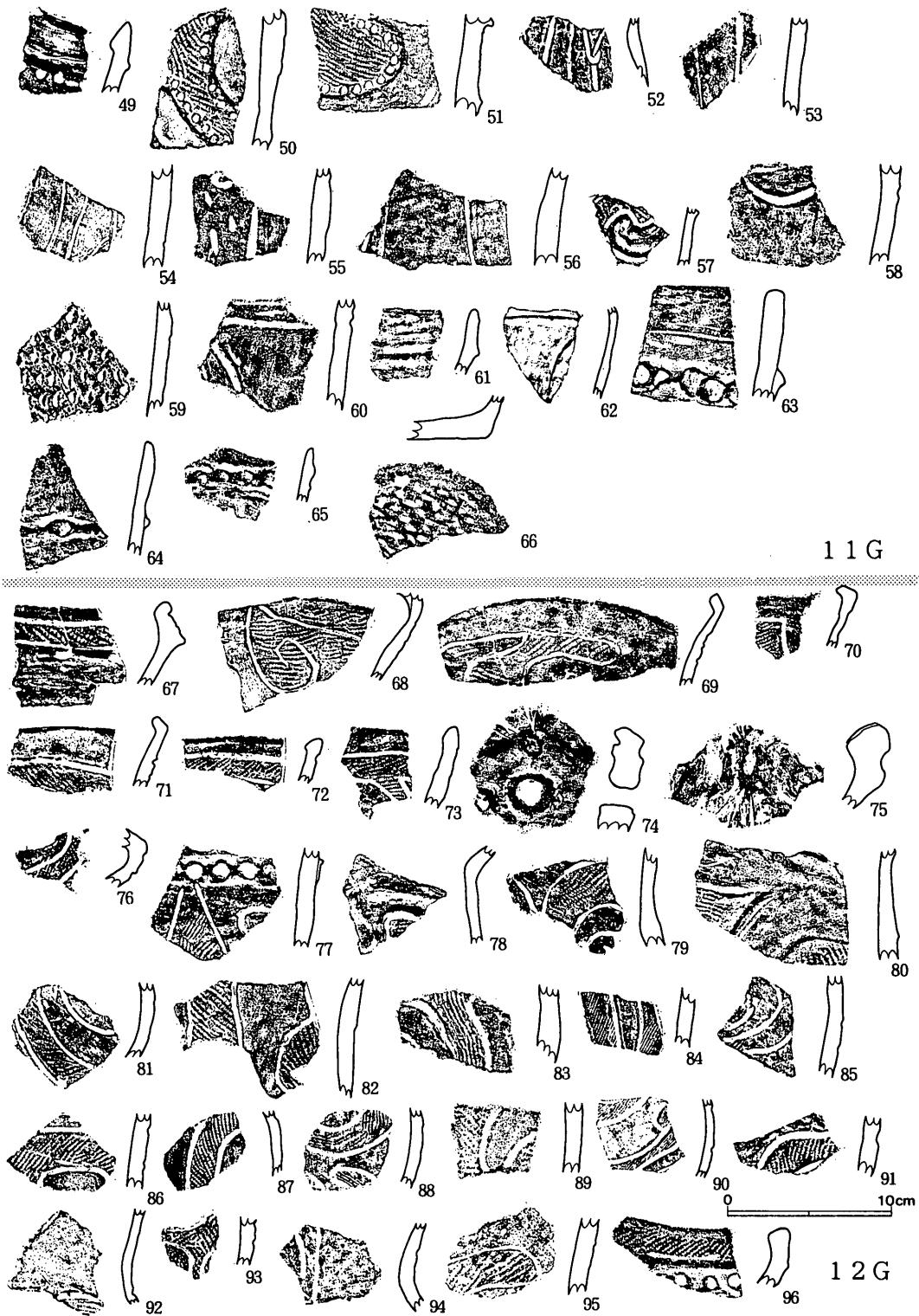
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
495	深 鉢	胴部	— — —	楕円区画隆帯内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	褐灰色 10YR 6/1	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
496	深 鉢	胴部	— — —	環状隆帯区画外に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
497	深 鉢	胴部	— — —	隆帯区画間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 6/4	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
498	深 鉢	胴部	— — —	横位隆帯下に弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 5/6	褐色 7.5YR 6/6	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
499	深 鉢	胴部	— — —	楕円状沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	浅黄褐色 10YR 8/3	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
500	深 鉢	胴部	— — —	楕円状沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 2.5Y 8/2	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
501	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 7/3	灰白色 10YR 8/2	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
502	深 鉢	胴部	— — —	弧状沈線。その後、縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	浅黄褐色 10YR 8/3	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
503	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 透明粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 6/4	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
504	深 鉢	胴部	— — —	弧状沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	灰白色 10YR 8/1	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
505	深 鉢	胴部	— — —	弧状沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/2	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
506	深 鉢	胴部	— — —	細い沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
507	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	灰白色 10YR 8/1	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
508	深 鉢	胴部	— — —	弧状沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰白色 10YR 7/1	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
509	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 10YR 7/2	褐灰色 7.5YR 6/1	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
510	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文R L。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 6/4	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
511	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 5/1	にぶい黄褐色 10YR 7/3	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
512	深 鉢	胴部	— — —	縦位隆帯下に縄文R L。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	にぶい褐色 5YR 7/4	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式
513	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	表探	中期後葉 加曾利EⅣ式

第173表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

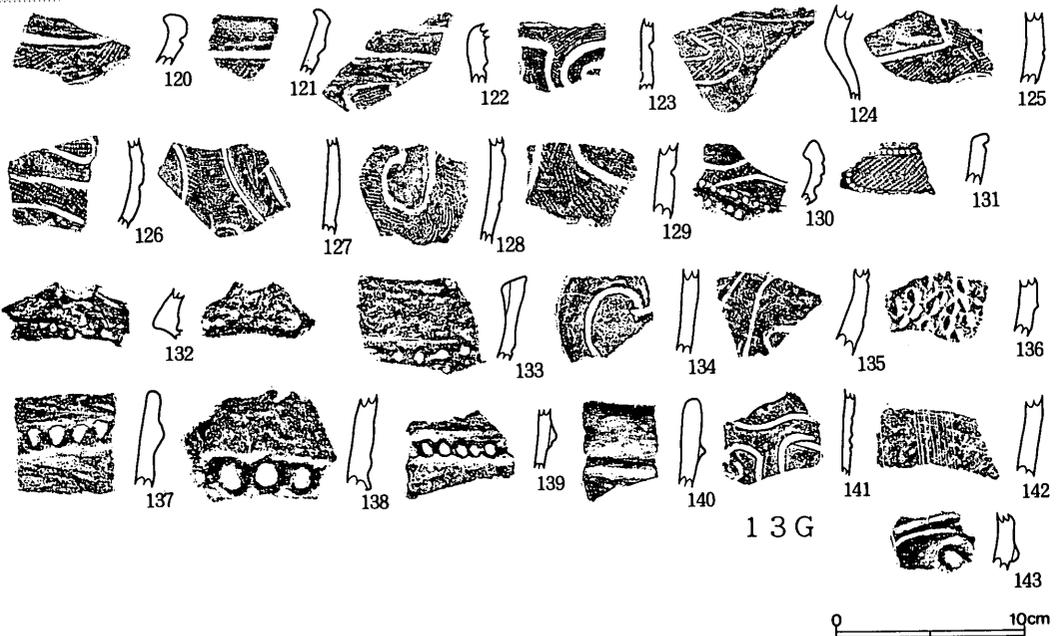
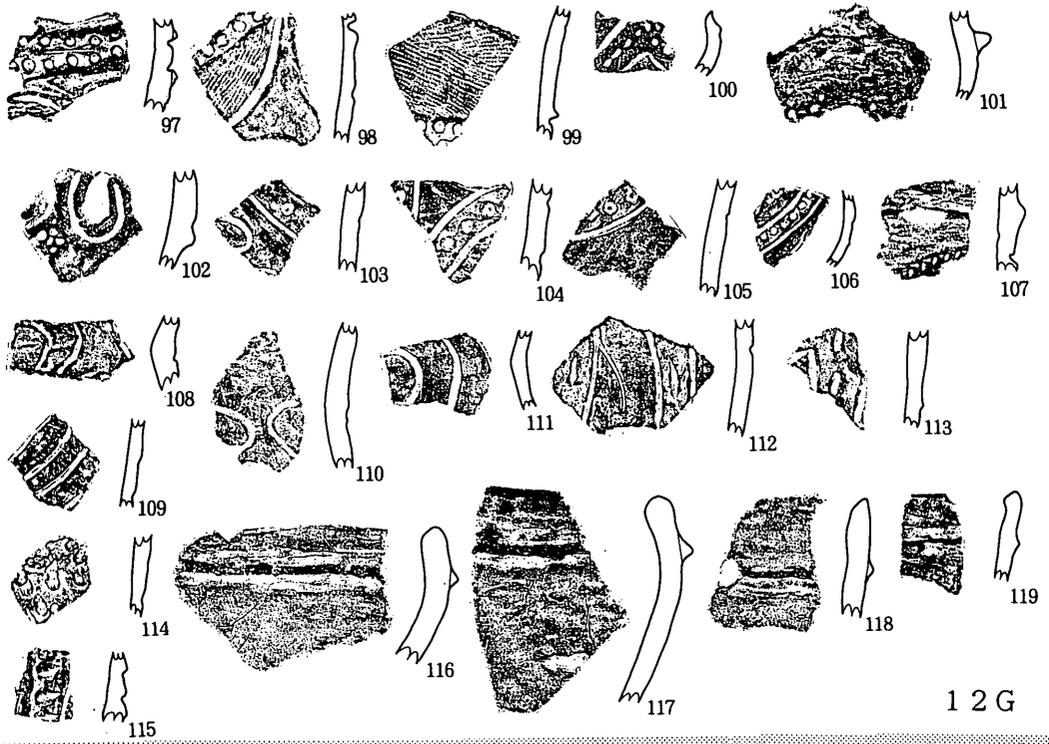
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
514	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 10YR 8/3	浅黄橙色 10YR 8/3	表探	中期後半
515	深 鉢	胴部	— — —	縦位沈線間に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	表探	中期後半
516	深 鉢	胴部 ～ 底部	— — —	縦位沈線間に縄文LR。	ナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	表探	中期後半



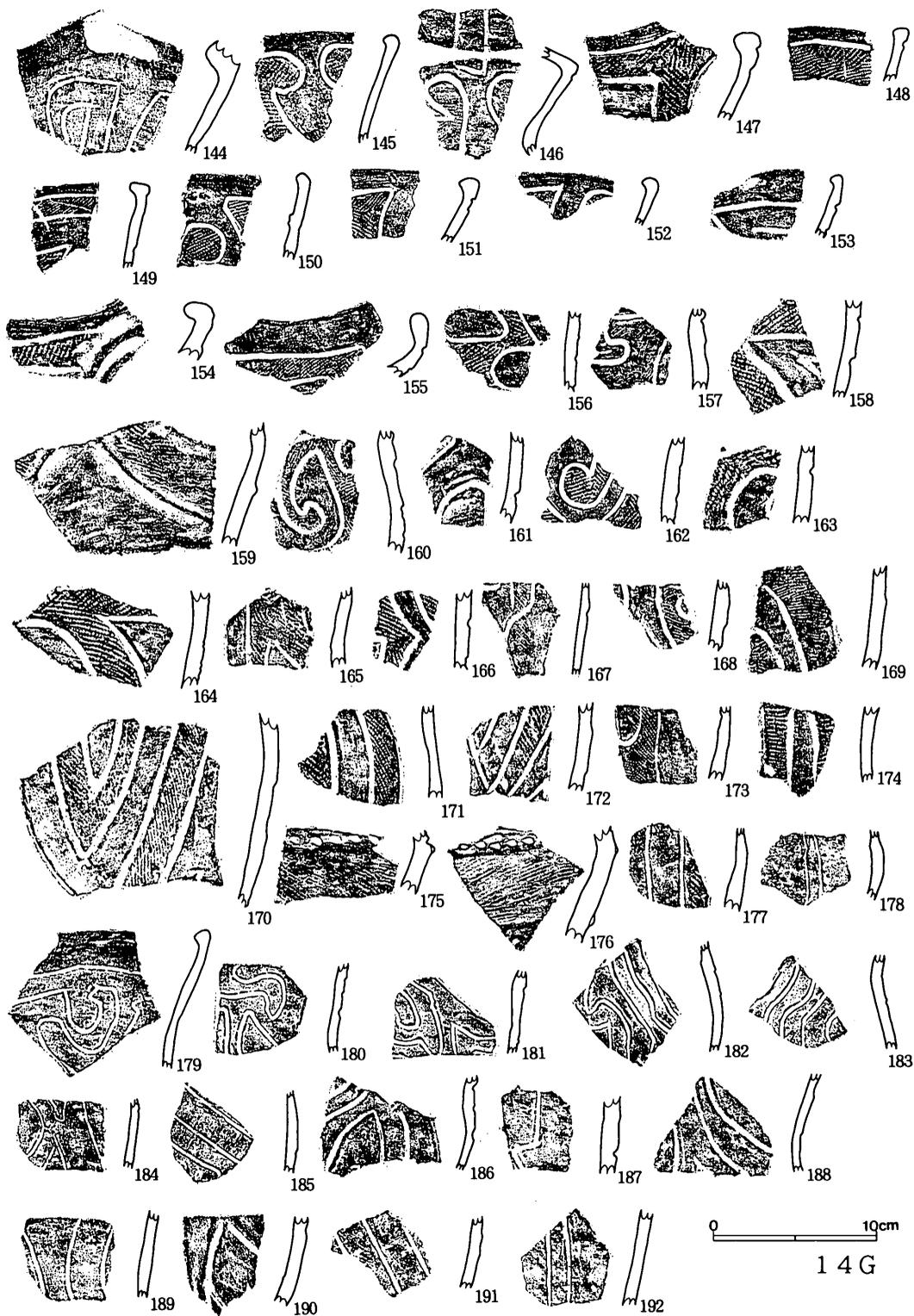
第166図 グリッド出土縄文後期初頭土器 (1:4) <1>



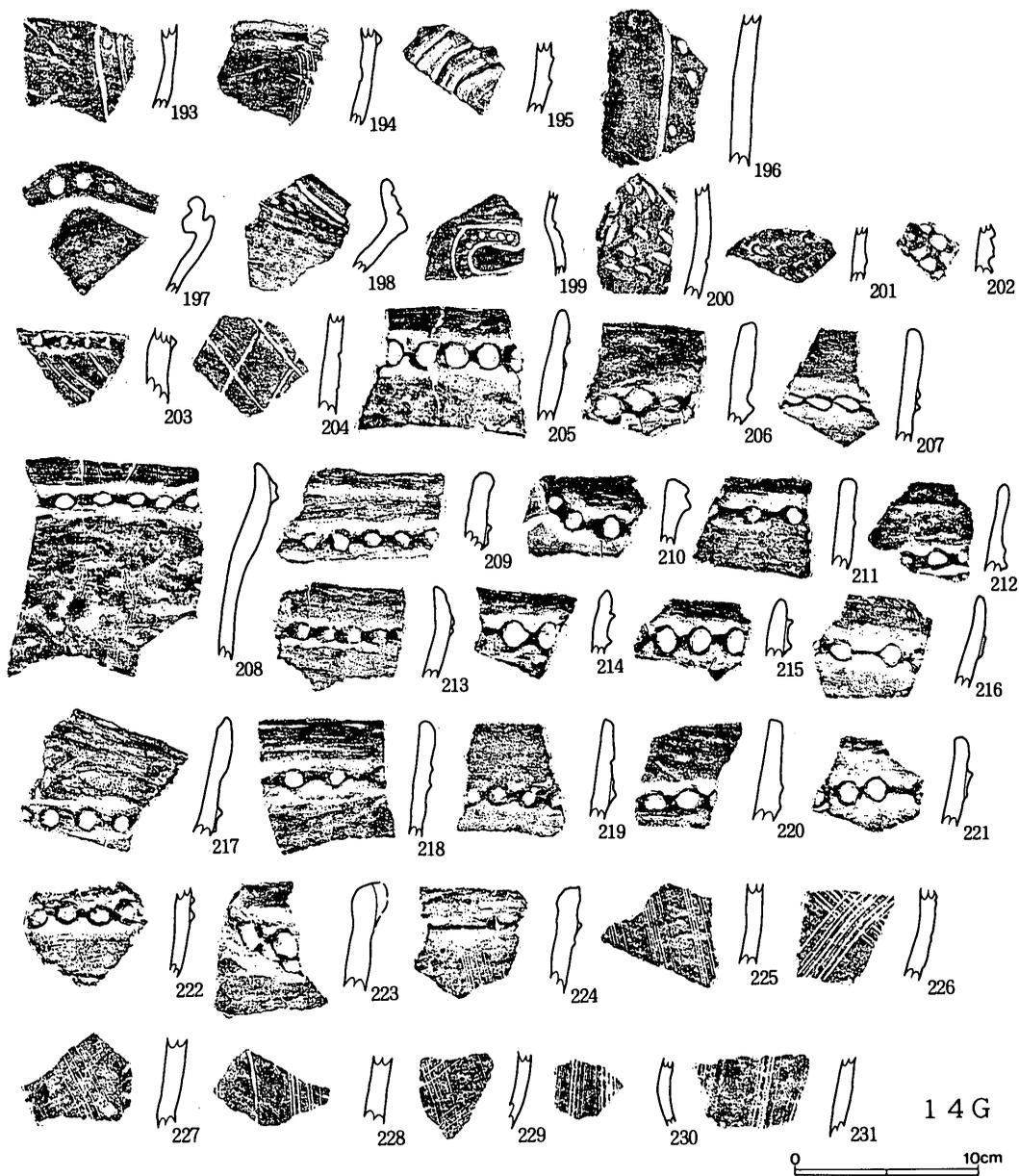
第167図 グリッド出土縄文後期初頭土器 (1:4) <2>



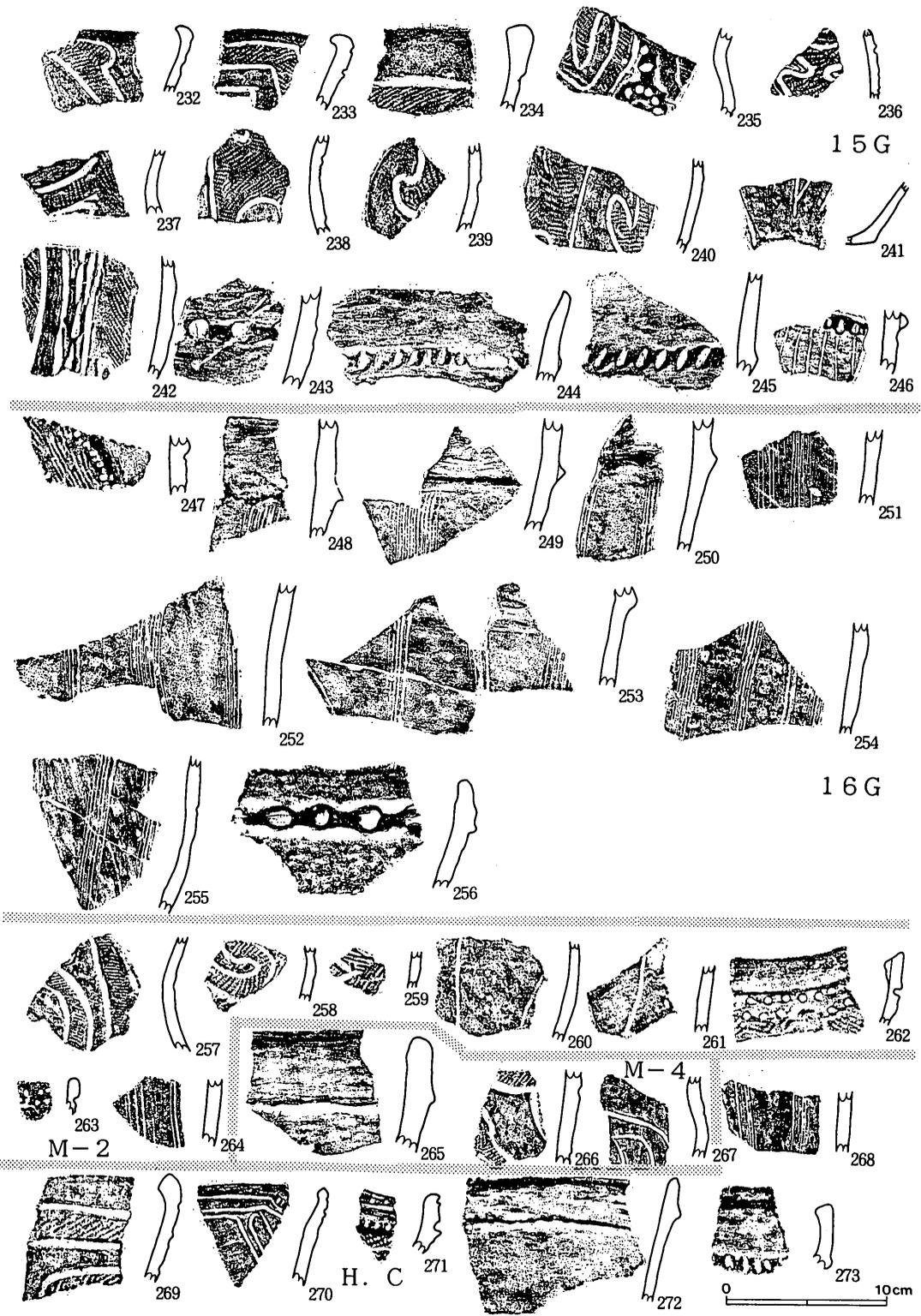
第168図 グリッド出土縄文後期初頭土器 (1:4) <3>



第169図 グリッド出土縄文後期初頭土器 (1:4) <4>



第170図 グリッド出土縄文後期初頭土器 (1:4) <5>



第171図 グリッド出土縄文後期初頭土器 (1:4) <6>

第174表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
1	深鉢	胴部	— — —	波状口縁。口縁部に並走する2条の沈線間に縄文L R充填。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 黒雲母 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	つ-10G IV区	後期初頭
2	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	ち-10G III区	後期初頭
3	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯を沈線区画。その後、縄文R L。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 6/2	た-10G III区	後期初頭
4	深鉢	胴部	— — —	端部に刺突。沈線で区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	つ-10G	後期初頭
5	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 2.5Y 7/1	つ-10G II区	後期初頭
6	深鉢	胴部	— — —	3条の横引き沈線下に縦位沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-10G III区	後期前葉?
7	深鉢	胴部	— — —	2条の弧状沈線周囲に連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	た-10G III区	後期初頭
8	深鉢	胴部	— — —	2条の弧状隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	て-10G III区	後期初頭
9	深鉢	胴部	— — —	沈線のみの文様区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 2.5Y 8/2	つ-10G	後期初頭
10	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	ち-10G II区	後期初頭
11	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子	褐色 7.5YR 4/4	橙色 5YR 7/6	つ-10G II区	後期初頭
12	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 5YR 6/6	と-10G IV区	後期初頭
13	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	て-10G IV区	後期初頭
14	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部押圧による波状を呈する。直下圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	灰白色 2.5Y 8/2	た-10G III区	後期初頭
15	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部に突起。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	灰黄褐色 10YR 5/2	た-10G III区	後期初頭
16	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	つ-10G I区	後期初頭
17	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	つ-10G	後期初頭
18	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-10G III区	後期初頭
19	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下する沈線。	不明。	白色粒子	灰白色 10YR 8/1	灰白色 2.5Y 8/2	た-10G III区	後期初頭

第175表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
20	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下する沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	つ-10G Ⅳ区	後期初頭
21	深鉢	底部	— — —	網代痕。	不明。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい橙色 7.5YR 6/4	つ-10G Ⅲ区	後期初頭
22	深鉢	底部	— — —	中央に焼成後の穿孔。	不明。	白色粒子 角閃石	灰白色 2.5Y 8/2	灰黄色 2.5Y 7/2	た-10G Ⅲ区	後期初頭
23	深鉢	底部	— — —	網代痕。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	そ-10G Ⅲ区	後期初頭
24	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。 沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向の丁 寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-11G Ⅰ区	後期初頭
25	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に横引きの沈線。以下三角形沈線 区画内などに縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	つ-11G Ⅱ区	後期初頭
26	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/3	す-11G Ⅰ区	後期初頭
27	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線内に縄文L R。	ヨコ方向の丁 寧なナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	橙色 5YR 6/6	し-11G Ⅲ区	後期初頭
28	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に横引きの沈線。以下剣先状沈線内 に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/3	し-11G Ⅲ区	後期初頭
29	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。2条の沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	褐灰色 10YR 6/1	し-11G Ⅲ区	後期初頭
30	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	2条の横引き沈線間に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 2.5Y 8/2	す-11G Ⅰ区	後期初頭
31	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	2条の横引き沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	灰褐色 5YR 5/2	た-11G Ⅰ区	後期初頭
32	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	環状の突起。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 黒色粒子	浅黄褐色 10YR 8/3	褐灰色 10YR 5/1	す-11G Ⅱ区	後期初頭
33	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部に橋状の把手。胴部沈線区画内に縄 文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 7/6	にぶい褐色 5YR 6/4	す-11G	後期初頭
34	深鉢	胴部	— — —	縄文L Rを沈線で区画。一部磨消。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 5YR 6/6	褐色 5YR 6/6	す-11G Ⅰ区	後期初頭
35	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文R L。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい褐色 5YR 6/4	す-11G Ⅳ区	後期初頭
36	深鉢	胴部	— — —	二段J字状沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 7.5YR 8/3	灰白色 10YR 8/2	し-11G Ⅲ区	後期初頭
37	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-11G Ⅰ区	後期初頭
38	深鉢	胴部	— — —	沈線で区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	灰白色 7.5YR 8/2	す-11G	後期初頭

第176表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
39	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 5YR 6/4	にぶい 橙色 7.5YR 7/3	す-11G	後期初頭
40	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 7/1	す-11G	後期初頭
41	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい 黄褐色 10YR 7/2	と-11G I区	後期初頭
42	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	と-11G IV区	後期初頭
43	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	た-11G II区	後期初頭
44	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 5/1	す-11G II区	後期初頭
45	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	す-11G	後期初頭
46	深鉢	胴部	— — —	沈線区画外に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 黄褐色 10YR 7/3	にぶい 黄褐色 10YR 7/4	す-11G	後期初頭
47	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/1	す-11G I区	後期初頭
48	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 褐色 7.5YR 5/3	にぶい 橙色 7.5YR 7/3	す-11G	後期初頭
49	深鉢	口縁部	— — —	波状口縁。隆帯下に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	にぶい 黄褐色 10YR 7/2	す-11G	後期初頭
50	深鉢	胴部	— — —	弧状の隆帯区画内に縄文RL。その上に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 褐色 7.5YR 6/3	灰黄褐色 10YR 5/2	す-11G II区	後期初頭
51	深鉢	胴部	— — —	楕円状隆帯区画内に縄文RL。その上に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 橙色 7.5YR 7/4	灰黄褐色 10YR 5/2	す-11G II区	後期初頭
52	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい 黄褐色 10YR 7/3	す-11G I区	後期初頭
53	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 褐色 7.5YR 5/3	にぶい 橙色 7.5YR 6/4	す-11G IV区	後期初頭
54	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい 黄褐色 10YR 7/3	にぶい 黄褐色 10YR 7/4	す-11G	後期初頭
55	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	浅黄褐色 10YR 8/4	す-11G I区	後期初頭
56	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい 橙色 7.5YR 7/3	す-11G	後期初頭
57	深鉢	胴部	— — —	J字状の隆帯区画に沿って沈線。その外に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい 褐色 7.5YR 5/3	す-11G	後期初頭

第177表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
58	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	橙色 5YR 6/6	す-11G I区	後期初頭
59	深鉢	胴部	— — —	大量の爪形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい黄橙色 10YR 6/3	す-11G IV区	後期初頭
60	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。一部縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 5/2	そ-11G	後期初頭
61	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-11G	後期初頭
62	深鉢	胴部	— — —	横位と弧状の隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	せ-11G	後期初頭
63	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	灰白色 10YR 8/2	し-11G III区	後期初頭
64	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-11G	後期初頭
65	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-11G	後期初頭
66	深鉢	底部	— — —	網代痕。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい褐色 5YR 7/3	し-11G III区	後期初頭
67	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部屈曲。口縁部沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	す-12G	後期初頭
68	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部屈曲。縄文LRを渦巻き状沈線で区画。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 7/1	す-12G	後期初頭
69	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部屈曲。胴部沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	す-12G	後期初頭
70	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部屈曲。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい褐色 7.5YR 6/3	そ-12G II区	後期初頭
71	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	端部屈曲。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	灰白色 10YR 7/1	す-12G	後期初頭
72	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-12G	後期初頭
73	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/3	にぶい褐色 5YR 7/4	せ-12G	後期初頭
74	浅鉢	口縁 部	— — —	把手。円孔あり。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	し-12G	後期初頭
75	深鉢	口縁 部	— — —	沈線と刺突を持つ把手下に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	褐灰色 7.5YR 4/1	そ-12G III区	後期初頭
76	深鉢	口縁 部	— — —	波状口縁。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	褐灰色 10YR 5/1	そ-12G II区	後期初頭

第178表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押区 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
77	深鉢	胴部	— — —	圧痕を持つ隆帯下の沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰白色 10YR 8/2	す-12G	後期初頭
78	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐灰色 7.5YR 7/2	褐灰色 10YR 5/1	す-12G	後期初頭
79	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰黄褐色 10YR 6/2	す-12G	後期初頭
80	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	す-12G	後期初頭
81	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	す-12G	後期初頭
82	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 7.5YR 4/1	浅黄褐色 10YR 8/3	す-12G	後期初頭
83	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-12G	後期初頭
84	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	す-12G	後期初頭
85	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線上に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-12G	後期初頭
86	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/2	す-12G	後期初頭
87	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 5YR 6/4	す-12G	後期初頭
88	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	タテ、ヨコ方 向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰黄褐色 10YR 6/2	す-12G	後期初頭
89	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰黄褐色 10YR 6/2	す-12G II区	後期初頭
90	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 6/1	灰白色 10YR 7/1	す-12G	後期初頭
91	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	せ-12G	後期初頭
92	深鉢	胴部	— — —	沈線区画と縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	せ-12G	後期初頭
93	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	暗赤褐色 5YR 3/6	明赤褐色 5YR 5/6	せ-12G	後期初頭
94	深鉢	胴部	— — —	縄文と沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰黄褐色 10YR 6/2	さ-12G	後期初頭
95	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-12G II区	後期初頭

第179表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
96	深鉢	胴部	— — —	波状口縁で縄文LR施文。以下隆帯に沿う 円形の連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/4	す-12G	後期初頭
97	深鉢	胴部	— — —	隆帯間に2列の円形連続刺突。以下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰黄褐色 10YR 6/2	す-12G	後期初頭
98	深鉢	胴部	— — —	隆帯間に円形の連続刺突。以下沈線区画内 に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 5/2	にぶい橙色 7.5YR 7/3	せ-12G	後期初頭
99	深鉢	胴部	— — —	区画間に2列の円形連続刺突を持つ隆帯と 縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	す-12G	後期初頭
100	深鉢	胴部	— — —	沈線で三角形に区画された縄文上に連続 刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	せ-12G	後期初頭
101	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	円形連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰白色 10YR 8/2	さ-12G	後期初頭
102	深鉢	口縁 部	— — —	波頂部にU字状の沈線。両わきの隆帯区画 間に2列の円形連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	さ-12G	後期初頭
103	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に円形連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 6/6	せ-12G	後期初頭
104	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に円形連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	せ-12G	後期初頭
105	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に円形連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい黄褐色 10YR 7/2	す-12G	後期初頭
106	深鉢	胴部	— — —	弧状沈線区画内に円形連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 5YR 6/3	灰褐色 5YR 5/2	さ-12G	後期初頭
107	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	隆帯下の弧状沈線上に円形の連続刺突。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	にぶい橙色 5YR 6/4	せ-12G	後期初頭
108	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	す-12G II区	後期初頭
109	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線内に縄文RL。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	せ-12G	後期初頭
110	深鉢	口縁 部	— — —	円形の沈線区画が並ぶ。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	さ-12G	後期初頭
111	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-12G II区	後期初頭
112	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画内に連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	す-12G	後期初頭
113	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	淡黄色 2.5Y 8/3	す-12G	後期初頭
114	深鉢	胴部	— — —	多量の刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	そ-12G II区	後期初頭

第180表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

挿図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
115	深 鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯と沈線。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 4/4	にぶい橙色 5YR 6/4	す-12G II区	後期初頭
116	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/3	灰白色 10YR 7/1	し-12G	後期初頭
117	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石	灰白色 10YR 7/1	褐灰色 10YR 6/1	し-12G	後期初頭
118	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	灰黄褐色 10YR 6/2	せ-12G	後期初頭
119	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	明褐色 7.5YR 7/2	灰白色 10YR 8/1	す-12G	後期初頭
120	深 鉢	口縁 部	— — —	横位沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 5YR 4/2	にぶい橙色 5YR 6/4	た-13G III区	後期初頭
121	深 鉢	口縁 部	— — —	横位沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	灰褐色 7.5YR 5/2	ち-13G I区	後期初頭
122	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-13G III区	後期初頭
123	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画外に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	灰黄褐色 10YR 6/2	つ-13G IV区	後期初頭
124	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-13G III区	後期初頭
125	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-13G IV区	後期初頭
126	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-13G III区	後期初頭
127	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰褐色 7.5YR 5/2	と-13G	後期初頭
128	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰黄褐色 10YR 6/2	た-13G IV区	後期初頭
129	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	不明。	白色粒子 角閃石	淡黄色 2.5Y 8/3	灰白色 2.5Y 7/1	し-13G	後期初頭
130	深 鉢	口縁 部	— — —	沈線区画隆帯面わきに円形の連続刺突。外 に縄文LR充填。	ヨコ方向の雑 なナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	浅黄褐色 7.5YR 8/3	そ-13G	後期初頭
131	深 鉢	口縁 部	— — —	円形連続刺突を持つ沈線の楕円区画内に縄 文LR。	ヨコ方向の丁 寧なナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	灰褐色 7.5YR 5/2	ち-13G III区	後期初頭
132	深 鉢	口縁 部	— — —	突起あり。内外面に連続刺突。	不明。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	褐灰色 10YR 6/2	た-13G III区	後期初頭
133	深 鉢	口縁 部	— — —	口縁部下の隆帯上に円形の連続刺突。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 7/6	にぶい褐色 7.5YR 7/4	す-13G	後期初頭

第181表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
134	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黄褐色 7.5YR 7/8	橙色 7.5YR 6/6	ち-13G Ⅳ区	後期初頭
135	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 5YR 6/4	にふい橙色 5YR 6/4	ち-13G Ⅰ区	後期初頭
136	深鉢	胴部	— — —	多量の爪形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にふい黄褐色 10YR 6/4	ち-13G Ⅲ区	後期初頭
137	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 6/3	にふい黄褐色 10YR 7/3	ち-13G Ⅳ区	後期初頭
138	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい橙色 7.5YR 6/4	にふい橙色 7.5YR 7/3	せ-13G	後期初頭
139	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	にふい黄褐色 10YR 6/3	つ-13G Ⅳ区	後期初頭
140	粗製 深鉢	胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黒褐色 10YR 3/1	にふい黄褐色 10YR 6/3	ち-13G Ⅳ区	後期初頭
141	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	?	にふい黄褐色 10YR 5/3	にふい黄褐色 10YR 5/3	つ-13G Ⅳ区	後期初頭
142	粗製 深鉢	胴部	— — —	筒歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	にふい橙色 7.5YR 6/4	ち-13G Ⅲ区	後期初頭
143	深鉢	胴部	— — —	弧状隆帯下に沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/4	にふい黄褐色 10YR 7/4	つ-13G Ⅳ区	後期初頭
144	深鉢	胴部	— — —	口縁部小波状。沈線区画内に縄文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	にふい褐色 7.5YR 5/4	ち-14G Ⅳ区	後期初頭
145	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。V字状沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	にふい褐色 7.5YR 5/3	ち-14G Ⅲ区	後期初頭
146	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	明赤褐色 5YR 5/6	橙色 5YR 7/6	ち-14G Ⅱ区	後期初頭
147	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。口縁部内折。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい褐色 7.5YR 5/3	にふい黄褐色 10YR 7/2	た-14G Ⅱ区	後期初頭
148	深鉢	口縁 部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 6/4	にふい黄褐色 10YR 7/2	ち-14G Ⅱ区 黒	後期初頭
149	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい赤褐色 5YR 4/4	にふい赤褐色 5YR 5/3	ち-14G Ⅲ区	後期初頭 煤付着
150	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 6/3	にふい黄褐色 10YR 5/4	た-14G Ⅱ区	後期初頭 鉄分付着
151	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向の丁寧なナデ。	白色粒子 角閃石	にふい黄褐色 10YR 7/3	にふい黄褐色 10YR 7/3	た-14G Ⅱ区	後期初頭
152	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	橙色 5YR 6/6	ち-14G Ⅲ区	後期初頭

第182表 グリッド出土遺物一覧表 <縄文土器>

押図 番号	器種	部位	法量	器形および文様	調整 (内面)	胎土	色調		出土 位置	備考
							外面	内面		
153	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線区画内に縄文。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-14G Ⅲ区	後期初頭
154	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。口縁部内折。波頂部から2本単位の環状隆帯。そのわきの沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-14G Ⅲ区	後期初頭
155	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	波状口縁。沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	にぶい褐色 7.5YR 7/4	た-14G Ⅱ区	後期初頭
156	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	灰黄褐色 10YR 6/2	た-14G Ⅲ区	後期初頭
157	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向の雑 なナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 5/3	ち-14G Ⅱ区	後期初頭
158	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 角閃石 多	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	た-14G Ⅱ区	後期初頭
159	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	?	にぶい黄褐色 10YR 7/2	灰白色 2.5Y 8/2	た-14G Ⅱ区	後期初頭
160	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画間に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石 多	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-14G Ⅱ区	後期初頭
161	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	ち-14G Ⅰ区 黒	後期初頭
162	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	た-14G Ⅲ区	後期初頭
163	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G Ⅱ区	後期初頭
164	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 5/4	た-14G	後期初頭
165	深鉢	胴部	— — —	沈線区画外に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	にぶい褐色 7.5YR 5/4	た-14G Ⅱ区	後期初頭
166	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	褐色 7.5YR 6/6	ち-14G	後期初頭
167	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内外に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	赤色粒子 白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 5YR 6/4	た-14G Ⅱ区	後期初頭
168	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 6/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	た-14G Ⅲ区	後期初頭
169	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画外に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	淡黄色 2.5Y 8/3	ち-14G Ⅲ区	後期初頭
170	深鉢	胴部	— — —	山形沈線区画内に縄文R L。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 7/2	た-14G Ⅱ区	後期初頭
171	深鉢	胴部	— — —	J字状沈線区画内に縄文L R。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-14G Ⅳ区	後期初頭

第183表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押出 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
172	深鉢	胴部	— — —	山形沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 7/6	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G II区	後期初頭
173	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画内外に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/2	ち-14G I区	後期初頭
174	深鉢	胴部	— — —	縦位沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄橙色 10YR 8/4	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G I区	後期初頭
175	深鉢	胴部	— — —	隆帯の上に連続刺突。下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/4	ち-14G II区	後期初頭
176	深鉢	胴部	— — —	隆帯の上に連続刺突。下に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-14G III区	後期初頭
177	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄橙色 10YR 6/4	ち-14G II区	後期初頭
178	深鉢	胴部	— — —	縄文RL上に2条の弧状沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/4	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G I区	後期初頭
179	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	J字文を取り入れた沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-14G III区	後期初頭
180	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	不明。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 6/3	ち-14G II区	後期初頭
181	深鉢	胴部	— — —	J字文を取り入れた沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/4	にぶい黄橙色 10YR 7/4	ち-14G III区	後期初頭
182	深鉢	胴部	— — —	J字文を取り入れた沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G II区	後期初頭
183	深鉢	胴部	— — —	J字文を取り入れた沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/3	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-14G II区	後期初頭
184	深鉢	胴部	— — —	J字文を取り入れた沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-14G II区	後期初頭
185	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/3	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G II区	後期初頭
186	深鉢	胴部	— — —	楕円状の沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/3	にぶい黄橙色 10YR 6/3	ち-14G II区	後期初頭
187	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G II区	後期初頭
188	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 5/4	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-14G II区	後期初頭
189	深鉢	胴部	— — —	弧状の沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	ち-14G III区	後期初頭
190	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	にぶい黄橙色 10YR 7/4	ち-14G IV区	後期初頭

第184表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
191	深鉢	胴部	— — —	斜行沈線区画内に縄文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	橙色 7.5YR 6/6	た-14G II区	後期初頭
192	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	橙色 5YR 6/6	にぶい橙色 7.5YR 7/4	ち-14G I区	後期初頭
193	深鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい橙色 7.5YR 7/3	ち-14G I区	後期初頭
194	深鉢	胴部	— — —	隆帯下に矩形の沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい黄橙色 10YR 7/2	た-14G II区	後期初頭
195	深鉢	胴部	— — —	弧状の隆帯区画。	不定方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/4	褐色 7.5YR 4/4	ち-14G I区	後期初頭
196	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/4	灰黄褐色 10YR 6/2	ち-14G II区	後期初頭
197	深鉢	口縁部	— — —	波頂部外面に3個、内面に1個の円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/1	にぶい黄橙色 10YR 6/4	た-14G II区	後期初頭
198	深鉢	口縁部	— — —	口縁部内折。波状口縁。横引き沈線と並走する連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/3	た-14G II区	後期初頭
199	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に円形連続刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 7.5YR 8/1	ち-14G I区	後期初頭
200	深鉢	胴部	— — —	沈線と多量の爪形の刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 6/4	にぶい黄橙色 10YR 7/3	ち-14G IV区	後期初頭
201	深鉢	胴部	— — —	多量の刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	にぶい黄橙色 10YR 7/4	ち-14G II区	後期初頭
202	深鉢	胴部	— — —	多量の爪形刺突。	ナデ。	黒雲母 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	て-14G	後期初頭
203	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ隆帯下に斜行する沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/2	た-14G II区	後期初頭
204	深鉢	胴部	— — —	斜格子状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/4	ち-14G I区	後期初頭
205	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	にぶい黄橙色 10YR 7/4	た-14G II区	後期初頭
206	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	にぶい橙色 7.5YR 7/4	た-14G II区	後期初頭
207	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	タテ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/2	浅黄褐色 10YR 8/4	た-14G III区	後期初頭
208	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	灰黄褐色 10YR 6/2	ち-14G I区	後期初頭
209	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄橙色 10YR 6/4	ち-14G II区	後期初頭

第185表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
210	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-14G II区	後期初頭
211	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	橙色 7.5YR 6/6	ち-14G I区	後期初頭
212	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 5/4	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-14G I区	後期初頭
213	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G II区	後期初頭
214	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/3	ち-14G I区	後期初頭
215	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	ち-14G I区	後期初頭
216	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	浅黄褐色 10YR 8/3	ち-14G II区	後期初頭
217	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	灰褐色 5YR 5/2	ち-14G I区	後期初頭
218	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい橙色 7.5YR 6/4	ち-14G I区	後期初頭
219	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G I区	後期初頭
220	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	浅黄褐色 10YR 8/3	ち-14G II区	後期初頭
221	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰白色 10YR 8/1	ち-14G I区	後期初頭
222	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	ち-14G II区	後期初頭
223	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 4/1	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-14G I区	後期初頭
224	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。隆帯下に櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	浅黄褐色 10YR 8/3	ち-14G I区	後期初頭
225	粗製鉢 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/4	褐色 7.5YR 7/6	ち-14G I区	後期初頭
226	粗製鉢 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による櫛状の沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-14G I区	後期初頭
227	粗製鉢 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	タテ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/3	にぶい褐色 7.5YR 6/3	ち-14G II区	後期初頭
228	粗製鉢 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	不定方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい褐色 7.5YR 6/4	ち-14G I区	後期初頭

第186表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

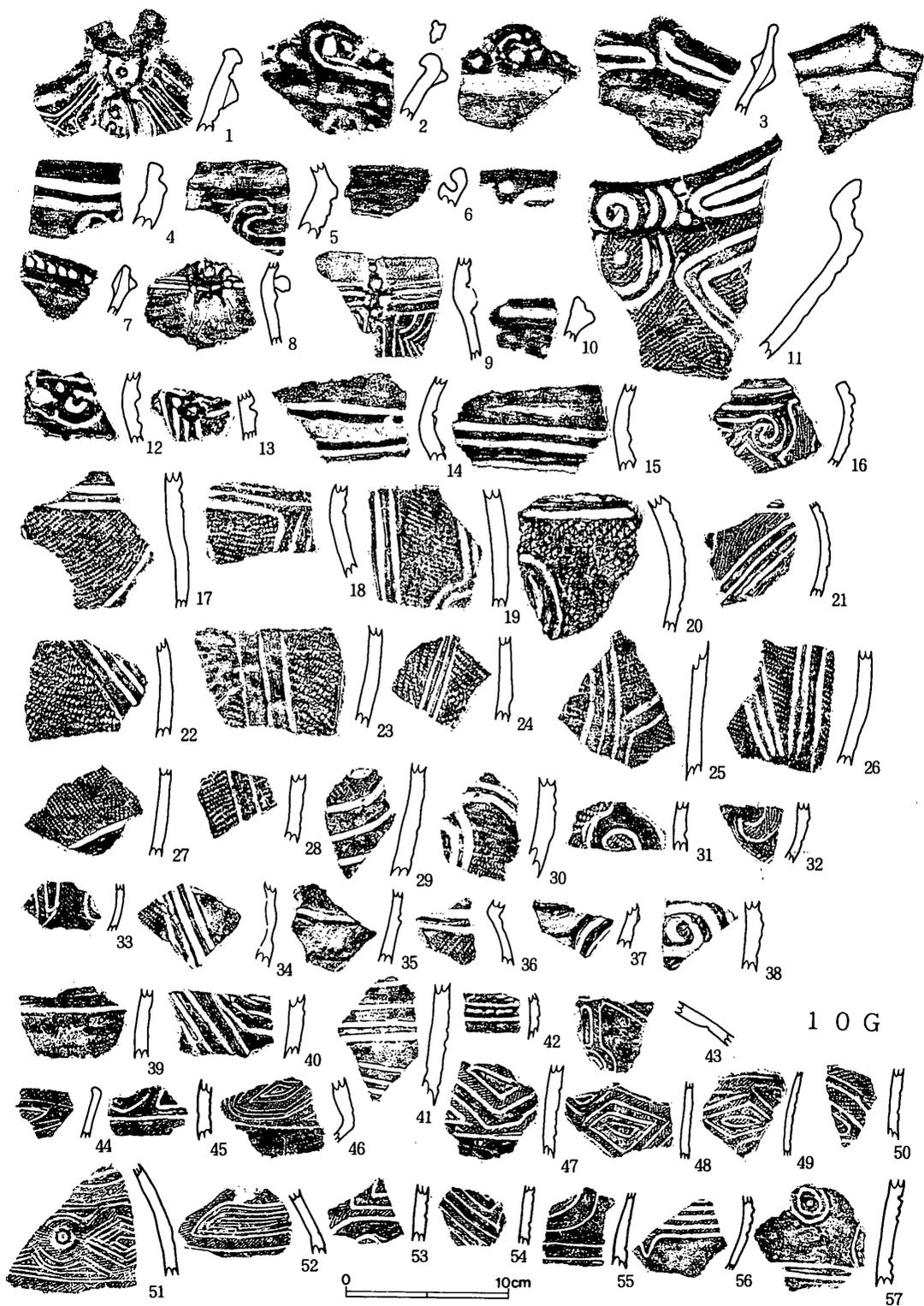
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
229	粗製 深鉢	胴部	— — —	斜格子状の沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 7/1	灰白色 10YR 8/1	ち-14G I区	後期初頭
230	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 4/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	ち-14G I区	後期初頭
231	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	灰白色 10YR 8/2	さ-14G	後期初頭
232	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	暗褐色 7.5YR 3/4	明褐色 7.5YR 5/6	つ-15G	後期初頭
233	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部内折。沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/2	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-15G II区	後期初頭
234	深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	た-15G II区	後期初頭
235	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯と円形刺突を持つ環状隆帯が連結。沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 6/6	にぶい褐色 7.5YR 5/4	つ-15G	後期初頭
236	深鉢	胴部	— — —	二段の逆三角状沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	つ-15G II区	後期初頭
237	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文RL。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	た-15G II区	後期初頭
238	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/3	た-15G II区	後期初頭
239	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	ち-15G I区	後期初頭
240	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-15G I区	後期初頭
241	深鉢	胴部 ～ 底部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	つ-15G II区	後期初頭
242	深鉢	胴部	— — —	刺突を持つ隆帯両わきに縦位沈線区画。区画内に縄文RL。	タテ、ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G II区	後期初頭
243	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-15G II区	後期初頭
244	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい褐色 7.5YR 5/3	た-15G II区	後期初頭
245	粗製 深鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 7/6	褐色 7.5YR 7/6	ち-15G II区	後期初頭
246	粗製 深鉢	胴部	— — —	圧痕を持つ隆帯下に縦位の沈線が並ぶ。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい赤褐色 5YR 5/4	褐色 7.5YR 7/6	た-15G II区	後期初頭
247	深鉢	胴部	— — —	隆帯区画内に縄文RL。区画下周囲に円形刺突。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 7/3	浅黄褐色 10YR 6/2	す-16G	後期初頭

第187表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
248	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。隆帯下に櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	浅黄褐色 10YR 8/4	ち-16G	後期初頭
249	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。隆帯下に櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母 白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 5/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-16G	後期初頭
250	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。隆帯下に櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 4/2	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-16G	後期初頭
251	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	黄褐色 7.5YR 7/8	褐色 7.5YR 7/6	ち-16G	後期初頭
252	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 5/2	にぶい黄褐色 10YR 6/4	ち-16G	後期初頭
253	粗製 深鉢	胴部	— — —	隆帯下に櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	褐色 7.5YR 7/6	灰白色 10YR 8/2	ち-16G	後期初頭
254	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	黒雲母	褐灰色 7.5YR 5/1	にぶい黄褐色 10YR 7/4	ち-16G	後期初頭
255	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	灰白色 10YR 8/2	灰白色 10YR 8/2	す-16G	後期初頭
256	粗製 深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に圧痕を持つ隆帯。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	浅黄褐色 10YR 8/3	にぶい黄褐色 10YR 7/3	M-2 Ⅲ区	後期初頭
257	深鉢	胴部	— — —	J字状の沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	M-2 Ⅲ区 1層	後期初頭
258	深鉢	胴部	— — —	刻みを持つ垂下隆帯とJ字状沈線区画。区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	にぶい赤褐色 5YR 5/4	M-2 Ⅲ区 1層	後期初頭
259	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/4	M-2 Ⅰ区 1層	後期初頭
260	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	タテ、ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 7/4	M-2 Ⅳ区 1層	後期初頭
261	深鉢	胴部	— — —	沈線と縄文。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/3	にぶい黄褐色 10YR 6/3	M-2 Ⅴ区	後期初頭
262	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	波状口縁。口縁部下2条の隆帯間に2列の円形連続刺突。以下隆帯と縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 6/3	灰黄褐色 10YR 5/2	M-2 Ⅳ区 1層	後期初頭
263	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	2列の円形連続刺突。	ナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	M-2 Ⅳ区 1層	後期初頭
264	粗製 深鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい褐色 7.5YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	M-2 Ⅳ区 1層	後期初頭
265	深鉢	口縁 ~ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナデ。	赤色粒子 白色粒子 角閃石	にぶい褐色 5YR 6/4	灰黄褐色 10YR 6/2	M-4	後期初頭
266	深鉢	胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナデ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄褐色 10YR 7/4	にぶい黄褐色 10YR 7/2	M-4	後期初頭

第188表 グリッド出土遺物一覧表 〈縄文土器〉

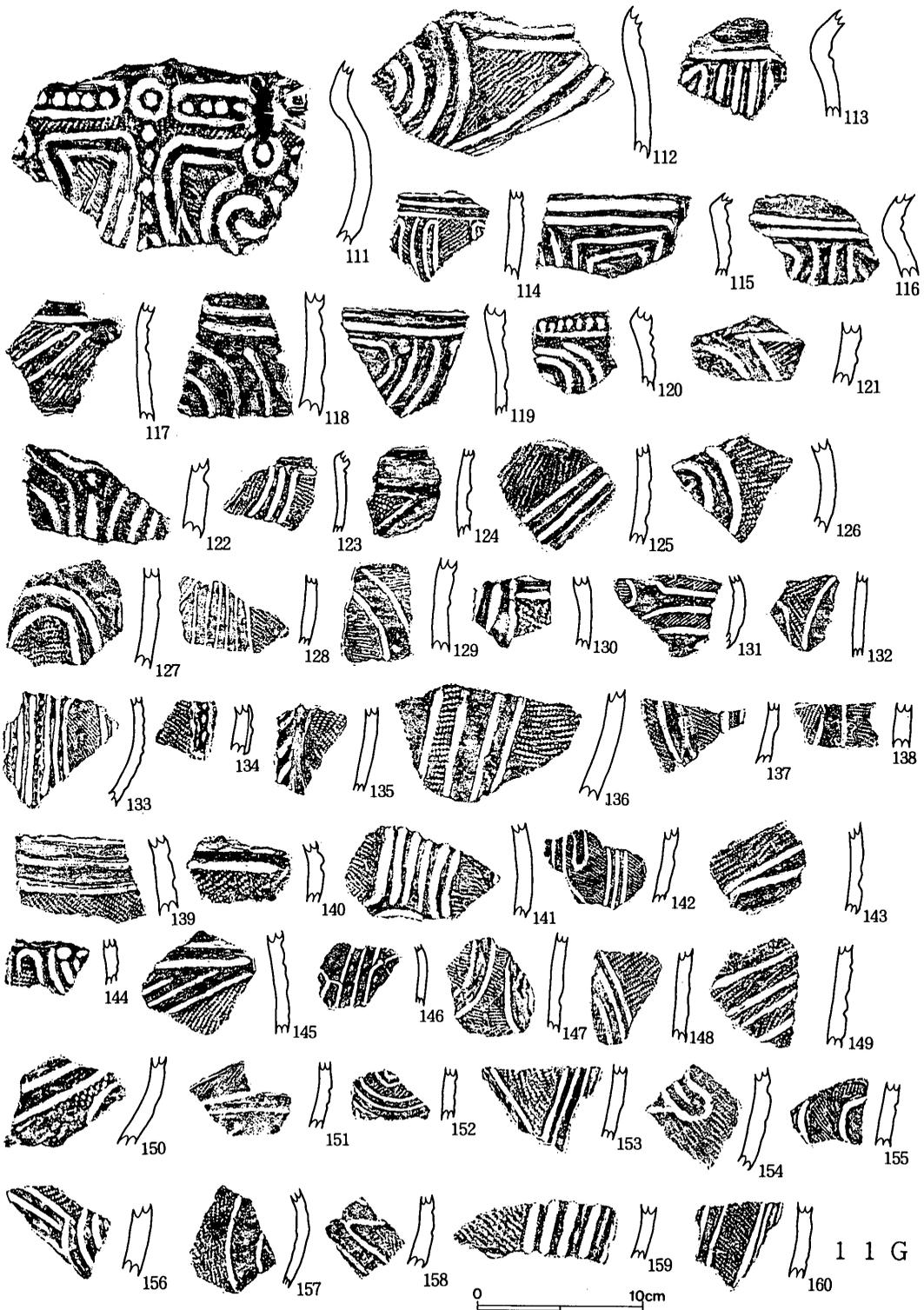
押図 番号	器 種	部 位	法 量	器形および文様	調 整 (内面)	胎 土	色 調		出 土 位 置	備 考
							外 面	内 面		
267	深 鉢	胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	橙色 7.5YR 6/6	にぶい黄橙色 10YR 7/3	M-4 J-3	後期初頭
268	粗製 深 鉢	胴部	— — —	櫛歯状工具による垂下沈線。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/4	浅黄橙色 10YR 8/4	H.C	後期初頭
269	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画内に縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい黄橙色 10YR 7/3	にぶい黄橙色 10YR 7/2	H.C	後期初頭
270	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	沈線区画。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰褐色 7.5YR 4/2	にぶい褐色 7.5YR 5/3	H.C	後期初頭
271	深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部2列の円形連続刺突。沈線と縄文LR。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	にぶい橙色 7.5YR 7/4	灰白色 10YR 8/2	H.C	後期初頭
272	粗製 深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	褐灰色 10YR 5/1	にぶい黄橙色 10YR 7/3	H.C	後期初頭
273	粗製 深 鉢	口縁 ～ 胴部	— — —	口縁部下に刻みを持つ隆帯。	ヨコ方向のナ デ。	白色粒子 角閃石	灰黄褐色 10YR 5/2	にぶい黄橙色 10YR 7/4	H.C	後期初頭



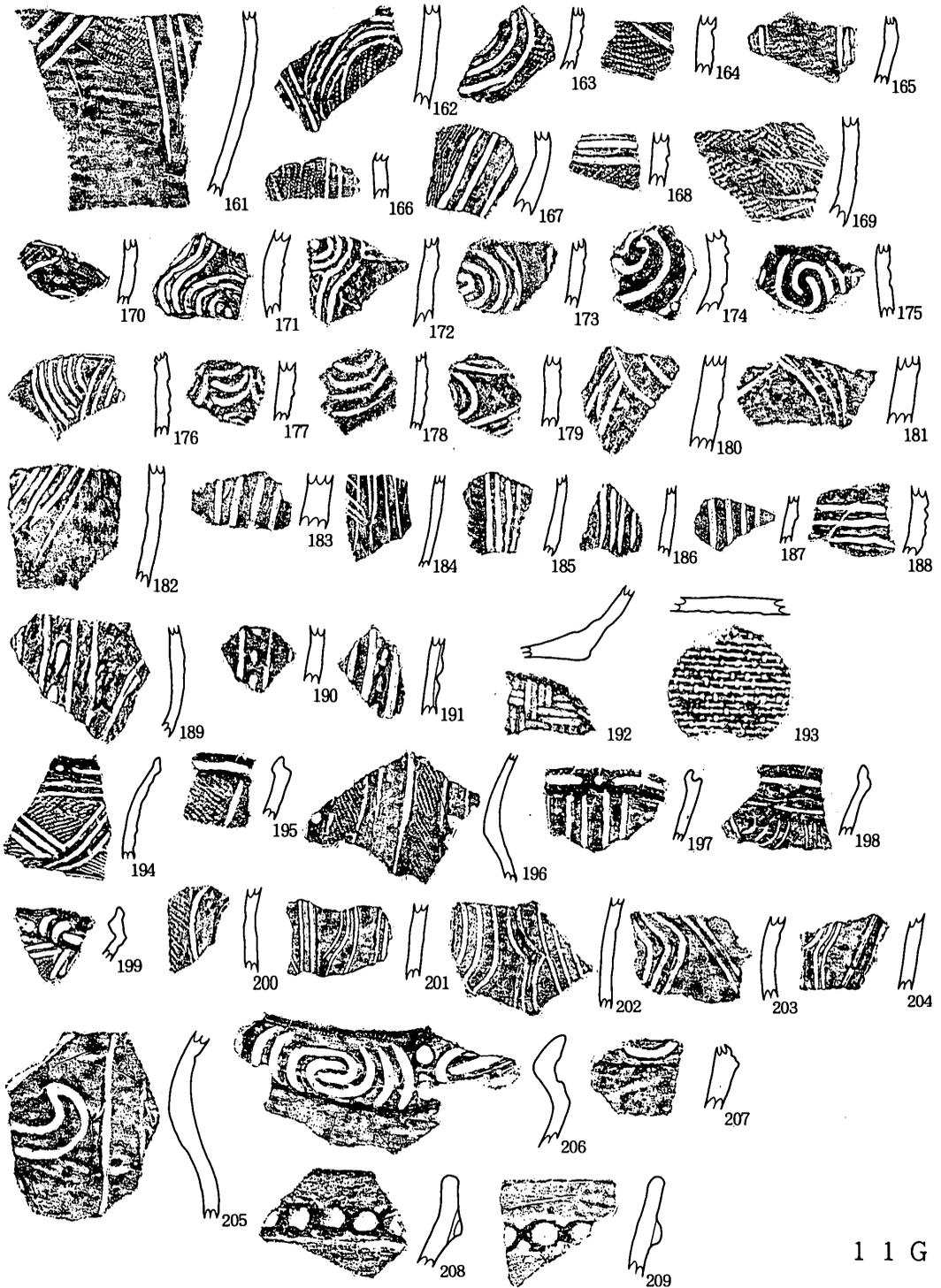
第172図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1 : 4) <1> (1は後期後葉)



第173図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1:4) <2>

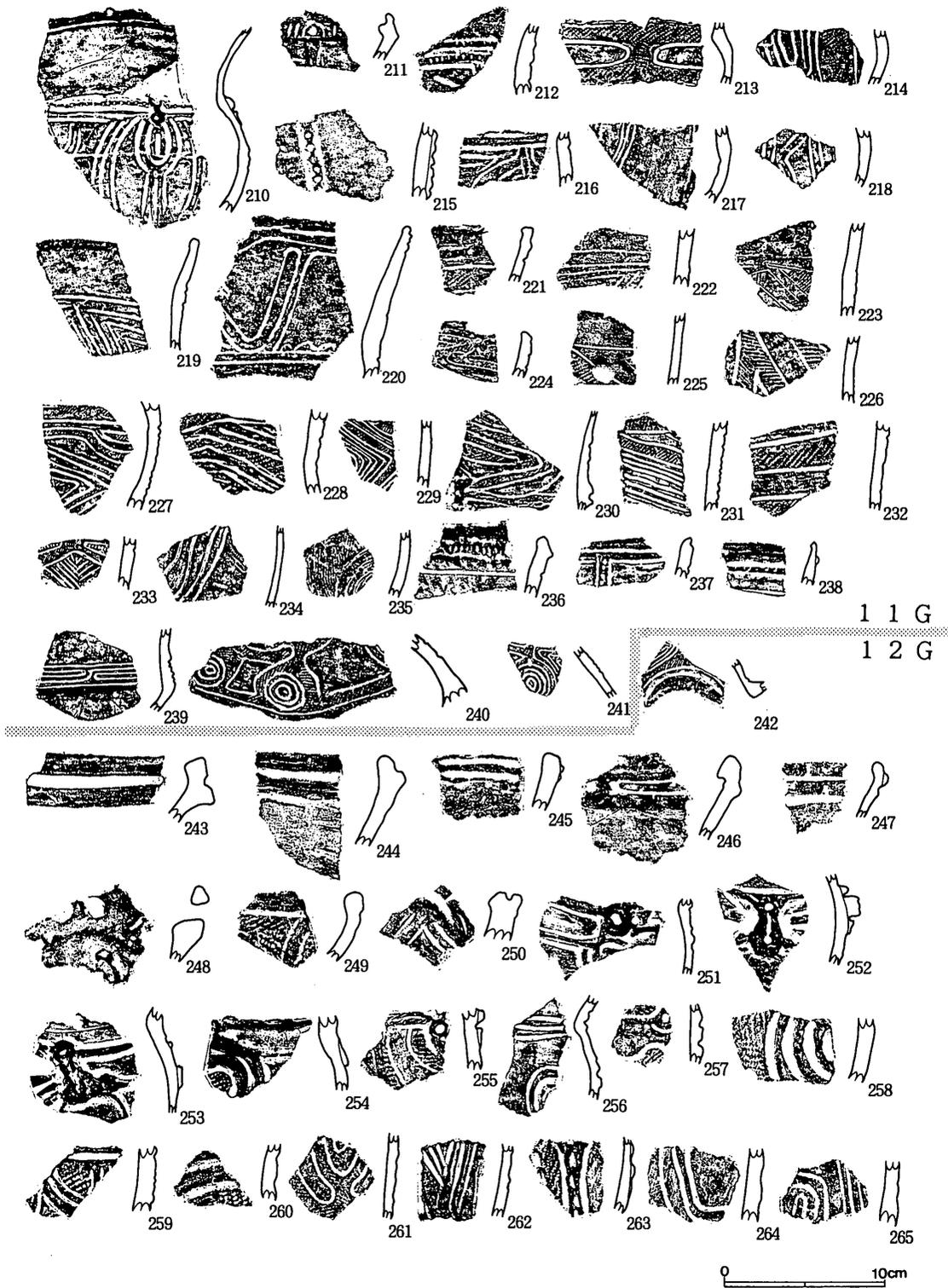


第174図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1 : 4) < 3 >

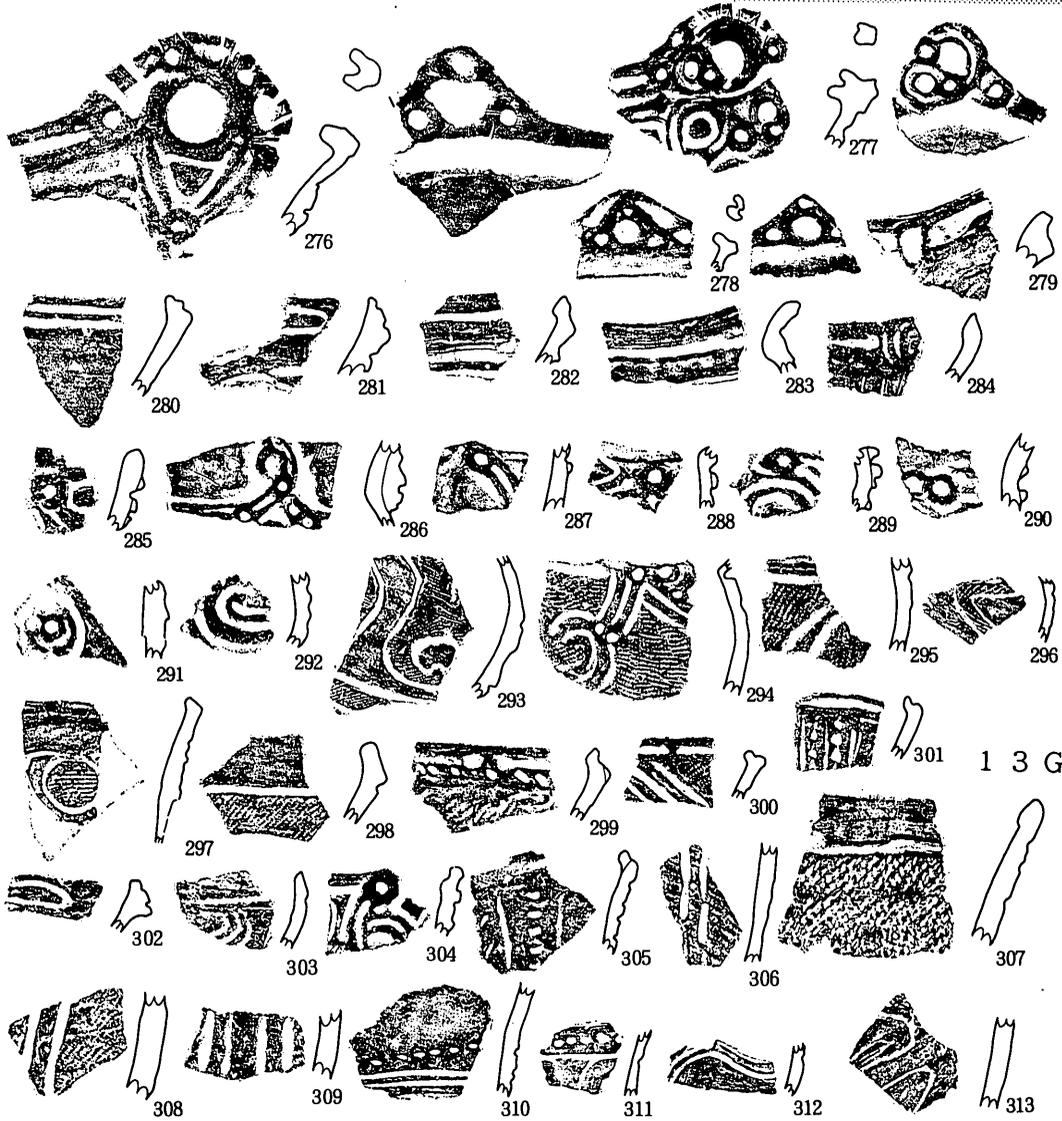
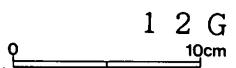
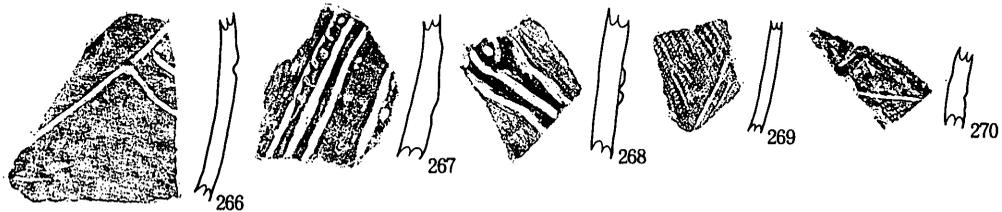


第175図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1:4) <4>

1 1 G



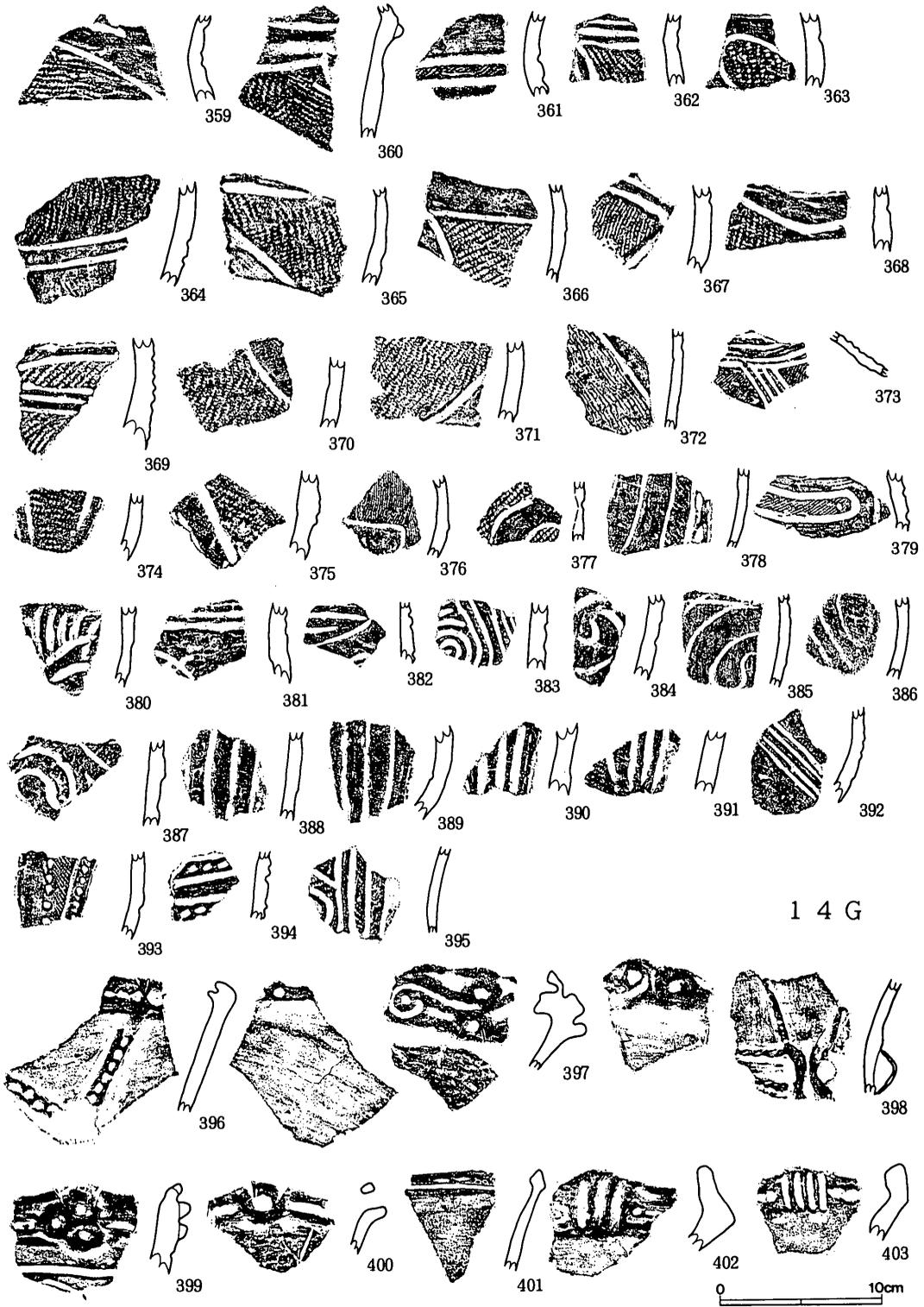
第176図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1 : 4) < 5 >



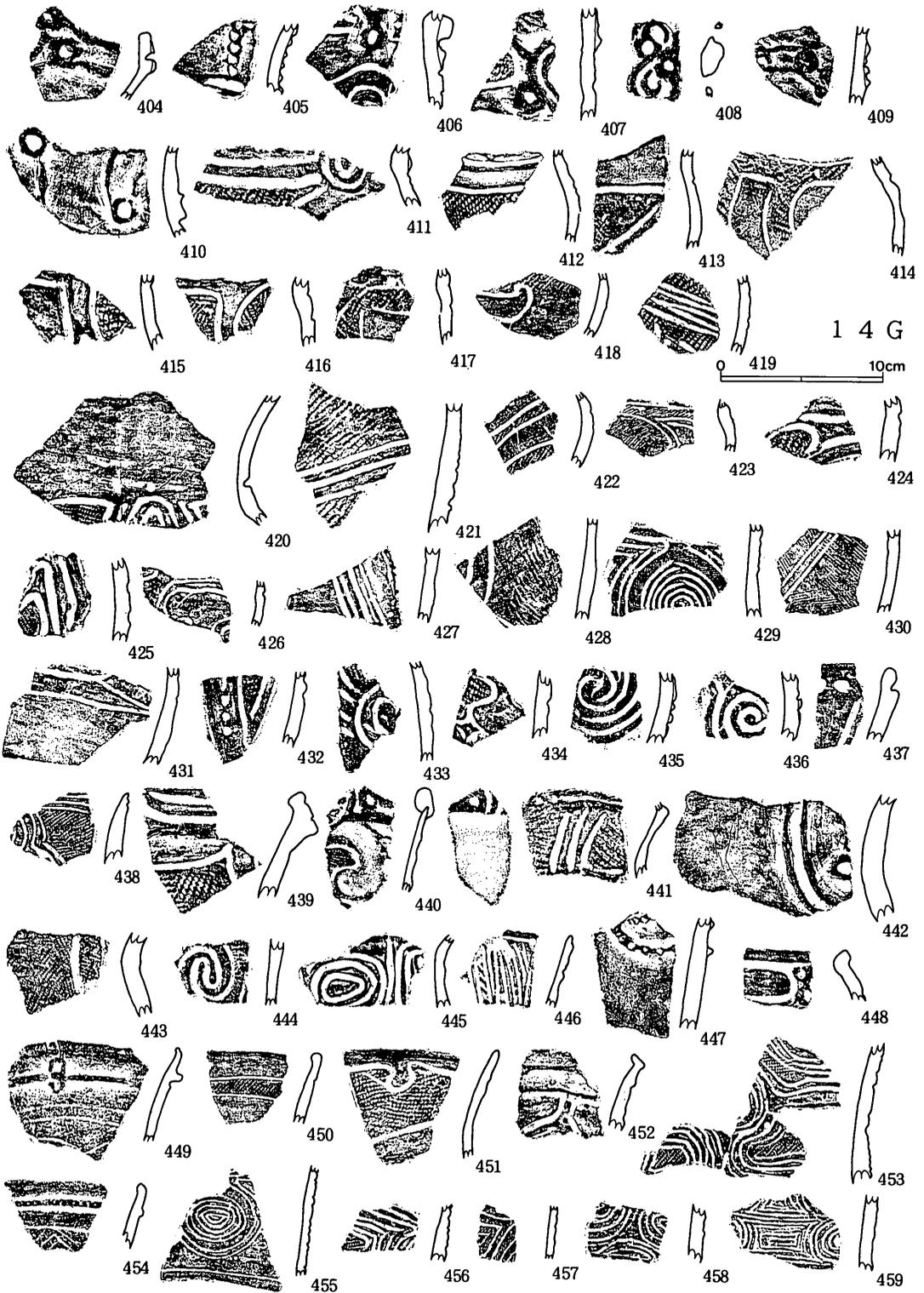
第177図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1:4) <6>



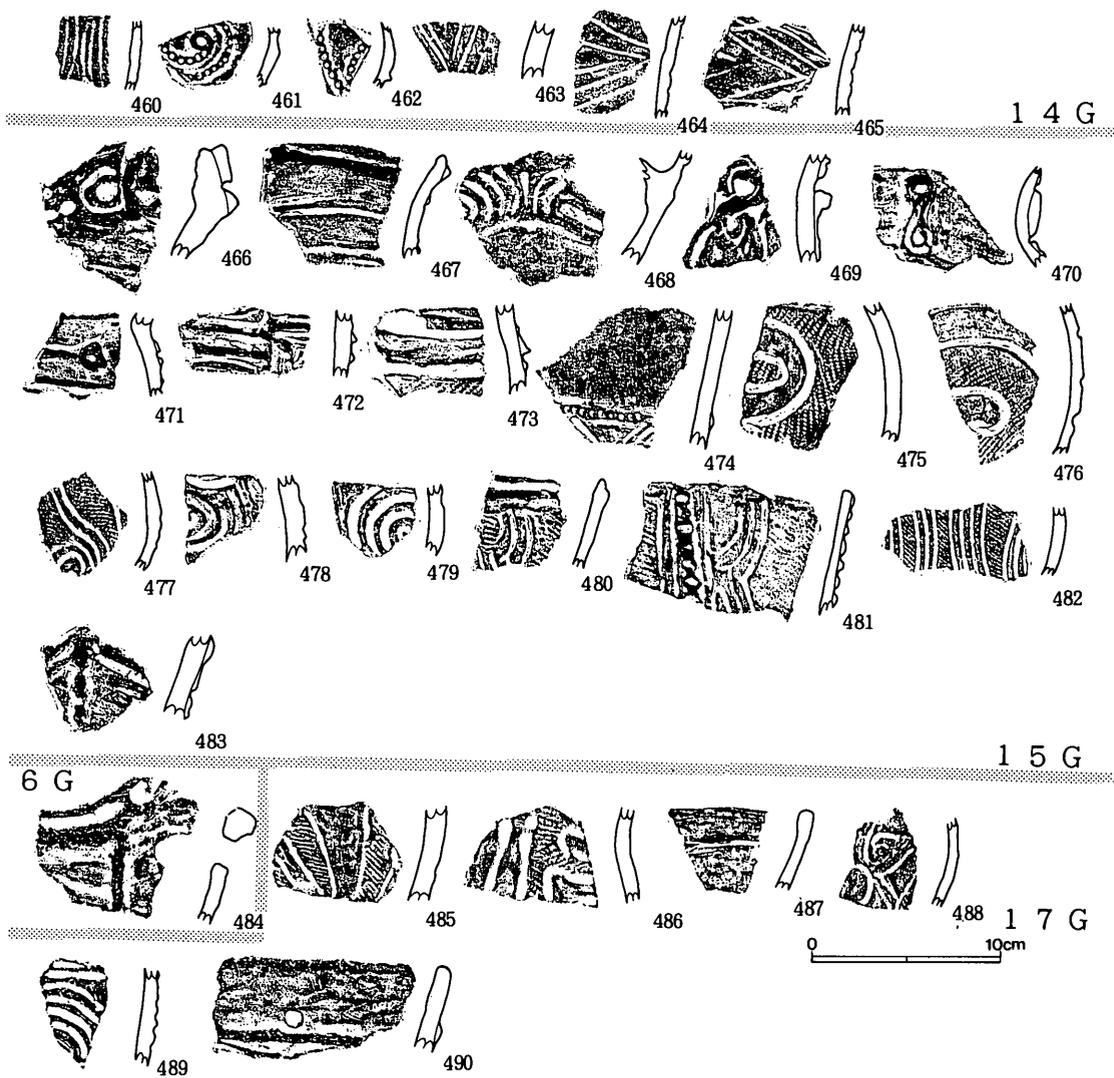
第178図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1 : 4) <7>



第179図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1 : 4) < 8 >



第180図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1:4) <9>



第181図 グリッド出土縄文後期前葉土器 (1:4) <10>